科目名	【新カリ】スポーツ健康科学総論	授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】スポーツ健康科学総論	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期、2022年度後期	単位数	4単位
代表教員	和氣　秀文	ナンバリング	BAS1122
担当教員	和氣　秀文、廣瀬　伸良、飯嶋　正博、内藤　久士、中村　充、鈴木　大地、青木　和浩、鯉川　なつえ、大久保　菜穂子、吉村　雅文、中村　恭子、渡邉　貴裕、髙澤　祐治、木藤　友規、牛尾　直行、河村　剛光、黄田　常嘉、水野　基樹、荻原　朋子、門屋　悠香、窪田　敦之、原田　睦巳、仲村　明、山田　泰行、松山　毅、柳谷　登志雄、島嵜　佑、山中　航、西尾　啓史、廣津　信義、冨田　洋之、高梨　雄太、塩田　有規、鈴木　良雄、深尾　宏祐、川田　裕次郎、染谷　由希、中嶽　誠、吉原　利典、谷本　道哉、涌井　佐和子、小笠原　悦子、久保原　禅、長門　俊介、鄧　鵬宇、大野　早苗、坂本　彰宏、町田　修一、佐々木　啓、長登　健、中田　学、野呂　啓晃、中西　唯公、山崎　一彦、武田　剛、福　典之、鈴木　宏哉、堀池　巧、渡　正、長岡　知、室伏　由佳、山口　慎史、吉田　和人、宮本　恵里、庄子　ひとみ、野口　亜弥、黒坂　裕香、堀　智子、宮本　直和、竹澤　稔裕、尾高　邦生、佐藤　皓也、大田　穂、杉山　和也、村上　祐介、杉林　孝法、廣瀬　絵美、Kozachenko Olga、篠原　一郎、村上　達也、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 本科目は，講義の授業形態で行われる。スポーツ健康科学部の総論科目として，「スポーツと健康の科学的理解」という大きなテーマに取り組むための入り口として位置付けられる。順天堂大学という医学部を祖とした大学においてスポーツと健康を学ぶ者として知っておいてほしい基礎的な知識や情報，考え方を学び，身に付けることを目指す。また，スポーツ倫理についても触れ，競技者や指導者としてスポーツに取り組む者に求められる倫理観を育む。（オムニバス方式／全28回）
到達目標	【授業の到達目標】 1. スポーツ・運動をベースに、健康の基礎である身体の構造・機能の知識を踏まえて、体力や測定・評価の意義を説明できる。 2. スポーツ・運動を切り口として、現代の社会問題や社会構造を理解して健康概念を幅広くとらえ、健康増進の意義と社会におけるスポーツ・運動の役割を説明できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・専門導入科目の必修科目である。また、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「スポーツ健康科学分野で指導的な役割を果たすための高い倫理観」という学位授与方針の達成に寄与する。 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ，スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 1回の授業について3分の2以上の出席時間がない場合はその回の授業を欠席扱いとする。また遅刻および早退3回で1回分の欠席としてカウントする。
成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 各回授業後の課題レポート（60%）、平常点（40%）を総合して評価する。
評価基準	【成績評価の基準】 1. 体力や測定・評価の意義について、スポーツ・運動をベースとした身体の構造・機能の知識を踏まえて述べることができる。（レポート） 2. 健康増進の意義と社会におけるスポーツ・運動の役割について、スポーツ・運動を切り口とした幅広い健康概念に基づき述べることができる。（レポート） 3. 授業中の発言やグループワークの取組状況によって受講態度を評価する。（平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 課題レポートに対して、担任教員が添削してフィードバックする。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考
				テキスト・参考書はありませんが、必要に応じて、資料を配付、もしくはJ-PASSに事前添付いたします。

参考文献	
必要に応じ、授業時に文献、参考図書等について紹介するので、自主的に取り寄せ、精読していただきたい。　さらに、必要に応じ、授業時に資料を配付するので、予習復習に役立てもらいたい。	
その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先・オフィスアワー】 担当：　久保原　禅：ykuboha@juntendo.ac.jp 　　廣津　信義：nhirotsu@juntendo.ac.jp 水曜日　10:00～12:00 ※その他各回の担当者については、各担当者が担当する他科目のシラバスを参照のこと。
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による４単位の科目であり、180時間（授業60時間以上）の学修を必要とする内容をもって構成する。 【実務経験のある教員による授業】 該当しない。 【その他】 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格　共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ なお、新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画、成績評価の基準及び方法を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	学部長、研究科長　他	ガイダンス、体育学部からスポーツ健康科学部へ 【授業内容】 本授業の学修目標・展開方法、順天堂大学での学びのルールを解説する。そして、本学の体育学部からスポーツ健康科学部への変遷内容を解説し、社会におけるスポーツの意義について理解を深める。スポーツや健康の知識を身につけることによって、社会的に寄与するリーダとしてのコーチングに関する概論を学習する。	【授業方法】 講義	（予習：1時間） 順天堂大学体育学部・スポーツ健康科学部の歴史について、HP等で確認しておく。また、スポーツ健康科学部でどんなことを学んでいきたいかについて、自分の考えを整理しておく。 （復習：3時間） 本日の講義内容に基づく課題レポートを作成する。
2	学部長、研究科長　他	スポーツ健康科学の立場から 【授業内容】 スポーツと健康について、科学的にとらえるスポーツ健康科学の成り立ちについて解説する。また、スポーツ健康科学の立場から社会的に寄与する視点を解説し、スポーツ場面を中心とした指導的役割を担う人材育成の方法を探る。	【授業方法】 講義	（予習：1時間） 順天堂大学体育学部・スポーツ健康科学部の歴史について、HP等で確認しておく。また、スポーツ健康科学部でどんなことを学んでいきたいかについて、自分の考えを整理しておく。 （復習：3時間） 本日の講義内容に基づく課題レポートを作成する。
3	大野、荻原他	大学教育の位置づけ、レポートの書き方 【授業内容】 大学教育の位置づけおよび意義を解説し、大学４年間での学びの課程や、将来への発展について考える。また、受講に際して、効果的な講義ノートの作成やレポート課題への取り組み方についても解説し、実践的な練習を実施する。	【授業方法】 講義	（予習：1時間） 話し言葉と書き言葉の違い、レポートにふさわしい文体について調べる。 （復習：3時間） 本日の講義のうち「大学教育の位置づけ」について、講義ノートを振り返りながら、600字程度でまとめてみる。
4	柳谷・宮本	競技力向上や外傷・障害予防を支えるバイオメカニクス 【授業内容】 競技力向上や外傷・障害予防を支えるために、バイオメカニクス的な方法論が果たす役割を実践的な事例を交えながら解説する。そしてスキルをトレーニングすることによって、スポーツパフォーマンス向上への「巧みさ」を獲得する過程について解説する。	【授業方法】 講義	（予習：1時間） 自身が行っている・行ってきた、あるいは、興味がある競技について、動きや巧みさなどはどのように評価するのかについて考える。 （復習：3時間） 授業で配布された資料などをもとにレポートを作成する。
5	川田	パフォーマンスを高める心理学 【授業内容】 スポーツでのパフォーマンスの促進・抑制要因となる「緊張」のコントロール方法について解説する。そして選手がパフォーマンス発揮に向けた心のトレーニングについて学習し、グループディスカッションを通じて様々な考え方や視点を理解する。	【授業方法】 講義、グループディスカッション	（予習：2時間） 自分のパフォーマンスの良かった時と良くなかった時の心理状態について書き留めておく。「緊張」とは何かを調べる。 （復習：2時間） 授業の内容を踏まえて、今後の競技生活、競技サポート、日常生活に生かすことのできる視点についてまとめる。
6	渡邉・渡	パラスポーツを順天堂で学ぶ意義 【授業内容】 パラスポーツを取りあげながら、障がい者スポーツの現状や抱えている課題について解説する。そして、社会的な課題を理解するとともに、スポーツを通じた関わり方を検討し、指導・支援の方法について模索する。	【授業方法】 講義	（予習：2時間） 高等学校保健体育の体育理論（現代社会におけるスポーツの意義や必要性および豊かなスポーツライフの設計と実践）について振り返っておく。 （復習：2時間） スポーツを社会的視点から考え、スポーツがどのような社会的課題の解決に役立つか整理する。
7	鈴木	日本におけるスポーツ界の現状 【授業内容】 日本におけるスポーツ界の現状を、主に国際的視点および行政的視点から解説する。また、今後の我が国におけるスポーツ界発展の展望を考えるとともに、各自が大学で学ぶべき内容について整理する。	【授業方法】 講義	（予習：2時間） オリンピック・パラリンピックの歴史について調べる。 （復習：2時間） オリンピック・パラリンピックの開催するにあたり、必要なことはなにか？自分の考えをまとめる。

8	冨田・坂本・野口	スポーツを介して国際的人材になる 【授業内容】 グローバル社会での貢献を目指し、国際的舞台でのスポーツ活躍経験や世界事情、および研究やマネジメント活動について具体的な事例を示しながら解説する。	【授業方法】 講義	（予習：2時間） グローバル社会で活躍するということはどのようなことか自分の体験をもとにまとめる。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。
9	高澤	スポーツ現場におけるプレホスピタルケアの実際～スポーツドクター・トレーナーの立場から～ 【授業内容】 スポーツ現場におけるプレホスピタルケアについて、事例を挙げながらスポーツドクターおよびトレーナーの立場から解説する。障害を防止するための、あるいは障害発生事後のケア対応について代表事例を示しながら学習する。	【授業方法】 講義	（予習：2時間） ①スポーツ外傷・障害の違いについて、各自学ぶ ②スポーツ現場で多い外傷・障害について、各自学ぶ （復習：2時間） ①スポーツ現場に多い外傷・障害を把握し、それぞれについて説明できるようにすること ②スポーツ外傷・障害の予防ステップを整理し、セルフケアの重要性を理解すること
10	大久保・涌井	健康づくりに関する基礎的知識を体系的に大学で学ぶことの意義 【授業内容】 大学で学ぶ健康づくりに関する基礎的知識を体系的に解説する。また、健康に関する領域について大学で学ぶことの意義について考える。	【授業方法】 講義、グループディスカッション	（予習：2時間） 高等学校保健の健康づくり領域について振り返っておく。 （復習：2時間） 大学で学ぶ健康づくり領域と４年間で履修すべき授業科目との関連を整理する。
11	荻原・長登	教育とスポーツ 【授業内容】 スポーツの価値、組織のリーダー論、学校における教師の役割について解説する。コミュニケーション力の重要性を学び、対他者力を磨くために必要な各種スキルを理解する。	【授業方法】 講義	（予習：1時間） スポーツの価値、組織におけるリーダーシップ、学校における保健体育教師の役割について調べておく。 （復習：3時間） 講義資料を読み、各々の先生の講義をまとめる。
12	町田・内藤	競技力向上と健康のための生理学　-運動・栄養・休息（睡眠）- 【授業内容】 生理学は体の働きを自然科学的に研究する学問であるが、運動時の体の一時的な応答や長期的な適応を明らかにする学問を特に運動生理学と呼ぶ。その研究成果が、実際どのように競技力向上や健康づくりに役立てられているのか、運動・栄養・休息の視点から統合的に学ぶ。	【授業方法】 講義	（予習：1時間） あらかじめ指定された資料を読んでおき、出てくる専門用語等を調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：3時間） 授業内容に基づいて提出されるレポート課題を完成させ、提出する。
13	山崎・武田	スポーツコーチング科学 【授業内容】 スポーツコーチング科学とコーチ学について解説し、コーチング方法論としてのトレーニング計画の基礎を理解する。また、コーチに求められる役割について解説し、その役割を担うために素養を理解する。	【授業方法】 講義	（予習：1時間） 文部科学省の提案するグッドコーチに関する提言 を調べておく。 （復習：3時間） スポーツコーチング科学とコーチ学の違いについ て、トレーニング計画立案方法と体力と技術の関 係性についてレポートにまとめ提出する。
14	吉村	前期の授業内容を振り返り 【授業内容】 グループ単位で前期13回の講義を振り返る。提出されていた課題をもととして、大学におけるスポーツ健康科学の学びについてお互いにディスカッションする。他人と意見交換することによって、あらためて自己分析を進め対自己力の向上を図る。	【授業方法】 ディスカッション等	（予習：2時間） 自身のグループがどのような話し合いを行い、どのようなエピソードを特性要因図にまとめたのかを確認しておく。 （復習：5時間） 後期グループ討議の生産性を高めるための振り返りを行う。
15	吉村他	順天堂大学を知る（順天堂の歴史・他学部について） 【授業内容】 順天堂大学の歴史を理解する。他学部の特性や学びを知り、社会に果たすべき順天堂大学の役割を理解し、あらためて本学部の役割や学びについて理解を深める。	【授業方法】 ゲストスピーカーによる講義	（予習：1時間） 順天堂大学の歴史や、スポーツ健康科学部以外の学部の概要について、HP等で調べておく。 （復習：3時間） 本日の講義内容に基づく課題レポートを作成する。
16	吉村　他	順天堂大学を知る（順天堂の歴史・他学部について） 【授業内容】 順天堂大学の歴史を理解する。他学部の特性や学びを知り、社会に果たすべき順天堂大学の役割を理解し、あらためて本学部の役割や学びについて理解を深める。	【授業方法】 ゲストスピーカーによる講義	（予習：1時間） 順天堂大学の歴史や、スポーツ健康科学部以外の学部の概要について、HP等で調べておく。 （復習：3時間） 本日の講義内容に基づく課題レポートを作成する。

17	渡、学生部長	社会生活およびスポーツ界の倫理観、大学教育の意義 【授業内容】 順天堂大学の歴史を理解する。他学部の特性や学びを知り、社会に果たすべき順天堂大学の役割を理解し、あらためて本学部の役割や学びについて理解を深める。	【授業方法】 講義	（予習：3時間） 大学生として、またスポーツ競技者及び指導者として、それぞれの立場に対して社会から求められる倫理観について、近年報道等により取り上げられた問題などを通じて自分なりの考えをまとめておく。 （復習：2時間） 本日の講義内容に基づく課題レポートを作成する。
18	廣津、武田、高梨	競技から見た体力 【授業内容】 体力の一般論を踏まえ、スポーツ競技で必要な体力を解説する。具体的に複数の競技を取りあげ、スポーツのトレーニングの基本的な考え方と理論体系を解説し、体力と技術・競技力との関係について理解する。	【授業方法】 講義	（予習：２時間） これまで自分の体力を測るためにどのような項目 で測った経験があるか整理しておく （復習：２時間） 授業内容をレポートとして600～800字でまとめる
19	黄田、山口	運動の心理的効果を科学する 【授業内容】 心の健康について、臨床心理学・精神保健学・メンタルヘルスなどの知見を中心として、運動との関わりを解説する。運動の心理的効果について、科学的なアプローチについて学習する。	【授業方法】 講義	（予習：2時間） 中学校・高等学校で学んだ「心の健康」領域の内 容について振り返る。 （復習：2時間） 講義内容を踏まえ、大学で学ぶべき心の健康領域 について整理する。
20	鈴木（宏）、河村	体力測定の方法と意義（累加測定の歴史と活用） 【授業内容】 日本国民の体力推移に基づいて体力測定の意義を解説し、本学における累加測定の歴史とその活用について理解する。体格・体力測定に際し、実施方法とその留意点について学ぶ。	【授業方法】 講義	（予習：2時間） 子供のころの体力テストについてどのような内容のものであったかをまとめておく。 （復習：2時間） 健康２１プランについてまとめておく。
21	鈴木（宏）、河村	体格・体力測定の実際（累加測定への参加） 【授業内容】 体格・体力測定について、実施者と検者を実践する。	【授業方法】 演習	（予習：1時間） 累加測定の実施内容について測定の方法を調べる。 （復習：3時間） 測定データを整理しておく。
22	鈴木（宏）、河村	体格・体力の評価と活用 【授業内容】 前回に実施した体格・体力測定のデータを利用し、その評価方法と活用方法について解説し、データの分析を行ってみる。	【授業方法】 講義、演習	（予習：1時間） 体力測定のデータと他者とのデータを比較する。 （復習：3時間） 体力テスト結果の集計をおこなう。
23	福、宮本（恵）	【研究最前線】スポーツ・健康と遺伝：競技力から生活習慣病・長寿研究まで 【授業内容】 現在、最前線で活躍する研究者により、その実際と中身についてわかりやすく解説し、さらなる展望を紹介する。	【授業方法】 講義	（予習：２時間） スポーツ科学の研究とはどのようなものがあるかを調べておく。 （復習：２時間） 卒業研究としてどのような研究を実際におこなってみたいか？講義の内容をふまえてプランをたてる。
24	深尾、室伏	生活習慣病とスポーツ医学 【授業内容】 生活習慣病とスポーツ医学との関連について、現状に基づいて解説する。また、スポーツにおけるアンチ・ドーピングについて解説し、アスリートして必要なドーピング知識を理解する。	【授業方法】 講義	（予習：2時間） インターネットや教科書等を使用し、生活習慣病や生活習慣関連病、ドーピングについて調べる。 （復習：2時間） スポーツと生活習慣病の関連、およびアンチ・ドーピングについて自分の考えをまとめる。
25	木藤、黒須、工藤、野口	スポーツと健康に関する国際的な取組と政策展開 【授業内容】 現代社会において国際的に展開されている、スポーツと健康に関する取り組みと政策について解説し、日本との共通点や日本の独自性について理解する。	【授業方法】 講義	（予習：２時間） 日本のスポーツ政策について調べる。 （復習：２時間） 授業で学んだ内容を時系列又は国ごと若しくは地域ごとに整理し、レポートにまとめる。
26	鈴木（宏） 松山、川田、鯉川	ライフステージとスポーツⅠ 【授業内容】 乳幼児期から青年期までの子どもにおけるスポーツと多様性・格差について，社会福祉、心、性、発育発達の視点から解説する。	【授業方法】 講義、ディスカッション	（予習：1時間） スポーツと多様性・格差に関する時事問題を調べておく. （復習：3時間） 次回の授業までにレポートを書き終えておく.
27	涌井、飯嶋、黄田	ライフステージとスポーツⅡ 【授業内容】 高齢期における身体特徴や運動の基本・特性に基づいた運動指導の考え方およびロコモや認知症予防における運動介入等の実践方法について学ぶ。	【授業方法】 講義、演習	予習：1時間） サルコペニア、ロコモ、フレイルの専門用語を調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：3時間） 授業内容に基づいて提出されるレポート課題を完成させ、提出する。

28	就職・教職・大学院	キャリアプランニングについて考える 【授業内容】 豊かな生き方・働き方を実現するため、どのような職業（企業・教職・公務員）に就くべきかを考える。そして、キャリアプランニングに必要な社会人基礎力の習得に向けて、キャリアアンカーとキャリアサバイバルの両概念を解説する。	【授業方法】 演習	（予習：1時間） キャリアプランについて自分の考えをまとめておく。 （復習：3時間） 一年間を通したスポーツ健康科学総論の学びをレポートにまとめる。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】機能解剖学　［前半］	授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】機能解剖学　［前半］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位
代表教員	窪田　敦之	ナンバリング	PSL1125
担当教員	窪田　敦之、山中　航、和氣　秀文、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	本科目は，講義の授業形態で行われる。『身体の構造と機能』について理解することは，スポーツ健康科学分野を学ぶ上で重要な基盤となる。骨格や関節，筋を中心とした運動器の構造や特徴，役割について理解し，これらの理解を深める上で重要となる基本的な用語等についても学修する。
到達目標	1.機能解剖学に関わる基本的な用語を正しく説明することができる。 2.運動器について部位別に名称や構造、機能を正しく理解し、身体運動の仕組みを説明することができる。 3.身体運動において重要となる運動器以外の器官（呼吸器、循環器、消化器等）についても、形態や構造について説明することができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・専門導入科目の必修科目である。また、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（AT）、JPSUスポーツトレーナー、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「スポーツ健康科学を中心とした教養」を身につけ、また「スポーツや健康の分野で、指導的な役割を果たすために必要な高い倫理観」の養成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修上の注意】 1回の授業において、授業開始から30分以上遅れて参加した場合には、その回の授業を欠席扱いとする。 各テキストについては、全員が必ず用意しなければならない訳ではないが、課題や自主学習に取り組む際の参考図書として推奨する。 【履修要件】 特になし。

成績評価の方法

評価方法	定期試験（60%）、小テスト（20%）レポート課題（10%）、日々の学習状況（授業に取り組む姿勢や質問に対する積極性：10%）を総合して評価する。
評価基準	1.機能解剖学に関わる基本的な用語を正しく説明することができる（定期試験）。 2.運動器について部位別に名称や構造、機能を正しく理解し、身体運動の仕組みを説明することができる（定期試験・レポート課題）。 3.身体運動において重要となる運動器以外の器官（呼吸器、循環器、消化器等）についても、形態や構造について説明することができる（定期試験）。

試験・課題に対するフィードバック方法

授業で出された小テストや課題については、授業内で解説をするかコメントをつけて返却をする。
定期試験については、要望があれば個別に解説等を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
身体運動の機能解剖	CW Thompson, RT Floyd 著, 中村千秋, 竹内真希 翻訳	医道の日本社	978-4-7529-3063-1	1997年発刊
公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②	日本スポーツ協会	文光堂		
系統看護学講座-専門基礎分野 解剖生理学	坂井建雄, 岡田隆夫	医学書院	978-4-260-03171-4	2018年発刊

参考文献

授業の際に提示する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：窪田敦之 e-mail：akubota [at] juntendo.ac.jp（ [at] を@に変更する） 【オフィスアワー】 日　時：木曜日の14時～16時 場所：スポーツ健康医科学研究所４階　スポーツ医学系実験室1-2 なるべく事前にe-mail等で連絡するよう心がけてほしい。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 卒業後の希望進路に関わらず、スポーツ健康科学分野の学生として身体の構造や仕組みに興味を持って欲しい。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）AT（アスレティックトレーナー） 健康・体力づくり財団　健康運動指導士 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルス感染症の発生状況によって、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	窪田	機能解剖学の基本的な知識について理解する。	機能解剖学の基本的な用語について解説する。	（予習：2時間） 全身の骨格を調べて、わからない用語等をノートにまとめておく。 （復習：2時間） 予習で書き留めた内容と授業で学んだ内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
2	窪田	機能解剖学の基本的な知識について理解する。	骨や筋、関節の種類について解説する。	（予習：2時間） 全身の筋、関節を調べて、わからない用語等をノートにまとめておく。 （復習：2時間） 予習で書き留めた内容と授業で学んだ内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
3	窪田	肩甲帯・肩関節の構造と機能について理解する。	肩甲帯・肩関節の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。	（予習：2時間） 肩甲帯・肩関節の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
4	窪田	肘関節および前腕部の構造と機能について理解する。	肘関節および前腕部の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。実際の動きから、肘関節と前腕の動きの違いについて考えさせる。	（予習：2時間） 肘関節および前腕部の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
5	窪田	手関節および手部の構造と機能について理解する。	手関節および手部の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。	（予習：2時間） 手関節および手部の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：3時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
6	窪田	体幹部の構造と機能について理解する。	体幹部の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。	（予習：2時間） 体幹部の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
7	窪田	股関節の構造と機能について理解する。	股関節の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。	（予習：3時間） 股関節の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
8	窪田	膝関節および大腿部の構造と機能について理解する。	膝関節および大腿部の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。 また、二関節筋について説明し、実際の動きから体感する。	（予習：2時間） 膝関節および大腿部の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。また、股関節について復習しておく。 （復習：3時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
9	窪田	足部・足関節および下腿部の構造と機能について理解する。	足部・足関節および腿部の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。	（予習：2時間） 足部・足関節および下腿部の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。また、膝関節について復習しておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。

10	和氣	呼吸器系の形態と構造について理解する。	呼吸機能に関わる肺・気道系について解説する。	（予習：2時間） 呼吸器系の形態と構造について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
11	和氣	循環器系の形態と構造について理解する。	血液循環機能に関わる心臓・血管系について解説する。	（予習：2時間） 循環器系の形態と構造について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
12	和氣	消化器系の形態と構造について理解する。	消化器系（胃・小腸・大腸など）について解説する。	（予習：2時間） 消化器系の形態と構造について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
13	和氣	泌尿器系の形態と構造について理解する。	腎臓を中心に、尿生成や体液・浸透圧調節について解説する。	（予習：3時間） 泌尿器系の形態と構造について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
14	山中	神経系の形態と構造について理解する。	情報の受容と処理に関わる脳・脊髄、末梢神経系について理解を深める。	（予習：3時間） 神経系の形態と構造について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：1時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
		定期試験の実施		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】機能解剖学　［後半］	授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】機能解剖学　［後半］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位
代表教員	窪田　敦之	ナンバリング	PSL1125
担当教員	窪田　敦之、山中　航、和氣　秀文、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	本科目は，講義の授業形態で行われる。『身体の構造と機能』について理解することは，スポーツ健康科学分野を学ぶ上で重要な基盤となる。骨格や関節，筋を中心とした運動器の構造や特徴，役割について理解し，これらの理解を深める上で重要となる基本的な用語等についても学修する。
到達目標	1.機能解剖学に関わる基本的な用語を正しく説明することができる。 2.運動器について部位別に名称や構造、機能を正しく理解し、身体運動の仕組みを説明することができる。 3.身体運動において重要となる運動器以外の器官（呼吸器、循環器、消化器等）についても、形態や構造について説明することができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・専門導入科目の必修科目である。また、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（AT）、JPSUスポーツトレーナー、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「スポーツ健康科学を中心とした教養」を身につけ、また「スポーツや健康の分野で、指導的な役割を果たすために必要な高い倫理観」の養成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修上の注意】 1回の授業において、授業開始から30分以上遅れて参加した場合には、その回の授業を欠席扱いとする。 各テキストについては、全員が必ず用意しなければならない訳ではないが、課題や自主学習に取り組む際の参考図書として推奨する。 【履修要件】 特になし。

成績評価の方法

評価方法	定期試験（60%）、小テスト（20%）レポート課題（10%）、日々の学習状況（授業に取り組む姿勢や質問に対する積極性：10%）を総合して評価する。
評価基準	1.機能解剖学に関わる基本的な用語を正しく説明することができる（定期試験）。 2.運動器について部位別に名称や構造、機能を正しく理解し、身体運動の仕組みを説明することができる（定期試験・レポート課題）。 3.身体運動において重要となる運動器以外の器官（呼吸器、循環器、消化器等）についても、形態や構造について説明することができる（定期試験）。

試験・課題に対するフィードバック方法

授業で出された小テストや課題については、授業内で解説をするかコメントをつけて返却をする。
定期試験については、要望があれば個別に解説等を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
身体運動の機能解剖	CW Thompson, RT Floyd 著, 中村千秋, 竹内真希 翻訳	医道の日本社	978-4-7529-3063-1	1997年発刊
公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②	日本スポーツ協会	文光堂		
系統看護学講座-専門基礎分野 解剖生理学	坂井建雄, 岡田隆夫	医学書院	978-4-260-03171-4	2018年発刊

参考文献

授業の際に提示する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：窪田敦之 e-mail：akubota [at] juntendo.ac.jp（ [at] を@に変更する） 【オフィスアワー】 日　時：木曜日の14時～16時 場所：スポーツ健康医科学研究所４階　スポーツ医学系実験室1-2 なるべく事前にe-mail等で連絡するよう心がけてほしい。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 卒業後の希望進路に関わらず、スポーツ健康科学分野の学生として身体の構造や仕組みに興味を持って欲しい。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）AT（アスレティックトレーナー） 健康・体力づくり財団　健康運動指導士 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルス感染症の発生状況によって、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	窪田	機能解剖学の基本的な知識について理解する。	機能解剖学の基本的な用語について解説する。	（予習：2時間） 全身の骨格を調べて、わからない用語等をノートにまとめておく。 （復習：2時間） 予習で書き留めた内容と授業で学んだ内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
2	窪田	機能解剖学の基本的な知識について理解する。	骨や筋、関節の種類について解説する。	（予習：2時間） 全身の筋、関節を調べて、わからない用語等をノートにまとめておく。 （復習：2時間） 予習で書き留めた内容と授業で学んだ内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
3	窪田	肩甲帯・肩関節の構造と機能について理解する。	肩甲帯・肩関節の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。	（予習：2時間） 肩甲帯・肩関節の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
4	窪田	肘関節および前腕部の構造と機能について理解する。	肘関節および前腕部の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。実際の動きから、肘関節と前腕の動きの違いについて考えさせる。	（予習：2時間） 肘関節および前腕部の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
5	窪田	手関節および手部の構造と機能について理解する。	手関節および手部の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。	（予習：2時間） 手関節および手部の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：3時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
6	窪田	体幹部の構造と機能について理解する。	体幹部の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。	（予習：2時間） 体幹部の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
7	窪田	股関節の構造と機能について理解する。	股関節の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。	（予習：3時間） 股関節の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
8	窪田	膝関節および大腿部の構造と機能について理解する。	膝関節および大腿部の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。 また、二関節筋について説明し、実際の動きから体感する。	（予習：2時間） 膝関節および大腿部の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。また、股関節について復習しておく。 （復習：3時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
9	窪田	足部・足関節および下腿部の構造と機能について理解する。	足部・足関節および腿部の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。	（予習：2時間） 足部・足関節および下腿部の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。また、膝関節について復習しておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。

10	和氣	呼吸器系の形態と構造について理解する。	呼吸機能に関わる肺・気道系について解説する。	（予習：2時間） 呼吸器系の形態と構造について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
11	和氣	循環器系の形態と構造について理解する。	血液循環機能に関わる心臓・血管系について解説する。	（予習：2時間） 循環器系の形態と構造について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
12	和氣	消化器系の形態と構造について理解する。	消化器系（胃・小腸・大腸など）について解説する。	（予習：2時間） 消化器系の形態と構造について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
13	和氣	泌尿器系の形態と構造について理解する。	腎臓を中心に、尿生成や体液・浸透圧調節について解説する。	（予習：3時間） 泌尿器系の形態と構造について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
14	山中	神経系の形態と構造について理解する。	情報の受容と処理に関わる脳・脊髄、末梢神経系について理解を深める。	（予習：3時間） 神経系の形態と構造について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。 （復習：1時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。
		定期試験の実施		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】スポーツと栄養 ［前半］	授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】スポーツと栄養 ［前半］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位
代表教員	鈴木　良雄	ナンバリング	BCM1127
担当教員	鈴木　良雄、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 　本科目は，講義の授業形態で行われる。日常生活やスポーツを行う上で知っておくべき食事の整え方と必要な栄養学的基礎知識，栄養・食事アセスメントについて解説する。特に毎日の食事で重要となる三大栄養素の機能，代謝，さらに消化と吸収の機構など，また食事選択の必要な知識を，どのような食事に気をつけて日常生活を送るべきなのかについて，競技特性や競技レベル，トレーニング内容，体組成などをもとに考えていく力を身に付ける。基礎的な栄養学の知識を土台として、身体づくり、体調管理、競技への対応などに活用するための栄養学知識を幅広く習得し、日常生活や競技生活に生かすことを目標とする。
到達目標	・学校教育や現代スポーツにおける食事・栄養について理解することができる。 ・「日ス指導」「JPSU-ST」「健康運動」に必要な知識を身に着けられる。 ・食事・栄養指導に関わっていくために必要な知識と思考力、そして高い倫理観を身に着けられる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・専門導入科目の必修科目である。また、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）、（ジュニアスポーツ指導員）、健康運動指導士認定試験受験資格取得、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識教養」、「医学的知識を備えたスポーツ指導者の育成」、および「スポーツ指導現場に詳しい医科学研究者の育成」 という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 　特になし [履修上の注意（科目独自のルール）] 授業で使用する資料をJ-Passの授業資料から各自ダウンロードし、予習してから授業に臨むこと。 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の 授業を欠席扱いとする。 また、遅刻及び早退3回で、1回分の欠席としてカウントする。

成績評価の方法	
評価方法	授業態度・取り組む姿勢（20%）、毎回実施する小テスト（20%）、期末のテスト（60%）を総合して評価する
評価基準	1. 学校教育や現代スポーツにおける食事・栄養について理解しているか。 2. 「日ス指導」「JPSU-ST」「健康運動」に必要な知識を身に着けているか。 3. 食事・栄養指導に関わっていくために必要な知識と思考力、そして高い倫理観を身に着けているか。

試験・課題に対するフィードバック方法

・授業中に実施した小テストは授業の中で解説する。
・疑問点や意見は、毎回の講義にて小テスト入力フォームにて回収し、個別もしくは講義の中でフィードバックする。
・期末テストは小テストの内容から抜粋するので、解答は事前に解説済である。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

授業で使用する資料はJ-Passを通じて配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 　担当： 鈴木良雄　E-mail：yssuzuki[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 　日時：前期期間中の月曜日9:00から11：00 場所：1号館2階1223室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生の相談時間とかち合わないようにするため、できるだけ前日までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と 準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［実務経験のある教員による授業］ この科目では、一般企業(食品業界)での勤務経験者である教員が、これまでの経験や知識に基づいて講義を展開する。 【その他】 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格　共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ JSPO（日本スポーツ協会）ジュニアスポーツ指導員 健康・体力づくり財団　健康運動指導士 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 【その他】 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：ガイダンス。エネルギー源の代謝とスポーツにおける食事の意義について理解する。	【授業方法】 スポーツにおける栄養の意義について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、必要があれば高等学校の生物で学んだ解糖系、クエン酸回路、電子伝達系を参照して、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
2	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：エネルギー消費量の評価とエネルギーバランス エネルギーの定義、消費エネルギー量の測定方法、アスリートのエネルギー必要量について理解する。	【授業方法】 エネルギーバランスについて解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
3	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：スポーツ選手の身体組成 身体組成のモデル、測定方法、活用方法について理解する。	【授業方法】 身体組成について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
4	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：トレーニング後と試合後のリカバリー 炭水化物やたんぱく質など、リカバリーに関わる栄養素と摂取方法を理解する。	【授業方法】 リカバリーと食事（栄養素）摂取について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
5	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ−：試合前の食事 試合前の食事について理解する。	【授業方法】 試合前の食事の注意点等について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。

6	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：スポーツ選手のたんぱく質・アミノ酸摂取 アミノ酸の整理効果や運動パフォーマンスへの影響、必須アミノ酸やプロテインの筋タンパク代謝への影響について理解する。	【授業方法】 スポーツにおけるアミノ酸たんぱく質の意義や摂取方法について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
7	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：スポーツ選手の骨の健康と栄養摂取 スポーツ選手の骨の特徴や、骨の健康に関わる栄養素について理解する。	【授業方法】 スポーツにおける骨の健康や関与する栄養素について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
8	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：スポーツ選手の貧血予防と栄養摂取 貧血の実態、評価方法、予防方法について理解する。	【授業方法】 貧血の実態、評価方法、予防方法について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
9	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：ビタミン・抗酸化物質と運動 抗酸化ボタミンや活性酸素・抗酸化力について理解する。	【授業方法】 運動時と活性酸素の関係やビタミンなどの抗酸化物質について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
10	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：水分補給 人体における水分の役割や、運動時・暑熱環境下に＠ける水分補給の方法について理解する。	【授業方法】 人体における水分の役割や、水分補給の方法について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。

11	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：スポーツ選手のウエイトコントロール エネルギーバランスや、減量、ボリュームアップと食事の関係について理解する。	【授業方法】 ウエイトコント-ロールにおけるエネルギーバランスやその調整方法について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
12	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：サプリメントとエルゴジェニックエイド サプリメントの種類、目的、規制、使用方法について理解する。	【授業方法】 サプリメントの種類や使用実態・規制などについて解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
13	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：ジュニアおよび女性選手の栄養摂取 ジュニア期および女性選手の食事摂取について理解する。	【授業方法】 ジュニア期および女性選手の食事摂取で留意すべきことを解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
14	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：スポーツ選手の栄養管理	【授業方法】 スポーツ選手の栄養管理について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
		定期試験を実施する		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】スポーツと栄養　[後半]	授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】スポーツと栄養　[後半]	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位
代表教員	鈴木　良雄	ナンバリング	BCM1127
担当教員	鈴木　良雄、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 　本科目は，講義の授業形態で行われる。日常生活やスポーツを行う上で知っておくべき食事の整え方と必要な栄養学的基礎知識，栄養・食事アセスメントについて解説する。特に毎日の食事で重要となる三大栄養素の機能，代謝，さらに消化と吸収の機構など，また食事選択の必要な知識を，どのような食事に気をつけて日常生活を送るべきなのかについて，競技特性や競技レベル，トレーニング内容，体組成などをもとに考えていく力を身に付ける。基礎的な栄養学の知識を土台として、身体づくり、体調管理、競技への対応などに活用するための栄養学知識を幅広く習得し、日常生活や競技生活に生かすことを目標とする。
到達目標	・学校教育や現代スポーツにおける食事・栄養について理解することができる。 ・「日ス指導」「JPSU-ST」「健康運動」に必要な知識を身に着けられる。 ・食事・栄養指導に関わっていくために必要な知識と思考力、そして高い倫理観を身に着けられる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・専門導入科目の必修科目である。また、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）、（ジュニアスポーツ指導員）、健康運動指導士認定試験受験資格取得、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識教養」、「医学的知識を備えたスポーツ指導者の育成」、および「スポーツ指導現場に詳しい医科学研究者の育成」 という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 　特になし [履修上の注意（科目独自のルール）] 授業で使用する資料をJ-Passの授業資料から各自ダウンロードし、予習してから授業に臨むこと。 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の 授業を欠席扱いとする。 また、遅刻及び早退3回で、1回分の欠席としてカウントする。
成績評価の方法	
評価方法	授業態度・取り組む姿勢（20%）、毎回実施する小テスト（20%）、期末のテスト（60%）を総合して評価する
評価基準	1. 学校教育や現代スポーツにおける食事・栄養について理解しているか。 2. 「日ス指導」「JPSU-ST」「健康運動」に必要な知識を身に着けているか。 3. 食事・栄養指導に関わっていくために必要な知識と思考力、そして高い倫理観を身に着けているか。
試験・課題に対するフィードバック方法	
・授業中に実施した小テストは授業の中で解説する。 ・疑問点や意見は、毎回の講義にて小テスト入力フォームにて回収し、個別もしくは講義の中でフィードバックする。 ・期末テストは小テストの内容から抜粋するので、解答は事前に解説済である。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献	
授業で使用する資料はJ-Passを通じて配布する。	
その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 　担当： 鈴木良雄　E-mail：yssuzuki[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 　日時：前期期間中の月曜日9:00から11：00 場所：1号館2階1223室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生の相談時間とかち合わないようにするため、できるだけ前日までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と 準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［実務経験のある教員による授業］ この科目では、一般企業(食品業界)での勤務経験者である教員が、これまでの経験や知識に基づいて講義を展開する。 【その他】 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格　共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ JSPO（日本スポーツ協会）ジュニアスポーツ指導員 健康・体力づくり財団　健康運動指導士 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 【その他】 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。
授業計画	

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：ガイダンス。エネルギー源の代謝とスポーツにおける食事の意義について理解する。	【授業方法】 スポーツにおける栄養の意義について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、必要があれば高等学校の生物で学んだ解糖系、クエン酸回路、電子伝達系を参照して、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
2	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：エネルギー消費量の評価とエネルギーバランス エネルギーの定義、消費エネルギー量の測定方法、アスリートのエネルギー必要量について理解する。	【授業方法】 エネルギーバランスについて解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
3	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：スポーツ選手の身体組成 身体組成のモデル、測定方法、活用方法について理解する。	【授業方法】 身体組成について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
4	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：トレーニング後と試合後のリカバリー 炭水化物やたんぱく質など、リカバリーに関わる栄養素と摂取方法を理解する。	【授業方法】 リカバリーと食事（栄養素）摂取について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
5	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ−：試合前の食事 試合前の食事について理解する。	【授業方法】 試合前の食事の注意点等について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。

6	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：スポーツ選手のたんぱく質・アミノ酸摂取 アミノ酸の整理効果や運動パフォーマンスへの影響、必須アミノ酸やプロテインの筋タンパク代謝への影響について理解する。	【授業方法】 スポーツにおけるアミノ酸たんぱく質の意義や摂取方法について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
7	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：スポーツ選手の骨の健康と栄養摂取 スポーツ選手の骨の特徴や、骨の健康に関わる栄養素について理解する。	【授業方法】 スポーツにおける骨の健康や関与する栄養素について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
8	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：スポーツ選手の貧血予防と栄養摂取 貧血の実態、評価方法、予防方法について理解する。	【授業方法】 貧血の実態、評価方法、予防方法について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
9	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：ビタミン・抗酸化物質と運動 抗酸化ボタミンや活性酸素・抗酸化力について理解する。	【授業方法】 運動時と活性酸素の関係やビタミンなどの抗酸化物質について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
10	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：水分補給 人体における水分の役割や、運動時・暑熱環境下に＠ける水分補給の方法について理解する。	【授業方法】 人体における水分の役割や、水分補給の方法について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。

11	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：スポーツ選手のウエイトコントロール エネルギーバランスや、減量、ボリュームアップと食事の関係について理解する。	【授業方法】 ウエイトコント-ロールにおけるエネルギーバランスやその調整方法について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
12	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：サプリメントとエルゴジェニックエイド サプリメントの種類、目的、規制、使用方法について理解する。	【授業方法】 サプリメントの種類や使用実態・規制などについて解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
13	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：ジュニアおよび女性選手の栄養摂取 ジュニア期および女性選手の食事摂取について理解する。	【授業方法】 ジュニア期および女性選手の食事摂取で留意すべきことを解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
14	鈴木　良雄	【授業内容】 テーマ：スポーツ選手の栄養管理	【授業方法】 スポーツ選手の栄養管理について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。	（予習・3時間） 配布資料をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・１時間） 授業の内容を配布資料と照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。
		定期試験を実施する		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】スポーツマネジメント総論　［前半］	授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】スポーツマネジメント総論　［前半］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位
代表教員	小笠原　悦子	ナンバリング	MGT1128
担当教員	小笠原　悦子、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	【授業全体の内容】 　この授業では、スポーツをサービスととらえ、ヒト、モノ、カネ、情報という経営資源を交換しながら、調整していくことというスポーツマネジメントの定義を理解した上で、スポーツマネジメントを扱う分野であらゆる現象を実感できるようになることを目指す。 　最初に、ドラッカーの「マネジメント（基本と原則）」のハイライト部分を学修し、マネジメントの基本を学修した上で、その後に、スポーツマネジメントの分野の全般を学修する。
到達目標	1.スポーツプロダクトの定義についてスポーツマネジメント分野の用語を使って説明できるＢ。 2.スポーツマネジメントの課題を解決するための方策を立案できるＢ。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・専門導入科目の必修科目である。また、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「スポーツ健康科学」に関連したはばあ広い知識を身に付ける。
履修上の注意、履修要件	

成績評価の方法

評価方法	【成績評価の基準】 １．マネジメントとは何かを毎回の授業で提出するコメントカードの内容で評価する。 ２．マネジメントの知識の有無がスポーツにおいて何を変えるのかについての理解度を期末テストで評価する。 【成績評価の方法】 小テスト（5% x 14回＝60%）＋期末テスト（40%）＝１００%という配分で評価する。
評価基準	１．マネジメントとは何かを毎回の授業で提出するコメントカードの内容で評価する。 ２．マネジメントの知識の有無がスポーツにおいて何を変えるのかについての理解度を期末テストで評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法

課題レポートは後日の授業で返却して、評価や助言を受講生へフィードバックする。
定期試験については、Juntendo Passportを使って解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
マネジメント【エッセンシャル版】基本と原則	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社		
スポーツマネジメント（改訂版）	原田宗彦・小笠原悦子	大修館書店		

参考文献

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：小笠原悦子 eogasawa@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日　2時間目 場所：1号館3階1329室 できるだけ、事前にemailにて面会の予約を取るように心がけて下さい。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学修時間60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 コロナウィルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	小笠原悦子	（授業内容） オリエンテーションとして、授業の受講方法、評価方法を理解し、スポーツプロダクトとは何かを理解する。 （授業方法） 授業の目的、進め方、評価方法等について概説する、スポーツプロダクト　について説明する。	講義	（予習：3時間） プロダクトとは何かを調べる。

2	小笠原悦子	（授業内容） 　スポーツプロダクトの定義を理解し、スポーツサービスの分類について理解を深める。 (授業方法) スポーツをサービスとしてとらえ、サービスの特性を説明する。また、その特性を踏まえた上でスポーツサービスの6種類を解説する。小テストを実施する。	講義	(復習：2時間) スポーツプロダクトの内容を理解する。 （予習：3時間） 第１章「スポーツマネジメントの発展の歴史」を読む。
3	小笠原悦子	授業内容) 第１章「スポーツマネジメントの発展の歴史」を学ぶ。 (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	(復習：2時間) スポーツマネジメントの歴史を復習する。 （予習：3時間） 予習：第1部　マネジメントの使命を読む
4	小笠原悦子	(授業内容) 第1部　マネジメントの使命 マネジメントの役割、社会的責任　について理解を深める。 (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	(復習：2時間) マネジメントの使命について、重要ポイントを確認する。 （予習：3時間） 予習：第2部　マネジメントの方法を読む
5	小笠原悦子	（授業内容） 第2部　マネジメントの方法 マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について理解を深める。 (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。	講義	（復習：2時間） マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能を復習する （予習：3時間） 第3部　マネジメントの戦略を読む
6	小笠原悦子	(授業内容) 第3部　マネジメントの戦略 トップマネジメント、イノベーション　につていの理解を深める （授業方法） PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する	講義	（復習：2時間） トップマネジメント、イノベーションの意味を復習 （予習：3時間） 「スポーツマネジメント」(改訂版）の第1章と第２章「スポーツマネジメントの発展」を読む
7	野口亜弥	(授業内容) 第2章「スポーツとメディアの関係、ダイバーシティ」について理解を深める ＜スポーツの自治・ガバナンスとコンプライアンス＞ (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	（復習：2時間） スポーツとメディアの関係、ダイバーシティを復習 （予習：3時間） 第3章「スポーツ関連組織のマネジメント」を読む
8	小笠原悦子	（授業内容） 第3章スポーツ関連組織のマネジメント モティベーション・マネジメント、リーダーシップについて理解を深める (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	（復習：1時間） モティベーション・マネジメント、リーダーシップについて復習 （予習：3時間） 第4章「組織行動と発展」を読む
9	水野基樹	（授業内容） 第4章　組織行動と発展 スポーツ組織の統治(ガバナンス)および経営戦略について理解を深める。 (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	（復習：1時間） 　スポーツガバナンスの意味を理解する （予習：3時間） 　第5章「スポーツマネジメントに必要な法的知識」を読む
10	木藤友規	（授業内容） 第5章　スポーツマネジメントに必要な法的知識についての理解を深める。 ＜スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任＞ (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	復習：1時間） スポーツにおける法的な知識を整理する （予習：3時間）「第6章スポーツチームのマネジメント」および「第7章スポーツリーグのマネジメント」を読む
11	工藤康宏	(授業内容) 第6章　スポーツチームのマネジメント 第7章　スポーツリーグのマネジメントについて理解を深める (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	（復習：1時間） 「第6章スポーツチームのマネジメント」および「第7章スポーツリーグのマネジメント」について復習する （予習：3時間） 　「第８章トップスポーツ選手のマネジメント」を読む

12	小笠原悦子	（授業内容） 第8章　トップスポーツ選手のマネジメントについての理解を深める。 ＜スポーツ仲裁の方法＞ (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	（復習：1時間） 　トップアスリートのマネジメントを行っているエージェントをwebsiteで調べる （予習：3時間） 　第9章「スポーツ組織のマネジメント」を読んで、Websiteで収支予算書を調べる
13	小笠原悦子	（授業内容） 第9章　スポーツ組織のマネジメントについて理解を深める (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	（復習：1時間） 　国際競技連盟（ＩＦ）、国内スポーツ組織（ＮＦ）を調べる （予習：3時間） 　第10章「スポーツファンのマネジメント」を読む
14	小笠原悦子	（復習：1時間） 　国際競技連盟（ＩＦ）、国内スポーツ組織（ＮＦ）を調べる （予習：3時間） 　第10章「スポーツファンのマネジメント」を読む	講義	（復習：４時間） 　これまで学習した第1章から10章までを総復習する
15	小笠原悦子	期末テスト		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】スポーツマネジメント総論　[後半]	授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】スポーツマネジメント総論　[後半]	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	2単位
代表教員	小笠原　悦子	ナンバリング	MGT1128
担当教員	小笠原　悦子、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 　この授業では、スポーツをサービスととらえ、ヒト、モノ、カネ、情報という経営資源を交換しながら、調整していくことというスポーツマネジメントの定義を理解した上で、スポーツマネジメントを扱う分野であらゆる現象を実感できるようになることを目指す。 　最初に、ドラッカーの「マネジメント（基本と原則）」のハイライト部分を学修し、マネジメントの基本を学修した上で、その後に、スポーツマネジメントの分野の全般を学修する。
到達目標	1.スポーツプロダクトの定義についてスポーツマネジメント分野の用語を使って説明できる。 2.スポーツマネジメントの課題を解決するための方策を立案できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・専門導入科目の必修科目である。また、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「スポーツ健康科学」に関連したはばあ広い知識を身に付ける。
履修上の注意、履修要件	

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の基準】 １．マネジメントとは何かを毎回の授業で提出するコメントカードの内容で評価する。 ２．マネジメントの知識の有無がスポーツにおいて何を変えるのかについての理解度を期末テストで評価する。 【成績評価の方法】 小テスト（5% x 14回＝60%）＋期末テスト（40%）＝１００%という配分で評価する。
評価基準	１．マネジメントとは何かを毎回の授業で提出するコメントカードの内容で評価する。 ２．マネジメントの知識の有無がスポーツにおいて何を変えるのかについての理解度を期末テストで評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法

課題レポートは後日の授業で返却して、評価や助言を受講生へフィードバックする。
定期試験については、Juntendo Passportを使って解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
マネジメント【エッセンシャル版】基本と原則	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社		
スポーツマネジメント（改訂版）	原田宗彦・小笠原悦子	大修館書店		

参考文献

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：小笠原悦子 eogasawa@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日　2時間目 場所：1号館3階1329室 できるだけ、事前にemailにて面会の予約を取るように心がけて下さい。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学修時間60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 コロナウィルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	小笠原悦子	（授業内容） オリエンテーションとして、授業の受講方法、評価方法を理解し、スポーツプロダクトとは何かを理解する。 （授業方法） 授業の目的、進め方、評価方法等について概説する、スポーツプロダクト　について説明する。	講義	（予習：3時間） プロダクトとは何かを調べる。

2	小笠原悦子	（授業内容） 　スポーツプロダクトの定義を理解し、スポーツサービスの分類について理解を深める。 (授業方法) スポーツをサービスとしてとらえ、サービスの特性を説明する。また、その特性を踏まえた上でスポーツサービスの6種類を解説する。小テストを実施する。	講義	(復習：2時間) スポーツプロダクトの内容を理解する。 （予習：3時間） 第１章「スポーツマネジメントの発展の歴史」を読む。
3	小笠原悦子	授業内容) 第１章「スポーツマネジメントの発展の歴史」を学ぶ。 (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	(復習：2時間) スポーツマネジメントの歴史を復習する。 （予習：3時間） 予習：第1部　マネジメントの使命を読む
4	小笠原悦子	(授業内容) 第1部　マネジメントの使命 マネジメントの役割、社会的責任　について理解を深める。 (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	(復習：2時間) マネジメントの使命について、重要ポイントを確認する。 （予習：3時間） 予習：第2部　マネジメントの方法を読む
5	小笠原悦子	（授業内容） 第2部　マネジメントの方法 マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について理解を深める。 (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。	講義	（復習：2時間） マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能を復習する （予習：3時間） 第3部　マネジメントの戦略を読む
6	小笠原悦子	(授業内容) 第3部　マネジメントの戦略 トップマネジメント、イノベーション　につていの理解を深める （授業方法） PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する	講義	（復習：2時間） トップマネジメント、イノベーションの意味を復習 （予習：3時間） 「スポーツマネジメント」(改訂版）の第1章と第２章「スポーツマネジメントの発展」を読む
7	野口亜弥	(授業内容) 第2章「スポーツとメディアの関係、ダイバーシティ」について理解を深める ＜スポーツの自治・ガバナンスとコンプライアンス＞ (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	（復習：2時間） スポーツとメディアの関係、ダイバーシティを復習 （予習：3時間） 第3章「スポーツ関連組織のマネジメント」を読む
8	小笠原悦子	（授業内容） 第3章スポーツ関連組織のマネジメント モティベーション・マネジメント、リーダーシップについて理解を深める (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	（復習：1時間） モティベーション・マネジメント、リーダーシップについて復習 （予習：3時間） 第4章「組織行動と発展」を読む
9	水野基樹	（授業内容） 第4章　組織行動と発展 スポーツ組織の統治(ガバナンス)および経営戦略について理解を深める。 (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	（復習：1時間） 　スポーツガバナンスの意味を理解する （予習：3時間） 　第5章「スポーツマネジメントに必要な法的知識」を読む
10	木藤友規	（授業内容） 第5章　スポーツマネジメントに必要な法的知識についての理解を深める。 ＜スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任＞ (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	復習：1時間） スポーツにおける法的な知識を整理する （予習：3時間）「第6章スポーツチームのマネジメント」および「第7章スポーツリーグのマネジメント」を読む
11	工藤康宏	(授業内容) 第6章　スポーツチームのマネジメント 第7章　スポーツリーグのマネジメントについて理解を深める (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	（復習：1時間） 「第6章スポーツチームのマネジメント」および「第7章スポーツリーグのマネジメント」について復習する （予習：3時間） 　「第８章トップスポーツ選手のマネジメント」を読む

12	小笠原悦子	（授業内容） 第8章　トップスポーツ選手のマネジメントについての理解を深める。 ＜スポーツ仲裁の方法＞ (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	（復習：1時間） 　トップアスリートのマネジメントを行っているエージェントをwebsiteで調べる （予習：3時間） 　第9章「スポーツ組織のマネジメント」を読んで、Websiteで収支予算書を調べる
13	小笠原悦子	（授業内容） 第9章　スポーツ組織のマネジメントについて理解を深める (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。	講義	（復習：1時間） 　国際競技連盟（ＩＦ）、国内スポーツ組織（ＮＦ）を調べる （予習：3時間） 　第10章「スポーツファンのマネジメント」を読む
14	小笠原悦子	（復習：1時間） 　国際競技連盟（ＩＦ）、国内スポーツ組織（ＮＦ）を調べる （予習：3時間） 　第10章「スポーツファンのマネジメント」を読む	講義	（復習：４時間） 　これまで学習した第1章から10章までを総復習する
15	小笠原悦子	期末テスト		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】体育原理　［前半］	授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】体育原理　［前半］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	2単位
代表教員	小野　雄大	ナンバリング	PHI1123
担当教員	小野　雄大、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	本授業では、学校体育や現代スポーツをとりまく諸問題について批判的に思考することを通して、体育・スポーツの原理・原則について深く学んでいく。具体的には、体育・スポーツをめぐる倫理的諸問題を取り上げながら、体育・スポーツの目的や存在意義、さらには教育的価値について、哲学的ないし歴史社会学的視点から講じていく。こうした学習を通して、体育・スポーツに関わっていくための基礎的な知識と思考力、そして高い倫理観を身に付けることを目的とする。
到達目標	１．体育・スポーツの諸概念についての理解を深め、論理的に説明することができる。 ２．体育・スポーツの原理・原則についての理解を深め、論理的に説明することができる。 ３．体育・スポーツを取り巻く諸問題について批判的に思考し、その解決に向けた自分の見解を導出することができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・専門導入科目の必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	本授業は、学位授与方針に定められている「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」及び「スポーツや健康の分野で、指導的な役割を果たすために必要な高い倫理観」を身につけるための科目の1つとして開講される。
履修上の注意、履修要件	特になし

成績評価の方法

評価方法	毎時のリアクションペーパー（40%）、定期試験（50%）、平常点（10%）
評価基準	１．リアクションペーパーでは、授業内容を踏まえつつ、自分の見解を的確かつ具体的に述べることができる。（リアクションペーパー） ２．定期試験では、体育・スポーツの概念や存在意義、倫理的諸問題の解決策などについて論理的に説明することができる。（定期試験） ３．その他、学習態度・意欲を授業中の発言やグループディスカッションへの取り組み状況から評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

必要に応じてメールを介して行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『新時代のスポーツ教育学』	小野雄大・梶将徳編	小学館集英社プロダクション		※購入必須（2022年5月上旬刊行予定）

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当： 小野 雄大（本務校：早稲田大学スポーツ科学学術院） E-mail：y-ono.sps [at] aoni.waseda.jp　※ [at] を@に変換してください 【オフィスアワー】　事前にメールで日程を相談の上、授業時間後に非常勤講師室で対応する。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】　本授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための選択科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。） 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、成績評価の基準、方法及び授業計画が変更になる場合がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	小野	オリエンテーション：体育原理とはどのような学問か？	講義＆映像視聴形式で行う。 本授業の導入として、体育原理の学問的位置づけと今日的意義について理解を深める。	（予習：3時間） 現代の体育・スポーツを取り巻く諸問題について調べ、その背景について理解を深めておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。

2	小野	体育とスポーツ	講義＆グループディスカッション形式で行う。 体育とスポーツの概念の異同について、歴史的・社会的背景を踏まえながら理解し、今後の展望を考える。	（予習：3時間） マスメディアにおける体育とスポーツの混同と混用の事例を調べておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
3	小野	フェアプレイとは何か	講義＆グループディスカッション形式で行う。 フェアプレイの意味・特質の検討を通して、スポーツ規範の教育的価値への理解を深める。	（予習：2時間） 身近にみられるフェアプレイの行動事例を整理しておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
4	小野	スポーツパーソンシップとは何か	講義＆グループディスカッション形式で行う。 スポーツパーソンシップの意味・特質の検討を通して、スポーツ規範の教育的価値への理解を深める。	（予習：2時間） 身近にみられるスポーツパーソンシップの事例を整理しておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
5	小野	スポーツと差別の倫理	講義＆グループディスカッション形式で行う。 スポーツにおける差別をめぐる議論を通して、スポーツ教育に必要なスポーツ・リテラシーの在り方を考える。	（予習：2時間） スポーツにおける差別の具体的事例を整理しておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
6	小野	ドーピングと倫理①	講義＆映像視聴形式で行う。 ドーピングの定義や技術をめぐる歴史的展開への理解を深める。	（予習：3時間） ドーピングの定義と語源について整理しておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
7	小野	ドーピングと倫理②	講義＆映像視聴形式で行う。 ドーピング禁止論と容認論の見解を確認した上で、ドーピングをめぐる倫理とジレンマについて理解を深める。	予習：3時間） アンチ・ドーピング教育の意義と課題点について整理しておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
8	小野	ユーススポーツの倫理	講義＆グループディスカッション形式で行う。 日本におけるユーススポーツの歴史的過程や特質を踏まえて、その意義と課題への理解を深める。	（予習：2時間） 『運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン』を概観し、その狙いと今後の課題について理解を深めておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
9	小野	大学スポーツの倫理	講義＆グループディスカッション形式で行う。 大学スポーツをめぐる歴史的過程と日本的特質を踏まえて、学生アスリートの位置づけを議論する。そして、これからの大学スポーツの在り方を展望する。	（予習：2時間） 近年の大学スポーツをめぐる諸問題を整理し、その問題の背景について理解を深めておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。

10	小野	Edutainmentとスポーツ教育	講義＆グループディスカッション形式で行う。 「eスポーツ」や「スポーツマンガ」をめぐる議論に着目しながら、スポーツ教育におけるEdutainmentの可能性について展望する。	（予習：2時間） eスポーツの発展史について調べ、その特徴について理解を深めておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
11	小野	セラピューティックレクリエーションの教育的可能性	講義＆グループディスカッション形式で行う。 セラピューティックレクリエーションの理論と方法について理解を深め、その教育的可能性について展望する。	（予習：2時間） セラピューティックレクリエーションの発展史について調べ、その特徴について理解を深めておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
12	小野	スポーツを通じた共生教育	講義＆映像視聴形式で行う。 「共生」という概念の基本的性格や内容の検討を通して、スポーツを通じた共生教育の実態への理解を深める。	（予習：3時間） 保健体育科の学習指導要領における「共生」に関連する記述を整理し、そのねらいについて理解を深めておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
13	小野	コーチングの原理	講義＆グループディスカッション形式で行う。 コーチングの概念や構造を踏まえて、コーチの役割について理解を深める。	（予習：2時間） コーチが抱え得る「心理的困難」について整理しておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
14	小野	アスリートのキャリア形成と教育	講義＆映像視聴形式で行う。 アスリートのキャリア形成をめぐる実態を検討し、その構造的問題について理解を深める。	（予習：2時間） 日本のアスリートのキャリア形成の特徴について整理しておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】体育原理　［後半］	授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】体育原理　［後半］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	2単位
代表教員	小野　雄大	ナンバリング	PHI1123
担当教員	小野　雄大、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	本授業では、学校体育や現代スポーツをとりまく諸問題について批判的に思考することを通して、体育・スポーツの原理・原則について深く学んでいく。具体的には、体育・スポーツをめぐる倫理的諸問題を取り上げながら、体育・スポーツの目的や存在意義、さらには教育的価値について、哲学的ないし歴史社会学的視点から講じていく。こうした学習を通して、体育・スポーツに関わっていくための基礎的な知識と思考力、そして高い倫理観を身に付けることを目的とする。
到達目標	１．体育・スポーツの諸概念についての理解を深め、論理的に説明することができる。 ２．体育・スポーツの原理・原則についての理解を深め、論理的に説明することができる。 ３．体育・スポーツを取り巻く諸問題について批判的に思考し、その解決に向けた自分の見解を導出することができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・専門導入科目の必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	本授業は、学位授与方針に定められている「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」及び「スポーツや健康の分野で、指導的な役割を果たすために必要な高い倫理観」を身につけるための科目の1つとして開講される。
履修上の注意、履修要件	特になし

成績評価の方法

評価方法	毎時のリアクションペーパー（40%）、定期試験（50%）、平常点（10%）
評価基準	１．リアクションペーパーでは、授業内容を踏まえつつ、自分の見解を的確かつ具体的に述べることができる。（リアクションペーパー） ２．定期試験では、体育・スポーツの概念や存在意義、倫理的諸問題の解決策などについて論理的に説明することができる。（定期試験） ３．その他、学習態度・意欲を授業中の発言やグループディスカッションへの取り組み状況から評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

必要に応じてメールを介して行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『新時代のスポーツ教育学』	小野雄大・梶将徳編	小学館集英社プロダクション		※購入必須（2022年5月上旬刊行予定）

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当： 小野 雄大（本務校：早稲田大学スポーツ科学学術院） E-mail：y-ono.sps [at] aoni.waseda.jp　※ [at] を@に変換してください 【オフィスアワー】　事前にメールで日程を相談の上、授業時間後に非常勤講師室で対応する。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】　本授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための選択科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。） 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、成績評価の基準、方法及び授業計画が変更になる場合がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	小野	オリエンテーション：体育原理とはどのような学問か？	講義＆映像視聴形式で行う。 本授業の導入として、体育原理の学問的位置づけと今日的意義について理解を深める。	（予習：3時間） 現代の体育・スポーツを取り巻く諸問題について調べ、その背景について理解を深めておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。

2	小野	体育とスポーツ	講義＆グループディスカッション形式で行う。 体育とスポーツの概念の異同について、歴史的・社会的背景を踏まえながら理解し、今後の展望を考える。	（予習：3時間） マスメディアにおける体育とスポーツの混同と混用の事例を調べておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
3	小野	フェアプレイとは何か	講義＆グループディスカッション形式で行う。 フェアプレイの意味・特質の検討を通して、スポーツ規範の教育的価値への理解を深める。	（予習：2時間） 身近にみられるフェアプレイの行動事例を整理しておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
4	小野	スポーツパーソンシップとは何か	講義＆グループディスカッション形式で行う。 スポーツパーソンシップの意味・特質の検討を通して、スポーツ規範の教育的価値への理解を深める。	（予習：2時間） 身近にみられるスポーツパーソンシップの事例を整理しておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
5	小野	スポーツと差別の倫理	講義＆グループディスカッション形式で行う。 スポーツにおける差別をめぐる議論を通して、スポーツ教育に必要なスポーツ・リテラシーの在り方を考える。	（予習：2時間） スポーツにおける差別の具体的事例を整理しておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
6	小野	ドーピングと倫理①	講義＆映像視聴形式で行う。 ドーピングの定義や技術をめぐる歴史的展開への理解を深める。	（予習：3時間） ドーピングの定義と語源について整理しておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
7	小野	ドーピングと倫理②	講義＆映像視聴形式で行う。 ドーピング禁止論と容認論の見解を確認した上で、ドーピングをめぐる倫理とジレンマについて理解を深める。	予習：3時間） アンチ・ドーピング教育の意義と課題点について整理しておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
8	小野	ユーススポーツの倫理	講義＆グループディスカッション形式で行う。 日本におけるユーススポーツの歴史的過程や特質を踏まえて、その意義と課題への理解を深める。	（予習：2時間） 『運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン』を概観し、その狙いと今後の課題について理解を深めておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
9	小野	大学スポーツの倫理	講義＆グループディスカッション形式で行う。 大学スポーツをめぐる歴史的過程と日本的特質を踏まえて、学生アスリートの位置づけを議論する。そして、これからの大学スポーツの在り方を展望する。	（予習：2時間） 近年の大学スポーツをめぐる諸問題を整理し、その問題の背景について理解を深めておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。

10	小野	Edutainmentとスポーツ教育	講義＆グループディスカッション形式で行う。 「eスポーツ」や「スポーツマンガ」をめぐる議論に着目しながら、スポーツ教育におけるEdutainmentの可能性について展望する。	（予習：2時間） eスポーツの発展史について調べ、その特徴について理解を深めておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
11	小野	セラピューティックレクリエーションの教育的可能性	講義＆グループディスカッション形式で行う。 セラピューティックレクリエーションの理論と方法について理解を深め、その教育的可能性について展望する。	（予習：2時間） セラピューティックレクリエーションの発展史について調べ、その特徴について理解を深めておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
12	小野	スポーツを通じた共生教育	講義＆映像視聴形式で行う。 「共生」という概念の基本的性格や内容の検討を通して、スポーツを通じた共生教育の実態への理解を深める。	（予習：3時間） 保健体育科の学習指導要領における「共生」に関連する記述を整理し、そのねらいについて理解を深めておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
13	小野	コーチングの原理	講義＆グループディスカッション形式で行う。 コーチングの概念や構造を踏まえて、コーチの役割について理解を深める。	（予習：2時間） コーチが抱え得る「心理的困難」について整理しておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
14	小野	アスリートのキャリア形成と教育	講義＆映像視聴形式で行う。 アスリートのキャリア形成をめぐる実態を検討し、その構造的問題について理解を深める。	（予習：2時間） 日本のアスリートのキャリア形成の特徴について整理しておく。 （復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】生理学	授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】生理学	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	2単位
代表教員	和氣　秀文	ナンバリング	PSL1124
担当教員	和氣　秀文、山中　航、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は、講義の授業形態で行われる。スポーツ健康科学分野の基盤知識である「人体の仕組み」について、機能的側面から理解を深めることを目的とする。人体を構成する各器官系（パーツ）、すなわち呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、神経・感覚器系、自律神経・内分泌器系、運動器系、生殖器系そして血液について、系統的な学修を行うとともに、各パーツの相互作用についても理解を深め、個体（人体）の生命活動の仕組みについて体系的に説明できる素養を身に付ける。一斉授業であるが、グループワーク（１グループにつき１０名程度）も行い、協力して講義内容の理解度を深めるようにする。また、ICTを用いた授業も展開する。
到達目標	１．人体を構成する各器官系（パーツ）の機能について論理的に説明することができる。 ２．各器官系の相互作用、すなわち個体（人体）の生命活動の仕組みについて説明することができる。 ３．生体の恒常性を維持する仕組みについて説明することができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・専門導入科目の必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）、第一種衛生管理者資格取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	生理学は基礎医学の中心に位置する学問である。人体機能の仕組みを学ぶことによって、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付けるとともに、グループワークを通じて「協働で課題を解決するために必要なコミュニケーション能力」を身に付けるための科目の一つとして開講される。また、スポーツ科学科においては、「スポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能 」および「スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力」という学位授与方針の達成にも寄与する。
履修上の注意、履修要件	機能解剖学を受講していることが望ましい。毎回の講義資料 をJ-Passにアップしているので、以下の参考書も参考にしながら、予習と復習をするように努めること。

成績評価の方法	
評価方法	平常点（10%）、定期試験（90%）を総合して評価する。
評価基準	１．人体を構成する各器官系（パーツ）の機能について論理的に説明することができる（定期試験）。 ２．各器官系の相互作用、すなわち個体（人体）の生命活動の仕組みについて説明することができる（定期試験）。 ３．生体の恒常性を維持する仕組みについて説明することができる（定期試験）。 ４．授業中の発言、予習・復習の取組状況、グループワークにおける貢献度によって授業態度を評価する（平常点）。

試験・課題に対するフィードバック方法

課題レポートを毎回提示し、翌週の授業で解説を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 （人体の構造と機能1）	坂井建雄、岡田隆夫	医学書院	978-4-260-03171-4	

参考文献

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 和氣 秀文：hwaki＠juntendo.ac.jp 山中 航：k-yamana@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 和氣 秀文：火曜日午後、スポーツ健康医科学研究所３階　生理学研究室（9304） 山中 航：火曜日午後、スポーツ健康医科学研究所３階　生理学研究室（9306）
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備時間60時間の計90時間の学習を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　生理学（運動生理学を含む。） この授業科目は、中・高保健体育一種免許の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目として位置づけられています。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格　共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 第一種衛生管理者 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	和氣 山中	テーマ：【ガイダンス：生理学とは】 生理学とは何か、特にスポーツ健康科学分野におけるその意義と重要性について理解を深める。生理学を学ぶための基礎知識を確認する。各器官や組織の大まかな役割について理解する。	生理学とは何か、について解説する。１０人程度のグループになり、身近で感じる体の不思議について考え、議論させる。	（予習：2時間） テキスト（序章および1章）を読んでおき、生理学に関する基礎知識についてよく調べ理解しておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。
2	和氣 山中	テーマ：【呼吸と血液】 呼吸機能を司る、肺・気道系、胸郭系、呼吸調節系について理解する。また、肺でのガス交換、血液によるガスの運搬、酸・塩基平衡について理解を深める。	呼吸と血液の生理学について解説する。１０人程度のグループになり、呼吸と血液の生理学に関する課題について議論する。	（予習：3時間） テキスト（3章）を読んでおき、「呼吸と血液」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：3時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。
3	和氣 山中	テーマ：【血液の循環 I（心臓の機能）】 心臓を中心に心血管機能について理解を深める。	心臓の機能について解説する。１０人程度のグループになり、循環生理学に関する課題について議論する。	（予習：3時間） テキスト（4章）を読んでおき、「血液の循環（心臓の機能）」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。
4	和氣 山中	テーマ：【血液の循環 II（心血管調節の仕組み）】 循環動態（血圧、血流量、心拍出量、心拍数）とは何か、またその調節機序について理解を深める。	心血管調節のしくみについて解説する。１０人程度のグループになり、循環生理学に関する課題について議論する。	（予習：3時間） テキスト（4章）を読んでおき、「血液の循環（心血管調節の仕組み）」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。
5	和氣 山中	テーマ：【腎臓による体液調節】 腎臓による尿生成機序、また、体液量と浸透圧調節の機序について理解を深める。	腎臓生理学について解説する。１０人程度のグループになり、腎臓生理学に関する課題について議論する。	（予習：2時間） テキスト（5章）を読んでおき、「腎臓と体液調節」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。
6	和氣 山中	テーマ：【栄養の消化と吸収】 口腔内および胃内消化機能、小腸における消化吸収機能、そして排便の仕組みについて理解する。膵臓や肝臓などの役割についても理解を深める。	消化器系の生理学について解説する。１０人程度のグループになり、消化器系の生理学に関する課題について議論する。	（予習：2時間） テキスト（2章）を読んでおき、「栄養の消化と吸収」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。
7	和氣 山中	テーマ：【自律機能の調節】 自律神経系および内分泌系機能について理解する。前者は交感神経および副交感神経の役割について、後者は各種ホルモンの生理作用について理解を深める。	自律神経系および内分泌系の生理学について解説する。１０人程度のグループになり、自律神経系および内分泌系の生理学に関する課題について議論する。	（予習：2時間） テキスト（6章）を読んでおき、「自律機能の調節」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。
8	和氣 山中	テーマ：【神経系の機能 I（神経細胞の興奮）】 神経細胞（ニューロン）の機能、特に興奮（活動電位の発生）とその伝導、およびシナプス伝達について学習する。また支持細胞（グリア）についても理解を深める。	神経生理学の基礎について解説する。１０人程度のグループになり、神経生理学に関する課題について議論する。	（予習：2時間） テキスト（8章A）を読んでおき、「神経系の機能（神経細胞の興奮）」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。
9	和氣 山中	テーマ：【神経系の機能 II（脊髄、脳幹および間脳）】 脊髄の機能（脊髄反射）、脳幹および間脳による自律機能などについて理解を深める。	神経生理学（脊髄、脳幹および間脳）について解説する。１０人程度のグループになり、神経生理学に関する課題について議論する。	（予習：2時間） テキスト（8章AからCおよび9章C）を読んでおき、「神経系の機能（脊髄、脳幹および間脳）」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。

10	和氣 山中	テーマ：【神経系の機能 III（小脳と大脳）】 小脳や大脳による運動機能、大脳（および間脳）による高次機能（本能・情動行動や記憶など）について理解を深める。	神経生理学（小脳と大脳）について解説する。１０人程度のグループになり、神経生理学に関する課題について議論する。	（予習：2時間） テキスト（8章DからE）を読んでおき、「神経系の機能（小脳と大脳）」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。
11	和氣 山中	テーマ：【感覚の受容】 感覚の種類や質について理解する。体性感覚（皮膚感覚など）、内臓感覚、および特殊感覚（視覚など）について情報受容の仕組みと理解を深める。	感覚生理学について解説する。１０人程度のグループになり、感覚生理学に関する課題について議論する。	（予習：2時間） テキスト（8章FからJ）を読んでおき、「感覚の受容」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。
12	和氣 山中	テーマ：【筋の収縮】 骨格筋および平滑筋収縮の機序、骨格筋の収縮様式や力学的特性について理解を深める。	筋生理学について解説する。１０人程度のグループになり、筋生理学に関する課題について議論する。	（予習：2時間） テキスト（7章H）を読んでおき、「筋の収縮」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。
13	和氣 山中	テーマ：【人体の防御機能】 白血球による免疫機能を中心に、病原性微生物に対する生体の防御機能について理解を深める。	生体防御機能について解説する。１０人程度のグループになり、生体防御機能（特に白血球の役割）に関する課題について議論する。	（予習：2時間） テキスト（9章B）を読んでおき、「人体の防御機能」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書 と照らし合わせて、ノートに纏める。
14	和氣 山中	テーマ：【生殖、発生、老化、ほか】 生殖機能、受精と胎児の発生機序、そして成長と老化の機序などについて理解を深める。	生殖、発生、老化の生理学について解説する。１０人程度のグループになり、生殖、発生、老化の生理学に関する課題について議論する。	（予習：2時間） テキスト（10章）を読んでおき、「生殖、発生、老化」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】スポーツ指導者に必要な医学的知識	授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】スポーツ指導者に必要な医学的知識	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	2単位
代表教員	門屋　悠香	ナンバリング	SPM1126
担当教員	門屋　悠香、髙澤　祐治、室伏　由佳、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，講義の授業形態で行われる。スポーツ指導者は，スポーツ活動中におこるアクシデントに対し，冷静かつ的確な行動が必要とされる。この講義では，スポーツ活動中に発生する疾病や外傷・障害だけでなく，コンディショニングや救急処置からドーピングまで幅広い領域にわたって，基本的な医学的知識を解説する。アスリートの安全を守るために必要な基礎的な知識と思考力，そして倫理観を身に付けることを目標とする。
到達目標	1. スポーツ現場で起こる医学的問題が説明できる。 2. スポーツ指導者に必要な、医学的問題への予防策と対処法が説明できる。 3. スポーツ現場に必要な安全管理対策を、対象者に合わせて説明できる。 4. コンディショニングの効果と手法が説明できる。 5. アンチ・ドーピングについて理解ができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・専門導入科目の必修科目である。また、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）、（ジュニアスポーツ指導員）、健康運動指導士認定試験受験資格取得、初級障がい者スポーツ指導員資格取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」を身に付けるための科目として開講される。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 「機能解剖学」を受講していることが望ましい。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 1. 1回の授業について、出席時間が3分の2に満たない場合は、欠席扱いとする 2. 遅刻及び早退については、出席と異なる扱いとする 3. 受講までにJUNTENDO PASSPORT（JPASS）での課題提出・授業資料のダウンロードができること 4. 受講までに大学アカウント（ドメイン@stud.juntendo.ac.jp)を用いて以下のアプリが使用できること （1）会議アプリ「zoom」を利用したオンライン受講 （2）Google Classroomを利用した資料・課題管理 5. 受講までに以下の準備ができることが望ましい （1）カメラ付きPCまたはタブレット （2）文書作成ソフト(Word等)、表計算ソフト(Excel等)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint等)
成績評価の方法	
評価方法	課題レポート1回（20%）、定期試験（60%）、平常点（20%）を総合して評価する。
評価基準	1. スポーツ現場で起こる医学的問題を説明できる（定期試験） 2. スポーツ現場で起こる医学的問題への予防策と対処法が説明できる（定期試験） 3. 対象者に合わせたスポーツ活動中の安全管理対策が説明できる（定期試験） 4. ストレッチとアイシングに代表されるコンディショニングの効果と目的を説明できる（定期試験） 5. アンチ・ドーピングの意義について理解ができている（レポート） 6. 授業中や予習・復習の取組状況によって授業態度を評価する（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中に課す小テストや課題については、授業内で解説をおこなう。
定期試験については、JUNTENDO PASSPORT（JPASS）を使って解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【テキスト・参考書等】
・リファレンスブック（日本スポーツ協会）
・公認スポーツ指導者養成テキスト　共通教科　Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（日本スポーツ協会）
上記テキストは参考書であり、必ず用意する必要はありません。
その他、授業中に適宜、資料を配布します。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当： 門屋　悠香 全てJUNTENDO PASSPORT（JPASS）のクラスプロファイル＞「Q&A」にて対応します。 その他の連絡先は授業内でお知らせします。 【オフィスアワー】 日時：金曜日10：20～12：50 場所：1号館5階1503号室（アスレティックトレーニング学研究室） 質問や相談は予約のあった学生を優先します。他の学生との重複を避けるため、できるだけ事前にJUNTENDO PASSPORT（JPASS）のクラスプロファイル＞「Q&A」で予約してください。 その他の連絡先は授業内でお知らせします。
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 　この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 　この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 　　・JSPO（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格　共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 　　・JSPO（日本スポーツ協会）ジュニアスポーツ指導員 　　・日本障がい者スポーツ協会　初級・障がい者スポーツ指導員 　また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	門屋悠香	【授業内容】 スポーツと健康 日本の健康の現状とスポーツの役割について理解を深める 【授業方法】 ロコモティブシンドローム、メタボリックシンドロームについて解説する ペアになり、肥満の判定基準について相手に説明する ［キーワード］ スポーツと健康 ロコモティブシンドローム メタボリックシンドローム 肥満 EBMとPICO	講義	（予習：2時間） 以下の用語について調べる ・運動器 ・サルコペニア ・フレイル （復習：2時間） ①日本人の死因について整理する ②肥満の判定基準とその特徴について整理する ③「痩せたい」と望む者に対し、何を把握し、どのようなアドバイスをするかを考える
2	門屋悠香	【授業内容】 成長期とスポーツ スポーツ活動中の健康管理体制 成長期のスポーツの特徴と注意点およびスポーツ活動中の健康管理体制について理解を深める 【授業方法】 スポーツ活動や学校現場でのメディカルチェックについて、解説する これまでに経験してきた検査や測定の目的についてまとめる ［キーワード］ ジュニア期のスポーツ 健康管理体制 メディカルチェック 感染症対策	講義	（予習：2h） ①学校定期健康診断について調べる ②PHV年齢（PHV：peak height velocity）について調べる ③運動器検診について調べる （復習：2h） ①体育授業と部活動で起こりやすいケガの違いとその要因について考える ②健康診断はじめ、これまでに経験してきた検査や測定の目的について整理し、確認する
3	門屋悠香 高澤祐治	【授業内容】 スポーツと突然死 スポーツ活動中の突然死につながる状況の予防と対応について理解を深める 【授業方法】 スポーツ活動中の心停止、脳振盪、熱中症ついて解説する スポーツ活動中の突然死について、過去の事例をもとに解説する ［キーワード］ 内科的障害と対策（1）急性の障害 突然死、熱中症、脳振盪	講義	（予習：3時間） ①体温を上げるための身体の仕組みを調べる ②体温を下げるための身体の仕組みを調べる （復習：2時間） ①脳振盪評価ツールを確認する ②熱中症の分類を整理する ③スポーツ活動中に起きた突然死の事例について、再発防止策を考える
4	門屋悠香	【授業内容】 スポーツ現場の救急処置 一次救命処置（BLS）について理解を深める 【授業方法】 心肺蘇生法、AEDの使用方法を主にスポーツ現場での救急処置、観察のポイント、緊急対応計画の重要性について解説する。 ペアになり、AEDの使用手順を確認する。 ［キーワード］ 一次救命処置 生命の徴候、ショック症状 緊急対応計画 スポーツを実施する際の安全配慮義務	講義	（予習：2時間） 以下の用語について調べる ・死戦期呼吸 ・バイスタンダー ・救命の連鎖 ・善きサマリア人の法 （復習：2時間） バイスタンダーが一次救命処置を円滑に行うために、妨げとなる要因とその改善策を考える

5	門屋悠香	【授業内容】 スポーツ活動中のファーストエイド 急なケガや病気への処置法について理解を深める 【授業方法】 急なケガや病気の手当について解説する アイシングの適応と禁忌、RICE処置について解説するペアになり、 RICE処置の目的と方法を説明する ［キーワード］ ファーストエイド 外科的応急処置 HOPSS	講義	（予習：2時間） ①止血点について調べる ②血液の扱い方について調べる （復習：3時間） 急なケガや病気に対するファーストエイドについて整理する
6	門屋悠香	【授業内容】 性別とスポーツ 性別によるトレーナビリティの違いやスポーツをおこなううえでの男女の特徴について理解を深める 【授業方法】 貧血、女性アスリートの三徴候について解説する 「年齢・性別を考慮した指導方法」をテーマに、グループで話し合う ［キーワード］ 女性アスリートの障害と対策 女性アスリートの三徴候 貧血	講義 グループワーク	（予習：2時間） ①男性と女性の運動器の違いについて調べる ②男性ホルモンと女性ホルモンの働きについて調べる ③スポーツで起こる貧血の種類を調べる （復習：2時間） スポーツ指導者の年齢・性別に対する心構えについて、整理する
7	門屋悠香 高澤祐治	【授業内容】 スポーツと精神 精神障害とスポーツについて理解を深める 【授業方法】 スポーツに関連した精神的傷害とその対策について解説する 「精神的傷害に対する指導者のあるべき姿」をテーマに、グループで話し合う ［キーワード］ スポーツによる精神障害と対策 気分障害、食行動異常 オーバートレーニング症候群 過換気症候群	講義 グループワーク	（予習：2時間） 以下の用語について調べる ・Mood Disorder ・Eating Disorder ・過換気症候群 （復習：2時間） スポーツ指導者の精神的障害に対する心構えについて、整理する
8	門屋悠香 高澤祐治	【授業内容】 スポーツ外傷・障害 下肢のスポーツ外傷・障害について理解を深める 【授業方法】 スポーツ外傷・障害について特徴や基本的な対応策について解説する 予習の内容をグループごとに発表する ［キーワード］ スポーツ外傷・障害の予防 運動器のしくみと働き	講義 グループワーク・ 発表	（予習：2時間） 上肢と下肢の運動器の特徴について調べる （復習：2時間） スポーツ外傷とスポーツ障害の違いを整理し、確認する
9	門屋悠香 高澤祐治	【授業内容】 スポーツと内科的障害 スポーツ活動中におこる内科的障害について理解を深める 【授業方法】 スポーツ活動に影響する代表的な内科的障害について、解説する 予習の内容をグループごとに発表する ［キーワード］ 急性の障害（運動誘発アナフィラキシーなど） 慢性の障害（運動誘発性喘息など） スポーツ時に注意すべき病気 特殊環境における障害	講義 グループワーク・ 発表	（予習：3時間） ①高地トレーニングでおこる身体の不調について調べる ②スポーツが関係するアレルギー反応を調べる （復習：2時間） それぞれの内科的障害についての対処法を整理し、確認する

10	門屋悠香	【授業内容】 スポーツ活動中の体調管理 コンディショニングについて理解を深める 【授業方法】 ストレッチ、テーピング、スポーツマッサージについて解説する ペアになり、コンディショニングに関する小テストを作成し、互いに採点する ［キーワード］ コンディショニングチェック コンディショニングの手法 傷害予防 疲労回復	講義	（予習：2時間） ①テーピングの効果について調べる ②スポーツマッサージの禁忌について調べる （復習：2時間） ①ストレッチの効果と目的、種類について整理する ②テーピングの効果と目的、注意点について整理する
11	門屋悠香	【授業内容】 アスレティックリハビリテーションについて理解を深める 【授業方法】 アスレティックリハビリテーションの概要、必要性、プログラム例などについて解説する ペアになり、アスレティックリハビリテーションとは何かを相手に説明する ［キーワード］ 競技復帰 再受傷予防	講義	（予習：2時間） アスレティックリハビリテーションの目的について調べる （復習：2時間） アスレティックリハビリテーションにおいて注意すべき項目を整理する
12	室伏由佳	【授業内容】 アンチ・ドーピング（1） アンチ・ドーピングについて理解を深める 【授業方法】 アンチ・ドーピングについて解説する 講義内容をワークシートにまとめる ［キーワード］ アンチ・ドーピングとは アンチ・ドーピングの歴史 アンチ・ドーピング機構 アンチ・ドーピング規程	講義・演習	（予習：2時間） ①公益財団法人　日本アンチ・ドーピング機構（JADA）のサイトを閲覧する ②JADAプロジェクトサイト「For　The　Real　Chanpion」を閲覧する （復習：2時間） アンチドーピングの意義について整理する
13	室伏由佳	【授業内容】 アンチ・ドーピング（2） ドーピングコントロールについて理解を深める 【授業方法】 ドーピングコントロールについて解説する。 講義内容をワークシートにまとめる ［キーワード］ ドーピングコントロール ドーピング検査 ドーピング検査の結果管理、制裁、上訴 禁止薬物と治療使用特例（TUE）	講義・演習	（予習：2時間） 以下の用語について調べる ・RTP/TPアスリート ・ADAMS ・TUE （復習：2時間） アンチ・ドーピング規則違反について整理する
14	室伏由佳	【授業内容】 アンチ・ドーピング（3） 【授業方法】 国内をはじめとするアンチ・ドーピングの教育、啓発活動について解説する 講義内容をワークシートにまとめる ［キーワード］ アンチ・ドーピング教育、啓発活動 アンチ・ドーピングへの指導者の役割	講義・演習	（予習：3時間） レポート課題 「アンチ・ドーピングについて」（指定等、詳細は別途案内します） （復習：2時間） アンチ・ドーピングにおける指導者の役割について整理する
		定期試験の実施		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】スポーツ社会学 ［前半］	授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】スポーツ社会学 ［前半］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	2単位
代表教員	渡　正	ナンバリング	SOC1129
担当教員	渡　正、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	現代社会においてスポーツは単なる個人の楽しみであることを超え、大きな社会現象となっている。本授業では、現代のスポーツの形成過程やその思想、課題を社会学の観点から検討する。社会構造の一部としてのスポーツを、社会学の視点から客観的、論理的に考えられるようになることを目指す。特に、現代社会における社会的課題について説明し、社会学的思考の基礎を学ぶ。また、こうした課題にスポーツがどのように関係したのか、スポーツはいかにして社会的課題を再生産あるいは解決してきたかを講義とワークによって学び、現代の社会的課題とスポーツの関連について理解を深める。またこれからのスポーツのあり方について理解を深める。
到達目標	１．社会現象としてスポーツを考え、スポーツ現象の背景的な問題やスポーツの価値と課題を理解している。 ２．現代社会におけるスポーツの課題を考えるための社会学的な考え方を理解している。 ３．現代社会におけるスポーツの課題を社会学の用語を用いて説明できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・専門導入科目の必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての選択必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）、初級障がい者スポーツ指導員資格取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「倫理観」及び「課題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし。 【履修上の注意】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。

成績評価の方法	
評価方法	各授業の最後に行う小テストによって授業内容の理解度を評価する。（10%） 定期試験によってスポーツ現象の背景的な問題やスポーツの価値と課題を理解しているかを評価する。（50%） 毎回の授業後に提示する課題レポートからスポーツの課題を社会学の用語を用いて説明できるかを評価する。（30%） 毎回の授業への取り組みを授業内でのワークの提出状況および内容で評価する。（10%）
評価基準	１．社会現象としてスポーツを考え、スポーツ現象の背景的な問題やスポーツの価値と課題を理解している。(小テスト・ワーク) ２．現代社会におけるスポーツの課題を考えるための社会学的な考え方を理解している。(小テスト・定期試験) ３．現代社会におけるスポーツの課題を社会学の用語を用いて説明できる。（課題レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法

本授業では、毎回、ICTを用いてワークの提出などを行う。そのためタブレットPC、ノートPCなどインターネットにアクセスし作業のできる機器を持ち込むことを推奨する。
課題レポート・小テストは、次回の授業内に模範解答やポイントを提示し、解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

井上俊・菊幸一編著（2020）『新版よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 　担当：渡 正（1号館3階1321室） E-mail: t-watari@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：月曜日 日時：13:00～14:30 場所：1号館3階1321室（スポーツ社会学研究室） 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約してくれた学生を優先するので、前日までにE-mailやJ-Passから連絡してください。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための選択科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。） この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格　共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 日本障がい者スポーツ協会　初級・障がい者スポーツ指導員 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更を行う可能性がある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	渡	ガイダンス:単位取得上の諸注意、授業展開の概要を述べるとともに、スポーツ社会学に関する知識を深めることがスポーツ科学の学習と実践においてどのような意義を有しているか説明する。 スポーツと社会学の関連のなかで社会の中におけるスポーツの価値について説明する。社会学の基本的な考え方について説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。	（復習：4時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。 履修登録が確実に行われているか再確認しておく。 指定した各種WEBサイトの使い方に習熟しておく。
2	渡	社会の変化とスポーツ 戦後の日本社会の変化を外観するとともに、その変化がスポーツへのまなざしがどのように影響しているかをスポーツマンガの表現から考え、スポーツを社会との関連で考え、文化としてのスポーツを考えることの例示を行う。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
3	渡	近代社会の成立とスポーツの成立 近代社会の成立がスポーツを生み出したことについて説明する。近代社会の成立についてはA.コント、E.デュルケーム、M.ウェーバーらの学説を通して説明する。また、この近代社会におけるスポーツの発生をN.エリアスやE.ダニングらの議論から説明することから、スポーツが近代社会の成立と地続きであることを示し、スポーツの文化的特性を解説する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
4	渡	オリンピックの進展 オリンピックの歴史的変遷を社会のマクロな構造との関連性から学習する。また、オリンピズムとオリンピック・ムーブメントの考え方を学び、オリンピズムと相反するオリンピックにおける勝利主義の問題から、スポーツに関わる倫理的課題を考える。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
5	渡	スポーツにおける商業化とメディアの関係性をM.マクルーハンのメディア論を下敷きに考える。また、近年のスポーツにおける商業化の様相が1984年のロサンゼルスオリンピックから始まっていることと、その仕組と状況を説明する。またメディアによるメガイベント化が、スポーツのインテグリティを傷つけている場面（ドーピングの問題など）を説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
6	渡	スポーツと社会的格差1 社会学における社会階層の概念を説明する。また特にP.ブルデューによる文化的再生産論と社会的格差について理解する。 また、スポーツが基本的人権の一つ（スポーツ権）として捉え守っていく必要性を説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
7	渡	スポーツと社会的格差2 現代社会における社会階層と社会的格差がスポーツ実践にどのように影響しているかを説明し、スポーツフォーオールにむけたスポーツ権の内容とその確立のための方策、スポーツ政策について説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
8	渡	スポーツとジェンダー・セクシュアリティ1 ジェンダー・セクシュアリティについて、フェミニズムおよびクィア理論の観点から説明し、性・性的指向の多様性を理解し、尊重する重要性を説明する。こうした多様性に対する暴力やハラスメントについて説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
9	渡	スポーツとジェンダー・セクシュアリティ2 スポーツがジェンダー・セクシュアリティの多様性に対してどのように否定的に働いてきたか、また現在のスポーツにおいて、その多様性の尊重が課題であることを説明する。その一つの形としてスポーツにおける暴力・ハラスメントの根絶の必要性について説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。

10	渡	スポーツと人種 スポーツにおける人種の問題を、オリンピックにおける象徴的事例から、どのようにスポーツが人種の排除と統合に影響してきたか考え、社会におけるスポーツが持つ価値と意義を説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
11	渡	スポーツと障害者 障害とはなにかを障害社会学の観点から説明する。障害社会学の観点から障害者スポーツをどのように理解できるかを説明し、パラリンピックの可能性を述べる。また、障害者スポーツの意義と理念、その歴史を理解する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
12	渡	スポーツと国際開発 スポーツを途上国の貧困削減や社会的課題に活用する動き（Sport for Development and Peace=SDP）が重要になってきている。ここでは、SDPの観点を持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals=SDGs）との関連のなかで整理し、社会の中でのスポーツの価値をスポーツ権の観点から説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
13	渡	現代社会におけるスポーツの課題として、スポーツのインテグリティの問題がある。スポーツルールの構成を考えることから、ドーピングの問題やハラスメント、暴力について社会学的に考え、スポーツのインテグリティについて説明する。またインテグリティ確保の観点から、指導者の資質や能力、プレイヤーズファーストの視点について学ぶ。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：3時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：3時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
14	渡	これまで説明してきた現代の社会的課題とスポーツの関係を振り返りながら、スポーツの価値が社会的な状況と関連していることを説明する。このことからスポーツの価値を維持・向上させるために、現代社会におけるスポーツの倫理を考えることが重要であることを説明する。スポーツの社会的状況や課題を踏まえたスポーツ指導者がその価値を体現できることを説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：3時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：3時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】スポーツ社会学　［後半］	授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】スポーツ社会学　［後半］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	2単位
代表教員	渡　正	ナンバリング	SOC1129
担当教員	渡　正、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	現代社会においてスポーツは単なる個人の楽しみであることを超え、大きな社会現象となっている。本授業では、現代のスポーツの形成過程やその思想、課題を社会学の観点から検討する。社会構造の一部としてのスポーツを、社会学の視点から客観的、論理的に考えられるようになることを目指す。特に、現代社会における社会的課題について説明し、社会学的思考の基礎を学ぶ。また、こうした課題にスポーツがどのように関係したのか、スポーツはいかにして社会的課題を再生産あるいは解決してきたかを講義とワークによって学び、現代の社会的課題とスポーツの関連について理解を深める。またこれからのスポーツのあり方について理解を深める。
到達目標	１．社会現象としてスポーツを考え、スポーツ現象の背景的な問題やスポーツの価値と課題を理解している。 ２．現代社会におけるスポーツの課題を考えるための社会学的な考え方を理解している。 ３．現代社会におけるスポーツの課題を社会学の用語を用いて説明できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・専門導入科目の必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての選択必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）、初級障がい者スポーツ指導員資格取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「倫理観」及び「課題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし。 【履修上の注意】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。

成績評価の方法	
評価方法	各授業の最後に行う小テストによって授業内容の理解度を評価する。（10%） 定期試験によってスポーツ現象の背景的な問題やスポーツの価値と課題を理解しているかを評価する。（50%） 毎回の授業後に提示する課題レポートからスポーツの課題を社会学の用語を用いて説明できるかを評価する。（30%） 毎回の授業への取り組みを授業内でのワークの提出状況および内容で評価する。（10%）
評価基準	１．社会現象としてスポーツを考え、スポーツ現象の背景的な問題やスポーツの価値と課題を理解している。(小テスト・ワーク) ２．現代社会におけるスポーツの課題を考えるための社会学的な考え方を理解している。(小テスト・定期試験) ３．現代社会におけるスポーツの課題を社会学の用語を用いて説明できる。（課題レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法

本授業では、毎回、ICTを用いてワークの提出などを行う。そのためタブレットPC、ノートPCなどインターネットにアクセスし作業のできる機器を持ち込むことを推奨する。
課題レポート・小テストは、次回の授業内に模範解答やポイントを提示し、解説する。はその場で回答を明示する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

井上俊・菊幸一編著（2020）『新版よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 　担当：渡 正（1号館3階1321室） E-mail: t-watari@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：月曜日日時:13:00～14:30 場所: 1号館3階1321室（スポーツ社会学研究室） 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約してくれた学生を優先するので、前日までにE-mailやJ-Passから連絡してください。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための選択科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。） この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格　共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 日本障がい者スポーツ協会　初級・障がい者スポーツ指導員 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更を行う可能性がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	渡	ガイダンス:単位取得上の諸注意、授業展開の概要を述べるとともに、スポーツ社会学に関する知識を深めることがスポーツ科学の学習と実践においてどのような意義を有しているか説明する。 スポーツと社会学の関連のなかで社会の中におけるスポーツの価値について説明する。社会学の基本的な考え方について説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。	（復習：4時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。 履修登録が確実に行われているか再確認しておく。 指定した各種WEBサイトの使い方に習熟しておく。
2	渡	社会の変化とスポーツ 戦後の日本社会の変化を外観するとともに、その変化がスポーツへのまなざしがどのように影響しているかをスポーツマンガの表現から考え、スポーツを社会との関連で考え、文化としてのスポーツを考えることの例示を行う。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
3	渡	近代社会の成立とスポーツの成立 近代社会の成立がスポーツを生み出したことについて説明する。近代社会の成立についてはA.コント、E.デュルケーム、M.ウェーバーらの学説を通して説明する。また、この近代社会におけるスポーツの発生をN.エリアスやE.ダニングらの議論から説明することから、スポーツが近代社会の成立と地続きであることを示し、スポーツの文化的特性を解説する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
4	渡	オリンピックの進展 オリンピックの歴史的変遷を社会のマクロな構造との関連性から学習する。また、オリンピズムとオリンピック・ムーブメントの考え方を学び、オリンピズムと相反するオリンピックにおける勝利主義の問題から、スポーツに関わる倫理的課題を考える。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
5	渡	スポーツにおける商業化とメディアの関係性をM.マクルーハンのメディア論を下敷きに考える。また、近年のスポーツにおける商業化の様相が1984年のロサンゼルスオリンピックから始まっていることと、その仕組と状況を説明する。またメディアによるメガイベント化が、スポーツのインテグリティを傷つけている場面（ドーピングの問題など）を説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
6	渡	スポーツと社会的格差1 社会学における社会階層の概念を説明する。また特にP.ブルデューによる文化的再生産論と社会的格差について理解する。 また、スポーツが基本的人権の一つ（スポーツ権）として捉え守っていく必要性を説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
7	渡	スポーツと社会的格差2 現代社会における社会階層と社会的格差がスポーツ実践にどのように影響しているかを説明し、スポーツフォーオールにむけたスポーツ権の内容とその確立のための方策、スポーツ政策について説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
8	渡	スポーツとジェンダー・セクシュアリティ1 ジェンダー・セクシュアリティについて、フェミニズムおよびクィア理論の観点から説明し、性・性的指向の多様性を理解し、尊重する重要性を説明する。こうした多様性に対する暴力やハラスメントについて説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
9	渡	スポーツとジェンダー・セクシュアリティ2 スポーツがジェンダー・セクシュアリティの多様性に対してどのように否定的に働いてきたか、また現在のスポーツにおいて、その多様性の尊重が課題であることを説明する。その一つの形としてスポーツにおける暴力・ハラスメントの根絶の必要性について説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。

10	渡	スポーツと人種 スポーツにおける人種の問題を、オリンピックにおける象徴的事例から、どのようにスポーツが人種の排除と統合に影響してきたか考え、社会におけるスポーツが持つ価値と意義を説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
11	渡	スポーツと障害者 障害とはなにかを障害社会学の観点から説明する。障害社会学の観点から障害者スポーツをどのように理解できるかを説明し、パラリンピックの可能性を述べる。また、障害者スポーツの意義と理念、その歴史を理解する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
12	渡	スポーツと国際開発 スポーツを途上国の貧困削減や社会的課題に活用する動き（Sport for Development and Peace=SDP）が重要になってきている。ここでは、SDPの観点を持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals=SDGs）との関連のなかで整理し、社会の中でのスポーツの価値をスポーツ権の観点から説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
13	渡	現代社会におけるスポーツの課題として、スポーツのインテグリティの問題がある。スポーツルールの構成を考えることから、ドーピングの問題やハラスメント、暴力について社会学的に考え、スポーツのインテグリティについて説明する。またインテグリティ確保の観点から、指導者の資質や能力、プレイヤーズファーストの視点について学ぶ。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：3時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：3時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
14	渡	これまで説明してきた現代の社会的課題とスポーツの関係を振り返りながら、スポーツの価値が社会的な状況と関連していることを説明する。このことからスポーツの価値を維持・向上させるために、現代社会におけるスポーツの倫理を考えることが重要であることを説明する。スポーツの社会的状況や課題を踏まえたスポーツ指導者がその価値を体現できることを説明する。	スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。	（予習：3時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：3時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】特別支援教育論　［前半］	授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】特別支援教育論　［前半］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	2単位
代表教員	渡邉　貴裕	ナンバリング	SNE1130
担当教員	渡邉　貴裕、飯嶋　正博、黄田　常嘉、渡　正、尾高　邦生、村上　祐介、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	この授業では通常の学級にも在籍している特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加し、生きる力を身に付けていくことができるようにするため、彼らの学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学修する。
到達目標	１．インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。 ２．発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性、病理・生理及び学習の過程を理解している。 ３．視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 ４．発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。 ５．「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。 ６．特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。 ７．特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。 ８．母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・専門導入科目の必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）、初級障がい者スポーツ指導員資格取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」を身に付ける。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特別支援教育論の単位取得後に、障害者教育総論等、特別支援学校教員免許状取得に関係する科目を履修することが望ましい。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。また、遅刻及び早退3回で、1回分の欠席としてカウントする。

成績評価の方法	
評価方法	日々の学習状況（10%）、定期試験（60%）、課題レポート（30%）で評価する。なお、授業態度が授業進行上においてふさわしくないと判断した場合は、減点の対象とする。
評価基準	1.特別支援教育の概念について理解しているかを、テストによって評価する。 2.特別支援教育の現状及び課題について、課題レポートから評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法

学生同士のディスカッションに対しては、毎回の授業中に解説をすることでフィードバックする。定期試験については、Juntendo Passportを使って解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月 文部科学省）
特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省）
特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月告示 文部科学省）
特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月 文部科学省）
特別支援学校学習指導要領解説　総則編（平成30年3月 文部科学省）
適宜、資料を配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：渡邉　貴裕 E-mail：tkwatana@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日　13時～15時　　木曜日　10時～12時 場所：1号館2階1219号室
担当教員の実務経験	この授業は、実務経験のある教員による授業であり、授業担当者が特別支援学校教諭の勤務経験を持ち、その経験を踏まえた実践的な内容を教授する授業である

備考	【学修時間】 　この授業は、講義による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格　共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 日本障がい者スポーツ協会　初級・障がい者スポーツ指導員 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更を行う可能性がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	渡	「障害」というの概念について、ICIDH, ICF、社会モデルの観点から理解する。	授業内容に関して講義を聞いた後、個人で考え、その後パートナーとお互いの回答を比較する。その後、全体で共有する。	(予習：1時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
2	渡	障害者権利条約の批准とそれを受けての国内の法体制整備について理解する。	授業内容に関して講義を聞いた後、個人で考え、その後パートナーとお互いの回答を比較する。その後、全体で共有する。	(予習：2時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
3	渡邉	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。障がい者スポーツ推進、地域の振興の現状について学ぶ。	インクルーシブ教育についてのVTRを視聴し、支援方法についてグループワークを行う。	(予習：2時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：2.5時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
4	黄田	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達と、心理的特性及び学習過程を理解する。	発達障害についてのVTRを視聴し、支援方法についてグループワークを行う。	(予習：2時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
5	黄田	精神障がいをはじめ、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の生理・病理について理解する。	医療機関における事例を視聴し、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う	(予習：2時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：2.5時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
6	渡邉	内部障がいをはじめ、視覚障害・聴覚障害の特性とその支援について理解する。	視覚障害・聴覚障害について、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う	(予習：2時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
7	飯嶋	肢体不自由・病弱の障害特性とその支援について理解する。	肢体不自由・病弱について、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う	(予習：2時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：2.5時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
8	尾高	発達障がいと、知的障害の障害特性とその支援について理解する。	知的障害について、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う	(予習：2時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
9	渡邉	特別支援教育に関する教育課程について理解する。	特別支援学校についてのVTRを視聴し、支援方法についてグループワークを行う。	(予習：2時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：2.5時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
10	飯嶋	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒への支援方法について理解する。また、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学ぶ。	特別支援教育についてのVTRを視聴し、支援方法についてグループワークを行う。	(予習：2時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。

11	尾高	特別支援教育コーディネーター及び家庭、関連機関との連携について理解する。	授業内容に関して講義を聞いた後、個人で考え、その後パートナーとお互いの回答を比較する。その後、全体で共有する。	(予習：2時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：2.5時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
12	飯嶋	外国籍及び貧困による特別の教育的ニーズとその対応について理解する。	授業内容に関して講義を聞いた後、個人で考え、その後パートナーとお互いの回答を比較する。その後、全体で共有する。	(予習：2時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
13	尾高	障害者スポーツの国際競技大会について理解する。全国障がい者スポーツ大会の歴史・意義・目的などについてスポーツ参加の動機つけを学ぶ。	パラリンピック、スペシャルオリンピックス、デフリンピックについてのVTRを視聴し、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う	(予習：2時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：2.5時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
14	渡	日本の障害者スポーツの歴史と展望、指導者養成制度について理解する。関連する福祉・スポーツ施策について学ぶ。	授業内容に関連した質問を小グループで話し合う	(予習：3時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：3時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】特別支援教育論　［後半］	授業形態	講義
英語科目名	【新カリ】特別支援教育論　［後半］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	2単位
代表教員	渡邉　貴裕	ナンバリング	SNE1130
担当教員	渡邉　貴裕、飯嶋　正博、黄田　常嘉、渡　正、尾高　邦生、村上　祐介、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	この授業では通常の学級にも在籍している特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加し、生きる力を身に付けていくことができるようにするため、彼らの学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学修する。
到達目標	１．インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。 ２．発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性、病理・生理及び学習の過程を理解している。 ３．視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 ４．発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。 ５．「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。 ６．特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。 ７．特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。 ８．母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・専門導入科目の必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）、初級障がい者スポーツ指導員資格取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」を身に付ける。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特別支援教育論の単位取得後に、障害者教育総論等、特別支援学校教員免許状取得に関係する科目を履修することが望ましい。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。また、遅刻及び早退3回で、1回分の欠席としてカウントする。

成績評価の方法	
評価方法	日々の学習状況（10%）、定期試験（60%）、課題レポート（30%）で評価する。なお、授業態度が授業進行上においてふさわしくないと判断した場合は、減点の対象とする。
評価基準	１．インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解しているか。 ２．発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性、病理・生理及び学習の過程を理解しているか。 ３．視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けているか。 ４．発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができるか。 ５．「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解しているか。 ６．特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解しているか。 ７．特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解しているか。 ８．母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解しているか。

試験・課題に対するフィードバック方法

学生同士のディスカッションに対しては、毎回の授業中に解説をすることでフィードバックする。定期試験については、Juntendo Passportを使って解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月 文部科学省）
特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省）
特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月告示 文部科学省）
特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月 文部科学省）
特別支援学校学習指導要領解説　総則編（平成30年3月 文部科学省）
適宜、資料を配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：渡邉　貴裕 E-mail：tkwatana@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日　13時～15時　　木曜日　10時～12時 場所：1号館2階1219号室
担当教員の実務経験	この授業は、実務経験のある教員による授業であり、授業担当者が特別支援学校教諭の勤務経験を持ち、その経験を踏まえた実践的な内容を教授する授業である
備考	【学修時間】 　この授業は、講義による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格　共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 日本障がい者スポーツ協会　初級・障がい者スポーツ指導員 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更を行う可能性がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	渡	「障害」というの概念について、ICIDH, ICF、社会モデルの観点から理解する。	授業内容に関して講義を聞いた後、個人で考え、その後パートナーとお互いの回答を比較する。その後、全体で共有する。	（予習：1時間） J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 （復習：2時間） 授業の概要についてレポートにまとめる。
2	渡	障害者権利条約の批准とそれを受けての国内の法体制整備について理解する。	授業内容に関して講義を聞いた後、個人で考え、その後パートナーとお互いの回答を比較する。その後、全体で共有する。	（予習：2時間） J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 （復習：2時間） 授業の概要についてレポートにまとめる。
3	渡邉	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。障がい者スポーツ推進、地域の振興の現状について学ぶ。	インクルーシブ教育についてのVTRを視聴し、支援方法についてグループワークを行う。	（予習：2時間） J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 （復習：2.5時間） 授業の概要についてレポートにまとめる。
4	黄田	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達と、心理的特性及び学習過程を理解する。	発達障害についてのVTRを視聴し、支援方法についてグループワークを行う。	（予習：2時間） J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 （復習：2時間） 授業の概要についてレポートにまとめる。
5	黄田	精神障がいをはじめ、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の生理・病理について理解する。	医療機関における事例を視聴し、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う	（予習：2時間） J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 （復習：2.5時間） 授業の概要についてレポートにまとめる。
6	渡邉	内部障がいをはじめ、視覚障害・聴覚障害の特性とその支援について理解する。	視覚障害・聴覚障害について、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う	（予習：2時間） J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 （復習：2時間） 授業の概要についてレポートにまとめる。
7	飯嶋	肢体不自由・病弱の障害特性とその支援について理解する。	肢体不自由・病弱について、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う	（予習：2時間） J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 （復習：2.5時間） 授業の概要についてレポートにまとめる。
8	尾高	発達障がいと、知的障害の障害特性とその支援について理解する。	知的障害について、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う	（予習：2時間） J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 （復習：2時間） 授業の概要についてレポートにまとめる。
9	渡邉	特別支援教育に関する教育課程について理解する。	特別支援学校についてのVTRを視聴し、支援方法についてグループワークを行う。	（予習：2時間） J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 （復習：2.5時間） 授業の概要についてレポートにまとめる。

10	飯嶋	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒への支援方法について理解する。また、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学ぶ。	特別支援教育についてのVTRを視聴し、支援方法についてグループワークを行う。	(予習：2時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
11	尾高	特別支援教育コーディネーター及び家庭、関連機関との連携について理解する。	授業内容に関して講義を聞いた後、個人で考え、その後パートナーとお互いの回答を比較する。その後、全体で共有する。	(予習：2時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：2.5時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
12	飯嶋	外国籍及び貧困による特別の教育的ニーズとその対応について理解する。	授業内容に関して講義を聞いた後、個人で考え、その後パートナーとお互いの回答を比較する。その後、全体で共有する。	(予習：2時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
13	尾高	障害者スポーツの国際競技大会について理解する。全国障がい者スポーツ大会の歴史・意義・目的などについてスポーツ参加の動機つけを学ぶ。	パラリンピック、スペシャルオリンピックス、デフリンピックについてのVTRを視聴し、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う	(予習：2時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：2.5時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
14	渡	日本の障害者スポーツの歴史と展望、指導者養成制度について理解する。関連する福祉・スポーツ施策について学ぶ。	授業内容に関連した質問を小グループで話し合う	(予習：3時間) J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。 (復習：3時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】体つくり運動　［男子①］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】体つくり運動　［男子①］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	青木　和浩	ナンバリング	PHE1131
担当教員	青木　和浩、渡邉　貴裕、荻原　朋子、中丸　信吾、下嶽　進一郎、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 「体つくり運動」は中学・高等学校学習指導要領の必修科目になっている。更に小学校においても必修科目となり、特別支援学校を含めた学校体育において重要な科目である。本授業では「体つくり運動」を新しく改定された学習指導要領の内容に沿って授業を展開する。また、近年、学校現場で課題となっている運動嫌いをなくすための運動についての対応も積極的に実施する。授業内容は、体つくり運動における「体の動きを高める運動」と「体ほぐしの運動」に関する運動の実施と運動方法の提案を行う。さらに、体つくり運動に関する教材の作成と検討、指導案の立案と模擬授業の実施、評価を行う。 授業の概要、評価方法、履修における留意点などを説明する。そして「体つくり運動」への理解を深めるための知識や実践方法について、授業を行う。また、授業内での筆記試験を実施する。 体ほぐしの運動、体の動きを高める運動（体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する）、実生活に活かす運動計画体などの運動方法を学ぶ。なお、グループに分かれて実技を行う（共同）。 障害者スポーツの実施、体育実技授業の導入と展開、学習指導づくり、模擬授業の実施について、グループに分かれて授業を行う（共同）。
到達目標	【授業の到達目標】 1.体つくり運動にかかわる運動種目について、児童・生徒の実態に応じた実施方法を習得する。 2.体つくり運動に関する教材の作成および実施ができる。 3.学習指導案の作成を行い模擬授業の実施により、保健体育教員としての資質を獲得する。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（AT）、（ジュニアスポーツ指導員）、初級障がい者スポーツ指導員資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は、「対人調整力」「コミュニケーション力」「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養」を身につけるという学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 　学科等により受講するクラスが決まっているため、該当する開講時間で受講すること。 ※1クラスを授業内で2クラスに分けて実施する。授業内容が前後することもあるので、毎授業時の次週の予定を確認すること。 1.やむを得ない状況により見学をする場合は、各自見学ノートを作成し提出をすること。 2. 遅刻は減点対象とする。

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 　授業内評価（実技指導）60%、指導案作成・実施20%、教材シート20%にて総合的に評価する。
評価基準	【成績評価の基準】 1.体つくり運動に関する基礎知識と授業内で経験した実技内容の効果を理解することができる。（授業内実技指導） 2.体つくり運動の実技内容を理解し、実技指導することができる。（教材シート） 3.指導案を作成し、模擬授業への取り組みを理解することができる。（指導案・成果発表）

試験・課題に対するフィードバック方法

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
授業時にレポート課題のポイントの説明を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【参考書等】
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
授業の時に資料を配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：青木 和浩 E-mail：k-aoki@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日12:00から12:50 場所：1号館5階1509室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生からの訪問に対応している可能性がある為、出来るだけ事前にE-mailで予約をしてください。
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業科目は、講義と学修を交えた形態による1単位の科目であり、授業・実習30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）ジュニアスポーツ指導員 JSPO（日本スポーツ協会）AT 健康・体力づくり財団　健康運動指導士 日本障がい者スポーツ協会　初級・障がい者スポーツ指導員 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー ※新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、授業計画等の変更を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	青木	【授業内容】 テーマ：ガイダンス・体つくり運動とは？ 当該科目における授業の位置づけ、進め方や成績評価方法について学ぶ。 体つくり運動の分類と学習指導要領における位置づけを学ぶ。	【授業方法】 授業計画や資料を配布し、講義を行う。	（予習：0.5時間） 体つくり運動について、事前に調べる。 （復習：0.5時間） 授業の位置づけ、授業形態・成績評価法・注意事項について理解を深める。 体つくり運動への理解を整理する。
2	荻原他、	【授業内容】 テーマ：「リスクマネジメント」への理解 授業をする際の心得、リスクマネジメントを考える	【授業方法】 講義では配布資料を用いる。	（予習：0.5時間） 学校における「リスク」が伴う事項を考える。 （復習：0.5時間） 配布資料を読み「リスクマネジメント」を整理する。
3	青木他、	【授業内容】 テーマ：体ほぐしの運動① 小学校・中学校における体ほぐしの運動について学ぶ。	【授業方法】 実技（運動例を行いながら実施方法を理解する）。	（予習：0.5時間） 体ほぐしの運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 体ほぐしの実技例を振り返り整理する。
4	青木他、	【授業内容】 テーマ：体ほぐしの運動② 中学校・高校の体ほぐしの運動について学ぶ。	【授業方法】 実技（運動遊びを通して交流が促進する過程について運動例を行いながら実施方法を理解する。）	（予習：0.5時間） 体ほぐしの運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 体ほぐしの実技例を振り返り整理する。
5	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動① 体の動きを高める運動として、体の柔らかさ、巧みな動きの方法を学ぶ。	【授業方法】 実技（柔らかさ、巧みな動き）を行う。	（予習：0.5時間） 体の柔らかさ、巧みな動きに関する事前の学習をする。 （復習：0.5時間） 体の柔らかさ、巧みな動きの実技例を整理する。
6	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動② 力強い動き、動きを持続する運動を学ぶ。	【授業方法】 実技（力強い動き、動きを持続する運動を行い理解する。）	（予習：0.5時間） 力強い動き、動きを持続する運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 力強い動き、動きを持続する運動の実技例を振り返り整理する。
7	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動③、実生活に活かした運動計画 障害のある児童生徒への運動遊びの方法を学ぶ。運動計画を行う。	【授業方法】 実技（様々な運動を行い運動効果について実習する。）	（予習：0.5時間） これまでの運動内容を整理ておく。 （復習：0.5時間） 様々な実技例を振り返る。
8	荻原他、	【授業内容】 テーマ：学習指導案づくり 学習指導案の作成方法について学び、体つくり運動の学習指導案を作成する。	【授業方法】 本授業で実施した体力を高める運動および体ほぐしの運動例をもとにして学習指導案を作成する。	（予習：0.5時間） 配布資料を読み学習指導案について調べておく。 （復習：0.5時間） 模擬授業の実施に向けて準備しておく。
9	渡邉他、	【授業内容】 テーマ：パラスポーツ体験① ボッチャをはじめとしたパラスポーツの体験を行う。	【授業方法】 実技（ボッチャを行う。）	（予習：0.5時間） ボッチャを事前に調べる。 （復習：0.5時間） パラスポーツと体つくり運動の関係を整理する。

10	渡邉他、	【授業内容】 テーマ： パラスポーツ体験① シッティングバレーをはじめとする運動を用いた体ほぐしの運動を理解する。	【授業方法】 実技（シッティングバレーを実施する。）	（予習：0.5時間） 　パラリンピックスポーツを事前に調べる。 （復習：0.5時間） 　授業で実施した障害者スポーツのルールや実施方法を振り返り整理する。
11	渡邉他、	【授業内容】 テーマ：特別支援における体つくり運動とは？ 特別支援における体つくり運動の位置づけを学ぶ。	講義	（予習：0.5時間） 特別支援教育について調べておく。 （復習：0.5時間） 特別支援教育で必要な指導について整理し、理解を深める。
12	荻原他、	【授業内容】 テーマ：体育授業の導入と展開 体育授業の導入や展開の方法と指導についてについて学ぶ（ウォーミングアップとクーリングダウンも含む）。	【授業方法】 体育授業の導入方法についての説明をもとに、実践する。ねらいに沿った運動の選択と展開についての説明をもとに、実際に運動の展開を提案する。	（予習：0.5時間） 学習指導案の導入部分について調べておく。 （復習：0.5時間） 体育授業の導入の方法と指導について整理し、理解を深める。
13	青木他	【授業内容】 テーマ：模擬授業① 体つくり運動の模擬授業を行い、振り返りから授業の実施方法について学ぶ。	【授業方法】 　学生の中から模擬授業者を決め、実際の授業を行う。模擬授業への参加だけではなく振り返りも実施する。	（予習：1時間） 模擬授業実施者の選出と事前準備を行う。 （復習：0.5時間） 　模擬授業の振り返りから自身が教員になった時に必要な課題を整理する。
14	青木他、	【授業内容】 テーマ：模擬授業① 体つくり運動の模擬授業を行い、振り返りから授業の実施方法について学ぶ。	【授業方法】 　学生の中から模擬授業者を決め、実際の授業を行う。模擬授業への参加だけではなく振り返りも実施する。	（予習：1時間） 模擬授業実施者の選出と事前準備を行う。 （復習：0.5時間） 　模擬授業の振り返りから自身が教員になった時に必要な課題を整理する。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】体つくり運動　［男子③］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】体つくり運動　［男子③］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	青木　和浩	ナンバリング	PHE1131
担当教員	青木　和浩、渡邉　貴裕、荻原　朋子、中丸　信吾、勝又　健太、下嶽　進一郎、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 「体つくり運動」は中学・高等学校学習指導要領の必修科目になっている。更に小学校においても必修科目となり、特別支援学校を含めた学校体育において重要な科目である。本授業では「体つくり運動」を新しく改定された学習指導要領の内容に沿って授業を展開する。また、近年、学校現場で課題となっている運動嫌いをなくすための運動についての対応も積極的に実施する。授業内容は、体つくり運動における「体の動きを高める運動」と「体ほぐしの運動」に関する運動の実施と運動方法の提案を行う。さらに、体つくり運動に関する教材の作成と検討、指導案の立案と模擬授業の実施、評価を行う。 授業の概要、評価方法、履修における留意点などを説明する。そして「体つくり運動」への理解を深めるための知識や実践方法について、授業を行う。また、授業内での筆記試験を実施する。 体ほぐしの運動、体の動きを高める運動（体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する）、実生活に活かす運動計画体などの運動方法を学ぶ。なお、グループに分かれて実技を行う（共同）。 障害者スポーツの実施、体育実技授業の導入と展開、学習指導づくり、模擬授業の実施について、グループに分かれて授業を行う（共同）。
到達目標	【授業の到達目標】 1.体つくり運動にかかわる運動種目について、児童・生徒の実態に応じた実施方法を習得する。 2.体つくり運動に関する教材の作成および実施ができる。 3.学習指導案の作成を行い模擬授業の実施により、保健体育教員としての資質を獲得する。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（AT）、（ジュニアスポーツ指導員）、初級障がい者スポーツ指導員資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は、「対人調整力」「コミュニケーション力」「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養」を身につけるという学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 　学科等により受講するクラスが決まっているため、該当する開講時間で受講すること。 ※1クラスを授業内で2クラスに分けて実施する。授業内容が前後することもあるので、毎授業時の次週の予定を確認すること。 1.やむを得ない状況により見学をする場合は、各自見学ノートを作成し提出をすること。 2. 遅刻は減点対象とする。

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 　授業内評価（実技指導）60%、指導案作成・実施20%、教材シート20%にて総合的に評価する。
評価基準	【成績評価の基準】 1.体つくり運動に関する基礎知識と授業内で経験した実技内容の効果を理解することができる。（授業内実技指導） 2.体つくり運動の実技内容を理解し、実技指導することができる。（教材シート） 3.指導案を作成し、模擬授業への取り組みを理解することができる。（指導案・成果発表）

試験・課題に対するフィードバック方法

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
授業時にレポート課題のポイントの説明を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【参考書等】
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
授業の時に資料を配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：青木 和浩 E-mail：k-aoki@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日12:00から12:50 場所：1号館5階1509室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生からの訪問に対応している可能性がある為、出来るだけ事前にE-mailで予約をしてください。
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業科目は、講義と学修を交えた形態による1単位の科目であり、授業・実習30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）ジュニアスポーツ指導員 JSPO（日本スポーツ協会）AT 健康・体力づくり財団　健康運動指導士 日本障がい者スポーツ協会　初級・障がい者スポーツ指導員 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー ※新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、授業計画等の変更を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	青木	【授業内容】 テーマ：ガイダンス・体つくり運動とは？ 当該科目における授業の位置づけ、進め方や成績評価方法について学ぶ。 体つくり運動の分類と学習指導要領における位置づけを学ぶ。	【授業方法】 授業計画や資料を配布し、講義を行う。	（予習：0.5時間） 体つくり運動について、事前に調べる。 （復習：0.5時間） 授業の位置づけ、授業形態・成績評価法・注意事項について理解を深める。 体つくり運動への理解を整理する。
2	荻原他、	【授業内容】 テーマ：「リスクマネジメント」への理解 授業をする際の心得、リスクマネジメントを考える	【授業方法】 講義では配布資料を用いる。	（予習：0.5時間） 学校における「リスク」が伴う事項を考える。 （復習：0.5時間） 配布資料を読み「リスクマネジメント」を整理する。
3	青木他、	【授業内容】 テーマ：体ほぐしの運動① 小学校・中学校における体ほぐしの運動について学ぶ。	【授業方法】 実技（運動例を行いながら実施方法を理解する）。	（予習：0.5時間） 体ほぐしの運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 体ほぐしの実技例を振り返り整理する。
4	青木他、	【授業内容】 テーマ：体ほぐしの運動② 中学校・高校の体ほぐしの運動について学ぶ。	【授業方法】 実技（運動遊びを通して交流が促進する過程について運動例を行いながら実施方法を理解する。）	（予習：0.5時間） 体ほぐしの運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 体ほぐしの実技例を振り返り整理する。
5	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動① 体の動きを高める運動として、体の柔らかさ、巧みな動きの方法を学ぶ。	【授業方法】 実技（柔らかさ、巧みな動き）を行う。	（予習：0.5時間） 体の柔らかさ、巧みな動きに関する事前の学習をする。 （復習：0.5時間） 体の柔らかさ、巧みな動きの実技例を整理する。
6	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動② 力強い動き、動きを持続する運動を学ぶ。	【授業方法】 実技（力強い動き、動きを持続する運動を行い理解する。）	（予習：0.5時間） 力強い動き、動きを持続する運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 力強い動き、動きを持続する運動の実技例を振り返り整理する。
7	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動③、実生活に活かした運動計画 障害のある児童生徒への運動遊びの方法を学ぶ。運動計画を行う。	【授業方法】 実技（様々な運動を行い運動効果について実習する。）	（予習：0.5時間） これまでの運動内容を整理ておく。 （復習：0.5時間） 様々な実技例を振り返る。
8	荻原他、	【授業内容】 テーマ：学習指導案づくり 学習指導案の作成方法について学び、体つくり運動の学習指導案を作成する。	【授業方法】 本授業で実施した体力を高める運動および体ほぐしの運動例をもとにして学習指導案を作成する。	（予習：0.5時間） 配布資料を読み学習指導案について調べておく。 （復習：0.5時間） 模擬授業の実施に向けて準備しておく。
9	渡邉他、	【授業内容】 テーマ：パラスポーツ体験① ボッチャをはじめとしたパラスポーツの体験を行う。	【授業方法】 実技（ボッチャを行う。）	（予習：0.5時間） ボッチャを事前に調べる。 （復習：0.5時間） パラスポーツと体つくり運動の関係を整理する。

10	渡邉他、	【授業内容】 テーマ： パラスポーツ体験① シッティングバレーをはじめとする運動を用いた体ほぐしの運動を理解する。	【授業方法】 実技（シッティングバレーを実施する。）	（予習：0.5時間） 　パラリンピックスポーツを事前に調べる。 （復習：0.5時間） 　授業で実施した障害者スポーツのルールや実施方法を振り返り整理する。
11	渡邉他、	【授業内容】 テーマ：特別支援における体つくり運動とは？ 特別支援における体つくり運動の位置づけを学ぶ。	講義	（予習：0.5時間） 特別支援教育について調べておく。 （復習：0.5時間） 特別支援教育で必要な指導について整理し、理解を深める。
12	荻原他、	【授業内容】 テーマ：体育授業の導入と展開 体育授業の導入や展開の方法と指導についてについて学ぶ（ウォーミングアップとクーリングダウンも含む）。	【授業方法】 体育授業の導入方法についての説明をもとに、実践する。ねらいに沿った運動の選択と展開についての説明をもとに、実際に運動の展開を提案する。	（予習：0.5時間） 学習指導案の導入部分について調べておく。 （復習：0.5時間） 体育授業の導入の方法と指導について整理し、理解を深める。
13	青木他	【授業内容】 テーマ：模擬授業① 体つくり運動の模擬授業を行い、振り返りから授業の実施方法について学ぶ。	【授業方法】 　学生の中から模擬授業者を決め、実際の授業を行う。模擬授業への参加だけではなく振り返りも実施する。	（予習：1時間） 模擬授業実施者の選出と事前準備を行う。 （復習：0.5時間） 　模擬授業の振り返りから自身が教員になった時に必要な課題を整理する。
14	青木他、	【授業内容】 テーマ：模擬授業① 体つくり運動の模擬授業を行い、振り返りから授業の実施方法について学ぶ。	【授業方法】 　学生の中から模擬授業者を決め、実際の授業を行う。模擬授業への参加だけではなく振り返りも実施する。	（予習：1時間） 模擬授業実施者の選出と事前準備を行う。 （復習：0.5時間） 　模擬授業の振り返りから自身が教員になった時に必要な課題を整理する。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】体つくり運動　［男子④］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】体つくり運動　［男子④］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	青木　和浩	ナンバリング	PHE1131
担当教員	青木　和浩、渡邉　貴裕、荻原　朋子、中丸　信吾、勝又　健太、下嶽　進一郎、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 「体つくり運動」は中学・高等学校学習指導要領の必修科目になっている。更に小学校においても必修科目となり、特別支援学校を含めた学校体育において重要な科目である。本授業では「体つくり運動」を新しく改定された学習指導要領の内容に沿って授業を展開する。また、近年、学校現場で課題となっている運動嫌いをなくすための運動についての対応も積極的に実施する。授業内容は、体つくり運動における「体の動きを高める運動」と「体ほぐしの運動」に関する運動の実施と運動方法の提案を行う。さらに、体つくり運動に関する教材の作成と検討、指導案の立案と模擬授業の実施、評価を行う。 授業の概要、評価方法、履修における留意点などを説明する。そして「体つくり運動」への理解を深めるための知識や実践方法について、授業を行う。また、授業内での筆記試験を実施する。 体ほぐしの運動、体の動きを高める運動（体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する）、実生活に活かす運動計画体などの運動方法を学ぶ。なお、グループに分かれて実技を行う（共同）。 障害者スポーツの実施、体育実技授業の導入と展開、学習指導づくり、模擬授業の実施について、グループに分かれて授業を行う（共同）。
到達目標	【授業の到達目標】 1.体つくり運動にかかわる運動種目について、児童・生徒の実態に応じた実施方法を習得する。 2.体つくり運動に関する教材の作成および実施ができる。 3.学習指導案の作成を行い模擬授業の実施により、保健体育教員としての資質を獲得する。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（AT）、（ジュニアスポーツ指導員）、初級障がい者スポーツ指導員資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は、「対人調整力」「コミュニケーション力」「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養」を身につけるという学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 　学科等により受講するクラスが決まっているため、該当する開講時間で受講すること。 ※1クラスを授業内で2クラスに分けて実施する。授業内容が前後することもあるので、毎授業時の次週の予定を確認すること。 1.やむを得ない状況により見学をする場合は、各自見学ノートを作成し提出をすること。 2. 遅刻は減点対象とする。

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 　授業内評価（実技指導）60%、指導案作成・実施20%、教材シート20%にて総合的に評価する。
評価基準	【成績評価の基準】 1.体つくり運動に関する基礎知識と授業内で経験した実技内容の効果を理解することができる。（授業内実技指導） 2.体つくり運動の実技内容を理解し、実技指導することができる。（教材シート） 3.指導案を作成し、模擬授業への取り組みを理解することができる。（指導案・成果発表）

試験・課題に対するフィードバック方法

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
授業時にレポート課題のポイントの説明を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【参考書等】
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
授業の時に資料を配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：青木 和浩 E-mail：k-aoki@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日12:00から12:50 場所：1号館5階1509室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生からの訪問に対応している可能性がある為、出来るだけ事前にE-mailで予約をしてください。
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業科目は、講義と学修を交えた形態による1単位の科目であり、授業・実習30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）ジュニアスポーツ指導員 JSPO（日本スポーツ協会）AT 健康・体力づくり財団　健康運動指導士 日本障がい者スポーツ協会　初級・障がい者スポーツ指導員 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー ※新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、授業計画等の変更を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	青木	【授業内容】 テーマ：ガイダンス・体つくり運動とは？ 当該科目における授業の位置づけ、進め方や成績評価方法について学ぶ。 体つくり運動の分類と学習指導要領における位置づけを学ぶ。	【授業方法】 授業計画や資料を配布し、講義を行う。	（予習：0.5時間） 体つくり運動について、事前に調べる。 （復習：0.5時間） 授業の位置づけ、授業形態・成績評価法・注意事項について理解を深める。 体つくり運動への理解を整理する。
2	荻原他、	【授業内容】 テーマ：「リスクマネジメント」への理解 授業をする際の心得、リスクマネジメントを考える	【授業方法】 講義では配布資料を用いる。	（予習：0.5時間） 学校における「リスク」が伴う事項を考える。 （復習：0.5時間） 配布資料を読み「リスクマネジメント」を整理する。
3	青木他、	【授業内容】 テーマ：体ほぐしの運動① 小学校・中学校における体ほぐしの運動について学ぶ。	【授業方法】 実技（運動例を行いながら実施方法を理解する）。	（予習：0.5時間） 体ほぐしの運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 体ほぐしの実技例を振り返り整理する。
4	青木他、	【授業内容】 テーマ：体ほぐしの運動② 中学校・高校の体ほぐしの運動について学ぶ。	【授業方法】 実技（運動遊びを通して交流が促進する過程について運動例を行いながら実施方法を理解する。）	（予習：0.5時間） 体ほぐしの運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 体ほぐしの実技例を振り返り整理する。
5	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動① 体の動きを高める運動として、体の柔らかさ、巧みな動きの方法を学ぶ。	【授業方法】 実技（柔らかさ、巧みな動き）を行う。	（予習：0.5時間） 体の柔らかさ、巧みな動きに関する事前の学習をする。 （復習：0.5時間） 体の柔らかさ、巧みな動きの実技例を整理する。
6	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動② 力強い動き、動きを持続する運動を学ぶ。	【授業方法】 実技（力強い動き、動きを持続する運動を行い理解する。）	（予習：0.5時間） 力強い動き、動きを持続する運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 力強い動き、動きを持続する運動の実技例を振り返り整理する。
7	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動③、実生活に活かした運動計画 障害のある児童生徒への運動遊びの方法を学ぶ。運動計画を行う。	【授業方法】 実技（様々な運動を行い運動効果について実習する。）	（予習：0.5時間） これまでの運動内容を整理ておく。 （復習：0.5時間） 様々な実技例を振り返る。
8	荻原他、	【授業内容】 テーマ：学習指導案づくり 学習指導案の作成方法について学び、体つくり運動の学習指導案を作成する。	【授業方法】 本授業で実施した体力を高める運動および体ほぐしの運動例をもとにして学習指導案を作成する。	（予習：0.5時間） 配布資料を読み学習指導案について調べておく。 （復習：0.5時間） 模擬授業の実施に向けて準備しておく。
9	渡邉他、	【授業内容】 テーマ：パラスポーツ体験① ボッチャをはじめとしたパラスポーツの体験を行う。	【授業方法】 実技（ボッチャを行う。）	（予習：0.5時間） ボッチャを事前に調べる。 （復習：0.5時間） パラスポーツと体つくり運動の関係を整理する。

10	渡邉他、	【授業内容】 テーマ： パラスポーツ体験① シッティングバレーをはじめとする運動を用いた体ほぐしの運動を理解する。	【授業方法】 実技（シッティングバレーを実施する。）	（予習：0.5時間） 　パラリンピックスポーツを事前に調べる。 （復習：0.5時間） 　授業で実施した障害者スポーツのルールや実施方法を振り返り整理する。
11	渡邉他、	【授業内容】 テーマ：特別支援における体つくり運動とは？ 特別支援における体つくり運動の位置づけを学ぶ。	講義	（予習：0.5時間） 特別支援教育について調べておく。 （復習：0.5時間） 特別支援教育で必要な指導について整理し、理解を深める。
12	荻原他、	【授業内容】 テーマ：体育授業の導入と展開 体育授業の導入や展開の方法と指導についてについて学ぶ（ウォーミングアップとクーリングダウンも含む）。	【授業方法】 体育授業の導入方法についての説明をもとに、実践する。ねらいに沿った運動の選択と展開についての説明をもとに、実際に運動の展開を提案する。	（予習：0.5時間） 学習指導案の導入部分について調べておく。 （復習：0.5時間） 体育授業の導入の方法と指導について整理し、理解を深める。
13	青木他	【授業内容】 テーマ：模擬授業① 体つくり運動の模擬授業を行い、振り返りから授業の実施方法について学ぶ。	【授業方法】 　学生の中から模擬授業者を決め、実際の授業を行う。模擬授業への参加だけではなく振り返りも実施する。	（予習：1時間） 模擬授業実施者の選出と事前準備を行う。 （復習：0.5時間） 　模擬授業の振り返りから自身が教員になった時に必要な課題を整理する。
14	青木他、	【授業内容】 テーマ：模擬授業① 体つくり運動の模擬授業を行い、振り返りから授業の実施方法について学ぶ。	【授業方法】 　学生の中から模擬授業者を決め、実際の授業を行う。模擬授業への参加だけではなく振り返りも実施する。	（予習：1時間） 模擬授業実施者の選出と事前準備を行う。 （復習：0.5時間） 　模擬授業の振り返りから自身が教員になった時に必要な課題を整理する。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】体つくり運動　［女子③］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】体つくり運動　［女子③］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	青木　和浩	ナンバリング	PHE1131
担当教員	青木　和浩、渡邉　貴裕、荻原　朋子、中丸　信吾、村上　光輝、下嶽　進一郎、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 「体つくり運動」は中学・高等学校学習指導要領の必修科目になっている。更に小学校においても必修科目となり、特別支援学校を含めた学校体育において重要な科目である。本授業では「体つくり運動」を新しく改定された学習指導要領の内容に沿って授業を展開する。また、近年、学校現場で課題となっている運動嫌いをなくすための運動についての対応も積極的に実施する。授業内容は、体つくり運動における「体の動きを高める運動」と「体ほぐしの運動」に関する運動の実施と運動方法の提案を行う。さらに、体つくり運動に関する教材の作成と検討、指導案の立案と模擬授業の実施、評価を行う。 授業の概要、評価方法、履修における留意点などを説明する。そして「体つくり運動」への理解を深めるための知識や実践方法について、授業を行う。また、授業内での筆記試験を実施する。 体ほぐしの運動、体の動きを高める運動（体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する）、実生活に活かす運動計画体などの運動方法を学ぶ。なお、グループに分かれて実技を行う（共同）。 障害者スポーツの実施、体育実技授業の導入と展開、学習指導づくり、模擬授業の実施について、グループに分かれて授業を行う（共同）。
到達目標	【授業の到達目標】 1.体つくり運動にかかわる運動種目について、児童・生徒の実態に応じた実施方法を習得する。 2.体つくり運動に関する教材の作成および実施ができる。 3.学習指導案の作成を行い模擬授業の実施により、保健体育教員としての資質を獲得する。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（AT）、（ジュニアスポーツ指導員）、初級障がい者スポーツ指導員資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は、「対人調整力」「コミュニケーション力」「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養」を身につけるという学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 　学科等により受講するクラスが決まっているため、該当する開講時間で受講すること。 ※1クラスを授業内で2クラスに分けて実施する。授業内容が前後することもあるので、毎授業時の次週の予定を確認すること。 1.やむを得ない状況により見学をする場合は、各自見学ノートを作成し提出をすること。 2. 遅刻は減点対象とする。

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 　授業内評価（実技指導）60%、指導案作成・実施20%、教材シート20%にて総合的に評価する。
評価基準	【成績評価の基準】 1.体つくり運動に関する基礎知識と授業内で経験した実技内容の効果を理解することができる。（授業内実技指導） 2.体つくり運動の実技内容を理解し、実技指導することができる。（教材シート） 3.指導案を作成し、模擬授業への取り組みを理解することができる。（指導案・成果発表）

試験・課題に対するフィードバック方法

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
授業時にレポート課題のポイントの説明を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【参考書等】
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
授業の時に資料を配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：青木 和浩 E-mail：k-aoki@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日12:00から12:50 場所：1号館5階1509室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生からの訪問に対応している可能性がある為、出来るだけ事前にE-mailで予約をしてください。
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業科目は、講義と学修を交えた形態による1単位の科目であり、授業・実習30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）ジュニアスポーツ指導員 JSPO（日本スポーツ協会）AT 健康・体力づくり財団　健康運動指導士 日本障がい者スポーツ協会　初級・障がい者スポーツ指導員 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー ※新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、授業計画等の変更を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	青木	【授業内容】 テーマ：ガイダンス・体つくり運動とは？ 当該科目における授業の位置づけ、進め方や成績評価方法について学ぶ。 体つくり運動の分類と学習指導要領における位置づけを学ぶ。	【授業方法】 授業計画や資料を配布し、講義を行う。	（予習：0.5時間） 体つくり運動について、事前に調べる。 （復習：0.5時間） 授業の位置づけ、授業形態・成績評価法・注意事項について理解を深める。 体つくり運動への理解を整理する。
2	荻原他、	【授業内容】 テーマ：「リスクマネジメント」への理解 授業をする際の心得、リスクマネジメントを考える	【授業方法】 講義では配布資料を用いる。	（予習：0.5時間） 学校における「リスク」が伴う事項を考える。 （復習：0.5時間） 配布資料を読み「リスクマネジメント」を整理する。
3	青木他、	【授業内容】 テーマ：体ほぐしの運動① 小学校・中学校における体ほぐしの運動について学ぶ。	【授業方法】 実技（運動例を行いながら実施方法を理解する）。	（予習：0.5時間） 体ほぐしの運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 体ほぐしの実技例を振り返り整理する。
4	青木他、	【授業内容】 テーマ：体ほぐしの運動② 中学校・高校の体ほぐしの運動について学ぶ。	【授業方法】 実技（運動遊びを通して交流が促進する過程について運動例を行いながら実施方法を理解する。）	（予習：0.5時間） 体ほぐしの運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 体ほぐしの実技例を振り返り整理する。
5	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動① 体の動きを高める運動として、体の柔らかさ、巧みな動きの方法を学ぶ。	【授業方法】 実技（柔らかさ、巧みな動き）を行う。	（予習：0.5時間） 体の柔らかさ、巧みな動きに関する事前の学習をする。 （復習：0.5時間） 体の柔らかさ、巧みな動きの実技例を整理する。
6	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動② 力強い動き、動きを持続する運動を学ぶ。	【授業方法】 実技（力強い動き、動きを持続する運動を行い理解する。）	（予習：0.5時間） 力強い動き、動きを持続する運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 力強い動き、動きを持続する運動の実技例を振り返り整理する。
7	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動③、実生活に活かした運動計画 障害のある児童生徒への運動遊びの方法を学ぶ。運動計画を行う。	【授業方法】 実技（様々な運動を行い運動効果について実習する。）	（予習：0.5時間） これまでの運動内容を整理ておく。 （復習：0.5時間） 様々な実技例を振り返る。
8	荻原他、	【授業内容】 テーマ：学習指導案づくり 学習指導案の作成方法について学び、体つくり運動の学習指導案を作成する。	【授業方法】 本授業で実施した体力を高める運動および体ほぐしの運動例をもとにして学習指導案を作成する。	（予習：0.5時間） 配布資料を読み学習指導案について調べておく。 （復習：0.5時間） 模擬授業の実施に向けて準備しておく。
9	渡邉他、	【授業内容】 テーマ：パラスポーツ体験① ボッチャをはじめとしたパラスポーツの体験を行う。	【授業方法】 実技（ボッチャを行う。）	（予習：0.5時間） ボッチャを事前に調べる。 （復習：0.5時間） パラスポーツと体つくり運動の関係を整理する。

10	渡邉他、	【授業内容】 テーマ： パラスポーツ体験① シッティングバレーをはじめとする運動を用いた体ほぐしの運動を理解する。	【授業方法】 実技（シッティングバレーを実施する。）	（予習：0.5時間） パラリンピックスポーツを事前に調べる。 （復習：0.5時間） 授業で実施した障害者スポーツのルールや実施方法を振り返り整理する。
11	渡邉他、	【授業内容】 テーマ：特別支援における体つくり運動とは？ 特別支援における体つくり運動の位置づけを学ぶ。	講義	（予習：0.5時間） 特別支援教育について調べておく。 （復習：0.5時間） 特別支援教育で必要な指導について整理し、理解を深める。
12	荻原他、	【授業内容】 テーマ：体育授業の導入と展開 体育授業の導入や展開の方法と指導についてについて学ぶ（ウォーミングアップとクーリングダウンも含む）。	【授業方法】 体育授業の導入方法についての説明をもとに、実践する。ねらいに沿った運動の選択と展開についての説明をもとに、実際に運動の展開を提案する。	（予習：0.5時間） 学習指導案の導入部分について調べておく。 （復習：0.5時間） 体育授業の導入の方法と指導について整理し、理解を深める。
13	青木他	【授業内容】 テーマ：模擬授業① 体つくり運動の模擬授業を行い、振り返りから授業の実施方法について学ぶ。	【授業方法】 学生の中から模擬授業者を決め、実際の授業を行う。模擬授業への参加だけではなく振り返りも実施する。	（予習：1時間） 模擬授業実施者の選出と事前準備を行う。 （復習：0.5時間） 模擬授業の振り返りから自身が教員になった時に必要な課題を整理する。
14	青木他、	【授業内容】 テーマ：模擬授業① 体つくり運動の模擬授業を行い、振り返りから授業の実施方法について学ぶ。	【授業方法】 学生の中から模擬授業者を決め、実際の授業を行う。模擬授業への参加だけではなく振り返りも実施する。	（予習：1時間） 模擬授業実施者の選出と事前準備を行う。 （復習：0.5時間） 模擬授業の振り返りから自身が教員になった時に必要な課題を整理する。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の選択必修科目、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ□科学分野の専門的な知識と技能」及び「スポーツ□科学分野の専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 実技ができる件】服装、シューズを 着用すること。ただし 、危険防止のためスパイクシューズのみ 使用は禁止とする。 また、基本的に見学は実習科目であるため 原則認めない。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 ・4種目(短距離、ハードル□、長距離、跳躍、投擲)において、

成績評価の方法

評価方法	課題レポート□4回(40%)、実技試験(50%)、平常点(10%)を総合して評価する。
評価基準	1.各種目に関して基本的な運動技術の習得ができか□　実習効果測定値にて評価する 2. 学習意欲を評価する 3. 各種目の基本的理解ができているか □評価する

試験・課題に対するフィードバック方法

課題レポートはす、予習課題の場合は当該授業内で解説を行う。復習課題の場合は、翌週の授業で解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

必要な資料は、授業中に適宜配布します。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：山崎（短距離走，ハードル走，リレー） E-mail：kayamaza@juntendo.ac.jp 担当：鯉川（中長距離走） E-mail：nkoikawa@juntendo.ac.jp 担当：杉林（跳躍） E-mail：taka.sugibayashi@juntendo.ac.jp 担当：仲村（中長距離走） E-mail：aknaka@juntendo.ac.jp 担当：高梨（投擲） E-mail：ytakana@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 火曜日　9時～11時 山崎：1号館5階1522室 杉林：1号館5階1525室 鯉川：1号館5階1521室 仲村：1号館5階1524室 高梨：1号館5階1523室
担当教員の実務経験	陸上競技においてオリンピック出場経験、実業団活動経験のある教員、日本スポーツ協会公認コーチ資格、JOCナショナルコーチアカデミー修了を持つ教員、日本代表監督およびコーチ経験のある教員が、陸上競技の現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 中学校並び高等学校教諭1種免許状(保健体育)の必修科目 日本スポーツ協会公認コーチ共通科目必修科目 アスレティックトレーナー必修科目 健康運動指導士必修科目 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	山崎一彦、鯉川なつえ、杉林孝法、仲村明、高梨雄太	オリエンテーション 受講の諸 注意、単位取得の方法、年間 を通じた授業の流れ、予習復習 の仕方 について理解する。	各担当教員から、各種目についての主な特徴、授業での習得目的と目標、授業内容および単位取得の観点、安全上の留意点等について話し、理解してもらうようにする。	【予習：0.5時間】 シラバスを熟読し、授業内容全体の理解をしておく。 【復習：0.5時間】 自身の専門種目または興味のある種目についての指導ができるようにするため、教材研究をしておく。
2	山崎一彦、高梨雄太	短距離：短距離走の基本的技術理論を理解する。最高疾走速度を発生させるための理論と実践を行う。 投擲：砲丸投の基本(ルール、安全管理の方法など)について学習し理解をする。	短距離：ピッチ・ストライド長を生むためのメカニズムを学び、まずはストライド長を伸ばす方法について学ぶ。 投擲：実際に砲丸やメディシンボールを使 って、砲丸投の動き作りをする。	【予習：0.5時間】 ・100m走を速く走るためのメカニズムをテキストで学んでおく。 ・砲丸投フォームの変遷とルールについて配布資料を確認する 【復習：0.5時間】 ・重心位置、前傾、ストライド長、足、膝、股関節角度などの走速度に関わる部位について覚える。 ・投擲の動作イメージの練習を行う
3	山崎一彦、高梨雄太	短距離：最高疾走速度を発生させるための技術を円滑に行えるようにする。スタート方法について学ぶ。リレーのバトンパス方法について学ぶ。 投擲　砲丸投(重さに慣れる・突き出し)の基本的動作を習得する。	短距離：様々なクラウチングスタートの方法を実践し、自身にあった技術を選択する。様々なリレーにおけるバトンパス技術を実践する。 投擲：男子5.45kg、女子2.721kgの重さの砲丸を多く投げることで慣れる。突き出しの基本的動作を繰り返し行い習得する。	【予習：0.5時間】 ・３種類のクラウチング・スタートについけ覚える。 ・砲丸投の基本的動作について、配布資料、動画検索などを活用し基本的な動きをチェックする 【復習：0.5時間】 ・角運動保存の法則、作用反作用のようごもりかいしておく。 ・動きのイメージを確認する
4	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：ハードル走の基本動作を学ぶ。抜き脚、振り上げ脚動作を理解する。 投擲：砲丸投(グライド) グライド動作の導入と基本の習得	ハードル：恐怖感を取り除くトレーニング方法を学び、ハードルの特徴的動作である抜き脚動作を実践する。 投擲：グライド動作を習得するために、まずは砲丸を持たずに動作練習を行う。その後、実際に砲丸を投げる。	【予習：0.5時間】 ・ハードル走について、配布資料を熟読して用語投を理解しておく。 ・グライド動作の習得と突出し動作の確認 【復習：0.5時間】 ・用語が理解でき、身体表現ができているかをチェックする. ・実際にグライド動作を用いて砲丸を投げ、グライド動作から突 出しのイメージをつくる。

5	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：ハードル間インターバルをリズムよく走れるようにする。 投擲　砲丸投(グライドの完成) グライド動作の習熟	ハードル：ミニハードルを用いて、インターバルを走破するための必要 ストライド長の確保、インターバルのリズムおよびインターバルからのジャンプ動作を習得する。 投擲：砲丸を繰り返しグライド動作を用いて投げることでグライド動作の習熟を図る。	【予習：0.5時間】 ・配布資料のハードル走のトレーニング方法を理解しておくこと。 ・グライド動作動作のイメージをおこなう 【復習：0.5時間】 ・ハードル走の局面（スプリント走～踏切～空中動作～着地～スプリント走）の流れの中で分習した指導方法についてまとめる。 ・グライド動作から突出しまでの流れをチェックする
6	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：前半：第1ハードルから 第5ハードルまでを完成させる。 投擲　砲丸投の測定方法	ハードル：スタートからのハードルへのアプローチを行う。 スタートからハードルを連続して跳ぶ。 投擲　競技会形式で測定をするための方法を学習する。実際に競技会形式で測定を行う。	【予習：0.5時間】 ・ハードル走を速く走るためのメカニズムについて、それぞれのハードル種目の相違点について配布資料を参考にまとめてくる。 ・投擲動作の全体的な流れを確認する 【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、改善点とその指導方法についてまとめる。 ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作 を確認する
7	山崎一彦、高梨雄太	短距離/ハードル：短距離・ハードル 走の実習効果の測定 投擲　砲丸投(サークルからの投擲)、ルールの理解と実践、審判方法、記録の測定	短距離：ハードル：前半：短距離走、ハードル走を実践的に行い、測定する。ハードル走は測定後、さらに記録を伸ばすための指導を受け、再度挑戦する 。 投擲：実際に記録を測定し、測定方法について理解する。	【予習：0.5時間】 ・体調を整えて授業に臨む. ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作を確認する 【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、かいぜんてんどお ・ルール、審判方法、記録の測定方法について確認する
8	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走高跳の技術変遷と背面跳の特徴を理解し、基本動作を身につける。 中長距離　長距離に必要な因子(能力) とランニングフォームについて理解を深める。	実技 跳躍　走高跳における背面跳の踏切とバークリアランスの基本動作、およびマットへの安全な着地の練習法を実践する。 中長距離　長距離走者に必要な因子を理解する。ランニングのポイントを学習した後、ポイントを意識したジョギングを行い意識性の重要性を実践する。	【予習：0.5時間】 ・走高跳の跳躍技術の変遷について調べる。 ・長距離走者に必要な条件を調べる。 【復習：0.5時間】 ・走高跳のトップ選手のビデオを観てポイントを整理する。 ・ジョギングの有効性を意識し、体調に合わせたジョギングを行う。
9	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　背面跳の助走、踏切、バークリアランス、マット着地の一連の動作を繋げてできるようにする。 中長距離　効率の良いランニングフォーム習得のためのランニングドリルについて学習する。	実技 跳躍　背面跳の特徴である曲線助走とその際の内傾動作、および背中側でバークリアするための練習法を実践する。 中長距離　ランニングドリルの模範を見せ、ポイントを解説する。正確に行われているか確認する。	【予習：0.5時間】 ・背面跳の安全な実施方法を確認する。 ・授業で配布した資料から目的や方法を確認する。 【復習：0.5時間】 ・自身の助走歩数と距離を確認する。 ・ランニングドリルのポイントをまとめる。

10	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走高跳の競技ルールを学び、試合戦術と実践力を身につける。 中長距離　12分間走の目的と意義について理解を深める。	実技 跳躍　基本的な競技ルールに則り試合形式で走高跳を行うなかで、自己の最大の高さを目指して跳躍する。 中長距離　12分間走を行い、最大酸素摂取量に照らし合わせ、持久的能力の確認と12間走について解説する。	【予習：0.5時間】 ・競技ルールについてルールブックを参考に調べる。 ・12分間走について調べる。 【復習：0.5時間】 ・自身のパフォーマンスを評価する。 ・12分間走と最大酸素摂取量について考察する。
11	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走幅跳の各跳躍技術と特徴を理解し、かがみ跳の基本動作を身につける。 中長距離　インターバルトレーニングの目的や効果、方法について学習する。	実技 跳躍　短助走跳躍によってかがみ跳びの踏切、空中、着地のポイントを理解し、その練習法を実践する。 中長距離　インターバルトレーニングについて質疑応答を行い、このトレーニングのポイントを解説する。レベルに応じたグループを編成し、実際にインターバルトレーニングを行う。	【予習：0.5時間】 ・走幅跳の跳躍技術の種類について調べる。 ・インターバルトレーニングについて課題レポートを作成する。 【復習：0.5時間】 ・走幅跳のトップ選手のビデオを観てポイントを整理する。 ・授業で行ったインターバルトレーニングと心拍数の変動について考察する。
12	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　助走、踏切、空中、着地までの一連の動作を繋げてできるようにする。 中長距離　ウォーキングおよびL・S・D（Long Slow Distance）の目的と効果を学習する。	実技 跳躍　助走歩数と距離を設定し、走り方（流れ）を学ぶ。また、反り跳びの練習法を実践する。 中長距離　ウォーキングおよびL・S・D（Long Slow Distance）の目的と効果について解説する。また、異なるサーフェスでのランニングを行う。	【予習：0.5時間】 ・走幅跳の安全な実施方法を確認する。 ・ウォーキングの効果を調べる。 【復習：0.5時間】 ・自身の助走歩数と距離を確認する。 ・LSDの効果と注意する点に関してレポートを作成する。
13	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走幅跳の競技ルールを学び、試合戦術と実践力を身につける。 中長距離　中長距離走の総括および実習評価の測定を行う。	実技 跳躍　基本的な競技ルールに則り試合形式で走幅跳を行うなかで、自己の最高の記録を目指して跳躍する。また、記録の計測方法を学ぶ。 中長距離　中長距離の単元を振り返りミニテストで理解度を確認する。実技テストでは、中距離走か長距離走を選択させ実施する。	【予習：0.5時間】 ・競技ルールについてルールブックを参考に調べる。 ・実習効果測定に対する準備を行う。 【復習：0.5時間】 ・自身のパフォーマンスを評価する。 ・中長距離走の総括レポートを作成する。
14	山崎一彦、杉林孝法、仲村明、高梨雄太	本授業で行なった種目についての測定を行う。	実技 ４グループに分類し、授業内で行なった測定よりもさらに記録を伸ばす。	【予習：0.5時間】 体調を整え，計測に備えた実技種目について練習をしておく。 【復習：0.5時間】 　それぞれ実施した競技種目についての復習をしておく。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の選択必修科目、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ□科学分野の専門的な知識と技能」及び「スポーツ□科学分野の専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 実技ができるよう 服装、シューズを 着用すること。ただし、危険防止のためスパイクシューズの使用は禁止とする。 また、基本的に見学は実習科目であるため 原則認めない。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 ・4種目(短距離、

成績評価の方法

評価方法	課題レポート内4回(40%)、実技試験(50%)、平常点(10%)を総合して評価する。
評価基準	1.各種目に関して基本的な運動技術の習得ができ方□実習効果測定値にて評価する 2. 学習意欲を評価する 3. 各種目の基本的理解ができているか □評価する

試験・課題に対するフィードバック方法

課題レポートは、予習課題の場合は当該授業内で解説を行う。復習課題の場合は、翌週の授業で解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

必要な資料は、授業中に適宜配布します。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：山崎（短距離走，ハードル走，リレー） E-mail：kayamaza@juntendo.ac.jp 担当：鯉川（中長距離走） E-mail：nkoikawa@juntendo.ac.jp 担当：杉林（跳躍） E-mail：taka.sugibayashi@juntendo.ac.jp 担当：仲村（中長距離走） E-mail：aknaka@juntendo.ac.jp 担当：高梨（投擲） E-mail：ytakana@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 火曜日　9時～11時 山崎：1号館5階1522室 杉林：1号館5階1525室 鯉川：1号館5階1521室 仲村：1号館5階1524室 高梨：1号館5階1523室
担当教員の実務経験	陸上競技においてオリンピック出場経験、実業団活動経験のある教員、日本スポーツ協会公認コーチ資格、JOCナショナルコーチアカデミー修了を持つ教員、日本代表監督およびコーチ経験のある教員が、陸上競技の現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 中学校並び 高等学校教諭1種免許状(保健体育)の必修科目 日本スポーツ協会公認コーチ共通科目必修科目 アスレティックトレーナー必修科目 健康運動指導士必修科目 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	山崎一彦、鯉川なつえ、杉林孝法、仲村明、高梨雄太	オリエンテーション 受講の諸 注意、単位取得の方法、年間 を通じた授業の流れ、予習復習 の仕方 について理解する。	各担当教員から、各種目についての主な特徴、授業での習得目的と目標、授業内容および単位取得の観点、安全上の留意点等について話し、理解してもらうようにする。	【予習：0.5時間】 シラバスを熟読し、授業内容全体の理解をしておく。 【復習：0.5時間】 自身の専門種目または興味のある種目についての指導ができるようにするため、教材研究をしておく。
2	山崎一彦、高梨雄太	短距離：短距離走の基本的技術理論を理解する。最高疾走速度を発生させるための理論と実践を行う。 投擲：砲丸投の基本(ルール、安全管理の方法など)について学習し理解をする。	短距離：ピッチ・ストライド長を生むためのメカニズムを学び、まずはストライド長を伸ばす方法について学ぶ。 投擲：実際に砲丸やメディシンボールを使 って、砲丸投の動き作りをする。	【予習：0.5時間】 ・100m走を速く走るためのメカニズムをテキストで学んでおく。 ・砲丸投フォームの変遷とルールについて配布資料を確認する 【復習：0.5時間】 ・重心位置、前傾、ストライド長、足、膝、股関節角度などの走速度に関わる部位について覚える。 ・投擲の動作イメージの練習を行う
3	山崎一彦、高梨雄太	短距離：最高疾走速度を発生させるための技術を円滑に行えるようにする。スタート方法について学ぶ。 リレーのバトンパス方法について学ぶ。 投擲　砲丸投(重さに慣れる・突き出し)の基本的動作を習得する。	短距離：様々なクラウチングスタートの方法を実践し、自身にあった技術を選択する。様々なリレーにおけるバトンパス技術を実践する。 投擲：男子5.45kg、女子2.721kgの重さの砲丸を多く投げることで慣れる。突き出しの基本的動作を繰り返し行い習得する。	【予習：0.5時間】 ・３種類のクラウチング・スタートについけ覚える。 ・砲丸投の基本的動作について、配布資料、動画検索などを活用し基本的な動きをチェックする 【復習：0.5時間】 ・角運動保存の法則、作用反作用のようごもりかいしておく。 ・動きのイメージを確認する
4	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：ハードル走の基本動作を学ぶ。 抜き脚、振り上げ脚動作を理解する。 投擲：砲丸投(グライド) グライド動作の導入と基本の習得	ハードル：恐怖感を取り除くトレーニング方法を学び、ハードルの特徴的動作である抜き脚動作を実践する。 投擲：グライド動作を習得するために、まずは砲丸を持たずに動作練習を行う。その後、実際に砲丸を投げる。	【予習：0.5時間】 ・ハードル走について、配布資料を熟読して用語投を理解しておく。 ・グライド動作の習得と突出し動作の確認 【復習：0.5時間】 ・用語が理解でき、身体表現ができているかをチェックする. ・実際にグライド動作を用いて砲丸を投げ、グライド動作から突 出しのイメージをつくる。

5	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：ハードル間インターバルをリズムよく走れるようにする。 投擲　砲丸投(グライドの完成) グライド動作の習熟	ハードル：ミニハードルを用いて、インターバルを走破するための必要 ストライド長の確保、インターバルのリズムおよびインターバルからのジャンプ動作を習得する。 投擲：砲丸を繰り返しグライド動作を用いて投げることでグライド動作の習熟を図る。	【予習：0.5時間】 ・配布資料のハードル走のトレーニング方法を理解しておくこと。 ・グライド動作動作のイメージをおこなう 【復習：0.5時間】 ・ハードル走の局面（スプリント走～踏切～空中動作～着地～スプリント走）の流れの中で分習した指導方法についてまとめる。 ・グライド動作から突出しまでの流れをチェックする
6	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：前半：第1ハードルから第5ハードルまでを完成させる。 投擲　砲丸投の測定方法	ハードル：スタートからのハードルへのアプローチを行う。 スタートからハードルを連続して跳ぶ。 投擲　競技会形式で測定をするための方法を学習する。実際に競技会形式で測定を行う。	【予習：0.5時間】 ・ハードル走を速く走るためのメカニズムについて、それぞれのハードル種目の相違点について配布資料を参考にまとめてくる。 ・投擲動作の全体的な流れを確認する 【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、改善点とその指導方法についてまとめる。 ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作 を確認する
7	山崎一彦、高梨雄太	短距離/ハードル：短距離・ハードル 走の実習効果の測定 投擲　砲丸投(サークルからの投擲)、ルールの理解と実践、審判方法、記録の測定	短距離：ハードル：前半：短距離走、ハードル走を実践的に行い、測定する。ハードル走は測定後、さらに記録を伸ばすための指導を受け、再度挑戦する 。 投擲：実際に記録を測定し、測定方法について理解する。	【予習：0.5時間】 ・体調を整えて授業に臨む. ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作を確認する 【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、かいぜんてんどお ・ルール、審判方法、記録の測定方法について確認する
8	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走高跳の技術変遷と背面跳の特徴を理解し、基本動作を身につける。 中長距離　長距離に必要な因子(能力) とランニングフォームについて理解を深める。	実技 跳躍　走高跳における背面跳の踏切とバークリアランスの基本動作、およびマットへの安全な着地の練習法を実践する。 中長距離　長距離走者に必要な因子を理解する。ランニングのポイントを学習した後、ポイントを意識したジョギングを行い意識性の重要性を実践する。	【予習：0.5時間】 ・走高跳の跳躍技術の変遷について調べる。 ・長距離走者に必要な条件を調べる。 【復習：0.5時間】 ・走高跳のトップ選手のビデオを観てポイントを整理する。 ・ジョギングの有効性を意識し、体調に合わせたジョギングを行う。
9	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　背面跳の助走、踏切、バークリアランス、マット着地の一連の動作を繋げてできるようにする。 中長距離　効率の良いランニングフォーム習得のためのランニングドリルについて学習する。	実技 跳躍　背面跳の特徴である曲線助走とその際の内傾動作、および背中側でバークリアするための練習法を実践する。 中長距離　ランニングドリルの模範を見せ、ポイントを解説する。正確に行われているか確認する。	【予習：0.5時間】 ・背面跳の安全な実施方法を確認する。 ・授業で配布した資料から目的や方法を確認する。 【復習：0.5時間】 ・自身の助走歩数と距離を確認する。 ・ランニングドリルのポイントをまとめる。

10	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走高跳の競技ルールを学び、試合戦術と実践力を身につける。 中長距離　12分間走の目的と意義について理解を深める。	実技 跳躍　基本的な競技ルールに則り試合形式で走高跳を行うなかで、自己の最大の高さを目指して跳躍する。 中長距離　12分間走を行い、最大酸素摂取量に照らし合わせ、持久的能力の確認と12間走について解説する。	【予習：0.5時間】 ・競技ルールについてルールブックを参考に調べる。 ・12分間走について調べる。 【復習：0.5時間】 ・自身のパフォーマンスを評価する。 ・12分間走と最大酸素摂取量について考察する。
11	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走幅跳の各跳躍技術と特徴を理解し、かがみ跳の基本動作を身につける。 中長距離　インターバルトレーニングの目的や効果、方法について学習する。	実技 跳躍　短助走跳躍によってかがみ跳びの踏切、空中、着地のポイントを理解し、その練習法を実践する。 中長距離　インターバルトレーニングについて質疑応答を行い、このトレーニングのポイントを解説する。レベルに応じたグループを編成し、実際にインターバルトレーニングを行う。	【予習：0.5時間】 ・走幅跳の跳躍技術の種類について調べる。 ・インターバルトレーニングについて課題レポートを作成する。 【復習：0.5時間】 ・走幅跳のトップ選手のビデオを観てポイントを整理する。 ・授業で行ったインターバルトレーニングと心拍数の変動について考察する。
12	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　助走、踏切、空中、着地までの一連の動作を繋げてできるようにする。 中長距離　ウォーキングおよびL・S・D（Long Slow Distance）の目的と効果を学習する。	実技 跳躍　助走歩数と距離を設定し、走り方（流れ）を学ぶ。また、反り跳びの練習法を実践する。 中長距離　ウォーキングおよびL・S・D（Long Slow Distance）の目的と効果について解説する。また、異なるサーフェスでのランニングを行う。	【予習：0.5時間】 ・走幅跳の安全な実施方法を確認する。 ・ウォーキングの効果を調べる。 【復習：0.5時間】 ・自身の助走歩数と距離を確認する。 ・LSDの効果と注意する点に関してレポートを作成する。
13	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走幅跳の競技ルールを学び、試合戦術と実践力を身につける。 中長距離　中長距離走の総括および実習評価の測定を行う。	実技 跳躍　基本的な競技ルールに則り試合形式で走幅跳を行うなかで、自己の最高の記録を目指して跳躍する。また、記録の計測方法を学ぶ。 中長距離　中長距離の単元を振り返りミニテストで理解度を確認する。実技テストでは、中距離走か長距離走を選択させ実施する。	【予習：0.5時間】 ・競技ルールについてルールブックを参考に調べる。 ・実習効果測定に対する準備を行う。 【復習：0.5時間】 ・自身のパフォーマンスを評価する。 ・中長距離走の総括レポートを作成する。
14	山崎一彦、杉林孝法、仲村明、高梨雄太	本授業で行なった種目についての測定を行う。	実技 ４グループに分類し、授業内で行なった測定よりもさらに記録を伸ばす。	【予習：0.5時間】 体調を整え，計測に備えた実技種目について練習をしておく。 【復習：0.5時間】 　それぞれ実施した競技種目についての復習をしておく。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の選択必修科目、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ□科学分野の専門的な知識と技能」及び「スポーツ□科学分野の専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 実技ができるよう 服装、シューズを 着用すること。ただし、危険防止のためスパイクシューズの使用は禁止とする。 また、基本的に見学は実習科目であるため 原則認めない。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 ・4種目(短距離、

成績評価の方法

評価方法	課題レポート内4回(40%)、実技試験(50%)、平常点(10%)を総合して評価する。
評価基準	1.各種目に関して基本的な運動技術の習得ができ方□実習効果測定値にて評価する 2. 学習意欲を評価する 3. 各種目の基本的理解ができているか □評価する

試験・課題に対するフィードバック方法

課題レポートは、予習課題の場合は当該授業内で解説を行う。復習課題の場合は、翌週の授業で解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

必要な資料は、授業中に適宜配布します。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：山崎（短距離走，ハードル走，リレー） E-mail：kayamaza@juntendo.ac.jp 担当：鯉川（中長距離走） E-mail：nkoikawa@juntendo.ac.jp 担当：杉林（跳躍） E-mail：taka.sugibayashi@juntendo.ac.jp 担当：仲村（中長距離走） E-mail：aknaka@juntendo.ac.jp 担当：高梨（投擲） E-mail：ytakana@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 火曜日　9時～11時 山崎：1号館5階1522室 杉林：1号館5階1525室 鯉川：1号館5階1521室 仲村：1号館5階1524室 高梨：1号館5階1523室
担当教員の実務経験	陸上競技においてオリンピック出場経験、実業団活動経験のある教員、日本スポーツ協会公認コーチ資格、JOCナショナルコーチアカデミー修了を持つ教員、日本代表監督およびコーチ経験のある教員が、陸上競技の現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 中学校並び 高等学校教諭1種免許状(保健体育)の必修科目 日本スポーツ協会公認コーチ共通科目必修科目 アスレティックトレーナー必修科目 健康運動指導士必修科目 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	山崎一彦、鯉川なつえ、杉林孝法、仲村明、高梨雄太	オリエンテーション 受講の諸 注意、単位取得の方法、年間 を通じた授業の流れ、予習復習 の仕方 について理解する。	各担当教員から、各種目についての主な特徴、授業での習得目的と目標、授業内容および単位取得の観点、安全上の留意点等について話し、理解してもらうようにする。	【予習：0.5時間】 シラバスを熟読し、授業内容全体の理解をしておく。 【復習：0.5時間】 自身の専門種目または興味のある種目についての指導ができるようにするため、教材研究をしておく。
2	山崎一彦、高梨雄太	短距離：短距離走の基本的技術理論を理解する。最高疾走速度を発生させるための理論と実践を行う。 投擲：砲丸投の基本(ルール、安全管理の方法など)について学習し理解をする。	短距離：ピッチ・ストライド長を生むためのメカニズムを学び、まずはストライド長を伸ばす方法について学ぶ。 投擲：実際に砲丸やメディシンボールを使 って、砲丸投の動き作りをする。	【予習：0.5時間】 ・100m走を速く走るためのメカニズムをテキストで学んでおく。 ・砲丸投フォームの変遷とルールについて配布資料を確認する 【復習：0.5時間】 ・重心位置、前傾、ストライド長、足、膝、股関節角度などの走速度に関わる部位について覚える。 ・投擲の動作イメージの練習を行う
3	山崎一彦、高梨雄太	短距離：最高疾走速度を発生させるための技術を円滑に行えるようにする。スタート方法について学ぶ。 リレーのバトンパス方法について学ぶ。 投擲　砲丸投(重さに慣れる・突き出し)の基本的動作を習得する。	短距離：様々なクラウチングスタートの方法を実践し、自身にあった技術を選択する。様々なリレーにおけるバトンパス技術を実践する。 投擲：男子5.45kg、女子2.721kgの重さの砲丸を多く投げることで慣れる。突き出しの基本的動作を繰り返し行い習得する。	【予習：0.5時間】 ・３種類のクラウチング・スタートについけ覚える。 ・砲丸投の基本的動作について、配布資料、動画検索などを活用し基本的な動きをチェックする 【復習：0.5時間】 ・角運動保存の法則、作用反作用のようごもりかいしておく。 ・動きのイメージを確認する
4	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：ハードル走の基本動作を学ぶ。 抜き脚、振り上げ脚動作を理解する。 投擲：砲丸投(グライド) グライド動作の導入と基本の習得	ハードル：恐怖感を取り除くトレーニング方法を学び、ハードルの特徴的動作である抜き脚動作を実践する。 投擲：グライド動作を習得するために、まずは砲丸を持たずに動作練習を行う。その後、実際に砲丸を投げる。	【予習：0.5時間】 ・ハードル走について、配布資料を熟読して用語投を理解しておく。 ・グライド動作の習得と突出し動作の確認 【復習：0.5時間】 ・用語が理解でき、身体表現ができているかをチェックする. ・実際にグライド動作を用いて砲丸を投げ、グライド動作から突 出しのイメージをつくる。

5	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：ハードル間インターバルをリズムよく走れるようにする。 投擲　砲丸投(グライドの完成) グライド動作の習熟	ハードル：ミニハードルを用いて、インターバルを走破するための必要 ストライド長の確保、インターバルのリズムおよびインターバルからのジャンプ動作を習得する。 投擲：砲丸を繰り返しグライド動作を用いて投げることでグライド動作の習熟を図る。	【予習：0.5時間】 ・配布資料のハードル走のトレーニング方法を理解しておくこと。 ・グライド動作動作のイメージをおこなう 【復習：0.5時間】 ・ハードル走の局面（スプリント走～踏切～空中動作～着地～スプリント走）の流れの中で分習した指導方法についてまとめる。 ・グライド動作から突出しまでの流れをチェックする
6	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：前半：第1ハードルから第5ハードルまでを完成させる。 投擲　砲丸投の測定方法	ハードル：スタートからのハードルへのアプローチを行う。 スタートからハードルを連続して跳ぶ。 投擲　競技会形式で測定をするための方法を学習する。実際に競技会形式で測定を行う。	【予習：0.5時間】 ・ハードル走を速く走るためのメカニズムについて、それぞれのハードル種目の相違点について配布資料を参考にまとめてくる。 ・投擲動作の全体的な流れを確認する 【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、改善点とその指導方法についてまとめる。 ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作 を確認する
7	山崎一彦、高梨雄太	短距離/ハードル：短距離・ハードル 走の実習効果の測定 投擲　砲丸投(サークルからの投擲)、ルールの理解と実践、審判方法、記録の測定	短距離：ハードル：前半：短距離走、ハードル走を実践的に行い、測定する。ハードル走は測定後、さらに記録を伸ばすための指導を受け、再度挑戦する 。 投擲：実際に記録を測定し、測定方法について理解する。	【予習：0.5時間】 ・体調を整えて授業に臨む. ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作を確認する 【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、かいぜんてんどお ・ルール、審判方法、記録の測定方法について確認する
8	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走高跳の技術変遷と背面跳の特徴を理解し、基本動作を身につける。 中長距離　長距離に必要な因子(能力) とランニングフォームについて理解を深める。	実技 跳躍　走高跳における背面跳の踏切とバークリアランスの基本動作、およびマットへの安全な着地の練習法を実践する。 中長距離　長距離走者に必要な因子を理解する。ランニングのポイントを学習した後、ポイントを意識したジョギングを行い意識性の重要性を実践する。	【予習：0.5時間】 ・走高跳の跳躍技術の変遷について調べる。 ・長距離走者に必要な条件を調べる。 【復習：0.5時間】 ・走高跳のトップ選手のビデオを観てポイントを整理する。 ・ジョギングの有効性を意識し、体調に合わせたジョギングを行う。
9	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　背面跳の助走、踏切、バークリアランス、マット着地の一連の動作を繋げてできるようにする。 中長距離　効率の良いランニングフォーム習得のためのランニングドリルについて学習する。	実技 跳躍　背面跳の特徴である曲線助走とその際の内傾動作、および背中側でバークリアするための練習法を実践する。 中長距離　ランニングドリルの模範を見せ、ポイントを解説する。正確に行われているか確認する。	【予習：0.5時間】 ・背面跳の安全な実施方法を確認する。 ・授業で配布した資料から目的や方法を確認する。 【復習：0.5時間】 ・自身の助走歩数と距離を確認する。 ・ランニングドリルのポイントをまとめる。

10	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走高跳の競技ルールを学び、試合戦術と実践力を身につける。 中長距離　12分間走の目的と意義について理解を深める。	実技 跳躍　基本的な競技ルールに則り試合形式で走高跳を行うなかで、自己の最大の高さを目指して跳躍する。 中長距離　12分間走を行い、最大酸素摂取量に照らし合わせ、持久的能力の確認と12間走について解説する。	【予習：0.5時間】 ・競技ルールについてルールブックを参考に調べる。 ・12分間走について調べる。 【復習：0.5時間】 ・自身のパフォーマンスを評価する。 ・12分間走と最大酸素摂取量について考察する。
11	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走幅跳の各跳躍技術と特徴を理解し、かがみ跳の基本動作を身につける。 中長距離　インターバルトレーニングの目的や効果、方法について学習する。	実技 跳躍　短助走跳躍によってかがみ跳びの踏切、空中、着地のポイントを理解し、その練習法を実践する。 中長距離　インターバルトレーニングについて質疑応答を行い、このトレーニングのポイントを解説する。レベルに応じたグループを編成し、実際にインターバルトレーニングを行う。	【予習：0.5時間】 ・走幅跳の跳躍技術の種類について調べる。 ・インターバルトレーニングについて課題レポートを作成する。 【復習：0.5時間】 ・走幅跳のトップ選手のビデオを観てポイントを整理する。 ・授業で行ったインターバルトレーニングと心拍数の変動について考察する。
12	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　助走、踏切、空中、着地までの一連の動作を繋げてできるようにする。 中長距離　ウォーキングおよびL・S・D（Long Slow Distance）の目的と効果を学習する。	実技 跳躍　助走歩数と距離を設定し、走り方（流れ）を学ぶ。また、反り跳びの練習法を実践する。 中長距離　ウォーキングおよびL・S・D（Long Slow Distance）の目的と効果について解説する。また、異なるサーフェスでのランニングを行う。	【予習：0.5時間】 ・走幅跳の安全な実施方法を確認する。 ・ウォーキングの効果を調べる。 【復習：0.5時間】 ・自身の助走歩数と距離を確認する。 ・LSDの効果と注意する点に関してレポートを作成する。
13	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走幅跳の競技ルールを学び、試合戦術と実践力を身につける。 中長距離　中長距離走の総括および実習評価の測定を行う。	実技 跳躍　基本的な競技ルールに則り試合形式で走幅跳を行うなかで、自己の最高の記録を目指して跳躍する。また、記録の計測方法を学ぶ。 中長距離　中長距離の単元を振り返りミニテストで理解度を確認する。実技テストでは、中距離走か長距離走を選択させ実施する。	【予習：0.5時間】 ・競技ルールについてルールブックを参考に調べる。 ・実習効果測定に対する準備を行う。 【復習：0.5時間】 ・自身のパフォーマンスを評価する。 ・中長距離走の総括レポートを作成する。
14	山崎一彦、杉林孝法、仲村明、高梨雄太	本授業で行なった種目についての測定を行う。	実技 ４グループに分類し、授業内で行なった測定よりもさらに記録を伸ばす。	【予習：0.5時間】 体調を整え，計測に備えた実技種目について練習をしておく。 【復習：0.5時間】 　それぞれ実施した競技種目についての復習をしておく。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の選択必修科目、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ□科学分野の専門的な知識と技能」及び「スポーツ□科学分野の専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 実技ができるよう 服装、シューズを 着用すること。ただし、危険防止のためスパイクシューズの使用は禁止とする。 また、基本的に見学は実習科目であるため 原則認めない。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 ・4種目(短距離、

成績評価の方法

評価方法	課題レポート内4回(40%)、実技試験(50%)、平常点(10%)を総合して評価する。
評価基準	1.各種目に関して基本的な運動技術の習得ができ方□実習効果測定値にて評価する 2. 学習意欲を評価する 3. 各種目の基本的理解ができているか □評価する

試験・課題に対するフィードバック方法

課題レポートは、予習課題の場合は当該授業内で解説を行う。復習課題の場合は、翌週の授業で解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

必要な資料は、授業中に適宜配布します。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：山崎（短距離走，ハードル走，リレー） E-mail：kayamaza@juntendo.ac.jp 担当：鯉川（中長距離走） E-mail：nkoikawa@juntendo.ac.jp 担当：杉林（跳躍） E-mail：taka.sugibayashi@juntendo.ac.jp 担当：仲村（中長距離走） E-mail：aknaka@juntendo.ac.jp 担当：高梨（投擲） E-mail：ytakana@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 火曜日　9時～11時 山崎：1号館5階1522室 杉林：1号館5階1525室 鯉川：1号館5階1521室 仲村：1号館5階1524室 高梨：1号館5階1523室
担当教員の実務経験	陸上競技においてオリンピック出場経験、実業団活動経験のある教員、日本スポーツ協会公認コーチ資格、JOCナショナルコーチアカデミー修了を持つ教員、日本代表監督およびコーチ経験のある教員が、陸上競技の現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 中学校並び 高等学校教諭1種免許状(保健体育)の必修科目 日本スポーツ協会公認コーチ共通科目必修科目 アスレティックトレーナー必修科目 健康運動指導士必修科目 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	山崎一彦、鯉川なつえ、杉林孝法、仲村明、高梨雄太	オリエンテーション 受講の諸 注意、単位取得の方法、年間 を通じた授業の流れ、予習復習 の仕方 について理解する。	各担当教員から、各種目についての主な特徴、授業での習得目的と目標、授業内容および単位取得の観点、安全上の留意点等について話し、理解してもらうようにする。	【予習：0.5時間】 シラバスを熟読し、授業内容全体の理解をしておく。 【復習：0.5時間】 自身の専門種目または興味のある種目についての指導ができるようにするため、教材研究をしておく。
2	山崎一彦、高梨雄太	短距離：短距離走の基本的技術理論を理解する。最高疾走速度を発生させるための理論と実践を行う。 投擲：砲丸投の基本(ルール、安全管理の方法など)について学習し理解をする。	短距離：ピッチ・ストライド長を生むためのメカニズムを学び、まずはストライド長を伸ばす方法について学ぶ。 投擲：実際に砲丸やメディシンボールを使 って、砲丸投の動き作りをする。	【予習：0.5時間】 ・100m走を速く走るためのメカニズムをテキストで学んでおく。 ・砲丸投フォームの変遷とルールについて配布資料を確認する 【復習：0.5時間】 ・重心位置、前傾、ストライド長、足、膝、股関節角度などの走速度に関わる部位について覚える。 ・投擲の動作イメージの練習を行う
3	山崎一彦、高梨雄太	短距離：最高疾走速度を発生させるための技術を円滑に行えるようにする。スタート方法について学ぶ。 リレーのバトンパス方法について学ぶ。 投擲　砲丸投(重さに慣れる・突き出し)の基本的動作を習得する。	短距離：様々なクラウチングスタートの方法を実践し、自身にあった技術を選択する。様々なリレーにおけるバトンパス技術を実践する。 投擲：男子5.45kg、女子2.721kgの重さの砲丸を多く投げることで慣れる。突き出しの基本的動作を繰り返し行い習得する。	【予習：0.5時間】 ・３種類のクラウチング・スタートについけ覚える。 ・砲丸投の基本的動作について、配布資料、動画検索などを活用し基本的な動きをチェックする 【復習：0.5時間】 ・角運動保存の法則、作用反作用のようごもりかいしておく。 ・動きのイメージを確認する
4	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：ハードル走の基本動作を学ぶ。 抜き脚、振り上げ脚動作を理解する。 投擲：砲丸投(グライド) グライド動作の導入と基本の習得	ハードル：恐怖感を取り除くトレーニング方法を学び、ハードルの特徴的動作である抜き脚動作を実践する。 投擲：グライド動作を習得するために、まずは砲丸を持たずに動作練習を行う。その後、実際に砲丸を投げる。	【予習：0.5時間】 ・ハードル走について、配布資料を熟読して用語投を理解しておく。 ・グライド動作の習得と突出し動作の確認 【復習：0.5時間】 ・用語が理解でき、身体表現ができているかをチェックする. ・実際にグライド動作を用いて砲丸を投げ、グライド動作から突 出しのイメージをつくる。

5	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：ハードル間インターバルをリズムよく走れるようにする。 投擲　砲丸投(グライドの完成) グライド動作の習熟	ハードル：ミニハードルを用いて、インターバルを走破するための必要 ストライド長の確保、インターバルのリズムおよびインターバルからのジャンプ動作を習得する。 投擲：砲丸を繰り返しグライド動作を用いて投げることでグライド動作の習熟を図る。	【予習：0.5時間】 ・配布資料のハードル走のトレーニング方法を理解しておくこと。 ・グライド動作動作のイメージをおこなう 【復習：0.5時間】 ・ハードル走の局面（スプリント走～踏切～空中動作～着地～スプリント走）の流れの中で分習した指導方法についてまとめる。 ・グライド動作から突出しまでの流れをチェックする
6	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：前半：第1ハードルから第5ハードルまでを完成させる。 投擲　砲丸投の測定方法	ハードル：スタートからのハードルへのアプローチを行う。 スタートからハードルを連続して跳ぶ。 投擲　競技会形式で測定をするための方法を学習する。実際に競技会形式で測定を行う。	【予習：0.5時間】 ・ハードル走を速く走るためのメカニズムについて、それぞれのハードル種目の相違点について配布資料を参考にまとめてくる。 ・投擲動作の全体的な流れを確認する 【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、改善点とその指導方法についてまとめる。 ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作 を確認する
7	山崎一彦、高梨雄太	短距離/ハードル：短距離・ハードル 走の実習効果の測定 投擲　砲丸投(サークルからの投擲)、ルールの理解と実践、審判方法、記録の測定	短距離：ハードル：前半：短距離走、ハードル走を実践的に行い、測定する。ハードル走は測定後、さらに記録を伸ばすための指導を受け、再度挑戦する 。 投擲：実際に記録を測定し、測定方法について理解する。	【予習：0.5時間】 ・体調を整えて授業に臨む. ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作を確認する 【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、かいぜんてんどお ・ルール、審判方法、記録の測定方法について確認する
8	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走高跳の技術変遷と背面跳の特徴を理解し、基本動作を身につける。 中長距離　長距離に必要な因子(能力) とランニングフォームについて理解を深める。	実技 跳躍　走高跳における背面跳の踏切とバークリアランスの基本動作、およびマットへの安全な着地の練習法を実践する。 中長距離　長距離走者に必要な因子を理解する。ランニングのポイントを学習した後、ポイントを意識したジョギングを行い意識性の重要性を実践する。	【予習：0.5時間】 ・走高跳の跳躍技術の変遷について調べる。 ・長距離走者に必要な条件を調べる。 【復習：0.5時間】 ・走高跳のトップ選手のビデオを観てポイントを整理する。 ・ジョギングの有効性を意識し、体調に合わせたジョギングを行う。
9	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　背面跳の助走、踏切、バークリアランス、マット着地の一連の動作を繋げてできるようにする。 中長距離　効率の良いランニングフォーム習得のためのランニングドリルについて学習する。	実技 跳躍　背面跳の特徴である曲線助走とその際の内傾動作、および背中側でバークリアするための練習法を実践する。 中長距離　ランニングドリルの模範を見せ、ポイントを解説する。正確に行われているか確認する。	【予習：0.5時間】 ・背面跳の安全な実施方法を確認する。 ・授業で配布した資料から目的や方法を確認する。 【復習：0.5時間】 ・自身の助走歩数と距離を確認する。 ・ランニングドリルのポイントをまとめる。

10	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走高跳の競技ルールを学び、試合戦術と実践力を身につける。 中長距離　12分間走の目的と意義について理解を深める。	実技 跳躍　基本的な競技ルールに則り試合形式で走高跳を行うなかで、自己の最大の高さを目指して跳躍する。 中長距離　12分間走を行い、最大酸素摂取量に照らし合わせ、持久的能力の確認と12間走について解説する。	【予習：0.5時間】 ・競技ルールについてルールブックを参考に調べる。 ・12分間走について調べる。 【復習：0.5時間】 ・自身のパフォーマンスを評価する。 ・12分間走と最大酸素摂取量について考察する。
11	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走幅跳の各跳躍技術と特徴を理解し、かがみ跳の基本動作を身につける。 中長距離　インターバルトレーニングの目的や効果、方法について学習する。	実技 跳躍　短助走跳躍によってかがみ跳びの踏切、空中、着地のポイントを理解し、その練習法を実践する。 中長距離　インターバルトレーニングについて質疑応答を行い、このトレーニングのポイントを解説する。レベルに応じたグループを編成し、実際にインターバルトレーニングを行う。	【予習：0.5時間】 ・走幅跳の跳躍技術の種類について調べる。 ・インターバルトレーニングについて課題レポートを作成する。 【復習：0.5時間】 ・走幅跳のトップ選手のビデオを観てポイントを整理する。 ・授業で行ったインターバルトレーニングと心拍数の変動について考察する。
12	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　助走、踏切、空中、着地までの一連の動作を繋げてできるようにする。 中長距離　ウォーキングおよびL・S・D（Long Slow Distance）の目的と効果を学習する。	実技 跳躍　助走歩数と距離を設定し、走り方（流れ）を学ぶ。また、反り跳びの練習法を実践する。 中長距離　ウォーキングおよびL・S・D（Long Slow Distance）の目的と効果について解説する。また、異なるサーフェスでのランニングを行う。	【予習：0.5時間】 ・走幅跳の安全な実施方法を確認する。 ・ウォーキングの効果を調べる。 【復習：0.5時間】 ・自身の助走歩数と距離を確認する。 ・LSDの効果と注意する点に関してレポートを作成する。
13	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走幅跳の競技ルールを学び、試合戦術と実践力を身につける。 中長距離　中長距離走の総括および実習評価の測定を行う。	実技 跳躍　基本的な競技ルールに則り試合形式で走幅跳を行うなかで、自己の最高の記録を目指して跳躍する。また、記録の計測方法を学ぶ。 中長距離　中長距離の単元を振り返りミニテストで理解度を確認する。実技テストでは、中距離走か長距離走を選択させ実施する。	【予習：0.5時間】 ・競技ルールについてルールブックを参考に調べる。 ・実習効果測定に対する準備を行う。 【復習：0.5時間】 ・自身のパフォーマンスを評価する。 ・中長距離走の総括レポートを作成する。
14	山崎一彦、杉林孝法、仲村明、高梨雄太	本授業で行なった種目についての測定を行う。	実技 ４グループに分類し、授業内で行なった測定よりもさらに記録を伸ばす。	【予習：0.5時間】 体調を整え，計測に備えた実技種目について練習をしておく。 【復習：0.5時間】 　それぞれ実施した競技種目についての復習をしておく。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】水泳　［男子①］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】水泳　［男子①］	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	武田　剛	ナンバリング	COA2133
担当教員	武田　剛、古賀　大樹、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	水泳指導の際に指導内容が体現できるように基礎泳力の向上を図る。授業内容は4泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）の基礎的理論および技術の習得を目指し、4泳法を連続して泳ぐ個人メドレーの練習も行う。さらに水中運動や水中レジスタンストレーニングを体験し、指導ができるようになることを目指す。 本授業は日本スポーツ協会／日本水泳連盟公認のコーチ1（旧：水泳指導員）とコーチ3（旧：水泳コーチ）実技指導実習内容を含みます。
到達目標	100m個人メドレー（バタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、クロールを連続で泳ぐ）で男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。 泳法違反のない正しいフォームで泳ぐことできる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得、SPO/JASF（日本水泳連盟）公認水泳コーチ1,3養成講習会免除適応コース、健康運動指導士認定試験受験資格取得の必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「課題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 施設の使用人数制限のため、指定されたクラスを受講すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 準備体操の実施以降からの授業出席の場合は見学となる。 第1回目の授業からプールでの実習を行うため、履修時には水着と水泳帽を準備すること。（学内「啓友会館」のショップで購入可能） ＜授業で使用する水着や帽子について＞ 本授業で使用する水着や帽子（白：色指定）は泳法練習に適したものを着用すること。レジャー用水着での受講は技能練習に支障をきたすため、競泳用（練習用）の着用を推奨する。帽子には苗字をカタカナで大きくはっきりと記入し、授業中にこれを着用する。教員は帽子にて学生の氏名を把握するため、帽子を紛失した場合でも友人等の他人の帽子を着用しないこと。

成績評価の方法	
評価方法	100m個人メドレーの合格基準までの到達度（相対値）（70%） 平常点（30%）
評価基準	100m個人メドレーで男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。（実技試験） 泳法違反のない正しいフォームで四泳法を泳ぐことができる。（実技試験） 授業中の実技練習やグループ（ペア）練習に取り組む状況によって受講態度を評価する（平常点）。

試験・課題に対するフィードバック方法

試験結果と平常点数は試験の翌週以降に各受講者へ個別に通知を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
水泳指導教本	公益財団法人日本水泳連盟	大修館書店	4469267341	最新版が望ましい。購入の必要はないがコーチ1の資格取得を目指す学生は購入推奨
水泳コーチ教本	公益財団法人日本水泳連盟	大修館書店	4469267651	最新版が望ましい。購入の必要はないがコーチ3の資格取得を目指す学生は購入推奨

参考文献

なし

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：武田　剛 Email: tutakeda[at]juntendo.ac.jp *[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 通年授業期間中の木曜日10:20-12:00 場所：1号館5階1507室（水泳研究室） 上記の時間には予約無でも対応しますが、他の学生との時間調整のためできるだけ前日までにEmailで予約をしてください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	大学競泳選手（水泳部コーチ）へやジュニア競泳選手（臨時コーチ）コーチ経験を持つ教員が実際の指導を起こりうる注意点や指導のコツをわかりやすく解説する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業科目は、中学校教諭１種免許状（保健体育）並びに高等学校教諭１種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目に位置付けられています。また、日本スポーツ・日本水泳連盟公認資格コーチ1（水泳指導員）とコーチ3（水泳コーチ）の専門科目（講習）免除科目でもあります。 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	武田ほか	水泳授業内容の概要、成績評価方法、プール利用上の注意や水泳用具の使用方法を学び、水泳授業の授業形態、水慣れの学習を行う。	実習	【予習：0.5時間】 水泳用具の準備をする。 【復習：0.5時間】 プール使用上の注意を安全面と指導効率にわけてノートにまとめる。
2	武田ほか	蹴伸び、浮身、呼吸法の練習を行い、水中での重力、浮力、抵抗の理解を深める。	実習	【復習：１時間】 アルキメデスの定理や水中トルク発生原理をノートにまとめる。
3	武田ほか	クロールのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 クロールのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
4	武田ほか	クロールの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 クロール全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
5	武田ほか	平泳ぎのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 平泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
6	武田ほか	平泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 平泳ぎ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
7	武田ほか	背泳ぎのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 背泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
8	武田ほか	背泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 背泳ぎ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
9	武田ほか	バタフライのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 バタフライのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
10	武田ほか	バタフライの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 バタフライ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
11	武田ほか	プレテストとして100m個人メドレーのタイム計測を行い、現状での到達点を確認する	実習	【復習：１時間】 プレテストの結果から本試験にむけた自分の課題と必要な練習方法をノートにまとめる。
12	武田ほか	水中運動（前、後、横、回旋歩きとジャンピング）と水中レジスタンス運動（5種類）、スタートとターンの練習（潜行を含む）を行い、指導の見本が実施ができるようにする。	実習	【復習：１時間】 浮力と水の抵抗が運動に負荷に与える影響、各練習方法の注意点をノートにまとめる。
13	武田ほか	泳技能別／ペア練習。泳力の高い学生と苦手な学生でペアリングを行い、マンツーマン指導を実施する。苦手な学生の弱点克服を行う。	実習	【復習：１時間】 　教える側は指導したポイントのまとめと自らの指導方法に対する自己評価と反省をノートにまとめる。教わる側は指導してもらった内容と自分自身の泳技能の課題をノートにまとめる

14	武田ほか	後期本試験の100m個人メドレーのタイム測定を行う。	実習	【予習：１時間】 プレテストやペア練習でわかった課題を各自練習してくる。 【復習：１時間】 試験の結果を踏まえて授業全てのノートを見直し、加筆や修正事項の有無を確認し、ノート内容の充実を図る。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】水泳　［男子②］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】水泳　［男子②］	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	武田　剛	ナンバリング	COA2133
担当教員	武田　剛、嵯峨　基、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	水泳指導の際に指導内容が体現できるように基礎泳力の向上を図る。授業内容は4泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）の基礎的理論および技術の習得を目指し、4泳法を連続して泳ぐ個人メドレーの練習も行う。さらに水中運動や水中レジスタンストレーニングを体験し、指導ができるようになることを目指す。 本授業は日本スポーツ協会／日本水泳連盟公認のコーチ1（旧：水泳指導員）とコーチ3（旧：水泳コーチ）実技指導実習内容を含みます。
到達目標	100m個人メドレー（バタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、クロールを連続で泳ぐ）で男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。 泳法違反のない正しいフォームで泳ぐことできる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得、SPO/JASF（日本水泳連盟）公認水泳コーチ1,3養成講習会免除適応コース、健康運動指導士認定試験受験資格取得の必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「課題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 施設の使用人数制限のため、指定されたクラスを受講すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 準備体操の実施以降からの授業出席の場合は見学となる。 第1回目の授業からプールでの実習を行うため、履修時には水着と水泳帽を準備すること。（学内「啓友会館」のショップで購入可能） ＜授業で使用する水着や帽子について＞ 本授業で使用する水着や帽子（白：色指定）は泳法練習に適したものを着用すること。レジャー用水着での受講は技能練習に支障をきたすため、競泳用（練習用）の着用を推奨する。帽子には苗字をカタカナで大きくはっきりと記入し、授業中にこれを着用する。教員は帽子にて学生の氏名を把握するため、帽子を紛失した場合でも友人等の他人の帽子を着用しないこと。

成績評価の方法	
評価方法	100m個人メドレーの合格基準までの到達度（相対値）（70%） 平常点（30%）
評価基準	100m個人メドレーで男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。（実技試験） 泳法違反のない正しいフォームで四泳法を泳ぐことができる。（実技試験） 授業中の実技練習やグループ（ペア）練習に取り組む状況によって受講態度を評価する（平常点）。

試験・課題に対するフィードバック方法

試験結果と平常点数は試験の翌週以降に各受講者へ個別に通知を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
水泳指導教本	公益財団法人日本水泳連盟	大修館書店	4469267341	最新版が望ましい。購入の必要はないがコーチ1の資格取得を目指す学生は購入推奨
水泳コーチ教本	公益財団法人日本水泳連盟	大修館書店	4469267651	最新版が望ましい。購入の必要はないがコーチ3の資格取得を目指す学生は購入推奨

参考文献

なし

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：武田　剛 Email: tutakeda[at]juntendo.ac.jp *[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 通年授業期間中の木曜日10:20-12:00 場所：1号館5階1507室（水泳研究室） 上記の時間には予約無でも対応しますが、他の学生との時間調整のためできるだけ前日までにEmailで予約をしてください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	大学競泳選手（水泳部コーチ）へやジュニア競泳選手（臨時コーチ）コーチ経験を持つ教員が実際の指導を起こりうる注意点や指導のコツをわかりやすく解説する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業科目は、中学校教諭１種免許状（保健体育）並びに高等学校教諭１種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目に位置付けられています。また、日本スポーツ・日本水泳連盟公認資格コーチ1（水泳指導員）とコーチ3（水泳コーチ）の専門科目（講習）免除科目でもあります。 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	武田ほか	水泳授業内容の概要、成績評価方法、プール利用上の注意や水泳用具の使用方法を学び、水泳授業の授業形態、水慣れの学習を行う。	実習	【予習：0.5時間】 水泳用具の準備をする。 【復習：0.5時間】 プール使用上の注意を安全面と指導効率にわけてノートにまとめる。
2	武田ほか	蹴伸び、浮身、呼吸法の練習を行い、水中での重力、浮力、抵抗の理解を深める。	実習	【復習：１時間】 アルキメデスの定理や水中トルク発生原理をノートにまとめる。
3	武田ほか	クロールのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 クロールのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
4	武田ほか	クロールの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 クロール全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
5	武田ほか	平泳ぎのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 平泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
6	武田ほか	平泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 平泳ぎ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
7	武田ほか	背泳ぎのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 背泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
8	武田ほか	背泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 背泳ぎ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
9	武田ほか	バタフライのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 バタフライのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
10	武田ほか	バタフライの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 バタフライ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
11	武田ほか	プレテストとして100m個人メドレーのタイム計測を行い、現状での到達点を確認する	実習	【復習：１時間】 プレテストの結果から本試験にむけた自分の課題と必要な練習方法をノートにまとめる。
12	武田ほか	水中運動（前、後、横、回旋歩きとジャンピング）と水中レジスタンス運動（5種類）、スタートとターンの練習（潜行を含む）を行い、指導の見本が実施ができるようにする。	実習	【復習：１時間】 浮力と水の抵抗が運動に負荷に与える影響、各練習方法の注意点をノートにまとめる。
13	武田ほか	泳技能別／ペア練習。泳力の高い学生と苦手な学生でペアリングを行い、マンツーマン指導を実施する。苦手な学生の弱点克服を行う。	実習	【復習：１時間】 　教える側は指導したポイントのまとめと自らの指導方法に対する自己評価と反省をノートにまとめる。教わる側は指導してもらった内容と自分自身の泳技能の課題をノートにまとめる

14	武田ほか	後期本試験の100m個人メドレーのタイム測定を行う。	実習	【予習：１時間】 プレテストやペア練習でわかった課題を各自練習してくる。 【復習：１時間】 試験の結果を踏まえて授業全てのノートを見直し、加筆や修正事項の有無を確認し、ノート内容の充実を図る。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】水泳　［男子③］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】水泳　［男子③］	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	武田　剛	ナンバリング	COA2133
担当教員	武田　剛、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	水泳指導の際に指導内容が体現できるように基礎泳力の向上を図る。授業内容は4泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）の基礎的理論および技術の習得を目指し、4泳法を連続して泳ぐ個人メドレーの練習も行う。さらに水中運動や水中レジスタンストレーニングを体験し、指導ができるようになることを目指す。 本授業は日本スポーツ協会／日本水泳連盟公認のコーチ1（旧：水泳指導員）とコーチ3（旧：水泳コーチ）実技指導実習内容を含みます。
到達目標	100m個人メドレー（バタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、クロールを連続で泳ぐ）で男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。 泳法違反のない正しいフォームで泳ぐことできる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得、SPO/JASF（日本水泳連盟）公認水泳コーチ1,3養成講習会免除適応コース、健康運動指導士認定試験受験資格取得の必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「課題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 施設の使用人数制限のため、指定されたクラスを受講すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 準備体操の実施以降からの授業出席の場合は見学となる。 第1回目の授業からプールでの実習を行うため、履修時には水着と水泳帽を準備すること。（学内「啓友会館」のショップで購入可能） ＜授業で使用する水着や帽子について＞ 本授業で使用する水着や帽子（白：色指定）は泳法練習に適したものを着用すること。レジャー用水着での受講は技能練習に支障をきたすため、競泳用（練習用）の着用を推奨する。帽子には苗字をカタカナで大きくはっきりと記入し、授業中にこれを着用する。教員は帽子にて学生の氏名を把握するため、帽子を紛失した場合でも友人等の他人の帽子を着用しないこと。

成績評価の方法	
評価方法	100m個人メドレーの合格基準までの到達度（相対値）（70%） 平常点（30%）
評価基準	100m個人メドレーで男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。（実技試験） 泳法違反のない正しいフォームで四泳法を泳ぐことができる。（実技試験） 授業中の実技練習やグループ（ペア）練習に取り組む状況によって受講態度を評価する（平常点）。

試験・課題に対するフィードバック方法

試験結果と平常点数は試験の翌週以降に各受講者へ個別に通知を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
水泳指導教本	公益財団法人日本水泳連盟	大修館書店	4469267341	最新版が望ましい。購入の必要はないがコーチ1の資格取得を目指す学生は購入推奨
水泳コーチ教本	公益財団法人日本水泳連盟	大修館書店	4469267651	最新版が望ましい。購入の必要はないがコーチ3の資格取得を目指す学生は購入推奨

参考文献

なし

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：武田　剛 Email: tutakeda[at]juntendo.ac.jp *[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 通年授業期間中の木曜日10:20-12:00 場所：1号館5階1507室（水泳研究室） 上記の時間には予約無でも対応しますが、他の学生との時間調整のためできるだけ前日までにEmailで予約をしてください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	大学競泳選手（水泳部コーチ）へやジュニア競泳選手（臨時コーチ）コーチ経験を持つ教員が実際の指導を起こりうる注意点や指導のコツをわかりやすく解説する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業科目は、中学校教諭１種免許状（保健体育）並びに高等学校教諭１種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目に位置付けられています。また、日本スポーツ・日本水泳連盟公認資格コーチ1（水泳指導員）とコーチ3（水泳コーチ）の専門科目（講習）免除科目でもあります。 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	武田ほか	水泳授業内容の概要、成績評価方法、プール利用上の注意や水泳用具の使用方法を学び、水泳授業の授業形態、水慣れの学習を行う。	実習	【予習：0.5時間】 水泳用具の準備をする。 【復習：0.5時間】 プール使用上の注意を安全面と指導効率にわけてノートにまとめる。
2	武田ほか	蹴伸び、浮身、呼吸法の練習を行い、水中での重力、浮力、抵抗の理解を深める。	実習	【復習：１時間】 アルキメデスの定理や水中トルク発生原理をノートにまとめる。
3	武田ほか	クロールのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 クロールのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
4	武田ほか	クロールの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 クロール全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
5	武田ほか	平泳ぎのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 平泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
6	武田ほか	平泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 平泳ぎ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
7	武田ほか	背泳ぎのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 背泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
8	武田ほか	背泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 背泳ぎ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
9	武田ほか	バタフライのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 バタフライのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
10	武田ほか	バタフライの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 バタフライ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
11	武田ほか	プレテストとして100m個人メドレーのタイム計測を行い、現状での到達点を確認する	実習	【復習：１時間】 プレテストの結果から本試験にむけた自分の課題と必要な練習方法をノートにまとめる。
12	武田ほか	水中運動（前、後、横、回旋歩きとジャンピング）と水中レジスタンス運動（5種類）、スタートとターンの練習（潜行を含む）を行い、指導の見本が実施ができるようにする。	実習	【復習：１時間】 浮力と水の抵抗が運動に負荷に与える影響、各練習方法の注意点をノートにまとめる。
13	武田ほか	泳技能別／ペア練習。泳力の高い学生と苦手な学生でペアリングを行い、マンツーマン指導を実施する。苦手な学生の弱点克服を行う。	実習	【復習：１時間】 　教える側は指導したポイントのまとめと自らの指導方法に対する自己評価と反省をノートにまとめる。教わる側は指導してもらった内容と自分自身の泳技能の課題をノートにまとめる

14	武田ほか	後期本試験の100m個人メドレーのタイム測定を行う。	実習	【予習：１時間】 プレテストやペア練習でわかった課題を各自練習してくる。 【復習：１時間】 試験の結果を踏まえて授業全てのノートを見直し、加筆や修正事項の有無を確認し、ノート内容の充実を図る。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】水泳　［男子④］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】水泳　［男子④］	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	武田　剛	ナンバリング	COA2133
担当教員	武田　剛、古賀　大樹、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	水泳指導の際に指導内容が体現できるように基礎泳力の向上を図る。授業内容は4泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）の基礎的理論および技術の習得を目指し、4泳法を連続して泳ぐ個人メドレーの練習も行う。さらに水中運動や水中レジスタンストレーニングを体験し、指導ができるようになることを目指す。 本授業は日本スポーツ協会／日本水泳連盟公認のコーチ1（旧：水泳指導員）とコーチ3（旧：水泳コーチ）実技指導実習内容を含みます。
到達目標	100m個人メドレー（バタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、クロールを連続で泳ぐ）で男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。 泳法違反のない正しいフォームで泳ぐことできる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得、SPO/JASF（日本水泳連盟）公認水泳コーチ1,3養成講習会免除適応コース、健康運動指導士認定試験受験資格取得の必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「課題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 施設の使用人数制限のため、指定されたクラスを受講すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 準備体操の実施以降からの授業出席の場合は見学となる。 第1回目の授業からプールでの実習を行うため、履修時には水着と水泳帽を準備すること。（学内「啓友会館」のショップで購入可能） ＜授業で使用する水着や帽子について＞ 本授業で使用する水着や帽子（白：色指定）は泳法練習に適したものを着用すること。レジャー用水着での受講は技能練習に支障をきたすため、競泳用（練習用）の着用を推奨する。帽子には苗字をカタカナで大きくはっきりと記入し、授業中にこれを着用する。教員は帽子にて学生の氏名を把握するため、帽子を紛失した場合でも友人等の他人の帽子を着用しないこと。

成績評価の方法	
評価方法	100m個人メドレーの合格基準までの到達度（相対値）（70%） 平常点（30%）
評価基準	100m個人メドレーで男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。（実技試験） 泳法違反のない正しいフォームで四泳法を泳ぐことができる。（実技試験） 授業中の実技練習やグループ（ペア）練習に取り組む状況によって受講態度を評価する（平常点）。

試験・課題に対するフィードバック方法

試験結果と平常点数は試験の翌週以降に各受講者へ個別に通知を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
水泳指導教本	公益財団法人日本水泳連盟	大修館書店	4469267341	最新版が望ましい。購入の必要はないがコーチ1の資格取得を目指す学生は購入推奨
水泳コーチ教本	公益財団法人日本水泳連盟	大修館書店	4469267651	最新版が望ましい。購入の必要はないがコーチ3の資格取得を目指す学生は購入推奨

参考文献

なし

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：武田　剛 Email: tutakeda[at]juntendo.ac.jp *[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 通年授業期間中の木曜日10:20-12:00 場所：1号館5階1507室（水泳研究室） 上記の時間には予約無でも対応しますが、他の学生との時間調整のためできるだけ前日までにEmailで予約をしてください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	大学競泳選手（水泳部コーチ）へやジュニア競泳選手（臨時コーチ）コーチ経験を持つ教員が実際の指導を起こりうる注意点や指導のコツをわかりやすく解説する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業科目は、中学校教諭１種免許状（保健体育）並びに高等学校教諭１種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目に位置付けられています。また、日本スポーツ・日本水泳連盟公認資格コーチ1（水泳指導員）とコーチ3（水泳コーチ）の専門科目（講習）免除科目でもあります。 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	武田ほか	水泳授業内容の概要、成績評価方法、プール利用上の注意や水泳用具の使用方法を学び、水泳授業の授業形態、水慣れの学習を行う。	実習	【予習：0.5時間】 水泳用具の準備をする。 【復習：0.5時間】 プール使用上の注意を安全面と指導効率にわけてノートにまとめる。
2	武田ほか	蹴伸び、浮身、呼吸法の練習を行い、水中での重力、浮力、抵抗の理解を深める。	実習	【復習：１時間】 アルキメデスの定理や水中トルク発生原理をノートにまとめる。
3	武田ほか	クロールのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 クロールのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
4	武田ほか	クロールの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 クロール全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
5	武田ほか	平泳ぎのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 平泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
6	武田ほか	平泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 平泳ぎ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
7	武田ほか	背泳ぎのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 背泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
8	武田ほか	背泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 背泳ぎ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
9	武田ほか	バタフライのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 バタフライのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
10	武田ほか	バタフライの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 バタフライ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
11	武田ほか	プレテストとして100m個人メドレーのタイム計測を行い、現状での到達点を確認する	実習	【復習：１時間】 プレテストの結果から本試験にむけた自分の課題と必要な練習方法をノートにまとめる。
12	武田ほか	水中運動（前、後、横、回旋歩きとジャンピング）と水中レジスタンス運動（5種類）、スタートとターンの練習（潜行を含む）を行い、指導の見本が実施ができるようにする。	実習	【復習：１時間】 浮力と水の抵抗が運動に負荷に与える影響、各練習方法の注意点をノートにまとめる。
13	武田ほか	泳技能別／ペア練習。泳力の高い学生と苦手な学生でペアリングを行い、マンツーマン指導を実施する。苦手な学生の弱点克服を行う。	実習	【復習：１時間】 　教える側は指導したポイントのまとめと自らの指導方法に対する自己評価と反省をノートにまとめる。教わる側は指導してもらった内容と自分自身の泳技能の課題をノートにまとめる

14	武田ほか	後期本試験の100m個人メドレーのタイム測定を行う。	実習	【予習：１時間】 プレテストやペア練習でわかった課題を各自練習してくる。 【復習：１時間】 試験の結果を踏まえて授業全てのノートを見直し、加筆や修正事項の有無を確認し、ノート内容の充実を図る。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】水泳　［男子⑤］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】水泳　［男子⑤］	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	武田　剛	ナンバリング	COA2133
担当教員	武田　剛、嵯峨　基、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	水泳指導の際に指導内容が体現できるように基礎泳力の向上を図る。授業内容は4泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）の基礎的理論および技術の習得を目指し、4泳法を連続して泳ぐ個人メドレーの練習も行う。さらに水中運動や水中レジスタンストレーニングを体験し、指導ができるようになることを目指す。 本授業は日本スポーツ協会／日本水泳連盟公認のコーチ1（旧：水泳指導員）とコーチ3（旧：水泳コーチ）実技指導実習内容を含みます。
到達目標	100m個人メドレー（バタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、クロールを連続で泳ぐ）で男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。 泳法違反のない正しいフォームで泳ぐことできる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得、SPO/JASF（日本水泳連盟）公認水泳コーチ1,3養成講習会免除適応コース、健康運動指導士認定試験受験資格取得の必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「課題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 施設の使用人数制限のため、指定されたクラスを受講すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 準備体操の実施以降からの授業出席の場合は見学となる。 第1回目の授業からプールでの実習を行うため、履修時には水着と水泳帽を準備すること。（学内「啓友会館」のショップで購入可能） ＜授業で使用する水着や帽子について＞ 本授業で使用する水着や帽子（白：色指定）は泳法練習に適したものを着用すること。レジャー用水着での受講は技能練習に支障をきたすため、競泳用（練習用）の着用を推奨する。帽子には苗字をカタカナで大きくはっきりと記入し、授業中にこれを着用する。教員は帽子にて学生の氏名を把握するため、帽子を紛失した場合でも友人等の他人の帽子を着用しないこと。

成績評価の方法	
評価方法	100m個人メドレーの合格基準までの到達度（相対値）（70%） 平常点（30%）
評価基準	100m個人メドレーで男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。（実技試験） 泳法違反のない正しいフォームで四泳法を泳ぐことができる。（実技試験） 授業中の実技練習やグループ（ペア）練習に取り組む状況によって受講態度を評価する（平常点）。

試験・課題に対するフィードバック方法

試験結果と平常点数は試験の翌週以降に各受講者へ個別に通知を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
水泳指導教本	公益財団法人日本水泳連盟	大修館書店	4469267341	最新版が望ましい。購入の必要はないがコーチ1の資格取得を目指す学生は購入推奨
水泳コーチ教本	公益財団法人日本水泳連盟	大修館書店	4469267651	最新版が望ましい。購入の必要はないがコーチ3の資格取得を目指す学生は購入推奨

参考文献

なし

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：武田　剛 Email: tutakeda[at]juntendo.ac.jp *[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 通年授業期間中の木曜日10:20-12:00 場所：1号館5階1507室（水泳研究室） 上記の時間には予約無でも対応しますが、他の学生との時間調整のためできるだけ前日までにEmailで予約をしてください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	大学競泳選手（水泳部コーチ）へやジュニア競泳選手（臨時コーチ）コーチ経験を持つ教員が実際の指導を起こりうる注意点や指導のコツをわかりやすく解説する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業科目は、中学校教諭１種免許状（保健体育）並びに高等学校教諭１種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目に位置付けられています。また、日本スポーツ・日本水泳連盟公認資格コーチ1（水泳指導員）とコーチ3（水泳コーチ）の専門科目（講習）免除科目でもあります。 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	武田ほか	水泳授業内容の概要、成績評価方法、プール利用上の注意や水泳用具の使用方法を学び、水泳授業の授業形態、水慣れの学習を行う。	実習	【予習：0.5時間】 水泳用具の準備をする。 【復習：0.5時間】 プール使用上の注意を安全面と指導効率にわけてノートにまとめる。
2	武田ほか	蹴伸び、浮身、呼吸法の練習を行い、水中での重力、浮力、抵抗の理解を深める。	実習	【復習：１時間】 アルキメデスの定理や水中トルク発生原理をノートにまとめる。
3	武田ほか	クロールのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 クロールのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
4	武田ほか	クロールの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 クロール全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
5	武田ほか	平泳ぎのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 平泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
6	武田ほか	平泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 平泳ぎ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
7	武田ほか	背泳ぎのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 背泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
8	武田ほか	背泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 背泳ぎ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
9	武田ほか	バタフライのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 バタフライのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
10	武田ほか	バタフライの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 バタフライ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
11	武田ほか	プレテストとして100m個人メドレーのタイム計測を行い、現状での到達点を確認する	実習	【復習：１時間】 プレテストの結果から本試験にむけた自分の課題と必要な練習方法をノートにまとめる。
12	武田ほか	水中運動（前、後、横、回旋歩きとジャンピング）と水中レジスタンス運動（5種類）、スタートとターンの練習（潜行を含む）を行い、指導の見本が実施ができるようにする。	実習	【復習：１時間】 浮力と水の抵抗が運動に負荷に与える影響、各練習方法の注意点をノートにまとめる。
13	武田ほか	泳技能別／ペア練習。泳力の高い学生と苦手な学生でペアリングを行い、マンツーマン指導を実施する。苦手な学生の弱点克服を行う。	実習	【復習：１時間】 　教える側は指導したポイントのまとめと自らの指導方法に対する自己評価と反省をノートにまとめる。教わる側は指導してもらった内容と自分自身の泳技能の課題をノートにまとめる

14	武田ほか	後期本試験の100m個人メドレーのタイム測定を行う。	実習	【予習：１時間】 プレテストやペア練習でわかった課題を各自練習してくる。 【復習：１時間】 試験の結果を踏まえて授業全てのノートを見直し、加筆や修正事項の有無を確認し、ノート内容の充実を図る。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】水泳　［女子①］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】水泳　［女子①］	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	武田　剛	ナンバリング	COA2133
担当教員	武田　剛、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	水泳指導の際に指導内容が体現できるように基礎泳力の向上を図る。授業内容は4泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）の基礎的理論および技術の習得を目指し、4泳法を連続して泳ぐ個人メドレーの練習も行う。さらに水中運動や水中レジスタンストレーニングを体験し、指導ができるようになることを目指す。 本授業は日本スポーツ協会／日本水泳連盟公認のコーチ1（旧：水泳指導員）とコーチ3（旧：水泳コーチ）実技指導実習内容を含みます。
到達目標	100m個人メドレー（バタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、クロールを連続で泳ぐ）で男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。 泳法違反のない正しいフォームで泳ぐことできる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得、SPO/JASF（日本水泳連盟）公認水泳コーチ1,3養成講習会免除適応コース、健康運動指導士認定試験受験資格取得の必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「課題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 施設の使用人数制限のため、指定されたクラスを受講すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 準備体操の実施以降からの授業出席の場合は見学となる。 第1回目の授業からプールでの実習を行うため、履修時には水着と水泳帽を準備すること。（学内「啓友会館」のショップで購入可能） ＜授業で使用する水着や帽子について＞ 本授業で使用する水着や帽子（白：色指定）は泳法練習に適したものを着用すること。レジャー用水着での受講は技能練習に支障をきたすため、競泳用（練習用）の着用を推奨する。帽子には苗字をカタカナで大きくはっきりと記入し、授業中にこれを着用する。教員は帽子にて学生の氏名を把握するため、帽子を紛失した場合でも友人等の他人の帽子を着用しないこと。

成績評価の方法	
評価方法	100m個人メドレーの合格基準までの到達度（相対値）（70%） 平常点（30%）
評価基準	100m個人メドレーで男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。（実技試験） 泳法違反のない正しいフォームで四泳法を泳ぐことができる。（実技試験） 授業中の実技練習やグループ（ペア）練習に取り組む状況によって受講態度を評価する（平常点）。

試験・課題に対するフィードバック方法

試験結果と平常点数は試験の翌週以降に各受講者へ個別に通知を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
水泳指導教本	公益財団法人日本水泳連盟	大修館書店	4469267341	最新版が望ましい。購入の必要はないがコーチ1の資格取得を目指す学生は購入推奨
水泳コーチ教本	公益財団法人日本水泳連盟	大修館書店	4469267651	最新版が望ましい。購入の必要はないがコーチ3の資格取得を目指す学生は購入推奨

参考文献

なし

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：武田　剛 Email: tutakeda[at]juntendo.ac.jp *[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 通年授業期間中の木曜日10:20-12:00 場所：1号館5階1507室（水泳研究室） 上記の時間には予約無でも対応しますが、他の学生との時間調整のためできるだけ前日までにEmailで予約をしてください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	大学競泳選手（水泳部コーチ）へやジュニア競泳選手（臨時コーチ）コーチ経験を持つ教員が実際の指導を起こりうる注意点や指導のコツをわかりやすく解説する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業科目は、中学校教諭１種免許状（保健体育）並びに高等学校教諭１種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目に位置付けられています。また、日本スポーツ・日本水泳連盟公認資格コーチ1（水泳指導員）とコーチ3（水泳コーチ）の専門科目（講習）免除科目でもあります。 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	武田ほか	水泳授業内容の概要、成績評価方法、プール利用上の注意や水泳用具の使用方法を学び、水泳授業の授業形態、水慣れの学習を行う。	実習	【予習：0.5時間】 水泳用具の準備をする。 【復習：0.5時間】 プール使用上の注意を安全面と指導効率にわけてノートにまとめる。
2	武田ほか	蹴伸び、浮身、呼吸法の練習を行い、水中での重力、浮力、抵抗の理解を深める。	実習	【復習：１時間】 アルキメデスの定理や水中トルク発生原理をノートにまとめる。
3	武田ほか	クロールのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 クロールのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
4	武田ほか	クロールの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 クロール全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
5	武田ほか	平泳ぎのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 平泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
6	武田ほか	平泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 平泳ぎ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
7	武田ほか	背泳ぎのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 背泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
8	武田ほか	背泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 背泳ぎ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
9	武田ほか	バタフライのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 バタフライのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
10	武田ほか	バタフライの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 バタフライ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
11	武田ほか	プレテストとして100m個人メドレーのタイム計測を行い、現状での到達点を確認する	実習	【復習：１時間】 プレテストの結果から本試験にむけた自分の課題と必要な練習方法をノートにまとめる。
12	武田ほか	水中運動（前、後、横、回旋歩きとジャンピング）と水中レジスタンス運動（5種類）、スタートとターンの練習（潜行を含む）を行い、指導の見本が実施ができるようにする。	実習	【復習：１時間】 浮力と水の抵抗が運動に負荷に与える影響、各練習方法の注意点をノートにまとめる。
13	武田ほか	泳技能別／ペア練習。泳力の高い学生と苦手な学生でペアリングを行い、マンツーマン指導を実施する。苦手な学生の弱点克服を行う。	実習	【復習：１時間】 　教える側は指導したポイントのまとめと自らの指導方法に対する自己評価と反省をノートにまとめる。教わる側は指導してもらった内容と自分自身の泳技能の課題をノートにまとめる

14	武田ほか	後期本試験の100m個人メドレーのタイム測定を行う。	実習	【予習：１時間】 プレテストやペア練習でわかった課題を各自練習してくる。 【復習：１時間】 試験の結果を踏まえて授業全てのノートを見直し、加筆や修正事項の有無を確認し、ノート内容の充実を図る。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】水泳　［女子②］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】水泳　［女子②］	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	武田　剛	ナンバリング	COA2133
担当教員	武田　剛、武田　友理絵、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	水泳指導の際に指導内容が体現できるように基礎泳力の向上を図る。授業内容は4泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）の基礎的理論および技術の習得を目指し、4泳法を連続して泳ぐ個人メドレーの練習も行う。さらに水中運動や水中レジスタンストレーニングを体験し、指導ができるようになることを目指す。 本授業は日本スポーツ協会／日本水泳連盟公認のコーチ1（旧：水泳指導員）とコーチ3（旧：水泳コーチ）実技指導実習内容を含みます。
到達目標	100m個人メドレー（バタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、クロールを連続で泳ぐ）で男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。 泳法違反のない正しいフォームで泳ぐことできる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得、SPO/JASF（日本水泳連盟）公認水泳コーチ1,3養成講習会免除適応コース、健康運動指導士認定試験受験資格取得の必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「課題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 施設の使用人数制限のため、指定されたクラスを受講すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 準備体操の実施以降からの授業出席の場合は見学となる。 第1回目の授業からプールでの実習を行うため、履修時には水着と水泳帽を準備すること。（学内「啓友会館」のショップで購入可能） ＜授業で使用する水着や帽子について＞ 本授業で使用する水着や帽子（白：色指定）は泳法練習に適したものを着用すること。レジャー用水着での受講は技能練習に支障をきたすため、競泳用（練習用）の着用を推奨する。帽子には苗字をカタカナで大きくはっきりと記入し、授業中にこれを着用する。教員は帽子にて学生の氏名を把握するため、帽子を紛失した場合でも友人等の他人の帽子を着用しないこと。

成績評価の方法	
評価方法	100m個人メドレーの合格基準までの到達度（相対値）（70%） 平常点（30%）
評価基準	100m個人メドレーで男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。（実技試験） 泳法違反のない正しいフォームで四泳法を泳ぐことができる。（実技試験） 授業中の実技練習やグループ（ペア）練習に取り組む状況によって受講態度を評価する（平常点）。

試験・課題に対するフィードバック方法

試験結果と平常点数は試験の翌週以降に各受講者へ個別に通知を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
水泳指導教本	公益財団法人日本水泳連盟	大修館書店	4469267341	最新版が望ましい。購入の必要はないがコーチ1の資格取得を目指す学生は購入推奨
水泳コーチ教本	公益財団法人日本水泳連盟	大修館書店	4469267651	最新版が望ましい。購入の必要はないがコーチ3の資格取得を目指す学生は購入推奨

参考文献

なし

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：武田　剛 Email: tutakeda[at]juntendo.ac.jp *[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 通年授業期間中の木曜日10:20-12:00 場所：1号館5階1507室（水泳研究室） 上記の時間には予約無でも対応しますが、他の学生との時間調整のためできるだけ前日までにEmailで予約をしてください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	大学競泳選手（水泳部コーチ）へやジュニア競泳選手（臨時コーチ）コーチ経験を持つ教員が実際の指導を起こりうる注意点や指導のコツをわかりやすく解説する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業科目は、中学校教諭１種免許状（保健体育）並びに高等学校教諭１種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目に位置付けられています。また、日本スポーツ・日本水泳連盟公認資格コーチ1（水泳指導員）とコーチ3（水泳コーチ）の専門科目（講習）免除科目でもあります。 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	武田ほか	水泳授業内容の概要、成績評価方法、プール利用上の注意や水泳用具の使用方法を学び、水泳授業の授業形態、水慣れの学習を行う。	実習	【予習：0.5時間】 水泳用具の準備をする。 【復習：0.5時間】 プール使用上の注意を安全面と指導効率にわけてノートにまとめる。
2	武田ほか	蹴伸び、浮身、呼吸法の練習を行い、水中での重力、浮力、抵抗の理解を深める。	実習	【復習：１時間】 アルキメデスの定理や水中トルク発生原理をノートにまとめる。
3	武田ほか	クロールのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 クロールのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
4	武田ほか	クロールの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 クロール全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
5	武田ほか	平泳ぎのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 平泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
6	武田ほか	平泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 平泳ぎ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
7	武田ほか	背泳ぎのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 背泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
8	武田ほか	背泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 背泳ぎ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
9	武田ほか	バタフライのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 バタフライのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
10	武田ほか	バタフライの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 バタフライ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
11	武田ほか	プレテストとして100m個人メドレーのタイム計測を行い、現状での到達点を確認する	実習	【復習：１時間】 プレテストの結果から本試験にむけた自分の課題と必要な練習方法をノートにまとめる。
12	武田ほか	水中運動（前、後、横、回旋歩きとジャンピング）と水中レジスタンス運動（5種類）、スタートとターンの練習（潜行を含む）を行い、指導の見本が実施ができるようにする。	実習	【復習：１時間】 浮力と水の抵抗が運動に負荷に与える影響、各練習方法の注意点をノートにまとめる。
13	武田ほか	泳技能別／ペア練習。泳力の高い学生と苦手な学生でペアリングを行い、マンツーマン指導を実施する。苦手な学生の弱点克服を行う。	実習	【復習：１時間】 　教える側は指導したポイントのまとめと自らの指導方法に対する自己評価と反省をノートにまとめる。教わる側は指導してもらった内容と自分自身の泳技能の課題をノートにまとめる

14	武田ほか	後期本試験の100m個人メドレーのタイム測定を行う。	実習	【予習：１時間】 プレテストやペア練習でわかった課題を各自練習してくる。 【復習：１時間】 試験の結果を踏まえて授業全てのノートを見直し、加筆や修正事項の有無を確認し、ノート内容の充実を図る。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】水泳　［女子③］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】水泳　［女子③］	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	武田　剛	ナンバリング	COA2133
担当教員	武田　剛、武田　友理絵、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	水泳指導の際に指導内容が体現できるように基礎泳力の向上を図る。授業内容は4泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）の基礎的理論および技術の習得を目指し、4泳法を連続して泳ぐ個人メドレーの練習も行う。さらに水中運動や水中レジスタンストレーニングを体験し、指導ができるようになることを目指す。 本授業は日本スポーツ協会／日本水泳連盟公認のコーチ1（旧：水泳指導員）とコーチ3（旧：水泳コーチ）実技指導実習内容を含みます。
到達目標	100m個人メドレー（バタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、クロールを連続で泳ぐ）で男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。 泳法違反のない正しいフォームで泳ぐことできる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得、SPO/JASF（日本水泳連盟）公認水泳コーチ1,3養成講習会免除適応コース、健康運動指導士認定試験受験資格取得の必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「課題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 施設の使用人数制限のため、指定されたクラスを受講すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 準備体操の実施以降からの授業出席の場合は見学となる。 第1回目の授業からプールでの実習を行うため、履修時には水着と水泳帽を準備すること。（学内「啓友会館」のショップで購入可能） ＜授業で使用する水着や帽子について＞ 本授業で使用する水着や帽子（白：色指定）は泳法練習に適したものを着用すること。レジャー用水着での受講は技能練習に支障をきたすため、競泳用（練習用）の着用を推奨する。帽子には苗字をカタカナで大きくはっきりと記入し、授業中にこれを着用する。教員は帽子にて学生の氏名を把握するため、帽子を紛失した場合でも友人等の他人の帽子を着用しないこと。

成績評価の方法	
評価方法	100m個人メドレーの合格基準までの到達度（相対値）（70%） 平常点（30%）
評価基準	100m個人メドレーで男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。（実技試験） 泳法違反のない正しいフォームで四泳法を泳ぐことができる。（実技試験） 授業中の実技練習やグループ（ペア）練習に取り組む状況によって受講態度を評価する（平常点）。

試験・課題に対するフィードバック方法

試験結果と平常点数は試験の翌週以降に各受講者へ個別に通知を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
水泳指導教本	公益財団法人日本水泳連盟	大修館書店	4469267341	最新版が望ましい。購入の必要はないがコーチ1の資格取得を目指す学生は購入推奨
水泳コーチ教本	公益財団法人日本水泳連盟	大修館書店	4469267651	最新版が望ましい。購入の必要はないがコーチ3の資格取得を目指す学生は購入推奨

参考文献

なし

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：武田　剛 Email: tutakeda[at]juntendo.ac.jp *[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 通年授業期間中の木曜日10:20-12:00 場所：1号館5階1507室（水泳研究室） 上記の時間には予約無でも対応しますが、他の学生との時間調整のためできるだけ前日までにEmailで予約をしてください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	大学競泳選手（水泳部コーチ）へやジュニア競泳選手（臨時コーチ）コーチ経験を持つ教員が実際の指導を起こりうる注意点や指導のコツをわかりやすく解説する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業科目は、中学校教諭１種免許状（保健体育）並びに高等学校教諭１種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目に位置付けられています。また、日本スポーツ・日本水泳連盟公認資格コーチ1（水泳指導員）とコーチ3（水泳コーチ）の専門科目（講習）免除科目でもあります。 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	武田ほか	水泳授業内容の概要、成績評価方法、プール利用上の注意や水泳用具の使用方法を学び、水泳授業の授業形態、水慣れの学習を行う。	実習	【予習：0.5時間】 水泳用具の準備をする。 【復習：0.5時間】 プール使用上の注意を安全面と指導効率にわけてノートにまとめる。
2	武田ほか	蹴伸び、浮身、呼吸法の練習を行い、水中での重力、浮力、抵抗の理解を深める。	実習	【復習：１時間】 アルキメデスの定理や水中トルク発生原理をノートにまとめる。
3	武田ほか	クロールのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 クロールのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
4	武田ほか	クロールの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 クロール全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
5	武田ほか	平泳ぎのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 平泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
6	武田ほか	平泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 平泳ぎ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
7	武田ほか	背泳ぎのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 背泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
8	武田ほか	背泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 背泳ぎ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
9	武田ほか	バタフライのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。	実習	【復習：１時間】 バタフライのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。
10	武田ほか	バタフライの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する	実習	【復習：１時間】 バタフライ全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。
11	武田ほか	プレテストとして100m個人メドレーのタイム計測を行い、現状での到達点を確認する	実習	【復習：１時間】 プレテストの結果から本試験にむけた自分の課題と必要な練習方法をノートにまとめる。
12	武田ほか	水中運動（前、後、横、回旋歩きとジャンピング）と水中レジスタンス運動（5種類）、スタートとターンの練習（潜行を含む）を行い、指導の見本が実施ができるようにする。	実習	【復習：１時間】 浮力と水の抵抗が運動に負荷に与える影響、各練習方法の注意点をノートにまとめる。
13	武田ほか	泳技能別／ペア練習。泳力の高い学生と苦手な学生でペアリングを行い、マンツーマン指導を実施する。苦手な学生の弱点克服を行う。	実習	【復習：１時間】 　教える側は指導したポイントのまとめと自らの指導方法に対する自己評価と反省をノートにまとめる。教わる側は指導してもらった内容と自分自身の泳技能の課題をノートにまとめる

14	武田ほか	後期本試験の100m個人メドレーのタイム測定を行う。	実習	【予習：１時間】 プレテストやペア練習でわかった課題を各自練習してくる。 【復習：１時間】 試験の結果を踏まえて授業全てのノートを見直し、加筆や修正事項の有無を確認し、ノート内容の充実を図る。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】器械運動　［男子②］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】器械運動　［男子②］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	原田　睦巳	ナンバリング	COA1134
担当教員	原田　睦巳、冨田　洋之、新竹　優子、Kozachenko Olga、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	器械運動における、初級程度の技から中級程度の技を体系的に習得するとともに、段階的指導の学習や幇助の体験を通じて指導法に関する知識を身につけることをねらいとする。また、安全面の配慮、基礎的な知識の発展や実施、正しい基礎的な知識と運動構造の理解を深める。さらに本授業では、スポーツ健康科学を中心とした教養や知識、運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、コミュニケーション力を養いスポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能と教養の育成を目指す。
到達目標	1. マット運動の「伸膝前転」、「前方倒立回転跳び」が実施できる。 2. とび箱運動の「屈身とび」、「前方倒立回転跳び」が実施できる。 3. 鉄棒運動の「け上がり」、「後方支持回転」、「前方支持回転」、「振りとび下り」が実施できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の選択必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	安全面の配慮、基礎的な知識の発展、実施が望まれるため、正しい基礎的な知識と運動構造を理解しておく必要がある。本授業では、学生同士により、スポーツ健康科学を中心とした知識や運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、コミュニケーション力を養いその知識と技能と教養の育成を目指す。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 到達目標に挙げられている技の名称、動きについて調べる。動きやすい服装。
成績評価の方法	
評価方法	「学習態度・取り組む姿勢（40%）、実技テスト（マット・跳び箱・鉄棒）（60%）」
評価基準	1. マット運動の「伸膝前転」、「前方倒立回転跳び」に関して正確に動きを理解し、実施することができる。（定期試験・平常点） 2. とび箱運動の「屈身とび」、「前方倒立回転跳び」に関して正確に動きを理解し、実施することができる。（定期試験・平常点） 3. 鉄棒運動の「け上がり」、「後方支持回転」、「前方支持回転」、「振りとび下り」に関して正確に動きを理解し、実施することができるできる。（定期試験・平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

各課題の実施時に評価や助言を受講者にフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

器械運動の授業づくり≪大修館書店≫　※参考資料とする。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：原田睦巳 E-mail: mtharada@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 火・水・木・金曜日10：00～12：00　【1号館5階1511体操競技研究室】
担当教員の実務経験	本授業では以下の経験を持つ教員がその実務経験を活かして専門的な指導を行う. ・実業団チームで体操競技の競技者として活動し、オリンピックの出場経験またはオリンピック金メダルを含む国際大会で複数の入賞経験を持つ教員。 ・日本体操協会強化部員またはコーチ育成委員会委員として実務経験を持つ教員。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間(授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 ・中高教諭1種免許（保健体育）の必修科目 ・新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・前期授業の目標ならびに授業展開について理解する。 マット運動： ・体の前屈によって回転を得る系統技の段階的練習を行う。（前転・開脚前転・倒立前転を習得する） 鉄棒運動： ・鉄棒の特性について理解し、体験する。	（授業方法） マット運動： ・前期授業の目標ならびに授業展開について説明する。 ・前転・開脚前転・倒立前転の段階指導を行う。 鉄棒運動： ・鉄棒の特性について解説する。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前転・開脚前転・倒立前転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 鉄棒の特性について理解しておくこと。
2	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 伸膝前転の映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 支持回転系の技の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
3	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 ・前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 ・前方倒立回転跳びの導入動作の指導を行う。 鉄棒運動： ・伸膝前方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
4	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 ・前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動： 後方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 ・前方倒立回転跳びの段階的指導を行う。 鉄棒運動： ・後方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
5	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動： ・伸膝後方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動： ・伸膝後方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 伸膝後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 伸膝前転、前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 伸膝後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。

6	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。開脚跳び・かかえ込み跳びを習得する。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。開脚跳び・かかえ込み跳びの段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 開脚跳び・かかえ込み跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 開脚跳び・かかえ込み跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 足かけ上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
7	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。屈身とび・大屈身とびを習得する。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。屈身とび・大屈身とびの段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
8	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 屈身とびのテストを行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 屈身とびのテストを行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
9	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 回転系技群（頭はね跳び）の練習を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 回転系技群（頭はね跳び）の段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 頭はね跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 頭はね跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
10	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	授業内容） ・とび箱運動： 回転系技群（前方倒立回転跳び）の練習を行う。 ・鉄棒運動： 振りとび下りの練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 回転系技群（前方倒立回転跳び）の段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 振りとび下りの段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 振りとび下りについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
11	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 前方倒立回転跳びのテストを行う。 ・鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施する。	（授業方法） ・とび箱運動： 前方倒立回転跳びのテストを行う。 ・鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。

12	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 鉄棒運動のテストを行う。 ・長なわとび： 長なわとびの基本のとび方について理解し、実践する。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 鉄棒運動のテストを行う。 ・長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての説明および実践を行う。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 鉄棒運動の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方について映像を閲覧しておくこと。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）について映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
13	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）を習得する。 ・長なわとび： ８の字とび・0字とびを実践する。 ・平均台： 体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 ・長なわとび： ８の字とび・0字とびの指導を行う。 ・平均台： 体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： 長なわとびの８の字とび・0字とびについて映像を閲覧しておくこと。 ・平均台： 体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）について映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： 体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
14	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の練習を行う。 ・長なわとび： ダブルダッチを実践する。 ・平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 ・長なわとび： ダブルダッチの指導を行う。 ・平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： ダブルダッチについて映像を閲覧しておくこと。 ・平均台： バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）について映像を閲覧しておくこと 【復習：1.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における後ろ振り上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・授業全体を通して、各技の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解する。
		授業内で課題を習得できなかった学生を対象にテストを実施する。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】器械運動　［男子④］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】器械運動　［男子④］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	原田　睦巳	ナンバリング	COA1134
担当教員	原田　睦巳、冨田　洋之、新竹　優子、Kozachenko Olga、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	器械運動における、初級程度の技から中級程度の技を体系的に習得するとともに、段階的指導の学習や幇助の体験を通じて指導法に関する知識を身につけることをねらいとする。また、安全面の配慮、基礎的な知識の発展や実施、正しい基礎的な知識と運動構造の理解を深める。さらに本授業では、スポーツ健康科学を中心とした教養や知識、運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、コミュニケーション力を養いスポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能と教養の育成を目指す。
到達目標	1. マット運動の「伸膝前転」、「前方倒立回転跳び」が実施できる。 2. とび箱運動の「屈身とび」、「前方倒立回転跳び」が実施できる。 3. 鉄棒運動の「け上がり」、「後方支持回転」、「前方支持回転」、「振りとび下り」が実施できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の選択必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	安全面の配慮、基礎的な知識の発展、実施が望まれるため、正しい基礎的な知識と運動構造を理解しておく必要がある。本授業では、学生同士により、スポーツ健康科学を中心とした知識や運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、コミュニケーション力を養いその知識と技能と教養の育成を目指す。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 到達目標に挙げられている技の名称、動きについて調べる。動きやすい服装。
成績評価の方法	
評価方法	「学習態度・取り組む姿勢（40%）、実技テスト（マット・跳び箱・鉄棒）（60%）」
評価基準	1. マット運動の「伸膝前転」、「前方倒立回転跳び」に関して正確に動きを理解し、実施することができる。（定期試験・平常点） 2. とび箱運動の「屈身とび」、「前方倒立回転跳び」に関して正確に動きを理解し、実施することができる。（定期試験・平常点） 3. 鉄棒運動の「け上がり」、「後方支持回転」、「前方支持回転」、「振りとび下り」に関して正確に動きを理解し、実施することができるできる。（定期試験・平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
各課題の実施時に評価や助言を受講者にフィードバックする。	

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

器械運動の授業づくり≪大修館書店≫　※参考資料とする。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：原田睦巳 E-mail: mtharada@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 火・水・木・金曜日10：00～12：00　【1号館5階1511体操競技研究室】
担当教員の実務経験	本授業では以下の経験を持つ教員がその実務経験を活かして専門的な指導を行う. ・実業団チームで体操競技の競技者として活動し、オリンピックの出場経験またはオリンピック金メダルを含む国際大会で複数の入賞経験を持つ教員。 ・日本体操協会強化部員またはコーチ育成委員会委員として実務経験を持つ教員。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間(授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 ・中高教諭1種免許（保健体育）の必修科目 ・新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・前期授業の目標ならびに授業展開について理解する。 マット運動： ・体の前屈によって回転を得る系統技の段階的練習を行う。（前転・開脚前転・倒立前転を習得する） 鉄棒運動： ・鉄棒の特性について理解し、体験する。	（授業方法） マット運動： ・前期授業の目標ならびに授業展開について説明する。 ・前転・開脚前転・倒立前転の段階指導を行う。 鉄棒運動： ・鉄棒の特性について解説する。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前転・開脚前転・倒立前転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 鉄棒の特性について理解しておくこと。
2	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 伸膝前転の映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 支持回転系の技の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
3	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 ・前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 ・前方倒立回転跳びの導入動作の指導を行う。 鉄棒運動： ・伸膝前方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
4	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 ・前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動： 後方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 ・前方倒立回転跳びの段階的指導を行う。 鉄棒運動： ・後方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
5	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動： ・伸膝後方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動： ・伸膝後方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 伸膝後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 伸膝前転、前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 伸膝後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。

6	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。開脚跳び・かかえ込み跳びを習得する。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。開脚跳び・かかえ込み跳びの段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 開脚跳び・かかえ込み跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 開脚跳び・かかえ込み跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 足かけ上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
7	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。屈身とび・大屈身とびを習得する。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。屈身とび・大屈身とびの段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
8	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 屈身とびのテストを行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 屈身とびのテストを行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
9	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 回転系技群（頭はね跳び）の練習を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 回転系技群（頭はね跳び）の段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 頭はね跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 頭はね跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
10	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	授業内容） ・とび箱運動： 回転系技群（前方倒立回転跳び）の練習を行う。 ・鉄棒運動： 振りとび下りの練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 回転系技群（前方倒立回転跳び）の段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 振りとび下りの段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 振りとび下りについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
11	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 前方倒立回転跳びのテストを行う。 ・鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施する。	（授業方法） ・とび箱運動： 前方倒立回転跳びのテストを行う。 ・鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。

12	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 鉄棒運動のテストを行う。 ・長なわとび： 長なわとびの基本のとび方について理解し、実践する。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 鉄棒運動のテストを行う。 ・長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての説明および実践を行う。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 鉄棒運動の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方について映像を閲覧しておくこと。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）について映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
13	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）を習得する。 ・長なわとび： ８の字とび・0字とびを実践する。 ・平均台： 体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 ・長なわとび： ８の字とび・0字とびの指導を行う。 ・平均台： 体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： 長なわとびの８の字とび・0字とびについて映像を閲覧しておくこと。 ・平均台： 体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）について映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： 体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
14	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の練習を行う。 ・長なわとび： ダブルダッチを実践する。 ・平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 ・長なわとび： ダブルダッチの指導を行う。 ・平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： ダブルダッチについて映像を閲覧しておくこと。 ・平均台： バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）について映像を閲覧しておくこと 【復習：1.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における後ろ振り上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・授業全体を通して、各技の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解する。
		授業内で課題を習得できなかった学生を対象にテストを実施する。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】器械運動　［女子①］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】器械運動　［女子①］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	原田　睦巳	ナンバリング	COA1134
担当教員	原田　睦巳、冨田　洋之、新竹　優子、Kozachenko Olga、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	器械運動における、初級程度の技から中級程度の技を体系的に習得するとともに、段階的指導の学習や幇助の体験を通じて指導法に関する知識を身につけることをねらいとする。また、安全面の配慮、基礎的な知識の発展や実施、正しい基礎的な知識と運動構造の理解を深める。さらに本授業では、スポーツ健康科学を中心とした教養や知識、運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、コミュニケーション力を養いスポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能と教養の育成を目指す。
到達目標	1. マット運動の「伸膝前転」、「前方倒立回転跳び」が実施できる。 2. とび箱運動の「屈身とび」、「前方倒立回転跳び」が実施できる。 3. 鉄棒運動の「け上がり」、「後方支持回転」、「前方支持回転」、「振りとび下り」が実施できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の選択必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	安全面の配慮、基礎的な知識の発展、実施が望まれるため、正しい基礎的な知識と運動構造を理解しておく必要がある。本授業では、学生同士により、スポーツ健康科学を中心とした知識や運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、コミュニケーション力を養いその知識と技能と教養の育成を目指す。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 到達目標に挙げられている技の名称、動きについて調べる。動きやすい服装。
成績評価の方法	
評価方法	「学習態度・取り組む姿勢（40%）、実技テスト（マット・跳び箱・鉄棒）（60%）」
評価基準	1. マット運動の「伸膝前転」、「前方倒立回転跳び」に関して正確に動きを理解し、実施することができる。（定期試験・平常点） 2. とび箱運動の「屈身とび」、「前方倒立回転跳び」に関して正確に動きを理解し、実施することができる。（定期試験・平常点） 3. 鉄棒運動の「け上がり」、「後方支持回転」、「前方支持回転」、「振りとび下り」に関して正確に動きを理解し、実施することができる。（定期試験・平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
各課題の実施時に評価や助言を受講者にフィードバックする。	

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

器械運動の授業づくり≪大修館書店≫　※参考資料とする。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：原田睦巳 E-mail: mtharada@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 火・水・木・金曜日10：00～12：00　【1号館5階1511体操競技研究室】
担当教員の実務経験	本授業では以下の経験を持つ教員がその実務経験を活かして専門的な指導を行う. ・実業団チームで体操競技の競技者として活動し、オリンピックの出場経験またはオリンピック金メダルを含む国際大会で複数の入賞経験を持つ教員。 ・日本体操協会強化部員またはコーチ育成委員会委員として実務経験を持つ教員。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間(授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 ・中高教諭1種免許（保健体育）の必修科目 ・新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・前期授業の目標ならびに授業展開について理解する。 マット運動： ・体の前屈によって回転を得る系統技の段階的練習を行う。（前転・開脚前転・倒立前転を習得する） 鉄棒運動： ・鉄棒の特性について理解し、体験する。	（授業方法） マット運動： ・前期授業の目標ならびに授業展開について説明する。 ・前転・開脚前転・倒立前転の段階指導を行う。 鉄棒運動： ・鉄棒の特性について解説する。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前転・開脚前転・倒立前転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 鉄棒の特性について理解しておくこと。
2	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 伸膝前転の映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 支持回転系の技の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
3	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 ・前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 ・前方倒立回転跳びの導入動作の指導を行う。 鉄棒運動： ・伸膝前方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
4	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 ・前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動： 後方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 ・前方倒立回転跳びの段階的指導を行う。 鉄棒運動： ・後方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
5	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動： ・伸膝後方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動： ・伸膝後方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 伸膝後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 伸膝前転、前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 伸膝後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。

6	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。開脚跳び・かかえ込み跳びを習得する。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。開脚跳び・かかえ込み跳びの段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 開脚跳び・かかえ込み跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 開脚跳び・かかえ込み跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 足かけ上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
7	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。屈身とび・大屈身とびを習得する。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。屈身とび・大屈身とびの段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
8	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 屈身とびのテストを行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 屈身とびのテストを行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
9	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 回転系技群（頭はね跳び）の練習を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 回転系技群（頭はね跳び）の段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 頭はね跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 頭はね跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
10	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	授業内容） ・とび箱運動： 回転系技群（前方倒立回転跳び）の練習を行う。 ・鉄棒運動： 振りとび下りの練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 回転系技群（前方倒立回転跳び）の段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 振りとび下りの段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 振りとび下りについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
11	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 前方倒立回転跳びのテストを行う。 ・鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施する。	（授業方法） ・とび箱運動： 前方倒立回転跳びのテストを行う。 ・鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。

12	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 鉄棒運動のテストを行う。 ・長なわとび： 長なわとびの基本のとび方について理解し、実践する。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 鉄棒運動のテストを行う。 ・長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての説明および実践を行う。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 鉄棒運動の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方について映像を閲覧しておくこと。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）について映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
13	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）を習得する。 ・長なわとび： ８の字とび・0字とびを実践する。 ・平均台： 体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 ・長なわとび： ８の字とび・0字とびの指導を行う。 ・平均台： 体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： 長なわとびの８の字とび・0字とびについて映像を閲覧しておくこと。 ・平均台： 体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）について映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： 体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
14	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の練習を行う。 ・長なわとび： ダブルダッチを実践する。 ・平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 ・長なわとび： ダブルダッチの指導を行う。 ・平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： ダブルダッチについて映像を閲覧しておくこと。 ・平均台： バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）について映像を閲覧しておくこと 【復習：1.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における後ろ振り上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・授業全体を通して、各技の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解する。
		授業内で課題を習得できなかった学生を対象にテストを実施する。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】器械運動　［女子②］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】器械運動　［女子②］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	原田　睦巳	ナンバリング	COA1134
担当教員	原田　睦巳、冨田　洋之、新竹　優子、Kozachenko Olga、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	器械運動における、初級程度の技から中級程度の技を体系的に習得するとともに、段階的指導の学習や幇助の体験を通じて指導法に関する知識を身につけることをねらいとする。また、安全面の配慮、基礎的な知識の発展や実施、正しい基礎的な知識と運動構造の理解を深める。さらに本授業では、スポーツ健康科学を中心とした教養や知識、運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、コミュニケーション力を養いスポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能と教養の育成を目指す。
到達目標	1. マット運動の「伸膝前転」、「前方倒立回転跳び」が実施できる。 2. とび箱運動の「屈身とび」、「前方倒立回転跳び」が実施できる。 3. 鉄棒運動の「け上がり」、「後方支持回転」、「前方支持回転」、「振りとび下り」が実施できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の選択必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	安全面の配慮、基礎的な知識の発展、実施が望まれるため、正しい基礎的な知識と運動構造を理解しておく必要がある。本授業では、学生同士により、スポーツ健康科学を中心とした知識や運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、コミュニケーション力を養いその知識と技能と教養の育成を目指す。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 到達目標に挙げられている技の名称、動きについて調べる。動きやすい服装。
成績評価の方法	
評価方法	「学習態度・取り組む姿勢（40%）、実技テスト（マット・跳び箱・鉄棒）（60%）」
評価基準	1. マット運動の「伸膝前転」、「前方倒立回転跳び」に関して正確に動きを理解し、実施することができる。（定期試験・平常点） 2. とび箱運動の「屈身とび」、「前方倒立回転跳び」に関して正確に動きを理解し、実施することができる。（定期試験・平常点） 3. 鉄棒運動の「け上がり」、「後方支持回転」、「前方支持回転」、「振りとび下り」に関して正確に動きを理解し、実施することができる。（定期試験・平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

各課題の実施時に評価や助言を受講者にフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

器械運動の授業づくり≪大修館書店≫　※参考資料とする。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：原田睦巳 E-mail: mtharada@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 火・水・木・金曜日10：00～12：00　【1号館5階1511体操競技研究室】
担当教員の実務経験	本授業では以下の経験を持つ教員がその実務経験を活かして専門的な指導を行う. ・実業団チームで体操競技の競技者として活動し、オリンピックの出場経験またはオリンピック金メダルを含む国際大会で複数の入賞経験を持つ教員。 ・日本体操協会強化部員またはコーチ育成委員会委員として実務経験を持つ教員。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間(授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 ・中高教諭1種免許（保健体育）の必修科目 ・新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・前期授業の目標ならびに授業展開について理解する。 マット運動： ・体の前屈によって回転を得る系統技の段階的練習を行う。（前転・開脚前転・倒立前転を習得する） 鉄棒運動： ・鉄棒の特性について理解し、体験する。	（授業方法） マット運動： ・前期授業の目標ならびに授業展開について説明する。 ・前転・開脚前転・倒立前転の段階指導を行う。 鉄棒運動： ・鉄棒の特性について解説する。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前転・開脚前転・倒立前転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 鉄棒の特性について理解しておくこと。
2	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 伸膝前転の映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 支持回転系の技の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
3	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 ・前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 ・前方倒立回転跳びの導入動作の指導を行う。 鉄棒運動： ・伸膝前方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
4	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 ・前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動： 後方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 ・前方倒立回転跳びの段階的指導を行う。 鉄棒運動： ・後方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
5	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動： ・伸膝後方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動： ・伸膝後方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 伸膝後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 伸膝前転、前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 伸膝後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。

6	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。開脚跳び・かかえ込み跳びを習得する。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。開脚跳び・かかえ込み跳びの段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 開脚跳び・かかえ込み跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 開脚跳び・かかえ込み跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 足かけ上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
7	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。屈身とび・大屈身とびを習得する。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。屈身とび・大屈身とびの段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
8	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 屈身とびのテストを行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 屈身とびのテストを行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
9	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 回転系技群（頭はね跳び）の練習を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 回転系技群（頭はね跳び）の段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 頭はね跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 頭はね跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
10	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	授業内容） ・とび箱運動： 回転系技群（前方倒立回転跳び）の練習を行う。 ・鉄棒運動： 振りとび下りの練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 回転系技群（前方倒立回転跳び）の段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 振りとび下りの段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 振りとび下りについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
11	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 前方倒立回転跳びのテストを行う。 ・鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施する。	（授業方法） ・とび箱運動： 前方倒立回転跳びのテストを行う。 ・鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。

12	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 鉄棒運動のテストを行う。 ・長なわとび： 長なわとびの基本のとび方について理解し、実践する。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 鉄棒運動のテストを行う。 ・長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての説明および実践を行う。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 鉄棒運動の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方について映像を閲覧しておくこと。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）について映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
13	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）を習得する。 ・長なわとび： ８の字とび・0字とびを実践する。 ・平均台： 体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 ・長なわとび： ８の字とび・0字とびの指導を行う。 ・平均台： 体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： 長なわとびの８の字とび・0字とびについて映像を閲覧しておくこと。 ・平均台： 体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）について映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： 体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
14	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の練習を行う。 ・長なわとび： ダブルダッチを実践する。 ・平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 ・長なわとび： ダブルダッチの指導を行う。 ・平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： ダブルダッチについて映像を閲覧しておくこと。 ・平均台： バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）について映像を閲覧しておくこと 【復習：1.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における後ろ振り上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・授業全体を通して、各技の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解する。
		授業内で課題を習得できなかった学生を対象にテストを実施する。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	堀池　巧	ナンバリング	COA1135
担当教員	堀池　巧、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」「バスケットボール」「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして，それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 この授業では「自身ができる」と「他者にできるようにさせる」ことを柱に、サッカーにおける基礎技術の習得と向上、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術を理解し、仲間とともに競技をする楽しさを学び、さらには、サッカーの基本原則や競技規則について理解を深めます。また、サッカーにおけるテーマごとの様々なトレーニングメニューを体験しサッカー理解を高める。またグループごとにトレーニングをプランニングし中学・高校の授業で指導実践できる技術を身につける。
到達目標	１．サッカーにおける基礎技術を習得しプレーすることができる。 ２．サッカーの原理原則および楽しさを理解しプレーすることができる。 ３．サッカーの競技規則に基づいてプレーおよび審判をすることができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	集団スポーツであるサッカーは、人との関わりが非常に重要なスポーツである。本授業では、サッカーにおいて特に必要な能力である「個人スキル」「コミュニケーション力」「対人調整力」を養い、スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養を身につけることを目指す。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 出来る限り怪我等で見学することなく実技の授業に参加すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 適切な服装（スネ当てを含む）とシューズの準備をすること。
成績評価の方法	
評価方法	実技レベルおよび知識理解：50%、授業内試験：30%、授業態度および取り組む姿勢：20%の割合で評価する。
評価基準	１．サッカーにおけるボールをコントロールする・パスする・ドリブルするといった基本技術、個人戦術を正確に行うことができるかゲームの中で評価する。 ２．サッカー知識として、サッカーの競技規則、審判法等を理解しているか筆記試験で評価する。 ３．取組状況、出席回数によって受講態度を評価する。
試験・課題に対するフィードバック方法	
授業の中でキーファクター、ポイント等を提示し、解説する。	

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Laws of the Game　サッカー競技規則	（公財）日本サッカー協会			

参考文献

【テキスト・参考書等】
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：堀池 巧 E-mail：t-horiike@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日・10時～12時、木曜日・10時～12時、 場所：1号館5階 サッカー研究室　1529室
担当教員の実務経験	サッカー日本代表及びＪリーグでの競技経験があり、Ｓ級コーチライセンスの指導資格を保有する教員が実技を指導する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 　科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 　施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 　JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	堀池	ガイダンス：サッカーの授業に対しての理解を深める。	授業の進め方、諸注意を説明する。	（予習：0.5時間） シラバスを確認に授業について理解・把握をする （復習：0.5時間） サッカー競技の特性について理解を深める。
2	堀池	サッカーのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングについて理解を深める。	どのようなボールフィーリング・コーディネーショントレーニングがあるのか解説する。	（予習：0.5時間） ボールフィーリング・コーディネーショントレーニングとは何か調べる。 （復習：0.5時間） サッカーのためのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングを１つ開発する。
3	堀池	パス＆コントロールのテクニックについて理解を深める。	対面パスを中心に両足を使いながらのドリルを行う。	（予習：0.5時間） 有効な視野の確保、ボールの置き所とはどういうことか調べる。 （復習：　0.5時間） 両足で、なおかつ正確性を追求しながらパスとコントロールができているか復習を行う。
4	堀池	ドリブル・ヘディングについて理解を深める。	様々な部位を使ったドリブル、ドリブルターン、１対１のドリブル等を行う。ヘディングの基本姿勢について解説する。	（予習：0.5時間） ドリブル・ヘディングについて調べる。 （復習：0.5時間） 周りを見ながら、スピードの変化を加えながら、フェイントを入れながらドリブルできるか復習する。 ヘディングの際のボールを当てる場所を確認する。
5	堀池	ゴールキーピングとシュートの基本について理解を深める。	ゴールキーパー育成のための様々な基本動作を体験し、実際にシュートを受ける。	（予習：0.5時間） 現代のゴールキーパーに求められることは何か調べる。 （復習：0.5時間） ゴールキーパーの基本動作について正しくできるかどうか復習する。
6	堀池	コンビネーション(クロスを含む)からのシュートについて理解を深める。	コンビネーションからのドリルシュートを行い、クロスボールはなぜ有効なのか解説する。	（予習：0.5時間） クロスからの攻撃はなぜ有効なのか調べる。 （復習：0.5時間） 積極的にシュートを狙う姿勢を常に持ちながら、GKとの駆け引きや、正確に狙うことができるか復習する。
7	堀池	ボールを奪う：守備の個人戦術について理解を深める。	守備の個人戦術について解説し、ドリルトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） 守備におけるチャレンジの優先順位、ポジションの原則について調べてくる。 （復習：0.5時間） 守備における個人戦術を理解し、プレッシャーをかけ、奪うチャンスを逃さずボールが奪えるか復習する。
8	堀池	ポゼッションについて理解を深める。	ボールを失わないためのテクニックドリルを行い、解説する。	（予習：0.5時間） ポゼションとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） 相手選手にボールを奪われることなく、判断の変化に対応しながらポジションを変化させ、ボールを奪われないか復習する。
9	堀池	攻守におけるオフ・ザ・ボールの動きについて理解を深める。	オフ・ザ・ボールの動きについて解説をする。	（予習：0.5時間） 攻守におけるオフ・ザ・ボールとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） ゲーム中、オフ・ザ・ボールの状況を理解した上でプレーできているかどうか復習する。
10	堀池	突破：ゴールを奪うために必要な突破の動きについて理解を深める。	突破の動きについて解説し、様々なトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） サッカーにおける突破の動きについて調べてくること。 （復習：0.5時間） 相手との間合い、フェイント、スピードの変化、方向の変化を加えながら突破ができているか復習する。
11	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） システムの変遷と各ポジションの役割について調べる。 （復習：0.5時間） システムとポジションについて理解すると共に、映像を通して実際のゲームでどのようになっているか復習する。

12	堀池	セットプレー：現代サッカーにおけるセットプレーの重要性について理解を深める。	セットプレーゲームを行い、解説をする。	（予習：0.5時間） セットプレーはなぜ攻撃側に有利なのか調べる。 （復習：0.5時間） 得点に直接結びつくようなセットプレーができるかどうか復習する。
13	堀池	授業内試験：競技規則 講義：ルールと審判法、競技規則について。	授業内試験後に競技規則について説明し、知識をより深める。	（予習：1時間） サッカーにおける競技規則について理解を深める。 （復習：1時間） サッカーのルールについて、「サッカーの競技規則」をWeb上で閲覧し復習する。
14	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） チームごとに主導権を握るサッカーをするためには何が必要かミーティングを行う。 （復習：0.5時間） チームごとに試合の分析を行い、課題解決のために何が必要か授業を振り返りながら復習を行う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中嶽　誠	ナンバリング	COA1135
担当教員	中嶽　誠、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」、「バスケットボール」、「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして、それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 中学校・高等学校におけるバスケットボールの授業実践力の形成を図ることをねらいとする。また、バスケットボールの知識と技術を習得し、それらをゲームの場面で発揮できる能力を身につける必要がある。学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、実践するとともに、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。この授業科目では、バスケットボールの特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、技術の向上と戦術の理解を深める。そして、「ボール操作」と「ボールを持っていないときの動き」の個人技術やチーム戦術・ゲーム運営・審判法を習得し、ゲームの中で実践する。
到達目標	１.学習指導要領に記載されているバスケットボールの目標や内容等について理解できる。 ２.バスケットボールの知識や技術を理解し、実戦できる。 ３.練習方法の考案や審判法を理解して、実践的指導力を身に付ける。 ４.チームで作戦を立て、ゲームを展開できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ科学分野の「専門的な知識と技能」及び「専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 指定されたクラスを受講すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 バスケットボールに適した服装・シューズを必ず着用し、腕時計・指輪・ピアス等の装飾品は身に着けないで下さい。また、時間厳守で行います。少し早く来て各自で「シュート練習」を行って下さい。
成績評価の方法	
評価方法	スキルテスト（40%）、ゲーム評価（10%）、筆記ミニテスト（10%）、平常点（40%）を総合して評価する。
評価基準	１.バスケットボール競技の「ボール操作」を実践できる。（スキルテスト） ２.ゲームの中でシュートを決めたりチーム内で作戦を立てたりして、ゲームに勝利することができる。（ゲーム評価） ３.バスケットボール競技の競技規則を理解できる。（筆記ミニテスト） ４.取組状況によって受講態度を評価する。（平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
授業中にポイントを解説します。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献	
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 授業中に適宜資料配布する。	
その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：中嶽 誠 E-mail：mknakada [at] juntendo.ac.jp ※［at］を@に変更してください。 【オフィスアワー】 日時：水曜日12時00分～12時40分 場所：1号館5階1520室 バスケットボール研究室
担当教員の実務経験	高校現場において保健体育科教諭の業務にあたっていた経験を生かし、バスケットボールの授業に求められる知識や技術をわかりやすく指導します。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中嶽	ガイダンス、バスケットボールの特性	授業目的及び概要、シラバス、評価方法、学習指導要領の内容等について説明する。	（予習：0.5時間） バスケットボールの競技特性を調べる。 （復習：0.5時間） 紹介された書籍やホームページ等を閲覧する。
2	中嶽	ボール操作①ボールハンドリング	ボールの持ち方やスピンのかけ方等を解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、ボールハンドリングについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールの持ち方やスピンのかけ方等のポイントを整理する。
3	中嶽	ボール操作②パス・ドリブル	パスやドリブルについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、パスとドリブルの種類について調べる。 （復習：0.5時間） パスとドリブルのポイントを整理する。
4	中嶽	ボール操作③シュート	シュートについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、シュートについて調べる。 （復習：0.5時間） シュートのポイントを整理する。
5	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト①	個人スキルアップテスト①を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
6	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト②	個人スキルアップテスト②を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
7	中嶽	ボールを持たないときの動き①	攻撃の際、味方から離れる動きや人のいない場所に移動する動き、相手ゴール前の空間にバランスよく侵入する動きを解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からボールを持たないときの動きについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールを持たないときの動きについて整理する。
8	中嶽	ボールを持たないときの動き②	守備における動きについて理解し、実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からマンツーマンとゾーンのディフェンスについて調べる。 （復習：0.5時間） マンツーマンとゾーンのディフェンスについて整理する。
9	中嶽	バスケットボールの基礎知識（競技規則と審判法）	競技規則と審判法について解説し、簡易ゲームの中で実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール競技規則の書籍等を読み、コートやリングについて調べる。 （復習：0.5時間） 授業で理解した競技規則や審判法を整理する。
10	中嶽	競技規則に関する筆記ミニテスト グループ学習①	前回理解した競技規則について筆記ミニテストを実施する。 グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：1.5時間） 筆記テストに解答できるように、前回の内容を学習する。また、バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） 筆記テストの内容を再確認する。 チームごとで練習内容について話し合う。

11	中嶽	グループ学習②	グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：0.5時間） バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） チームごとで練習内容について話し合う。
12	中嶽	ゲームの実践①	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	（予習：0.5時間） チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
13	中嶽	ゲームの実践②	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
14	中嶽	ゲームの実践③	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	小俣　貴洋	ナンバリング	COA1135
担当教員	小俣　貴洋、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	ハンドボールのゲームにおいて、基本的な技術の習得とそれらを活かすための戦術的思考力の向上を目指し、ゲームを中心とした授業を展開する。具体的には、毎授業の前半に技術トレーニング（パス・キャッチ・シュートなど）、戦術トレーニング（相手に対応する・味方と協調するプレー）を行い、それらを活かして，後半のゲームを行う。また、ルールを理解し、審判の基礎を学ぶと共に、オフィシャルを含め、他者と協力してゲームの運営を行うことを目指す。また、これらを通じた指導能力の形成を図る。
到達目標	１，ゲームにおいて基本的な技術である、シュート、フェイント、パスができる。 ２，基本的なルールを説明できる。 ３，セットオフェンスやディフェンスのチーム戦術を理解し、仲間と協調してゲームに適用することができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「コミュニケーション力」、「倫理観」及び「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 ピアス等のアクセサリーを外すこと。

成績評価の方法

評価方法	受講態度(30%)、実技試験(30%)、定期試験（30%）リーグ戦でのゲームパフォーマンス(10%)を総合して評価する。
評価基準	１，ジャグリングやジャンプスローなど十分にボールを操作できる。（実技試験） ２，コートの図示およびラインの名称，基本的なルールの説明ができる。（定期試験） ３，リーグ戦におけるゲームパフォーマンスおよび，授業中の発言によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

実技試験，定期試験に関しては，必要に応じて個別に解説，指導を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

この科目では，必ず用意しなければならないテキストはありません。必要な資料は，授業中に適宜，配布します。また，ハンドボールの理論・知識の習得に際して，下記ウエブページを参考にすることを勧めます。
http://handball.kikirara.jp

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 t-komata＊juntendo.ac.jp 上記のアドレスは，セキュリティ上の理由で＠を＊に変更しています。 メールを送る際は，＊を＠に修正してください。 【オフィスアワー】 授業開始前，および終了後に対応します。また随時，メールでの質問も受け付けます。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間３０時間と授業外学修時間１５時間の計４５時間の学習を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業科目は、中・高保健体育1種免許の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目として位置づけられています。 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法および授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	小俣貴洋	（授業内容） オリエンテーション（授業のルールやハンドボールの競技特性に関する説明）	座学を行う．授業のルールの確認，ハンドボールのルールの確認を行う．	【予習：0.5時間】 シラバスを参考に授業のルール，学習目標を確認する． 【復習：0.5時間】 動画を見て，ハンドボールのルールおよびプレーを確認する．

2	小俣貴洋	(授業内容) ルール，競技特性について	大まかなルール，競技特性について理解するため，初歩的なミニゲームを行う．ミニゲームでの得点を増やすため，グループワークによってルール追加を行う．	【予習：1時間】 ゲームの動画を見て，競技の特性について確認する． 【復習：0.5時間】 ルールについて，配布したプリントをもとに整理する．
3	小俣貴洋	（授業内容） ボールハンドリングを始めとしてパス・キャッチ，シュート，ゴールキーピングなどの基本動作について	ボールハンドリング，パス・キャッチ，シュート，ゴールキーピングなど基本動作を練習する．それらを発揮するために初歩的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，基本動作の種類，方法について確認する． 【復習：0.5時間】 基本動作について整理する．
4	小俣貴洋	（授業内容） 走りながらのパス・キャッチ，助走をつけたシュートなど基本動作の応用について	走りながらのパス・キャッチ，助走をつけたシュートなど基本動作の応用練習を行う．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，シュートの種類を確認しておく． 【復習：0.5時間】 ステップ・ランニング・スタンディング・ジャンプシュートの違いを整理する．
5	小俣貴洋	(授業内容) 攻撃におけるフェイント動作およびディフェンス	攻撃におけるフェイント動作，ディフェンスの動作を練習する．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，ディフェンスの種類を確認する． 【復習：0.5時間】 人中心のディフェンスとボール中心のディフェンスの違いを整理する．
6	小俣貴洋	（授業内容） 速攻	速攻の種類について説明し，速攻（素早く相手ゴールまでボールを運び，シュートを行う）練習を行う．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，速攻の種類について確認する． 【復習：0.5時間】 １次速攻，2次速攻，3次速攻の違いを整理する．
7	小俣貴洋	（授業内容） ポジションの解説①サイドポジションの特徴	サイドポジションの特徴について解説を行い，必要とされるサイドシュートを練習する．それを発揮するためにオールコートで6人対6人のゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，サイドプレイヤーの特徴を確認する． 【復習：0.5時間】 サイドプレイヤーの特徴，必要な技術について整理する．
8	小俣貴洋	（授業内容） ポジションの解説②ポストポジションの特徴	ポストポジションの特徴について解説を行い，必要とされる基本的技術（ターンおよびフォールシュート）を練習する．それらを発揮するために正式なゲーム（オールコート，7人対7人）を行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，ポストプレイヤーの特徴を確認する． 【復習：0.5時間】 ポストプレイヤーの特徴，必要な技術について整理する．

9	小俣貴洋	（授業内容） ルールと審判技術，リーグ戦.	審判の技術，各反則のジェスチャーについて解説を行う．グループに分け，リーグ戦を行う．その際，選手交代や出場時間，ポジションなどはグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判に必要な技術，動作の意味を理解し，罰則時のジェスチャーを正しく覚える. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
10	小俣貴洋	（授業内容） グループ戦術（基礎）	グループ戦術の基礎（３～４人で協働して，ボールを保持したり，ノーマークを作ったりする）を練習する．それらを発揮するため，リーグ戦を行う．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 映像を見て，３～４人のグループ戦術の確認を確認する. 【復習：0.5時間】 ３～４人のグループにおける戦術行為を行う際のポイントに関して整理する.
11	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦①	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：1時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
12	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦②	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
13	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦③	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
14	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦④	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（サッカー）［男子①］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（サッカー）［男子①］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	堀池　巧	ナンバリング	COA1135
担当教員	堀池　巧、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」「バスケットボール」「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして，それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 この授業では「自身ができる」と「他者にできるようにさせる」ことを柱に、サッカーにおける基礎技術の習得と向上、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術を理解し、仲間とともに競技をする楽しさを学び、さらには、サッカーの基本原則や競技規則について理解を深めます。また、サッカーにおけるテーマごとの様々なトレーニングメニューを体験しサッカー理解を高める。またグループごとにトレーニングをプランニングし中学・高校の授業で指導実践できる技術を身につける。
到達目標	１．サッカーにおける基礎技術を習得しプレーすることができる。 ２．サッカーの原理原則および楽しさを理解しプレーすることができる。 ３．サッカーの競技規則に基づいてプレーおよび審判をすることができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	集団スポーツであるサッカーは、人との関わりが非常に重要なスポーツである。本授業では、サッカーにおいて特に必要な能力である「個人スキル」「コミュニケーション力」「対人調整力」を養い、スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養を身につけることを目指す。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 出来る限り怪我等で見学することなく実技の授業に参加すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 適切な服装（スネ当てを含む）とシューズの準備をすること。

成績評価の方法

評価方法	実技レベルおよび知識理解：50%、授業内試験：30%、授業態度および取り組む姿勢：20%の割合で評価する。
評価基準	１．サッカーにおけるボールをコントロールする・パスする・ドリブルするといった基本技術、個人戦術を正確に行うことができるかゲームの中で評価する。 ２．サッカー知識として、サッカーの競技規則、審判法等を理解しているか筆記試験で評価する。 ３．取組状況、出席回数によって受講態度を評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法

授業の中でキーファクター、ポイント等を提示し、解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Laws of the Game　サッカー競技規則	（公財）日本サッカー協会			

参考文献

【テキスト・参考書等】
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：堀池 巧 E-mail：t-horiike@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日・10時～12時、木曜日・10時～12時、 場所：1号館5階 サッカー研究室　1529室
担当教員の実務経験	サッカー日本代表及びＪリーグでの競技経験があり、Ｓ級コーチライセンスの指導資格を保有する教員が実技を指導する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 　科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 　施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 　JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	堀池	ガイダンス：サッカーの授業に対しての理解を深める。	授業の進め方、諸注意を説明する。	（予習：0.5時間） シラバスを確認に授業について理解・把握をする （復習：0.5時間） サッカー競技の特性について理解を深める。
2	堀池	サッカーのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングについて理解を深める。	どのようなボールフィーリング・コーディネーショントレーニングがあるのか解説する。	（予習：0.5時間） ボールフィーリング・コーディネーショントレーニングとは何か調べる。 （復習：0.5時間） サッカーのためのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングを１つ開発する。
3	堀池	パス＆コントロールのテクニックについて理解を深める。	対面パスを中心に両足を使いながらのドリルを行う。	（予習：0.5時間） 有効な視野の確保、ボールの置き所とはどういうことか調べる。 （復習：　0.5時間） 両足で、なおかつ正確性を追求しながらパスとコントロールができているか復習を行う。
4	堀池	ドリブル・ヘディングについて理解を深める。	様々な部位を使ったドリブル、ドリブルターン、１対１のドリブル等を行う。ヘディングの基本姿勢について解説する。	（予習：0.5時間） ドリブル・ヘディングについて調べる。 （復習：0.5時間） 周りを見ながら、スピードの変化を加えながら、フェイントを入れながらドリブルできるか復習する。 ヘディングの際のボールを当てる場所を確認する。
5	堀池	ゴールキーピングとシュートの基本について理解を深める。	ゴールキーパー育成のための様々な基本動作を体験し、実際にシュートを受ける。	（予習：0.5時間） 現代のゴールキーパーに求められることは何か調べる。 （復習：0.5時間） ゴールキーパーの基本動作について正しくできるかどうか復習する。
6	堀池	コンビネーション(クロスを含む)からのシュートについて理解を深める。	コンビネーションからのドリルシュートを行い、クロスボールはなぜ有効なのか解説する。	（予習：0.5時間） クロスからの攻撃はなぜ有効なのか調べる。 （復習：0.5時間） 積極的にシュートを狙う姿勢を常に持ちながら、GKとの駆け引きや、正確に狙うことができるか復習する。
7	堀池	ボールを奪う：守備の個人戦術について理解を深める。	守備の個人戦術について解説し、ドリルトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） 守備におけるチャレンジの優先順位、ポジションの原則について調べてくる。 （復習：0.5時間） 守備における個人戦術を理解し、プレッシャーをかけ、奪うチャンスを逃さずボールが奪えるか復習する。
8	堀池	ポゼッションについて理解を深める。	ボールを失わないためのテクニックドリルを行い、解説する。	（予習：0.5時間） ポゼションとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） 相手選手にボールを奪われることなく、判断の変化に対応しながらポジションを変化させ、ボールを奪われないか復習する。
9	堀池	攻守におけるオフ・ザ・ボールの動きについて理解を深める。	オフ・ザ・ボールの動きについて解説をする。	（予習：0.5時間） 攻守におけるオフ・ザ・ボールとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） ゲーム中、オフ・ザ・ボールの状況を理解した上でプレーできているかどうか復習する。
10	堀池	突破：ゴールを奪うために必要な突破の動きについて理解を深める。	突破の動きについて解説し、様々なトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） サッカーにおける突破の動きについて調べてくること。 （復習：0.5時間） 相手との間合い、フェイント、スピードの変化、方向の変化を加えながら突破ができているか復習する。
11	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） システムの変遷と各ポジションの役割について調べる。 （復習：0.5時間） システムとポジションについて理解すると共に、映像を通して実際のゲームでどのようになっているか復習する。

12	堀池	セットプレー：現代サッカーにおけるセットプレーの重要性について理解を深める。	セットプレーゲームを行い、解説をする。	（予習：0.5時間） セットプレーはなぜ攻撃側に有利なのか調べる。 （復習：0.5時間） 得点に直接結びつくようなセットプレーができるかどうか復習する。
13	堀池	授業内試験：競技規則 講義：ルールと審判法、競技規則について。	授業内試験後に競技規則について説明し、知識をより深める。	（予習：1時間） サッカーにおける競技規則について理解を深める。 （復習：1時間） サッカーのルールについて、「サッカーの競技規則」をWeb上で閲覧し復習する。
14	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） チームごとに主導権を握るサッカーをするためには何が必要かミーティングを行う。 （復習：0.5時間） チームごとに試合の分析を行い、課題解決のために何が必要か授業を振り返りながら復習を行う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（サッカー）［男子③］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（サッカー）［男子③］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	堀池　巧	ナンバリング	COA1135
担当教員	堀池　巧、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」「バスケットボール」「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして，それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 この授業では「自身ができる」と「他者にできるようにさせる」ことを柱に、サッカーにおける基礎技術の習得と向上、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術を理解し、仲間とともに競技をする楽しさを学び、さらには、サッカーの基本原則や競技規則について理解を深めます。また、サッカーにおけるテーマごとの様々なトレーニングメニューを体験しサッカー理解を高める。またグループごとにトレーニングをプランニングし中学・高校の授業で指導実践できる技術を身につける。
到達目標	１．サッカーにおける基礎技術を習得しプレーすることができる。 ２．サッカーの原理原則および楽しさを理解しプレーすることができる。 ３．サッカーの競技規則に基づいてプレーおよび審判をすることができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	集団スポーツであるサッカーは、人との関わりが非常に重要なスポーツである。本授業では、サッカーにおいて特に必要な能力である「個人スキル」「コミュニケーション力」「対人調整力」を養い、スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養を身につけることを目指す。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 出来る限り怪我等で見学することなく実技の授業に参加すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 適切な服装（スネ当てを含む）とシューズの準備をすること。

成績評価の方法

評価方法	実技レベルおよび知識理解：50%、授業内試験：30%、授業態度および取り組む姿勢：20%の割合で評価する。
評価基準	１．サッカーにおけるボールをコントロールする・パスする・ドリブルするといった基本技術、個人戦術を正確に行うことができるかゲームの中で評価する。 ２．サッカー知識として、サッカーの競技規則、審判法等を理解しているか筆記試験で評価する。 ３．取組状況、出席回数によって受講態度を評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法

授業の中でキーファクター、ポイント等を提示し、解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Laws of the Game　サッカー競技規則	（公財）日本サッカー協会			

参考文献

【テキスト・参考書等】
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：堀池 巧 E-mail：t-horiike@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日・10時～12時、木曜日・10時～12時、 場所：1号館5階 サッカー研究室　1529室
担当教員の実務経験	サッカー日本代表及びＪリーグでの競技経験があり、Ｓ級コーチライセンスの指導資格を保有する教員が実技を指導する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 　科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 　施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 　JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	堀池	ガイダンス：サッカーの授業に対しての理解を深める。	授業の進め方、諸注意を説明する。	（予習：0.5時間） シラバスを確認に授業について理解・把握をする （復習：0.5時間） サッカー競技の特性について理解を深める。
2	堀池	サッカーのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングについて理解を深める。	どのようなボールフィーリング・コーディネーショントレーニングがあるのか解説する。	（予習：0.5時間） ボールフィーリング・コーディネーショントレーニングとは何か調べる。 （復習：0.5時間） サッカーのためのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングを１つ開発する。
3	堀池	パス＆コントロールのテクニックについて理解を深める。	対面パスを中心に両足を使いながらのドリルを行う。	（予習：0.5時間） 有効な視野の確保、ボールの置き所とはどういうことか調べる。 （復習：　0.5時間） 両足で、なおかつ正確性を追求しながらパスとコントロールができているか復習を行う。
4	堀池	ドリブル・ヘディングについて理解を深める。	様々な部位を使ったドリブル、ドリブルターン、１対１のドリブル等を行う。ヘディングの基本姿勢について解説する。	（予習：0.5時間） ドリブル・ヘディングについて調べる。 （復習：0.5時間） 周りを見ながら、スピードの変化を加えながら、フェイントを入れながらドリブルできるか復習する。 ヘディングの際のボールを当てる場所を確認する。
5	堀池	ゴールキーピングとシュートの基本について理解を深める。	ゴールキーパー育成のための様々な基本動作を体験し、実際にシュートを受ける。	（予習：0.5時間） 現代のゴールキーパーに求められることは何か調べる。 （復習：0.5時間） ゴールキーパーの基本動作について正しくできるかどうか復習する。
6	堀池	コンビネーション(クロスを含む)からのシュートについて理解を深める。	コンビネーションからのドリルシュートを行い、クロスボールはなぜ有効なのか解説する。	（予習：0.5時間） クロスからの攻撃はなぜ有効なのか調べる。 （復習：0.5時間） 積極的にシュートを狙う姿勢を常に持ちながら、GKとの駆け引きや、正確に狙うことができるか復習する。
7	堀池	ボールを奪う：守備の個人戦術について理解を深める。	守備の個人戦術について解説し、ドリルトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） 守備におけるチャレンジの優先順位、ポジションの原則について調べてくる。 （復習：0.5時間） 守備における個人戦術を理解し、プレッシャーをかけ、奪うチャンスを逃さずボールが奪えるか復習する。
8	堀池	ポゼッションについて理解を深める。	ボールを失わないためのテクニックドリルを行い、解説する。	（予習：0.5時間） ポゼションとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） 相手選手にボールを奪われることなく、判断の変化に対応しながらポジションを変化させ、ボールを奪われないか復習する。
9	堀池	攻守におけるオフ・ザ・ボールの動きについて理解を深める。	オフ・ザ・ボールの動きについて解説をする。	（予習：0.5時間） 攻守におけるオフ・ザ・ボールとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） ゲーム中、オフ・ザ・ボールの状況を理解した上でプレーできているかどうか復習する。
10	堀池	突破：ゴールを奪うために必要な突破の動きについて理解を深める。	突破の動きについて解説し、様々なトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） サッカーにおける突破の動きについて調べてくること。 （復習：0.5時間） 相手との間合い、フェイント、スピードの変化、方向の変化を加えながら突破ができているか復習する。
11	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） システムの変遷と各ポジションの役割について調べる。 （復習：0.5時間） システムとポジションについて理解すると共に、映像を通して実際のゲームでどのようになっているか復習する。

12	堀池	セットプレー：現代サッカーにおけるセットプレーの重要性について理解を深める。	セットプレーゲームを行い、解説をする。	（予習：0.5時間） セットプレーはなぜ攻撃側に有利なのか調べる。 （復習：0.5時間） 得点に直接結びつくようなセットプレーができるかどうか復習する。
13	堀池	授業内試験：競技規則 講義：ルールと審判法、競技規則について。	授業内試験後に競技規則について説明し、知識をより深める。	（予習：1時間） サッカーにおける競技規則について理解を深める。 （復習：1時間） サッカーのルールについて、「サッカーの競技規則」をWeb上で閲覧し復習する。
14	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） チームごとに主導権を握るサッカーをするためには何が必要かミーティングを行う。 （復習：0.5時間） チームごとに試合の分析を行い、課題解決のために何が必要か授業を振り返りながら復習を行う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（サッカー）［男子⑤］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（サッカー）［男子⑤］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	堀池　巧	ナンバリング	COA1135
担当教員	堀池　巧、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」「バスケットボール」「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして，それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 この授業では「自身ができる」と「他者にできるようにさせる」ことを柱に、サッカーにおける基礎技術の習得と向上、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術を理解し、仲間とともに競技をする楽しさを学び、さらには、サッカーの基本原則や競技規則について理解を深めます。また、サッカーにおけるテーマごとの様々なトレーニングメニューを体験しサッカー理解を高める。またグループごとにトレーニングをプランニングし中学・高校の授業で指導実践できる技術を身につける。
到達目標	１．サッカーにおける基礎技術を習得しプレーすることができる。 ２．サッカーの原理原則および楽しさを理解しプレーすることができる。 ３．サッカーの競技規則に基づいてプレーおよび審判をすることができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	集団スポーツであるサッカーは、人との関わりが非常に重要なスポーツである。本授業では、サッカーにおいて特に必要な能力である「個人スキル」「コミュニケーション力」「対人調整力」を養い、スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養を身につけることを目指す。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 出来る限り怪我等で見学することなく実技の授業に参加すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 適切な服装（スネ当てを含む）とシューズの準備をすること。

成績評価の方法

評価方法	実技レベルおよび知識理解：50%、授業内試験：30%、授業態度および取り組む姿勢：20%の割合で評価する。
評価基準	１．サッカーにおけるボールをコントロールする・パスする・ドリブルするといった基本技術、個人戦術を正確に行うことができるかゲームの中で評価する。 ２．サッカー知識として、サッカーの競技規則、審判法等を理解しているか筆記試験で評価する。 ３．取組状況、出席回数によって受講態度を評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法

授業の中でキーファクター、ポイント等を提示し、解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Laws of the Game　サッカー競技規則	（公財）日本サッカー協会			

参考文献

【テキスト・参考書等】
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：堀池 巧 E-mail：t-horiike@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日・10時～12時、木曜日・10時～12時、 場所：1号館5階 サッカー研究室　1529室
担当教員の実務経験	サッカー日本代表及びＪリーグでの競技経験があり、Ｓ級コーチライセンスの指導資格を保有する教員が実技を指導する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 　科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 　施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 　JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	堀池	ガイダンス：サッカーの授業に対しての理解を深める。	授業の進め方、諸注意を説明する。	（予習：0.5時間） シラバスを確認に授業について理解・把握をする （復習：0.5時間） サッカー競技の特性について理解を深める。
2	堀池	サッカーのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングについて理解を深める。	どのようなボールフィーリング・コーディネーショントレーニングがあるのか解説する。	（予習：0.5時間） ボールフィーリング・コーディネーショントレーニングとは何か調べる。 （復習：0.5時間） サッカーのためのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングを１つ開発する。
3	堀池	パス＆コントロールのテクニックについて理解を深める。	対面パスを中心に両足を使いながらのドリルを行う。	（予習：0.5時間） 有効な視野の確保、ボールの置き所とはどういうことか調べる。 （復習：　0.5時間） 両足で、なおかつ正確性を追求しながらパスとコントロールができているか復習を行う。
4	堀池	ドリブル・ヘディングについて理解を深める。	様々な部位を使ったドリブル、ドリブルターン、１対１のドリブル等を行う。ヘディングの基本姿勢について解説する。	（予習：0.5時間） ドリブル・ヘディングについて調べる。 （復習：0.5時間） 周りを見ながら、スピードの変化を加えながら、フェイントを入れながらドリブルできるか復習する。 ヘディングの際のボールを当てる場所を確認する。
5	堀池	ゴールキーピングとシュートの基本について理解を深める。	ゴールキーパー育成のための様々な基本動作を体験し、実際にシュートを受ける。	（予習：0.5時間） 現代のゴールキーパーに求められることは何か調べる。 （復習：0.5時間） ゴールキーパーの基本動作について正しくできるかどうか復習する。
6	堀池	コンビネーション(クロスを含む)からのシュートについて理解を深める。	コンビネーションからのドリルシュートを行い、クロスボールはなぜ有効なのか解説する。	（予習：0.5時間） クロスからの攻撃はなぜ有効なのか調べる。 （復習：0.5時間） 積極的にシュートを狙う姿勢を常に持ちながら、GKとの駆け引きや、正確に狙うことができるか復習する。
7	堀池	ボールを奪う：守備の個人戦術について理解を深める。	守備の個人戦術について解説し、ドリルトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） 守備におけるチャレンジの優先順位、ポジションの原則について調べてくる。 （復習：0.5時間） 守備における個人戦術を理解し、プレッシャーをかけ、奪うチャンスを逃さずボールが奪えるか復習する。
8	堀池	ポゼッションについて理解を深める。	ボールを失わないためのテクニックドリルを行い、解説する。	（予習：0.5時間） ポゼションとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） 相手選手にボールを奪われることなく、判断の変化に対応しながらポジションを変化させ、ボールを奪われないか復習する。
9	堀池	攻守におけるオフ・ザ・ボールの動きについて理解を深める。	オフ・ザ・ボールの動きについて解説をする。	（予習：0.5時間） 攻守におけるオフ・ザ・ボールとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） ゲーム中、オフ・ザ・ボールの状況を理解した上でプレーできているかどうか復習する。
10	堀池	突破：ゴールを奪うために必要な突破の動きについて理解を深める。	突破の動きについて解説し、様々なトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） サッカーにおける突破の動きについて調べてくること。 （復習：0.5時間） 相手との間合い、フェイント、スピードの変化、方向の変化を加えながら突破ができているか復習する。
11	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） システムの変遷と各ポジションの役割について調べる。 （復習：0.5時間） システムとポジションについて理解すると共に、映像を通して実際のゲームでどのようになっているか復習する。

12	堀池	セットプレー：現代サッカーにおけるセットプレーの重要性について理解を深める。	セットプレーゲームを行い、解説をする。	（予習：0.5時間） セットプレーはなぜ攻撃側に有利なのか調べる。 （復習：0.5時間） 得点に直接結びつくようなセットプレーができるかどうか復習する。
13	堀池	授業内試験：競技規則 講義：ルールと審判法、競技規則について。	授業内試験後に競技規則について説明し、知識をより深める。	（予習：1時間） サッカーにおける競技規則について理解を深める。 （復習：1時間） サッカーのルールについて、「サッカーの競技規則」をWeb上で閲覧し復習する。
14	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） チームごとに主導権を握るサッカーをするためには何が必要かミーティングを行う。 （復習：0.5時間） チームごとに試合の分析を行い、課題解決のために何が必要か授業を振り返りながら復習を行う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（サッカー）［女子③］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（サッカー）［女子③］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	島嵜　佑	ナンバリング	COA1135
担当教員	島嵜　佑、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」、「バスケットボール」、「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして，それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 この授業では「自身ができる」と「他者にできるようにさせる」ことを柱に、サッカーにおける基礎技術の習得と向上、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術を理解し、仲間とともに競技をする楽しさを学び、さらには、サッカーの基本原則や競技規則について理解を深めます。また、サッカーにおけるテーマごとの様々なトレーニングメニューを体験しサッカー理解を高める。　またグループごとにトレーニングをプランニングし中学・高校の授業で指導実践できる技術を身につける。
到達目標	１．サッカーにおける基礎技術を習得しプレーすることができる。 ２．サッカーの原理原則および楽しさを理解しプレーすることができる。 ３．サッカーの競技規則に基づいてプレーおよび審判をすることができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ科学分野の「専門的な知識と技能」及び「専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 出来る限り怪我等で見学することなく実技の授業に参加すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 適切な服装（スネ当てを含む）とシューズの準備をすること。
成績評価の方法	
評価方法	実技レベルおよび知識理解：50%、授業内試験：30%、授業態度および取り組む姿勢：20%の割合で評価する。
評価基準	１．サッカーにおける基礎技術を習得しプレーすることができる(実技レベルおよび知識理解)。 ２．サッカーの原理原則および楽しさを理解しプレーすることができる(授業態度および取り組む姿勢)。 ３．サッカーの競技規則に基づいてプレーおよび審判をすることができる(授業内試験)。

試験・課題に対するフィードバック方法

授業の中でキーファクター、ポイント等を提示し、解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領(平成29年告示)	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1579-5	2018年発行
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月）	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1576-4	2018年発行
高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1567-2	2019年発行
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月）	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1568-9	2019年発行

参考文献

「Laws of the Game　サッカー競技規則」公益財団法人日本サッカー協会
授業中に適宜資料を配布する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：堀池 巧 E-mail：t-horiike@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日・10時～12時、木曜日・10時～12時、 場所：1号館5階 サッカー研究室　1529室
担当教員の実務経験	サッカー日本代表及びＪリーグでの競技経験があり、Ｓ級コーチライセンスの指導資格を保有する教員が実技を指導する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	堀池	ガイダンス：サッカーの授業に対しての理解を深める。	授業の進め方、諸注意を説明する。	（予習：0.5時間） シラバスを確認に授業について理解・把握をする （復習：0.5時間） サッカー競技の特性について理解を深める。
2	堀池	サッカーのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングについて理解を深める。	どのようなボールフィーリング・コーディネーショントレーニングがあるのか解説する。	（予習：0.5時間） ボールフィーリング・コーディネーショントレーニングとは何か調べる。 （復習：0.5時間） サッカーのためのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングを１つ開発する。
3	堀池	パス＆コントロールのテクニックについて理解を深める。	対面パスを中心に両足を使いながらのドリルを行う。	（予習：0.5時間） 有効な視野の確保、ボールの置き所とはどういうことか調べる。 （復習：　0.5時間） 両足で、なおかつ正確性を追求しながらパスとコントロールができているか復習を行う。
4	堀池	ドリブル・ヘディングについて理解を深める。	様々な部位を使ったドリブル、ドリブルターン、１対１のドリブル等を行う。ヘディングの基本姿勢について解説する。	（予習：0.5時間） ドリブル・ヘディングについて調べる。 （復習：0.5時間） 周りを見ながら、スピードの変化を加えながら、フェイントを入れながらドリブルできるか復習する。 ヘディングの際のボールを当てる場所を確認する。
5	堀池	ゴールキーピングとシュートの基本について理解を深める。	ゴールキーパー育成のための様々な基本動作を体験し、実際にシュートを受ける。	（予習：0.5時間） 現代のゴールキーパーに求められることは何か調べる。 （復習：0.5時間） ゴールキーパーの基本動作について正しくできるかどうか復習する。
6	堀池	コンビネーション(クロスを含む)からのシュートについて理解を深める。	コンビネーションからのドリルシュートを行い、クロスボールはなぜ有効なのか解説する。	（予習：0.5時間） クロスからの攻撃はなぜ有効なのか調べる。 （復習：0.5時間） 積極的にシュートを狙う姿勢を常に持ちながら、GKとの駆け引きや、正確に狙うことができるか復習する。
7	堀池	ボールを奪う：守備の個人戦術について理解を深める。	守備の個人戦術について解説し、ドリルトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） 守備におけるチャレンジの優先順位、ポジションの原則について調べてくる。 （復習：0.5時間） 守備における個人戦術を理解し、プレッシャーをかけ、奪うチャンスを逃さずボールが奪えるか復習する。
8	堀池	ポゼッションについて理解を深める。	ボールを失わないためのテクニックドリルを行い、解説する	（予習：0.5時間） ポゼションとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） 相手選手にボールを奪われることなく、判断の変化に対応しながらポジションを変化させ、ボールを奪われないか復習する。
9	堀池	攻守におけるオフ・ザ・ボールの動きについて理解を深める。	オフ・ザ・ボールの動きについて解説をする。	（予習：0.5時間） 攻守におけるオフ・ザ・ボールとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） ゲーム中、オフ・ザ・ボールの状況を理解した上でプレーできているかどうか復習する。
10	堀池	突破：ゴールを奪うために必要な突破の動きについて理解を深める。	突破の動きについて解説し、様々なトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） サッカーにおける突破の動きについて調べてくること。 （復習：0.5時間） 相手との間合い、フェイント、スピードの変化、方向の変化を加えながら突破ができているか復習する。
11	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） システムの変遷と各ポジションの役割について調べる。 （復習：0.5時間） システムとポジションについて理解すると共に、映像を通して実際のゲームでどのようになっているか復習する。

12	堀池	セットプレー：現代サッカーにおけるセットプレーの重要性について理解を深める。	セットプレーゲームを行い、解説をする。	（予習：0.5時間） セットプレーはなぜ攻撃側に有利なのか調べる。 （復習：0.5時間） 得点に直接結びつくようなセットプレーができるかどうか復習する。
13	堀池	授業内試験：競技規則 講義：ルールと審判法、競技規則について。	授業内試験後に競技規則について説明し、知識をより深める。	（予習：1時間） サッカーにおける競技規則について理解を深める。 （復習：1時間） サッカーのルールについて、「サッカーの競技規則」をWeb上で閲覧し復習する。
14	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） チームごとに主導権を握るサッカーをするためには何が必要かミーティングを行う。 （復習：0.5時間） チームごとに試合の分析を行い、課題解決のために何が必要か授業を振り返りながら復習を行う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（バスケ）[男子①]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（バスケ）[男子①]	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中嶽　誠	ナンバリング	COA1135
担当教員	中嶽　誠、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」、「バスケットボール」、「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして、それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 中学校・高等学校におけるバスケットボールの授業実践力の形成を図ることをねらいとする。また、バスケットボールの知識と技術を習得し、それらをゲームの場面で発揮できる能力を身につける必要がある。学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、実践するとともに、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。この授業科目では、バスケットボールの特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、技術の向上と戦術の理解を深める。そして、「ボール操作」と「ボールを持っていないときの動き」の個人技術やチーム戦術・ゲーム運営・審判法を習得し、ゲームの中で実践する。
到達目標	１.学習指導要領に記載されているバスケットボールの目標や内容等について理解できる。 ２.バスケットボールの知識や技術を理解し、実戦できる。 ３.練習方法の考案や審判法を理解して、実践的指導力を身に付ける。 ４.チームで作戦を立て、ゲームを展開できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ科学分野の「専門的な知識と技能」及び「専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 指定されたクラスを受講すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 バスケットボールに適した服装・シューズを必ず着用し、腕時計・指輪・ピアス等の装飾品は身に着けないで下さい。また、時間厳守で行います。少し早く来て各自で「シュート練習」を行って下さい。

成績評価の方法

評価方法	スキルテスト（40%）、ゲーム評価（10%）、筆記ミニテスト（10%）、平常点（40%）を総合して評価する。
評価基準	１.バスケットボール競技の「ボール操作」を実践できる。（スキルテスト） ２.ゲームの中でシュートを決めたりチーム内で作戦を立てたりして、ゲームに勝利することができる。（ゲーム評価） ３.バスケットボール競技の競技規則を理解できる。（筆記ミニテスト） ４.取組状況によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中にポイントを解説します。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）

授業中に適宜資料配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：中嶽 誠 E-mail：mknakada [at] juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変更してください。 【オフィスアワー】 日時：水曜日12時00分～12時40分 場所：1号館5階1520室 バスケットボール研究室
担当教員の実務経験	高校現場において保健体育科教諭の業務にあたっていた経験を生かし、バスケットボールの授業に求められる知識や技術をわかりやすく指導します。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中嶽	ガイダンス、バスケットボールの特性	授業目的及び概要、シラバス、評価方法、学習指導要領の内容等について説明する。	（予習：0.5時間） バスケットボールの競技特性を調べる。 （復習：0.5時間） 紹介された書籍やホームページ等を閲覧する。
2	中嶽	ボール操作①ボールハンドリング	ボールの持ち方やスピンのかけ方等を解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、ボールハンドリングについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールの持ち方やスピンのかけ方等のポイントを整理する。
3	中嶽	ボール操作②パス・ドリブル	パスやドリブルについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、パスとドリブルの種類について調べる。 （復習：0.5時間） パスとドリブルのポイントを整理する。
4	中嶽	ボール操作③シュート	シュートについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、シュートについて調べる。 （復習：0.5時間） シュートのポイントを整理する。
5	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト①	個人スキルアップテスト①を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
6	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト②	個人スキルアップテスト②を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
7	中嶽	ボールを持たないときの動き①	攻撃の際、味方から離れる動きや人のいない場所に移動する動き、相手ゴール前の空間にバランスよく侵入する動きを解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からボールを持たないときの動きについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールを持たないときの動きについて整理する。
8	中嶽	ボールを持たないときの動き②	守備における動きについて理解し、実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からマンツーマンとゾーンのディフェンスについて調べる。 （復習：0.5時間） マンツーマンとゾーンのディフェンスについて整理する。
9	中嶽	バスケットボールの基礎知識（競技規則と審判法）	競技規則と審判法について解説し、簡易ゲームの中で実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール競技規則の書籍等を読み、コートやリングについて調べる。 （復習：0.5時間） 授業で理解した競技規則や審判法を整理する。
10	中嶽	競技規則に関する筆記ミニテスト グループ学習①	前回理解した競技規則について筆記ミニテストを実施する。 グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：1.5時間） 筆記テストに解答できるように、前回の内容を学習する。また、バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） 筆記テストの内容を再確認する。 チームごとで練習内容について話し合う。

11	中嶽	グループ学習②	グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：0.5時間） バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） チームごとで練習内容について話し合う。
12	中嶽	ゲームの実践①	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	（予習：0.5時間） チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
13	中嶽	ゲームの実践②	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
14	中嶽	ゲームの実践③	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（バスケ）[男子③]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（バスケ）[男子③]	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中嶽　誠	ナンバリング	COA1135
担当教員	中嶽　誠、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」、「バスケットボール」、「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして、それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 中学校・高等学校におけるバスケットボールの授業実践力の形成を図ることをねらいとする。また、バスケットボールの知識と技術を習得し、それらをゲームの場面で発揮できる能力を身につける必要がある。学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、実践するとともに、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。この授業科目では、バスケットボールの特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、技術の向上と戦術の理解を深める。そして、「ボール操作」と「ボールを持っていないときの動き」の個人技術やチーム戦術・ゲーム運営・審判法を習得し、ゲームの中で実践する。
到達目標	１.学習指導要領に記載されているバスケットボールの目標や内容等について理解できる。 ２.バスケットボールの知識や技術を理解し、実戦できる。 ３.練習方法の考案や審判法を理解して、実践的指導力を身に付ける。 ４.チームで作戦を立て、ゲームを展開できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ科学分野の「専門的な知識と技能」及び「専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 指定されたクラスを受講すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 バスケットボールに適した服装・シューズを必ず着用し、腕時計・指輪・ピアス等の装飾品は身に着けないで下さい。また、時間厳守で行います。少し早く来て各自で「シュート練習」を行って下さい。
成績評価の方法	
評価方法	スキルテスト（40%）、ゲーム評価（10%）、筆記ミニテスト（10%）、平常点（40%）を総合して評価する。
評価基準	１.バスケットボール競技の「ボール操作」を実践できる。（スキルテスト） ２.ゲームの中でシュートを決めたりチーム内で作戦を立てたりして、ゲームに勝利することができる。（ゲーム評価） ３.バスケットボール競技の競技規則を理解できる。（筆記ミニテスト） ４.取組状況によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中にポイントを解説します。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）

授業中に適宜資料配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：中嶽 誠 E-mail：mknakada [at] juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変更してください。 【オフィスアワー】 日時：水曜日12時00分～12時40分 場所：1号館5階1520室 バスケットボール研究室
担当教員の実務経験	高校現場において保健体育科教諭の業務にあたっていた経験を生かし、バスケットボールの授業に求められる知識や技術をわかりやすく指導します。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中嶽	ガイダンス、バスケットボールの特性	授業目的及び概要、シラバス、評価方法、学習指導要領の内容等について説明する。	（予習：0.5時間） バスケットボールの競技特性を調べる。 （復習：0.5時間） 紹介された書籍やホームページ等を閲覧する。
2	中嶽	ボール操作①ボールハンドリング	ボールの持ち方やスピンのかけ方等を解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、ボールハンドリングについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールの持ち方やスピンのかけ方等のポイントを整理する。
3	中嶽	ボール操作②パス・ドリブル	パスやドリブルについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、パスとドリブルの種類について調べる。 （復習：0.5時間） パスとドリブルのポイントを整理する。
4	中嶽	ボール操作③シュート	シュートについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、シュートについて調べる。 （復習：0.5時間） シュートのポイントを整理する。
5	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト①	個人スキルアップテスト①を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
6	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト②	個人スキルアップテスト②を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
7	中嶽	ボールを持たないときの動き①	攻撃の際、味方から離れる動きや人のいない場所に移動する動き、相手ゴール前の空間にバランスよく侵入する動きを解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からボールを持たないときの動きについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールを持たないときの動きについて整理する。
8	中嶽	ボールを持たないときの動き②	守備における動きについて理解し、実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からマンツーマンとゾーンのディフェンスについて調べる。 （復習：0.5時間） マンツーマンとゾーンのディフェンスについて整理する。
9	中嶽	バスケットボールの基礎知識（競技規則と審判法）	競技規則と審判法について解説し、簡易ゲームの中で実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール競技規則の書籍等を読み、コートやリングについて調べる。 （復習：0.5時間） 授業で理解した競技規則や審判法を整理する。
10	中嶽	競技規則に関する筆記ミニテスト グループ学習①	前回理解した競技規則について筆記ミニテストを実施する。 グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：1.5時間） 筆記テストに解答できるように、前回の内容を学習する。また、バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） 筆記テストの内容を再確認する。 チームごとで練習内容について話し合う。

11	中嶽	グループ学習②	グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：0.5時間） バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） チームごとで練習内容について話し合う。
12	中嶽	ゲームの実践①	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	（予習：0.5時間） チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
13	中嶽	ゲームの実践②	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
14	中嶽	ゲームの実践③	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（バスケ）[男子⑤]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（バスケ）[男子⑤]	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中嶽　誠	ナンバリング	COA1135
担当教員	中嶽　誠、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」、「バスケットボール」、「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして、それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 中学校・高等学校におけるバスケットボールの授業実践力の形成を図ることをねらいとする。また、バスケットボールの知識と技術を習得し、それらをゲームの場面で発揮できる能力を身につける必要がある。学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、実践するとともに、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。この授業科目では、バスケットボールの特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、技術の向上と戦術の理解を深める。そして、「ボール操作」と「ボールを持っていないときの動き」の個人技術やチーム戦術・ゲーム運営・審判法を習得し、ゲームの中で実践する。
到達目標	１.学習指導要領に記載されているバスケットボールの目標や内容等について理解できる。 ２.バスケットボールの知識や技術を理解し、実戦できる。 ３.練習方法の考案や審判法を理解して、実践的指導力を身に付ける。 ４.チームで作戦を立て、ゲームを展開できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ科学分野の「専門的な知識と技能」及び「専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 指定されたクラスを受講すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 バスケットボールに適した服装・シューズを必ず着用し、腕時計・指輪・ピアス等の装飾品は身に着けないで下さい。また、時間厳守で行います。少し早く来て各自で「シュート練習」を行って下さい。
成績評価の方法	
評価方法	スキルテスト（40%）、ゲーム評価（10%）、筆記ミニテスト（10%）、平常点（40%）を総合して評価する。
評価基準	１.バスケットボール競技の「ボール操作」を実践できる。（スキルテスト） ２.ゲームの中でシュートを決めたりチーム内で作戦を立てたりして、ゲームに勝利することができる。（ゲーム評価） ３.バスケットボール競技の競技規則を理解できる。（筆記ミニテスト） ４.取組状況によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中にポイントを解説します。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）

授業中に適宜資料配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：中嶽 誠 E-mail：mknakada [at] juntendo.ac.jp ※［at］を@に変更してください。 【オフィスアワー】 日時：水曜日12時00分～12時40分 場所：1号館5階1520室 バスケットボール研究室
担当教員の実務経験	高校現場において保健体育科教諭の業務にあたっていた経験を生かし、バスケットボールの授業に求められる知識や技術をわかりやすく指導します。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中嶽	ガイダンス、バスケットボールの特性	授業目的及び概要、シラバス、評価方法、学習指導要領の内容等について説明する。	（予習：0.5時間） バスケットボールの競技特性を調べる。 （復習：0.5時間） 紹介された書籍やホームページ等を閲覧する。
2	中嶽	ボール操作①ボールハンドリング	ボールの持ち方やスピンのかけ方等を解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、ボールハンドリングについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールの持ち方やスピンのかけ方等のポイントを整理する。
3	中嶽	ボール操作②パス・ドリブル	パスやドリブルについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、パスとドリブルの種類について調べる。 （復習：0.5時間） パスとドリブルのポイントを整理する。
4	中嶽	ボール操作③シュート	シュートについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、シュートについて調べる。 （復習：0.5時間） シュートのポイントを整理する。
5	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト①	個人スキルアップテスト①を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
6	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト②	個人スキルアップテスト②を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
7	中嶽	ボールを持たないときの動き①	攻撃の際、味方から離れる動きや人のいない場所に移動する動き、相手ゴール前の空間にバランスよく侵入する動きを解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からボールを持たないときの動きについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールを持たないときの動きについて整理する。
8	中嶽	ボールを持たないときの動き②	守備における動きについて理解し、実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からマンツーマンとゾーンのディフェンスについて調べる。 （復習：0.5時間） マンツーマンとゾーンのディフェンスについて整理する。
9	中嶽	バスケットボールの基礎知識（競技規則と審判法）	競技規則と審判法について解説し、簡易ゲームの中で実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール競技規則の書籍等を読み、コートやリングについて調べる。 （復習：0.5時間） 授業で理解した競技規則や審判法を整理する。
10	中嶽	競技規則に関する筆記ミニテスト グループ学習①	前回理解した競技規則について筆記ミニテストを実施する。 グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：1.5時間） 筆記テストに解答できるように、前回の内容を学習する。また、バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） 筆記テストの内容を再確認する。 チームごとで練習内容について話し合う。

11	中嶽	グループ学習②	グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：0.5時間） バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） チームごとで練習内容について話し合う。
12	中嶽	ゲームの実践①	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	（予習：0.5時間） チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
13	中嶽	ゲームの実践②	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
14	中嶽	ゲームの実践③	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（バスケ）[女子③]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（バスケ）[女子③]	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中嶽　誠	ナンバリング	COA1135
担当教員	中嶽　誠、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」、「バスケットボール」、「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして、それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 中学校・高等学校におけるバスケットボールの授業実践力の形成を図ることをねらいとする。また、バスケットボールの知識と技術を習得し、それらをゲームの場面で発揮できる能力を身につける必要がある。学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、実践するとともに、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。この授業科目では、バスケットボールの特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、技術の向上と戦術の理解を深める。そして、「ボール操作」と「ボールを持っていないときの動き」の個人技術やチーム戦術・ゲーム運営・審判法を習得し、ゲームの中で実践する。
到達目標	１.学習指導要領に記載されているバスケットボールの目標や内容等について理解できる。 ２.バスケットボールの知識や技術を理解し、実戦できる。 ３.練習方法の考案や審判法を理解して、実践的指導力を身に付ける。 ４.チームで作戦を立て、ゲームを展開できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ科学分野の「専門的な知識と技能」及び「専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 指定されたクラスを受講すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 バスケットボールに適した服装・シューズを必ず着用し、腕時計・指輪・ピアス等の装飾品は身に着けないで下さい。また、時間厳守で行います。少し早く来て各自で「シュート練習」を行って下さい。
成績評価の方法	
評価方法	スキルテスト（40%）、ゲーム評価（10%）、筆記ミニテスト（10%）、平常点（40%）を総合して評価する。
評価基準	１.バスケットボール競技の「ボール操作」を実践できる。（スキルテスト） ２.ゲームの中でシュートを決めたりチーム内で作戦を立てたりして、ゲームに勝利することができる。（ゲーム評価） ３.バスケットボール競技の競技規則を理解できる。（筆記ミニテスト） ４.取組状況によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中にポイントを解説します。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）

授業中に適宜資料配布する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：中嶽 誠 E-mail：mknakada [at] juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変更してください。 【オフィスアワー】 日時：水曜日12時00分～12時40分 場所：1号館5階1520室 バスケットボール研究室
担当教員の実務経験	高校現場において保健体育科教諭の業務にあたっていた経験を生かし、バスケットボールの授業に求められる知識や技術をわかりやすく指導します。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中嶽	ガイダンス、バスケットボールの特性	授業目的及び概要、シラバス、評価方法、学習指導要領の内容等について説明する。	（予習：0.5時間） バスケットボールの競技特性を調べる。 （復習：0.5時間） 紹介された書籍やホームページ等を閲覧する。
2	中嶽	ボール操作①ボールハンドリング	ボールの持ち方やスピンのかけ方等を解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、ボールハンドリングについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールの持ち方やスピンのかけ方等のポイントを整理する。
3	中嶽	ボール操作②パス・ドリブル	パスやドリブルについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、パスとドリブルの種類について調べる。 （復習：0.5時間） パスとドリブルのポイントを整理する。
4	中嶽	ボール操作③シュート	シュートについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、シュートについて調べる。 （復習：0.5時間） シュートのポイントを整理する。
5	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト①	個人スキルアップテスト①を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
6	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト②	個人スキルアップテスト②を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
7	中嶽	ボールを持たないときの動き①	攻撃の際、味方から離れる動きや人のいない場所に移動する動き、相手ゴール前の空間にバランスよく侵入する動きを解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からボールを持たないときの動きについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールを持たないときの動きについて整理する。
8	中嶽	ボールを持たないときの動き②	守備における動きについて理解し、実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からマンツーマンとゾーンのディフェンスについて調べる。 （復習：0.5時間） マンツーマンとゾーンのディフェンスについて整理する。
9	中嶽	バスケットボールの基礎知識（競技規則と審判法）	競技規則と審判法について解説し、簡易ゲームの中で実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール競技規則の書籍等を読み、コートやリングについて調べる。 （復習：0.5時間） 授業で理解した競技規則や審判法を整理する。
10	中嶽	競技規則に関する筆記ミニテスト グループ学習①	前回理解した競技規則について筆記ミニテストを実施する。 グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：1.5時間） 筆記テストに解答できるように、前回の内容を学習する。また、バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） 筆記テストの内容を再確認する。 チームごとで練習内容について話し合う。

11	中嶽	グループ学習②	グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：0.5時間） バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） チームごとで練習内容について話し合う。
12	中嶽	ゲームの実践①	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	（予習：0.5時間） チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
13	中嶽	ゲームの実践②	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
14	中嶽	ゲームの実践③	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（ハンド）[男子①]	授業形態	
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（ハンド）[男子①]	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	勝又　健太	ナンバリング	COA1135
担当教員	勝又　健太、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	ハンドボールのゲームにおいて、基本的な技術の習得とそれらを活かすための戦術的思考力の向上を目指し、ゲームを中心とした授業を展開する。具体的には、毎授業の前半に技術トレーニング（パス・キャッチ・シュートなど）、戦術トレーニング（相手に対応する・味方と協調するプレー）を行い、それらを活かして，後半のゲームを行う。また、ルールを理解し、審判の基礎を学ぶと共に、オフィシャルを含め、他者と協力してゲームの運営を行うことを目指す。また、これらを通じた指導能力の形成を図る。
到達目標	１，ゲームにおいて基本的なテクニックである、シュート、フェイント、パスができる。 ２，基本的なルールを説明できる。 ３，セットオフェンスやディフェンスのチーム戦術を理解し、仲間と協調してゲームに適用することができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「コミュニケーション力」、「倫理観」及び「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	（履修要件） 特になし （履修上の注意） ピアス等のアクセサリーを外すこと。

成績評価の方法	
評価方法	受講態度(30%)、実技試験(30%)、定期試験（30%）リーグ戦でのゲームパフォーマンス(10%)を総合して評価する。
評価基準	１，ジャグリングやジャンプスローなど十分なボールハンドリングができる。（実技試験） ２，コートの図示およびラインの名称，基本的なルールの説明ができる。（定期試験） ３，リーグ戦におけるゲームパフォーマンスおよび，授業中の発言によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

実技試験，定期試験後に関しては，必要に応じて個別に解説，指導を行う.

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

ハンドボールの理論知識の習得に際して，下記ウエブページを参考にしてください。
{http://handball.kikirara.jp}

（連絡先）
k.katsumata.nv@juntendo.ac.jp

その他	
連絡先・オフィスアワー	授業開始前、および終了後に対応します。また随時、メールでの質問も受け付けます。
担当教員の実務経験	
備考	（学修時間） この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と授業外学修時間15時間の計45時間の学習を必要とする内容をもって構成する。 （その他） この授業科目は、中・高保健体育1種免許の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目として位置づけられています。 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法および授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	勝又健太	オリエンテーションを行う．授業のルール，ハンドボールのルールの解説を行う．	初回は座学を行う． 授業のルールの確認，ハンドボールのルールの確認を行う．	(予習0.5時間) シラバスを参考に授業のルール，学習目標を確認する． （復習0.5時間） ハンドボールのルール，プレイを動画を見て確認する．

2	勝又健太	初歩的なゲームを行い，ルールの成り立ち，競技の特性について解説する.	ゲームを行い，ハンドボールのルール，競技特性について理解する.	（予習1時間） ゲーム，競技の特性について動画を見てくる. （復習0.5時間） ルールについて，配布したプリントをもとに整理する.
3	勝又健太	パス・キャッチの基本動作についての解説を行う.	パス・キャッチの基本動作の習得，理解を深める.	（予習0.5時間） 動画を見て，パスの種類，方法について確認する. （復習0.5時間） パスの種類について整理する.
4	勝又健太	シュート動作の基本動作の解説を行う.	シュートの基本動作の習得，それに伴いステップワークの練習を行い，必要な技術の習得.	（予習0.5時間） シュートの種類を動画をみて確認しておく. （復習0.5時間） ステップ・ランニング・スタンディング・ジャンプシュートの違いを整理する.
5	勝又健太	速攻を中心としたゲームの解説を行う.	速攻の種類の説明，スピードを持ってシュートまでの動作の動きを習得.	【予習：0.5時間】 動画を見て，速攻の種類について確認する. 【復習：0.5時間】 １次速攻，2次速攻，3次速攻の違いを整理する.
6	勝又健太	ディフェンス技術の習得	マンツーマンディフェンスを中心とし，ディフェンスの技術の習得.	【予習：0.5時間】 動画を見て，ディフェンスの種類を確認する. 【復習：0.5時間】 人中心のディフェンスとボール中心のディフェンスの違いを整理する.
7	勝又健太	ポジションの解説①サイドポジションの特徴について解説を行う.	ポジション（サイド）の特徴について解説を行い，必要とされる技術，特性を理解する.	【予習：0.5時間】 動画を見て，サイドプレイヤーの特徴を確認する. 【復習：0.5時間】 サイドプレイヤーの特徴，必要な技術を整理する.
8	勝又健太	ハンドボールにおける個人技術の習得①フェイント動作について解説を行う.	フェイント動作の種類，ステップワークの解説を行い，必要とされる技術を理解する.	【予習：0.5時間】 動画を見て，フェイントの種類を分類する. 【復習：0.5時間】 オン・ザ・ボールとオフ・ザ・ボールの動きについて整理する.
9	勝又健太	ルールと審判技術の解説を行い，初歩的なリーグ戦を行う.	審判の技術，各反則のジェスチャーについて解説を行う．また，正しく笛を吹く技術を身につける．グループに分けミニゲームのリーグ戦を行う.	【予習：0.5時間】 審判に必要な技術，動作の意味を理解し，罰則時のジェスチャーを正しく覚える. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
10	勝又健太	グループ戦術の解説を行う.	３～４人のグループ戦術の解説を行い，そこで必要とされる戦術行為に関して，理解を深める.	【予習：0.5時間】 映像を見て，３～４人のグループ戦術の確認を確認する. 【復習：0.5時間】 ３～４人のグループにおける戦術行為を行う際のポイントに関して整理する.
11	勝又健太	安全管理に十分な注意を払って，学生主体のリーグ戦を行う①	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する.	【予習：1時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
12	勝又健太	安全管理に十分な注意を払って，学生主体のリーグ戦を行う②	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
13	勝又健太	安全管理に十分な注意を払って，学生主体のリーグ戦を行う③	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
14	勝又健太	安全管理に十分な注意を払って，学生主体のリーグ戦を行う④	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（ハンド）[男子③]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（ハンド）[男子③]	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	小俣　貴洋	ナンバリング	COA1135
担当教員	小俣　貴洋、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	ハンドボールのゲームにおいて、基本的な技術の習得とそれらを活かすための戦術的思考力の向上を目指し、ゲームを中心とした授業を展開する。具体的には、毎授業の前半に技術トレーニング（パス・キャッチ・シュートなど）、戦術トレーニング（相手に対応する・味方と協調するプレー）を行い、それらを活かして，後半のゲームを行う。また、ルールを理解し、審判の基礎を学ぶと共に、オフィシャルを含め、他者と協力してゲームの運営を行うことを目指す。また、これらを通じた指導能力の形成を図る。
到達目標	１，ゲームにおいて基本的な技術である、シュート、フェイント、パスができる。 ２，基本的なルールを説明できる。 ３，セットオフェンスやディフェンスのチーム戦術を理解し、仲間と協調してゲームに適用することができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「コミュニケーション力」、「倫理観」及び「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 ピアス等のアクセサリーを外すこと。

成績評価の方法	
評価方法	受講態度(30%)、実技試験(30%)、定期試験（30%）リーグ戦でのゲームパフォーマンス(10%)を総合して評価する。
評価基準	１，ジャグリングやジャンプスローなど十分にボールを操作できる。（実技試験） ２，コートの図示およびラインの名称，基本的なルールの説明ができる。（定期試験） ３，リーグ戦におけるゲームパフォーマンスおよび，授業中の発言によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

実技試験，定期試験に関しては，必要に応じて個別に解説，指導を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

この科目では，必ず用意しなければならないテキストはありません。必要な資料は，授業中に適宜，配布します。また，ハンドボールの理論・知識の習得に際して，下記ウエブページを参考にすることを勧めます。
http://handball.kikirara.jp

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 t-komata＊juntendo.ac.jp 上記のアドレスは，セキュリティ上の理由で＠を＊に変更しています。 メールを送る際は，＊を＠に修正してください。 【オフィスアワー】 授業開始前，および終了後に対応します。また随時，メールでの質問も受け付けます。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間３０時間と授業外学修時間１５時間の計４５時間の学習を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業科目は、中・高保健体育1種免許の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目として位置づけられています。 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法および授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	小俣貴洋	（授業内容） オリエンテーション（授業のルールやハンドボールの競技特性に関する説明）	座学を行う．授業のルールの確認，ハンドボールのルールの確認を行う．	【予習：0.5時間】 シラバスを参考に授業のルール，学習目標を確認する． 【復習：0.5時間】 動画を見て，ハンドボールのルールおよびプレーを確認する．

2	小俣貴洋	(授業内容) ルール，競技特性について	大まかなルール，競技特性について理解するため，初歩的なミニゲームを行う．ミニゲームでの得点を増やすため，グループワークによってルール追加を行う．	【予習：1時間】 ゲームの動画を見て，競技の特性について確認する． 【復習：0.5時間】 ルールについて，配布したプリントをもとに整理する．
3	小俣貴洋	（授業内容） ボールハンドリングを始めとしてパス・キャッチ，シュート，ゴールキーピングなどの基本動作について	ボールハンドリング，パス・キャッチ，シュート，ゴールキーピングなど基本動作を練習する．それらを発揮するために初歩的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，基本動作の種類，方法について確認する． 【復習：0.5時間】 基本動作について整理する．
4	小俣貴洋	（授業内容） 走りながらのパス・キャッチ，助走をつけたシュートなど基本動作の応用について	走りながらのパス・キャッチ，助走をつけたシュートなど基本動作の応用練習を行う．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，シュートの種類を確認しておく． 【復習：0.5時間】 ステップ・ランニング・スタンディング・ジャンプシュートの違いを整理する．
5	小俣貴洋	(授業内容) 攻撃におけるフェイント動作およびディフェンス	攻撃におけるフェイント動作，ディフェンスの動作を練習する．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，ディフェンスの種類を確認する． 【復習：0.5時間】 人中心のディフェンスとボール中心のディフェンスの違いを整理する．
6	小俣貴洋	（授業内容） 速攻	速攻の種類について説明し，速攻（素早く相手ゴールまでボールを運び，シュートを行う）練習を行う．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，速攻の種類について確認する． 【復習：0.5時間】 １次速攻，2次速攻，3次速攻の違いを整理する．
7	小俣貴洋	（授業内容） ポジションの解説①サイドポジションの特徴	サイドポジションの特徴について解説を行い，必要とされるサイドシュートを練習する．それを発揮するためにオールコートで6人対6人のゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，サイドプレイヤーの特徴を確認する． 【復習：0.5時間】 サイドプレイヤーの特徴，必要な技術について整理する．
8	小俣貴洋	（授業内容） ポジションの解説②ポストポジションの特徴	ポストポジションの特徴について解説を行い，必要とされる基本的技術（ターンおよびフォールシュート）を練習する．それらを発揮するために正式なゲーム（オールコート，7人対7人）を行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，ポストプレイヤーの特徴を確認する． 【復習：0.5時間】 ポストプレイヤーの特徴，必要な技術について整理する．

9	小俣貴洋	（授業内容） ルールと審判技術，リーグ戦.	審判の技術，各反則のジェスチャーについて解説を行う．グループに分け，リーグ戦を行う．その際，選手交代や出場時間，ポジションなどはグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判に必要な技術，動作の意味を理解し，罰則時のジェスチャーを正しく覚える. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
10	小俣貴洋	（授業内容） グループ戦術（基礎）	グループ戦術の基礎（３～４人で協働して，ボールを保持したり，ノーマークを作ったりする）を練習する．それらを発揮するため，リーグ戦を行う．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 映像を見て，３～４人のグループ戦術の確認を確認する. 【復習：0.5時間】 ３～４人のグループにおける戦術行為を行う際のポイントに関して整理する.
11	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦①	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：1時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
12	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦②	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
13	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦③	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
14	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦④	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（ハンド）[男子⑤]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（ハンド）[男子⑤]	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	小俣　貴洋	ナンバリング	COA1135
担当教員	小俣　貴洋、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	ハンドボールのゲームにおいて、基本的な技術の習得とそれらを活かすための戦術的思考力の向上を目指し、ゲームを中心とした授業を展開する。具体的には、毎授業の前半に技術トレーニング（パス・キャッチ・シュートなど）、戦術トレーニング（相手に対応する・味方と協調するプレー）を行い、それらを活かして，後半のゲームを行う。また、ルールを理解し、審判の基礎を学ぶと共に、オフィシャルを含め、他者と協力してゲームの運営を行うことを目指す。また、これらを通じた指導能力の形成を図る。
到達目標	１，ゲームにおいて基本的な技術である、シュート、フェイント、パスができる。 ２，基本的なルールを説明できる。 ３，セットオフェンスやディフェンスのチーム戦術を理解し、仲間と協調してゲームに適用することができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「コミュニケーション力」、「倫理観」及び「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 ピアス等のアクセサリーを外すこと。

成績評価の方法

評価方法	受講態度(30%)、実技試験(30%)、定期試験（30%）リーグ戦でのゲームパフォーマンス(10%)を総合して評価する。
評価基準	１，ジャグリングやジャンプスローなど十分にボールを操作できる。（実技試験） ２，コートの図示およびラインの名称，基本的なルールの説明ができる。（定期試験） ３，リーグ戦におけるゲームパフォーマンスおよび，授業中の発言によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

実技試験，定期試験に関しては，必要に応じて個別に解説，指導を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

この科目では，必ず用意しなければならないテキストはありません。必要な資料は，授業中に適宜，配布します。また，ハンドボールの理論・知識の習得に際して，下記ウエブページを参考にすることを勧めます。
http://handball.kikirara.jp

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 t-komata＊juntendo.ac.jp 上記のアドレスは，セキュリティ上の理由で＠を＊に変更しています。 メールを送る際は，＊を＠に修正してください。 【オフィスアワー】 授業開始前，および終了後に対応します。また随時，メールでの質問も受け付けます。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間３０時間と授業外学修時間１５時間の計４５時間の学習を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業科目は、中・高保健体育1種免許の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目として位置づけられています。 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法および授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	小俣貴洋	（授業内容） オリエンテーション（授業のルールやハンドボールの競技特性に関する説明）	座学を行う．授業のルールの確認，ハンドボールのルールの確認を行う．	【予習：0.5時間】 シラバスを参考に授業のルール，学習目標を確認する． 【復習：0.5時間】 動画を見て，ハンドボールのルールおよびプレーを確認する．

2	小俣貴洋	(授業内容) ルール，競技特性について	大まかなルール，競技特性について理解するため，初歩的なミニゲームを行う．ミニゲームでの得点を増やすため，グループワークによってルール追加を行う．	【予習：1時間】 ゲームの動画を見て，競技の特性について確認する． 【復習：0.5時間】 ルールについて，配布したプリントをもとに整理する．
3	小俣貴洋	（授業内容） ボールハンドリングを始めとしてパス・キャッチ，シュート，ゴールキーピングなどの基本動作について	ボールハンドリング，パス・キャッチ，シュート，ゴールキーピングなど基本動作を練習する．それらを発揮するために初歩的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，基本動作の種類，方法について確認する． 【復習：0.5時間】 基本動作について整理する．
4	小俣貴洋	（授業内容） 走りながらのパス・キャッチ，助走をつけたシュートなど基本動作の応用について	走りながらのパス・キャッチ，助走をつけたシュートなど基本動作の応用練習を行う．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，シュートの種類を確認しておく． 【復習：0.5時間】 ステップ・ランニング・スタンディング・ジャンプシュートの違いを整理する．
5	小俣貴洋	(授業内容) 攻撃におけるフェイント動作およびディフェンス	攻撃におけるフェイント動作，ディフェンスの動作を練習する．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，ディフェンスの種類を確認する． 【復習：0.5時間】 人中心のディフェンスとボール中心のディフェンスの違いを整理する．
6	小俣貴洋	（授業内容） 速攻	速攻の種類について説明し，速攻（素早く相手ゴールまでボールを運び，シュートを行う）練習を行う．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，速攻の種類について確認する． 【復習：0.5時間】 １次速攻，2次速攻，3次速攻の違いを整理する．
7	小俣貴洋	（授業内容） ポジションの解説①サイドポジションの特徴	サイドポジションの特徴について解説を行い，必要とされるサイドシュートを練習する．それを発揮するためにオールコートで6人対6人のゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，サイドプレイヤーの特徴を確認する． 【復習：0.5時間】 サイドプレイヤーの特徴，必要な技術について整理する．
8	小俣貴洋	（授業内容） ポジションの解説②ポストポジションの特徴	ポストポジションの特徴について解説を行い，必要とされる基本的技術（ターンおよびフォールシュート）を練習する．それらを発揮するために正式なゲーム（オールコート，7人対7人）を行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，ポストプレイヤーの特徴を確認する． 【復習：0.5時間】 ポストプレイヤーの特徴，必要な技術について整理する．

9	小俣貴洋	（授業内容） ルールと審判技術，リーグ戦.	審判の技術，各反則のジェスチャーについて解説を行う．グループに分け，リーグ戦を行う．その際，選手交代や出場時間，ポジションなどはグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判に必要な技術，動作の意味を理解し，罰則時のジェスチャーを正しく覚える. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
10	小俣貴洋	（授業内容） グループ戦術（基礎）	グループ戦術の基礎（３～４人で協働して，ボールを保持したり，ノーマークを作ったりする）を練習する．それらを発揮するため，リーグ戦を行う．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 映像を見て，３～４人のグループ戦術の確認を確認する. 【復習：0.5時間】 ３～４人のグループにおける戦術行為を行う際のポイントに関して整理する.
11	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦①	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：1時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
12	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦②	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
13	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦③	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
14	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦④	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（ハンド）[女子③]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（ハンド）[女子③]	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	小俣　貴洋	ナンバリング	COA1135
担当教員	小俣　貴洋、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	ハンドボールのゲームにおいて、基本的な技術の習得とそれらを活かすための戦術的思考力の向上を目指し、ゲームを中心とした授業を展開する。具体的には、毎授業の前半に技術トレーニング（パス・キャッチ・シュートなど）、戦術トレーニング（相手に対応する・味方と協調するプレー）を行い、それらを活かして，後半のゲームを行う。また、ルールを理解し、審判の基礎を学ぶと共に、オフィシャルを含め、他者と協力してゲームの運営を行うことを目指す。また、これらを通じた指導能力の形成を図る。
到達目標	１，ゲームにおいて基本的な技術である、シュート、フェイント、パスができる。 ２，基本的なルールを説明できる。 ３，セットオフェンスやディフェンスのチーム戦術を理解し、仲間と協調してゲームに適用することができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「コミュニケーション力」、「倫理観」及び「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 ピアス等のアクセサリーを外すこと。

成績評価の方法

評価方法	受講態度(30%)、実技試験(30%)、定期試験（30%）リーグ戦でのゲームパフォーマンス(10%)を総合して評価する。
評価基準	１，ジャグリングやジャンプスローなど十分にボールを操作できる。（実技試験） ２，コートの図示およびラインの名称，基本的なルールの説明ができる。（定期試験） ３，リーグ戦におけるゲームパフォーマンスおよび，授業中の発言によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

実技試験，定期試験に関しては，必要に応じて個別に解説，指導を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

この科目では，必ず用意しなければならないテキストはありません。必要な資料は，授業中に適宜，配布します。また，ハンドボールの理論・知識の習得に際して，下記ウエブページを参考にすることを勧めます。
http://handball.kikirara.jp

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 t-komata＊juntendo.ac.jp 上記のアドレスは，セキュリティ上の理由で＠を＊に変更しています。 メールを送る際は，＊を＠に修正してください。 【オフィスアワー】 授業開始前，および終了後に対応します。また随時，メールでの質問も受け付けます。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間３０時間と授業外学修時間１５時間の計４５時間の学習を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業科目は、中・高保健体育1種免許の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目として位置づけられています。 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法および授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	小俣貴洋	（授業内容） オリエンテーション（授業のルールやハンドボールの競技特性に関する説明）	座学を行う．授業のルールの確認，ハンドボールのルールの確認を行う．	【予習：0.5時間】 シラバスを参考に授業のルール，学習目標を確認する． 【復習：0.5時間】 動画を見て，ハンドボールのルールおよびプレーを確認する．

2	小俣貴洋	(授業内容) ルール，競技特性について	大まかなルール，競技特性について理解するため，初歩的なミニゲームを行う．ミニゲームでの得点を増やすため，グループワークによってルール追加を行う．	【予習：1時間】 ゲームの動画を見て，競技の特性について確認する． 【復習：0.5時間】 ルールについて，配布したプリントをもとに整理する．
3	小俣貴洋	（授業内容） ボールハンドリングを始めとしてパス・キャッチ，シュート，ゴールキーピングなどの基本動作について	ボールハンドリング，パス・キャッチ，シュート，ゴールキーピングなど基本動作を練習する．それらを発揮するために初歩的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，基本動作の種類，方法について確認する． 【復習：0.5時間】 基本動作について整理する．
4	小俣貴洋	（授業内容） 走りながらのパス・キャッチ，助走をつけたシュートなど基本動作の応用について	走りながらのパス・キャッチ，助走をつけたシュートなど基本動作の応用練習を行う．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，シュートの種類を確認しておく． 【復習：0.5時間】 ステップ・ランニング・スタンディング・ジャンプシュートの違いを整理する．
5	小俣貴洋	(授業内容) 攻撃におけるフェイント動作およびディフェンス	攻撃におけるフェイント動作，ディフェンスの動作を練習する．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，ディフェンスの種類を確認する． 【復習：0.5時間】 人中心のディフェンスとボール中心のディフェンスの違いを整理する．
6	小俣貴洋	（授業内容） 速攻	速攻の種類について説明し，速攻（素早く相手ゴールまでボールを運び，シュートを行う）練習を行う．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，速攻の種類について確認する． 【復習：0.5時間】 １次速攻，2次速攻，3次速攻の違いを整理する．
7	小俣貴洋	（授業内容） ポジションの解説①サイドポジションの特徴	サイドポジションの特徴について解説を行い，必要とされるサイドシュートを練習する．それを発揮するためにオールコートで6人対6人のゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，サイドプレイヤーの特徴を確認する． 【復習：0.5時間】 サイドプレイヤーの特徴，必要な技術について整理する．
8	小俣貴洋	（授業内容） ポジションの解説②ポストポジションの特徴	ポストポジションの特徴について解説を行い，必要とされる基本的技術（ターンおよびフォールシュート）を練習する．それらを発揮するために正式なゲーム（オールコート，7人対7人）を行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，ポストプレイヤーの特徴を確認する． 【復習：0.5時間】 ポストプレイヤーの特徴，必要な技術について整理する．

9	小俣貴洋	（授業内容） ルールと審判技術，リーグ戦.	審判の技術，各反則のジェスチャーについて解説を行う．グループに分け，リーグ戦を行う．その際，選手交代や出場時間，ポジションなどはグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判に必要な技術，動作の意味を理解し，罰則時のジェスチャーを正しく覚える. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
10	小俣貴洋	（授業内容） グループ戦術（基礎）	グループ戦術の基礎（３～４人で協働して，ボールを保持したり，ノーマークを作ったりする）を練習する．それらを発揮するため，リーグ戦を行う．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 映像を見て，３～４人のグループ戦術の確認を確認する. 【復習：0.5時間】 ３～４人のグループにおける戦術行為を行う際のポイントに関して整理する.
11	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦①	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：1時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
12	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦②	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
13	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦③	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
14	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦④	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	スポーツ健康科学部教員共通	ナンバリング	COA2136
担当教員	スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 本科目は、実技の授業形態で行われる。「バレーボール」、「テニス」、「卓球」など、コート上でネットを挟んで相対するネット型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して、身体や用具を操作してボールを狙った場所に返球する基本理論や技術を学修する。そして、巧みなボールや用具の操作と、適切な位置取りなどの移動によって、相手と攻防を展開しゲームを楽しむとともに、戦術、ルール、審判法等について理解し、指導できる力を養う。 テニスの技能を習得し、その指導法と基礎理論について理解を深める。 テニスの歴史・運動特性等の基礎理論を理解し、グランドストロークやサービスなどの基本動作やラリーなどの対人応用技能とその指導方法を学ぶ。ルールを理解するとともに対人応用技能を活用した戦略・戦術についても学習し、公式ルールに則った試合を出来るようにする。技術の習得には映像などを活用した技術確認を行い、テニス技能の段階的指導法も身につくようにする。 【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「コミュニケーション力」、「倫理観」、「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」及び「専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。 【授業の到達目標】 1.グランドストロークやサービスなどの基本動作やラリーなどの対人的技術が習得できる。 2.ルール、戦略・戦術を理解し対人応用技能に発展させ、試合が行えるようになる。 3.教育現場における安全を考慮したテニス指導方法について理解できる。 4.テニスの段階的指導方法について理解できる。
到達目標	
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 授業内で使用するラケット、ボール等は各自の用具を特別に用意する必要はないが、テニスに適した服装・シューズを必ず着用すること。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 授業中に課す実技課題、定期試験共に授業内で解説する。 【テキスト・参考書等】 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 授業中に、適宜、資料を配布。

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の基準】 1.テニスの歴史や運動特性、基本動作や技術、戦術を理解している。（平常点・定期試験・実技試験） 2.テニスの基本動作、対人ラリーについてその技術を修得している。（平常点・定期試験・実技試験） 3.テニスのルールや技術、安全管理に関しての指導方法を理解している。（平常点・定期試験・実技試験） 4.授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点、課題レポート） 【成績評価の方法】 平常点（10%）、課題レポート（10%）、定期試験（30%）、実技試験（50%）を総合して評価する。
評価基準	

試験・課題に対するフィードバック方法

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当： 髙橋 徹 E-mail：to-takahashi@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 随時、Eメールで質問を受ける。
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 　この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 　JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	高橋	【授業内容】 ガイダンス、テニスの特性 【授業方法】 授業目的及び概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方等について説明をする。		（予習：0.5時間） テニスの歴史や用具について具体的に調べておく。 （復習：0.5時間） 紹介された書籍やホームページ・映像等を閲覧する。
2	高橋	【授業内容】 グランドストローク（フォア、バック）の基本動作を理解し、習得する。 【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合		（予習：0.5時間） プロテニスプレーヤーのグランドストロークの映像を見て確認しておく。 （復習：0.5時間） グランドストロークの基本動作のポイントを整理する。
3	高橋	【授業内容】 ボレー（フォア、バック）の基本動作を理解し、習得する。 【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合		（予習：0.5時間） プロテニスプレーヤーのボレーの映像を見て確認しておく。 （復習：0.5時間） 　ボレーの基本動作のポイントを整理する。
4	高橋	【授業内容】 スマッシュの基本動作を理解し、習得する。 【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合		（予習：0.5時間） プロテニスプレーヤーのスマッシュの映像を見て確認しておく。 （復習：0.5時間） スマッシュの基本動作のポイントを整理する。
5	高橋	【授業内容】 サービス・リターンの基本動作を理解し、習得する。 【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合		（予習：0.5時間） プロテニスプレーヤーのサービス・リターンの映像を見て確認しておく。 （復習：0.5時間） サービス・リターンの基本動作のポイントを整理する。
6	高橋	【授業内容】 グランドストロークの基本動作の対人技能への応用。グランドストロークの速度、回転量などのボールコントロール方法を理解し、習得する。 【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合		（予習：0.5時間） 試合におけるプロテニスプレーヤーのグランドストロークの映像を見て確認しておく。 （復習：0.5時間） グランドストロークのボールコントロール方法のポイントを整理する。
7	高橋	【授業内容】 ボレーの基本動作の対人技能への応用。ボレーの速度、回転量などのボールコントロール方法を理解し、習得する。 【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合		（予習：0.5時間） 試合におけるプロテニスプレーヤーのボレーの映像を見て確認しておく。 （復習：0.5時間） ボレーのボールコントロール方法のポイントを整理する。
8	高橋	【授業内容】 スマッシュの基本動作の対人技能への応用。スマッシュの速度、回転量などのボールコントロール方法を理解し、習得する。 【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合		（予習：0.5時間） 試合におけるプロテニスプレーヤーのグランドストロークの映像を見て確認しておく。 （復習：0.5時間） スマッシュのボールコントロール方法のポイントを整理する。
9	高橋	【授業内容】 サービス・リターンの基本動作の対人技能への応用。サービス・リターンの速度、回転量などのボールコントロール方法を理解し、習得する。 【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合		（予習：0.5時間） 試合におけるプロテニスプレーヤーのサービス・リターンの映像を見て確認しておく。 （復習：0.5時間） サービス・リターンのボールコントロール方法のポイントを整理する。
10	高橋	【授業内容】 公式試合のルールとマナー、テニスコートサイズを理解する。 【授業方法】 プリントによる講義、簡易試合		（予習：1.5時間） インターネットや書籍等により、公式試合のルールやマナー、コートサイズについて調べておく。 （復習：0.5時間） ポイントの数え方や、試合の進め方を整理する。

11	高橋	【授業内容】 シングルスにおける戦術。シングルスにおいての基本的戦術を理解し、習得する。 【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合		（予習：0.5時間） シングルスの試合におけるプロテニスプレーヤーのポイントパターンの映像を見て確認しておく。 （復習：0.5時間） シングルスのポイントパターンを整理する。
12	高橋	【授業内容】 ダブルスにおけるベースラインプレーと戦術。ダブルスにおいての基本的戦術を理解し、習得する。 【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合		（予習：0.5時間） ダブルスの試合におけるプロテニスプレーヤーのポイントパターンの映像を見て確認しておく。 （復習：0.5時間） ダブルスのポイントパターンを整理する。
13	高橋	【授業内容】 シングルスの試合。公式ルールに則り、シングルスの試合をする。 【授業方法】 ウォーミングアップ、試合		（予習：0.5時間） プロテニスプレーヤーのシングルスの試合の映像を見ておく。 （復習：0.5時間） プロテニスプレーヤーの戦術をもとに、映像等を用い授業内での自己の試合の分析をする。
14	高橋	【授業内容】 ダブルスの試合。公式ルールに則り、ダブルスの試合をする。 【授業方法】 ウォーミングアップ、試合		（予習：0.5時間） 　プロテニスプレーヤーのダブルスの試合の映像を見ておく。 （復習：0.5時間） 　プロテニスプレーヤーの戦術をもとに、映像等を用い授業内での自己の試合の分析をする。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	スポーツ健康科学部教員共通	ナンバリング	COA2136
担当教員	スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 　本科目は、実技の授業形態で行われる。「バレーボール」、「テニス」、「卓球」など、コート上でネットを挟んで相対するネット型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して、身体や用具を操作してボールを狙った場所に返球する基本理論や技術を学修する。そして、巧みなボールや用具の操作と、適切な位置取りなどの移動によって、相手と攻防を展開しゲームを楽しむとともに、戦術、ルール、審判法等について理解し、指導できる力を養う。 　　バレーボールの基礎について学び、個人技術の向上、基本的な戦術、ビーチバレー、9人制、6人制のルール等を理解する。また、バレーボールは中学・高校でも授業として行われることも多く、教員採用試験においても様々な都道府県で実技科目として実施されている。本授業では、シラバスに記載してある内容（技術・戦術）について学んでいき、基礎が定着してきたらミニゲームなどの形式でリーグ戦を行っていく。スキルだけの向上ではなく、教員採用試験を視野に入れて授業を行っていく。 【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 技術的な向上はもちろん、バレーボールを通じて、コミュニケーションスキル、対人能力を身に付ける。 【授業の到達目標】 １.バレーボールの特性を生かした基礎的トレーニング方法と学ぶことができる。 ２.各技能の指導法・審判法・ゲーム運営等を学習し、現場教育に即応できる能力を養うことができる。 ３.教員採用試験で行う技術レベルに到達することができる。
到達目標	
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 実技科目のため、ケガなどで長期的にプレーをすることが出来ない場合は予め、相談するようにお願いします。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 課題レポートは翌週の授業で返却して、 定期試験については、評価や助言を各受講者へ口頭にてフィー ドバックする。 【テキスト・参考書等】 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 蔦宗　浩二著、みるみる上達！バレーボール基礎からマスター　学研プラス出版、2015年 教科書として使用するので必ず用意すること。
成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の基準】 １.授業実施回数の2/3以上の出席をもって受験資格とする。 ２.実技試験を行い評価する。 ３.リーグ戦の対戦戦績を評価する。 【成績評価の方法】 授業態度・取り組み４０％、実技試験５０％、リーグ戦戦績１０％の割合で評価する。
評価基準	
試験・課題に対するフィードバック方法	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献	
その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：蔦宗　中田 E-mail：m-nakata@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：１号館5階1515室　火曜～金曜　昼休み　放課後 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生の相談時間とかち合わないようにするため、できるだけ前日までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業30時間と 準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 ［実務経験のある教員による授業］ 高等学校における保健体育教員及びバレーボール部顧問としての経験を生かし、バレーボールに関する実践的な知識・技術を解説する。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 　この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 　JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	蔦宗 中田	【授業内容】 ガイダンス 実技の選択決定 1年間の授業方針について 【授業方法】 希望を調査し、他種目との調整		（復習：1時間） バレーボールの試合の動画を見て、バレーボールがどういう競技なのかを確認する。履修登録が確実に行われているか再確認しておく。
2	蔦宗 中田	【授業内容】 ネットの張り方と円陣パス ・バレーボールネットの正しい張り方 ・バレーボールの準備運動の注意点 ・バレーボールのボールとレクリエーションボールの違い ・グループ分け ・円陣パス サーブ ・アンダーサーブ、フローターサーブ、サイドハンド、ジャンピングドライブ等 【授業方法】 ネットが張れるようになる、またバレーボールを使って楽しむことができるようになる 様々な種類のサーブを学び自分に合ったサーブを見つけることができる。		（予習：0.5時間） 指定されたテキストの範囲を読んでおき、理解し、イメージトレーニングをしておく。 （復習：0.5時間） 学んだ箇所についての留意点や、ポイントなどをテキストを用いてイメージトレーニングを行うなど、良く復習しておく。
3	蔦宗 中田	【授業内容】 映像による基本技術と指導法の鑑賞 ・アンダーパスとオーバーパス ・マンツーマン 【授業方法】 アンダーパスとオーバーパス、マンツーマンができるようになる。		（予習：0.5時間） 指定されたテキストの範囲を読んでおき、理解し、イメージトレーニングをしておく。 （復習：0.5時間） 学んだ箇所についての留意点や、ポイントなどをテキストを用いてイメージトレーニングを行うなど、良く復習しておく。
4	蔦宗 中田	【授業内容】 スパイク ・スイング練習 ・踏み込み　助走 ・直上スパイク 【授業方法】 スパイクのスイング、ステップを分解して練習し、繋げてできるようになる。		（予習：0.5時間） 指定されたテキストの範囲を読んでおき、理解し、イメージトレーニングをしておく。 （復習：0.5時間） 学んだ箇所についての留意点や、ポイントなどをテキストを用いてイメージトレーニングを行うなど、良く復習しておく。
5	蔦宗 中田	【授業内容】 映像による基本技術と指導法の鑑賞 ・サーブレシーブと三段攻撃 【授業方法】 最初は短い位置からサーブレシーブ、三段攻撃とは何かを知ることができる。		（予習：0.5時間） 指定されたテキストの範囲を読んでおき、理解し、イメージトレーニングをしておく。 （復習：0.5時間） 学んだ箇所についての留意点や、ポイントなどをテキストを用いてイメージトレーニングを行うなど、良く復習しておく。
6	蔦宗 中田	【授業内容】 スパイク　・ブロック ・スパイクの打ち込み ・スパイクゲーム ・ブロック面　・手の出し方 【授業方法】 スパイクが打てるようになる。 ブロックの形が習得できる。		（予習：0.5時間） 指定されたテキストの範囲を読んでおき、理解し、イメージトレーニングをしておく。 （復習：0.5時間） 学んだ箇所についての留意点や、ポイントなどをテキストを用いてイメージトレーニングを行うなど、良く復習しておく。
7	蔦宗 中田	【授業内容】 ゲーム（ビーチバレー） ・試合のまわし方 ・ビーチバレーのルール ・3対3ゲーム（練習試合） 【授業方法】 学んだ基礎技術をミニゲームで発揮することができる。		（予習：0.5時間） 指定されたテキストの範囲を読んでおき、理解し、イメージトレーニングをしておく。 （復習：0.5時間） 学んだ箇所についての留意点や、ポイントなどをテキストを用いてイメージトレーニングを行うなど、良く復習しておく。

8	蔦宗 中田	【授業内容】 ゲーム（ビーチバレー） ・3対3ゲーム（公式戦） 【授業方法】 学んだ基礎技術をミニゲームで発揮することができる。 公式戦を行い、勝敗をつける。		（予習：0.5時間） 指定されたテキストの範囲を読んでおき、理解し、イメージトレーニングをしておく。 （復習：0.5時間） 学んだ箇所についての留意点や、ポイントなどをテキストを用いてイメージトレーニングを行うなど、良く復習しておく。
9	蔦宗 中田	【授業内容】 9人制バレー ・9人制バレーのルール ・6人制と9人制の違い ・９人制練習試合 【授業方法】 6人制と9人制の違いを知り、9人制バレーのルールを知ることができる。 9人制の乱打練習を行う。		（予習：0.5時間） 指定されたテキストの範囲を読んでおき、理解し、イメージトレーニングをしておく。 （復習：0.5時間） 学んだ箇所についての留意点や、ポイントなどをテキストを用いてイメージトレーニングを行うなど、良く復習しておく。
10	蔦宗 中田	【授業内容】 ゲーム（9人制バレー） ・公式戦 【授業方法】 9人制のルールを覚えゲームができるようになる。 リーグ戦で勝敗を付け順位を決める。		（予習：0.5時間） 指定されたテキストの範囲を読んでおき、理解し、イメージトレーニングをしておく。 （復習：0.5時間） 学んだ箇所についての留意点や、ポイントなどをテキストを用いてイメージトレーニングを行うなど、良く復習しておく。
11	蔦宗 中田	【授業内容】 6人制バレー ・フォーメーション （W型 ・三角形型フォーメーション） ・ローテーション ・アウト ・オブ ・ポジション 【授業方法】 6人制のルール（ローテーション・アウトオブポジション）を説明し、覚えることができる。		（予習：0.5時間） 指定されたテキストの範囲を読んでおき、理解し、イメージトレーニングをしておく。 （復習：0.5時間） 学んだ箇所についての留意点や、ポイントなどをテキストを用いてイメージトレーニングを行うなど、良く復習しておく。
12	蔦宗 中田	【授業内容】 6人制バレー ・リベロプレーヤーの説明 ・練習試合 【授業方法】 ローテーション・アウトオブポジションの復習と、リベロプレ-ヤーについてしることができる。 ゲームの流れを学ぶ。		（予習：0.5時間） 指定されたテキストの範囲を読んでおき、理解し、イメージトレーニングをしておく。 （復習：0.5時間） 学んだ箇所についての留意点や、ポイントなどをテキストを用いてイメージトレーニングを行うなど、良く復習しておく。
13	蔦宗 中田	【授業内容】 ゲーム（6人制バレー） ・公式戦 【授業方法】 6人制ゲームのルールを覚え、ゲームを行うことができる。 リーグ戦を行い、勝敗をつける。		（予習：0.5時間） 指定されたテキストの範囲を読んでおき、理解し、イメージトレーニングをしておく。 （復習：0.5時間） 学んだ箇所についての留意点や、ポイントなどをテキストを用いてイメージトレーニングを行うなど、良く復習しておく。
14	蔦宗 中田	【授業内容】 ゲーム（6人制バレー） ・公式戦 【授業方法】 6人制ゲームのルールを覚え、ゲームを行うことができる。 リーグ戦を行い、勝敗をつける。		（予習：1時間） 指定されたテキストの範囲を読んでおき、理解し、イメージトレーニングをしておく。 （復習：1時間） 学んだ箇所についての留意点や、ポイントなどをテキストを用いてイメージトレーニングを行うなど、良く復習しておく。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	スポーツ健康科学部教員共通	ナンバリング	COA2136
担当教員	スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 　本科目は、実技の授業形態で行われる。「バレーボール」、「テニス」、「卓球」など、コート上でネットを挟んで相対するネット型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して、身体や用具を操作してボールを狙った場所に返球する基本理論や技術を学修する。そして、巧みなボールや用具の操作と、適切な位置取りなどの移動によって、相手と攻防を展開しゲームを楽しむとともに、戦術、ルール、審判法等について理解し、指導できる力を養う。 中学校・高等学校における卓球の授業実践力の形成を図ることをねらいとする。また、卓球の知識と技術を習得し、それらをゲームの場面で発揮できる能力を身につける必要がある。学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、実践するとともに、作戦を立ててゲームが展開できるようにする。この授業科目では、卓球の特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、技術の向上と戦術の理解を深める。 【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「コミュニケーション力」、「倫理観」、「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」及び「専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。 【授業の到達目標】 １.サービスなどの基本動作やラリーなどの対人的技術が習得できる。 ２.ルール、戦略・戦術を理解し対人応用技能に発展させ、試合が行えるようになる。 ３.教育現場における安全を考慮した卓球の指導方法について理解できる。 ４.卓球の段階的指導方法について理解できる。
到達目標	
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 授業中にポイントを解説する。 【テキスト・参考書等】 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 「書き込みながら自分で学ぶ　生涯スポーツのための卓球テキスト」（三省堂発売、吉田和人著） 授業中に、適宜、資料を配布。
成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の基準】 1.卓球の歴史や運動特性、基本動作や技術、戦術を理解している。（平常点・定期試験・実技試験） 2.卓球の基本動作、対人ラリーについてその技術を修得している。（平常点・定期試験・実技試験） 3.卓球のルールや技術、安全管理に関しての指導方法を理解している。（平常点・定期試験・実技試験） 4.授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点、課題レポート） 【成績評価の方法】 平常点（10%）、課題レポート（10%）、定期試験（30%）、実技試験（50%）を総合して評価する。
評価基準	
試験・課題に対するフィードバック方法	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献	
その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 　担当： 吉田 和人 連絡先については授業内で知らせます。 【オフィスアワー】 随時Eメール等で質問等を受け付けますが、その他詳しいことは、授業中に連絡します。
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 　この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 　この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 　JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	吉田	【授業内容】 ガイダンス 【授業方法】 授業目的及び概要、シラバス、評価方法、学習指導要領の内容等について説明する。		（復習：1時間） 授業で紹介された書籍、映像などから、卓球とはどのようなスポーツであるかについて考察する。
2	吉田	【授業内容】 ラケットの握り方、ラケットによるボール操作、ラリーを続けよう（フォアハンドロング） 【授業方法】 ラケットによるボール操作、ラリー、簡易試合		（予習：0.5時間） 卓球の基本ストローク（ロング、ドライブ、ブロック）について、インターネットなどで調べる。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
3	吉田	【授業内容】 ラリーを続けよう（フォアハンドロング、フォアハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう 【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合		（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
4	吉田	【授業内容】 スポーツとは何か？「スポーツを楽しもう!」、いろいろなゲームを楽しもう 【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合		（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
5	吉田	【授業内容】 ラリーを続けよう（フォアハンドロング、フォアハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう 【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合		（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
6	吉田	【授業内容】 ラリーを続けよう（バックハンドロング、バックハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう 【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合		（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
7	吉田	【授業内容】 コースを狙おう（フォアハンドブロック、フットワーク）、いろいろなゲームを楽しもう 【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合		（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
8	吉田	【授業内容】 コースを狙おう（バックハンドブロック、フォアハンドとバックハンドの切り替え）、いろいろなゲームを楽しもう 【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合		（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
9	吉田	【授業内容】 強打で決めよう（スマッシュ）、シングルスゲームを楽しもう（第一次リーグ戦） 【授業方法】 球出し練習、ラリー、試合		（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
10	吉田	【授業内容】 強打で決めよう（スマッシュ、ロビング）、シングルスゲームを楽しもう（第一次リーグ戦） 【授業方法】 球出し練習、ラリー、試合		（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
11	吉田	【授業内容】 回転を操作しよう（いろいろな回転のサービス）、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦） 【授業方法】 いろいろな回転のサービスからのラリー、球出し練習、簡易試合		（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。

12	吉田	【授業内容】 回転を操作しよう（いろいろな回転のサービスに対するレシーブ）、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦） 【授業方法】 いろいろな回転のサービスに対するレシーブからのラリー、球出し練習、試合		（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
13	吉田	【授業内容】 運動技術習得のコツ「技術習得のメカニズムを知れば、運動音痴が克服される!?」、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦） 【授業方法】 プリントによる講義、試合		（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
14	吉田	【授業内容】 まとめの試合（団体戦） 【授業方法】 プリントによる講義、試合		（予習：1時間） これまでの授業を振り返り、まとめの試合でベストのパフォーマンスを発揮するための作戦を考察する。 （復習：1時間） 授業全体を振り返り、自分の成果と課題を明らかにする。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（バレーボール）[共修①]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（バレーボール）[共修①]	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中田　学	ナンバリング	COA2136
担当教員	中田　学、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 バレーボールの基礎について学び、個人技術の向上、基本的な戦術、ビーチバレー、9人制、6人制のルール等を理解する。また、バレーボールは中学・高校でも授業として行われることも多く、教員採用試験においても様々な都道府県で実技科目として実施されている。本授業では、シラバスに記載してある内容（技術・戦術）について学んでいき、基礎が定着してきたらミニゲームなどの形式でリーグ戦を行っていく。スキルだけの向上ではなく、教員採用試験を視野に入れて授業を行っていく。
到達目標	【授業の到達目標】 1　バレーボールの特性を生かした基礎的トレーニング方法と学ぶことができる 2　各技能の指導法・審判法・ゲーム運営等を学習し、現場教育に即応できる能力を養うことができる 3　教員採用試験で行う技術レベルに到達することができる
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 技術的な向上はもちろん、バレーボールを通じて、コミュニケーションスキル、対人能力を身に付ける。 この科目は、スポーツ科学科において、 「スポーツ科学分野の専門的な実践力」を身に付けるという目的、および学位授与方針の達成に寄与する
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 実技科目のため、ケガなどで長期的にプレーをすることが出来ない場合は予め、相談するようにお願いします。 【履修上の注意】 技術の向上はもちろん、教員採用試験を視野に入れて授業を行っていきます。体調管理と向上心を持って授業に望んで下さい。 体育館で滑らないようなシューズ、できればバレーボールシューズの準備を勧めます。 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。また、遅刻及び早退についても減点を行う
成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 授業態度・取り組み３０%、実技レベル５０%、バレーボールノート１０%、リーグ戦戦績１０%の割合で評価します。
評価基準	【成績評価の基準】 1　授業実施回数の2/3以上の出席をもって受験資格とする。 2　実技試験を行い評価する 3　バレーボールノートを提出し評価する 4　リーグ戦の対戦戦績を評価する
試験・課題に対するフィードバック方法	
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 課題レポートは翌週の授業で返却して、 定期試験については、評価や助言を各受講者へ口頭にてフィー ドバックする。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考
みるみる上達！バレーボール基礎からマスター	蔦宗浩二	学研		授業中に指示します

参考文献	
その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：中田　学 E-mail：m-nakata＊juntendo.ac.jp （＊は@マークです※セキュリティ上の理由） 【オフィスアワー】 日時：火曜～金曜　昼休み　放課後 場所：１号館5階1530室（中田） 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、できるだけ2日前までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	２０１３年～　順天堂大学　「バレーボール」授業担当 小学校からバレーボールを継続しており、2013年からは指導者としてバレーボールに携わっている。また小学生、中学生高校生を対象としたバレーボール教室なども実施しており、学校教育現場に求められる知識、技術、指導法を分かり易く解説する。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［実務経験のある教員による授業］ 高等学校における保健体育教員及びバレーボール部顧問としての経験を生かし、バレーボールに関する実践的な知識・技術を解説する。 【その他】 この授業科目は、中・高保健体育1種免許の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目として位置づけられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中田	(授業内容) ガイダンス 実技の選択決定 1年間の授業方針について	(授業方法) 希望を調査し、他種目との調整	（予習1h）シラバスの内容をよく読んでおく。 （復習1h）授業の方針や概要について理解し、学習ノートを準備する。
2	中田	(授業内容) ネットの張り方と円陣パス ・バレーボールネットの正しい張り方 ・バレーボールの準備運動の注意点 ・バレーボールのボールとレクリエーションボールの違い ・グループ分け ・円陣パス サーブ ・アンダーサーブ、フローターサーブ、サイドハンド、ジャンピングドライブ等	（授業方法） ・ネットの張り方を理解することができる ・バレーボールの導入（アイスブレーキング）を知る	（予習1h）ネットの張り方と円陣パスについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
3	中田	(授業内容) 映像による基本技術と指導法の鑑賞 ・アンダーパスとオーバーパス ・マンツーマン	(授業方法) アンダーパスとオーバーパスのポイント、指導法を理解する マンツーマンができるようになる	（予習1h）アンダーパスとオーバーパスについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
4	中田	(授業内容) スパイク ・スイング練習 ・踏み込み　助走 ・直上スパイク	(授業方法) スパイクのスイング、ステップを分解して練習し、繋げてできるようになる。	（予習1h）スパイクについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
5	中田	(授業内容) ・サーブレシーブと三段攻撃	(授業方法) サーブレシーブのポイント、指導法から三段攻撃とは何かを知ることができる	（予習1h）サーブレシーブと三段攻撃について事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
6	中田	(授業内容) スパイク ・ブロック ・スパイクの打ち込み ・スパイクゲーム ・ブロック面 ・手の出し方	(授業方法) スパイクが打てるようになる。 ブロックの形が習得できる	（予習1h）スパイク・ブロックについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
7	中田	(授業内容) ゲーム（ビーチバレー） ・試合のまわし方 ・ビーチバレーのルール ・3対3ゲーム（練習試合）	(授業方法) ミニゲームを行う。学んだ基礎技術をミニゲームで発揮することができる	（予習1h）ビーチバレーのルールについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
8	中田	(授業内容) ゲーム（ビーチバレー） ・3対3ゲーム（公式戦）	(授業方法) 学んだ基礎技術をミニゲームで発揮することができる公式戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）ゲームの進め方について事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
9	中田	(授業内容) 9人制バレー ・9人制バレーのルール ・6人制と9人制の違い ・９人制練習試合	(授業方法) 6人制と9人制の違いを知り、9人制バレーのルールを知ることができる 9人制の乱打練習を行う	（予習1h）9人制バレーのルールについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。

10	中田	(授業内容) ゲーム（9人制バレー） ・公式戦	(授業方法) 9人制のルールを覚えゲームができるようになる リーグ戦で勝敗を付け順位を決める	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
11	中田	(授業内容) 6人制バレー ・フォーメーション （W型 ・三角形型フォーメーション） ・ローテーション ・アウト ・オブ ・ポジション	(授業方法) 6人制のルール （ローテーション・アウトオブポジション）を説明し、覚えることができる	（予習1h）ローテーション、アウト ・オブ ・ポジションについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
12	中田	(授業内容) 6人制バレー ・リベロプレーヤーの説明 ・練習試合	(授業方法) ローテーション・アウトオブポジションの復習と、リベロプレーヤーについてしることができる ゲームの流れを学ぶ	（予習1h）リベロプレーヤーについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
13	中田	(授業方法) ゲーム（6人制バレー） ・公式戦	（授業内容） 6人制ゲームのルールを覚え、ゲームを行うことができる リーグ戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
14	中田	(授業方法) ゲーム（6人制バレー） ・公式戦	（授業内容） 6人制ゲームのルールを覚え、ゲームを行うことができる リーグ戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
15	中田	定期試験実施 実技テスト 筆記試験ではなく実技テストのみとする スパイク マンツーマン	(授業内容) 　スパイクを３本打ち、１本１０点で 　計３０点で計算 　マンツーマンは片方から打ち、１０　回連続でつなげる。打つ方、レシーブする方両方ができて合格	（予習1h）これまでの授業で学習した技術について確認しておく。 （復習1h）学習した内容について、学習ノートに授業全体のまとめを作成し理解を深める。

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（バレーボール）[共修②]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（バレーボール）[共修②]	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中田　学	ナンバリング	COA2136
担当教員	中田　学、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 バレーボールの基礎について学び、個人技術の向上、基本的な戦術、ビーチバレー、9人制、6人制のルール等を理解する。また、バレーボールは中学・高校でも授業として行われることも多く、教員採用試験においても様々な都道府県で実技科目として実施されている。本授業では、シラバスに記載してある内容（技術・戦術）について学んでいき、基礎が定着してきたらミニゲームなどの形式でリーグ戦を行っていく。スキルだけの向上ではなく、教員採用試験を視野に入れて授業を行っていく。
到達目標	【授業の到達目標】 1　バレーボールの特性を生かした基礎的トレーニング方法と学ぶことができる 2　各技能の指導法・審判法・ゲーム運営等を学習し、現場教育に即応できる能力を養うことができる 3　教員採用試験で行う技術レベルに到達することができる
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 技術的な向上はもちろん、バレーボールを通じて、コミュニケーションスキル、対人能力を身に付ける。 この科目は、スポーツ科学科において、 「スポーツ科学分野の専門的な実践力」を身に付けるという目的、および学位授与方針の達成に寄与する
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 実技科目のため、ケガなどで長期的にプレーをすることが出来ない場合は予め、相談するようにお願いします。 【履修上の注意】 技術の向上はもちろん、教員採用試験を視野に入れて授業を行っていきます。体調管理と向上心を持って授業に望んで下さい。 体育館で滑らないようなシューズ、できればバレーボールシューズの準備を勧めます。 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。また、遅刻及び早退についても減点を行う 【テキスト・参考書等】 蔦宗　浩二著、みるみる上達！バレーボール基礎からマスター　学研プラス出版、2015年 教科書として使用

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 授業態度・取り組み３０%、実技レベル５０%、バレーボールノート１０%、リーグ戦戦績１０%の割合で評価します。
評価基準	【成績評価の基準】 1　授業実施回数の2/3以上の出席をもって受験資格とする。 2　実技試験を行い評価する 3　バレーボールノートを提出し評価する 4　リーグ戦の対戦戦績を評価する

試験・課題に対するフィードバック方法

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
　課題レポートは翌週の授業で返却して、 定期試験については、評価や助言を各受講者へ口頭にてフィー ドバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
みるみる上達！バレーボール基礎からマスター	蔦宗浩二	学研		授業中に指示します

参考文献

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：中田　学 E-mail：m-nakata＊juntendo.ac.jp （＊は@マークです※セキュリティ上の理由） 【オフィスアワー】 日時：火曜～金曜　昼休み　放課後 場所：１号館5階1530室（中田） 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、できるだけ2日前までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	２０１３年～　順天堂大学　「バレーボール」授業担当 小学校からバレーボールを継続しており、2013年からは指導者としてバレーボールに携わっている。また小学生、中学生高校生を対象としたバレーボール教室なども実施しており、学校教育現場に求められる知識、技術、指導法を分かり易く解説する。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［実務経験のある教員による授業］ 高等学校における保健体育教員及びバレーボール部顧問としての経験を生かし、バレーボールに関する実践的な知識・技術を解説する。 【その他】 この授業科目は、中・高保健体育1種免許の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目として位置づけられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中田	(授業内容) ガイダンス 実技の選択決定 1年間の授業方針について	(授業方法) 希望を調査し、他種目との調整	（予習1h）シラバスの内容をよく読んでおく。 （復習1h）授業の方針や概要について理解し、学習ノートを準備する。
2	中田	(授業内容) ネットの張り方と円陣パス ・バレーボールネットの正しい張り方 ・バレーボールの準備運動の注意点 ・バレーボールのボールとレクリエーションボールの違い ・グループ分け ・円陣パス サーブ ・アンダーサーブ、フローターサーブ、サイドハンド、ジャンピングドライブ等	（授業方法） ・ネットの張り方を理解することができる ・バレーボールの導入（アイスブレーキング）を知る	（予習1h）ネットの張り方と円陣パスについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
3	中田	(授業内容) 映像による基本技術と指導法の鑑賞 ・アンダーパスとオーバーパス ・マンツーマン	(授業方法) アンダーパスとオーバーパスのポイント、指導法を理解する マンツーマンができるようになる	（予習1h）アンダーパスとオーバーパスについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
4	中田	(授業内容) スパイク ・スイング練習 ・踏み込み　助走 ・直上スパイク	(授業方法) スパイクのスイング、ステップを分解して練習し、繋げてできるようになる。	（予習1h）スパイクについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
5	中田	(授業内容) ・サーブレシーブと三段攻撃	(授業方法) サーブレシーブのポイント、指導法から三段攻撃とは何かを知ることができる	（予習1h）サーブレシーブと三段攻撃について事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
6	中田	(授業内容) スパイク ・ブロック ・スパイクの打ち込み ・スパイクゲーム ・ブロック面 ・手の出し方	(授業方法) スパイクが打てるようになる。 ブロックの形が習得できる	（予習1h）スパイク・ブロックについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
7	中田	(授業内容) ゲーム（ビーチバレー） ・試合のまわし方 ・ビーチバレーのルール ・3対3ゲーム（練習試合）	(授業方法) ミニゲームを行う。学んだ基礎技術をミニゲームで発揮することができる	（予習1h）ビーチバレーのルールについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
8	中田	(授業内容) ゲーム（ビーチバレー） ・3対3ゲーム（公式戦）	(授業方法) 学んだ基礎技術をミニゲームで発揮することができる公式戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）ゲームの進め方について事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
9	中田	(授業内容) 9人制バレー ・9人制バレーのルール ・6人制と9人制の違い ・９人制練習試合	(授業方法) 6人制と9人制の違いを知り、9人制バレーのルールを知ることができる 9人制の乱打練習を行う	（予習1h）9人制バレーのルールについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。

10	中田	(授業内容) ゲーム（9人制バレー） ・公式戦	(授業方法) 9人制のルールを覚えゲームができるようになる リーグ戦で勝敗を付け順位を決める	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
11	中田	(授業内容) 6人制バレー ・フォーメーション （W型 ・三角形型フォーメーション） ・ローテーション ・アウト ・オブ ・ポジション	(授業方法) 6人制のルール （ローテーション・アウトオブポジション）を説明し、覚えることができる	（予習1h）ローテーション、アウト ・オブ ・ポジションについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
12	中田	(授業内容) 6人制バレー ・リベロプレーヤーの説明 ・練習試合	(授業方法) ローテーション・アウトオブポジションの復習と、リベロプレーヤーについてしることができる ゲームの流れを学ぶ	（予習1h）リベロプレーヤーについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
13	中田	(授業方法) ゲーム（6人制バレー） ・公式戦	（授業内容） 6人制ゲームのルールを覚え、ゲームを行うことができる リーグ戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
14	中田	(授業方法) ゲーム（6人制バレー） ・公式戦	（授業内容） 6人制ゲームのルールを覚え、ゲームを行うことができる リーグ戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
15	中田	定期試験実施 実技テスト 筆記試験ではなく実技テストのみとする スパイク マンツーマン	(授業内容) 　スパイクを３本打ち、１本１０点で 　計３０点で計算 　マンツーマンは片方から打ち、１０　回連続でつなげる。打つ方、レシーブする方両方ができて合格	（予習1h）これまでの授業で学習した技術について確認しておく。 （復習1h）学習した内容について、学習ノートに授業全体のまとめを作成し理解を深める。

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（バレーボール）[共修③]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（バレーボール）[共修③]	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中田　学	ナンバリング	COA2136
担当教員	中田　学、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 バレーボールの基礎について学び、個人技術の向上、基本的な戦術、ビーチバレー、9人制、6人制のルール等を理解する。また、バレーボールは中学・高校でも授業として行われることも多く、教員採用試験においても様々な都道府県で実技科目として実施されている。本授業では、シラバスに記載してある内容（技術・戦術）について学んでいき、基礎が定着してきたらミニゲームなどの形式でリーグ戦を行っていく。スキルだけの向上ではなく、教員採用試験を視野に入れて授業を行っていく。
到達目標	【授業の到達目標】 1　バレーボールの特性を生かした基礎的トレーニング方法と学ぶことができる 2　各技能の指導法・審判法・ゲーム運営等を学習し、現場教育に即応できる能力を養うことができる 3　教員採用試験で行う技術レベルに到達することができる
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 技術的な向上はもちろん、バレーボールを通じて、コミュニケーションスキル、対人能力を身に付ける。 この科目は、スポーツ科学科において、 「スポーツ科学分野の専門的な実践力」を身に付けるという目的、および学位授与方針の達成に寄与する
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 実技科目のため、ケガなどで長期的にプレーをすることが出来ない場合は予め、相談するようにお願いします。 【履修上の注意】 技術の向上はもちろん、教員採用試験を視野に入れて授業を行っていきます。体調管理と向上心を持って授業に望んで下さい。 体育館で滑らないようなシューズ、できればバレーボールシューズの準備を勧めます。 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。また、遅刻及び早退についても減点を行う 【テキスト・参考書等】 蔦宗　浩二著、みるみる上達！バレーボール基礎からマスター　学研プラス出版、2015年 教科書として使用

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 授業態度・取り組み３０%、実技レベル５０%、バレーボールノート１０%、リーグ戦戦績１０%の割合で評価します。
評価基準	【成績評価の基準】 1　授業実施回数の2/3以上の出席をもって受験資格とする。 2　実技試験を行い評価する 3　バレーボールノートを提出し評価する 4　リーグ戦の対戦戦績を評価する

試験・課題に対するフィードバック方法

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
　課題レポートは翌週の授業で返却して、 定期試験については、評価や助言を各受講者へ口頭にてフィー ドバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
みるみる上達！バレーボール基礎からマスター	蔦宗浩二	学研		授業中に指示します

参考文献

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：中田　学 E-mail：m-nakata＊juntendo.ac.jp （＊は@マークです※セキュリティ上の理由） 【オフィスアワー】 日時：火曜～金曜　昼休み　放課後 場所：１号館5階1530室（中田） 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、できるだけ2日前までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	２０１３年～　順天堂大学　「バレーボール」授業担当 小学校からバレーボールを継続しており、2013年からは指導者としてバレーボールに携わっている。また小学生、中学生高校生を対象としたバレーボール教室なども実施しており、学校教育現場に求められる知識、技術、指導法を分かり易く解説する。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［実務経験のある教員による授業］ 高等学校における保健体育教員及びバレーボール部顧問としての経験を生かし、バレーボールに関する実践的な知識・技術を解説する。 【その他】 この授業科目は、中・高保健体育1種免許の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目として位置づけられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中田	(授業内容) ガイダンス 実技の選択決定 1年間の授業方針について	(授業方法) 希望を調査し、他種目との調整	（予習1h）シラバスの内容をよく読んでおく。 （復習1h）授業の方針や概要について理解し、学習ノートを準備する。
2	中田	(授業内容) ネットの張り方と円陣パス ・バレーボールネットの正しい張り方 ・バレーボールの準備運動の注意点 ・バレーボールのボールとレクリエーションボールの違い ・グループ分け ・円陣パス サーブ ・アンダーサーブ、フローターサーブ、サイドハンド、ジャンピングドライブ等	（授業方法） ・ネットの張り方を理解することができる ・バレーボールの導入（アイスブレーキング）を知る	（予習1h）ネットの張り方と円陣パスについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
3	中田	(授業内容) 映像による基本技術と指導法の鑑賞 ・アンダーパスとオーバーパス ・マンツーマン	(授業方法) アンダーパスとオーバーパスのポイント、指導法を理解する マンツーマンができるようになる	（予習1h）アンダーパスとオーバーパスについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
4	中田	(授業内容) スパイク ・スイング練習 ・踏み込み　助走 ・直上スパイク	(授業方法) スパイクのスイング、ステップを分解して練習し、繋げてできるようになる。	（予習1h）スパイクについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
5	中田	(授業内容) ・サーブレシーブと三段攻撃	(授業方法) サーブレシーブのポイント、指導法から三段攻撃とは何かを知ることができる	（予習1h）サーブレシーブと三段攻撃について事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
6	中田	(授業内容) スパイク ・ブロック ・スパイクの打ち込み ・スパイクゲーム ・ブロック面 ・手の出し方	(授業方法) スパイクが打てるようになる。 ブロックの形が習得できる	（予習1h）スパイク・ブロックについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
7	中田	(授業内容) ゲーム（ビーチバレー） ・試合のまわし方 ・ビーチバレーのルール ・3対3ゲーム（練習試合）	(授業方法) ミニゲームを行う。学んだ基礎技術をミニゲームで発揮することができる	（予習1h）ビーチバレーのルールについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
8	中田	(授業内容) ゲーム（ビーチバレー） ・3対3ゲーム（公式戦）	(授業方法) 学んだ基礎技術をミニゲームで発揮することができる公式戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）ゲームの進め方について事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
9	中田	(授業内容) 9人制バレー ・9人制バレーのルール ・6人制と9人制の違い ・９人制練習試合	(授業方法) 6人制と9人制の違いを知り、9人制バレーのルールを知ることができる 9人制の乱打練習を行う	（予習1h）9人制バレーのルールについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。

10	中田	(授業内容) ゲーム（9人制バレー） ・公式戦	(授業方法) 9人制のルールを覚えゲームができるようになる リーグ戦で勝敗を付け順位を決める	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
11	中田	(授業内容) 6人制バレー ・フォーメーション （W型 ・三角形型フォーメーション） ・ローテーション ・アウト ・オブ ・ポジション	(授業方法) 6人制のルール （ローテーション・アウトオブポジション）を説明し、覚えることができる	（予習1h）ローテーション、アウト ・オブ ・ポジションについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
12	中田	(授業内容) 6人制バレー ・リベロプレーヤーの説明 ・練習試合	(授業方法) ローテーション・アウトオブポジションの復習と、リベロプレーヤーについてしることができる ゲームの流れを学ぶ	（予習1h）リベロプレーヤーについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
13	中田	(授業方法) ゲーム（6人制バレー） ・公式戦	（授業内容） 6人制ゲームのルールを覚え、ゲームを行うことができる リーグ戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
14	中田	(授業方法) ゲーム（6人制バレー） ・公式戦	（授業内容） 6人制ゲームのルールを覚え、ゲームを行うことができる リーグ戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
15	中田	定期試験実施 実技テスト 筆記試験ではなく実技テストのみとする スパイク マンツーマン	(授業内容) 　スパイクを３本打ち、１本１０点で 　計３０点で計算 　マンツーマンは片方から打ち、１０　回連続でつなげる。打つ方、レシーブする方両方ができて合格	（予習1h）これまでの授業で学習した技術について確認しておく。 （復習1h）学習した内容について、学習ノートに授業全体のまとめを作成し理解を深める。

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（テニス）[共修①]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（テニス）[共修①]	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	高橋　徹	ナンバリング	COA2136
担当教員	高橋　徹、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	【授業全体の内容】 テニスの技能を習得し、その指導法と基礎理論について理解を深める。 テニスの歴史・運動特性等の基礎理論を理解し、グランドストロークやサービスなどの基本動作やラリーなどの対人応用技能とその指導方法を学ぶ。ルールを理解するとともに対人応用技能を活用した戦略・戦術についても学習し、公式ルールに則った試合を出来るようにする。技術の習得には映像などを活用した技術確認を行い、テニス技能の段階的指導法も身につくようにする。
到達目標	【授業の到達目標】 1.テニスの歴史やコートの図示およびラインの名称，基本的なルールの説明ができる。 2.グランドストロークやサービスなどの基本動作やラリーなどの対人的技術が習得できる。 3ルール、戦略・戦術を理解し基本動作を対人応用技能に発展させ、試合が行えるようになる。 4.教育現場における安全を考慮したテニスの段階的指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、 スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」を身に付ける。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 授業内で使用するラケット、ボール等は各自の用具を特別に用意する必要はないが、テニスに適した服装・シューズを必ず着用すること。

成績評価の方法

評価方法	【成績評価の方法】 定期試験（30%）、実技試験（20%）、ゲーム評価（20%）、平常取り組み点（30%）を総合して評価する。
評価基準	【成績評価の基準】 1.テニスの歴史やコートの図示およびラインの名称，基本的なルールを理解している。（定期試験） 2.テニスの基本動作、対人ラリーについてその技術を修得している。（実技試験） 3.公式ルールに則り、対人応用技能を用い試合が行えるようになる。（ゲーム評価） 4.簡易な段階的指導方法を授業内で示すことが出来る。（平常評価）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中に課す実技課題およびレポートについては、授業内で解説する。
定期試験については、Juntendo Passportを使って解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【テキスト・参考書等】
適宜、Juntendo Passportを通して資料を配布します。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当： 高橋 徹 E-mail：to-takahashi@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 随時、Eメールで質問を受ける。
担当教員の実務経験	競技者として全日本選手権や国体に出場経験を持つ現役テニスコーチが、その経験を活かしてテニスの指導現場において求められる知識や技術を分かりやすく指導する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 ①この授業科目は、中・高保健体育一種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における選択必修科目として位置づけされています。 ②この授業科目は、中・高保健体育一種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目としての球技（ネット型）の選択科目として位置づけされています。 ③新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、授業計画及び成績評価の基準、方法を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	高橋	【授業内容】 ガイダンス、テニスの特性：授業目的及び概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方等について説明をする。	講義	【予習：0.5時間】 テニスの導入方法や用具について具体的に調べておくこと 【復習：0.5時間】 紹介された書籍やホームページ・映像等を閲覧する。
2	高橋	【授業内容】 テニスの導入１：「テニピン」を理解し段階的指導方法を習得する。	「テニピン」専用用具を使用してラリー、ゲームをする。	【予習：0.5時間】 テニスの導入の「テニピン」の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 テニスの導入の「テニピン」の段階的指導方法のポイントを整理する。
3	高橋	【授業内容】 テニスの導入2：「PLAY＆STAYプログラム」を理解し段階的指導方法を習得する。	テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の専用用具を使用してラリー、ゲームをする。	【予習：0.5時間】 テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の段階的指導方法のポイントを整理する。
4	高橋	【授業内容】 グランドストローク（フォア、バック）の基本動作及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びグランドストローク（フォア、バック）の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 グランドストローク（フォア、バック）の基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
5	高橋	【授業内容】 サービス・リターンの基本動作、段階的指導方法及びテニスのルールを理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びサービス、リターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 サービス・リターンの基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
6	高橋	【授業内容】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作、段階的指導方法及びテニスの試合のルールを理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びボレー（フォア、バック）、スマッシュの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
7	高橋	【授業内容】 グランドストロークの基本動作の対人技能への応用：グランドストロークの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのグランドストローク（フォア、バック）の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 グランドストローク（フォア、バック）のコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
8	高橋	【授業内容】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作の対人技能への応用：ボレー（フォア、バック）、スマッシュの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのボレー（フォア、バック）、スマッシュのコントロールの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュのコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
9	高橋	【授業内容】 サービス・リターンの基本動作の対人技能への応用：サービス・リターンの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのサービス・リターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 サービス・リターンのコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
10	高橋	【授業内容】 公式試合のルールとマナー、テニスコートサイズを理解する。	オンコートにて講義、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 インターネットや書籍等により、公式試合のルールやマナー、コートサイズについて調べておく。 【復習：0.5時間】 ポイントの数え方や、試合の進め方を整理する。
11	高橋	【授業内容】 シングルスにおける戦術：シングルスにおいての基本的戦術及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 シングルスの試合におけるプロテニスプレーヤーのポイントパターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 シングルスのポイントパターンを整理する。

12	高橋	【授業内容】 ダブルスにおける戦術：ダブルスにおいての基本的戦術を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 ダブルスの試合におけるプロテニスプレーヤーのポイントパターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ダブルスのポイントパターンを整理する。
13	高橋	【授業内容】 シングルスの試合：公式ルールに則りシングルスの試合をする。	ウォーミングアップ、試合	【予習：1.0時間】 プロテニスプレーヤーのシングルスの試合の映像を見ておく。 【復習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの戦術をもとに、映像等を用い授業内での自己の試合の分析をする。
14	高橋	【授業内容】 ダブルスの試合。公式ルールに則りダブルスの試合をする。	ウォーミングアップ、試合	【予習：1.0時間】 プロテニスプレーヤーのダブルスの試合の映像を見ておく。 【復習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの戦術をもとに、映像等を用い授業内での自己の試合の分析をする。
	高橋	定期試験		
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（テニス）[共修②]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（テニス）[共修②]	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	高橋　徹	ナンバリング	COA2136
担当教員	高橋　徹、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 テニスの技能を習得し、その指導法と基礎理論について理解を深める。 テニスの歴史・運動特性等の基礎理論を理解し、グランドストロークやサービスなどの基本動作やラリーなどの対人応用技能とその指導方法を学ぶ。ルールを理解するとともに対人応用技能を活用した戦略・戦術についても学習し、公式ルールに則った試合を出来るようにする。技術の習得には映像などを活用した技術確認を行い、テニス技能の段階的指導法も身につくようにする。
到達目標	【授業の到達目標】 1.テニスの歴史やコートの図示およびラインの名称，基本的なルールの説明ができる。 2.グランドストロークやサービスなどの基本動作やラリーなどの対人的技術が習得できる。 3ルール、戦略・戦術を理解し基本動作を対人応用技能に発展させ、試合が行えるようになる。 4.教育現場における安全を考慮したテニスの段階的指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、 スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」を身に付ける。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 授業内で使用するラケット、ボール等は各自の用具を特別に用意する必要はないが、テニスに適した服装・シューズを必ず着用すること。
成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 定期試験（30%）、実技試験（20%）、ゲーム評価（20%）、平常取り組み点（30%）を総合して評価する。
評価基準	【成績評価の基準】 1.テニスの歴史やコートの図示およびラインの名称，基本的なルールを理解している。（定期試験） 2.テニスの基本動作、対人ラリーについてその技術を修得している。（実技試験） 3.公式ルールに則り、対人応用技能を用い試合が行えるようになる。（ゲーム評価） 4.簡易な段階的指導方法を授業内で示すことが出来る。（平常評価）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中に課す実技課題およびレポートについては、授業内で解説する。
定期試験については、Juntendo Passportを使って解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【テキスト・参考書等】
適宜、Juntendo Passportを通して資料を配布します。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当： 高橋 徹 E-mail：to-takahashi@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 随時、Eメールで質問を受ける。
担当教員の実務経験	競技者として全日本選手権や国体に出場経験を持つ現役テニスコーチが、その経験を活かしてテニスの指導現場において求められる知識や技術を分かりやすく指導する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 ①この授業科目は、中・高保健体育一種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における選択必修科目として位置づけされています。 ②この授業科目は、中・高保健体育一種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目としての球技（ネット型）の選択科目として位置づけされています。 ③新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、授業計画及び成績評価の基準、方法を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	高橋	【授業内容】 ガイダンス、テニスの特性：授業目的及び概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方等について説明をする。	講義	【予習：0.5時間】 テニスの導入方法や用具について具体的に調べておくこと 【復習：0.5時間】 紹介された書籍やホームページ・映像等を閲覧する。
2	高橋	【授業内容】 テニスの導入１：「テニピン」を理解し段階的指導方法を習得する。	「テニピン」専用用具を使用してラリー、ゲームをする。	【予習：0.5時間】 テニスの導入の「テニピン」の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 テニスの導入の「テニピン」の段階的指導方法のポイントを整理する。
3	高橋	【授業内容】 テニスの導入2：「PLAY＆STAYプログラム」を理解し段階的指導方法を習得する。	テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の専用用具を使用してラリー、ゲームをする。	【予習：0.5時間】 テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の段階的指導方法のポイントを整理する。
4	高橋	【授業内容】 グランドストローク（フォア、バック）の基本動作及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びグランドストローク（フォア、バック）の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 グランドストローク（フォア、バック）の基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
5	高橋	【授業内容】 サービス・リターンの基本動作、段階的指導方法及びテニスのルールを理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びサービス、リターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 サービス・リターンの基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
6	高橋	【授業内容】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作、段階的指導方法及びテニスの試合のルールを理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びボレー（フォア、バック）、スマッシュの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
7	高橋	【授業内容】 グランドストロークの基本動作の対人技能への応用：グランドストロークの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのグランドストローク（フォア、バック）の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 グランドストローク（フォア、バック）のコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
8	高橋	【授業内容】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作の対人技能への応用：ボレー（フォア、バック）、スマッシュの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのボレー（フォア、バック）、スマッシュのコントロールの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュのコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
9	高橋	【授業内容】 サービス・リターンの基本動作の対人技能への応用：サービス・リターンの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのサービス・リターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 サービス・リターンのコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
10	高橋	【授業内容】 公式試合のルールとマナー、テニスコートサイズを理解する。	オンコートにて講義、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 インターネットや書籍等により、公式試合のルールやマナー、コートサイズについて調べておく。 【復習：0.5時間】 ポイントの数え方や、試合の進め方を整理する。
11	高橋	【授業内容】 シングルスにおける戦術：シングルスにおいての基本的戦術及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 シングルスの試合におけるプロテニスプレーヤーのポイントパターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 シングルスのポイントパターンを整理する。

12	高橋	【授業内容】 ダブルスにおける戦術：ダブルスにおいての基本的戦術を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 ダブルスの試合におけるプロテニスプレーヤーのポイントパターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ダブルスのポイントパターンを整理する。
13	高橋	【授業内容】 シングルスの試合：公式ルールに則りシングルスの試合をする。	ウォーミングアップ、試合	【予習：1.0時間】 プロテニスプレーヤーのシングルスの試合の映像を見ておく。 【復習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの戦術をもとに、映像等を用い授業内での自己の試合の分析をする。
14	高橋	【授業内容】 ダブルスの試合。公式ルールに則りダブルスの試合をする。	ウォーミングアップ、試合	【予習：1.0時間】 プロテニスプレーヤーのダブルスの試合の映像を見ておく。 【復習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの戦術をもとに、映像等を用い授業内での自己の試合の分析をする。
	高橋	定期試験		
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（テニス）[共修③]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（テニス）[共修③]	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	高橋　徹	ナンバリング	COA2136
担当教員	高橋　徹、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	【授業全体の内容】 テニスの技能を習得し、その指導法と基礎理論について理解を深める。 テニスの歴史・運動特性等の基礎理論を理解し、グランドストロークやサービスなどの基本動作やラリーなどの対人応用技能とその指導方法を学ぶ。ルールを理解するとともに対人応用技能を活用した戦略・戦術についても学習し、公式ルールに則った試合を出来るようにする。技術の習得には映像などを活用した技術確認を行い、テニス技能の段階的指導法も身につくようにする。
到達目標	【授業の到達目標】 1.テニスの歴史やコートの図示およびラインの名称，基本的なルールの説明ができる。 2.グランドストロークやサービスなどの基本動作やラリーなどの対人的技術が習得できる。 3ルール、戦略・戦術を理解し基本動作を対人応用技能に発展させ、試合が行えるようになる。 4.教育現場における安全を考慮したテニスの段階的指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、 スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」を身に付ける。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 授業内で使用するラケット、ボール等は各自の用具を特別に用意する必要はないが、テニスに適した服装・シューズを必ず着用すること。

成績評価の方法

評価方法	【成績評価の方法】 定期試験（30%）、実技試験（20%）、ゲーム評価（20%）、平常取り組み点（30%）を総合して評価する。
評価基準	【成績評価の基準】 1.テニスの歴史やコートの図示およびラインの名称，基本的なルールを理解している。（定期試験） 2.テニスの基本動作、対人ラリーについてその技術を修得している。（実技試験） 3.公式ルールに則り、対人応用技能を用い試合が行えるようになる。（ゲーム評価） 4.簡易な段階的指導方法を授業内で示すことが出来る。（平常評価）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中に課す実技課題およびレポートについては、授業内で解説する。
定期試験については、Juntendo Passportを使って解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【テキスト・参考書等】
適宜、Juntendo Passportを通して資料を配布します。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当： 高橋 徹 E-mail：to-takahashi@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 随時、Eメールで質問を受ける。
担当教員の実務経験	競技者として全日本選手権や国体に出場経験を持つ現役テニスコーチが、その経験を活かしてテニスの指導現場において求められる知識や技術を分かりやすく指導する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 ①この授業科目は、中・高保健体育一種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における選択必修科目として位置づけされています。 ②この授業科目は、中・高保健体育一種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目としての球技（ネット型）の選択科目として位置づけされています。 ③新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、授業計画及び成績評価の基準、方法を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	高橋	【授業内容】 ガイダンス、テニスの特性：授業目的及び概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方等について説明をする。	講義	【予習：0.5時間】 テニスの導入方法や用具について具体的に調べておくこと 【復習：0.5時間】 紹介された書籍やホームページ・映像等を閲覧する。
2	高橋	【授業内容】 テニスの導入１：「テニピン」を理解し段階的指導方法を習得する。	「テニピン」専用用具を使用してラリー、ゲームをする。	【予習：0.5時間】 テニスの導入の「テニピン」の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 テニスの導入の「テニピン」の段階的指導方法のポイントを整理する。
3	高橋	【授業内容】 テニスの導入2：「PLAY＆STAYプログラム」を理解し段階的指導方法を習得する。	テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の専用用具を使用してラリー、ゲームをする。	【予習：0.5時間】 テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の段階的指導方法のポイントを整理する。
4	高橋	【授業内容】 グランドストローク（フォア、バック）の基本動作及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びグランドストローク（フォア、バック）の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 グランドストローク（フォア、バック）の基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
5	高橋	【授業内容】 サービス・リターンの基本動作、段階的指導方法及びテニスのルールを理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びサービス、リターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 サービス・リターンの基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
6	高橋	【授業内容】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作、段階的指導方法及びテニスの試合のルールを理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びボレー（フォア、バック）、スマッシュの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
7	高橋	【授業内容】 グランドストロークの基本動作の対人技能への応用：グランドストロークの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのグランドストローク（フォア、バック）の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 グランドストローク（フォア、バック）のコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
8	高橋	【授業内容】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作の対人技能への応用：ボレー（フォア、バック）、スマッシュの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのボレー（フォア、バック）、スマッシュのコントロールの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュのコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
9	高橋	【授業内容】 サービス・リターンの基本動作の対人技能への応用：サービス・リターンの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのサービス・リターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 サービス・リターンのコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
10	高橋	【授業内容】 公式試合のルールとマナー、テニスコートサイズを理解する。	オンコートにて講義、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 インターネットや書籍等により、公式試合のルールやマナー、コートサイズについて調べておく。 【復習：0.5時間】 ポイントの数え方や、試合の進め方を整理する。
11	高橋	【授業内容】 シングルスにおける戦術：シングルスにおいての基本的戦術及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 シングルスの試合におけるプロテニスプレーヤーのポイントパターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 シングルスのポイントパターンを整理する。

12	高橋	【授業内容】 ダブルスにおける戦術：ダブルスにおいての基本的戦術を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 ダブルスの試合におけるプロテニスプレーヤーのポイントパターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ダブルスのポイントパターンを整理する。
13	高橋	【授業内容】 シングルスの試合：公式ルールに則りシングルスの試合をする。	ウォーミングアップ、試合	【予習：1.0時間】 プロテニスプレーヤーのシングルスの試合の映像を見ておく。 【復習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの戦術をもとに、映像等を用い授業内での自己の試合の分析をする。
14	高橋	【授業内容】 ダブルスの試合。公式ルールに則りダブルスの試合をする。	ウォーミングアップ、試合	【予習：1.0時間】 プロテニスプレーヤーのダブルスの試合の映像を見ておく。 【復習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの戦術をもとに、映像等を用い授業内での自己の試合の分析をする。
	高橋	定期試験		
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（卓球）[共修①]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（卓球）[共修①]	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	吉田　和人	ナンバリング	COA2136
担当教員	吉田　和人、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は、実技の授業形態で行われる。「バレーボール」、「テニス」、「卓球」など、コート上でネットを挟んで相対するネット型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して、身体や用具を操作してボールを狙った場所に返球する基本理論や技術を学修する。そして、巧みなボールや用具の操作と、適切な位置取りなどの移動によって、相手と攻防を展開しゲームを楽しむとともに、戦術、ルール、審判法等について理解し、指導できる力を養う。 中学校・高等学校における卓球の授業実践力の形成を図ることをねらいとする。また、卓球の知識と技術を習得し、それらをゲームの場面で発揮できる能力を身につける必要がある。学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、実践するとともに、作戦を立ててゲームが展開できるようにする。この授業科目では、卓球の特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、技術の向上と戦術の理解を深める。
到達目標	１.サービスなどの基本動作やラリーなどの対人的技術が習得できる。 ２.ルール、戦略・戦術を理解し対人応用技能に発展させ、試合が行えるようになる。 ３.教育現場における安全を考慮した卓球の指導方法について理解できる。 ４.卓球の段階的指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「課題解決能力」、「倫理観」、「コミュニケーション能力とリーダーシップ」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修上の注意事項】 この授業では、練習やゲームにおいて、他者との協力が必要な場面がたくさんある。受講生全員が卓球を楽しみながら、効果的な学修のためにはどうすると良いかを意識しながら、授業に参加すること。 【履修要件】 特になし
成績評価の方法	
評価方法	平常点（10%）、課題レポート（10%）、定期試験（30%）、実技試験（50%）を総合して評価する。
評価基準	1.卓球の歴史や運動特性、基本動作や技術、戦術を理解している。（平常点・定期試験・実技試験） 2.卓球の基本動作、対人ラリーについてその技術を修得している。（平常点・定期試験・実技試験） 3.卓球のルールや技術、安全管理に関しての指導方法を理解している。（平常点・定期試験・実技試験） 4.授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点、課題レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中にポイントを解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
「書き込みながら自分で学ぶ　生涯スポーツのための卓球テキスト」（吉田和人著）

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 　担当： 吉田 和人 連絡先については授業内で知らせます。 【オフィスアワー】 随時Eメール等で質問等を受け付けますが、その他詳しいことは、授業中に連絡します。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	吉田	ガイダンス	授業目的及び概要、シラバス、評価方法、学習指導要領の内容等について説明する。	（復習：1時間） 授業で紹介された書籍、映像などから、卓球とはどのようなスポーツであるかについて考察する。
2	吉田	ラケットの握り方、ラケットによるボール操作、ラリーを続けよう（フォアハンドロング）	ラケットによるボール操作、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 卓球の基本ストローク（ロング、ドライブ、ブロック）について、インターネットなどで調べる。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
3	吉田	ラリーを続けよう（フォアハンドロング、フォアハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
4	吉田	スポーツとは何か？「スポーツを楽しもう!」、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
5	吉田	ラリーを続けよう（フォアハンドロング、フォアハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
6	吉田	ラリーを続けよう（バックハンドロング、バックハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
7	吉田	コースを狙おう（フォアハンドブロック、フットワーク）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
8	吉田	コースを狙おう（バックハンドブロック、フォアハンドとバックハンドの切り替え）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
9	吉田	強打で決めよう（スマッシュ）、シングルスゲームを楽しもう（第一次リーグ戦）	球出し練習、ラリー、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
10	吉田	強打で決めよう（スマッシュ、ロビング）、シングルスゲームを楽しもう（第一次リーグ戦）	球出し練習、ラリー、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
11	吉田	回転を操作しよう（いろいろな回転のサービス）、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	いろいろな回転のサービスからのラリー、球出し練習、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。

12	吉田	回転を操作しよう（いろいろな回転のサービスに対するレシーブ）、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	いろいろな回転のサービスに対するレシーブからのラリー、球出し練習、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
13	吉田	運動技術習得のコツ「技術習得のメカニズムを知れば、運動音痴が克服される!?」、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	プリントによる講義、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
14	吉田	まとめの試合（団体戦）	プリントによる講義、試合	（予習：1時間） これまでの授業を振り返り、まとめの試合でベストのパフォーマンスを発揮するための作戦を考察する。 （復習：1時間） 授業全体を振り返り、自分の成果と課題を明らかにする。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（卓球）[共修②]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（卓球）[共修②]	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	吉田　和人	ナンバリング	COA2136
担当教員	吉田　和人、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は、実技の授業形態で行われる。「バレーボール」、「テニス」、「卓球」など、コート上でネットを挟んで相対するネット型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して、身体や用具を操作してボールを狙った場所に返球する基本理論や技術を学修する。そして、巧みなボールや用具の操作と、適切な位置取りなどの移動によって、相手と攻防を展開しゲームを楽しむとともに、戦術、ルール、審判法等について理解し、指導できる力を養う。 中学校・高等学校における卓球の授業実践力の形成を図ることをねらいとする。また、卓球の知識と技術を習得し、それらをゲームの場面で発揮できる能力を身につける必要がある。学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、実践するとともに、作戦を立ててゲームが展開できるようにする。この授業科目では、卓球の特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、技術の向上と戦術の理解を深める。
到達目標	１.サービスなどの基本動作やラリーなどの対人的技術が習得できる。 ２.ルール、戦略・戦術を理解し対人応用技能に発展させ、試合が行えるようになる。 ３.教育現場における安全を考慮した卓球の指導方法について理解できる。 ４.卓球の段階的指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「課題解決能力」、「倫理観」、「コミュニケーション能力とリーダーシップ」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修上の注意事項】 この授業では、練習やゲームにおいて、他者との協力が必要な場面がたくさんある。受講生全員が卓球を楽しみながら、効果的な学修のためにはどうすると良いかを意識しながら、授業に参加すること。 【履修要件】 特になし
成績評価の方法	
評価方法	平常点（10%）、課題レポート（10%）、定期試験（30%）、実技試験（50%）を総合して評価する。
評価基準	1.卓球の歴史や運動特性、基本動作や技術、戦術を理解している。（平常点・定期試験・実技試験） 2.卓球の基本動作、対人ラリーについてその技術を修得している。（平常点・定期試験・実技試験） 3.卓球のルールや技術、安全管理に関しての指導方法を理解している。（平常点・定期試験・実技試験） 4.授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点、課題レポート）
試験・課題に対するフィードバック方法	
授業中にポイントを解説する。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献	
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 「書き込みながら自分で学ぶ　生涯スポーツのための卓球テキスト」（吉田和人著）	
その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 　担当： 吉田 和人 連絡先については授業内で知らせます。 【オフィスアワー】 随時Eメール等で質問等を受け付けますが、その他詳しいことは、授業中に連絡します。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。
授業計画	

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	吉田	ガイダンス	授業目的及び概要、シラバス、評価方法、学習指導要領の内容等について説明する。	（復習：1時間） 授業で紹介された書籍、映像などから、卓球とはどのようなスポーツであるかについて考察する。
2	吉田	ラケットの握り方、ラケットによるボール操作、ラリーを続けよう（フォアハンドロング）	ラケットによるボール操作、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 卓球の基本ストローク（ロング、ドライブ、ブロック）について、インターネットなどで調べる。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
3	吉田	ラリーを続けよう（フォアハンドロング、フォアハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
4	吉田	スポーツとは何か？「スポーツを楽しもう!」、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
5	吉田	ラリーを続けよう（フォアハンドロング、フォアハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
6	吉田	ラリーを続けよう（バックハンドロング、バックハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
7	吉田	コースを狙おう（フォアハンドブロック、フットワーク）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
8	吉田	コースを狙おう（バックハンドブロック、フォアハンドとバックハンドの切り替え）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
9	吉田	強打で決めよう（スマッシュ）、シングルスゲームを楽しもう（第一次リーグ戦）	球出し練習、ラリー、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
10	吉田	強打で決めよう（スマッシュ、ロビング）、シングルスゲームを楽しもう（第一次リーグ戦）	球出し練習、ラリー、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
11	吉田	回転を操作しよう（いろいろな回転のサービス）、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	いろいろな回転のサービスからのラリー、球出し練習、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。

12	吉田	回転を操作しよう（いろいろな回転のサービスに対するレシーブ）、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	いろいろな回転のサービスに対するレシーブからのラリー、球出し練習、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
13	吉田	運動技術習得のコツ「技術習得のメカニズムを知れば、運動音痴が克服される!?」、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	プリントによる講義、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
14	吉田	まとめの試合（団体戦）	プリントによる講義、試合	（予習：1時間） これまでの授業を振り返り、まとめの試合でベストのパフォーマンスを発揮するための作戦を考察する。 （復習：1時間） 授業全体を振り返り、自分の成果と課題を明らかにする。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（卓球）[共修③]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（卓球）[共修③]	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	吉田　和人	ナンバリング	COA2136
担当教員	吉田　和人、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は、実技の授業形態で行われる。「バレーボール」、「テニス」、「卓球」など、コート上でネットを挟んで相対するネット型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して、身体や用具を操作してボールを狙った場所に返球する基本理論や技術を学修する。そして、巧みなボールや用具の操作と、適切な位置取りなどの移動によって、相手と攻防を展開しゲームを楽しむとともに、戦術、ルール、審判法等について理解し、指導できる力を養う。 中学校・高等学校における卓球の授業実践力の形成を図ることをねらいとする。また、卓球の知識と技術を習得し、それらをゲームの場面で発揮できる能力を身につける必要がある。学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、実践するとともに、作戦を立ててゲームが展開できるようにする。この授業科目では、卓球の特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、技術の向上と戦術の理解を深める。
到達目標	１.サービスなどの基本動作やラリーなどの対人的技術が習得できる。 ２.ルール、戦略・戦術を理解し対人応用技能に発展させ、試合が行えるようになる。 ３.教育現場における安全を考慮した卓球の指導方法について理解できる。 ４.卓球の段階的指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「課題解決能力」、「倫理観」、「コミュニケーション能力とリーダーシップ」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修上の注意事項】 この授業では、練習やゲームにおいて、他者との協力が必要な場面がたくさんある。受講生全員が卓球を楽しみながら、効果的な学修のためにはどうすると良いかを意識しながら、授業に参加すること。 【履修要件】 特になし
成績評価の方法	
評価方法	平常点（10%）、課題レポート（10%）、定期試験（30%）、実技試験（50%）を総合して評価する。
評価基準	1.卓球の歴史や運動特性、基本動作や技術、戦術を理解している。（平常点・定期試験・実技試験） 2.卓球の基本動作、対人ラリーについてその技術を修得している。（平常点・定期試験・実技試験） 3.卓球のルールや技術、安全管理に関しての指導方法を理解している。（平常点・定期試験・実技試験） 4.授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点、課題レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中にポイントを解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
「書き込みながら自分で学ぶ　生涯スポーツのための卓球テキスト」（吉田和人著）

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当： 吉田 和人 連絡先については授業内で知らせます。 【オフィスアワー】 随時Eメール等で質問等を受け付けますが、その他詳しいことは、授業中に連絡します。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	吉田	ガイダンス	授業目的及び概要、シラバス、評価方法、学習指導要領の内容等について説明する。	（復習：1時間） 授業で紹介された書籍、映像などから、卓球とはどのようなスポーツであるかについて考察する。
2	吉田	ラケットの握り方、ラケットによるボール操作、ラリーを続けよう（フォアハンドロング）	ラケットによるボール操作、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 卓球の基本ストローク（ロング、ドライブ、ブロック）について、インターネットなどで調べる。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
3	吉田	ラリーを続けよう（フォアハンドロング、フォアハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
4	吉田	スポーツとは何か？「スポーツを楽しもう!」、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
5	吉田	ラリーを続けよう（フォアハンドロング、フォアハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
6	吉田	ラリーを続けよう（バックハンドロング、バックハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
7	吉田	コースを狙おう（フォアハンドブロック、フットワーク）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
8	吉田	コースを狙おう（バックハンドブロック、フォアハンドとバックハンドの切り替え）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
9	吉田	強打で決めよう（スマッシュ）、シングルスゲームを楽しもう（第一次リーグ戦）	球出し練習、ラリー、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
10	吉田	強打で決めよう（スマッシュ、ロビング）、シングルスゲームを楽しもう（第一次リーグ戦）	球出し練習、ラリー、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
11	吉田	回転を操作しよう（いろいろな回転のサービス）、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	いろいろな回転のサービスからのラリー、球出し練習、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。

12	吉田	回転を操作しよう（いろいろな回転のサービスに対するレシーブ）、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	いろいろな回転のサービスに対するレシーブからのラリー、球出し練習、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
13	吉田	運動技術習得のコツ「技術習得のメカニズムを知れば、運動音痴が克服される!?」、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	プリントによる講義、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
14	吉田	まとめの試合（団体戦）	プリントによる講義、試合	（予習：1時間） これまでの授業を振り返り、まとめの試合でベストのパフォーマンスを発揮するための作戦を考察する。 （復習：1時間） 授業全体を振り返り、自分の成果と課題を明らかにする。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ベースボール型)（ソフトボール）[男子①]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ベースボール型)（ソフトボール）[男子①]	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	吉村　雅文	ナンバリング	COA2137
担当教員	吉村　雅文、菅波　盛雄、大田　穂、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	ソフトボールは，学習指導要領（中学校・高等学校）において，球技のベースボール型に分類される運動種目です．本授業では，送球，捕球，打撃，走塁，投球などの基本的な技術を習得し，それらの実践を通して，ソフトボールの競技特性や技術構造を理解します．また，それらの技術の段階的な向上を目指す中で，ソフトボールの実践指導方法を身につけます．さらに，ルールや戦術，安全面への配慮など，指導の実践の際に必要な知識や留意点なども学習することで，正しく安全に楽しく指導できる力を身につけます．
到達目標	・ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる． ・ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる． ・ソフトボールの実践指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は，スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「社会や環境の変化に対応し，自ら課題を見つけ，スポーツ科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力【課題解決能力】」を身に付ける．
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 指定されたクラスを受講してください． 受講人数が50名を超える場合には，安全面の観点より履修制限を行う場合があります． 【履修上の注意（科目独自のルール）】 実技授業の際は，ソフトボールを実施する上で適切な服装およびシューズの着用を義務付けます．また，腕時計や指輪，ピアス等の装飾品は身につけず，自分自身および他の受講者への安全の配慮を最優先してください．さらに，共有する用具を丁寧に扱い，授業内で求められる所作や態度を守ってください．

成績評価の方法	
評価方法	スキルテスト（40%），ミニテスト（20%），レポート（20%），平常点（20%）を総合して評価する．
評価基準	1．ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる．（スキルテスト） 2．ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる．（ミニテスト） 3．ソフトボールの実践指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．（レポート） 4．授業中の発言や取り組み姿勢によって受講態度を評価する．（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

ミニテストや課題提出後，試合実施後に，授業内で解説およびポイント等をフィードバックします．

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説　保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
ソフトボール指導教本（日本ソフトボール協会）
必要なテキスト・参考文献・資料に関しては，授業中に適宜配布します．

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：吉村雅文　E-mail：msyoshi[at]juntendo.ac.jp 大田　穂　E-mail：m.ota.tr[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 吉村 日時：月曜日および金曜日　12:00～12:50　場所：1号館5階、1528室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約があった学生を優先します。 できる限り、前日までにE-mailで予約するように心がけてください。 大田 日時：火曜日12:00~12:50　場所：1号館5階1515室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが，予約があった学生を優先します． 他者との重複を避けるため，前日までにE-mailで予約するようにしてください．
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業は，実技の授業形態による1単位の科目であり授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学習を必要とする内容を持って構成します．1回の授業時間は100分とします． 【その他】 新型コロナウイルス感染症の発生状況により，授業計画等の変更をお願いする可能性があります． 天候状況により，授業計画等の変更（主に授業回の順番変更）をお願いする可能性があります． 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科および教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は，以下の資格取得の要件（選択必修）となっています． JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	吉村、菅波、大田	ガイダンス [授業内容] 授業の目的および概要について解説し，評価方法と授業の進め方，準備物等について説明する．	講義	【復習：1時間】 授業資料および指定された動画を閲覧し，ソフトボール競技についての理解を深める．
2	吉村、菅波、大田	投球の基本的技術　オーバーハンドスローを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，オーバーハンドスローの一連の動作，ボールの握り方からリリースまでの投球時のポイントについて解説し実践する．また，投球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 オーバーハンドスローの映像を見て，投球のイメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 オーバーハンドスローの技術習得についてまとめる．
3	吉村、菅波、大田	キャッチボールの基本的技術　グラブ操作を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，グラブ操作や捕球時のポイントについて解説し実践する．また，キャッチボールを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 グラブ操作の映像を見て，捕球のイメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 グラブ操作の技術習得についてまとめる．
4	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術①　フライ捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，フライ捕球の一連の動作，フライ捕球時のポイントについて解説し実践する．また，フライ捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 フライ捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 フライ捕球の技術習得についてまとめる．
5	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術②　ゴロ捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ゴロ捕球の一連の動作，ゴロ捕球時のポイントについて解説し実践する．また，ゴロ捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ゴロ捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ゴロ捕球の技術習得についてまとめる．
6	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術③　ショートバウンド捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ショートバウンド捕球の一連の動作，ショートバウンド捕球時のポイントについて解説し実践する．また，ショートバウンド捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ショートバウンド捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ショートバウンド捕球の技術習得についてまとめる．
7	吉村、菅波、大田	打撃の基本的技術①　スイングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，スイングの一連の動作，スイング時のポイントについて解説し実践する．また，スイングを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 スイングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 スイングの技術習得についてまとめる．
8	吉村、菅波、大田	打撃の基本的技術②　トスバッティングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，トスバッティングの一連の動作，トスバッティング時のポイントについて解説し実践する．また，バッティングを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 バッティングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 バッティングの技術習得についてまとめる．
9	吉村、菅波、大田	ウインドミル投法の基本的技術①　ブラッシングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ウインドミル投法のリリース動作であるブラッシングのポイントについて解説し実践する．また，ウインドミル投法を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ウインドミル投法のブラッシングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ウインドミル投法のブラッシングの技術習得についてまとめる．
10	吉村、菅波、大田	ウインドミル投法の基本的技術②　ウインドミル投法を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ウインドミル投法の一連の動作，ウインドミル投球時のポイントについて解説し実践する．また，ウインドミル投法を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ウインドミル投法の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ウインドミル投法の技術習得についてまとめる．
11	吉村、菅波、大田	ソフトボールの基本的ルールおよび安全面への配慮　ソフトボールのルールを理解する． [授業内容] ソフトボールの基本的なルールを解説するとともに，学校体育でソフトボールの授業を展開する際に配慮すべき安全面やルールの工夫なども解説する．	講義	【予習：0.5時間】 ソフトボール特有のルールについて調べる． 【復習：0.5時間】 ソフトボールのルールについてまとめ，学校体育でのベースボール型授業の実践例についてもまとめる．

12	吉村、菅波、 大田	走塁の基本的技術と連係守備　走塁と連係守備を習得する. [授業内容] デモンストレーションを通して，走塁の一連の動作，走塁時のポイントについて解説し実践する．また，走塁を指導する際に留意すべき点についても解説する. 連係守備の基本的な考え方を解説し，各ポジションの動き方についても解説しながら実践する.	実技	【予習：0.5時間】 走塁と連係守備の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる. 【復習：0.5時間】 走塁と連係守備の技術習得についてまとめる.
13	吉村、菅波、 大田	ソフトボールの競技特性の理解　ソフトボールの競技特性について理解する. [授業内容] ソフトボールの競技特性について野球と比較しながら解説する．また，ソフトボールの競技特性を踏まえた戦術についても解説する.	講義	【予習：0.5時間】 ソフトボールの試合映像を見て，競技特性についてのイメージを掴む. 【復習：0.5時間】 ソフトボールの競技特性および戦術に関してまとめる.
14	吉村、菅波、 大田	試合 [授業内容] 試合を行う際の安全面への配慮や準備など試合の運営方法も含めて解説し，実践する.	実技	【予習：１時間】 ソフトボールのゲーム映像を見て，試合イメージを掴む. 【復習：１時間】 ソフトボールの安全かつ楽しい試合運営に関してまとめる.
		定期試験を実施しない.		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ベースボール型)（ソフトボール）[女子①]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ベースボール型)（ソフトボール）[女子①]	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	吉村　雅文	ナンバリング	COA2137
担当教員	吉村　雅文、菅波　盛雄、大田　穂、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	ソフトボールは，学習指導要領（中学校・高等学校）において，球技のベースボール型に分類される運動種目です．本授業では，送球，捕球，打撃，走塁，投球などの基本的な技術を習得し，それらの実践を通して，ソフトボールの競技特性や技術構造を理解します．また，それらの技術の段階的な向上を目指す中で，ソフトボールの実践指導方法を身につけます．さらに，ルールや戦術，安全面への配慮など，指導の実践の際に必要な知識や留意点なども学習することで，正しく安全に楽しく指導できる力を身につけます．
到達目標	・ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる． ・ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる． ・ソフトボールの実践指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は，スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「社会や環境の変化に対応し，自ら課題を見つけ，スポーツ科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力【課題解決能力】」を身に付ける．
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 指定されたクラスを受講してください． 受講人数が50名を超える場合には，安全面の観点より履修制限を行う場合があります． 【履修上の注意（科目独自のルール）】 実技授業の際は，ソフトボールを実施する上で適切な服装およびシューズの着用を義務付けます．また，腕時計や指輪，ピアス等の装飾品は身につけず，自分自身および他の受講者への安全の配慮を最優先してください．さらに，共有する用具を丁寧に扱い，授業内で求められる所作や態度を守ってください．

成績評価の方法	
評価方法	スキルテスト（40%），ミニテスト（20%），レポート（20%），平常点（20%）を総合して評価する．
評価基準	1．ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる．（スキルテスト） 2．ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる．（ミニテスト） 3．ソフトボールの実践指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．（レポート） 4．授業中の発言や取り組み姿勢によって受講態度を評価する．（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

ミニテストや課題提出後，試合実施後に，授業内で解説およびポイント等をフィードバックします．

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説　保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
ソフトボール指導教本（日本ソフトボール協会）
必要なテキスト・参考文献・資料に関しては，授業中に適宜配布します．

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：吉村雅文　E-mail：msyoshi[at]juntendo.ac.jp 大田　穂　E-mail：m.ota.tr[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 吉村 日時：月曜日および金曜日　12:00～12:50　場所：1号館5階、1528室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約があった学生を優先します。 できる限り、前日までにE-mailで予約するように心がけてください。 大田 日時：火曜日12:00~12:50　場所：1号館5階1515室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが，予約があった学生を優先します． 他者との重複を避けるため，前日までにE-mailで予約するようにしてください．
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業は，実技の授業形態による1単位の科目であり授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学習を必要とする内容を持って構成します．1回の授業時間は100分とします． 【その他】 新型コロナウイルス感染症の発生状況により，授業計画等の変更をお願いする可能性があります． 天候状況により，授業計画等の変更（主に授業回の順番変更）をお願いする可能性があります． 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科および教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は，以下の資格取得の要件（選択必修）となっています． JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	吉村、菅波、大田	ガイダンス [授業内容] 授業の目的および概要について解説し，評価方法と授業の進め方，準備物等について説明する．	講義	【復習：1時間】 授業資料および指定された動画を閲覧し，ソフトボール競技についての理解を深める．
2	吉村、菅波、大田	投球の基本的技術　オーバーハンドスローを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，オーバーハンドスローの一連の動作，ボールの握り方からリリースまでの投球時のポイントについて解説し実践する．また，投球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 オーバーハンドスローの映像を見て，投球のイメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 オーバーハンドスローの技術習得についてまとめる．
3	吉村、菅波、大田	キャッチボールの基本的技術　グラブ操作を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，グラブ操作や捕球時のポイントについて解説し実践する．また，キャッチボールを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 グラブ操作の映像を見て，捕球のイメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 グラブ操作の技術習得についてまとめる．
4	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術①　フライ捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，フライ捕球の一連の動作，フライ捕球時のポイントについて解説し実践する．また，フライ捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 フライ捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 フライ捕球の技術習得についてまとめる．
5	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術②　ゴロ捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ゴロ捕球の一連の動作，ゴロ捕球時のポイントについて解説し実践する．また，ゴロ捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ゴロ捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ゴロ捕球の技術習得についてまとめる．
6	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術③　ショートバウンド捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ショートバウンド捕球の一連の動作，ショートバウンド捕球時のポイントについて解説し実践する．また，ショートバウンド捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ショートバウンド捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ショートバウンド捕球の技術習得についてまとめる．
7	吉村、菅波、大田	打撃の基本的技術①　スイングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，スイングの一連の動作，スイング時のポイントについて解説し実践する．また，スイングを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 スイングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 スイングの技術習得についてまとめる．
8	吉村、菅波、大田	打撃の基本的技術②　トスバッティングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，トスバッティングの一連の動作，トスバッティング時のポイントについて解説し実践する．また，バッティングを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 バッティングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 バッティングの技術習得についてまとめる．
9	吉村、菅波、大田	ウインドミル投法の基本的技術①　ブラッシングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ウインドミル投法のリリース動作であるブラッシングのポイントについて解説し実践する．また，ウインドミル投法を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ウインドミル投法のブラッシングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ウインドミル投法のブラッシングの技術習得についてまとめる．
10	吉村、菅波、大田	ウインドミル投法の基本的技術②　ウインドミル投法を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ウインドミル投法の一連の動作，ウインドミル投球時のポイントについて解説し実践する．また，ウインドミル投法を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ウインドミル投法の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ウインドミル投法の技術習得についてまとめる．
11	吉村、菅波、大田	ソフトボールの基本的ルールおよび安全面への配慮　ソフトボールのルールを理解する． [授業内容] ソフトボールの基本的なルールを解説するとともに，学校体育でソフトボールの授業を展開する際に配慮すべき安全面やルールの工夫なども解説する．	講義	【予習：0.5時間】 ソフトボール特有のルールについて調べる． 【復習：0.5時間】 ソフトボールのルールについてまとめ，学校体育でのベースボール型授業の実践例についてもまとめる．

12	吉村、菅波、大田	走塁の基本的技術と連係守備　走塁と連係守備を習得する. [授業内容] デモンストレーションを通して，走塁の一連の動作，走塁時のポイントについて解説し実践する．また，走塁を指導する際に留意すべき点についても解説する. 連係守備の基本的な考え方を解説し，各ポジションの動き方についても解説しながら実践する.	実技	【予習：0.5時間】 走塁と連係守備の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる. 【復習：0.5時間】 走塁と連係守備の技術習得についてまとめる.
13	吉村、菅波、大田	ソフトボールの競技特性の理解　ソフトボールの競技特性について理解する. [授業内容] ソフトボールの競技特性について野球と比較しながら解説する．また，ソフトボールの競技特性を踏まえた戦術についても解説する.	講義	【予習：0.5時間】 ソフトボールの試合映像を見て，競技特性についてのイメージを掴む. 【復習：0.5時間】 ソフトボールの競技特性および戦術に関してまとめる.
14	吉村、菅波、大田	試合 [授業内容] 試合を行う際の安全面への配慮や準備など試合の運営方法も含めて解説し，実践する.	実技	【予習：１時間】 ソフトボールのゲーム映像を見て，試合イメージを掴む. 【復習：１時間】 ソフトボールの安全かつ楽しい試合運営に関してまとめる.
		定期試験を実施しない.		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ベースボール型)（ソフトボール）[女子②]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ベースボール型)（ソフトボール）[女子②]	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	吉村　雅文	ナンバリング	COA2137
担当教員	吉村　雅文、菅波　盛雄、大田　穂、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	ソフトボールは，学習指導要領（中学校・高等学校）において，球技のベースボール型に分類される運動種目です．本授業では，送球，捕球，打撃，走塁，投球などの基本的な技術を習得し，それらの実践を通して，ソフトボールの競技特性や技術構造を理解します．また，それらの技術の段階的な向上を目指す中で，ソフトボールの実践指導方法を身につけます．さらに，ルールや戦術，安全面への配慮など，指導の実践の際に必要な知識や留意点なども学習することで，正しく安全に楽しく指導できる力を身につけます．
到達目標	・ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる． ・ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる． ・ソフトボールの実践指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は，スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「社会や環境の変化に対応し，自ら課題を見つけ，スポーツ科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力【課題解決能力】」を身に付ける．
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 指定されたクラスを受講してください． 受講人数が50名を超える場合には，安全面の観点より履修制限を行う場合があります． 【履修上の注意（科目独自のルール）】 実技授業の際は，ソフトボールを実施する上で適切な服装およびシューズの着用を義務付けます．また，腕時計や指輪，ピアス等の装飾品は身につけず，自分自身および他の受講者への安全の配慮を最優先してください．さらに，共有する用具を丁寧に扱い，授業内で求められる所作や態度を守ってください．
成績評価の方法	
評価方法	スキルテスト（40%），ミニテスト（20%），レポート（20%），平常点（20%）を総合して評価する．
評価基準	1．ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる．（スキルテスト） 2．ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる．（ミニテスト） 3．ソフトボールの実践指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．（レポート） 4．授業中の発言や取り組み姿勢によって受講態度を評価する．（平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
ミニテストや課題提出後，試合実施後に，授業内で解説およびポイント等をフィードバックします．	

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説　保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
ソフトボール指導教本（日本ソフトボール協会）
必要なテキスト・参考文献・資料に関しては，授業中に適宜配布します．

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：吉村雅文　E-mail：msyoshi[at]juntendo.ac.jp 大田　穂　E-mail：m.ota.tr[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 吉村 日時：月曜日および金曜日　12:00～12:50　場所：1号館5階、1528室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約があった学生を優先します。 できる限り、前日までにE-mailで予約するように心がけてください。 大田 日時：火曜日12:00~12:50　場所：1号館5階1515室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが，予約があった学生を優先します． 他者との重複を避けるため，前日までにE-mailで予約するようにしてください．
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業は，実技の授業形態による1単位の科目であり授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学習を必要とする内容を持って構成します．1回の授業時間は100分とします． 【その他】 新型コロナウイルス感染症の発生状況により，授業計画等の変更をお願いする可能性があります． 天候状況により，授業計画等の変更（主に授業回の順番変更）をお願いする可能性があります． 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科および教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は，以下の資格取得の要件（選択必修）となっています． JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	吉村、菅波、大田	ガイダンス [授業内容] 授業の目的および概要について解説し，評価方法と授業の進め方，準備物等について説明する．	講義	【復習：1時間】 授業資料および指定された動画を閲覧し，ソフトボール競技についての理解を深める．
2	吉村、菅波、大田	投球の基本的技術　オーバーハンドスローを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，オーバーハンドスローの一連の動作，ボールの握り方からリリースまでの投球時のポイントについて解説し実践する．また，投球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 オーバーハンドスローの映像を見て，投球のイメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 オーバーハンドスローの技術習得についてまとめる．
3	吉村、菅波、大田	キャッチボールの基本的技術　グラブ操作を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，グラブ操作や捕球時のポイントについて解説し実践する．また，キャッチボールを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 グラブ操作の映像を見て，捕球のイメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 グラブ操作の技術習得についてまとめる．
4	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術①　フライ捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，フライ捕球の一連の動作，フライ捕球時のポイントについて解説し実践する．また，フライ捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 フライ捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 フライ捕球の技術習得についてまとめる．
5	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術②　ゴロ捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ゴロ捕球の一連の動作，ゴロ捕球時のポイントについて解説し実践する．また，ゴロ捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ゴロ捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ゴロ捕球の技術習得についてまとめる．
6	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術③　ショートバウンド捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ショートバウンド捕球の一連の動作，ショートバウンド捕球時のポイントについて解説し実践する．また，ショートバウンド捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ショートバウンド捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ショートバウンド捕球の技術習得についてまとめる．
7	吉村、菅波、大田	打撃の基本的技術①　スイングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，スイングの一連の動作，スイング時のポイントについて解説し実践する．また，スイングを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 スイングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 スイングの技術習得についてまとめる．
8	菅波、大田	打撃の基本的技術②　トスバッティングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，トスバッティングの一連の動作，トスバッティング時のポイントについて解説し実践する．また，バッティングを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 バッティングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 バッティングの技術習得についてまとめる．
9	菅波、大田	ウインドミル投法の基本的技術①　ブラッシングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ウインドミル投法のリリース動作であるブラッシングのポイントについて解説し実践する．また，ウインドミル投法を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ウインドミル投法のブラッシングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ウインドミル投法のブラッシングの技術習得についてまとめる．
10	菅波、大田	ウインドミル投法の基本的技術②　ウインドミル投法を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ウインドミル投法の一連の動作，ウインドミル投球時のポイントについて解説し実践する．また，ウインドミル投法を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ウインドミル投法の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ウインドミル投法の技術習得についてまとめる．
11	菅波、大田	ソフトボールの基本的ルールおよび安全面への配慮　ソフトボールのルールを理解する． [授業内容] ソフトボールの基本的なルールを解説するとともに，学校体育でソフトボールの授業を展開する際に配慮すべき安全面やルールの工夫なども解説する．	講義	【予習：0.5時間】 ソフトボール特有のルールについて調べる． 【復習：0.5時間】 ソフトボールのルールについてまとめ，学校体育でのベースボール型授業の実践例についてもまとめる．

12	菅波、大田	走塁の基本的技術と連係守備　走塁と連係守備を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，走塁の一連の動作，走塁時のポイントについて解説し実践する．また，走塁を指導する際に留意すべき点についても解説する． 連係守備の基本的な考え方を解説し，各ポジションの動き方についても解説しながら実践する．	実技	【予習：0.5時間】 走塁と連係守備の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 走塁と連係守備の技術習得についてまとめる．
13	菅波、大田	ソフトボールの競技特性の理解　ソフトボールの競技特性について理解する． [授業内容] ソフトボールの競技特性について野球と比較しながら解説する．また，ソフトボールの競技特性を踏まえた戦術についても解説する．	講義	【予習：0.5時間】 ソフトボールの試合映像を見て，競技特性についてのイメージを掴む． 【復習：0.5時間】 ソフトボールの競技特性および戦術に関してまとめる．
14	菅波、大田	試合 [授業内容] 試合を行う際の安全面への配慮や準備など試合の運営方法も含めて解説し，実践する．	実技	【予習：１時間】 ソフトボールのゲーム映像を見て，試合イメージを掴む． 【復習：１時間】 ソフトボールの安全かつ楽しい試合運営に関してまとめる．
		定期試験を実施しない．		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】ダンス ［男子②］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】ダンス ［男子②］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中村　恭子	ナンバリング	DAE1138
担当教員	中村　恭子、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 中学・高校のダンス領域の内容である創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンスの実技と指導法を学習する。即興創作やグループ創作を通じて発想力、表現力、協調性、課題解決能力を高め、ダンスの美的表現原理と創作技法の基礎知識と技能を身に付ける。中学・高校の保健体育教員としての視点で授業を捉え、ダンス学習指導法についての理解を深める。 また、健康・体力づくりの運動であるエアロビックダンスの理論と実技を学び、指導の基本技術を身に付ける。
到達目標	［授業の到達目標］ １．多様なダンスを学習してリズム感や身体操作能力、表現力を高め、自分の発想で表したい動きを見つけ、全身を大きく使いメリハリを付けて踊ることができる。 ２．動きとイメージやリズムの関係、動きのアレンジや動きを強調する表現方法、群の構成や空間の使い方、作品の展開や構成法について理解し、それらを応用してオリジナルの作品を創作・発表できる。 ３．グループ創作活動や発表・鑑賞を通して課題解決能力、対人調整力、自他の個性を認め合う態度を身に付けることができる。 ４．ダンス領域の各種ダンスの学習内容と学習指導法について理解し、良い動きを見分ける力と指導力を身に付けることができる。 ５．エアロビックダンスの基本理論を理解し、対面指導の示範やキューイングを取り入れた実技指導ができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO/JAF（日本エアロビック連盟）公認エアロビックコーチ1養成講習会免除適応コースの必修科目、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	［授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）］ この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付ける。また、スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力の基礎を身に付けることを目的とする。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 　中高保健体育科教員免許取得のための必修科目である本科目は指導力養成を目標の一つとしているため，指導者としての心構えをもって受講すること。生徒の立場で実技を体験しながらも指導者目線で授業を分析して欲しい。復習として授業内容を記録する学習ノートの記載においては指導者の立場で記述し、学習内容と方法、指導の要点をまとめて復習すること。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 遅刻・早退は30分以内とし、3回で1回分の欠席に換算する。試合等の欠席は事情を考慮はするが、欠席は欠席としてカウントするので注意すること。なお、ケガや故障等で全力全身での実技ができない場合でも、「今できる範囲で」授業に参加できるのがダンスの特徴でもあるので、できる範囲で参加すること。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 　実技力（表現力・創作力）60%、鑑賞評価力10%、知識・理解（学習ノート）20%、取り組む姿勢10%
評価基準	［成績評価の基準］ １．精一杯大きく、メリハリをつけて、なりきって踊っているか。独創的な動きや表現が工夫できるか。 ２．自他の動きや表現の良し悪しを判断し、観賞・評価できるか。 ３．ダンスの用語や美的表現原理を理解し、授業の進め方や効果的な指導方法について記述できるか。 ４．積極的に取り組み、仲間と協力して主体的に活動しているか。 ５．エアロビックダンスの基本理論を理解し，実技指導（対面指導の示範、キューイング）ができるか。

試験・課題に対するフィードバック方法

［課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法］
　平常時の実技の出来栄えについては、即時、口頭でフィードバックする。
　3回の実技試験では評価の観点（精一杯大きく動いているか・メリハリをつけて踊っているか・独創的な動きの工夫があるか・群や空間の工夫ができているか・なりきって踊っているか）の各項目について相互評価の結果を集計して示す。
　知識・理解については学習ノートを毎回提出させ、記述内容について具体的にコメントを記入して返却する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版　明日からトライ！ダンスの授業	全国ダンス・表現運動授業研究会編	大修館書店	9784469269185	

参考文献

『中学校学習指導要領解説　保健体育編』　文部科学省、東山書房、2018
『高等学校学習指導要領解説　保健体育　体育編』　文部科学省、東山書房、2019
『みんなでトライ！表現運動の授業』全国ダンス・表現運動授業研究会編、大修館書店、2015
その他、必要に応じて資料を適宜配布するので、テキストと合わせて授業の予習・復習に活用すること。

その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：中村恭子 E-mail：k-nakamu［at］juntendo.ac.jp ※［at］を＠に変更してください。 ［オフィスアワー］ 日時：前期：火曜日10:30-14:00, 木曜日10:30-14:00,　後期：月曜日10:30-15:00, 金曜日15:00-17:00 場所：１号館５階　1501号室 ただし、上記の時間帯においても会議等で不在の場合もあるので、前日までにE-mail等で確認・予約すること。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ 「中高保健体育科教員免許」取得のための必修科目である。また、（公財）健康・体力づくり事業財団「健康運動指導士」のエアロビックダンス講習免除科目として、本科目またはスポーツコーチング演習（ダンス）のいずれかの履修が必要である。 １クラスの受講人数が60人を超える場合は、「中高保健体育科教員免許」または「健康運動指導士」資格取得のための履修者を優先し、残りを抽選とする場合もある。 なお、新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中村恭子	［授業内容］ ガイダンス：授業内容と学び方、ダンスの特性と種類、先輩作品ビデオ鑑賞、ダンス・ウォームアップの特徴と効果 外国のフォークダンス①オクラホマ・ミキサー	［授業方法］ ダンスの特性や種類について、グループで討議し、意見交換する。 心と体をほぐし技能を高めるダンス・ウォームアップを体験し、その目的と効果について分析する。 オクラホマ・ミキサーの踊り方を理解し，仲間と教えあって習得し交流する。	（復習：1時間） ダンス学習ノートを作り、ダンスの特性や種類を整理する。 オクラホマ・ミキサーの由来と踊りの特徴を調べる。
2	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス①サンバ 「サンバのリズムでお祭りパレード」 現代的なリズムのダンス②ヒップホップ「足じゃんけんからヒップホップへ」 外国のフォークダンス② ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブー	［授業方法］ リズムに乗って即興的に踊り、多様な動きを工夫する。仲間の動きを即時に真似して踊り続ける。 足じゃんけんの動きをもとに簡単な動きの組み合わせを工夫する。仲間と教えあい続けて踊る。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ヒップホップ文化について調べる。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
3	中村恭子	（［授業内容］ 現代的なリズムのダンス③ロック「ロックのリズムで動く-止まる」 現代的なリズムのダンス④床の動き「床を使ってブレイクダンスみたいに」 外国のフォークダンス③ドードレブスカ・ポルカ	［授業方法］ 見つけた動きのリズムを変化させ、メリハリをつけて踊る。床を使った動きや回転技を工夫し短いフレーズを作る。バトル形式で他チームと踊り合う。 ドードレブスカ・ポルカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ヒップホップダンスにおけるダンスバトルの由来と特徴を調べる。 ドードレブスカ・ポルカの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。

4	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス⑤グループ作品創作	［授業方法］ 課題曲の中から好きな曲を選び、選択曲グループ内で分担して動きを創作する。動きを教え合い、グループで1曲通して踊れるように仕上げる。	（復習：1時間） グループで作った動きを練習し覚える。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
5	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス⑥作品発表会	［授業方法］ 修正と踊り込みで完成度を高め、発表する。 他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。	（予習：0.5時間） 作品のイメージに合った衣装を工夫し準備する。 ［復習：0.5時間］ 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
6	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス①物［小道具］を使って「しんぶんし」 日本の民踊①よさこい鳴子踊り	［授業方法］ 即興で新聞紙の動きを模倣し、多様な体の使い方を工夫してひと流れの動きを作り踊る。 他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 よさこい鳴子踊りの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） よさこい鳴子踊りの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「物［小道具］を使って」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
7	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス②対極の動きの連続「走る-止まる」 日本の民踊②郡上踊り「げんげんばらばら」	［授業方法］ メリハリのある「走る-止まる」のひと流れを即興で多様に変化させて踊り、仲間とイメージと動きを共有、ひとまとまりの表現を作り踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 郡上踊り「げんげんばらばら」の踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） 郡上踊りの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「対極の動きの連続」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
8	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス③身近な生活と日常動作「スポーツ名場面集～感動の瞬間をもう一度」 外国のフォークダンス④ハーモニカ	［授業方法］ 各種スポーツの特徴をとらえて動きをデッサンし、仲間と動きを共有、ひとまとまりの表現を作る。特徴を強調するデフォルメ［変形］の方法を学び、表現を工夫して発表する。 他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 ハーモニカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ハーモニカの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「群［集団］の動き」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。

9	中村恭子	（［授業内容］ 創作ダンス④多様な感じ・群［集団］の動き「旅立ちの刻」 外国のフォークダンス⑤オスロー・ワルツ	［授業方法］ 嬉しい、悲しい、流れるような、ごつごつした、などの感じのある動きと、大回り-小回り、高中低の群像、密集-分散などの群の動きを取り入れながら「旅立ちの刻」をテーマに踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 オスロ-・ワルツの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） オスロー・ワルツの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「身近な生活と日常動作」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
10	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑤はこびとストーリー「事件発生」 グループ作品創作のグループ分け、デッサン 外国のフォークダンス⑥バージニア・リール	［授業方法］ 作品として表現したい「事件」を選んでグループを作り、表したいイメージを深め、はこびを考える。各場面での使用曲を決める。グループで場面を分担して中核となる動きをデッサンする。 バージニア・リールの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） バージニア・リールの由来と踊りの特徴を調べる。身近な「事件」のうちダンスで表現できそうな題材を考える。 （復習：1時間） 分担部分の動きを完成させる。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
11	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑥「事件発生」グループ作品創作	［授業方法］ 各場面に相応しい曲を選ぶ。分担した場面の動きを教えあい、群の構成を工夫して作品全体を仕上げる。	（予習：0.5時間） 分担部分に相応しい使用曲［候補曲］を探す。 （復習：1時間） グループで作った動きや群構成を覚え、スムーズに動けるように練習する。本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
12	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑦「事件発生」グループ作品発表会 ビデオ鑑賞会と相互評価	［授業方法］ 作品を踊り込み、発表する。他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。	【（予習：0.5時間） 作品の使用曲を編集する。相応しい衣装を準備する。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
13	中村恭子	［授業内容］ エアロビックダンスの特性と基本理論 実技指導技術①基本ステップと名称の理解、正確で明確な動作の習得	［授業方法］ エアロビックダンスの特性、運動強度の設定について学び，目標心拍数の算出方法の演習を行う。指導者の動きを模倣して基本的なプログラムの動きを練習し、ステップ名称と動きの要点を理解する。	（予習：0.5時間） エアロビクスについて関連書籍を読む。 エアロビックダンスの基本ステップについて配布資料を読み理解する。 （復習：0.5時間） エアロビックダンスの運動強度設定と目標心拍数の算出方法についてまとめる。 基本的なプログラムを練習してスムーズに実演できるようにする。
14	中村恭子	［授業内容］ エアロビックダンスの指導の要点 実技指導技術②対面指導の示範、キューイング、実技指導実習と相互評価	［授業方法］ 基本的なプログラムのルーティンについて交代で模擬指導実習を行い、評価し合う。	（予習：0.5時間） 指導者の役割について配布資料を読み理解する。基本ステップの名称を覚える。 （復習：0.5時間） 基本的なプログラムの実技指導がスムーズに実演できるように練習する。 模擬指導実習の反省レポート。
	中村恭子	定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】ダンス ［男子④］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】ダンス ［男子④］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中村　恭子	ナンバリング	DAE1138
担当教員	中村　恭子、伊藤　まこと、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 中学・高校のダンス領域の内容である創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンスの実技と指導法を学習する。即興創作やグループ創作を通じて発想力、表現力、協調性、課題解決能力を高め、ダンスの美的表現原理と創作技法の基礎知識と技能を身に付ける。中学・高校の保健体育教員としての視点で授業を捉え、ダンス学習指導法についての理解を深める。 また、健康・体力づくりの運動であるエアロビックダンスの理論と実技を学び、指導の基本技術を身に付ける。
到達目標	［授業の到達目標］ １．多様なダンスを学習してリズム感や身体操作能力、表現力を高め、自分の発想で表したい動きを見つけ、全身を大きく使いメリハリを付けて踊ることができる。 ２．動きとイメージやリズムの関係、動きのアレンジや動きを強調する表現方法、群の構成や空間の使い方、作品の展開や構成法について理解し、それらを応用してオリジナルの作品を創作・発表できる。 ３．グループ創作活動や発表・鑑賞を通して課題解決能力、対人調整力、自他の個性を認め合う態度を身に付けることができる。 ４．ダンス領域の各種ダンスの学習内容と学習指導法について理解し、良い動きを見分ける力と指導力を身に付けることができる。 ５．エアロビックダンスの基本理論を理解し、対面指導の示範やキューイングを取り入れた実技指導ができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO/JAF（日本エアロビック連盟）公認エアロビックコーチ1養成講習会免除適応コースの必修科目、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	［授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）］ この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付ける。また、スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力の基礎を身に付けることを目的とする。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 　中高保健体育科教員免許取得のための必修科目である本科目は指導力養成を目標の一つとしているため，指導者としての心構えをもって受講すること。生徒の立場で実技を体験しながらも指導者目線で授業を分析して欲しい。復習として授業内容を記録する学習ノートの記載においては指導者の立場で記述し、学習内容と方法、指導の要点をまとめて復習すること。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 遅刻・早退は30分以内とし、3回で1回分の欠席に換算する。試合等の欠席は事情を考慮はするが、欠席は欠席としてカウントするので注意すること。なお、ケガや故障等で全力全身での実技ができない場合でも、「今できる範囲で」授業に参加できるのがダンスの特徴でもあるので、できる範囲で参加すること。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 　実技力（表現力・創作力）60%、鑑賞評価力10%、知識・理解（学習ノート）20%、取り組む姿勢10%
評価基準	［成績評価の基準］ １．精一杯大きく、メリハリをつけて、なりきって踊っているか。独創的な動きや表現が工夫できるか。 ２．自他の動きや表現の良し悪しを判断し、観賞・評価できるか。 ３．ダンスの用語や美的表現原理を理解し、授業の進め方や効果的な指導方法について記述できるか。 ４．積極的に取り組み、仲間と協力して主体的に活動しているか。 ５．エアロビックダンスの基本理論を理解し，実技指導（対面指導の示範、キューイング）ができるか。

試験・課題に対するフィードバック方法

［課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法］
　平常時の実技の出来栄えについては、即時、口頭でフィードバックする。
　3回の実技試験では評価の観点（精一杯大きく動いているか・メリハリをつけて踊っているか・独創的な動きの工夫があるか・群や空間の工夫ができているか・なりきって踊っているか）の各項目について相互評価の結果を集計して示す。
　知識・理解については学習ノートを毎回提出させ、記述内容について具体的にコメントを記入して返却する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版　明日からトライ！ダンスの授業	全国ダンス・表現運動授業研究会編	大修館書店	9784469269185	

参考文献

『中学校学習指導要領解説　保健体育編』　文部科学省、東山書房、2018
『高等学校学習指導要領解説　保健体育　体育編』　文部科学省、東山書房、2019
『みんなでトライ！表現運動の授業』全国ダンス・表現運動授業研究会編、大修館書店、2015
その他、必要に応じて資料を適宜配布するので、テキストと合わせて授業の予習・復習に活用すること。

その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：中村恭子 E-mail：k-nakamu［at］juntendo.ac.jp ※［at］を＠に変更してください。 ［オフィスアワー］ 日時：前期：火曜日10:30-14:00, 木曜日10:30-14:00,　後期：月曜日10:30-15:00, 金曜日15:00-17:00 場所：１号館５階　1501号室 ただし、上記の時間帯においても会議等で不在の場合もあるので、前日までにE-mail等で確認・予約すること。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ 「中高保健体育科教員免許」取得のための必修科目である。また、（公財）健康・体力づくり事業財団「健康運動指導士」のエアロビックダンス講習免除科目として、本科目またはスポーツコーチング演習（ダンス）のいずれかの履修が必要である。 １クラスの受講人数が60人を超える場合は、「中高保健体育科教員免許」または「健康運動指導士」資格取得のための履修者を優先し、残りを抽選とする場合もある。 なお、新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中村恭子	［授業内容］ ガイダンス：授業内容と学び方、ダンスの特性と種類、先輩作品ビデオ鑑賞、ダンス・ウォームアップの特徴と効果 外国のフォークダンス①オクラホマ・ミキサー	［授業方法］ ダンスの特性や種類について、グループで討議し、意見交換する。 心と体をほぐし技能を高めるダンス・ウォームアップを体験し、その目的と効果について分析する。 オクラホマ・ミキサーの踊り方を理解し，仲間と教えあって習得し交流する。	（復習：1時間） ダンス学習ノートを作り、ダンスの特性や種類を整理する。 オクラホマ・ミキサーの由来と踊りの特徴を調べる。
2	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス①サンバ 「サンバのリズムでお祭りパレード」 現代的なリズムのダンス②ヒップホップ「足じゃんけんからヒップホップへ」 外国のフォークダンス② ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブー	［授業方法］ リズムに乗って即興的に踊り、多様な動きを工夫する。仲間の動きを即時に真似して踊り続ける。 足じゃんけんの動きをもとに簡単な動きの組み合わせを工夫する。仲間と教えあい続けて踊る。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ヒップホップ文化について調べる。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
3	中村恭子	（［授業内容］ 現代的なリズムのダンス③ロック「ロックのリズムで動く-止まる」 現代的なリズムのダンス④床の動き「床を使ってブレイクダンスみたいに」 外国のフォークダンス③ドードレブスカ・ポルカ	［授業方法］ 見つけた動きのリズムを変化させ、メリハリをつけて踊る。床を使った動きや回転技を工夫し短いフレーズを作る。バトル形式で他チームと踊り合う。 ドードレブスカ・ポルカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ヒップホップダンスにおけるダンスバトルの由来と特徴を調べる。 ドードレブスカ・ポルカの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。

4	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス⑤グループ作品創作	［授業方法］ 課題曲の中から好きな曲を選び、選択曲グループ内で分担して動きを創作する。動きを教え合い、グループで1曲通して踊れるように仕上げる。	（復習：1時間） グループで作った動きを練習し覚える。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
5	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス⑥作品発表会	［授業方法］ 修正と踊り込みで完成度を高め、発表する。 他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。	（予習：0.5時間） 作品のイメージに合った衣装を工夫し準備する。 ［復習：0.5時間］ 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
6	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス①物［小道具］を使って「しんぶんし」 日本の民踊①よさこい鳴子踊り	［授業方法］ 即興で新聞紙の動きを模倣し、多様な体の使い方を工夫してひと流れの動きを作り踊る。 他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 よさこい鳴子踊りの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） よさこい鳴子踊りの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「物［小道具］を使って」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
7	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス②対極の動きの連続「走る-止まる」 日本の民踊②郡上踊り「げんげんばらばら」	［授業方法］ メリハリのある「走る-止まる」のひと流れを即興で多様に変化させて踊り、仲間とイメージと動きを共有、ひとまとまりの表現を作り踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 郡上踊り「げんげんばらばら」の踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） 郡上踊りの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「対極の動きの連続」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
8	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス③身近な生活と日常動作「スポーツ名場面集～感動の瞬間をもう一度」 外国のフォークダンス④ハーモニカ	［授業方法］ 各種スポーツの特徴をとらえて動きをデッサンし、仲間と動きを共有、ひとまとまりの表現を作る。特徴を強調するデフォルメ［変形］の方法を学び、表現を工夫して発表する。 他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 ハーモニカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ハーモニカの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「群［集団］の動き」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。

9	中村恭子	（［授業内容］ 創作ダンス④多様な感じ・群［集団］の動き「旅立ちの刻」 外国のフォークダンス⑤オスロー・ワルツ	［授業方法］ 嬉しい、悲しい、流れるような、ごつごつした、などの感じのある動きと、大回り-小回り、高中低の群像、密集-分散などの群の動きを取り入れながら「旅立ちの刻」をテーマに踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 オスロ-・ワルツの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） オスロー・ワルツの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「身近な生活と日常動作」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
10	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑤はこびとストーリー「事件発生」 グループ作品創作のグループ分け、デッサン 外国のフォークダンス⑥バージニア・リール	［授業方法］ 作品として表現したい「事件」を選んでグループを作り、表したいイメージを深め、はこびを考える。各場面での使用曲を決める。グループで場面を分担して中核となる動きをデッサンする。 バージニア・リールの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） バージニア・リールの由来と踊りの特徴を調べる。身近な「事件」のうちダンスで表現できそうな題材を考える。 （復習：1時間） 分担部分の動きを完成させる。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
11	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑥「事件発生」グループ作品創作	［授業方法］ 各場面に相応しい曲を選ぶ。分担した場面の動きを教えあい、群の構成を工夫して作品全体を仕上げる。	（予習：0.5時間） 分担部分に相応しい使用曲［候補曲］を探す。 （復習：1時間） グループで作った動きや群構成を覚え、スムーズに動けるように練習する。本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
12	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑦「事件発生」グループ作品発表会 ビデオ鑑賞会と相互評価	［授業方法］ 作品を踊り込み、発表する。他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。	【（予習：0.5時間） 作品の使用曲を編集する。相応しい衣装を準備する。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
13	中村恭子	［授業内容］ エアロビックダンスの特性と基本理論 実技指導技術①基本ステップと名称の理解、正確で明確な動作の習得	［授業方法］ エアロビックダンスの特性、運動強度の設定について学び，目標心拍数の算出方法の演習を行う。指導者の動きを模倣して基本的なプログラムの動きを練習し、ステップ名称と動きの要点を理解する。	（予習：0.5時間） エアロビクスについて関連書籍を読む。 エアロビックダンスの基本ステップについて配布資料を読み理解する。 （復習：0.5時間） エアロビックダンスの運動強度設定と目標心拍数の算出方法についてまとめる。 基本的なプログラムを練習してスムーズに実演できるようにする。
14	中村恭子	［授業内容］ エアロビックダンスの指導の要点 実技指導技術②対面指導の示範、キューイング、実技指導実習と相互評価	［授業方法］ 基本的なプログラムのルーティンについて交代で模擬指導実習を行い、評価し合う。	（予習：0.5時間） 指導者の役割について配布資料を読み理解する。基本ステップの名称を覚える。 （復習：0.5時間） 基本的なプログラムの実技指導がスムーズに実演できるように練習する。 模擬指導実習の反省レポート。
	中村恭子	定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】ダンス ［男子⑤］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】ダンス ［男子⑤］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中村　恭子	ナンバリング	DAE1138
担当教員	中村　恭子、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 中学・高校のダンス領域の内容である創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンスの実技と指導法を学習する。即興創作やグループ創作を通じて発想力、表現力、協調性、課題解決能力を高め、ダンスの美的表現原理と創作技法の基礎知識と技能を身に付ける。中学・高校の保健体育教員としての視点で授業を捉え、ダンス学習指導法についての理解を深める。 また、健康・体力づくりの運動であるエアロビックダンスの理論と実技を学び、指導の基本技術を身に付ける。
到達目標	［授業の到達目標］ １．多様なダンスを学習してリズム感や身体操作能力、表現力を高め、自分の発想で表したい動きを見つけ、全身を大きく使いメリハリを付けて踊ることができる。 ２．動きとイメージやリズムの関係、動きのアレンジや動きを強調する表現方法、群の構成や空間の使い方、作品の展開や構成法について理解し、それらを応用してオリジナルの作品を創作・発表できる。 ３．グループ創作活動や発表・鑑賞を通して課題解決能力、対人調整力、自他の個性を認め合う態度を身に付けることができる。 ４．ダンス領域の各種ダンスの学習内容と学習指導法について理解し、良い動きを見分ける力と指導力を身に付けることができる。 ５．エアロビックダンスの基本理論を理解し、対面指導の示範やキューイングを取り入れた実技指導ができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO/JAF（日本エアロビック連盟）公認エアロビックコーチ1養成講習会免除適応コースの必修科目、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	［授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）］ この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付ける。また、スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力の基礎を身に付けることを目的とする。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 　中高保健体育科教員免許取得のための必修科目である本科目は指導力養成を目標の一つとしているため，指導者としての心構えをもって受講すること。生徒の立場で実技を体験しながらも指導者目線で授業を分析して欲しい。復習として授業内容を記録する学習ノートの記載においては指導者の立場で記述し、学習内容と方法、指導の要点をまとめて復習すること。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 遅刻・早退は30分以内とし、3回で1回分の欠席に換算する。試合等の欠席は事情を考慮はするが、欠席は欠席としてカウントするので注意すること。なお、ケガや故障等で全力全身での実技ができない場合でも、「今できる範囲で」授業に参加できるのがダンスの特徴でもあるので、できる範囲で参加すること。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 　実技力（表現力・創作力）60%、鑑賞評価力10%、知識・理解（学習ノート）20%、取り組む姿勢10%
評価基準	［成績評価の基準］ １．精一杯大きく、メリハリをつけて、なりきって踊っているか。独創的な動きや表現が工夫できるか。 ２．自他の動きや表現の良し悪しを判断し、観賞・評価できるか。 ３．ダンスの用語や美的表現原理を理解し、授業の進め方や効果的な指導方法について記述できるか。 ４．積極的に取り組み、仲間と協力して主体的に活動しているか。 ５．エアロビックダンスの基本理論を理解し，実技指導（対面指導の示範、キューイング）ができるか。

試験・課題に対するフィードバック方法

［課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法］
　平常時の実技の出来栄えについては、即時、口頭でフィードバックする。
　3回の実技試験では評価の観点（精一杯大きく動いているか・メリハリをつけて踊っているか・独創的な動きの工夫があるか・群や空間の工夫ができているか・なりきって踊っているか）の各項目について相互評価の結果を集計して示す。
　知識・理解については学習ノートを毎回提出させ、記述内容について具体的にコメントを記入して返却する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版　明日からトライ！ダンスの授業	全国ダンス・表現運動授業研究会編	大修館書店	9784469269185	

参考文献

『中学校学習指導要領解説　保健体育編』　文部科学省、東山書房、2018
『高等学校学習指導要領解説　保健体育　体育編』　文部科学省、東山書房、2019
『みんなでトライ！表現運動の授業』全国ダンス・表現運動授業研究会編、大修館書店、2015
その他、必要に応じて資料を適宜配布するので、テキストと合わせて授業の予習・復習に活用すること。

その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：中村恭子 E-mail：k-nakamu［at］juntendo.ac.jp ※［at］を＠に変更してください。 ［オフィスアワー］ 日時：前期：火曜日10:30-14:00, 木曜日10:30-14:00,　後期：月曜日10:30-15:00, 金曜日15:00-17:00 場所：１号館５階　1501号室 ただし、上記の時間帯においても会議等で不在の場合もあるので、前日までにE-mail等で確認・予約すること。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ 「中高保健体育科教員免許」取得のための必修科目である。また、（公財）健康・体力づくり事業財団「健康運動指導士」のエアロビックダンス講習免除科目として、本科目またはスポーツコーチング演習（ダンス）のいずれかの履修が必要である。 １クラスの受講人数が60人を超える場合は、「中高保健体育科教員免許」または「健康運動指導士」資格取得のための履修者を優先し、残りを抽選とする場合もある。 なお、新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中村恭子	［授業内容］ ガイダンス：授業内容と学び方、ダンスの特性と種類、先輩作品ビデオ鑑賞、ダンス・ウォームアップの特徴と効果 外国のフォークダンス①オクラホマ・ミキサー	［授業方法］ ダンスの特性や種類について、グループで討議し、意見交換する。 心と体をほぐし技能を高めるダンス・ウォームアップを体験し、その目的と効果について分析する。 オクラホマ・ミキサーの踊り方を理解し，仲間と教えあって習得し交流する。	（復習：1時間） ダンス学習ノートを作り、ダンスの特性や種類を整理する。 オクラホマ・ミキサーの由来と踊りの特徴を調べる。
2	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス①サンバ 「サンバのリズムでお祭りパレード」 現代的なリズムのダンス②ヒップホップ「足じゃんけんからヒップホップへ」 外国のフォークダンス② ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブー	［授業方法］ リズムに乗って即興的に踊り、多様な動きを工夫する。仲間の動きを即時に真似して踊り続ける。 足じゃんけんの動きをもとに簡単な動きの組み合わせを工夫する。仲間と教えあい続けて踊る。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ヒップホップ文化について調べる。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
3	中村恭子	（［授業内容］ 現代的なリズムのダンス③ロック「ロックのリズムで動く-止まる」 現代的なリズムのダンス④床の動き「床を使ってブレイクダンスみたいに」 外国のフォークダンス③ドードレブスカ・ポルカ	［授業方法］ 見つけた動きのリズムを変化させ、メリハリをつけて踊る。床を使った動きや回転技を工夫し短いフレーズを作る。バトル形式で他チームと踊り合う。 ドードレブスカ・ポルカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ヒップホップダンスにおけるダンスバトルの由来と特徴を調べる。 ドードレブスカ・ポルカの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。

4	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス⑤グループ作品創作	［授業方法］ 課題曲の中から好きな曲を選び、選択曲グループ内で分担して動きを創作する。動きを教え合い、グループで1曲通して踊れるように仕上げる。	（復習：1時間） グループで作った動きを練習し覚える。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
5	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス⑥作品発表会	［授業方法］ 修正と踊り込みで完成度を高め、発表する。 他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。	（予習：0.5時間） 作品のイメージに合った衣装を工夫し準備する。 ［復習：0.5時間］ 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
6	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス①物［小道具］を使って「しんぶんし」 日本の民踊①よさこい鳴子踊り	［授業方法］ 即興で新聞紙の動きを模倣し、多様な体の使い方を工夫してひと流れの動きを作り踊る。 他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 よさこい鳴子踊りの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） よさこい鳴子踊りの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「物［小道具］を使って」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
7	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス②対極の動きの連続「走る-止まる」 日本の民踊②郡上踊り「げんげんばらばら」	［授業方法］ メリハリのある「走る-止まる」のひと流れを即興で多様に変化させて踊り、仲間とイメージと動きを共有、ひとまとまりの表現を作り踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 郡上踊り「げんげんばらばら」の踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） 郡上踊りの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「対極の動きの連続」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
8	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス③身近な生活と日常動作「スポーツ名場面集～感動の瞬間をもう一度」 外国のフォークダンス④ハーモニカ	［授業方法］ 各種スポーツの特徴をとらえて動きをデッサンし、仲間と動きを共有、ひとまとまりの表現を作る。特徴を強調するデフォルメ［変形］の方法を学び、表現を工夫して発表する。 他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 ハーモニカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ハーモニカの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「群［集団］の動き」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。

9	中村恭子	（［授業内容］ 創作ダンス④多様な感じ・群［集団］の動き「旅立ちの刻」 外国のフォークダンス⑤オスロー・ワルツ	［授業方法］ 嬉しい、悲しい、流れるような、ごつごつした、などの感じのある動きと、大回り-小回り、高中低の群像、密集-分散などの群の動きを取り入れながら「旅立ちの刻」をテーマに踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 オスロ-・ワルツの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） オスロー・ワルツの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「身近な生活と日常動作」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
10	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑤はこびとストーリー「事件発生」 グループ作品創作のグループ分け、デッサン 外国のフォークダンス⑥バージニア・リール	［授業方法］ 作品として表現したい「事件」を選んでグループを作り、表したいイメージを深め、はこびを考える。各場面での使用曲を決める。グループで場面を分担して中核となる動きをデッサンする。 バージニア・リールの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） バージニア・リールの由来と踊りの特徴を調べる。身近な「事件」のうちダンスで表現できそうな題材を考える。 （復習：1時間） 分担部分の動きを完成させる。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
11	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑥「事件発生」グループ作品創作	［授業方法］ 各場面に相応しい曲を選ぶ。分担した場面の動きを教えあい、群の構成を工夫して作品全体を仕上げる。	（予習：0.5時間） 分担部分に相応しい使用曲［候補曲］を探す。 （復習：1時間） グループで作った動きや群構成を覚え、スムーズに動けるように練習する。本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
12	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑦「事件発生」グループ作品発表会 ビデオ鑑賞会と相互評価	［授業方法］ 作品を踊り込み、発表する。他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。	【（予習：0.5時間） 作品の使用曲を編集する。相応しい衣装を準備する。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
13	中村恭子	［授業内容］ エアロビックダンスの特性と基本理論 実技指導技術①基本ステップと名称の理解、正確で明確な動作の習得	［授業方法］ エアロビックダンスの特性、運動強度の設定について学び，目標心拍数の算出方法の演習を行う。指導者の動きを模倣して基本的なプログラムの動きを練習し、ステップ名称と動きの要点を理解する。	（予習：0.5時間） エアロビクスについて関連書籍を読む。 エアロビックダンスの基本ステップについて配布資料を読み理解する。 （復習：0.5時間） エアロビックダンスの運動強度設定と目標心拍数の算出方法についてまとめる。 基本的なプログラムを練習してスムーズに実演できるようにする。
14	中村恭子	［授業内容］ エアロビックダンスの指導の要点 実技指導技術②対面指導の示範、キューイング、実技指導実習と相互評価	［授業方法］ 基本的なプログラムのルーティンについて交代で模擬指導実習を行い、評価し合う。	（予習：0.5時間） 指導者の役割について配布資料を読み理解する。基本ステップの名称を覚える。 （復習：0.5時間） 基本的なプログラムの実技指導がスムーズに実演できるように練習する。 模擬指導実習の反省レポート。
	中村恭子	定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】ダンス ［女子②］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】ダンス ［女子②］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中村　恭子	ナンバリング	DAE1138
担当教員	中村　恭子、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 中学・高校のダンス領域の内容である創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンスの実技と指導法を学習する。即興創作やグループ創作を通じて発想力、表現力、協調性、課題解決能力を高め、ダンスの美的表現原理と創作技法の基礎知識と技能を身に付ける。中学・高校の保健体育教員としての視点で授業を捉え、ダンス学習指導法についての理解を深める。 また、健康・体力づくりの運動であるエアロビックダンスの理論と実技を学び、指導の基本技術を身に付ける。
到達目標	［授業の到達目標］ １．多様なダンスを学習してリズム感や身体操作能力、表現力を高め、自分の発想で表したい動きを見つけ、全身を大きく使いメリハリを付けて踊ることができる。 ２．動きとイメージやリズムの関係、動きのアレンジや動きを強調する表現方法、群の構成や空間の使い方、作品の展開や構成法について理解し、それらを応用してオリジナルの作品を創作・発表できる。 ３．グループ創作活動や発表・鑑賞を通して課題解決能力、対人調整力、自他の個性を認め合う態度を身に付けることができる。 ４．ダンス領域の各種ダンスの学習内容と学習指導法について理解し、良い動きを見分ける力と指導力を身に付けることができる。 ５．エアロビックダンスの基本理論を理解し、対面指導の示範やキューイングを取り入れた実技指導ができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO/JAF（日本エアロビック連盟）公認エアロビックコーチ1養成講習会免除適応コースの必修科目、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	［授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）］ この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付ける。また、スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力の基礎を身に付けることを目的とする。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 　中高保健体育科教員免許取得のための必修科目である本科目は指導力養成を目標の一つとしているため，指導者としての心構えをもって受講すること。生徒の立場で実技を体験しながらも指導者目線で授業を分析して欲しい。復習として授業内容を記録する学習ノートの記載においては指導者の立場で記述し、学習内容と方法、指導の要点をまとめて復習すること。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 遅刻・早退は30分以内とし、3回で1回分の欠席に換算する。試合等の欠席は事情を考慮はするが、欠席は欠席としてカウントするので注意すること。なお、ケガや故障等で全力全身での実技ができない場合でも、「今できる範囲で」授業に参加できるのがダンスの特徴でもあるので、できる範囲で参加すること。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 　実技力（表現力・創作力）60%、鑑賞評価力10%、知識・理解（学習ノート）20%、取り組む姿勢10%
評価基準	［成績評価の基準］ １．精一杯大きく、メリハリをつけて、なりきって踊っているか。独創的な動きや表現が工夫できるか。 ２．自他の動きや表現の良し悪しを判断し、観賞・評価できるか。 ３．ダンスの用語や美的表現原理を理解し、授業の進め方や効果的な指導方法について記述できるか。 ４．積極的に取り組み、仲間と協力して主体的に活動しているか。 ５．エアロビックダンスの基本理論を理解し，実技指導（対面指導の示範、キューイング）ができるか。

試験・課題に対するフィードバック方法

［課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法］
　平常時の実技の出来栄えについては、即時、口頭でフィードバックする。
　3回の実技試験では評価の観点（精一杯大きく動いているか・メリハリをつけて踊っているか・独創的な動きの工夫があるか・群や空間の工夫ができているか・なりきって踊っているか）の各項目について相互評価の結果を集計して示す。
　知識・理解については学習ノートを毎回提出させ、記述内容について具体的にコメントを記入して返却する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版　明日からトライ！ダンスの授業	全国ダンス・表現運動授業研究会編	大修館書店	9784469269185	

参考文献

『中学校学習指導要領解説　保健体育編』　文部科学省、東山書房、2018
『高等学校学習指導要領解説　保健体育　体育編』　文部科学省、東山書房、2019
『みんなでトライ！表現運動の授業』全国ダンス・表現運動授業研究会編、大修館書店、2015
その他、必要に応じて資料を適宜配布するので、テキストと合わせて授業の予習・復習に活用すること。

その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：中村恭子 E-mail：k-nakamu［at］juntendo.ac.jp ※［at］を＠に変更してください。 ［オフィスアワー］ 日時：前期：火曜日10:30-14:00, 木曜日10:30-14:00,　後期：月曜日10:30-15:00, 金曜日15:00-17:00 場所：１号館５階　1501号室 ただし、上記の時間帯においても会議等で不在の場合もあるので、前日までにE-mail等で確認・予約すること。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ 「中高保健体育科教員免許」取得のための必修科目である。また、（公財）健康・体力づくり事業財団「健康運動指導士」のエアロビックダンス講習免除科目として、本科目またはスポーツコーチング演習（ダンス）のいずれかの履修が必要である。 １クラスの受講人数が60人を超える場合は、「中高保健体育科教員免許」または「健康運動指導士」資格取得のための履修者を優先し、残りを抽選とする場合もある。 なお、新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中村恭子	［授業内容］ ガイダンス：授業内容と学び方、ダンスの特性と種類、先輩作品ビデオ鑑賞、ダンス・ウォームアップの特徴と効果 外国のフォークダンス①オクラホマ・ミキサー	［授業方法］ ダンスの特性や種類について、グループで討議し、意見交換する。 心と体をほぐし技能を高めるダンス・ウォームアップを体験し、その目的と効果について分析する。 オクラホマ・ミキサーの踊り方を理解し，仲間と教えあって習得し交流する。	（復習：1時間） ダンス学習ノートを作り、ダンスの特性や種類を整理する。 オクラホマ・ミキサーの由来と踊りの特徴を調べる。
2	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス①サンバ 「サンバのリズムでお祭りパレード」 現代的なリズムのダンス②ヒップホップ「足じゃんけんからヒップホップへ」 外国のフォークダンス② ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブー	［授業方法］ リズムに乗って即興的に踊り、多様な動きを工夫する。仲間の動きを即時に真似して踊り続ける。 足じゃんけんの動きをもとに簡単な動きの組み合わせを工夫する。仲間と教えあい続けて踊る。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ヒップホップ文化について調べる。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
3	中村恭子	（［授業内容］ 現代的なリズムのダンス③ロック「ロックのリズムで動く-止まる」 現代的なリズムのダンス④床の動き「床を使ってブレイクダンスみたいに」 外国のフォークダンス③ドードレブスカ・ポルカ	［授業方法］ 見つけた動きのリズムを変化させ、メリハリをつけて踊る。床を使った動きや回転技を工夫し短いフレーズを作る。バトル形式で他チームと踊り合う。 ドードレブスカ・ポルカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ヒップホップダンスにおけるダンスバトルの由来と特徴を調べる。 ドードレブスカ・ポルカの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。

4	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス⑤グループ作品創作	［授業方法］ 課題曲の中から好きな曲を選び、選択曲グループ内で分担して動きを創作する。動きを教え合い、グループで1曲通して踊れるように仕上げる。	（復習：1時間） グループで作った動きを練習し覚える。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
5	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス⑥作品発表会	［授業方法］ 修正と踊り込みで完成度を高め、発表する。 他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。	（予習：0.5時間） 作品のイメージに合った衣装を工夫し準備する。 ［復習：0.5時間］ 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
6	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス①物［小道具］を使って「しんぶんし」 日本の民踊①よさこい鳴子踊り	［授業方法］ 即興で新聞紙の動きを模倣し、多様な体の使い方を工夫してひと流れの動きを作り踊る。 他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 よさこい鳴子踊りの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） よさこい鳴子踊りの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「物［小道具］を使って」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
7	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス②対極の動きの連続「走る-止まる」 日本の民踊②郡上踊り「げんげんばらばら」	［授業方法］ メリハリのある「走る-止まる」のひと流れを即興で多様に変化させて踊り、仲間とイメージと動きを共有、ひとまとまりの表現を作り踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 郡上踊り「げんげんばらばら」の踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） 郡上踊りの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「対極の動きの連続」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
8	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス③身近な生活と日常動作「スポーツ名場面集～感動の瞬間をもう一度」 外国のフォークダンス④ハーモニカ	［授業方法］ 各種スポーツの特徴をとらえて動きをデッサンし、仲間と動きを共有、ひとまとまりの表現を作る。特徴を強調するデフォルメ［変形］の方法を学び、表現を工夫して発表する。 他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 ハーモニカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ハーモニカの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「群［集団］の動き」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。

9	中村恭子	（［授業内容］ 創作ダンス④多様な感じ・群［集団］の動き「旅立ちの刻」 外国のフォークダンス⑤オスロー・ワルツ	［授業方法］ 嬉しい、悲しい、流れるような、ごつごつした、などの感じのある動きと、大回り-小回り、高中低の群像、密集-分散などの群の動きを取り入れながら「旅立ちの刻」をテーマに踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 オスロ-・ワルツの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） オスロー・ワルツの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「身近な生活と日常動作」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
10	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑤はこびとストーリー「事件発生」 グループ作品創作のグループ分け、デッサン 外国のフォークダンス⑥バージニア・リール	［授業方法］ 作品として表現したい「事件」を選んでグループを作り、表したいイメージを深め、はこびを考える。各場面での使用曲を決める。グループで場面を分担して中核となる動きをデッサンする。 バージニア・リールの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） バージニア・リールの由来と踊りの特徴を調べる。身近な「事件」のうちダンスで表現できそうな題材を考える。 （復習：1時間） 分担部分の動きを完成させる。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
11	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑥「事件発生」グループ作品創作	［授業方法］ 各場面に相応しい曲を選ぶ。分担した場面の動きを教えあい、群の構成を工夫して作品全体を仕上げる。	（予習：0.5時間） 分担部分に相応しい使用曲［候補曲］を探す。 （復習：1時間） グループで作った動きや群構成を覚え、スムーズに動けるように練習する。本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
12	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑦「事件発生」グループ作品発表会 ビデオ鑑賞会と相互評価	［授業方法］ 作品を踊り込み、発表する。他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。	【（予習：0.5時間） 作品の使用曲を編集する。相応しい衣装を準備する。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
13	中村恭子	［授業内容］ エアロビックダンスの特性と基本理論 実技指導技術①基本ステップと名称の理解、正確で明確な動作の習得	［授業方法］ エアロビックダンスの特性、運動強度の設定について学び，目標心拍数の算出方法の演習を行う。指導者の動きを模倣して基本的なプログラムの動きを練習し、ステップ名称と動きの要点を理解する。	（予習：0.5時間） エアロビクスについて関連書籍を読む。 エアロビックダンスの基本ステップについて配布資料を読み理解する。 （復習：0.5時間） エアロビックダンスの運動強度設定と目標心拍数の算出方法についてまとめる。 基本的なプログラムを練習してスムーズに実演できるようにする。
14	中村恭子	［授業内容］ エアロビックダンスの指導の要点 実技指導技術②対面指導の示範、キューイング、実技指導実習と相互評価	［授業方法］ 基本的なプログラムのルーティンについて交代で模擬指導実習を行い、評価し合う。	（予習：0.5時間） 指導者の役割について配布資料を読み理解する。基本ステップの名称を覚える。 （復習：0.5時間） 基本的なプログラムの実技指導がスムーズに実演できるように練習する。 模擬指導実習の反省レポート。
	中村恭子	定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	スポーツ健康科学部教員共通	ナンバリング	COA1139
担当教員	スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。 武道の代表的な剣道について、基本的な技能を習得し、指導法と基礎理論についての理解を深める。剣道の歴史的背景から成り立つ、武士道的な考え方を理解する。基本動作の習得から対人的技能へと発展させる。剣道具を着装することより、空間打突から実践に移行し、地稽古や試合稽古へ発展させる。技術の習得にはグループ学習や映像を活用した技術確認を行い、対人調整力とコミュニケーション能力を向上させるなかでその指導方法も身につくようにする。 【授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）】 剣道を通して、対人競技の楽しさとともに文化的側面を学ぶ。その過程で、互いに競いながらも協力し合うことで対人調整力やコミュニケーション力を向上させ、学校現場で指導できるよう応用的能力を養う。 【授業の到達目標】 １．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
到達目標	
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 運動に適した服装を各自が準備する。なお、安全上の問題から受講希望者数が50名を超えた場合は、抽選を行う。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 共有する道具の扱いを丁寧にし、授業内で求められる所作や態度を守ること。 【課題（試験･レポート等）に対するフィードバックの方法】 レポートについては返却時、課題試験については実施後に、授業内でポイント等をフィードバックする。 【テキスト・参考書】 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 剣道Ⅰ：剣道指導要領（全日本剣道連盟）・剣道授業の展開（全日本剣道連盟）

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の基準】 １．相手を尊重した所作法や取り組みができる。（平常点） ２．基本動作や対人的技能が身についた。（授業内試験） ３．剣道のルールに則った地稽古ならびに試合ができる。（平常点） ４．学校指導現場で生かせる練習法について理解する。（平常点、レポート） 【成績評価の方法】 授業に取り組む姿勢・参画度 50%、 課題達成度 40%、 知識の獲得度 10%
評価基準	

試験・課題に対するフィードバック方法

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先：オフィスアワー】 中村 充　（1号館5階　1505号室）：木曜日　10:00～12:00、14:30～16:00 E-mail：mtnakamu@juntendo.ac.jp
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 　この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 　中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 　この授業科目は、中・高保健体育一種免許の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目として位置づけられています。 　この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 　JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中村 佐藤	【授業内容】 ガイダンス、基本動作の確認 【授業方法】 授業の進め方について説明する。授業に必要な用具を説明する。基本動作について確認する。		（予習：0.5時間） 授業の目的、内容についてシラバスを読む。 （復習：0.5時間） 所作法、基本動作について整理する。
2	中村 佐藤	【授業内容】 剣道小史を学習する。礼法・所作法とともに、木刀の構え方、足さばきを身につける。 【授業方法】 剣道の成り立ち、礼法・所作法を解説する。木刀を用いた遊びを行い、剣道を楽しむとともに、木刀の構え方、足さばきを説明し実践する。		（予習：1時間） 剣道の理念、剣道修練の心構えについて調べる。 （復習：0.5時間） 剣道の成り立ちを整理する。剣道の所作法を整理する。
3	中村 佐藤	【授業内容】 仕掛けていく技を理解する。面・小手・胴・突きを空間打突、竹刀打ちを実践する。 【授業方法】 仕掛け技の分類を説明する。二人組でお互いに打突部位を確認し、仕掛け手と受け手（元立ち）を交替しながら空間打突と竹刀打ちを行う。		（予習：0.5時間） 仕掛け技の分類を調べる。 （復習：0.5時間） 元立ちの役割について整理する。
4	中村 佐藤	【授業内容】 踏み込み足の意義を理解し、踏み込み足を用いて打突を行う。連続技を踏み込み足で実践する。 【授業方法】 踏み込み足の意義、実践方法を説明する。グループあるいは二人組にて踏み込み足を用いて竹刀打ちを行う。		（予習：0.5時間） 踏み込み足の方法を調べる。 （復習：0.5時間） 踏み込み足の留意点を整理する。
5	中村 佐藤	【授業内容】 切り返しの方法を理解し、実践してみる。近い間合いから引きながらの打突方法を学び、実践する。 【授業方法】 切り返しの実施方法を解説する。二人組にて、踏み込み足を用いた切り返しを相互に実施する。近い間合いから引きながら打突する方法を解説し、実践する。		（予習：0.5　時間） 切り返しについて調べる。 （復習：0.5時間） 切り返し実施上の留意点を整理する。
6	中村 佐藤	【授業内容】 仕掛け技、切り返しを行う。 【授業方法】 二人組にて、仕掛け技および切り返しを確認しながら実施する。		（予習：0.5時間） 切り返しの実施方法を調べる。 （復習：0.5時間） 切り返しの効用について整理する。
7	中村 佐藤	【授業内容】 抜き技、返し技の原理を理解し、習得する。 【授業方法】 グループごとに、抜き技および返し技を説明し、空間打突から実打に移行していく。		（予習：0.5　時間） 抜き技と返し技の技術内容を調べる。 （復習：0.5時間） 抜き技と返し技の竹刀と足さばきを整理する。
8	中村 佐藤	【授業内容】 すり上げ技、打ち落とし技、出ばな技の原理を理解し、習得する。 【授業方法】 グループごとに、すり上げ技、打ち落とし技、出ばな技を説明し、空間打突から実打に移行していく。		（予習：0.5時間） すり上げ技、打ち落とし技、出ばな技の技術内容を調べる。 （復習：0.5時間） すり上げ技、打ち落とし技、出ばな技の竹刀と足さばきを整理する。
9	中村 佐藤	【授業内容】 機会を意識しながら、仕掛け技と応じ技のまとめを行い、自己の得意技を考える。 【授業方法】 打突の好機について解説する。二人組で、仕掛け技と応じ技を号令に従って実施し、自分の得意技を研究する。		（予習：0.5時間） 打突の好機について調べる。 （復習：0.5時間） 打突の機会と各技を整理する。
10	中村 佐藤	【授業内容】 個人戦の勝敗決定方法を理解し、リーグ戦により個人戦を行う。 【授業方法】 個人リーグ戦の順位決定方法を解説し、有段者が審判となって個人リーグ戦を行う。		（予習：0.5時間） 自己の特長を踏まえて、試合で繰り出す得意技を考える。 （復習：0.5時間） 個人戦を振り返って、試合の進め方について考える。
11	中村 佐藤	【授業内容】 団体戦の運営要領を理解し、団体戦を行う。 【授業方法】 団体戦の運営要領を解説し、その特性を紹介する。チーム分けを行い、団体リーグ戦を実施する。		（予習：0.5時間） 団体戦の実施要領を調べる。 （復習：0.5時間） 個人戦と団体戦で感じた違いを整理する。

12	中村 佐藤	【授業内容】 団体戦を行う。 【授業方法】 チーム分けを行い、団体リーグ戦を実施する。		（予習：0.5時間） 自己の特長を踏まえて、戦術を考える。 （復習：0.5時間） 剣道の試合で味わえる楽しさを考える。
13	中村 佐藤	【授業内容】 実技試験を行う。 【授業方法】 実技試験を行う。		（予習：0.5時間） 実技試験課題について準備する。 （復習：0.5時間） 試験を踏まえて課題の達成度を自己分析する。
14	中村 佐藤	【授業内容】 課題ビデオの視聴。 【授業方法】 本授業では体感できなかった修業的側面を解説し、ビデオ視聴を通して理解させる。		（予習：0.5時間） 剣道の武道的要素を考える。 （復習：1時間） 課題に対するレポートを作成する。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	スポーツ健康科学部教員共通	ナンバリング	COA1139
担当教員	スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。 講道館柔道の基本動作、受け身、投げ技、固め技を習得し、その理合いと指導方法について理解を深める。また、柔道の歴史や、嘉納治五郎師範の思想である精力善用・自他共栄を深く理解し、柔道の本質的な考え方を理解する。加えて、国内・国外の試合審判規定を理解するとともに簡易な審判法や試合運営法についても学習する。技術の習得にはグループ学習や映像を活用した技術確認を行い、柔道技能を対人調整力とコミュニケーション能力を向上させるなかで育む。 【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付けるための科目の１つとして開講される。また、実技を通して高い倫理観とコミュニケーション能力を涵養し、スポーツ科学分野での専門的な実践力を身につけるという学位授与方針の達成にも寄与する。 【授業の到達目標】 １．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
到達目標	
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 対人格闘技という運動特性を充分に理解し、卒業後に各種スポーツ指導者や保健体育科教員を目指していることが望ましい。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 授業などで返却、もしくはグループ別発表時にコメントするなど評価のポイントを提示して解説する。 【テキスト・参考書等】 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 授業中に適宜資料を配布する。

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の基準】 1.講道館柔道における歴史や運動特性、技術および安全管理に関して指導法を理解している。（レポート、定期試験） 2.講道館柔道における投げ技、固め技についてその技能を幅広く修得している。（実技試験） 3.授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点） 【成績評価の方法】 平常点（10%）、課題レポート（10%）、定期試験（30%）、実技試験（50%）を総合して評価する。
評価基準	

試験・課題に対するフィードバック方法

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：廣瀬 伸良 E-mail：nhirose@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：授業開講日の昼休み 場所：1号館5F　1506室
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 　この授業は実技形式による１単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 　この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 　JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	廣瀬 竹澤	【授業内容】 ガイダンス 柔道衣の採寸・注文 【授業方法】 授業の進め方や心構え等の説明を行う。柔道衣を持っていない学生は採寸と注文をする。		（予習：0.5時間） 授業の目的、内容を把握し、柔道を受講するための心構えを持つ。
2	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の歴史・哲学について理解する。 柔道の基本動作（礼法、後ろ受け身、横受け身） 【授業方法】 柔道の理念を説明する。実技方式で技術と応用動作を身につける。		（予習：1時間） 柔道の理念や基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
3	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道衣の着方、柔道の基本動作（前受け身、前回り受け身、組み方）について理解する。 【授業方法】 実技方式で技術と応用動作を身につける。		（予習：0.5時間） 柔道衣の着方やたたみ方、基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
4	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の基本動作（崩し、体捌き）足技（膝車）、抑え技（袈裟固め）について理解する。 【授業方法】 実技方式で技術と応用動作を身につける。		（予習：0.5時間） 柔道の膝車、袈裟固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
5	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（大腰）抑え技（横四方固め）について理解する。 【授業方法】 実技方式で技術と応用動作を身につける。		（予習：0.5時間） 柔道の大腰、横四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
6	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（体落とし）抑え技（上四方固め）について理解する。 【授業方法】 実技方式で技術と応用動作を身につける。		（予習：0.5時間） 柔道の体落とし、上四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
7	廣瀬 竹澤	【授業内容】 足技（大外刈り、大内刈り）抑え技（肩固め）について理解する。 【授業方法】 実技方式で技術と応用動作を身につける。		（予習：0.5時間） 柔道の大外刈り、肩固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
8	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（釣込腰）抑え技からの返し方を理解する。 【授業方法】 実技方式で技術と応用動作を身につける。		（予習：0.5時間） 柔道の釣込腰、抑え技までの返し方について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
9	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（背負い投げ、一本背負い投げ）絞め技（裸締め、送り襟締め）について理解する。 【授業方法】 実技方式で技術と応用動作を身につける。絞め技については柔術の流れを組む技術の在り方について理解する。		（予習：0.5時間） 柔道の背負い投げ、一本背負い投げ、裸締め、送り襟締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
10	廣瀬 竹澤	【授業内容】 立技の約束練習、自由練習、絞め技（片羽締め、逆十字締め）について理解する。 【授業方法】 実技方式で技術と応用動作を学習する中で、複数の投げ技を駆使して立技の実践練習を行う。		（予習：0.5時間） 柔道の片羽締め、逆十字締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
11	廣瀬 竹澤	【授業内容】 固め技の約束練習、自由練習について理解する。 【授業方法】 実技方式で技術と応用動作を学習する。複数の抑え技、絞め技を駆使して寝技の実践練習を行う。		（予習：0.5時間） 柔道の約束練習、自由練習について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。

12	廣瀬 竹澤	【授業内容】 投げ技の応用練習方法（連絡技、移動打ち込み）について理解する。 【授業方法】 実技方式で技術と応用動作を身につける。		（予習：0.5時間） 柔道の連絡技、移動打ち込みについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
13	廣瀬 竹澤	【授業内容】 講道館柔道試合審判規定ならびに国際柔道連盟試合審判規定について理解し、大会の運営方法を学ぶ。 【授業方法】 実技方式で技術と応用動作を学習する。		（予習：0.5時間） 柔道の審判規定、審判法について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
14	廣瀬 竹澤	【授業内容】 実技試験 【授業方法】 これまでの学習内容について実技試験を行う。		（予習：1時間） これまでの学修内容について技能を身に付ける。 （復習：1時間） 授業で行なった学修内容の総まとめをする。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道（柔道）［男子③］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道（柔道）［男子③］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	廣瀬　伸良	ナンバリング	COA1139
担当教員	廣瀬　伸良、竹澤　稔裕、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。
到達目標	１．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付けるための科目の１つとして開講される。また、実技を通して高い倫理観とコミュニケーション能力を涵養し、スポーツ科学分野での専門的な実践力を身につけるという学位授与方針の達成にも寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 対人格闘技という運動特性を充分に理解し、卒業後に各種スポーツ指導者や保健体育科教員を目指していることが望ましい。
成績評価の方法	
評価方法	平常点（10%）、課題レポート（10%）、定期試験（30%）、実技試験（50%）を総合して評価する。
評価基準	１.講道館柔道における歴史や運動特性、技術および安全管理に関して指導法を理解している。（レポート、定期試験） ２.講道館柔道における投げ技、固め技についてその技能を幅広く修得している。（実技試験） ３.授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
授業などで返却、もしくはグループ別発表時にコメントするなど評価のポイントを提示して解説する。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領	文部科学省			
中学校学習指導要領解説 保健体育編	文部科学省			
高等学校学習指導要領	文部科学省			
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編	文部科学省			

参考文献	
授業中に適宜資料を配布する。	
その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：廣瀬 伸良 E-mail：nhirose@juntendo.ac.jp 担当：竹澤 稔裕 E-mail：t.takezawa.ul@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：授業開講日の昼休み 場所：1号館5F　1506室
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は実技形式による１単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっている。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルスの発生状況に応じて，成績評価の基準および方法，授業計画を変更する場合がある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	廣瀬 竹澤	【授業内容】 ガイダンス 柔道衣の採寸・注文	授業の進め方や心構え等の説明を行う。柔道衣を持っていない学生は採寸と注文をする。	（予習：0.5時間） 授業の目的、内容を把握し、柔道を受講するための心構えを持つ。
2	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の歴史・哲学について理解する。 柔道の基本動作（礼法、後ろ受け身、横受け身）	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：1時間） 柔道の理念や基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
3	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道衣の着方、柔道の基本動作（前受け身、前回り受け身、組み方）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道衣の着方やたたみ方、基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
4	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の基本動作（崩し、体捌き）足技（膝車）、抑え技（袈裟固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の膝車、袈裟固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
5	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（大腰）抑え技（横四方固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の大腰、横四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
6	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（体落とし）抑え技（上四方固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の体落とし、上四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
7	廣瀬 竹澤	【授業内容】 足技（大外刈り、大内刈り）抑え技（肩固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の大外刈り、肩固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
8	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（釣込腰）抑え技からの返し方を理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の釣込腰、抑え技までの返し方について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
9	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（背負い投げ、一本背負い投げ）絞め技（裸締め、送り襟締め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の背負い投げ、一本背負い投げ、裸締め、送り襟締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
10	廣瀬 竹澤	【授業内容】 立技の約束練習、自由練習、絞め技（片羽締め、逆十字締め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の片羽締め、逆十字締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
11	廣瀬 竹澤	【授業内容】 固め技の約束練習、自由練習について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の約束練習、自由練習について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
12	廣瀬 竹澤	【授業内容】 投げ技の応用練習方法（連絡技、移動打ち込み）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の連絡技、移動打ち込みについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。

13	廣瀬 竹澤	【授業内容】 講道館柔道試合審判規定ならびに国際柔道連盟試合審判規定について理解し、大会の運営方法を学ぶ。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の審判規定、審判法について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
14	廣瀬 竹澤	【授業内容】 実技試験	これまでの学習内容について実技試験を行う。	（予習：1時間） これまでの学修内容について技能を身に付ける。 （復習：1時間） 授業で行なった学修内容の総まとめをする。
			定期試験	

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道（柔道）［男子⑤］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道（柔道）［男子⑤］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	廣瀬　伸良	ナンバリング	COA1139
担当教員	廣瀬　伸良、竹澤　稔裕、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。
到達目標	１．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付けるための科目の１つとして開講される。また、実技を通して高い倫理観とコミュニケーション能力を涵養し、スポーツ科学分野での専門的な実践力を身につけるという学位授与方針の達成にも寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 対人格闘技という運動特性を充分に理解し、卒業後に各種スポーツ指導者や保健体育科教員を目指していることが望ましい。

成績評価の方法	
評価方法	平常点（10%）、課題レポート（10%）、定期試験（30%）、実技試験（50%）を総合して評価する。
評価基準	１.講道館柔道における歴史や運動特性、技術および安全管理に関して指導法を理解している。（レポート、定期試験） ２.講道館柔道における投げ技、固め技についてその技能を幅広く修得している。（実技試験） ３.授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業などで返却、もしくはグループ別発表時にコメントするなど評価のポイントを提示して解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領	文部科学省			
中学校学習指導要領解説 保健体育編	文部科学省			
高等学校学習指導要領	文部科学省			
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編	文部科学省			

参考文献

授業中に適宜資料を配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：廣瀬 伸良 E-mail：nhirose@juntendo.ac.jp 担当：竹澤 稔裕 E-mail：t.takezawa.ul@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：授業開講日の昼休み 場所：1号館5F　1506室
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は実技形式による１単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっている。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルスの発生状況に応じて，成績評価の基準および方法，授業計画を変更する場合がある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	廣瀬 竹澤	【授業内容】 ガイダンス 柔道衣の採寸・注文	授業の進め方や心構え等の説明を行う。柔道衣を持っていない学生は採寸と注文をする。	（予習：0.5時間） 授業の目的、内容を把握し、柔道を受講するための心構えを持つ。
2	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の歴史・哲学について理解する。 柔道の基本動作（礼法、後ろ受け身、横受け身）	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：1時間） 柔道の理念や基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
3	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道衣の着方、柔道の基本動作（前受け身、前回り受け身、組み方）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道衣の着方やたたみ方、基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
4	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の基本動作（崩し、体捌き）足技（膝車）、抑え技（袈裟固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の膝車、袈裟固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
5	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（大腰）抑え技（横四方固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の大腰、横四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
6	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（体落とし）抑え技（上四方固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の体落とし、上四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
7	廣瀬 竹澤	【授業内容】 足技（大外刈り、大内刈り）抑え技（肩固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の大外刈り、肩固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
8	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（釣込腰）抑え技からの返し方を理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の釣込腰、抑え技までの返し方について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
9	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（背負い投げ、一本背負い投げ）絞め技（裸締め、送り襟締め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の背負い投げ、一本背負い投げ、裸締め、送り襟締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
10	廣瀬 竹澤	【授業内容】 立技の約束練習、自由練習、絞め技（片羽締め、逆十字締め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の片羽締め、逆十字締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
11	廣瀬 竹澤	【授業内容】 固め技の約束練習、自由練習について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の約束練習、自由練習について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
12	廣瀬 竹澤	【授業内容】 投げ技の応用練習方法（連絡技、移動打ち込み）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の連絡技、移動打ち込みについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。

13	廣瀬 竹澤	【授業内容】 講道館柔道試合審判規定ならびに国際柔道連盟試合審判規定について理解し、大会の運営方法を学ぶ。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の審判規定、審判法について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
14	廣瀬 竹澤	【授業内容】 実技試験	これまでの学習内容について実技試験を行う。	（予習：1時間） これまでの学修内容について技能を身に付ける。 （復習：1時間） 授業で行なった学修内容の総まとめをする。
			定期試験	

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道（柔道）［女子①］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道（柔道）［女子①］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	廣瀬　伸良	ナンバリング	COA1139
担当教員	廣瀬　伸良、竹澤　稔裕、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。
到達目標	１．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付けるための科目の１つとして開講される。また、実技を通して高い倫理観とコミュニケーション能力を涵養し、スポーツ科学分野での専門的な実践力を身につけるという学位授与方針の達成にも寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 対人格闘技という運動特性を充分に理解し、卒業後に各種スポーツ指導者や保健体育科教員を目指していることが望ましい。
成績評価の方法	
評価方法	平常点（10%）、課題レポート（10%）、定期試験（30%）、実技試験（50%）を総合して評価する。
評価基準	１.講道館柔道における歴史や運動特性、技術および安全管理に関して指導法を理解している。（レポート、定期試験） ２.講道館柔道における投げ技、固め技についてその技能を幅広く修得している。（実技試験） ３.授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
授業などで返却、もしくはグループ別発表時にコメントするなど評価のポイントを提示して解説する。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領	文部科学省			
中学校学習指導要領解説 保健体育編	文部科学省			
高等学校学習指導要領	文部科学省			
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編	文部科学省			

参考文献	
授業中に適宜資料を配布する。	
その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：廣瀬 伸良 E-mail：nhirose@juntendo.ac.jp 担当：竹澤 稔裕 E-mail：t.takezawa.ul@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：授業開講日の昼休み 場所：1号館5F　1506室
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は実技形式による１単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっている。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルスの発生状況に応じて，成績評価の基準および方法，授業計画を変更する場合がある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	廣瀬 竹澤	【授業内容】 ガイダンス 柔道衣の採寸・注文	授業の進め方や心構え等の説明を行う。柔道衣を持っていない学生は採寸と注文をする。	（予習：0.5時間） 授業の目的、内容を把握し、柔道を受講するための心構えを持つ。
2	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の歴史・哲学について理解する。 柔道の基本動作（礼法、後ろ受け身、横受け身）	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：1時間） 柔道の理念や基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
3	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道衣の着方、柔道の基本動作（前受け身、前回り受け身、組み方）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道衣の着方やたたみ方、基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
4	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の基本動作（崩し、体捌き）足技（膝車）、抑え技（袈裟固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の膝車、袈裟固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
5	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（大腰）抑え技（横四方固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の大腰、横四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
6	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（体落とし）抑え技（上四方固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の体落とし、上四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
7	廣瀬 竹澤	【授業内容】 足技（大外刈り、大内刈り）抑え技（肩固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の大外刈り、肩固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
8	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（釣込腰）抑え技からの返し方を理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の釣込腰、抑え技までの返し方について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
9	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（背負い投げ、一本背負い投げ）絞め技（裸締め、送り襟締め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の背負い投げ、一本背負い投げ、裸締め、送り襟締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
10	廣瀬 竹澤	【授業内容】 立技の約束練習、自由練習、絞め技（片羽締め、逆十字締め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の片羽締め、逆十字締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
11	廣瀬 竹澤	【授業内容】 固め技の約束練習、自由練習について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の約束練習、自由練習について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
12	廣瀬 竹澤	【授業内容】 投げ技の応用練習方法（連絡技、移動打ち込み）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の連絡技、移動打ち込みについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。

13	廣瀬 竹澤	【授業内容】 講道館柔道試合審判規定ならびに国際柔道連盟試合審判規定について理解し、大会の運営方法を学ぶ。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の審判規定、審判法について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
14	廣瀬 竹澤	【授業内容】 実技試験	これまでの学習内容について実技試験を行う。	（予習：1時間） これまでの学修内容について技能を身に付ける。 （復習：1時間） 授業で行なった学修内容の総まとめをする。
			定期試験	

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道（柔道）［女子③］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道（柔道）［女子③］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	廣瀬　伸良	ナンバリング	COA1139
担当教員	廣瀬　伸良、竹澤　稔裕、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。
到達目標	１．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付けるための科目の１つとして開講される。また、実技を通して高い倫理観とコミュニケーション能力を涵養し、スポーツ科学分野での専門的な実践力を身につけるという学位授与方針の達成にも寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 対人格闘技という運動特性を充分に理解し、卒業後に各種スポーツ指導者や保健体育科教員を目指していることが望ましい。
成績評価の方法	
評価方法	平常点（10%）、課題レポート（10%）、定期試験（30%）、実技試験（50%）を総合して評価する。
評価基準	１.講道館柔道における歴史や運動特性、技術および安全管理に関して指導法を理解している。（レポート、定期試験） ２.講道館柔道における投げ技、固め技についてその技能を幅広く修得している。（実技試験） ３.授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
授業などで返却、もしくはグループ別発表時にコメントするなど評価のポイントを提示して解説する。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領	文部科学省			
中学校学習指導要領解説 保健体育編	文部科学省			
高等学校学習指導要領	文部科学省			
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編	文部科学省			

参考文献	
授業中に適宜資料を配布する。	
その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：廣瀬 伸良 E-mail：nhirose@juntendo.ac.jp 担当：竹澤 稔裕 E-mail：t.takezawa.ul@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：授業開講日の昼休み 場所：1号館5F　1506室
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は実技形式による１単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっている。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルスの発生状況に応じて，成績評価の基準および方法，授業計画を変更する場合がある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	廣瀬 竹澤	【授業内容】 ガイダンス 柔道衣の採寸・注文	授業の進め方や心構え等の説明を行う。柔道衣を持っていない学生は採寸と注文をする。	（予習：0.5時間） 授業の目的、内容を把握し、柔道を受講するための心構えを持つ。
2	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の歴史・哲学について理解する。 柔道の基本動作（礼法、後ろ受け身、横受け身）	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：1時間） 柔道の理念や基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
3	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道衣の着方、柔道の基本動作（前受け身、前回り受け身、組み方）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道衣の着方やたたみ方、基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
4	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の基本動作（崩し、体捌き）足技（膝車）、抑え技（袈裟固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の膝車、袈裟固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
5	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（大腰）抑え技（横四方固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の大腰、横四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
6	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（体落とし）抑え技（上四方固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の体落とし、上四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
7	廣瀬 竹澤	【授業内容】 足技（大外刈り、大内刈り）抑え技（肩固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の大外刈り、肩固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
8	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（釣込腰）抑え技からの返し方を理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の釣込腰、抑え技までの返し方について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
9	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（背負い投げ、一本背負い投げ）絞め技（裸締め、送り襟締め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の背負い投げ、一本背負い投げ、裸締め、送り襟締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
10	廣瀬 竹澤	【授業内容】 立技の約束練習、自由練習、絞め技（片羽締め、逆十字締め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の片羽締め、逆十字締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
11	廣瀬 竹澤	【授業内容】 固め技の約束練習、自由練習について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の約束練習、自由練習について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
12	廣瀬 竹澤	【授業内容】 投げ技の応用練習方法（連絡技、移動打ち込み）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の連絡技、移動打ち込みについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。

13	廣瀬 竹澤	【授業内容】 講道館柔道試合審判規定ならびに国際柔道連盟試合審判規定について理解し、大会の運営方法を学ぶ。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の審判規定、審判法について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
14	廣瀬 竹澤	【授業内容】 実技試験	これまでの学習内容について実技試験を行う。	（予習：1時間） これまでの学修内容について技能を身に付ける。 （復習：1時間） 授業で行なった学修内容の総まとめをする。
			定期試験	

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道（剣道）［男子③］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道（剣道）［男子③］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中村　充	ナンバリング	COA1139
担当教員	中村　充、佐藤　皓也、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。 武道の代表的な剣道について、基本的な技能を習得し、指導法と基礎理論についての理解を深める。剣道の歴史的背景から成り立つ、武士道的な考え方を理解する。基本動作の習得から対人的技能へと発展させる。剣道具を着装することより、空間打突から実践に移行し、地稽古や試合稽古へ発展させる。技術の習得にはグループ学習や映像を活用した技術確認を行い、対人調整力とコミュニケーション能力を向上させるなかでその指導方法も身につくようにする。
到達目標	１．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	剣道を通して、対人競技の楽しさとともに文化的側面を学ぶ。その過程で、互いに競いながらも協力し合うことで対人調整力やコミュニケーション力を向上させ、学校現場で指導できるよう応用的能力を養う。
履修上の注意、履修要件	【履修上の注意（科目独自のルール）】 共有する道具の扱いを丁寧にし、授業内で求められる所作や態度を守ること。 【履修要件】 運動に適した服装を各自が準備する。なお、安全上の問題から受講希望者数が50名を超えた場合は、抽選を行う。
成績評価の方法	
評価方法	授業に取り組む姿勢・参画度 40%、 課題達成度 40%、 知識の獲得度 20%
評価基準	１．相手を尊重した所作法や取り組みができる。（平常点） ２．基本動作や対人的技能が身についた。（授業内試験） ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合ができる。（平常点） ４．日本固有の武道の歴史や、学校指導現場で生かせる練習法について理解する。（平常点、レポート）
試験・課題に対するフィードバック方法	
課題試験については実施後、レポートについては返却時、授業内でポイント等をフィードバックする。	

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

1. 剣道指導要領（全日本剣道連盟）
2. 剣道授業の展開（全日本剣道連盟）
3. 中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）
4. 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（文部科学省）

その他

連絡先・オフィスアワー	1号館5階　1505号室：水曜日14:30～16:00、木曜日10:00～12:00、 E-mail（中村　充）：mtnakamu@juntendo.ac.jp （佐藤皓也）：k.sato.it@juntendo.ac.jp
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、中・高保健体育一種免許の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目として位置づけられています。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	中村　充 佐藤皓也	授業の進め方について理解する。 授業に必要な用具を理解する。 剣道の基本動作および所作法について学習する。	ガイダンス、所作法をはじめとした基本動作を解説する。	（予習：0.5時間） 授業の目的、内容についてシラバスを読む。 （復習：0.5時間） 所作法、基本動作について整理する。
2	中村　充 佐藤皓也	剣道の成り立ち、礼法・所作法を理解する。 木刀を用いた遊びを通して、剣道を楽しむとともに、木刀の構え方、足さばきについて学習する。	剣道小史を解説する。 礼法・所作法、木刀の構え方、足さばきを解説し、実践する。	（予習：1時間） 剣道の理念、剣道修練の心構えについて調べる。 （復習：0.5時間） 剣道の成り立ちを整理する。剣道の所作法を整理する。
3	中村　充 佐藤皓也	仕掛け技の分類を理解する。 二人組でお互いに打突部位を確認し、仕掛け手と受け手（元立ち）を交替しながら木刀により空間打突を行なう。 木刀による基本技稽古法につなげていく。	仕掛け技を解説する。 面・小手・胴・突きの空間打突、木刀による基本技稽古法を解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 仕掛け技の分類を調べる。 （復習：0.5時間） 元立ちの役割について整理する。
4	中村　充 佐藤皓也	グループまたは二人組にて、木刀による基本技稽古法４本目までを習得する。	基本技稽古法４本目までを解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 木刀による基本技指導法の成り立ちについて調べる。 （復習：0.5時間） 木刀による基本技指導法４本目までの留意点を整理する。
5	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組により応じ技を学習し、木刀による基本技指導法における応じ技を実践する。	応じ技について解説し、木刀による基本技指導法における応じ技を実践する。	（予習：0.5　時間） 応じ技について調べる。 （復習：0.5時間） 木刀による基本技指導法の９本目までを整理する。
6	中村　充 佐藤皓也	竹刀を使用する際の注意点を理解する。 二人組にて、竹刀による空間打突と、打ち方と打たせ方を確認しながら実施する。	竹刀を使用する際の注意点を解説する。 竹刀による空間打突と、竹刀を用いた打ち方と打たせ方を解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 竹刀による打たせ方を調べる。 （復習：0.5時間） 竹刀を扱う際の、安全上の注意点を整理する。
7	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組により踏み込み足を学習し、踏み込み足を用いた打突を実践する。 切り返しの実施方法を理解し、実践する。	踏み込み足の必要性を解説し、踏み込み足を用いた打突を実践する。 切り返しについて解説する。	（予習：0.5　時間） 踏み込み足、切り返しについて調べる。 （復習：0.5時間） 踏み込み足、切り返しを行う際の注意点を整理する。
8	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組にて、退き技における踏み込み足を学習する。 グループにて、切り返しや連続技を実戦的に行なう。	退き技の際の踏み込み足を解説する。 切り返し、連続技を実戦的に行なう。	（予習：0.5時間） 退き技の際の踏み込み足について調べる。 （復習：0.5時間） 切り返しの効用を整理する。
9	中村　充 佐藤皓也	剣道具を正しく着装する。 防具に対して打ったり打たせたりする。	剣道具の着装の仕方を解説する。 防具に対する打ち方を解説する。	（予習：0.5時間） 剣道具（胴・垂れ）の着装方法について調べる。 （復習：0.5時間） 防具を打突する際の留意点について整理する。
10	中村　充 佐藤皓也	剣道具を着装する。 ２人組にて、実戦的なメンとコテを打ったり打たせたりする。	面の着装の仕方について解説する。 実戦的なメンとコテの打ち方打たせ方を解説する。	（予習：0.5時間） 面の着装の仕方を調べる。 （復習：0.5時間） 実戦的な打ち方や打たせ方を整理する。
11	中村　充 佐藤皓也	２人組にて、剣道具をつけての、実戦的な応じ技を実施する。 ２人組にて、地稽古を実施する。	剣道具をつけての、実戦的な応じ技について解説する。 地稽古のやり方について解説する。	（予習：0.5時間） 剣道具を着装しての応じ技について調べる。 （復習：0.5時間） 仕掛け技と応じ技の分類について整理する。
12	中村　充 佐藤皓也	仕掛け技と応じ技について、系統的なまとめを実践する。 試合を意識した地稽古を実践する。	仕掛け技と応じ技の、系統的なまとめを解説する。 試合を意識した地稽古について解説する。	（予習：0.5時間） 剣道試合のルールについて調べる。 （復習：0.5時間） 剣道の試合で味わえる楽しさを考える。

13	中村　充 佐藤皓也	実技の到達度について、課題試験を行なう。	実技の到達度試験を行う。	（予習：0.5時間） 実技試験課題について準備する。 （復習：0.5時間） 試験を踏まえて課題の達成度を自己分析する。
14	中村　充 佐藤皓也	剣道の昇段審査の仕組みを理解し、ビデオ等で剣道の修行的側面を理解する。	本授業の実技では体感できなかった、剣道がもつ修業的側面を解説する。	（予習：0.5時間） 剣道の武道的要素を考える。 （復習：1時間） 課題に対するレポートを作成する。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道（剣道）［男子⑤］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道（剣道）［男子⑤］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中村　充	ナンバリング	COA1139
担当教員	中村　充、佐藤　皓也、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。 武道の代表的な剣道について、基本的な技能を習得し、指導法と基礎理論についての理解を深める。剣道の歴史的背景から成り立つ、武士道的な考え方を理解する。基本動作の習得から対人的技能へと発展させる。剣道具を着装することより、空間打突から実践に移行し、地稽古や試合稽古へ発展させる。技術の習得にはグループ学習や映像を活用した技術確認を行い、対人調整力とコミュニケーション能力を向上させるなかでその指導方法も身につくようにする。
到達目標	１．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	剣道を通して、対人競技の楽しさとともに文化的側面を学ぶ。その過程で、互いに競いながらも協力し合うことで対人調整力やコミュニケーション力を向上させ、学校現場で指導できるよう応用的能力を養う。
履修上の注意、履修要件	【履修上の注意（科目独自のルール）】 共有する道具の扱いを丁寧にし、授業内で求められる所作や態度を守ること。 【履修要件】 運動に適した服装を各自が準備する。なお、安全上の問題から受講希望者数が50名を超えた場合は、抽選を行う。

成績評価の方法	
評価方法	授業に取り組む姿勢・参画度 40%、 課題達成度 40%、 知識の獲得度 20%
評価基準	１．相手を尊重した所作法や取り組みができる。（平常点） ２．基本動作や対人的技能が身についた。（授業内試験） ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合ができる。（平常点） ４．日本固有の武道の歴史や、学校指導現場で生かせる練習法について理解する。（平常点、レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法

課題試験については実施後、レポートについては返却時、授業内でポイント等をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

1. 剣道指導要領（全日本剣道連盟）
2. 剣道授業の展開（全日本剣道連盟）
3. 中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）
4. 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（文部科学省）

その他

連絡先・オフィスアワー	1号館5階　1505号室：水曜日14:30～16:00、木曜日10:00～12:00、 E-mail（中村　充）：mtnakamu@juntendo.ac.jp （佐藤皓也）：k.sato.it@juntendo.ac.jp
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、中・高保健体育一種免許の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目として位置づけられています。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	中村　充 佐藤皓也	授業の進め方について理解する。 授業に必要な用具を理解する。 剣道の基本動作および所作法について学習する。	ガイダンス、所作法をはじめとした基本動作を解説する。	（予習：0.5時間） 授業の目的、内容についてシラバスを読む。 （復習：0.5時間） 所作法、基本動作について整理する。
2	中村　充 佐藤皓也	剣道の成り立ち、礼法・所作法を理解する。 木刀を用いた遊びを通して、剣道を楽しむとともに、木刀の構え方、足さばきについて学習する。	剣道小史を解説する。 礼法・所作法、木刀の構え方、足さばきを解説し、実践する。	（予習：1時間） 剣道の理念、剣道修練の心構えについて調べる。 （復習：0.5時間） 剣道の成り立ちを整理する。剣道の所作法を整理する。
3	中村　充 佐藤皓也	仕掛け技の分類を理解する。 二人組でお互いに打突部位を確認し、仕掛け手と受け手（元立ち）を交替しながら木刀により空間打突を行なう。 木刀による基本技稽古法につなげていく。	仕掛け技を解説する。 面・小手・胴・突きの空間打突、木刀による基本技稽古法を解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 仕掛け技の分類を調べる。 （復習：0.5時間） 元立ちの役割について整理する。
4	中村　充 佐藤皓也	グループまたは二人組にて、木刀による基本技稽古法４本目までを習得する。	基本技稽古法４本目までを解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 木刀による基本技指導法の成り立ちについて調べる。 （復習：0.5時間） 木刀による基本技指導法４本目までの留意点を整理する。
5	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組により応じ技を学習し、木刀による基本技指導法における応じ技を実践する。	応じ技について解説し、木刀による基本技指導法における応じ技を実践する。	（予習：0.5　時間） 応じ技について調べる。 （復習：0.5時間） 木刀による基本技指導法の９本目までを整理する。
6	中村　充 佐藤皓也	竹刀を使用する際の注意点を理解する。 二人組にて、竹刀による空間打突と、打ち方と打たせ方を確認しながら実施する。	竹刀を使用する際の注意点を解説する。 竹刀による空間打突と、竹刀を用いた打ち方と打たせ方を解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 竹刀による打たせ方を調べる。 （復習：0.5時間） 竹刀を扱う際の、安全上の注意点を整理する。
7	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組により踏み込み足を学習し、踏み込み足を用いた打突を実践する。 切り返しの実施方法を理解し、実践する。	踏み込み足の必要性を解説し、踏み込み足を用いた打突を実践する。 切り返しについて解説する。	（予習：0.5　時間） 踏み込み足、切り返しについて調べる。 （復習：0.5時間） 踏み込み足、切り返しを行う際の注意点を整理する。
8	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組にて、退き技における踏み込み足を学習する。 グループにて、切り返しや連続技を実戦的に行なう。	退き技の際の踏み込み足を解説する。 切り返し、連続技を実戦的に行なう。	（予習：0.5時間） 退き技の際の踏み込み足について調べる。 （復習：0.5時間） 切り返しの効用を整理する。
9	中村　充 佐藤皓也	剣道具を正しく着装する。 防具に対して打ったり打たせたりする。	剣道具の着装の仕方を解説する。 防具に対する打ち方を解説する。	（予習：0.5時間） 剣道具（胴・垂れ）の着装方法について調べる。 （復習：0.5時間） 防具を打突する際の留意点について整理する。
10	中村　充 佐藤皓也	剣道具を着装する。 ２人組にて、実戦的なメンとコテを打ったり打たせたりする。	面の着装の仕方について解説する。 実戦的なメンとコテの打ち方打たせ方を解説する。	（予習：0.5時間） 面の着装の仕方を調べる。 （復習：0.5時間） 実戦的な打ち方や打たせ方を整理する。
11	中村　充 佐藤皓也	２人組にて、剣道具をつけての、実戦的な応じ技を実施する。 ２人組にて、地稽古を実施する。	剣道具をつけての、実戦的な応じ技について解説する。 地稽古のやり方について解説する。	（予習：0.5時間） 剣道具を着装しての応じ技について調べる。 （復習：0.5時間） 仕掛け技と応じ技の分類について整理する。
12	中村　充 佐藤皓也	仕掛け技と応じ技について、系統的なまとめを実践する。 試合を意識した地稽古を実践する。	仕掛け技と応じ技の、系統的なまとめを解説する。 試合を意識した地稽古について解説する。	（予習：0.5時間） 剣道試合のルールについて調べる。 （復習：0.5時間） 剣道の試合で味わえる楽しさを考える。

13	中村　充 佐藤皓也	実技の到達度について、課題試験を行なう。	実技の到達度試験を行う。	（予習：0.5時間） 実技試験課題について準備する。 （復習：0.5時間） 試験を踏まえて課題の達成度を自己分析する。
14	中村　充 佐藤皓也	剣道の昇段審査の仕組みを理解し、ビデオ等で剣道の修行的側面を理解する。	本授業の実技では体感できなかった、剣道がもつ修業的側面を解説する。	（予習：0.5時間） 剣道の武道的要素を考える。 （復習：1時間） 課題に対するレポートを作成する。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道（剣道）［女子①］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道（剣道）［女子①］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中村　充	ナンバリング	COA1139
担当教員	中村　充、佐藤　皓也、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。 武道の代表的な剣道について、基本的な技能を習得し、指導法と基礎理論についての理解を深める。剣道の歴史的背景から成り立つ、武士道的な考え方を理解する。基本動作の習得から対人的技能へと発展させる。剣道具を着装することより、空間打突から実践に移行し、地稽古や試合稽古へ発展させる。技術の習得にはグループ学習や映像を活用した技術確認を行い、対人調整力とコミュニケーション能力を向上させるなかでその指導方法も身につくようにする。
到達目標	１．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	剣道を通して、対人競技の楽しさとともに文化的側面を学ぶ。その過程で、互いに競いながらも協力し合うことで対人調整力やコミュニケーション力を向上させ、学校現場で指導できるよう応用的能力を養う。
履修上の注意、履修要件	【履修上の注意（科目独自のルール）】 共有する道具の扱いを丁寧にし、授業内で求められる所作や態度を守ること。 【履修要件】 運動に適した服装を各自が準備する。なお、安全上の問題から受講希望者数が50名を超えた場合は、抽選を行う。
成績評価の方法	
評価方法	授業に取り組む姿勢・参画度 40%、 課題達成度 40%、 知識の獲得度 20%
評価基準	１．相手を尊重した所作法や取り組みができる。（平常点） ２．基本動作や対人的技能が身についた。（授業内試験） ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合ができる。（平常点） ４．日本固有の武道の歴史や、学校指導現場で生かせる練習法について理解する。（平常点、レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法

課題試験については実施後、レポートについては返却時、授業内でポイント等をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

1. 剣道指導要領（全日本剣道連盟）
2. 剣道授業の展開（全日本剣道連盟）
3. 中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）
4. 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（文部科学省）

その他

連絡先・オフィスアワー	1号館5階　1505号室：水曜日14:30～16:00、木曜日10:00～12:00、 E-mail（中村　充）：mtnakamu@juntendo.ac.jp （佐藤皓也）：k.sato.it@juntendo.ac.jp
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、中・高保健体育一種免許の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目として位置づけられています。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	中村　充 佐藤皓也	授業の進め方について理解する。 授業に必要な用具を理解する。 剣道の基本動作および所作法について学習する。	ガイダンス、所作法をはじめとした基本動作を解説する。	（予習：0.5時間） 授業の目的、内容についてシラバスを読む。 （復習：0.5時間） 所作法、基本動作について整理する。
2	中村　充 佐藤皓也	剣道の成り立ち、礼法・所作法を理解する。 木刀を用いた遊びを通して、剣道を楽しむとともに、木刀の構え方、足さばきについて学習する。	剣道小史を解説する。 礼法・所作法、木刀の構え方、足さばきを解説し、実践する。	（予習：1時間） 剣道の理念、剣道修練の心構えについて調べる。 （復習：0.5時間） 剣道の成り立ちを整理する。剣道の所作法を整理する。
3	中村　充 佐藤皓也	仕掛け技の分類を理解する。 二人組でお互いに打突部位を確認し、仕掛け手と受け手（元立ち）を交替しながら木刀により空間打突を行なう。 木刀による基本技稽古法につなげていく。	仕掛け技を解説する。 面・小手・胴・突きの空間打突、木刀による基本技稽古法を解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 仕掛け技の分類を調べる。 （復習：0.5時間） 元立ちの役割について整理する。
4	中村　充 佐藤皓也	グループまたは二人組にて、木刀による基本技稽古法４本目までを習得する。	基本技稽古法４本目までを解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 木刀による基本技指導法の成り立ちについて調べる。 （復習：0.5時間） 木刀による基本技指導法４本目までの留意点を整理する。
5	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組により応じ技を学習し、木刀による基本技指導法における応じ技を実践する。	応じ技について解説し、木刀による基本技指導法における応じ技を実践する。	（予習：0.5　時間） 応じ技について調べる。 （復習：0.5時間） 木刀による基本技指導法の９本目までを整理する。
6	中村　充 佐藤皓也	竹刀を使用する際の注意点を理解する。 二人組にて、竹刀による空間打突と、打ち方と打たせ方を確認しながら実施する。	竹刀を使用する際の注意点を解説する。 竹刀による空間打突と、竹刀を用いた打ち方と打たせ方を解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 竹刀による打たせ方を調べる。 （復習：0.5時間） 竹刀を扱う際の、安全上の注意点を整理する。
7	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組により踏み込み足を学習し、踏み込み足を用いた打突を実践する。 切り返しの実施方法を理解し、実践する。	踏み込み足の必要性を解説し、踏み込み足を用いた打突を実践する。 切り返しについて解説する。	（予習：0.5　時間） 踏み込み足、切り返しについて調べる。 （復習：0.5時間） 踏み込み足、切り返しを行う際の注意点を整理する。
8	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組にて、退き技における踏み込み足を学習する。 グループにて、切り返しや連続技を実戦的に行なう。	退き技の際の踏み込み足を解説する。 切り返し、連続技を実戦的に行なう。	（予習：0.5時間） 退き技の際の踏み込み足について調べる。 （復習：0.5時間） 切り返しの効用を整理する。
9	中村　充 佐藤皓也	剣道具を正しく着装する。 防具に対して打ったり打たせたりする。	剣道具の着装の仕方を解説する。 防具に対する打ち方を解説する。	（予習：0.5時間） 剣道具（胴・垂れ）の着装方法について調べる。 （復習：0.5時間） 防具を打突する際の留意点について整理する。
10	中村　充 佐藤皓也	剣道具を着装する。 ２人組にて、実戦的なメンとコテを打ったり打たせたりする。	面の着装の仕方について解説する。 実戦的なメンとコテの打ち方打たせ方を解説する。	（予習：0.5時間） 面の着装の仕方を調べる。 （復習：0.5時間） 実戦的な打ち方や打たせ方を整理する。
11	中村　充 佐藤皓也	２人組にて、剣道具をつけての、実戦的な応じ技を実施する。 ２人組にて、地稽古を実施する。	剣道具をつけての、実戦的な応じ技について解説する。 地稽古のやり方について解説する。	（予習：0.5時間） 剣道具を着装しての応じ技について調べる。 （復習：0.5時間） 仕掛け技と応じ技の分類について整理する。
12	中村　充 佐藤皓也	仕掛け技と応じ技について、系統的なまとめを実践する。 試合を意識した地稽古を実践する。	仕掛け技と応じ技の、系統的なまとめを解説する。 試合を意識した地稽古について解説する。	（予習：0.5時間） 剣道試合のルールについて調べる。 （復習：0.5時間） 剣道の試合で味わえる楽しさを考える。

13	中村　充 佐藤皓也	実技の到達度について、課題試験を行なう。	実技の到達度試験を行う。	（予習：0.5時間） 実技試験課題について準備する。 （復習：0.5時間） 試験を踏まえて課題の達成度を自己分析する。
14	中村　充 佐藤皓也	剣道の昇段審査の仕組みを理解し、ビデオ等で剣道の修行的側面を理解する。	本授業の実技では体感できなかった、剣道がもつ修業的側面を解説する。	（予習：0.5時間） 剣道の武道的要素を考える。 （復習：1時間） 課題に対するレポートを作成する。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道（剣道）［女子③］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道（剣道）［女子③］	対象学年	1年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中村　充	ナンバリング	COA1139
担当教員	中村　充、佐藤　皓也、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。 武道の代表的な剣道について、基本的な技能を習得し、指導法と基礎理論についての理解を深める。剣道の歴史的背景から成り立つ、武士道的な考え方を理解する。基本動作の習得から対人的技能へと発展させる。剣道具を着装することより、空間打突から実践に移行し、地稽古や試合稽古へ発展させる。技術の習得にはグループ学習や映像を活用した技術確認を行い、対人調整力とコミュニケーション能力を向上させるなかでその指導方法も身につくようにする。
到達目標	１．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	剣道を通して、対人競技の楽しさとともに文化的側面を学ぶ。その過程で、互いに競いながらも協力し合うことで対人調整力やコミュニケーション力を向上させ、学校現場で指導できるよう応用的能力を養う。
履修上の注意、履修要件	【履修上の注意（科目独自のルール）】 共有する道具の扱いを丁寧にし、授業内で求められる所作や態度を守ること。 【履修要件】 運動に適した服装を各自が準備する。なお、安全上の問題から受講希望者数が50名を超えた場合は、抽選を行う。
成績評価の方法	
評価方法	授業に取り組む姿勢・参画度 40%、 課題達成度 40%、 知識の獲得度 20%
評価基準	１．相手を尊重した所作法や取り組みができる。（平常点） ２．基本動作や対人的技能が身についた。（授業内試験） ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合ができる。（平常点） ４．日本固有の武道の歴史や、学校指導現場で生かせる練習法について理解する。（平常点、レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法

課題試験については実施後、レポートについては返却時、授業内でポイント等をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

1. 剣道指導要領（全日本剣道連盟）
2. 剣道授業の展開（全日本剣道連盟）
3. 中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）
4. 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（文部科学省）

その他

連絡先・オフィスアワー	1号館5階　1505号室：水曜日14:30～16:00、木曜日10:00～12:00、 E-mail（中村　充）：mtnakamu@juntendo.ac.jp （佐藤皓也）：k.sato.it@juntendo.ac.jp
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、中・高保健体育一種免許の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目として位置づけられています。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	中村　充 佐藤皓也	授業の進め方について理解する。 授業に必要な用具を理解する。 剣道の基本動作および所作法について学習する。	ガイダンス、所作法をはじめとした基本動作を解説する。	（予習：0.5時間） 授業の目的、内容についてシラバスを読む。 （復習：0.5時間） 所作法、基本動作について整理する。
2	中村　充 佐藤皓也	剣道の成り立ち、礼法・所作法を理解する。 木刀を用いた遊びを通して、剣道を楽しむとともに、木刀の構え方、足さばきについて学習する。	剣道小史を解説する。 礼法・所作法、木刀の構え方、足さばきを解説し、実践する。	（予習：1時間） 剣道の理念、剣道修練の心構えについて調べる。 （復習：0.5時間） 剣道の成り立ちを整理する。剣道の所作法を整理する。
3	中村　充 佐藤皓也	仕掛け技の分類を理解する。 二人組でお互いに打突部位を確認し、仕掛け手と受け手（元立ち）を交替しながら木刀により空間打突を行なう。 木刀による基本技稽古法につなげていく。	仕掛け技を解説する。 面・小手・胴・突きの空間打突、木刀による基本技稽古法を解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 仕掛け技の分類を調べる。 （復習：0.5時間） 元立ちの役割について整理する。
4	中村　充 佐藤皓也	グループまたは二人組にて、木刀による基本技稽古法４本目までを習得する。	基本技稽古法４本目までを解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 木刀による基本技指導法の成り立ちについて調べる。 （復習：0.5時間） 木刀による基本技指導法４本目までの留意点を整理する。
5	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組により応じ技を学習し、木刀による基本技指導法における応じ技を実践する。	応じ技について解説し、木刀による基本技指導法における応じ技を実践する。	（予習：0.5　時間） 応じ技について調べる。 （復習：0.5時間） 木刀による基本技指導法の９本目までを整理する。
6	中村　充 佐藤皓也	竹刀を使用する際の注意点を理解する。 二人組にて、竹刀による空間打突と、打ち方と打たせ方を確認しながら実施する。	竹刀を使用する際の注意点を解説する。 竹刀による空間打突と、竹刀を用いた打ち方と打たせ方を解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 竹刀による打たせ方を調べる。 （復習：0.5時間） 竹刀を扱う際の、安全上の注意点を整理する。
7	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組により踏み込み足を学習し、踏み込み足を用いた打突を実践する。 切り返しの実施方法を理解し、実践する。	踏み込み足の必要性を解説し、踏み込み足を用いた打突を実践する。 切り返しについて解説する。	（予習：0.5　時間） 踏み込み足、切り返しについて調べる。 （復習：0.5時間） 踏み込み足、切り返しを行う際の注意点を整理する。
8	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組にて、退き技における踏み込み足を学習する。 グループにて、切り返しや連続技を実戦的に行なう。	退き技の際の踏み込み足を解説する。 切り返し、連続技を実戦的に行なう。	（予習：0.5時間） 退き技の際の踏み込み足について調べる。 （復習：0.5時間） 切り返しの効用を整理する。
9	中村　充 佐藤皓也	剣道具を正しく着装する。 防具に対して打ったり打たせたりする。	剣道具の着装の仕方を解説する。 防具に対する打ち方を解説する。	（予習：0.5時間） 剣道具（胴・垂れ）の着装方法について調べる。 （復習：0.5時間） 防具を打突する際の留意点について整理する。
10	中村　充 佐藤皓也	剣道具を着装する。 ２人組にて、実戦的なメンとコテを打ったり打たせたりする。	面の着装の仕方について解説する。 実戦的なメンとコテの打ち方打たせ方を解説する。	（予習：0.5時間） 面の着装の仕方を調べる。 （復習：0.5時間） 実戦的な打ち方や打たせ方を整理する。
11	中村　充 佐藤皓也	２人組にて、剣道具をつけての、実戦的な応じ技を実施する。 ２人組にて、地稽古を実施する。	剣道具をつけての、実戦的な応じ技について解説する。 地稽古のやり方について解説する。	（予習：0.5時間） 剣道具を着装しての応じ技について調べる。 （復習：0.5時間） 仕掛け技と応じ技の分類について整理する。
12	中村　充 佐藤皓也	仕掛け技と応じ技について、系統的なまとめを実践する。 試合を意識した地稽古を実践する。	仕掛け技と応じ技の、系統的なまとめを解説する。 試合を意識した地稽古について解説する。	（予習：0.5時間） 剣道試合のルールについて調べる。 （復習：0.5時間） 剣道の試合で味わえる楽しさを考える。

13	中村　充 佐藤皓也	実技の到達度について、課題試験を行なう。	実技の到達度試験を行う。	（予習：0.5時間） 実技試験課題について準備する。 （復習：0.5時間） 試験を踏まえて課題の達成度を自己分析する。
14	中村　充 佐藤皓也	剣道の昇段審査の仕組みを理解し、ビデオ等で剣道の修行的側面を理解する。	本授業の実技では体感できなかった、剣道がもつ修業的側面を解説する。	（予習：0.5時間） 剣道の武道的要素を考える。 （復習：1時間） 課題に対するレポートを作成する。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】アウトドアスポーツA（レクリエーションスポーツ）	授業形態	実験・実習
英語科目名	【新カリ】アウトドアスポーツA（レクリエーションスポーツ）	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中嶽　誠	ナンバリング	0DE2140
担当教員	中嶽　誠、中丸　信吾、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	【授業全体の内容】 本科目は、実技・実習の授業形態で行われる。「レクリエーションスポーツ」または「キャンプ」からクラスを選択する。 レクリエーションスポーツでは、各種スポーツやゲーム創作活動を実践する。アウトドアでの活動を安全に実施するためのリスクマネジメントについて学ぶとともに、自然環境の中で活動するに当たっての環境への配慮や対人関係づくり、レクリエーショナルなスポーツとは何かを理解し、それらを実践及び指導できるようになることを目標とする。 この授業科目は、各種レクリエーションスポーツやゲーム創作活動を通して、レクリエーションとは何か、レクリエーショナルなスポーツとは何かを理解し実践できるようになることを目的としている。授業内容は、様々なレクリエーションスポーツ、コミュニケーションの促進やチームビルディングなどに活かせるレクリエーションゲームについて学習する。また、授業内容をもとに新たなゲームを創作し発表会を行う。
到達目標	1.　様々なレクリエーションスポーツの実践を通して、レクリエーションとはどういうことかを理解できる。 2.　スポーツの楽しさや楽しみ方を理解し、他者との関わり（コミュニケーション）も踏まえ、レクリエーショナルなスポーツ活動を理解し実践できるようになる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択科目（卒業所要単位外）である。また、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（ジュニアスポーツ指導員）の必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした教養」、「コミュニケーション力」という学位授与方針の達成に寄与する。 この授業の目的は、各種レクリエーションスポーツやゲーム創作活動を通して、レクリエーションとは何か、レクリエーショナルなスポーツとは何かを理解し実践できるようになること。
履修上の注意、履修要件	本授業は、選択科目ではあるが卒業所要単位には含まれないので注意すること。

成績評価の方法

評価方法	授業への取り組み50%　課題評価（ゲーム創作）30%　レポート試験20%
評価基準	1.　様々なレクリエーションスポーツの実践を通して、レクリエーションとはどういうことかを理解できているか、実技及びレポート試験により評価する。 2.　スポーツの楽しさや楽しみ方を理解し、他者との関わり（コミュニケーション）も踏まえ、レクリエーショナルなスポーツ活動を理解し実践できる（授業への取り組み）。

試験・課題に対するフィードバック方法

レポートは、授業にて課題評価のポイントを説明しフィードバックを行う。
課題（ゲーム創作）は、成果物に対し教員および受講生からのフィードバックを行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

必要に応じて資料を配布する。
参考書：改訂版ニュースポーツ辞典、北川勇人、遊戯社、2000年

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：　中丸信吾 E-mail：snakama@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 質問や相談がある場合は、事前に連絡してください。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための選択科目 科目：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：体育 　この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 　JSPO（日本スポーツ協会）ジュニアスポーツ指導員 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、授業計画等を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法　＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	中丸	授業の到達目標や展開、成績評価、その他諸注意について理解する。	授業の到達目標に沿った展開について説明し、成績評価、その他諸注意について明示する。	（予習：0.5時間） シラバスの内容を確認する。 （復習：0.5時間） 本授業の到達目標と展開、成績評価、諸注意について整理する。
2	中丸	アイスブレイクについて実践し理解する。	レクリエーションゲームを用いてアイスブレイクを実践する。	（予習：0.5時間） アイスブレイクについて調べる。 （復習：0.5時間） レクリエーションゲームを用いた交流の深め方について振り返る。
3	中丸	フライングディスクのスローを実践し理解する。	フライングディスクを遠くに安定して飛ばす方法を説明し実践する。	（予習：0.5時間） フライングディスクについて調べる。 （復習：0.5時間） スローの種類やコツを整理する。
4	中丸	フライングディスクを用いたゲーム（ディスクゴルフ）を実践し理解する。	ディスクゴルフのルールや楽しみ方を説明し実践する。	（予習：0.5時間） ディスクゴルフについて調べる。 （復習：0.5時間） ディスクゴルフのルールを確認し理解を深める。
5	中丸	フライングディスクを用いたゲーム（アルティメット）を実践し理解する。	アルティメットのルールや楽しみ方を説明し実践する。	（予習：0.5時間） アルティメットについて調べる。 （復習：0.5時間） アルティメットのルールを確認し理解を深める。
6	中丸	ペタンクを実践しルールや楽しみ方を理解する。	ペタンクのルールや楽しみ方を説明し実践する。	（予習：0.5時間） ペタンクについて調べる。 （復習：0.5時間） ペタンクのルールを確認し理解を深める。
7	中丸	クッブを実践しルールや楽しみ方を理解する。	クッブのルールや楽しみ方を説明し実践する。	（予習：0.5時間） クッブについて調べる。 （復習：0.5時間） クッブのルールを確認し理解を深める。
8	中丸	インディアカを実践しルールや楽しみ方を理解する。	インディアカのルールや楽しみ方を説明し実践する。	（予習：0.5時間） インディアカについて調べる。 （復習：0.5時間） インディアカのルールを確認し理解を深める。
9	中丸	ユニバーサルホッケーを実践しルールや楽しみ方を理解する。	ユニバーサルホッケーのルールや楽しみ方を説明し実践する。	（予習：0.5時間） ユニバーサルホッケーについて調べる。 （復習：0.5時間） ユニバーサルホッケーのルールを確認し理解を深める。
10	中丸	スラックラインを実践し楽しみ方を理解する。	スラックラインに上手にバランスよく乗るための方法を説明し習得する。	（予習：0.5時間） スラックラインについて調べる。 （復習：0.5時間） 上手に乗るための体の使い方について整理する。
11	中丸	ASEを実践し理解する。	小集団でのグループワークを通してASEを理解し実践する。	（予習：0.5時間） チームビルディングについて調べる。 （復習：0.5時間） アクティビティを用いたチームビルディングについて理解を深める。
12	中丸	ASEを実践しチームビルディングの過程を学ぶ。	小集団でのグループワークを通してASEを理解し実践する。	（予習：0.5時間） チームビルディングについて調べる。 （復習：0.5時間） アクティビティを用いたチームビルディングについて理解を深める。
13	中丸	ゲームを創作する。	小集団のグループワークによりゲームを創作しゲームシートにまとめる。	（予習：0.5時間） ゲームシートの原案を事前に準備する。 （復習：0.5時間） プレゼンテーションの準備をする。
14	中丸	創作したゲームのプレゼンテーションを行う。	創作ゲームのプレゼンテーションを行い、ゲームをより楽しむための意見を出し合う。	（予習：0.5時間） プレゼンテーションの準備をする。 （復習：1.5時間） ゲーム創作のアイデアを共有する。 授業内容を振り返りまとめる。
		定期試験（レポート）		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】アウトドアスポーツA（キャンプ）	授業形態	実験・実習
英語科目名	【新カリ】アウトドアスポーツA（キャンプ）	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中嶽　誠	ナンバリング	
担当教員	中嶽　誠、中丸　信吾、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	本科目は、実技・実習の授業形態で行われる。「キャンプ」又は「レクリエーションスポーツ」からクラスを選択する。 キャンプでは、野外生活技術、環境を配慮した活動、登山等の活動、クラフト、キャンプファイヤー等を体験し学ぶとともに、キャンプを通して対人関係や環境への配慮についても理解を深める。
到達目標	1. キャンプでの諸活動を体験し学ぶことで、キャンプの基礎を理解し実践することができるようになる。 2. キャンプを通して対人関係や環境への配慮について理解を深め、学生生活や社会生活で自ら実践できるようになる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択科目（卒業所要単位外）である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした教養」、「コミュニケーション力」という学位授与方針の達成に寄与する。 この授業の目的は、自然体験活動のひとつとしてのキャンプを体験すること。キャンプを通して対人関係や環境への配慮について理解すること。
履修上の注意、履修要件	本授業は、選択科目ではあるが卒業所要単位には含まれないので注意すること。 参加希望者が多数の場合はガイダンスＩにて抽選を行うことがある。

成績評価の方法

評価方法	実習へ取り組む姿勢（対人関係や環境配慮への理解度を含む）50%、野外活動技術の習得30%、レポート20%
評価基準	1. キャンプでの諸活動を体験を通してキャンプの基礎について理解できているか、実技およびレポート試験により評価する。 2. キャンプを通して対人関係や環境への配慮について理解できているか、実技およびレポート試験により評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法

実習期間中は実習のねらいに対しての到達度を振り返りによりフィーバックする。また、レポートについては、実習後に行うキャンプ報告会にてフィードバックを行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

順天堂大学キャンプ実習ハンドブックおよび配布資料
キャンプ指導者入門（公益社団法人日本キャンプ協会）

その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：中嶽 誠 E-mail：mknakada［at］juntendo.ac.jp ※［at］を@に変更してください。 ［オフィスアワー］ 質問や相談がある場合は、事前に連絡してください。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。 ［その他］ 本学は公益社団法人日本キャンプ協会認定キャンプインストラクターの課程認定校となっており、本実習の内容を習得し別途認定試験を受けることでキャンプインストラクターの資格取得が可能である。（別途公認料が必要となる） また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中嶽	キャンプとは・実習概要の説明・実施要項確認・申し込み方法についてのガイダンスを行う。	4月下旬のに指定の教室にて行う。実施要項を配布し、キャンプとは・実習概要の説明・実施要項確認・申し込み方法について説明する。 ※参加希望者多数の場合は抽選を行う。	（予習：0.5時間） シラバスの内容を予めよく読み、実習の概要や目標などを確認する。 （復習：0.5時間） キャンプについて理解した上で、実施要項および申し込み方法について確認し、期日までに申し込みを行う。

2	中嶽	キャンプの装備についてのガイダンスを行い、実習班を提示し役割分担を決定する。	6月上旬のに指定の教室にて行う。キャンプの装備資料を配布し、キャンプの装備ににについて説明する。また、提示された実習班ごとに役割分担を決定する。	（予習：0.5時間） 実施要項に記載の必要な装備を確認し、キャンプの装備にはどのようなものがあるか予習する。 （復習：0.5時間） 装備の必要性について理解を深め、本実習までに必要な装備を準備する。
3	中嶽	野外生活技術・実習詳細および事前準備についてガイダンスを行う。	7月上旬のに指定の教室にて行う。実習ハンドブックを配布し、野外生活技術・実習詳細および事前準備について説明する。	（予習：0.5時間） 班内で連絡を取り合い、実習の内容や装備などについての情報を共有しておく。 （復習：0.5時間） 実習ハンドブックを熟読し、本実習での実践に向けて野外生活技術を中心とした基礎知識について理解を深める。
4-13	中嶽	本実習（4泊5日）を行う。	9月上旬に4泊5日で本実習を行う。（変更の場合があります） 場所（予定）：国立花山青少年自然の家　南蔵王野営場　（宮城県白石市） 集散：順天堂大学（バスにより移動） 内容：野外生活体験、環境を配慮した活動、登山等の身体的活動、クラフト、キャンプファイヤー等	（予習：0.5時間） 必要な装備の準備と最終確認をする。また、宿泊を伴う実習であるので十分に体調を整える。 （復習：0.5時間） 実習中の活動内容や感じたことなどを記録し、レポートを作成する。
14	中嶽	キャンプ報告会を行う。	10月下旬～11月中旬に指定の教室にて行う。キャンプ報告会として実習の振り返り、キャンプ会計報告を行う。 ※記録DVDの配布	（予習：1時間） 活動の記録を確認し、実習を通して感じたことや学んだことを改めて振り返る。 （復習：1時間） 報告会の内容を振り返る。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】アウトドアスポーツB（海浜実習）	授業形態	実験・実習
英語科目名	【新カリ】アウトドアスポーツB（海浜実習）	対象学年	2年
開講学期	2022年度前期	単位数	1単位
代表教員	中村　充	ナンバリング	ODE2141
担当教員	中村　充、武田　剛、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	[授業全体の内容] 自然に対するリスクマネジメント（海洋や水辺の水難救助法、心肺蘇生法、集団での安全管理法）とマリンスポーツを体験し、自然環境における水とスポーツの関わりを学習する。
到達目標	マリンスポーツに関するセーフスポーツの概念を理解し、実践できる。 海洋や水辺において一時救命措置ができる。 マリンスポーツに関する基礎技能が体現できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択科目（卒業所要単位外）である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「課題解決能力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	[履修要件] 水泳実技を履修していることが望ましい。 3泊4日の日程全てに参加できること。 [履修上の注意] 屋外・海洋での実技実習のため日焼けや海水に入ることに対応できる準備と覚悟が必要となる。 実技内容は男女ともに実習内容に参加する。 宿泊が伴う学外実習のため実習内容以外に関わる経費を実習として必要となる（詳細金額はガイダンス時に連絡）。 [授業で使用する水着や帽子について] 実習地での安全確認を目的として、実習専用の帽子の着用が義務となり購入の必要となる（実習費に含まれる）。海洋での海水や日光対策として水着と帽子以外のウェアの着用は可能であるが、受講生各自で準備をすること。購入する場合は、大学として販売の機会を設けないので各自で購入すること。

成績評価の方法

評価方法	マリンスポーツ2種目（1と2）の技能テスト　40点 水難救助と心肺蘇生法の技能テスト　30点 実習ノートの記述内容30点 で評価する。
評価基準	初級者に必要な技能が適切に体現できている 。（マリンスポーツの技能テスト） 胸骨圧迫とAEDを使用した一時救命措置のプロセスを正しく実施できる。（水難救助と心肺蘇生法の技能テスト） 実習内容の技能の技術や、実施上の注意点などが実習ノートに適切に記載されている。（実習ノート）

試験・課題に対するフィードバック方法

実習中に使用した実習ノートに技能テストを含めた点数とコメントを記載して、参加学生に返却する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

JRC蘇生ガイドライン2020、一般社団法人日本蘇生協議会監修、医学書院

その他

連絡先・オフィスアワー	[連絡先] 担当：武田剛 Email: tutakeda[at]juntendo.ac.jp *[at]を@に変更してください。 [オフィスアワー] 授業期間中の木曜日12:10-12:50 場所：1号館5階1507室（水泳研究室） 上記の時間には予約無しでも対応しますが、他の学生との時間長のためできるだけ前日までにEmail予約をしてください。質問や相談は予約の学生を優先します。
担当教員の実務経験	民間のマリンスポーツクラブを運営する外部講師が、マリンスポーツの技能指導や実施上の注意点等に関する講義を行う。
備考	[学修時間] この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要する内容をもって構成する。 [その他] 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

事前ガイダンス	武田剛他	授業の概要、目的、成績評価、実習費等に関する説明、マリンスポーツの概論に関するガイダンスを行う。	教室でプリントとスライドを用いて講義を行う。	（復習：3時間） 配布された実習ノートを読み、実習スケジュールや注意点、予備知識を学習する。
1-4	武田剛他	実習地（海洋）での安全対策と実習学生同士のアイスブレイクと水慣れを目的とした浅瀬でのレクリエーションと泳法練習を行う。水難救助に関する（心肺蘇生法とAED使用方法）基礎知識と技能を学習する。	浜辺と浅瀬で実技を実施する。心肺蘇生とAED使用法の学習は宿泊施設の研修室で実施する。	（予習：2時間） 実習ノートを事前に読み、淡水と海水の浮力の違いや海洋の潮流のリスク（離岸流の発生メカニズム）、マリンスポーツの基本技能や完全管理について事前に学習をする。 （復習：2時間） 浜辺の安全対策と浜でのレクリエーションの実施方法、一時救命措置のプロセスを実習ノートにまとめる。
5-8	武田剛他	マリンスポーツ１（種目は現在準備中）を体験し、基礎技能を獲得する。	浅瀬、あるいは沖にて実施する。悪天候の場合は宿泊施設の研修室で講義（もしくは室内代替アクティビティ）を実施する。	（復習：2時間） 実施したマリンスポーツ1の技能の運動の記述と実施上の注意点をノートにまとめる。
9-12	武田剛他	マリンスポーツ2（種目は現在準備中）を体験し、基礎技能を獲得する。	浅瀬、あるいは沖にて実施する。悪天候の場合は宿泊施設の研修室で講義（もしくは室内代替アクティビティ）を実施する。	（復習：2時間） 実施したマリンスポーツ2の技能の運動の記述と実施上の注意点をノートにまとめる。
13-14	武田剛他	マリンスポーツ1あるいは2を実施し、技能の向上を図る。なおマリンスポーツ1あるいは2実施の予備日として設定する都合上、技能をテストを実施することもある。	浅瀬、あるいは沖にて実施する。悪天候の場合は宿泊施設の研修室で講義（もしくは室内代替アクティビティ）を実施する。	（復習：4時間） 体験を通じて得られたオープンウォーターの魅力をノートにまとめる。リスク回避、リスクマネジメントに必要なことと、集団生活における規律遵守の意義、実習全体の感想をノートにまとめる。
		定期試験は実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】体つくり運動　［男子②］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】体つくり運動　［男子②］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	青木　和浩	ナンバリング	PHE1131
担当教員	青木　和浩、渡邉　貴裕、荻原　朋子、中丸　信吾、勝又　健太、下嶽　進一郎、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 「体つくり運動」は中学・高等学校学習指導要領の必修科目になっている。更に小学校においても必修科目となり、特別支援学校を含めた学校体育において重要な科目である。本授業では「体つくり運動」を新しく改定された学習指導要領の内容に沿って授業を展開する。また、近年、学校現場で課題となっている運動嫌いをなくすための運動についての対応も積極的に実施する。授業内容は、体つくり運動における「体の動きを高める運動」と「体ほぐしの運動」に関する運動の実施と運動方法の提案を行う。さらに、体つくり運動に関する教材の作成と検討、指導案の立案と模擬授業の実施、評価を行う。 授業の概要、評価方法、履修における留意点などを説明する。そして「体つくり運動」への理解を深めるための知識や実践方法について、授業を行う。また、授業内での筆記試験を実施する。 体ほぐしの運動、体の動きを高める運動（体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する）、実生活に活かす運動計画体などの運動方法を学ぶ。なお、グループに分かれて実技を行う（共同）。 障害者スポーツの実施、体育実技授業の導入と展開、学習指導づくり、模擬授業の実施について、グループに分かれて授業を行う（共同）。
到達目標	【授業の到達目標】 1.体つくり運動にかかわる運動種目について、児童・生徒の実態に応じた実施方法を習得する。 2.体つくり運動に関する教材の作成および実施ができる。 3.学習指導案の作成を行い模擬授業の実施により、保健体育教員としての資質を獲得する。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（AT）、（ジュニアスポーツ指導員）、初級障がい者スポーツ指導員資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は、「対人調整力」「コミュニケーション力」「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養」を身につけるという学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 　学科等により受講するクラスが決まっているため、該当する開講時間で受講すること。 ※1クラスを授業内で2クラスに分けて実施する。授業内容が前後することもあるので、毎授業時の次週の予定を確認すること。 1.やむを得ない状況により見学をする場合は、各自見学ノートを作成し提出をすること。 2. 遅刻は減点対象とする。
成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 　授業内評価（実技指導）60%、指導案作成・実施20%、教材シート20%にて総合的に評価する。
評価基準	【成績評価の基準】 1.体つくり運動に関する基礎知識と授業内で経験した実技内容の効果を理解することができる。（授業内実技指導） 2.体つくり運動の実技内容を理解し、実技指導することができる。（教材シート） 3.指導案を作成し、模擬授業への取り組みを理解することができる。（指導案・成果発表）

試験・課題に対するフィードバック方法

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
授業時にレポート課題のポイントの説明を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【参考書等】
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
授業の時に資料を配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：青木 和浩 E-mail：k-aoki@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日12:00から12:50 場所：1号館5階1509室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生からの訪問に対応している可能性がある為、出来るだけ事前にE-mailで予約をしてください。
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業科目は、講義と学修を交えた形態による1単位の科目であり、授業・実習30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）ジュニアスポーツ指導員 JSPO（日本スポーツ協会）AT 健康・体力づくり財団　健康運動指導士 日本障がい者スポーツ協会　初級・障がい者スポーツ指導員 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー ※新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、授業計画等の変更を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	青木	【授業内容】 テーマ：ガイダンス・体つくり運動とは？ 当該科目における授業の位置づけ、進め方や成績評価方法について学ぶ。 体つくり運動の分類と学習指導要領における位置づけを学ぶ。	【授業方法】 授業計画や資料を配布し、講義を行う。	（予習：0.5時間） 体つくり運動について、事前に調べる。 （復習：0.5時間） 授業の位置づけ、授業形態・成績評価法・注意事項について理解を深める。 体つくり運動への理解を整理する。
2	荻原他、	【授業内容】 テーマ：「リスクマネジメント」への理解 授業をする際の心得、リスクマネジメントを考える	【授業方法】 講義では配布資料を用いる。	（予習：0.5時間） 学校における「リスク」が伴う事項を考える。 （復習：0.5時間） 配布資料を読み「リスクマネジメント」を整理する。
3	青木他、	【授業内容】 テーマ：体ほぐしの運動① 小学校・中学校における体ほぐしの運動について学ぶ。	【授業方法】 実技（運動例を行いながら実施方法を理解する）。	（予習：0.5時間） 体ほぐしの運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 体ほぐしの実技例を振り返り整理する。
4	青木他、	【授業内容】 テーマ：体ほぐしの運動② 中学校・高校の体ほぐしの運動について学ぶ。	【授業方法】 実技（運動遊びを通して交流が促進する過程について運動例を行いながら実施方法を理解する。）	（予習：0.5時間） 体ほぐしの運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 体ほぐしの実技例を振り返り整理する。
5	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動① 体の動きを高める運動として、体の柔らかさ、巧みな動きの方法を学ぶ。	【授業方法】 実技（柔らかさ、巧みな動き）を行う。	（予習：0.5時間） 体の柔らかさ、巧みな動きに関する事前の学習をする。 （復習：0.5時間） 体の柔らかさ、巧みな動きの実技例を整理する。
6	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動② 力強い動き、動きを持続する運動を学ぶ。	【授業方法】 実技（力強い動き、動きを持続する運動を行い理解する。）	（予習：0.5時間） 力強い動き、動きを持続する運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 力強い動き、動きを持続する運動の実技例を振り返り整理する。
7	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動③、実生活に活かした運動計画 障害のある児童生徒への運動遊びの方法を学ぶ。運動計画を行う。	【授業方法】 実技（様々な運動を行い運動効果について実習する。）	（予習：0.5時間） これまでの運動内容を整理ておく。 （復習：0.5時間） 様々な実技例を振り返る。
8	荻原他、	【授業内容】 テーマ：学習指導案づくり 学習指導案の作成方法について学び、体つくり運動の学習指導案を作成する。	【授業方法】 本授業で実施した体力を高める運動および体ほぐしの運動例をもとにして学習指導案を作成する。	（予習：0.5時間） 配布資料を読み学習指導案について調べておく。 （復習：0.5時間） 模擬授業の実施に向けて準備しておく。
9	渡邉他、	【授業内容】 テーマ：パラスポーツ体験① ボッチャをはじめとしたパラスポーツの体験を行う。	【授業方法】 実技（ボッチャを行う。）	（予習：0.5時間） ボッチャを事前に調べる。 （復習：0.5時間） パラスポーツと体つくり運動の関係を整理する。

10	渡邉他、	【授業内容】 テーマ： パラスポーツ体験① シッティングバレーをはじめとする運動を用いた体ほぐしの運動を理解する。	【授業方法】 実技（シッティングバレーを実施する。）	（予習：0.5時間） パラリンピックスポーツを事前に調べる。 （復習：0.5時間） 授業で実施した障害者スポーツのルールや実施方法を振り返り整理する。
11	渡邉他、	【授業内容】 テーマ：特別支援における体つくり運動とは？ 特別支援における体つくり運動の位置づけを学ぶ。	講義	（予習：0.5時間） 特別支援教育について調べておく。 （復習：0.5時間） 特別支援教育で必要な指導について整理し、理解を深める。
12	荻原他、	【授業内容】 テーマ：体育授業の導入と展開 体育授業の導入や展開の方法と指導についてについて学ぶ（ウォーミングアップとクーリングダウンも含む）。	【授業方法】 体育授業の導入方法についての説明をもとに、実践する。ねらいに沿った運動の選択と展開についての説明をもとに、実際に運動の展開を提案する。	（予習：0.5時間） 学習指導案の導入部分について調べておく。 （復習：0.5時間） 体育授業の導入の方法と指導について整理し、理解を深める。
13	青木他	【授業内容】 テーマ：模擬授業① 体つくり運動の模擬授業を行い、振り返りから授業の実施方法について学ぶ。	【授業方法】 学生の中から模擬授業者を決め、実際の授業を行う。模擬授業への参加だけではなく振り返りも実施する。	（予習：1時間） 模擬授業実施者の選出と事前準備を行う。 （復習：0.5時間） 模擬授業の振り返りから自身が教員になった時に必要な課題を整理する。
14	青木他、	【授業内容】 テーマ：模擬授業① 体つくり運動の模擬授業を行い、振り返りから授業の実施方法について学ぶ。	【授業方法】 学生の中から模擬授業者を決め、実際の授業を行う。模擬授業への参加だけではなく振り返りも実施する。	（予習：1時間） 模擬授業実施者の選出と事前準備を行う。 （復習：0.5時間） 模擬授業の振り返りから自身が教員になった時に必要な課題を整理する。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】体つくり運動　［男子⑤］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】体つくり運動　［男子⑤］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	青木　和浩	ナンバリング	PHE1131
担当教員	青木　和浩、渡邉　貴裕、荻原　朋子、中丸　信吾、下嶽　進一郎、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 「体つくり運動」は中学・高等学校学習指導要領の必修科目になっている。更に小学校においても必修科目となり、特別支援学校を含めた学校体育において重要な科目である。本授業では「体つくり運動」を新しく改定された学習指導要領の内容に沿って授業を展開する。また、近年、学校現場で課題となっている運動嫌いをなくすための運動についての対応も積極的に実施する。授業内容は、体つくり運動における「体の動きを高める運動」と「体ほぐしの運動」に関する運動の実施と運動方法の提案を行う。さらに、体つくり運動に関する教材の作成と検討、指導案の立案と模擬授業の実施、評価を行う。 授業の概要、評価方法、履修における留意点などを説明する。そして「体つくり運動」への理解を深めるための知識や実践方法について、授業を行う。また、授業内での筆記試験を実施する。 体ほぐしの運動、体の動きを高める運動（体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する）、実生活に活かす運動計画体などの運動方法を学ぶ。なお、グループに分かれて実技を行う（共同）。 障害者スポーツの実施、体育実技授業の導入と展開、学習指導づくり、模擬授業の実施について、グループに分かれて授業を行う（共同）。
到達目標	【授業の到達目標】 1.体つくり運動にかかわる運動種目について、児童・生徒の実態に応じた実施方法を習得する。 2.体つくり運動に関する教材の作成および実施ができる。 3.学習指導案の作成を行い模擬授業の実施により、保健体育教員としての資質を獲得する。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（AT）、（ジュニアスポーツ指導員）、初級障がい者スポーツ指導員資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は、「対人調整力」「コミュニケーション力」「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養」を身につけるという学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 　学科等により受講するクラスが決まっているため、該当する開講時間で受講すること。 ※1クラスを授業内で2クラスに分けて実施する。授業内容が前後することもあるので、毎授業時の次週の予定を確認すること。 1.やむを得ない状況により見学をする場合は、各自見学ノートを作成し提出をすること。 2. 遅刻は減点対象とする。

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 　授業内評価（実技指導）60%、指導案作成・実施20%、教材シート20%にて総合的に評価する。
評価基準	【成績評価の基準】 1.体つくり運動に関する基礎知識と授業内で経験した実技内容の効果を理解することができる。（授業内実技指導） 2.体つくり運動の実技内容を理解し、実技指導することができる。（教材シート） 3.指導案を作成し、模擬授業への取り組みを理解することができる。（指導案・成果発表）

試験・課題に対するフィードバック方法

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
授業時にレポート課題のポイントの説明を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【参考書等】
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
授業の時に資料を配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：青木 和浩 E-mail：k-aoki@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日12:00から12:50 場所：1号館5階1509室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生からの訪問に対応している可能性がある為、出来るだけ事前にE-mailで予約をしてください。
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業科目は、講義と学修を交えた形態による1単位の科目であり、授業・実習30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）ジュニアスポーツ指導員 JSPO（日本スポーツ協会）AT 健康・体力づくり財団　健康運動指導士 日本障がい者スポーツ協会　初級・障がい者スポーツ指導員 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー ※新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、授業計画等の変更を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	青木	【授業内容】 テーマ：ガイダンス・体つくり運動とは？ 当該科目における授業の位置づけ、進め方や成績評価方法について学ぶ。 体つくり運動の分類と学習指導要領における位置づけを学ぶ。	【授業方法】 授業計画や資料を配布し、講義を行う。	（予習：0.5時間） 体つくり運動について、事前に調べる。 （復習：0.5時間） 授業の位置づけ、授業形態・成績評価法・注意事項について理解を深める。 体つくり運動への理解を整理する。
2	荻原他、	【授業内容】 テーマ：「リスクマネジメント」への理解 授業をする際の心得、リスクマネジメントを考える	【授業方法】 講義では配布資料を用いる。	（予習：0.5時間） 学校における「リスク」が伴う事項を考える。 （復習：0.5時間） 配布資料を読み「リスクマネジメント」を整理する。
3	青木他、	【授業内容】 テーマ：体ほぐしの運動① 小学校・中学校における体ほぐしの運動について学ぶ。	【授業方法】 実技（運動例を行いながら実施方法を理解する）。	（予習：0.5時間） 体ほぐしの運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 体ほぐしの実技例を振り返り整理する。
4	青木他、	【授業内容】 テーマ：体ほぐしの運動② 中学校・高校の体ほぐしの運動について学ぶ。	【授業方法】 実技（運動遊びを通して交流が促進する過程について運動例を行いながら実施方法を理解する。）	（予習：0.5時間） 体ほぐしの運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 体ほぐしの実技例を振り返り整理する。
5	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動① 体の動きを高める運動として、体の柔らかさ、巧みな動きの方法を学ぶ。	【授業方法】 実技（柔らかさ、巧みな動き）を行う。	（予習：0.5時間） 体の柔らかさ、巧みな動きに関する事前の学習をする。 （復習：0.5時間） 体の柔らかさ、巧みな動きの実技例を整理する。
6	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動② 力強い動き、動きを持続する運動を学ぶ。	【授業方法】 実技（力強い動き、動きを持続する運動を行い理解する。）	（予習：0.5時間） 力強い動き、動きを持続する運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 力強い動き、動きを持続する運動の実技例を振り返り整理する。
7	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動③、実生活に活かした運動計画 障害のある児童生徒への運動遊びの方法を学ぶ。運動計画を行う。	【授業方法】 実技（様々な運動を行い運動効果について実習する。）	（予習：0.5時間） これまでの運動内容を整理ておく。 （復習：0.5時間） 様々な実技例を振り返る。
8	荻原他、	【授業内容】 テーマ：学習指導案づくり 学習指導案の作成方法について学び、体つくり運動の学習指導案を作成する。	【授業方法】 本授業で実施した体力を高める運動および体ほぐしの運動例をもとにして学習指導案を作成する。	（予習：0.5時間） 配布資料を読み学習指導案について調べておく。 （復習：0.5時間） 模擬授業の実施に向けて準備しておく。
9	渡邉他、	【授業内容】 テーマ：パラスポーツ体験① ボッチャをはじめとしたパラスポーツの体験を行う。	【授業方法】 実技（ボッチャを行う。）	（予習：0.5時間） ボッチャを事前に調べる。 （復習：0.5時間） パラスポーツと体つくり運動の関係を整理する。

10	渡邉他、	【授業内容】 テーマ： パラスポーツ体験① シッティングバレーをはじめとする運動を用いた体ほぐしの運動を理解する。	【授業方法】 実技（シッティングバレーを実施する。）	（予習：0.5時間） 　パラリンピックスポーツを事前に調べる。 （復習：0.5時間） 　授業で実施した障害者スポーツのルールや実施方法を振り返り整理する。
11	渡邉他、	【授業内容】 テーマ：特別支援における体つくり運動とは？ 特別支援における体つくり運動の位置づけを学ぶ。	講義	（予習：0.5時間） 特別支援教育について調べておく。 （復習：0.5時間） 特別支援教育で必要な指導について整理し、理解を深める。
12	荻原他、	【授業内容】 テーマ：体育授業の導入と展開 体育授業の導入や展開の方法と指導についてについて学ぶ（ウォーミングアップとクーリングダウンも含む）。	【授業方法】 体育授業の導入方法についての説明をもとに、実践する。ねらいに沿った運動の選択と展開についての説明をもとに、実際に運動の展開を提案する。	（予習：0.5時間） 学習指導案の導入部分について調べておく。 （復習：0.5時間） 体育授業の導入の方法と指導について整理し、理解を深める。
13	青木他	【授業内容】 テーマ：模擬授業① 体つくり運動の模擬授業を行い、振り返りから授業の実施方法について学ぶ。	【授業方法】 　学生の中から模擬授業者を決め、実際の授業を行う。模擬授業への参加だけではなく振り返りも実施する。	（予習：1時間） 模擬授業実施者の選出と事前準備を行う。 （復習：0.5時間） 　模擬授業の振り返りから自身が教員になった時に必要な課題を整理する。
14	青木他、	【授業内容】 テーマ：模擬授業① 体つくり運動の模擬授業を行い、振り返りから授業の実施方法について学ぶ。	【授業方法】 　学生の中から模擬授業者を決め、実際の授業を行う。模擬授業への参加だけではなく振り返りも実施する。	（予習：1時間） 模擬授業実施者の選出と事前準備を行う。 （復習：0.5時間） 　模擬授業の振り返りから自身が教員になった時に必要な課題を整理する。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】体つくり運動　［女子①］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】体つくり運動　［女子①］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	青木　和浩	ナンバリング	PHE1131
担当教員	青木　和浩、渡邉　貴裕、荻原　朋子、中丸　信吾、下嶽　進一郎、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 「体つくり運動」は中学・高等学校学習指導要領の必修科目になっている。更に小学校においても必修科目となり、特別支援学校を含めた学校体育において重要な科目である。本授業では「体つくり運動」を新しく改定された学習指導要領の内容に沿って授業を展開する。また、近年、学校現場で課題となっている運動嫌いをなくすための運動についての対応も積極的に実施する。授業内容は、体つくり運動における「体の動きを高める運動」と「体ほぐしの運動」に関する運動の実施と運動方法の提案を行う。さらに、体つくり運動に関する教材の作成と検討、指導案の立案と模擬授業の実施、評価を行う。 授業の概要、評価方法、履修における留意点などを説明する。そして「体つくり運動」への理解を深めるための知識や実践方法について、授業を行う。また、授業内での筆記試験を実施する。 体ほぐしの運動、体の動きを高める運動（体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する）、実生活に活かす運動計画体などの運動方法を学ぶ。なお、グループに分かれて実技を行う（共同）。 障害者スポーツの実施、体育実技授業の導入と展開、学習指導づくり、模擬授業の実施について、グループに分かれて授業を行う（共同）。
到達目標	【授業の到達目標】 1.体つくり運動にかかわる運動種目について、児童・生徒の実態に応じた実施方法を習得する。 2.体つくり運動に関する教材の作成および実施ができる。 3.学習指導案の作成を行い模擬授業の実施により、保健体育教員としての資質を獲得する。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（AT）、（ジュニアスポーツ指導員）、初級障がい者スポーツ指導員資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は、「対人調整力」「コミュニケーション力」「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養」を身につけるという学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 　学科等により受講するクラスが決まっているため、該当する開講時間で受講すること。 ※1クラスを授業内で2クラスに分けて実施する。授業内容が前後することもあるので、毎授業時の次週の予定を確認すること。 1.やむを得ない状況により見学をする場合は、各自見学ノートを作成し提出をすること。 2. 遅刻は減点対象とする。

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 　授業内評価（実技指導）60%、指導案作成・実施20%、教材シート20%にて総合的に評価する。
評価基準	【成績評価の基準】 1.体つくり運動に関する基礎知識と授業内で経験した実技内容の効果を理解することができる。（授業内実技指導） 2.体つくり運動の実技内容を理解し、実技指導することができる。（教材シート） 3.指導案を作成し、模擬授業への取り組みを理解することができる。（指導案・成果発表）

試験・課題に対するフィードバック方法

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
授業時にレポート課題のポイントの説明を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【参考書等】
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
授業の時に資料を配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：青木 和浩 E-mail：k-aoki@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日12:00から12:50 場所：1号館5階1509室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生からの訪問に対応している可能性がある為、出来るだけ事前にE-mailで予約をしてください。
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業科目は、講義と学修を交えた形態による1単位の科目であり、授業・実習30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）ジュニアスポーツ指導員 JSPO（日本スポーツ協会）AT 健康・体力づくり財団　健康運動指導士 日本障がい者スポーツ協会　初級・障がい者スポーツ指導員 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー ※新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、授業計画等の変更を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	青木	【授業内容】 テーマ：ガイダンス・体つくり運動とは？ 当該科目における授業の位置づけ、進め方や成績評価方法について学ぶ。 体つくり運動の分類と学習指導要領における位置づけを学ぶ。	【授業方法】 授業計画や資料を配布し、講義を行う。	（予習：0.5時間） 体つくり運動について、事前に調べる。 （復習：0.5時間） 授業の位置づけ、授業形態・成績評価法・注意事項について理解を深める。 体つくり運動への理解を整理する。
2	荻原他、	【授業内容】 テーマ：「リスクマネジメント」への理解 授業をする際の心得、リスクマネジメントを考える	【授業方法】 講義では配布資料を用いる。	（予習：0.5時間） 学校における「リスク」が伴う事項を考える。 （復習：0.5時間） 配布資料を読み「リスクマネジメント」を整理する。
3	青木他、	【授業内容】 テーマ：体ほぐしの運動① 小学校・中学校における体ほぐしの運動について学ぶ。	【授業方法】 実技（運動例を行いながら実施方法を理解する）。	（予習：0.5時間） 体ほぐしの運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 体ほぐしの実技例を振り返り整理する。
4	青木他、	【授業内容】 テーマ：体ほぐしの運動② 中学校・高校の体ほぐしの運動について学ぶ。	【授業方法】 実技（運動遊びを通して交流が促進する過程について運動例を行いながら実施方法を理解する。）	（予習：0.5時間） 体ほぐしの運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 体ほぐしの実技例を振り返り整理する。
5	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動① 体の動きを高める運動として、体の柔らかさ、巧みな動きの方法を学ぶ。	【授業方法】 実技（柔らかさ、巧みな動き）を行う。	（予習：0.5時間） 体の柔らかさ、巧みな動きに関する事前の学習をする。 （復習：0.5時間） 体の柔らかさ、巧みな動きの実技例を整理する。
6	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動② 力強い動き、動きを持続する運動を学ぶ。	【授業方法】 実技（力強い動き、動きを持続する運動を行い理解する。）	（予習：0.5時間） 力強い動き、動きを持続する運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 力強い動き、動きを持続する運動の実技例を振り返り整理する。
7	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動③、実生活に活かした運動計画 障害のある児童生徒への運動遊びの方法を学ぶ。運動計画を行う。	【授業方法】 実技（様々な運動を行い運動効果について実習する。）	（予習：0.5時間） これまでの運動内容を整理ておく。 （復習：0.5時間） 様々な実技例を振り返る。
8	荻原他、	【授業内容】 テーマ：学習指導案づくり 学習指導案の作成方法について学び、体つくり運動の学習指導案を作成する。	【授業方法】 本授業で実施した体力を高める運動および体ほぐしの運動例をもとにして学習指導案を作成する。	（予習：0.5時間） 配布資料を読み学習指導案について調べておく。 （復習：0.5時間） 模擬授業の実施に向けて準備しておく。
9	渡邉他、	【授業内容】 テーマ：パラスポーツ体験① ボッチャをはじめとしたパラスポーツの体験を行う。	【授業方法】 実技（ボッチャを行う。）	（予習：0.5時間） ボッチャを事前に調べる。 （復習：0.5時間） パラスポーツと体つくり運動の関係を整理する。

10	渡邉他、	【授業内容】 テーマ： パラスポーツ体験① シッティングバレーをはじめとする運動を用いた体ほぐしの運動を理解する。	【授業方法】 実技（シッティングバレーを実施する。）	（予習：0.5時間） 　パラリンピックスポーツを事前に調べる。 （復習：0.5時間） 　授業で実施した障害者スポーツのルールや実施方法を振り返り整理する。
11	渡邉他、	【授業内容】 テーマ：特別支援における体つくり運動とは？ 特別支援における体つくり運動の位置づけを学ぶ。	講義	（予習：0.5時間） 特別支援教育について調べておく。 （復習：0.5時間） 特別支援教育で必要な指導について整理し、理解を深める。
12	荻原他、	【授業内容】 テーマ：体育授業の導入と展開 体育授業の導入や展開の方法と指導についてについて学ぶ（ウォーミングアップとクーリングダウンも含む）。	【授業方法】 体育授業の導入方法についての説明をもとに、実践する。ねらいに沿った運動の選択と展開についての説明をもとに、実際に運動の展開を提案する。	（予習：0.5時間） 学習指導案の導入部分について調べておく。 （復習：0.5時間） 体育授業の導入の方法と指導について整理し、理解を深める。
13	青木他	【授業内容】 テーマ：模擬授業① 体つくり運動の模擬授業を行い、振り返りから授業の実施方法について学ぶ。	【授業方法】 　学生の中から模擬授業者を決め、実際の授業を行う。模擬授業への参加だけではなく振り返りも実施する。	（予習：1時間） 模擬授業実施者の選出と事前準備を行う。 （復習：0.5時間） 　模擬授業の振り返りから自身が教員になった時に必要な課題を整理する。
14	青木他、	【授業内容】 テーマ：模擬授業① 体つくり運動の模擬授業を行い、振り返りから授業の実施方法について学ぶ。	【授業方法】 　学生の中から模擬授業者を決め、実際の授業を行う。模擬授業への参加だけではなく振り返りも実施する。	（予習：1時間） 模擬授業実施者の選出と事前準備を行う。 （復習：0.5時間） 　模擬授業の振り返りから自身が教員になった時に必要な課題を整理する。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】体つくり運動　［女子②］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】体つくり運動　［女子②］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	青木　和浩	ナンバリング	PHE1131
担当教員	青木　和浩、渡邉　貴裕、荻原　朋子、中丸　信吾、村上　光輝、下嶽　進一郎、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 「体つくり運動」は中学・高等学校学習指導要領の必修科目になっている。更に小学校においても必修科目となり、特別支援学校を含めた学校体育において重要な科目である。本授業では「体つくり運動」を新しく改定された学習指導要領の内容に沿って授業を展開する。また、近年、学校現場で課題となっている運動嫌いをなくすための運動についての対応も積極的に実施する。授業内容は、体つくり運動における「体の動きを高める運動」と「体ほぐしの運動」に関する運動の実施と運動方法の提案を行う。さらに、体つくり運動に関する教材の作成と検討、指導案の立案と模擬授業の実施、評価を行う。 授業の概要、評価方法、履修における留意点などを説明する。そして「体つくり運動」への理解を深めるための知識や実践方法について、授業を行う。また、授業内での筆記試験を実施する。 体ほぐしの運動、体の動きを高める運動（体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する）、実生活に活かす運動計画体などの運動方法を学ぶ。なお、グループに分かれて実技を行う（共同）。 障害者スポーツの実施、体育実技授業の導入と展開、学習指導づくり、模擬授業の実施について、グループに分かれて授業を行う（共同）。
到達目標	【授業の到達目標】 1.体つくり運動にかかわる運動種目について、児童・生徒の実態に応じた実施方法を習得する。 2.体つくり運動に関する教材の作成および実施ができる。 3.学習指導案の作成を行い模擬授業の実施により、保健体育教員としての資質を獲得する。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（AT）、（ジュニアスポーツ指導員）、初級障がい者スポーツ指導員資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は、「対人調整力」「コミュニケーション力」「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養」を身につけるという学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 　学科等により受講するクラスが決まっているため、該当する開講時間で受講すること。 ※1クラスを授業内で2クラスに分けて実施する。授業内容が前後することもあるので、毎授業時の次週の予定を確認すること。 1.やむを得ない状況により見学をする場合は、各自見学ノートを作成し提出をすること。 2. 遅刻は減点対象とする。

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 　授業内評価（実技指導）60%、指導案作成・実施20%、教材シート20%にて総合的に評価する。
評価基準	【成績評価の基準】 1.体つくり運動に関する基礎知識と授業内で経験した実技内容の効果を理解することができる。（授業内実技指導） 2.体つくり運動の実技内容を理解し、実技指導することができる。（教材シート） 3.指導案を作成し、模擬授業への取り組みを理解することができる。（指導案・成果発表）

試験・課題に対するフィードバック方法

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
授業時にレポート課題のポイントの説明を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【参考書等】
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
授業の時に資料を配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：青木 和浩 E-mail：k-aoki@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日12:00から12:50 場所：1号館5階1509室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生からの訪問に対応している可能性がある為、出来るだけ事前にE-mailで予約をしてください。
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業科目は、講義と学修を交えた形態による1単位の科目であり、授業・実習30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）ジュニアスポーツ指導員 JSPO（日本スポーツ協会）AT 健康・体力づくり財団　健康運動指導士 日本障がい者スポーツ協会　初級・障がい者スポーツ指導員 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー ※新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、授業計画等の変更を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	青木	【授業内容】 テーマ：ガイダンス・体つくり運動とは？ 当該科目における授業の位置づけ、進め方や成績評価方法について学ぶ。 体つくり運動の分類と学習指導要領における位置づけを学ぶ。	【授業方法】 授業計画や資料を配布し、講義を行う。	（予習：0.5時間） 体つくり運動について、事前に調べる。 （復習：0.5時間） 授業の位置づけ、授業形態・成績評価法・注意事項について理解を深める。 体つくり運動への理解を整理する。
2	荻原他、	【授業内容】 テーマ：「リスクマネジメント」への理解 授業をする際の心得、リスクマネジメントを考える	【授業方法】 講義では配布資料を用いる。	（予習：0.5時間） 学校における「リスク」が伴う事項を考える。 （復習：0.5時間） 配布資料を読み「リスクマネジメント」を整理する。
3	青木他、	【授業内容】 テーマ：体ほぐしの運動① 小学校・中学校における体ほぐしの運動について学ぶ。	【授業方法】 実技（運動例を行いながら実施方法を理解する）。	（予習：0.5時間） 体ほぐしの運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 体ほぐしの実技例を振り返り整理する。
4	青木他、	【授業内容】 テーマ：体ほぐしの運動② 中学校・高校の体ほぐしの運動について学ぶ。	【授業方法】 実技（運動遊びを通して交流が促進する過程について運動例を行いながら実施方法を理解する。）	（予習：0.5時間） 体ほぐしの運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 体ほぐしの実技例を振り返り整理する。
5	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動① 体の動きを高める運動として、体の柔らかさ、巧みな動きの方法を学ぶ。	【授業方法】 実技（柔らかさ、巧みな動き）を行う。	（予習：0.5時間） 体の柔らかさ、巧みな動きに関する事前の学習をする。 （復習：0.5時間） 体の柔らかさ、巧みな動きの実技例を整理する。
6	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動② 力強い動き、動きを持続する運動を学ぶ。	【授業方法】 実技（力強い動き、動きを持続する運動を行い理解する。）	（予習：0.5時間） 力強い動き、動きを持続する運動を事前に調べる。 （復習：0.5時間） 力強い動き、動きを持続する運動の実技例を振り返り整理する。
7	青木他、	【授業内容】 テーマ：体の動きを高める運動③、実生活に活かした運動計画 障害のある児童生徒への運動遊びの方法を学ぶ。運動計画を行う。	【授業方法】 実技（様々な運動を行い運動効果について実習する。）	（予習：0.5時間） これまでの運動内容を整理ておく。 （復習：0.5時間） 様々な実技例を振り返る。
8	荻原他、	【授業内容】 テーマ：学習指導案づくり 学習指導案の作成方法について学び、体つくり運動の学習指導案を作成する。	【授業方法】 本授業で実施した体力を高める運動および体ほぐしの運動例をもとにして学習指導案を作成する。	（予習：0.5時間） 配布資料を読み学習指導案について調べておく。 （復習：0.5時間） 模擬授業の実施に向けて準備しておく。
9	渡邉他、	【授業内容】 テーマ：パラスポーツ体験① ボッチャをはじめとしたパラスポーツの体験を行う。	【授業方法】 実技（ボッチャを行う。）	（予習：0.5時間） ボッチャを事前に調べる。 （復習：0.5時間） パラスポーツと体つくり運動の関係を整理する。

10	渡邉他、	【授業内容】 テーマ： パラスポーツ体験① シッティングバレーをはじめとする運動を用いた体ほぐしの運動を理解する。	【授業方法】 実技（シッティングバレーを実施する。）	（予習：0.5時間） パラリンピックスポーツを事前に調べる。 （復習：0.5時間） 授業で実施した障害者スポーツのルールや実施方法を振り返り整理する。
11	渡邉他、	【授業内容】 テーマ：特別支援における体つくり運動とは？ 特別支援における体つくり運動の位置づけを学ぶ。	講義	（予習：0.5時間） 特別支援教育について調べておく。 （復習：0.5時間） 特別支援教育で必要な指導について整理し、理解を深める。
12	荻原他、	【授業内容】 テーマ：体育授業の導入と展開 体育授業の導入や展開の方法と指導についてについて学ぶ（ウォーミングアップとクーリングダウンも含む）。	【授業方法】 体育授業の導入方法についての説明をもとに、実践する。ねらいに沿った運動の選択と展開についての説明をもとに、実際に運動の展開を提案する。	（予習：0.5時間） 学習指導案の導入部分について調べておく。 （復習：0.5時間） 体育授業の導入の方法と指導について整理し、理解を深める。
13	青木他	【授業内容】 テーマ：模擬授業① 体つくり運動の模擬授業を行い、振り返りから授業の実施方法について学ぶ。	【授業方法】 学生の中から模擬授業者を決め、実際の授業を行う。模擬授業への参加だけではなく振り返りも実施する。	（予習：1時間） 模擬授業実施者の選出と事前準備を行う。 （復習：0.5時間） 模擬授業の振り返りから自身が教員になった時に必要な課題を整理する。
14	青木他、	【授業内容】 テーマ：模擬授業① 体つくり運動の模擬授業を行い、振り返りから授業の実施方法について学ぶ。	【授業方法】 学生の中から模擬授業者を決め、実際の授業を行う。模擬授業への参加だけではなく振り返りも実施する。	（予習：1時間） 模擬授業実施者の選出と事前準備を行う。 （復習：0.5時間） 模擬授業の振り返りから自身が教員になった時に必要な課題を整理する。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の選択必修科目、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「

成績評価の方法

評価方法	課題レポート内4回(40%)、実技試験(50%)、平常点(10%)を総合して評価する。
評価基準	1.各種目に関して基本的な運動技術の習得ができているか。法実習効果測定値にて評価する 2. 学習意欲を評価する 3. 各種目の基本的理解ができているか。口評価する

試験・課題に対するフィードバック方法

課題レポートは口、予習課題の場合は当該授業内で解説を行う。復習課題の場合は、翌週の授業で解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

必要な資料は、授業中に適宜配布します。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：山崎（短距離走，ハードル走，リレー） E-mail：kayamaza@juntendo.ac.jp 担当：鯉川（中長距離走） E-mail：nkoikawa@juntendo.ac.jp 担当：杉林（跳躍） E-mail：taka.sugibayashi@juntendo.ac.jp 担当：仲村（中長距離走） E-mail：aknaka@juntendo.ac.jp 担当：高梨（投擲） E-mail：ytakana@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 火曜日　9時～11時 山崎：1号館5階1522室 杉林：1号館5階1525室 鯉川：1号館5階1521室 仲村：1号館5階1524室 高梨：1号館5階1523室
担当教員の実務経験	陸上競技においてオリンピック出場経験、実業団活動経験のある教員、日本スポーツ協会公認コーチ資格、JOCナショナルコーチアカデミー修了を持つ教員、日本代表監督およびコーチ経験のある教員が、陸上競技の現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 中学校並び高等学校教諭1種免許状(保健体育)の必修科目 日本スポーツ協会公認コーチ共通科目必修科目 アスレティックトレーナー必修科目 健康運動指導士必修科目 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	山崎一彦、鯉川なつえ、杉林孝法、仲村明、高梨雄太	オリエンテーション 受講の諸 注意、単位取得の方法、年間 を通じた授業の流れ、予習復習 の仕方 について理解する。	各担当教員から、各種目についての主な特徴、授業での習得目的と目標、授業内容および単位取得の観点、安全上の留意点等について話し、理解してもらうようにする。	【予習：0.5時間】 シラバスを熟読し、授業内容全体の理解をしておく。 【復習：0.5時間】 自身の専門種目または興味のある種目についての指導ができるようにするため、教材研究をしておく。
2	山崎一彦、高梨雄太	短距離：短距離走の基本的技術理論を理解する。最高疾走速度を発生させるための理論と実践を行う。 投擲：砲丸投の基本(ルール、安全管理の方法など)について学習し理解をする。	短距離：ピッチ・ストライド長を生むためのメカニズムを学び、まずはストライド長を伸ばす方法について学ぶ。 投擲：実際に砲丸やメディシンボールを使 って、砲丸投の動き作りをする。	【予習：0.5時間】 ・100m走を速く走るためのメカニズムをテキストで学んでおく。 ・砲丸投フォームの変遷とルールについて配布資料を確認する 【復習：0.5時間】 ・重心位置、前傾、ストライド長、足、膝、股関節角度などの走速度に関わる部位について覚える。 ・投擲の動作イメージの練習を行う
3	山崎一彦、高梨雄太	短距離：最高疾走速度を発生させるための技術を円滑に行えるようにする。スタート方法について学ぶ。リレーのバトンパス方法について学ぶ。 投擲　砲丸投(重さに慣れる・突き出し)の基本的動作を習得する。	短距離：様々なクラウチングスタートの方法を実践し、自身にあった技術を選択する。様々なリレーにおけるバトンパス技術を実践する。 投擲：男子5.45kg、女子2.721kgの重さの砲丸を多く投げることで慣れる。突き出しの基本的動作を繰り返し行い習得する。	【予習：0.5時間】 ・３種類のクラウチング・スタートについけ覚える。 ・砲丸投の基本的動作について、配布資料、動画検索などを活用し基本的な動きをチェックする 【復習：0.5時間】 ・角運動保存の法則、作用反作用のようごもりかいしておく。 ・動きのイメージを確認する
4	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：ハードル 走の基本動作を学ぶ。抜き脚、振り上げ脚動作を理解する。 投擲：砲丸投(グライド) グライド動作の導入と基本の習得	ハードル：恐怖感を取り除くトレーニング方法を学び、ハードルの特徴的動作である抜き脚動作を実践する。 投擲：グライド動作を習得するために、まずは砲丸を持たずに動作練習を行う。その後、実際に砲丸を投げる。	【予習：0.5時間】 ・ハードル走について、配布資料を熟読して用語投を理解しておく。 ・グライド動作の習得と突出し動作の確認 【復習：0.5時間】 ・用語が理解でき、身体表現ができているかをチェックする. ・実際にグライド動作を用いて砲丸を投げ、グライド動作から突 出しのイメージをつくる。

5	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：ハードル間インターバルをリズムよく走れるようにする。 投擲　砲丸投(グライドの完成) グライド動作の習熟	ハードル：ミニハードルを用いて、インターバルを走破するための必要 ストライド長の確保、インターバルのリズムおよびインターバルからのジャンプ動作を習得する。 投擲：砲丸を繰り返しグライド動作を用いて投げることでグライド動作の習熟を図る。	【予習：0.5時間】 ・配布資料のハードル走のトレーニング方法を理解しておくこと。 ・グライド動作動作のイメージをおこなう 【復習：0.5時間】 ・ハードル走の局面（スプリント走～踏切～空中動作～着地～スプリント走）の流れの中で分習した指導方法についてまとめる。 ・グライド動作から突出しまでの流れをチェックする
6	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：前半：第1ハードルから 第5ハードルまでを完成させる。 投擲　砲丸投の測定方法	ハードル：スタートからのハードルへのアプローチを行う。 スタートからハードルを連続して跳ぶ。 投擲　競技会形式で測定をするための方法を学習する。実際に競技会形式で測定を行う。	【予習：0.5時間】 ・ハードル走を速く走るためのメカニズムについて、それぞれのハードル種目の相違点について配布資料を参考にまとめてくる。 ・投擲動作の全体的な流れを確認する 【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、改善点とその指導方法についてまとめる。 ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作 を確認する
7	山崎一彦、高梨雄太	短距離/ハードル：短距離・ハードル 走の実習効果の測定 投擲　砲丸投(サークルからの投擲)、ルールの理解と実践、審判方法、記録の測定	短距離：ハードル：前半：短距離走、ハードル走を実践的に行い、測定する。ハードル走は測定後、さらに記録を伸ばすための指導を受け、再度挑戦する 。 投擲：実際に記録を測定し、測定方法について理解する。	【予習：0.5時間】 ・体調を整えて授業に臨む. ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作を確認する 【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、かいぜんてんどお ・ルール、審判方法、記録の測定方法について確認する
8	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走高跳の技術変遷と背面跳の特徴を理解し、基本動作を身につける。 中長距離　長距離に必要な因子(能力) とランニングフォームについて理解を深める。	実技 跳躍　走高跳における背面跳の踏切とバークリアランスの基本動作、およびマットへの安全な着地の練習法を実践する。 中長距離　長距離走者に必要な因子を理解する。ランニングのポイントを学習した後、ポイントを意識したジョギングを行い意識性の重要性を実践する。	【予習：0.5時間】 ・走高跳の跳躍技術の変遷について調べる。 ・長距離走者に必要な条件を調べる。 【復習：0.5時間】 ・走高跳のトップ選手のビデオを観てポイントを整理する。 ・ジョギングの有効性を意識し、体調に合わせたジョギングを行う。
9	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　背面跳の助走、踏切、バークリアランス、マット着地の一連の動作を繋げてできるようにする。 中長距離　効率の良いランニングフォーム習得のためのランニングドリルについて学習する。	実技 跳躍　背面跳の特徴である曲線助走とその際の内傾動作、および背中側でバークリアするための練習法を実践する。 中長距離　ランニングドリルの模範を見せ、ポイントを解説する。正確に行われているか確認する。	【予習：0.5時間】 ・背面跳の安全な実施方法を確認する。 ・授業で配布した資料から目的や方法を確認する。 【復習：0.5時間】 ・自身の助走歩数と距離を確認する。 ・ランニングドリルのポイントをまとめる。

10	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走高跳の競技ルールを学び、試合戦術と実践力を身につける。 中長距離　12分間走の目的と意義について理解を深める。	実技 跳躍　基本的な競技ルールに則り試合形式で走高跳を行うなかで、自己の最大の高さを目指して跳躍する。 中長距離　12分間走を行い、最大酸素摂取量に照らし合わせ、持久的能力の確認と12間走について解説する。	【予習：0.5時間】 ・競技ルールについてルールブックを参考に調べる。 ・12分間走について調べる。 【復習：0.5時間】 ・自身のパフォーマンスを評価する。 ・12分間走と最大酸素摂取量について考察する。
11	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走幅跳の各跳躍技術と特徴を理解し、かがみ跳の基本動作を身につける。 中長距離　インターバルトレーニングの目的や効果、方法について学習する。	実技 跳躍　短助走跳躍によってかがみ跳びの踏切、空中、着地のポイントを理解し、その練習法を実践する。 中長距離　インターバルトレーニングについて質疑応答を行い、このトレーニングのポイントを解説する。レベルに応じたグループを編成し、実際にインターバルトレーニングを行う。	【予習：0.5時間】 ・走幅跳の跳躍技術の種類について調べる。 ・インターバルトレーニングについて課題レポートを作成する。 【復習：0.5時間】 ・走幅跳のトップ選手のビデオを観てポイントを整理する。 ・授業で行ったインターバルトレーニングと心拍数の変動について考察する。
12	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　助走、踏切、空中、着地までの一連の動作を繋げてできるようにする。 中長距離　ウォーキングおよびL・S・D（Long Slow Distance）の目的と効果を学習する。	実技 跳躍　助走歩数と距離を設定し、走り方（流れ）を学ぶ。また、反り跳びの練習法を実践する。 中長距離　ウォーキングおよびL・S・D（Long Slow Distance）の目的と効果について解説する。また、異なるサーフェスでのランニングを行う。	【予習：0.5時間】 ・走幅跳の安全な実施方法を確認する。 ・ウォーキングの効果を調べる。 【復習：0.5時間】 ・自身の助走歩数と距離を確認する。 ・LSDの効果と注意する点に関してレポートを作成する。
13	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走幅跳の競技ルールを学び、試合戦術と実践力を身につける。 中長距離　中長距離走の総括および実習評価の測定を行う。	実技 跳躍　基本的な競技ルールに則り試合形式で走幅跳を行うなかで、自己の最高の記録を目指して跳躍する。また、記録の計測方法を学ぶ。 中長距離　中長距離の単元を振り返りミニテストで理解度を確認する。実技テストでは、中距離走か長距離走を選択させ実施する。	【予習：0.5時間】 ・競技ルールについてルールブックを参考に調べる。 ・実習効果測定に対する準備を行う。 【復習：0.5時間】 ・自身のパフォーマンスを評価する。 ・中長距離走の総括レポートを作成する。
14	山崎一彦、杉林孝法、仲村明、高梨雄太	本授業で行なった種目についての測定を行う。	実技 ４グループに分類し、授業内で行なった測定よりもさらに記録を伸ばす。	【予習：0.5時間】 体調を整え，計測に備えた実技種目について練習をしておく。 【復習：0.5時間】 　それぞれ実施した競技種目についての復習をしておく。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の選択必修科目、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「

成績評価の方法

評価方法	課題レポート内4回(40%)、実技試験(50%)、平常点(10%)を総合して評価する。
評価基準	1.各種目に関して基本的な運動技術の習得ができているか。法実習効果測定値にて評価する 2. 学習意欲を評価する 3. 各種目の基本的理解ができているか。口評価する

試験・課題に対するフィードバック方法

課題レポートは口、予習課題の場合は当該授業内で解説を行う。復習課題の場合は、翌週の授業で解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

必要な資料は、授業中に適宜配布します。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：山崎（短距離走，ハードル走，リレー） E-mail：kayamaza@juntendo.ac.jp 担当：鯉川（中長距離走） E-mail：nkoikawa@juntendo.ac.jp 担当：杉林（跳躍） E-mail：taka.sugibayashi@juntendo.ac.jp 担当：仲村（中長距離走） E-mail：aknaka@juntendo.ac.jp 担当：高梨（投擲） E-mail：ytakana@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 火曜日　9時～11時 山崎：1号館5階1522室 杉林：1号館5階1525室 鯉川：1号館5階1521室 仲村：1号館5階1524室 高梨：1号館5階1523室
担当教員の実務経験	陸上競技においてオリンピック出場経験、実業団活動経験のある教員、日本スポーツ協会公認コーチ資格、JOCナショナルコーチアカデミー修了を持つ教員、日本代表監督およびコーチ経験のある教員が、陸上競技の現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 中学校並び高等学校教諭1種免許状(保健体育)の必修科目 日本スポーツ協会公認コーチ共通科目必修科目 アスレティックトレーナー必修科目 健康運動指導士必修科目 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	山崎一彦、鯉川なつえ、杉林孝法、仲村明、高梨雄太	オリエンテーション 受講の諸 注意、単位取得の方法、年間 を通じた授業の流れ、予習復習 の仕方 について理解する。	各担当教員から、各種目についての主な特徴、授業での習得目的と目標、授業内容および単位取得の観点、安全上の留意点等について話し、理解してもらうようにする。	【予習：0.5時間】 シラバスを熟読し、授業内容全体の理解をしておく。 【復習：0.5時間】 自身の専門種目または興味のある種目についての指導ができるようにするため、教材研究をしておく。
2	山崎一彦、高梨雄太	短距離：短距離走の基本的技術理論を理解する。最高疾走速度を発生させるための理論と実践を行う。 投擲：砲丸投の基本(ルール、安全管理の方法など)について学習し理解をする。	短距離：ピッチ・ストライド長を生むためのメカニズムを学び、まずはストライド長を伸ばす方法について学ぶ。 投擲：実際に砲丸やメディシンボールを使 って、砲丸投の動き作りをする。	【予習：0.5時間】 ・100m走を速く走るためのメカニズムをテキストで学んでおく。 ・砲丸投フォームの変遷とルールについて配布資料を確認する 【復習：0.5時間】 ・重心位置、前傾、ストライド長、足、膝、股関節角度などの走速度に関わる部位について覚える。 ・投擲の動作イメージの練習を行う
3	山崎一彦、高梨雄太	短距離：最高疾走速度を発生させるための技術を円滑に行えるようにする。スタート方法について学ぶ。リレーのバトンパス方法について学ぶ。 投擲　砲丸投(重さに慣れる・突き出し)の基本的動作を習得する。	短距離：様々なクラウチングスタートの方法を実践し、自身にあった技術を選択する。様々なリレーにおけるバトンパス技術を実践する。 投擲：男子5.45kg、女子2.721kgの重さの砲丸を多く投げることで慣れる。突き出しの基本的動作を繰り返し行い習得する。	【予習：0.5時間】 ・３種類のクラウチング・スタートについけ覚える。 ・砲丸投の基本的動作について、配布資料、動画検索などを活用し基本的な動きをチェックする 【復習：0.5時間】 ・角運動保存の法則、作用反作用のようごもりかいしておく。 ・動きのイメージを確認する
4	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：ハードル 走の基本動作を学ぶ。抜き脚、振り上げ脚動作を理解する。 投擲：砲丸投(グライド) グライド動作の導入と基本の習得	ハードル：恐怖感を取り除くトレーニング方法を学び、ハードルの特徴的動作である抜き脚動作を実践する。 投擲：グライド動作を習得するために、まずは砲丸を持たずに動作練習を行う。その後、実際に砲丸を投げる。	【予習：0.5時間】 ・ハードル走について、配布資料を熟読して用語投を理解しておく。 ・グライド動作の習得と突出し動作の確認 【復習：0.5時間】 ・用語が理解でき、身体表現ができているかをチェックする. ・実際にグライド動作を用いて砲丸を投げ、グライド動作から突 出しのイメージをつくる。

5	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：ハードル間インターバルをリズムよく走れるようにする。 投擲　砲丸投(グライドの完成) グライド動作の習熟	ハードル：ミニハードルを用いて、インターバルを走破するための必要 ストライド長の確保、インターバルのリズムおよびインターバルからのジャンプ動作を習得する。 投擲：砲丸を繰り返しグライド動作を用いて投げることでグライド動作の習熟を図る。	【予習：0.5時間】 ・配布資料のハードル走のトレーニング方法を理解しておくこと。 ・グライド動作動作のイメージをおこなう 【復習：0.5時間】 ・ハードル走の局面（スプリント走～踏切～空中動作～着地～スプリント走）の流れの中で分習した指導方法についてまとめる。 ・グライド動作から突出しまでの流れをチェックする
6	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：前半：第1ハードルから 第5ハードルまでを完成させる。 投擲　砲丸投の測定方法	ハードル：スタートからのハードルへのアプローチを行う。 スタートからハードルを連続して跳ぶ。 投擲　競技会形式で測定をするための方法を学習する。実際に競技会形式で測定を行う。	【予習：0.5時間】 ・ハードル走を速く走るためのメカニズムについて、それぞれのハードル種目の相違点について配布資料を参考にまとめてくる。 ・投擲動作の全体的な流れを確認する 【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、改善点とその指導方法についてまとめる。 ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作 を確認する
7	山崎一彦、高梨雄太	短距離/ハードル：短距離・ハードル 走の実習効果の測定 投擲　砲丸投(サークルからの投擲)、ルールの理解と実践、審判方法、記録の測定	短距離：ハードル：前半：短距離走、ハードル走を実践的に行い、測定する。ハードル走は測定後、さらに記録を伸ばすための指導を受け、再度挑戦する 。 投擲：実際に記録を測定し、測定方法について理解する。	【予習：0.5時間】 ・体調を整えて授業に臨む. ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作を確認する 【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、かいぜんてんどお ・ルール、審判方法、記録の測定方法について確認する
8	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走高跳の技術変遷と背面跳の特徴を理解し、基本動作を身につける。 中長距離　長距離に必要な因子(能力) とランニングフォームについて理解を深める。	実技 跳躍　走高跳における背面跳の踏切とバークリアランスの基本動作、およびマットへの安全な着地の練習法を実践する。 中長距離　長距離走者に必要な因子を理解する。ランニングのポイントを学習した後、ポイントを意識したジョギングを行い意識性の重要性を実践する。	【予習：0.5時間】 ・走高跳の跳躍技術の変遷について調べる。 ・長距離走者に必要な条件を調べる。 【復習：0.5時間】 ・走高跳のトップ選手のビデオを観てポイントを整理する。 ・ジョギングの有効性を意識し、体調に合わせたジョギングを行う。
9	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　背面跳の助走、踏切、バークリアランス、マット着地の一連の動作を繋げてできるようにする。 中長距離　効率の良いランニングフォーム習得のためのランニングドリルについて学習する。	実技 跳躍　背面跳の特徴である曲線助走とその際の内傾動作、および背中側でバークリアするための練習法を実践する。 中長距離　ランニングドリルの模範を見せ、ポイントを解説する。正確に行われているか確認する。	【予習：0.5時間】 ・背面跳の安全な実施方法を確認する。 ・授業で配布した資料から目的や方法を確認する。 【復習：0.5時間】 ・自身の助走歩数と距離を確認する。 ・ランニングドリルのポイントをまとめる。

10	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走高跳の競技ルールを学び、試合戦術と実践力を身につける。 中長距離　12分間走の目的と意義について理解を深める。	実技 跳躍　基本的な競技ルールに則り試合形式で走高跳を行うなかで、自己の最大の高さを目指して跳躍する。 中長距離　12分間走を行い、最大酸素摂取量に照らし合わせ、持久的能力の確認と12間走について解説する。	【予習：0.5時間】 ・競技ルールについてルールブックを参考に調べる。 ・12分間走について調べる。 【復習：0.5時間】 ・自身のパフォーマンスを評価する。 ・12分間走と最大酸素摂取量について考察する。
11	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走幅跳の各跳躍技術と特徴を理解し、かがみ跳の基本動作を身につける。 中長距離　インターバルトレーニングの目的や効果、方法について学習する。	実技 跳躍　短助走跳躍によってかがみ跳びの踏切、空中、着地のポイントを理解し、その練習法を実践する。 中長距離　インターバルトレーニングについて質疑応答を行い、このトレーニングのポイントを解説する。レベルに応じたグループを編成し、実際にインターバルトレーニングを行う。	【予習：0.5時間】 ・走幅跳の跳躍技術の種類について調べる。 ・インターバルトレーニングについて課題レポートを作成する。 【復習：0.5時間】 ・走幅跳のトップ選手のビデオを観てポイントを整理する。 ・授業で行ったインターバルトレーニングと心拍数の変動について考察する。
12	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　助走、踏切、空中、着地までの一連の動作を繋げてできるようにする。 中長距離　ウォーキングおよびL・S・D（Long Slow Distance）の目的と効果を学習する。	実技 跳躍　助走歩数と距離を設定し、走り方（流れ）を学ぶ。また、反り跳びの練習法を実践する。 中長距離　ウォーキングおよびL・S・D（Long Slow Distance）の目的と効果について解説する。また、異なるサーフェスでのランニングを行う。	【予習：0.5時間】 ・走幅跳の安全な実施方法を確認する。 ・ウォーキングの効果を調べる。 【復習：0.5時間】 ・自身の助走歩数と距離を確認する。 ・LSDの効果と注意する点に関してレポートを作成する。
13	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走幅跳の競技ルールを学び、試合戦術と実践力を身につける。 中長距離　中長距離走の総括および実習評価の測定を行う。	実技 跳躍　基本的な競技ルールに則り試合形式で走幅跳を行うなかで、自己の最高の記録を目指して跳躍する。また、記録の計測方法を学ぶ。 中長距離　中長距離の単元を振り返りミニテストで理解度を確認する。実技テストでは、中距離走か長距離走を選択させ実施する。	【予習：0.5時間】 ・競技ルールについてルールブックを参考に調べる。 ・実習効果測定に対する準備を行う。 【復習：0.5時間】 ・自身のパフォーマンスを評価する。 ・中長距離走の総括レポートを作成する。
14	山崎一彦、杉林孝法、仲村明、高梨雄太	本授業で行なった種目についての測定を行う。	実技 ４グループに分類し、授業内で行なった測定よりもさらに記録を伸ばす。	【予習：0.5時間】 体調を整え，計測に備えた実技種目について練習をしておく。 【復習：0.5時間】 　それぞれ実施した競技種目についての復習をしておく。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の選択必修科目、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「

成績評価の方法

評価方法	課題レポート内4回(40%)、実技試験(50%)、平常点(10%)を総合して評価する。
評価基準	1.各種目に関して基本的な運動技術の習得ができているか。法実習効果測定値にて評価する 2. 学習意欲を評価する 3. 各種目の基本的理解ができているか。口評価する

試験・課題に対するフィードバック方法

課題レポートは口、予習課題の場合は当該授業内で解説を行う。復習課題の場合は、翌週の授業で解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

必要な資料は、授業中に適宜配布します。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：山崎（短距離走，ハードル走，リレー） E-mail：kayamaza@juntendo.ac.jp 担当：鯉川（中長距離走） E-mail：nkoikawa@juntendo.ac.jp 担当：杉林（跳躍） E-mail：taka.sugibayashi@juntendo.ac.jp 担当：仲村（中長距離走） E-mail：aknaka@juntendo.ac.jp 担当：高梨（投擲） E-mail：ytakana@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 火曜日　9時～11時 山崎：1号館5階1522室 杉林：1号館5階1525室 鯉川：1号館5階1521室 仲村：1号館5階1524室 高梨：1号館5階1523室
担当教員の実務経験	陸上競技においてオリンピック出場経験、実業団活動経験のある教員、日本スポーツ協会公認コーチ資格、JOCナショナルコーチアカデミー修了を持つ教員、日本代表監督およびコーチ経験のある教員が、陸上競技の現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 中学校並び高等学校教諭1種免許状(保健体育)の必修科目 日本スポーツ協会公認コーチ共通科目必修科目 アスレティックトレーナー必修科目 健康運動指導士必修科目 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	山崎一彦、鯉川なつえ、杉林孝法、仲村明、高梨雄太	オリエンテーション 受講の諸 注意、単位取得の方法、年間 を通じた授業の流れ、予習復習 の仕方 について理解する。	各担当教員から、各種目についての主な特徴、授業での習得目的と目標、授業内容および単位取得の観点、安全上の留意点等について話し、理解してもらうようにする。	【予習：0.5時間】 シラバスを熟読し、授業内容全体の理解をしておく。 【復習：0.5時間】 自身の専門種目または興味のある種目についての指導ができるようにするため、教材研究をしておく。
2	山崎一彦、高梨雄太	短距離：短距離走の基本的技術理論を理解する。最高疾走速度を発生させるための理論と実践を行う。 投擲：砲丸投の基本(ルール、安全管理の方法など)について学習し理解をする。	短距離：ピッチ・ストライド長を生むためのメカニズムを学び、まずはストライド長を伸ばす方法について学ぶ。 投擲：実際に砲丸やメディシンボールを使 って、砲丸投の動き作りをする。	【予習：0.5時間】 ・100m走を速く走るためのメカニズムをテキストで学んでおく。 ・砲丸投フォームの変遷とルールについて配布資料を確認する 【復習：0.5時間】 ・重心位置、前傾、ストライド長、足、膝、股関節角度などの走速度に関わる部位について覚える。 ・投擲の動作イメージの練習を行う
3	山崎一彦、高梨雄太	短距離：最高疾走速度を発生させるための技術を円滑に行えるようにする。スタート方法について学ぶ。リレーのバトンパス方法について学ぶ。 投擲　砲丸投(重さに慣れる・突き出し)の基本的動作を習得する。	短距離：様々なクラウチングスタートの方法を実践し、自身にあった技術を選択する。様々なリレーにおけるバトンパス技術を実践する。 投擲：男子5.45kg、女子2.721kgの重さの砲丸を多く投げることで慣れる。突き出しの基本的動作を繰り返し行い習得する。	【予習：0.5時間】 ・３種類のクラウチング・スタートについけ覚える。 ・砲丸投の基本的動作について、配布資料、動画検索などを活用し基本的な動きをチェックする 【復習：0.5時間】 ・角運動保存の法則、作用反作用のようごもりかいしておく。 ・動きのイメージを確認する
4	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：ハードル 走の基本動作を学ぶ。抜き脚、振り上げ脚動作を理解する。 投擲：砲丸投(グライド) グライド動作の導入と基本の習得	ハードル：恐怖感を取り除くトレーニング方法を学び、ハードルの特徴的動作である抜き脚動作を実践する。 投擲：グライド動作を習得するために、まずは砲丸を持たずに動作練習を行う。その後、実際に砲丸を投げる。	【予習：0.5時間】 ・ハードル走について、配布資料を熟読して用語投を理解しておく。 ・グライド動作の習得と突出し動作の確認 【復習：0.5時間】 ・用語が理解でき、身体表現ができているかをチェックする. ・実際にグライド動作を用いて砲丸を投げ、グライド動作から突 出しのイメージをつくる。

5	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：ハードル間インターバルをリズムよく走れるようにする。 投擲　砲丸投(グライドの完成) グライド動作の習熟	ハードル：ミニハードルを用いて、インターバルを走破するための必要 ストライド長の確保、インターバルのリズムおよびインターバルからのジャンプ動作を習得する。 投擲：砲丸を繰り返しグライド動作を用いて投げることでグライド動作の習熟を図る。	【予習：0.5時間】 ・配布資料のハードル走のトレーニング方法を理解しておくこと。 ・グライド動作動作のイメージをおこなう 【復習：0.5時間】 ・ハードル走の局面（スプリント走～踏切～空中動作～着地～スプリント走）の流れの中で分習した指導方法についてまとめる。 ・グライド動作から突出しまでの流れをチェックする
6	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：前半：第1ハードルから 第5ハードルまでを完成させる。 投擲　砲丸投の測定方法	ハードル：スタートからのハードルへのアプローチを行う。 スタートからハードルを連続して跳ぶ。 投擲　競技会形式で測定をするための方法を学習する。実際に競技会形式で測定を行う。	【予習：0.5時間】 ・ハードル走を速く走るためのメカニズムについて、それぞれのハードル種目の相違点について配布資料を参考にまとめてくる。 ・投擲動作の全体的な流れを確認する 【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、改善点とその指導方法についてまとめる。 ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作 を確認する
7	山崎一彦、高梨雄太	短距離/ハードル：短距離・ハードル 走の実習効果の測定 投擲　砲丸投(サークルからの投擲)、ルールの理解と実践、審判方法、記録の測定	短距離：ハードル：前半：短距離走、ハードル走を実践的に行い、測定する。ハードル走は測定後、さらに記録を伸ばすための指導を受け、再度挑戦する 。 投擲：実際に記録を測定し、測定方法について理解する。	【予習：0.5時間】 ・体調を整えて授業に臨む. ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作を確認する 【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、かいぜんてんどお ・ルール、審判方法、記録の測定方法について確認する
8	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走高跳の技術変遷と背面跳の特徴を理解し、基本動作を身につける。 中長距離　長距離に必要な因子(能力) とランニングフォームについて理解を深める。	実技 跳躍　走高跳における背面跳の踏切とバークリアランスの基本動作、およびマットへの安全な着地の練習法を実践する。 中長距離　長距離走者に必要な因子を理解する。ランニングのポイントを学習した後、ポイントを意識したジョギングを行い意識性の重要性を実践する。	【予習：0.5時間】 ・走高跳の跳躍技術の変遷について調べる。 ・長距離走者に必要な条件を調べる。 【復習：0.5時間】 ・走高跳のトップ選手のビデオを観てポイントを整理する。 ・ジョギングの有効性を意識し、体調に合わせたジョギングを行う。
9	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　背面跳の助走、踏切、バークリアランス、マット着地の一連の動作を繋げてできるようにする。 中長距離　効率の良いランニングフォーム習得のためのランニングドリルについて学習する。	実技 跳躍　背面跳の特徴である曲線助走とその際の内傾動作、および背中側でバークリアするための練習法を実践する。 中長距離　ランニングドリルの模範を見せ、ポイントを解説する。正確に行われているか確認する。	【予習：0.5時間】 ・背面跳の安全な実施方法を確認する。 ・授業で配布した資料から目的や方法を確認する。 【復習：0.5時間】 ・自身の助走歩数と距離を確認する。 ・ランニングドリルのポイントをまとめる。

10	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走高跳の競技ルールを学び、試合戦術と実践力を身につける。 中長距離　12分間走の目的と意義について理解を深める。	実技 跳躍　基本的な競技ルールに則り試合形式で走高跳を行うなかで、自己の最大の高さを目指して跳躍する。 中長距離　12分間走を行い、最大酸素摂取量に照らし合わせ、持久的能力の確認と12間走について解説する。	【予習：0.5時間】 ・競技ルールについてルールブックを参考に調べる。 ・12分間走について調べる。 【復習：0.5時間】 ・自身のパフォーマンスを評価する。 ・12分間走と最大酸素摂取量について考察する。
11	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走幅跳の各跳躍技術と特徴を理解し、かがみ跳の基本動作を身につける。 中長距離　インターバルトレーニングの目的や効果、方法について学習する。	実技 跳躍　短助走跳躍によってかがみ跳びの踏切、空中、着地のポイントを理解し、その練習法を実践する。 中長距離　インターバルトレーニングについて質疑応答を行い、このトレーニングのポイントを解説する。レベルに応じたグループを編成し、実際にインターバルトレーニングを行う。	【予習：0.5時間】 ・走幅跳の跳躍技術の種類について調べる。 ・インターバルトレーニングについて課題レポートを作成する。 【復習：0.5時間】 ・走幅跳のトップ選手のビデオを観てポイントを整理する。 ・授業で行ったインターバルトレーニングと心拍数の変動について考察する。
12	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　助走、踏切、空中、着地までの一連の動作を繋げてできるようにする。 中長距離　ウォーキングおよびL・S・D（Long Slow Distance）の目的と効果を学習する。	実技 跳躍　助走歩数と距離を設定し、走り方（流れ）を学ぶ。また、反り跳びの練習法を実践する。 中長距離　ウォーキングおよびL・S・D（Long Slow Distance）の目的と効果について解説する。また、異なるサーフェスでのランニングを行う。	【予習：0.5時間】 ・走幅跳の安全な実施方法を確認する。 ・ウォーキングの効果を調べる。 【復習：0.5時間】 ・自身の助走歩数と距離を確認する。 ・LSDの効果と注意する点に関してレポートを作成する。
13	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走幅跳の競技ルールを学び、試合戦術と実践力を身につける。 中長距離　中長距離走の総括および実習評価の測定を行う。	実技 跳躍　基本的な競技ルールに則り試合形式で走幅跳を行うなかで、自己の最高の記録を目指して跳躍する。また、記録の計測方法を学ぶ。 中長距離　中長距離の単元を振り返りミニテストで理解度を確認する。実技テストでは、中距離走か長距離走を選択させ実施する。	【予習：0.5時間】 ・競技ルールについてルールブックを参考に調べる。 ・実習効果測定に対する準備を行う。 【復習：0.5時間】 ・自身のパフォーマンスを評価する。 ・中長距離走の総括レポートを作成する。
14	山崎一彦、杉林孝法、仲村明、高梨雄太	本授業で行なった種目についての測定を行う。	実技 ４グループに分類し、授業内で行なった測定よりもさらに記録を伸ばす。	【予習：0.5時間】 体調を整え，計測に備えた実技種目について練習をしておく。 【復習：0.5時間】 　それぞれ実施した競技種目についての復習をしておく。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の選択必修科目、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「

成績評価の方法

評価方法	課題レポート内4回(40%)、実技試験(50%)、平常点(10%)を総合して評価する。
評価基準	1.各種目に関して基本的な運動技術の習得ができているか。法実習効果測定値にて評価する 2. 学習意欲を評価する 3. 各種目の基本的理解ができているか。口評価する

試験・課題に対するフィードバック方法

課題レポートは口、予習課題の場合は当該授業内で解説を行う。復習課題の場合は、翌週の授業で解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

必要な資料は、授業中に適宜配布します。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：山崎（短距離走，ハードル走，リレー） E-mail：kayamaza@juntendo.ac.jp 担当：鯉川（中長距離走） E-mail：nkoikawa@juntendo.ac.jp 担当：杉林（跳躍） E-mail：taka.sugibayashi@juntendo.ac.jp 担当：仲村（中長距離走） E-mail：aknaka@juntendo.ac.jp 担当：高梨（投擲） E-mail：ytakana@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 火曜日　9時～11時 山崎：1号館5階1522室 杉林：1号館5階1525室 鯉川：1号館5階1521室 仲村：1号館5階1524室 高梨：1号館5階1523室
担当教員の実務経験	陸上競技においてオリンピック出場経験、実業団活動経験のある教員、日本スポーツ協会公認コーチ資格、JOCナショナルコーチアカデミー修了を持つ教員、日本代表監督およびコーチ経験のある教員が、陸上競技の現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 中学校並び高等学校教諭1種免許状(保健体育)の必修科目 日本スポーツ協会公認コーチ共通科目必修科目 アスレティックトレーナー必修科目 健康運動指導士必修科目 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	山崎一彦、鯉川なつえ、杉林孝法、仲村明、高梨雄太	オリエンテーション 受講の諸 注意、単位取得の方法、年間 を通じた授業の流れ、予習復習 の仕方 について理解する。	各担当教員から、各種目についての主な特徴、授業での習得目的と目標、授業内容および単位取得の観点、安全上の留意点等について話し、理解してもらうようにする。	【予習：0.5時間】 シラバスを熟読し、授業内容全体の理解をしておく。 【復習：0.5時間】 自身の専門種目または興味のある種目についての指導ができるようにするため、教材研究をしておく。
2	山崎一彦、高梨雄太	短距離：短距離走の基本的技術理論を理解する。最高疾走速度を発生させるための理論と実践を行う。 投擲：砲丸投の基本(ルール、安全管理の方法など)について学習し理解をする。	短距離：ピッチ・ストライド長を生むためのメカニズムを学び、まずはストライド長を伸ばす方法について学ぶ。 投擲：実際に砲丸やメディシンボールを使 って、砲丸投の動き作りをする。	【予習：0.5時間】 ・100m走を速く走るためのメカニズムをテキストで学んでおく。 ・砲丸投フォームの変遷とルールについて配布資料を確認する 【復習：0.5時間】 ・重心位置、前傾、ストライド長、足、膝、股関節角度などの走速度に関わる部位について覚える。 ・投擲の動作イメージの練習を行う
3	山崎一彦、高梨雄太	短距離：最高疾走速度を発生させるための技術を円滑に行えるようにする。スタート方法について学ぶ。リレーのバトンパス方法について学ぶ。 投擲　砲丸投(重さに慣れる・突き出し)の基本的動作を習得する。	短距離：様々なクラウチングスタートの方法を実践し、自身にあった技術を選択する。様々なリレーにおけるバトンパス技術を実践する。 投擲：男子5.45kg、女子2.721kgの重さの砲丸を多く投げることで慣れる。突き出しの基本的動作を繰り返し行い習得する。	【予習：0.5時間】 ・３種類のクラウチング・スタートについけ覚える。 ・砲丸投の基本的動作について、配布資料、動画検索などを活用し基本的な動きをチェックする 【復習：0.5時間】 ・角運動保存の法則、作用反作用のようごもりかいしておく。 ・動きのイメージを確認する
4	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：ハードル 走の基本動作を学ぶ。抜き脚、振り上げ脚動作を理解する。 投擲：砲丸投(グライド) グライド動作の導入と基本の習得	ハードル：恐怖感を取り除くトレーニング方法を学び、ハードルの特徴的動作である抜き脚動作を実践する。 投擲：グライド動作を習得するために、まずは砲丸を持たずに動作練習を行う。その後、実際に砲丸を投げる。	【予習：0.5時間】 ・ハードル走について、配布資料を熟読して用語投を理解しておく。 ・グライド動作の習得と突出し動作の確認 【復習：0.5時間】 ・用語が理解でき、身体表現ができているかをチェックする. ・実際にグライド動作を用いて砲丸を投げ、グライド動作から突 出しのイメージをつくる。

5	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：ハードル間インターバルをリズムよく走れるようにする。 投擲　砲丸投(グライドの完成) グライド動作の習熟	ハードル：ミニハードルを用いて、インターバルを走破するための必要 ストライド長の確保、インターバルのリズムおよびインターバルからのジャンプ動作を習得する。 投擲：砲丸を繰り返しグライド動作を用いて投げることでグライド動作の習熟を図る。	【予習：0.5時間】 ・配布資料のハードル走のトレーニング方法を理解しておくこと。 ・グライド動作動作のイメージをおこなう 【復習：0.5時間】 ・ハードル走の局面（スプリント走～踏切～空中動作～着地～スプリント走）の流れの中で分習した指導方法についてまとめる。 ・グライド動作から突出しまでの流れをチェックする
6	山崎一彦、高梨雄太	ハードル：前半：第1ハードルから 第5ハードルまでを完成させる。 投擲　砲丸投の測定方法	ハードル：スタートからのハードルへのアプローチを行う。 スタートからハードルを連続して跳ぶ。 投擲　競技会形式で測定をするための方法を学習する。実際に競技会形式で測定を行う。	【予習：0.5時間】 ・ハードル走を速く走るためのメカニズムについて、それぞれのハードル種目の相違点について配布資料を参考にまとめてくる。 ・投擲動作の全体的な流れを確認する 【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、改善点とその指導方法についてまとめる。 ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作 を確認する
7	山崎一彦、高梨雄太	短距離/ハードル：短距離・ハードル 走の実習効果の測定 投擲　砲丸投(サークルからの投擲)、ルールの理解と実践、審判方法、記録の測定	短距離：ハードル：前半：短距離走、ハードル走を実践的に行い、測定する。ハードル走は測定後、さらに記録を伸ばすための指導を受け、再度挑戦する 。 投擲：実際に記録を測定し、測定方法について理解する。	【予習：0.5時間】 ・体調を整えて授業に臨む. ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作を確認する 【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、かいぜんてんどお ・ルール、審判方法、記録の測定方法について確認する
8	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走高跳の技術変遷と背面跳の特徴を理解し、基本動作を身につける。 中長距離　長距離に必要な因子(能力) とランニングフォームについて理解を深める。	実技 跳躍　走高跳における背面跳の踏切とバークリアランスの基本動作、およびマットへの安全な着地の練習法を実践する。 中長距離　長距離走者に必要な因子を理解する。ランニングのポイントを学習した後、ポイントを意識したジョギングを行い意識性の重要性を実践する。	【予習：0.5時間】 ・走高跳の跳躍技術の変遷について調べる。 ・長距離走者に必要な条件を調べる。 【復習：0.5時間】 ・走高跳のトップ選手のビデオを観てポイントを整理する。 ・ジョギングの有効性を意識し、体調に合わせたジョギングを行う。
9	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　背面跳の助走、踏切、バークリアランス、マット着地の一連の動作を繋げてできるようにする。 中長距離　効率の良いランニングフォーム習得のためのランニングドリルについて学習する。	実技 跳躍　背面跳の特徴である曲線助走とその際の内傾動作、および背中側でバークリアするための練習法を実践する。 中長距離　ランニングドリルの模範を見せ、ポイントを解説する。正確に行われているか確認する。	【予習：0.5時間】 ・背面跳の安全な実施方法を確認する。 ・授業で配布した資料から目的や方法を確認する。 【復習：0.5時間】 ・自身の助走歩数と距離を確認する。 ・ランニングドリルのポイントをまとめる。

10	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走高跳の競技ルールを学び、試合戦術と実践力を身につける。 中長距離　12分間走の目的と意義について理解を深める。	実技 跳躍　基本的な競技ルールに則り試合形式で走高跳を行うなかで、自己の最大の高さを目指して跳躍する。 中長距離　12分間走を行い、最大酸素摂取量に照らし合わせ、持久的能力の確認と12間走について解説する。	【予習：0.5時間】 ・競技ルールについてルールブックを参考に調べる。 ・12分間走について調べる。 【復習：0.5時間】 ・自身のパフォーマンスを評価する。 ・12分間走と最大酸素摂取量について考察する。
11	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走幅跳の各跳躍技術と特徴を理解し、かがみ跳の基本動作を身につける。 中長距離　インターバルトレーニングの目的や効果、方法について学習する。	実技 跳躍　短助走跳躍によってかがみ跳びの踏切、空中、着地のポイントを理解し、その練習法を実践する。 中長距離　インターバルトレーニングについて質疑応答を行い、このトレーニングのポイントを解説する。レベルに応じたグループを編成し、実際にインターバルトレーニングを行う。	【予習：0.5時間】 ・走幅跳の跳躍技術の種類について調べる。 ・インターバルトレーニングについて課題レポートを作成する。 【復習：0.5時間】 ・走幅跳のトップ選手のビデオを観てポイントを整理する。 ・授業で行ったインターバルトレーニングと心拍数の変動について考察する。
12	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　助走、踏切、空中、着地までの一連の動作を繋げてできるようにする。 中長距離　ウォーキングおよびL・S・D（Long Slow Distance）の目的と効果を学習する。	実技 跳躍　助走歩数と距離を設定し、走り方（流れ）を学ぶ。また、反り跳びの練習法を実践する。 中長距離　ウォーキングおよびL・S・D（Long Slow Distance）の目的と効果について解説する。また、異なるサーフェスでのランニングを行う。	【予習：0.5時間】 ・走幅跳の安全な実施方法を確認する。 ・ウォーキングの効果を調べる。 【復習：0.5時間】 ・自身の助走歩数と距離を確認する。 ・LSDの効果と注意する点に関してレポートを作成する。
13	杉林孝法、鯉川なつえ、仲村明	跳躍　走幅跳の競技ルールを学び、試合戦術と実践力を身につける。 中長距離　中長距離走の総括および実習評価の測定を行う。	実技 跳躍　基本的な競技ルールに則り試合形式で走幅跳を行うなかで、自己の最高の記録を目指して跳躍する。また、記録の計測方法を学ぶ。 中長距離　中長距離の単元を振り返りミニテストで理解度を確認する。実技テストでは、中距離走か長距離走を選択させ実施する。	【予習：0.5時間】 ・競技ルールについてルールブックを参考に調べる。 ・実習効果測定に対する準備を行う。 【復習：0.5時間】 ・自身のパフォーマンスを評価する。 ・中長距離走の総括レポートを作成する。
14	山崎一彦、杉林孝法、仲村明、高梨雄太	本授業で行なった種目についての測定を行う。	実技 ４グループに分類し、授業内で行なった測定よりもさらに記録を伸ばす。	【予習：0.5時間】 体調を整え，計測に備えた実技種目について練習をしておく。 【復習：0.5時間】 　それぞれ実施した競技種目についての復習をしておく。
		定期試験を実施しない		

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】器械運動　［男子①］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】器械運動　［男子①］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	原田　睦巳	ナンバリング	COA1134
担当教員	原田　睦巳、冨田　洋之、新竹　優子、Kozachenko Olga、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	器械運動における、初級程度の技から中級程度の技を体系的に習得するとともに、段階的指導の学習や幇助の体験を通じて指導法に関する知識を身につけることをねらいとする。また、安全面の配慮、基礎的な知識の発展や実施、正しい基礎的な知識と運動構造の理解を深める。さらに本授業では、スポーツ健康科学を中心とした教養や知識、運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、コミュニケーション力を養いスポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能と教養の育成を目指す。
到達目標	1. マット運動の「伸膝前転」、「前方倒立回転跳び」が実施できる。 2. とび箱運動の「屈身とび」、「前方倒立回転跳び」が実施できる。 3. 鉄棒運動の「け上がり」、「後方支持回転」、「前方支持回転」、「振りとび下り」が実施できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の選択必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	安全面の配慮、基礎的な知識の発展、実施が望まれるため、正しい基礎的な知識と運動構造を理解しておく必要がある。本授業では、学生同士により、スポーツ健康科学を中心とした知識や運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、コミュニケーション力を養いその知識と技能と教養の育成を目指す。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 到達目標に挙げられている技の名称、動きについて調べる。動きやすい服装。
成績評価の方法	
評価方法	「学習態度・取り組む姿勢（40%）、実技テスト（マット・跳び箱・鉄棒）（60%）」
評価基準	1. マット運動の「伸膝前転」、「前方倒立回転跳び」に関して正確に動きを理解し、実施することができる。（定期試験・平常点） 2. とび箱運動の「屈身とび」、「前方倒立回転跳び」に関して正確に動きを理解し、実施することができる。（定期試験・平常点） 3. 鉄棒運動の「け上がり」、「後方支持回転」、「前方支持回転」、「振りとび下り」に関して正確に動きを理解し、実施することができるできる。（定期試験・平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
各課題の実施時に評価や助言を受講者にフィードバックする。	

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

器械運動の授業づくり≪大修館書店≫　※参考資料とする。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：原田睦巳 E-mail: mtharada@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 火・水・木・金曜日10：00～12：00　【1号館5階1511体操競技研究室】
担当教員の実務経験	本授業では以下の経験を持つ教員がその実務経験を活かして専門的な指導を行う. ・実業団チームで体操競技の競技者として活動し、オリンピックの出場経験またはオリンピック金メダルを含む国際大会で複数の入賞経験を持つ教員。 ・日本体操協会強化部員またはコーチ育成委員会委員として実務経験を持つ教員。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間(授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 ・中高教諭1種免許（保健体育）の必修科目 ・新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・前期授業の目標ならびに授業展開について理解する。 マット運動： ・体の前屈によって回転を得る系統技の段階的練習を行う。（前転・開脚前転・倒立前転を習得する） 鉄棒運動： ・鉄棒の特性について理解し、体験する。	（授業方法） マット運動： ・前期授業の目標ならびに授業展開について説明する。 ・前転・開脚前転・倒立前転の段階指導を行う。 鉄棒運動： ・鉄棒の特性について解説する。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前転・開脚前転・倒立前転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 鉄棒の特性について理解しておくこと。
2	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 伸膝前転の映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 支持回転系の技の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
3	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 ・前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 ・前方倒立回転跳びの導入動作の指導を行う。 鉄棒運動： ・伸膝前方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
4	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 ・前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動： 後方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 ・前方倒立回転跳びの段階的指導を行う。 鉄棒運動： ・後方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
5	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動： ・伸膝後方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動： ・伸膝後方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 伸膝後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 伸膝前転、前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 伸膝後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。

6	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。開脚跳び・かかえ込み跳びを習得する。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。開脚跳び・かかえ込み跳びの段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 開脚跳び・かかえ込み跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 開脚跳び・かかえ込み跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 足かけ上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
7	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。屈身とび・大屈身とびを習得する。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。屈身とび・大屈身とびの段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
8	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 屈身とびのテストを行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 屈身とびのテストを行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
9	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 回転系技群（頭はね跳び）の練習を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 回転系技群（頭はね跳び）の段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 頭はね跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 頭はね跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
10	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	授業内容） ・とび箱運動： 回転系技群（前方倒立回転跳び）の練習を行う。 ・鉄棒運動： 振りとび下りの練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 回転系技群（前方倒立回転跳び）の段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 振りとび下りの段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 振りとび下りについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
11	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 前方倒立回転跳びのテストを行う。 ・鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施する。	（授業方法） ・とび箱運動： 前方倒立回転跳びのテストを行う。 ・鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。

12	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 鉄棒運動のテストを行う。 ・長なわとび： 長なわとびの基本のとび方について理解し、実践する。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 鉄棒運動のテストを行う。 ・長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての説明および実践を行う。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 鉄棒運動の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方について映像を閲覧しておくこと。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）について映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
13	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）を習得する。 ・長なわとび： ８の字とび・0字とびを実践する。 ・平均台： 体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 ・長なわとび： ８の字とび・0字とびの指導を行う。 ・平均台： 体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： 長なわとびの８の字とび・0字とびについて映像を閲覧しておくこと。 ・平均台： 体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）について映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： 体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
14	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の練習を行う。 ・長なわとび： ダブルダッチを実践する。 ・平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 ・長なわとび： ダブルダッチの指導を行う。 ・平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： ダブルダッチについて映像を閲覧しておくこと。 ・平均台： バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）について映像を閲覧しておくこと 【復習：1.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における後ろ振り上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・授業全体を通して、各技の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解する。
		授業内で課題を習得できなかった学生を対象にテストを実施する。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】器械運動　［男子③］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】器械運動　［男子③］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	原田　睦巳	ナンバリング	COA1134
担当教員	原田　睦巳、冨田　洋之、新竹　優子、Kozachenko Olga、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	【授業全体の内容】 器械運動における、初級程度の技から中級程度の技を体系的に習得するとともに、段階的指導の学習や幇助の体験を通じて指導法に関する知識を身につけることをねらいとする。また、安全面の配慮、基礎的な知識の発展や実施、正しい基礎的な知識と運動構造の理解を深める。さらに本授業では、スポーツ健康科学を中心とした教養や知識、運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、コミュニケーション力を養いスポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能と教養の育成を目指す。
到達目標	【授業の到達目標】 1. マット運動の「伸膝前転」、「前方倒立回転跳び」が実施できる。 2. とび箱運動の「屈身とび」、「前方倒立回転跳び」が実施できる。 3. 鉄棒運動の「け上がり」、「後方支持回転」、「前方支持回転」、「振りとび下り」が実施できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の選択必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 安全面の配慮、基礎的な知識の発展、実施が望まれるため、正しい基礎的な知識と運動構造を理解しておく必要がある。本授業では、学生同士により、スポーツ健康科学を中心とした知識や運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、コミュニケーション力を養いその知識と技能と教養の育成を目指す。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 到達目標に挙げられている技の名称、動きについて調べる。動きやすい服装。

成績評価の方法

評価方法	【成績評価の方法】 「学習態度・取り組む姿勢（40%）、実技テスト（マット・跳び箱・鉄棒）（60%）」
評価基準	【成績評価の基準】 1. マット運動の「伸膝前転」、「前方倒立回転跳び」に関して正確に動きを理解し、実施することができているか、定期試験で評価する。 2. とび箱運動の「屈身とび」、「前方倒立回転跳び」に関して正確に動きを理解し、実施することができているか、定期試験で評価する。 3. 鉄棒運動の「け上がり」、「後方支持回転」、「前方支持回転」、「振りとび下り」に関して正確に動きを理解し、実施することができるか、定期試験で評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
各課題の実施時に評価や助言を受講者にフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【テキスト・参考書等】
器械運動の授業づくり≪大修館書店≫　※参考資料とする。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：原田睦巳 E-mail: mtharada@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 火・水・木・金曜日10：00～12：00　【1号館5階1511体操競技研究室】
担当教員の実務経験	本授業では以下の経験を持つ教員がその実務経験を活かして専門的な指導を行う. ・実業団チームで体操競技の競技者として活動し、オリンピックの出場経験またはオリンピック金メダルを含む国際大会で複数の入賞経験を持つ教員。 ・日本体操協会強化部員またはコーチ育成委員会委員として実務経験を持つ教員。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間(授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 ・中高教諭1種免許（保健体育）の必修科目 ・新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・前期授業の目標ならびに授業展開について理解する。 マット運動： ・体の前屈によって回転を得る系統技の段階的練習を行う。（前転・開脚前転・倒立前転を習得する） 鉄棒運動： ・鉄棒の特性について理解し、体験する。	（授業方法） マット運動： ・前期授業の目標ならびに授業展開について説明する。 ・前転・開脚前転・倒立前転の段階指導を行う。 鉄棒運動： ・鉄棒の特性について解説する。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前転・開脚前転・倒立前転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 鉄棒の特性について理解しておくこと。
2	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 伸膝前転の映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 支持回転系の技の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
3	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 ・前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 ・前方倒立回転跳びの導入動作の指導を行う。 鉄棒運動： ・伸膝前方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
4	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 ・前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動： 後方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 ・前方倒立回転跳びの段階的指導を行う。 鉄棒運動： ・後方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
5	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動： ・伸膝後方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動： ・伸膝後方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 伸膝後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 伸膝前転、前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 伸膝後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。

6	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。開脚跳び・かかえ込み跳びを習得する。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。開脚跳び・かかえ込み跳びの段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 開脚跳び・かかえ込み跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 開脚跳び・かかえ込み跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 足かけ上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
7	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。屈身とび・大屈身とびを習得する。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。屈身とび・大屈身とびの段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
8	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 屈身とびのテストを行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 屈身とびのテストを行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
9	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 回転系技群（頭はね跳び）の練習を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 回転系技群（頭はね跳び）の段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 頭はね跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 頭はね跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
10	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	授業内容） ・とび箱運動： 回転系技群（前方倒立回転跳び）の練習を行う。 ・鉄棒運動： 振りとび下りの練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 回転系技群（前方倒立回転跳び）の段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 振りとび下りの段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 振りとび下りについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
11	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 前方倒立回転跳びのテストを行う。 ・鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施する。	（授業方法） ・とび箱運動： 前方倒立回転跳びのテストを行う。 ・鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。

12	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 鉄棒運動のテストを行う。 ・長なわとび： 長なわとびの基本のとび方について理解し、実践する。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 鉄棒運動のテストを行う。 ・長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての説明および実践を行う。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 鉄棒運動の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方について映像を閲覧しておくこと。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）について映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
13	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）を習得する。 ・長なわとび： ８の字とび・0字とびを実践する。 ・平均台： 体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 ・長なわとび： ８の字とび・0字とびの指導を行う。 ・平均台： 体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： 長なわとびの８の字とび・0字とびについて映像を閲覧しておくこと。 ・平均台： 体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）について映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： 体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
14	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の練習を行う。 ・長なわとび： ダブルダッチを実践する。 ・平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 ・長なわとび： ダブルダッチの指導を行う。 ・平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： ダブルダッチについて映像を閲覧しておくこと。 ・平均台： バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）について映像を閲覧しておくこと 【復習：1.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における後ろ振り上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・授業全体を通して、各技の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解する。
		授業内で課題を習得できなかった学生を対象にテストを実施する。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】器械運動　［男子⑤］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】器械運動　［男子⑤］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	原田　睦巳	ナンバリング	COA1134
担当教員	原田　睦巳、冨田　洋之、新竹　優子、Kozachenko Olga、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	器械運動における、初級程度の技から中級程度の技を体系的に習得するとともに、段階的指導の学習や幇助の体験を通じて指導法に関する知識を身につけることをねらいとする。また、安全面の配慮、基礎的な知識の発展や実施、正しい基礎的な知識と運動構造の理解を深める。さらに本授業では、スポーツ健康科学を中心とした教養や知識、運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、コミュニケーション力を養いスポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能と教養の育成を目指す。
到達目標	1. マット運動の「伸膝前転」、「前方倒立回転跳び」が実施できる。 2. とび箱運動の「屈身とび」、「前方倒立回転跳び」が実施できる。 3. 鉄棒運動の「け上がり」、「後方支持回転」、「前方支持回転」、「振りとび下り」が実施できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の選択必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	安全面の配慮、基礎的な知識の発展、実施が望まれるため、正しい基礎的な知識と運動構造を理解しておく必要がある。本授業では、学生同士により、スポーツ健康科学を中心とした知識や運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、コミュニケーション力を養いその知識と技能と教養の育成を目指す。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 到達目標に挙げられている技の名称、動きについて調べる。動きやすい服装。
成績評価の方法	
評価方法	「学習態度・取り組む姿勢（40%）、実技テスト（マット・跳び箱・鉄棒）（60%）」
評価基準	1. マット運動の「伸膝前転」、「前方倒立回転跳び」に関して正確に動きを理解し、実施することができる。（定期試験・平常点） 2. とび箱運動の「屈身とび」、「前方倒立回転跳び」に関して正確に動きを理解し、実施することができる。（定期試験・平常点） 3. 鉄棒運動の「け上がり」、「後方支持回転」、「前方支持回転」、「振りとび下り」に関して正確に動きを理解し、実施することができるできる。（定期試験・平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
各課題の実施時に評価や助言を受講者にフィードバックする。	

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

器械運動の授業づくり≪大修館書店≫　※参考資料とする。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：原田睦巳 E-mail: mtharada@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 火・水・木・金曜日10：00～12：00　【1号館5階1511体操競技研究室】
担当教員の実務経験	本授業では以下の経験を持つ教員がその実務経験を活かして専門的な指導を行う. ・実業団チームで体操競技の競技者として活動し、オリンピックの出場経験またはオリンピック金メダルを含む国際大会で複数の入賞経験を持つ教員。 ・日本体操協会強化部員またはコーチ育成委員会委員として実務経験を持つ教員。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間(授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 ・中高教諭1種免許（保健体育）の必修科目 ・新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・前期授業の目標ならびに授業展開について理解する。 マット運動： ・体の前屈によって回転を得る系統技の段階的練習を行う。（前転・開脚前転・倒立前転を習得する） 鉄棒運動： ・鉄棒の特性について理解し、体験する。	（授業方法） マット運動： ・前期授業の目標ならびに授業展開について説明する。 ・前転・開脚前転・倒立前転の段階指導を行う。 鉄棒運動： ・鉄棒の特性について解説する。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前転・開脚前転・倒立前転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 鉄棒の特性について理解しておくこと。
2	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 伸膝前転の映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 支持回転系の技の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
3	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 ・前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 ・前方倒立回転跳びの導入動作の指導を行う。 鉄棒運動： ・伸膝前方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
4	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 ・前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動： 後方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 ・前方倒立回転跳びの段階的指導を行う。 鉄棒運動： ・後方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
5	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動： ・伸膝後方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動： ・伸膝後方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 伸膝後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 伸膝前転、前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 伸膝後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。

6	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。開脚跳び・かかえ込み跳びを習得する。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。開脚跳び・かかえ込み跳びの段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 開脚跳び・かかえ込み跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 開脚跳び・かかえ込み跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 足かけ上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
7	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。屈身とび・大屈身とびを習得する。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。屈身とび・大屈身とびの段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
8	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 屈身とびのテストを行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 屈身とびのテストを行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
9	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 回転系技群（頭はね跳び）の練習を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 回転系技群（頭はね跳び）の段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 頭はね跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 頭はね跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
10	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	授業内容） ・とび箱運動： 回転系技群（前方倒立回転跳び）の練習を行う。 ・鉄棒運動： 振りとび下りの練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 回転系技群（前方倒立回転跳び）の段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 振りとび下りの段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 振りとび下りについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
11	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 前方倒立回転跳びのテストを行う。 ・鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施する。	（授業方法） ・とび箱運動： 前方倒立回転跳びのテストを行う。 ・鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。

12	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 鉄棒運動のテストを行う。 ・長なわとび： 長なわとびの基本のとび方について理解し、実践する。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 鉄棒運動のテストを行う。 ・長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての説明および実践を行う。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 鉄棒運動の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方について映像を閲覧しておくこと。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）について映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
13	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）を習得する。 ・長なわとび： ８の字とび・0字とびを実践する。 ・平均台： 体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 ・長なわとび： ８の字とび・0字とびの指導を行う。 ・平均台： 体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： 長なわとびの８の字とび・0字とびについて映像を閲覧しておくこと。 ・平均台： 体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）について映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： 体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
14	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の練習を行う。 ・長なわとび： ダブルダッチを実践する。 ・平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 ・長なわとび： ダブルダッチの指導を行う。 ・平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： ダブルダッチについて映像を閲覧しておくこと。 ・平均台： バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）について映像を閲覧しておくこと 【復習：1.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における後ろ振り上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・授業全体を通して、各技の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解する。
		授業内で課題を習得できなかった学生を対象にテストを実施する。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】器械運動　［女子③］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】器械運動　［女子③］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	原田　睦巳	ナンバリング	COA1134
担当教員	原田　睦巳、冨田　洋之、新竹　優子、Kozachenko Olga、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	器械運動における、初級程度の技から中級程度の技を体系的に習得するとともに、段階的指導の学習や幇助の体験を通じて指導法に関する知識を身につけることをねらいとする。また、安全面の配慮、基礎的な知識の発展や実施、正しい基礎的な知識と運動構造の理解を深める。さらに本授業では、スポーツ健康科学を中心とした教養や知識、運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、コミュニケーション力を養いスポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能と教養の育成を目指す。
到達目標	1. マット運動の「伸膝前転」、「前方倒立回転跳び」が実施できる。 2. とび箱運動の「屈身とび」、「前方倒立回転跳び」が実施できる。 3. 鉄棒運動の「け上がり」、「後方支持回転」、「前方支持回転」、「振りとび下り」が実施できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（共通科目Ⅲ）の選択必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	安全面の配慮、基礎的な知識の発展、実施が望まれるため、正しい基礎的な知識と運動構造を理解しておく必要がある。本授業では、学生同士により、スポーツ健康科学を中心とした知識や運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、コミュニケーション力を養いその知識と技能と教養の育成を目指す。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 到達目標に挙げられている技の名称、動きについて調べる。動きやすい服装。
成績評価の方法	
評価方法	「学習態度・取り組む姿勢（40%）、実技テスト（マット・跳び箱・鉄棒）（60%）」
評価基準	1. マット運動の「伸膝前転」、「前方倒立回転跳び」に関して正確に動きを理解し、実施することができる。（定期試験・平常点） 2. とび箱運動の「屈身とび」、「前方倒立回転跳び」に関して正確に動きを理解し、実施することができる。（定期試験・平常点） 3. 鉄棒運動の「け上がり」、「後方支持回転」、「前方支持回転」、「振りとび下り」に関して正確に動きを理解し、実施することができる。（定期試験・平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

各課題の実施時に評価や助言を受講者にフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

器械運動の授業づくり≪大修館書店≫　※参考資料とする。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：原田睦巳 E-mail: mtharada@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 火・水・木・金曜日10：00～12：00　【1号館5階1511体操競技研究室】
担当教員の実務経験	本授業では以下の経験を持つ教員がその実務経験を活かして専門的な指導を行う. ・実業団チームで体操競技の競技者として活動し、オリンピックの出場経験またはオリンピック金メダルを含む国際大会で複数の入賞経験を持つ教員。 ・日本体操協会強化部員またはコーチ育成委員会委員として実務経験を持つ教員。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間(授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 ・中高教諭1種免許（保健体育）の必修科目 ・新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・前期授業の目標ならびに授業展開について理解する。 マット運動： ・体の前屈によって回転を得る系統技の段階的練習を行う。（前転・開脚前転・倒立前転を習得する） 鉄棒運動： ・鉄棒の特性について理解し、体験する。	（授業方法） マット運動： ・前期授業の目標ならびに授業展開について説明する。 ・前転・開脚前転・倒立前転の段階指導を行う。 鉄棒運動： ・鉄棒の特性について解説する。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前転・開脚前転・倒立前転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 鉄棒の特性について理解しておくこと。
2	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 伸膝前転の映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 支持回転系の技の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 支持回転系の技（前方支持回転）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
3	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 ・前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 ・前方倒立回転跳びの導入動作の指導を行う。 鉄棒運動： ・伸膝前方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 伸膝前方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
4	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転を習得する。 ・前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動： 後方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転の段階指導を行う。 ・前方倒立回転跳びの段階的指導を行う。 鉄棒運動： ・後方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
5	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動： ・伸膝後方支持回転の練習を行う。	（授業方法） マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動： ・伸膝後方支持回転の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 マット運動： ・伸膝前転、前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 伸膝後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 マット運動： 伸膝前転、前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 伸膝後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。

6	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。開脚跳び・かかえ込み跳びを習得する。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。開脚跳び・かかえ込み跳びの段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 開脚跳び・かかえ込み跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 開脚跳び・かかえ込み跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 足かけ上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
7	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。屈身とび・大屈身とびを習得する。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： きり返し系統技の練習を行う。屈身とび・大屈身とびの段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
8	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 屈身とびのテストを行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 屈身とびのテストを行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
9	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 回転系技群（頭はね跳び）の練習を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 回転系技群（頭はね跳び）の段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 頭はね跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： け上がりの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 頭はね跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
10	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	授業内容） ・とび箱運動： 回転系技群（前方倒立回転跳び）の練習を行う。 ・鉄棒運動： 振りとび下りの練習を行う。	（授業方法） ・とび箱運動： 回転系技群（前方倒立回転跳び）の段階的指導を行う。 ・鉄棒運動： 振りとび下りの段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： 振りとび下りについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
11	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・とび箱運動： 前方倒立回転跳びのテストを行う。 ・鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施する。	（授業方法） ・とび箱運動： 前方倒立回転跳びのテストを行う。 ・鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動： 振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 とび箱運動： 前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。

12	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 鉄棒運動のテストを行う。 ・長なわとび： 長なわとびの基本のとび方について理解し、実践する。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 鉄棒運動のテストを行う。 ・長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての説明および実践を行う。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 鉄棒運動の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方について映像を閲覧しておくこと。 平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）について映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 鉄棒運動： け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： 体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
13	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）を習得する。 ・長なわとび： ８の字とび・0字とびを実践する。 ・平均台： 体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 ・長なわとび： ８の字とび・0字とびの指導を行う。 ・平均台： 体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： 長なわとびの８の字とび・0字とびについて映像を閲覧しておくこと。 ・平均台： 体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）について映像を閲覧しておくこと。 【復習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： 体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。
14	原田睦巳 冨田洋之 新竹優子 Kozachenko Olga	（授業内容） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の練習を行う。 ・長なわとび： ダブルダッチを実践する。 ・平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）を習得する。	（授業方法） ・鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 ・長なわとび： ダブルダッチの指導を行う。 ・平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）の段階的指導を行う。	【予習：0.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： ダブルダッチについて映像を閲覧しておくこと。 ・平均台： バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）について映像を閲覧しておくこと 【復習：1.5時間】 鉄棒運動： 高鉄棒における後ろ振り上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび： 長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・平均台： バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 ・授業全体を通して、各技の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解する。
		授業内で課題を習得できなかった学生を対象にテストを実施する。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（サッカー）［男子②］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（サッカー）［男子②］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	堀池　巧	ナンバリング	COA1135
担当教員	堀池　巧、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」「バスケットボール」「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして，それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 この授業では「自身ができる」と「他者にできるようにさせる」ことを柱に、サッカーにおける基礎技術の習得と向上、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術を理解し、仲間とともに競技をする楽しさを学び、さらには、サッカーの基本原則や競技規則について理解を深めます。また、サッカーにおけるテーマごとの様々なトレーニングメニューを体験しサッカー理解を高める。またグループごとにトレーニングをプランニングし中学・高校の授業で指導実践できる技術を身につける。
到達目標	１．サッカーにおける基礎技術を習得しプレーすることができる。 ２．サッカーの原理原則および楽しさを理解しプレーすることができる。 ３．サッカーの競技規則に基づいてプレーおよび審判をすることができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	集団スポーツであるサッカーは、人との関わりが非常に重要なスポーツである。本授業では、サッカーにおいて特に必要な能力である「個人スキル」「コミュニケーション力」「対人調整力」を養い、スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養を身につけることを目指す。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 出来る限り怪我等で見学することなく実技の授業に参加すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 適切な服装（スネ当てを含む）とシューズの準備をすること。

成績評価の方法

評価方法	実技レベルおよび知識理解：50%、授業内試験：30%、授業態度および取り組む姿勢：20%の割合で評価する。
評価基準	１．サッカーにおけるボールをコントロールする・パスする・ドリブルするといった基本技術、個人戦術を正確に行うことができるかゲームの中で評価する。 ２．サッカー知識として、サッカーの競技規則、審判法等を理解しているか筆記試験で評価する。 ３．取組状況、出席回数によって受講態度を評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法

授業の中でキーファクター、ポイント等を提示し、解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Laws of the Game　サッカー競技規則	（公財）日本サッカー協会			

参考文献

【テキスト・参考書等】
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：堀池 巧 E-mail：t-horiike@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日・10時～12時、木曜日・10時～12時、 場所：1号館5階 サッカー研究室　1529室
担当教員の実務経験	サッカー日本代表及びＪリーグでの競技経験があり、Ｓ級コーチライセンスの指導資格を保有する教員が実技を指導する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 　科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 　施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 　JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	堀池	ガイダンス：サッカーの授業に対しての理解を深める。	授業の進め方、諸注意を説明する。	（予習：0.5時間） シラバスを確認に授業について理解・把握をする （復習：0.5時間） サッカー競技の特性について理解を深める。
2	堀池	サッカーのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングについて理解を深める。	どのようなボールフィーリング・コーディネーショントレーニングがあるのか解説する。	（予習：0.5時間） ボールフィーリング・コーディネーショントレーニングとは何か調べる。 （復習：0.5時間） サッカーのためのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングを１つ開発する。
3	堀池	パス＆コントロールのテクニックについて理解を深める。	対面パスを中心に両足を使いながらのドリルを行う。	（予習：0.5時間） 有効な視野の確保、ボールの置き所とはどういうことか調べる。 （復習：　0.5時間） 両足で、なおかつ正確性を追求しながらパスとコントロールができているか復習を行う。
4	堀池	ドリブル・ヘディングについて理解を深める。	様々な部位を使ったドリブル、ドリブルターン、１対１のドリブル等を行う。ヘディングの基本姿勢について解説する。	（予習：0.5時間） ドリブル・ヘディングについて調べる。 （復習：0.5時間） 周りを見ながら、スピードの変化を加えながら、フェイントを入れながらドリブルできるか復習する。 ヘディングの際のボールを当てる場所を確認する。
5	堀池	ゴールキーピングとシュートの基本について理解を深める。	ゴールキーパー育成のための様々な基本動作を体験し、実際にシュートを受ける。	（予習：0.5時間） 現代のゴールキーパーに求められることは何か調べる。 （復習：0.5時間） ゴールキーパーの基本動作について正しくできるかどうか復習する。
6	堀池	コンビネーション(クロスを含む)からのシュートについて理解を深める。	コンビネーションからのドリルシュートを行い、クロスボールはなぜ有効なのか解説する。	（予習：0.5時間） クロスからの攻撃はなぜ有効なのか調べる。 （復習：0.5時間） 積極的にシュートを狙う姿勢を常に持ちながら、GKとの駆け引きや、正確に狙うことができるか復習する。
7	堀池	ボールを奪う：守備の個人戦術について理解を深める。	守備の個人戦術について解説し、ドリルトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） 守備におけるチャレンジの優先順位、ポジションの原則について調べてくる。 （復習：0.5時間） 守備における個人戦術を理解し、プレッシャーをかけ、奪うチャンスを逃さずボールが奪えるか復習する。
8	堀池	ポゼッションについて理解を深める。	ボールを失わないためのテクニックドリルを行い、解説する。	（予習：0.5時間） ポゼションとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） 相手選手にボールを奪われることなく、判断の変化に対応しながらポジションを変化させ、ボールを奪われないか復習する。
9	堀池	攻守におけるオフ・ザ・ボールの動きについて理解を深める。	オフ・ザ・ボールの動きについて解説をする。	（予習：0.5時間） 攻守におけるオフ・ザ・ボールとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） ゲーム中、オフ・ザ・ボールの状況を理解した上でプレーできているかどうか復習する。
10	堀池	突破：ゴールを奪うために必要な突破の動きについて理解を深める。	突破の動きについて解説し、様々なトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） サッカーにおける突破の動きについて調べてくること。 （復習：0.5時間） 相手との間合い、フェイント、スピードの変化、方向の変化を加えながら突破ができているか復習する。
11	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） システムの変遷と各ポジションの役割について調べる。 （復習：0.5時間） システムとポジションについて理解すると共に、映像を通して実際のゲームでどのようになっているか復習する。

12	堀池	セットプレー：現代サッカーにおけるセットプレーの重要性について理解を深める。	セットプレーゲームを行い、解説をする。	（予習：0.5時間） セットプレーはなぜ攻撃側に有利なのか調べる。 （復習：0.5時間） 得点に直接結びつくようなセットプレーができるかどうか復習する。
13	堀池	授業内試験：競技規則 講義：ルールと審判法、競技規則について。	授業内試験後に競技規則について説明し、知識をより深める。	（予習：1時間） サッカーにおける競技規則について理解を深める。 （復習：1時間） サッカーのルールについて、「サッカーの競技規則」をWeb上で閲覧し復習する。
14	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） チームごとに主導権を握るサッカーをするためには何が必要かミーティングを行う。 （復習：0.5時間） チームごとに試合の分析を行い、課題解決のために何が必要か授業を振り返りながら復習を行う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（サッカー）［男子④］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（サッカー）［男子④］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	堀池　巧	ナンバリング	COA1135
担当教員	堀池　巧、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」「バスケットボール」「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして，それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 この授業では「自身ができる」と「他者にできるようにさせる」ことを柱に、サッカーにおける基礎技術の習得と向上、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術を理解し、仲間とともに競技をする楽しさを学び、さらには、サッカーの基本原則や競技規則について理解を深めます。また、サッカーにおけるテーマごとの様々なトレーニングメニューを体験しサッカー理解を高める。またグループごとにトレーニングをプランニングし中学・高校の授業で指導実践できる技術を身につける。
到達目標	１．サッカーにおける基礎技術を習得しプレーすることができる。 ２．サッカーの原理原則および楽しさを理解しプレーすることができる。 ３．サッカーの競技規則に基づいてプレーおよび審判をすることができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	集団スポーツであるサッカーは、人との関わりが非常に重要なスポーツである。本授業では、サッカーにおいて特に必要な能力である「個人スキル」「コミュニケーション力」「対人調整力」を養い、スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養を身につけることを目指す。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 出来る限り怪我等で見学することなく実技の授業に参加すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 適切な服装（スネ当てを含む）とシューズの準備をすること。

成績評価の方法

評価方法	実技レベルおよび知識理解：50%、授業内試験：30%、授業態度および取り組む姿勢：20%の割合で評価する。
評価基準	１．サッカーにおけるボールをコントロールする・パスする・ドリブルするといった基本技術、個人戦術を正確に行うことができるかゲームの中で評価する。 ２．サッカー知識として、サッカーの競技規則、審判法等を理解しているか筆記試験で評価する。 ３．取組状況、出席回数によって受講態度を評価する。

試験・課題に対するフィードバック方法

授業の中でキーファクター、ポイント等を提示し、解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Laws of the Game　サッカー競技規則	（公財）日本サッカー協会			

参考文献

【テキスト・参考書等】
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：堀池 巧 E-mail：t-horiike@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日・10時～12時、木曜日・10時～12時、 場所：1号館5階 サッカー研究室　1529室
担当教員の実務経験	サッカー日本代表及びＪリーグでの競技経験があり、Ｓ級コーチライセンスの指導資格を保有する教員が実技を指導する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 　科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 　施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 　JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	堀池	ガイダンス：サッカーの授業に対しての理解を深める。	授業の進め方、諸注意を説明する。	（予習：0.5時間） シラバスを確認に授業について理解・把握をする （復習：0.5時間） サッカー競技の特性について理解を深める。
2	堀池	サッカーのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングについて理解を深める。	どのようなボールフィーリング・コーディネーショントレーニングがあるのか解説する。	（予習：0.5時間） ボールフィーリング・コーディネーショントレーニングとは何か調べる。 （復習：0.5時間） サッカーのためのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングを１つ開発する。
3	堀池	パス＆コントロールのテクニックについて理解を深める。	対面パスを中心に両足を使いながらのドリルを行う。	（予習：0.5時間） 有効な視野の確保、ボールの置き所とはどういうことか調べる。 （復習：　0.5時間） 両足で、なおかつ正確性を追求しながらパスとコントロールができているか復習を行う。
4	堀池	ドリブル・ヘディングについて理解を深める。	様々な部位を使ったドリブル、ドリブルターン、１対１のドリブル等を行う。ヘディングの基本姿勢について解説する。	（予習：0.5時間） ドリブル・ヘディングについて調べる。 （復習：0.5時間） 周りを見ながら、スピードの変化を加えながら、フェイントを入れながらドリブルできるか復習する。 ヘディングの際のボールを当てる場所を確認する。
5	堀池	ゴールキーピングとシュートの基本について理解を深める。	ゴールキーパー育成のための様々な基本動作を体験し、実際にシュートを受ける。	（予習：0.5時間） 現代のゴールキーパーに求められることは何か調べる。 （復習：0.5時間） ゴールキーパーの基本動作について正しくできるかどうか復習する。
6	堀池	コンビネーション(クロスを含む)からのシュートについて理解を深める。	コンビネーションからのドリルシュートを行い、クロスボールはなぜ有効なのか解説する。	（予習：0.5時間） クロスからの攻撃はなぜ有効なのか調べる。 （復習：0.5時間） 積極的にシュートを狙う姿勢を常に持ちながら、GKとの駆け引きや、正確に狙うことができるか復習する。
7	堀池	ボールを奪う：守備の個人戦術について理解を深める。	守備の個人戦術について解説し、ドリルトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） 守備におけるチャレンジの優先順位、ポジションの原則について調べてくる。 （復習：0.5時間） 守備における個人戦術を理解し、プレッシャーをかけ、奪うチャンスを逃さずボールが奪えるか復習する。
8	堀池	ポゼッションについて理解を深める。	ボールを失わないためのテクニックドリルを行い、解説する。	（予習：0.5時間） ポゼションとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） 相手選手にボールを奪われることなく、判断の変化に対応しながらポジションを変化させ、ボールを奪われないか復習する。
9	堀池	攻守におけるオフ・ザ・ボールの動きについて理解を深める。	オフ・ザ・ボールの動きについて解説をする。	（予習：0.5時間） 攻守におけるオフ・ザ・ボールとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） ゲーム中、オフ・ザ・ボールの状況を理解した上でプレーできているかどうか復習する。
10	堀池	突破：ゴールを奪うために必要な突破の動きについて理解を深める。	突破の動きについて解説し、様々なトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） サッカーにおける突破の動きについて調べてくること。 （復習：0.5時間） 相手との間合い、フェイント、スピードの変化、方向の変化を加えながら突破ができているか復習する。
11	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） システムの変遷と各ポジションの役割について調べる。 （復習：0.5時間） システムとポジションについて理解すると共に、映像を通して実際のゲームでどのようになっているか復習する。

12	堀池	セットプレー：現代サッカーにおけるセットプレーの重要性について理解を深める。	セットプレーゲームを行い、解説をする。	（予習：0.5時間） セットプレーはなぜ攻撃側に有利なのか調べる。 （復習：0.5時間） 得点に直接結びつくようなセットプレーができるかどうか復習する。
13	堀池	授業内試験：競技規則 講義：ルールと審判法、競技規則について。	授業内試験後に競技規則について説明し、知識をより深める。	（予習：1時間） サッカーにおける競技規則について理解を深める。 （復習：1時間） サッカーのルールについて、「サッカーの競技規則」をWeb上で閲覧し復習する。
14	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） チームごとに主導権を握るサッカーをするためには何が必要かミーティングを行う。 （復習：0.5時間） チームごとに試合の分析を行い、課題解決のために何が必要か授業を振り返りながら復習を行う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（サッカー）[女子①]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（サッカー）[女子①]	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	島嵜　佑	ナンバリング	COA1135
担当教員	島嵜　佑、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」、「バスケットボール」、「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして，それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 この授業では「自身ができる」と「他者にできるようにさせる」ことを柱に、サッカーにおける基礎技術の習得と向上、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術を理解し、仲間とともに競技をする楽しさを学び、さらには、サッカーの基本原則や競技規則について理解を深めます。また、サッカーにおけるテーマごとの様々なトレーニングメニューを体験しサッカー理解を高める。　またグループごとにトレーニングをプランニングし中学・高校の授業で指導実践できる技術を身につける。
到達目標	１．サッカーにおける基礎技術を習得しプレーすることができる。 ２．サッカーの原理原則および楽しさを理解しプレーすることができる。 ３．サッカーの競技規則に基づいてプレーおよび審判をすることができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ科学分野の「専門的な知識と技能」及び「専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 出来る限り怪我等で見学することなく実技の授業に参加すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 適切な服装（スネ当てを含む）とシューズの準備をすること。
成績評価の方法	
評価方法	実技レベルおよび知識理解：50%、授業内試験：30%、授業態度および取り組む姿勢：20%の割合で評価する。
評価基準	１．サッカーにおける基礎技術を習得しプレーすることができる(実技レベルおよび知識理解)。 ２．サッカーの原理原則および楽しさを理解しプレーすることができる(授業態度および取り組む姿勢)。 ３．サッカーの競技規則に基づいてプレーおよび審判をすることができる(授業内試験)。

試験・課題に対するフィードバック方法

授業の中でキーファクター、ポイント等を提示し、解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領(平成29年告示)	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1579-5	2018年発行
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月）	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1576-4	2018年発行
高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1567-2	2019年発行
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月）	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1568-9	2019年発行

参考文献

「Laws of the Game　サッカー競技規則」公益財団法人日本サッカー協会
授業中に適宜資料を配布する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：堀池 巧 E-mail：t-horiike@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日・10時～12時、木曜日・10時～12時、 場所：1号館5階 サッカー研究室　1529室
担当教員の実務経験	サッカー日本代表及びＪリーグでの競技経験があり、Ｓ級コーチライセンスの指導資格を保有する教員が実技を指導する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	堀池	ガイダンス：サッカーの授業に対しての理解を深める。	授業の進め方、諸注意を説明する。	（予習：0.5時間） シラバスを確認に授業について理解・把握をする （復習：0.5時間） サッカー競技の特性について理解を深める。
2	堀池	サッカーのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングについて理解を深める。	どのようなボールフィーリング・コーディネーショントレーニングがあるのか解説する。	（予習：0.5時間） ボールフィーリング・コーディネーショントレーニングとは何か調べる。 （復習：0.5時間） サッカーのためのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングを１つ開発する。
3	堀池	パス＆コントロールのテクニックについて理解を深める。	対面パスを中心に両足を使いながらのドリルを行う。	（予習：0.5時間） 有効な視野の確保、ボールの置き所とはどういうことか調べる。 （復習：　0.5時間） 両足で、なおかつ正確性を追求しながらパスとコントロールができているか復習を行う。
4	堀池	ドリブル・ヘディングについて理解を深める。	様々な部位を使ったドリブル、ドリブルターン、１対１のドリブル等を行う。ヘディングの基本姿勢について解説する。	（予習：0.5時間） ドリブル・ヘディングについて調べる。 （復習：0.5時間） 周りを見ながら、スピードの変化を加えながら、フェイントを入れながらドリブルできるか復習する。 ヘディングの際のボールを当てる場所を確認する。
5	堀池	ゴールキーピングとシュートの基本について理解を深める。	ゴールキーパー育成のための様々な基本動作を体験し、実際にシュートを受ける。	（予習：0.5時間） 現代のゴールキーパーに求められることは何か調べる。 （復習：0.5時間） ゴールキーパーの基本動作について正しくできるかどうか復習する。
6	堀池	コンビネーション(クロスを含む)からのシュートについて理解を深める。	コンビネーションからのドリルシュートを行い、クロスボールはなぜ有効なのか解説する。	（予習：0.5時間） クロスからの攻撃はなぜ有効なのか調べる。 （復習：0.5時間） 積極的にシュートを狙う姿勢を常に持ちながら、GKとの駆け引きや、正確に狙うことができるか復習する。
7	堀池	ボールを奪う：守備の個人戦術について理解を深める。	守備の個人戦術について解説し、ドリルトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） 守備におけるチャレンジの優先順位、ポジションの原則について調べてくる。 （復習：0.5時間） 守備における個人戦術を理解し、プレッシャーをかけ、奪うチャンスを逃さずボールが奪えるか復習する。
8	堀池	ポゼッションについて理解を深める。	ボールを失わないためのテクニックドリルを行い、解説する	（予習：0.5時間） ポゼションとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） 相手選手にボールを奪われることなく、判断の変化に対応しながらポジションを変化させ、ボールを奪われないか復習する。
9	堀池	攻守におけるオフ・ザ・ボールの動きについて理解を深める。	オフ・ザ・ボールの動きについて解説をする。	（予習：0.5時間） 攻守におけるオフ・ザ・ボールとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） ゲーム中、オフ・ザ・ボールの状況を理解した上でプレーできているかどうか復習する。
10	堀池	突破：ゴールを奪うために必要な突破の動きについて理解を深める。	突破の動きについて解説し、様々なトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） サッカーにおける突破の動きについて調べてくること。 （復習：0.5時間） 相手との間合い、フェイント、スピードの変化、方向の変化を加えながら突破ができているか復習する。
11	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） システムの変遷と各ポジションの役割について調べる。 （復習：0.5時間） システムとポジションについて理解すると共に、映像を通して実際のゲームでどのようになっているか復習する。

12	堀池	セットプレー：現代サッカーにおけるセットプレーの重要性について理解を深める。	セットプレーゲームを行い、解説をする。	（予習：0.5時間） セットプレーはなぜ攻撃側に有利なのか調べる。 （復習：0.5時間） 得点に直接結びつくようなセットプレーができるかどうか復習する。
13	堀池	授業内試験：競技規則 講義：ルールと審判法、競技規則について。	授業内試験後に競技規則について説明し、知識をより深める。	（予習：1時間） サッカーにおける競技規則について理解を深める。 （復習：1時間） サッカーのルールについて、「サッカーの競技規則」をWeb上で閲覧し復習する。
14	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） チームごとに主導権を握るサッカーをするためには何が必要かミーティングを行う。 （復習：0.5時間） チームごとに試合の分析を行い、課題解決のために何が必要か授業を振り返りながら復習を行う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（サッカー）［女子②］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（サッカー）［女子②］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	島嵜　佑	ナンバリング	COA1135
担当教員	島嵜　佑、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」、「バスケットボール」、「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして，それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 この授業では「自身ができる」と「他者にできるようにさせる」ことを柱に、サッカーにおける基礎技術の習得と向上、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術を理解し、仲間とともに競技をする楽しさを学び、さらには、サッカーの基本原則や競技規則について理解を深めます。また、サッカーにおけるテーマごとの様々なトレーニングメニューを体験しサッカー理解を高める。　またグループごとにトレーニングをプランニングし中学・高校の授業で指導実践できる技術を身につける。
到達目標	１．サッカーにおける基礎技術を習得しプレーすることができる。 ２．サッカーの原理原則および楽しさを理解しプレーすることができる。 ３．サッカーの競技規則に基づいてプレーおよび審判をすることができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ科学分野の「専門的な知識と技能」及び「専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 出来る限り怪我等で見学することなく実技の授業に参加すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 適切な服装（スネ当てを含む）とシューズの準備をすること。
成績評価の方法	
評価方法	実技レベルおよび知識理解：50%、授業内試験：30%、授業態度および取り組む姿勢：20%の割合で評価する。
評価基準	１．サッカーにおける基礎技術を習得しプレーすることができる(実技レベルおよび知識理解)。 ２．サッカーの原理原則および楽しさを理解しプレーすることができる(授業態度および取り組む姿勢)。 ３．サッカーの競技規則に基づいてプレーおよび審判をすることができる(授業内試験)。
試験・課題に対するフィードバック方法	
授業の中でキーファクター、ポイント等を提示し、解説する。	

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領(平成29年告示)	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1579-5	2018年発行
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月）	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1576-4	2018年発行
高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1567-2	2019年発行
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月）	文部科学省	東山書房	978-4-8278-1568-9	2019年発行

参考文献

「Laws of the Game　サッカー競技規則」公益財団法人日本サッカー協会
授業中に適宜資料を配布する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：堀池 巧 E-mail：t-horiike@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日・10時～12時、木曜日・10時～12時、 場所：1号館5階 サッカー研究室　1529室
担当教員の実務経験	サッカー日本代表及びＪリーグでの競技経験があり、Ｓ級コーチライセンスの指導資格を保有する教員が実技を指導する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	堀池	ガイダンス：サッカーの授業に対しての理解を深める。	授業の進め方、諸注意を説明する。	（予習：0.5時間） シラバスを確認に授業について理解・把握をする （復習：0.5時間） サッカー競技の特性について理解を深める。
2	堀池	サッカーのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングについて理解を深める。	どのようなボールフィーリング・コーディネーショントレーニングがあるのか解説する。	（予習：0.5時間） ボールフィーリング・コーディネーショントレーニングとは何か調べる。 （復習：0.5時間） サッカーのためのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングを１つ開発する。
3	堀池	パス＆コントロールのテクニックについて理解を深める。	対面パスを中心に両足を使いながらのドリルを行う。	（予習：0.5時間） 有効な視野の確保、ボールの置き所とはどういうことか調べる。 （復習：　0.5時間） 両足で、なおかつ正確性を追求しながらパスとコントロールができているか復習を行う。
4	堀池	ドリブル・ヘディングについて理解を深める。	様々な部位を使ったドリブル、ドリブルターン、１対１のドリブル等を行う。ヘディングの基本姿勢について解説する。	（予習：0.5時間） ドリブル・ヘディングについて調べる。 （復習：0.5時間） 周りを見ながら、スピードの変化を加えながら、フェイントを入れながらドリブルできるか復習する。 ヘディングの際のボールを当てる場所を確認する。
5	堀池	ゴールキーピングとシュートの基本について理解を深める。	ゴールキーパー育成のための様々な基本動作を体験し、実際にシュートを受ける。	（予習：0.5時間） 現代のゴールキーパーに求められることは何か調べる。 （復習：0.5時間） ゴールキーパーの基本動作について正しくできるかどうか復習する。
6	堀池	コンビネーション(クロスを含む)からのシュートについて理解を深める。	コンビネーションからのドリルシュートを行い、クロスボールはなぜ有効なのか解説する。	（予習：0.5時間） クロスからの攻撃はなぜ有効なのか調べる。 （復習：0.5時間） 積極的にシュートを狙う姿勢を常に持ちながら、GKとの駆け引きや、正確に狙うことができるか復習する。
7	堀池	ボールを奪う：守備の個人戦術について理解を深める。	守備の個人戦術について解説し、ドリルトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） 守備におけるチャレンジの優先順位、ポジションの原則について調べてくる。 （復習：0.5時間） 守備における個人戦術を理解し、プレッシャーをかけ、奪うチャンスを逃さずボールが奪えるか復習する。
8	堀池	ポゼッションについて理解を深める。	ボールを失わないためのテクニックドリルを行い、解説する	（予習：0.5時間） ポゼションとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） 相手選手にボールを奪われることなく、判断の変化に対応しながらポジションを変化させ、ボールを奪われないか復習する。
9	堀池	攻守におけるオフ・ザ・ボールの動きについて理解を深める。	オフ・ザ・ボールの動きについて解説をする。	（予習：0.5時間） 攻守におけるオフ・ザ・ボールとはどういうことか調べる。 （復習：0.5時間） ゲーム中、オフ・ザ・ボールの状況を理解した上でプレーできているかどうか復習する。
10	堀池	突破：ゴールを奪うために必要な突破の動きについて理解を深める。	突破の動きについて解説し、様々なトレーニングを行う。	（予習：0.5時間） サッカーにおける突破の動きについて調べてくること。 （復習：0.5時間） 相手との間合い、フェイント、スピードの変化、方向の変化を加えながら突破ができているか復習する。
11	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） システムの変遷と各ポジションの役割について調べる。 （復習：0.5時間） システムとポジションについて理解すると共に、映像を通して実際のゲームでどのようになっているか復習する。

12	堀池	セットプレー：現代サッカーにおけるセットプレーの重要性について理解を深める。	セットプレーゲームを行い、解説をする。	（予習：0.5時間） セットプレーはなぜ攻撃側に有利なのか調べる。 （復習：0.5時間） 得点に直接結びつくようなセットプレーができるかどうか復習する。
13	堀池	授業内試験：競技規則 講義：ルールと審判法、競技規則について。	授業内試験後に競技規則について説明し、知識をより深める。	（予習：1時間） サッカーにおける競技規則について理解を深める。 （復習：1時間） サッカーのルールについて、「サッカーの競技規則」をWeb上で閲覧し復習する。
14	堀池	ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。	システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。	（予習：0.5時間） チームごとに主導権を握るサッカーをするためには何が必要かミーティングを行う。 （復習：0.5時間） チームごとに試合の分析を行い、課題解決のために何が必要か授業を振り返りながら復習を行う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（バスケ）[男子②]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（バスケ）[男子②]	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	中嶽　誠	ナンバリング	COA1135
担当教員	中嶽　誠、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」、「バスケットボール」、「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして、それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 中学校・高等学校におけるバスケットボールの授業実践力の形成を図ることをねらいとする。また、バスケットボールの知識と技術を習得し、それらをゲームの場面で発揮できる能力を身につける必要がある。学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、実践するとともに、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。この授業科目では、バスケットボールの特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、技術の向上と戦術の理解を深める。そして、「ボール操作」と「ボールを持っていないときの動き」の個人技術やチーム戦術・ゲーム運営・審判法を習得し、ゲームの中で実践する。
到達目標	１.学習指導要領に記載されているバスケットボールの目標や内容等について理解できる。 ２.バスケットボールの知識や技術を理解し、実戦できる。 ３.練習方法の考案や審判法を理解して、実践的指導力を身に付ける。 ４.チームで作戦を立て、ゲームを展開できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ科学分野の「専門的な知識と技能」及び「専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 指定されたクラスを受講すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 バスケットボールに適した服装・シューズを必ず着用し、腕時計・指輪・ピアス等の装飾品は身に着けないで下さい。また、時間厳守で行います。少し早く来て各自で「シュート練習」を行って下さい。
成績評価の方法	
評価方法	スキルテスト（40%）、ゲーム評価（10%）、筆記ミニテスト（10%）、平常点（40%）を総合して評価する。
評価基準	１.バスケットボール競技の「ボール操作」を実践できる。（スキルテスト） ２.ゲームの中でシュートを決めたりチーム内で作戦を立てたりして、ゲームに勝利することができる。（ゲーム評価） ３.バスケットボール競技の競技規則を理解できる。（筆記ミニテスト） ４.取組状況によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中にポイントを解説します。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）

授業中に適宜資料配布する。

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：中嶽 誠 E-mail：mknakada [at] juntendo.ac.jp ※［at］を@に変更してください。 【オフィスアワー】 日時：水曜日12時00分～12時40分 場所：1号館5階1520室 バスケットボール研究室
担当教員の実務経験	高校現場において保健体育科教諭の業務にあたっていた経験を生かし、バスケットボールの授業に求められる知識や技術をわかりやすく指導します。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中嶽	ガイダンス、バスケットボールの特性	授業目的及び概要、シラバス、評価方法、学習指導要領の内容等について説明する。	（予習：0.5時間） バスケットボールの競技特性を調べる。 （復習：0.5時間） 紹介された書籍やホームページ等を閲覧する。
2	中嶽	ボール操作①ボールハンドリング	ボールの持ち方やスピンのかけ方等を解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、ボールハンドリングについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールの持ち方やスピンのかけ方等のポイントを整理する。
3	中嶽	ボール操作②パス・ドリブル	パスやドリブルについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、パスとドリブルの種類について調べる。 （復習：0.5時間） パスとドリブルのポイントを整理する。
4	中嶽	ボール操作③シュート	シュートについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、シュートについて調べる。 （復習：0.5時間） シュートのポイントを整理する。
5	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト①	個人スキルアップテスト①を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
6	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト②	個人スキルアップテスト②を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
7	中嶽	ボールを持たないときの動き①	攻撃の際、味方から離れる動きや人のいない場所に移動する動き、相手ゴール前の空間にバランスよく侵入する動きを解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からボールを持たないときの動きについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールを持たないときの動きについて整理する。
8	中嶽	ボールを持たないときの動き②	守備における動きについて理解し、実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からマンツーマンとゾーンのディフェンスについて調べる。 （復習：0.5時間） マンツーマンとゾーンのディフェンスについて整理する。
9	中嶽	バスケットボールの基礎知識（競技規則と審判法）	競技規則と審判法について解説し、簡易ゲームの中で実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール競技規則の書籍等を読み、コートやリングについて調べる。 （復習：0.5時間） 授業で理解した競技規則や審判法を整理する。
10	中嶽	競技規則に関する筆記ミニテスト グループ学習①	前回理解した競技規則について筆記ミニテストを実施する。 グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：1.5時間） 筆記テストに解答できるように、前回の内容を学習する。また、バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） 筆記テストの内容を再確認する。 チームごとで練習内容について話し合う。

11	中嶽	グループ学習②	グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：0.5時間） バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） チームごとで練習内容について話し合う。
12	中嶽	ゲームの実践①	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	（予習：0.5時間） チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
13	中嶽	ゲームの実践②	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
14	中嶽	ゲームの実践③	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（バスケ）[男子④]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（バスケ）[男子④]	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	中嶽　誠	ナンバリング	COA1135
担当教員	中嶽　誠、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」、「バスケットボール」、「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして、それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 中学校・高等学校におけるバスケットボールの授業実践力の形成を図ることをねらいとする。また、バスケットボールの知識と技術を習得し、それらをゲームの場面で発揮できる能力を身につける必要がある。学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、実践するとともに、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。この授業科目では、バスケットボールの特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、技術の向上と戦術の理解を深める。そして、「ボール操作」と「ボールを持っていないときの動き」の個人技術やチーム戦術・ゲーム運営・審判法を習得し、ゲームの中で実践する。
到達目標	１.学習指導要領に記載されているバスケットボールの目標や内容等について理解できる。 ２.バスケットボールの知識や技術を理解し、実戦できる。 ３.練習方法の考案や審判法を理解して、実践的指導力を身に付ける。 ４.チームで作戦を立て、ゲームを展開できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ科学分野の「専門的な知識と技能」及び「専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 指定されたクラスを受講すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 バスケットボールに適した服装・シューズを必ず着用し、腕時計・指輪・ピアス等の装飾品は身に着けないで下さい。また、時間厳守で行います。少し早く来て各自で「シュート練習」を行って下さい。

成績評価の方法

評価方法	スキルテスト（40%）、ゲーム評価（10%）、筆記ミニテスト（10%）、平常点（40%）を総合して評価する。
評価基準	１.バスケットボール競技の「ボール操作」を実践できる。（スキルテスト） ２.ゲームの中でシュートを決めたりチーム内で作戦を立てたりして、ゲームに勝利することができる。（ゲーム評価） ３.バスケットボール競技の競技規則を理解できる。（筆記ミニテスト） ４.取組状況によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中にポイントを解説します。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）

授業中に適宜資料配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：中嶽 誠 E-mail：mknakada [at] juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変更してください。 【オフィスアワー】 日時：水曜日12時00分～12時40分 場所：1号館5階1520室 バスケットボール研究室
担当教員の実務経験	高校現場において保健体育科教諭の業務にあたっていた経験を生かし、バスケットボールの授業に求められる知識や技術をわかりやすく指導します。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中嶽	ガイダンス、バスケットボールの特性	授業目的及び概要、シラバス、評価方法、学習指導要領の内容等について説明する。	（予習：0.5時間） バスケットボールの競技特性を調べる。 （復習：0.5時間） 紹介された書籍やホームページ等を閲覧する。
2	中嶽	ボール操作①ボールハンドリング	ボールの持ち方やスピンのかけ方等を解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、ボールハンドリングについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールの持ち方やスピンのかけ方等のポイントを整理する。
3	中嶽	ボール操作②パス・ドリブル	パスやドリブルについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、パスとドリブルの種類について調べる。 （復習：0.5時間） パスとドリブルのポイントを整理する。
4	中嶽	ボール操作③シュート	シュートについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、シュートについて調べる。 （復習：0.5時間） シュートのポイントを整理する。
5	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト①	個人スキルアップテスト①を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
6	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト②	個人スキルアップテスト②を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
7	中嶽	ボールを持たないときの動き①	攻撃の際、味方から離れる動きや人のいない場所に移動する動き、相手ゴール前の空間にバランスよく侵入する動きを解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からボールを持たないときの動きについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールを持たないときの動きについて整理する。
8	中嶽	ボールを持たないときの動き②	守備における動きについて理解し、実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からマンツーマンとゾーンのディフェンスについて調べる。 （復習：0.5時間） マンツーマンとゾーンのディフェンスについて整理する。
9	中嶽	バスケットボールの基礎知識（競技規則と審判法）	競技規則と審判法について解説し、簡易ゲームの中で実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール競技規則の書籍等を読み、コートやリングについて調べる。 （復習：0.5時間） 授業で理解した競技規則や審判法を整理する。
10	中嶽	競技規則に関する筆記ミニテスト グループ学習①	前回理解した競技規則について筆記ミニテストを実施する。 グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：1.5時間） 筆記テストに解答できるように、前回の内容を学習する。また、バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） 筆記テストの内容を再確認する。 チームごとで練習内容について話し合う。

11	中嶽	グループ学習②	グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：0.5時間） バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） チームごとで練習内容について話し合う。
12	中嶽	ゲームの実践①	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	（予習：0.5時間） チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
13	中嶽	ゲームの実践②	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
14	中嶽	ゲームの実践③	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（バスケ）[女子①]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（バスケ）[女子①]	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	中嶽　誠	ナンバリング	COA1135
担当教員	中嶽　誠、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」、「バスケットボール」、「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして、それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 中学校・高等学校におけるバスケットボールの授業実践力の形成を図ることをねらいとする。また、バスケットボールの知識と技術を習得し、それらをゲームの場面で発揮できる能力を身につける必要がある。学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、実践するとともに、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。この授業科目では、バスケットボールの特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、技術の向上と戦術の理解を深める。そして、「ボール操作」と「ボールを持っていないときの動き」の個人技術やチーム戦術・ゲーム運営・審判法を習得し、ゲームの中で実践する。
到達目標	１.学習指導要領に記載されているバスケットボールの目標や内容等について理解できる。 ２.バスケットボールの知識や技術を理解し、実戦できる。 ３.練習方法の考案や審判法を理解して、実践的指導力を身に付ける。 ４.チームで作戦を立て、ゲームを展開できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ科学分野の「専門的な知識と技能」及び「専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 指定されたクラスを受講すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 バスケットボールに適した服装・シューズを必ず着用し、腕時計・指輪・ピアス等の装飾品は身に着けないで下さい。また、時間厳守で行います。少し早く来て各自で「シュート練習」を行って下さい。
成績評価の方法	
評価方法	スキルテスト（40%）、ゲーム評価（10%）、筆記ミニテスト（10%）、平常点（40%）を総合して評価する。
評価基準	１.バスケットボール競技の「ボール操作」を実践できる。（スキルテスト） ２.ゲームの中でシュートを決めたりチーム内で作戦を立てたりして、ゲームに勝利することができる。（ゲーム評価） ３.バスケットボール競技の競技規則を理解できる。（筆記ミニテスト） ４.取組状況によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中にポイントを解説します。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）

授業中に適宜資料配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：中嶽 誠 E-mail：mknakada [at] juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変更してください。 【オフィスアワー】 日時：水曜日12時00分～12時40分 場所：1号館5階1520室 バスケットボール研究室
担当教員の実務経験	高校現場において保健体育科教諭の業務にあたっていた経験を生かし、バスケットボールの授業に求められる知識や技術をわかりやすく指導します。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中嶽	ガイダンス、バスケットボールの特性	授業目的及び概要、シラバス、評価方法、学習指導要領の内容等について説明する。	（予習：0.5時間） バスケットボールの競技特性を調べる。 （復習：0.5時間） 紹介された書籍やホームページ等を閲覧する。
2	中嶽	ボール操作①ボールハンドリング	ボールの持ち方やスピンのかけ方等を解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、ボールハンドリングについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールの持ち方やスピンのかけ方等のポイントを整理する。
3	中嶽	ボール操作②パス・ドリブル	パスやドリブルについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、パスとドリブルの種類について調べる。 （復習：0.5時間） パスとドリブルのポイントを整理する。
4	中嶽	ボール操作③シュート	シュートについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、シュートについて調べる。 （復習：0.5時間） シュートのポイントを整理する。
5	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト①	個人スキルアップテスト①を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
6	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト②	個人スキルアップテスト②を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
7	中嶽	ボールを持たないときの動き①	攻撃の際、味方から離れる動きや人のいない場所に移動する動き、相手ゴール前の空間にバランスよく侵入する動きを解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からボールを持たないときの動きについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールを持たないときの動きについて整理する。
8	中嶽	ボールを持たないときの動き②	守備における動きについて理解し、実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からマンツーマンとゾーンのディフェンスについて調べる。 （復習：0.5時間） マンツーマンとゾーンのディフェンスについて整理する。
9	中嶽	バスケットボールの基礎知識（競技規則と審判法）	競技規則と審判法について解説し、簡易ゲームの中で実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール競技規則の書籍等を読み、コートやリングについて調べる。 （復習：0.5時間） 授業で理解した競技規則や審判法を整理する。
10	中嶽	競技規則に関する筆記ミニテスト グループ学習①	前回理解した競技規則について筆記ミニテストを実施する。 グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：1.5時間） 筆記テストに解答できるように、前回の内容を学習する。また、バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） 筆記テストの内容を再確認する。 チームごとで練習内容について話し合う。

11	中嶽	グループ学習②	グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：0.5時間） バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） チームごとで練習内容について話し合う。
12	中嶽	ゲームの実践①	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	（予習：0.5時間） チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
13	中嶽	ゲームの実践②	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
14	中嶽	ゲームの実践③	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（バスケ）[女子②]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（バスケ）[女子②]	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	中嶽　誠	ナンバリング	COA1135
担当教員	中嶽　誠、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「サッカー」、「バスケットボール」、「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして、それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。 中学校・高等学校におけるバスケットボールの授業実践力の形成を図ることをねらいとする。また、バスケットボールの知識と技術を習得し、それらをゲームの場面で発揮できる能力を身につける必要がある。学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、実践するとともに、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。この授業科目では、バスケットボールの特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、技術の向上と戦術の理解を深める。そして、「ボール操作」と「ボールを持っていないときの動き」の個人技術やチーム戦術・ゲーム運営・審判法を習得し、ゲームの中で実践する。
到達目標	１.学習指導要領に記載されているバスケットボールの目標や内容等について理解できる。 ２.バスケットボールの知識や技術を理解し、実戦できる。 ３.練習方法の考案や審判法を理解して、実践的指導力を身に付ける。 ４.チームで作戦を立て、ゲームを展開できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ科学分野の「専門的な知識と技能」及び「専門的な実践力」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 指定されたクラスを受講すること。 【履修上の注意（科目独自のルール）】 バスケットボールに適した服装・シューズを必ず着用し、腕時計・指輪・ピアス等の装飾品は身に着けないで下さい。また、時間厳守で行います。少し早く来て各自で「シュート練習」を行って下さい。
成績評価の方法	
評価方法	スキルテスト（40%）、ゲーム評価（10%）、筆記ミニテスト（10%）、平常点（40%）を総合して評価する。
評価基準	１.バスケットボール競技の「ボール操作」を実践できる。（スキルテスト） ２.ゲームの中でシュートを決めたりチーム内で作戦を立てたりして、ゲームに勝利することができる。（ゲーム評価） ３.バスケットボール競技の競技規則を理解できる。（筆記ミニテスト） ４.取組状況によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中にポイントを解説します。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）

授業中に適宜資料配布する。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：中嶽 誠 E-mail：mknakada [at] juntendo.ac.jp ※ [at] を@に変更してください。 【オフィスアワー】 日時：水曜日12時00分～12時40分 場所：1号館5階1520室 バスケットボール研究室
担当教員の実務経験	高校現場において保健体育科教諭の業務にあたっていた経験を生かし、バスケットボールの授業に求められる知識や技術をわかりやすく指導します。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中嶽	ガイダンス、バスケットボールの特性	授業目的及び概要、シラバス、評価方法、学習指導要領の内容等について説明する。	（予習：0.5時間） バスケットボールの競技特性を調べる。 （復習：0.5時間） 紹介された書籍やホームページ等を閲覧する。
2	中嶽	ボール操作①ボールハンドリング	ボールの持ち方やスピンのかけ方等を解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、ボールハンドリングについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールの持ち方やスピンのかけ方等のポイントを整理する。
3	中嶽	ボール操作②パス・ドリブル	パスやドリブルについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、パスとドリブルの種類について調べる。 （復習：0.5時間） パスとドリブルのポイントを整理する。
4	中嶽	ボール操作③シュート	シュートについて解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書を読み、シュートについて調べる。 （復習：0.5時間） シュートのポイントを整理する。
5	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト①	個人スキルアップテスト①を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
6	中嶽	ボール操作のスキルアップテスト②	個人スキルアップテスト②を実施する。	（予習：0.5時間） 今まで学習した個人スキルのポイントを振返る。 （復習：0.5時間） できなかったスキルのポイントを整理する。
7	中嶽	ボールを持たないときの動き①	攻撃の際、味方から離れる動きや人のいない場所に移動する動き、相手ゴール前の空間にバランスよく侵入する動きを解説し実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からボールを持たないときの動きについて調べる。 （復習：0.5時間） ボールを持たないときの動きについて整理する。
8	中嶽	ボールを持たないときの動き②	守備における動きについて理解し、実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール技術書からマンツーマンとゾーンのディフェンスについて調べる。 （復習：0.5時間） マンツーマンとゾーンのディフェンスについて整理する。
9	中嶽	バスケットボールの基礎知識（競技規則と審判法）	競技規則と審判法について解説し、簡易ゲームの中で実践する。	（予習：0.5時間） バスケットボール競技規則の書籍等を読み、コートやリングについて調べる。 （復習：0.5時間） 授業で理解した競技規則や審判法を整理する。
10	中嶽	競技規則に関する筆記ミニテスト グループ学習①	前回理解した競技規則について筆記ミニテストを実施する。 グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：1.5時間） 筆記テストに解答できるように、前回の内容を学習する。また、バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） 筆記テストの内容を再確認する。 チームごとで練習内容について話し合う。

11	中嶽	グループ学習②	グループで練習方法を考案し、実践発表をする。	（予習：0.5時間） バスケットボール専門書から練習方法を調べる。 （復習：0.5時間） チームごとで練習内容について話し合う。
12	中嶽	ゲームの実践①	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	（予習：0.5時間） チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
13	中嶽	ゲームの実践②	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
14	中嶽	ゲームの実践③	チームで作戦を立てて、ゲームを展開する。	(予習：0.5時間) チームごとでゲームの作戦を話し合う。 （復習：0.5時間） チームごとでゲーム内容について話し合う。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（ハンド）[男子②]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（ハンド）[男子②]	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	小俣　貴洋	ナンバリング	COA1135
担当教員	小俣　貴洋、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	ハンドボールのゲームにおいて、基本的な技術の習得とそれらを活かすための戦術的思考力の向上を目指し、ゲームを中心とした授業を展開する。具体的には、毎授業の前半に技術トレーニング（パス・キャッチ・シュートなど）、戦術トレーニング（相手に対応する・味方と協調するプレー）を行い、それらを活かして，後半のゲームを行う。また、ルールを理解し、審判の基礎を学ぶと共に、オフィシャルを含め、他者と協力してゲームの運営を行うことを目指す。また、これらを通じた指導能力の形成を図る。
到達目標	１，ゲームにおいて基本的な技術である、シュート、フェイント、パスができる。 ２，基本的なルールを説明できる。 ３，セットオフェンスやディフェンスのチーム戦術を理解し、仲間と協調してゲームに適用することができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「コミュニケーション力」、「倫理観」及び「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 ピアス等のアクセサリーを外すこと。

成績評価の方法

評価方法	受講態度(30%)、実技試験(30%)、定期試験（30%）リーグ戦でのゲームパフォーマンス(10%)を総合して評価する。
評価基準	１，ジャグリングやジャンプスローなど十分にボールを操作できる。（実技試験） ２，コートの図示およびラインの名称，基本的なルールの説明ができる。（定期試験） ３，リーグ戦におけるゲームパフォーマンスおよび，授業中の発言によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

実技試験，定期試験に関しては，必要に応じて個別に解説，指導を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

この科目では，必ず用意しなければならないテキストはありません。必要な資料は，授業中に適宜，配布します。また，ハンドボールの理論・知識の習得に際して，下記ウエブページを参考にすることを勧めます。
http://handball.kikirara.jp

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 t-komata＊juntendo.ac.jp 上記のアドレスは，セキュリティ上の理由で＠を＊に変更しています。 メールを送る際は，＊を＠に修正してください。 【オフィスアワー】 授業開始前，および終了後に対応します。また随時，メールでの質問も受け付けます。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間３０時間と授業外学修時間１５時間の計４５時間の学習を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業科目は、中・高保健体育1種免許の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目として位置づけられています。 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法および授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	小俣貴洋	（授業内容） オリエンテーション（授業のルールやハンドボールの競技特性に関する説明）	座学を行う．授業のルールの確認，ハンドボールのルールの確認を行う．	【予習：0.5時間】 シラバスを参考に授業のルール，学習目標を確認する． 【復習：0.5時間】 動画を見て，ハンドボールのルールおよびプレーを確認する．

2	小俣貴洋	(授業内容) ルール，競技特性について	大まかなルール，競技特性について理解するため，初歩的なミニゲームを行う．ミニゲームでの得点を増やすため，グループワークによってルール追加を行う．	【予習：1時間】 ゲームの動画を見て，競技の特性について確認する． 【復習：0.5時間】 ルールについて，配布したプリントをもとに整理する．
3	小俣貴洋	（授業内容） ボールハンドリングを始めとしてパス・キャッチ，シュート，ゴールキーピングなどの基本動作について	ボールハンドリング，パス・キャッチ，シュート，ゴールキーピングなど基本動作を練習する．それらを発揮するために初歩的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，基本動作の種類，方法について確認する． 【復習：0.5時間】 基本動作について整理する．
4	小俣貴洋	（授業内容） 走りながらのパス・キャッチ，助走をつけたシュートなど基本動作の応用について	走りながらのパス・キャッチ，助走をつけたシュートなど基本動作の応用練習を行う．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，シュートの種類を確認しておく． 【復習：0.5時間】 ステップ・ランニング・スタンディング・ジャンプシュートの違いを整理する．
5	小俣貴洋	(授業内容) 攻撃におけるフェイント動作およびディフェンス	攻撃におけるフェイント動作，ディフェンスの動作を練習する．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，ディフェンスの種類を確認する． 【復習：0.5時間】 人中心のディフェンスとボール中心のディフェンスの違いを整理する．
6	小俣貴洋	（授業内容） 速攻	速攻の種類について説明し，速攻（素早く相手ゴールまでボールを運び，シュートを行う）練習を行う．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，速攻の種類について確認する． 【復習：0.5時間】 １次速攻，2次速攻，3次速攻の違いを整理する．
7	小俣貴洋	（授業内容） ポジションの解説①サイドポジションの特徴	サイドポジションの特徴について解説を行い，必要とされるサイドシュートを練習する．それを発揮するためにオールコートで6人対6人のゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，サイドプレイヤーの特徴を確認する． 【復習：0.5時間】 サイドプレイヤーの特徴，必要な技術について整理する．
8	小俣貴洋	（授業内容） ポジションの解説②ポストポジションの特徴	ポストポジションの特徴について解説を行い，必要とされる基本的技術（ターンおよびフォールシュート）を練習する．それらを発揮するために正式なゲーム（オールコート，7人対7人）を行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，ポストプレイヤーの特徴を確認する． 【復習：0.5時間】 ポストプレイヤーの特徴，必要な技術について整理する．

9	小俣貴洋	（授業内容） ルールと審判技術，リーグ戦.	審判の技術，各反則のジェスチャーについて解説を行う．グループに分け，リーグ戦を行う．その際，選手交代や出場時間，ポジションなどはグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判に必要な技術，動作の意味を理解し，罰則時のジェスチャーを正しく覚える. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
10	小俣貴洋	（授業内容） グループ戦術（基礎）	グループ戦術の基礎（３～４人で協働して，ボールを保持したり，ノーマークを作ったりする）を練習する．それらを発揮するため，リーグ戦を行う．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 映像を見て，３～４人のグループ戦術の確認を確認する. 【復習：0.5時間】 ３～４人のグループにおける戦術行為を行う際のポイントに関して整理する.
11	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦①	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：1時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
12	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦②	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
13	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦③	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
14	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦④	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（ハンド）[男子④]	授業形態	
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（ハンド）[男子④]	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	勝又　健太	ナンバリング	COA1135
担当教員	勝又　健太、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	ハンドボールのゲームにおいて、基本的な技術の習得とそれらを活かすための戦術的思考力の向上を目指し、ゲームを中心とした授業を展開する。具体的には、毎授業の前半に技術トレーニング（パス・キャッチ・シュートなど）、戦術トレーニング（相手に対応する・味方と協調するプレー）を行い、それらを活かして，後半のゲームを行う。また、ルールを理解し、審判の基礎を学ぶと共に、オフィシャルを含め、他者と協力してゲームの運営を行うことを目指す。また、これらを通じた指導能力の形成を図る。
到達目標	１，ゲームにおいて基本的なテクニックである、シュート、フェイント、パスができる。 ２，基本的なルールを説明できる。 ３，セットオフェンスやディフェンスのチーム戦術を理解し、仲間と協調してゲームに適用することができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「コミュニケーション力」、「倫理観」及び「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	（履修要件） 特になし （履修上の注意） ピアス等のアクセサリーを外すこと。

成績評価の方法	
評価方法	受講態度(30%)、実技試験(30%)、定期試験（30%）リーグ戦でのゲームパフォーマンス(10%)を総合して評価する。
評価基準	１，ジャグリングやジャンプスローなど十分なボールハンドリングができる。（実技試験） ２，コートの図示およびラインの名称，基本的なルールの説明ができる。（定期試験） ３，リーグ戦におけるゲームパフォーマンスおよび，授業中の発言によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

実技試験，定期試験後に関しては，必要に応じて個別に解説，指導を行う.

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

ハンドボールの理論知識の習得に際して，下記ウエブページを参考にしてください。
{http://handball.kikirara.jp}

（連絡先）
k.katsumata.nv@juntendo.ac.jp

その他	
連絡先・オフィスアワー	授業開始前、および終了後に対応します。また随時、メールでの質問も受け付けます。
担当教員の実務経験	
備考	（学修時間） この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と授業外学修時間15時間の計45時間の学習を必要とする内容をもって構成する。 （その他） この授業科目は、中・高保健体育1種免許の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目として位置づけられています。 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法および授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	勝又健太	オリエンテーションを行う．授業のルール，ハンドボールのルールの解説を行う．	初回は座学を行う． 授業のルールの確認，ハンドボールのルールの確認を行う．	(予習0.5時間) シラバスを参考に授業のルール，学習目標を確認する． （復習0.5時間） ハンドボールのルール，プレイを動画を見て確認する．

2	勝又健太	初歩的なゲームを行い，ルールの成り立ち，競技の特性について解説する.	ゲームを行い，ハンドボールのルール，競技特性について理解する.	（予習1時間） ゲーム，競技の特性について動画を見てくる. （復習0.5時間） ルールについて，配布したプリントをもとに整理する.
3	勝又健太	パス・キャッチの基本動作についての解説を行う.	パス・キャッチの基本動作の習得，理解を深める.	（予習0.5時間） 動画を見て，パスの種類，方法について確認する. （復習0.5時間） パスの種類について整理する.
4	勝又健太	シュート動作の基本動作の解説を行う.	シュートの基本動作の習得，それに伴いステップワークの練習を行い，必要な技術の習得.	（予習0.5時間） シュートの種類を動画をみて確認しておく. （復習0.5時間） ステップ・ランニング・スタンディング・ジャンプシュートの違いを整理する.
5	勝又健太	速攻を中心としたゲームの解説を行う.	速攻の種類の説明，スピードを持ってシュートまでの動作の動きを習得.	【予習：0.5時間】 動画を見て，速攻の種類について確認する. 【復習：0.5時間】 １次速攻，2次速攻，3次速攻の違いを整理する.
6	勝又健太	ディフェンス技術の習得	マンツーマンディフェンスを中心とし，ディフェンスの技術の習得.	【予習：0.5時間】 動画を見て，ディフェンスの種類を確認する. 【復習：0.5時間】 人中心のディフェンスとボール中心のディフェンスの違いを整理する.
7	勝又健太	ポジションの解説①サイドポジションの特徴について解説を行う.	ポジション（サイド）の特徴について解説を行い，必要とされる技術，特性を理解する.	【予習：0.5時間】 動画を見て，サイドプレイヤーの特徴を確認する. 【復習：0.5時間】 サイドプレイヤーの特徴，必要な技術を整理する.
8	勝又健太	ハンドボールにおける個人技術の習得①フェイント動作について解説を行う.	フェイント動作の種類，ステップワークの解説を行い，必要とされる技術を理解する.	【予習：0.5時間】 動画を見て，フェイントの種類を分類する. 【復習：0.5時間】 オン・ザ・ボールとオフ・ザ・ボールの動きについて整理する.
9	勝又健太	ルールと審判技術の解説を行い，初歩的なリーグ戦を行う.	審判の技術，各反則のジェスチャーについて解説を行う．また，正しく笛を吹く技術を身につける．グループに分けミニゲームのリーグ戦を行う.	【予習：0.5時間】 審判に必要な技術，動作の意味を理解し，罰則時のジェスチャーを正しく覚える. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
10	勝又健太	グループ戦術の解説を行う.	３～４人のグループ戦術の解説を行い，そこで必要とされる戦術行為に関して，理解を深める.	【予習：0.5時間】 映像を見て，３～４人のグループ戦術の確認を確認する. 【復習：0.5時間】 ３～４人のグループにおける戦術行為を行う際のポイントに関して整理する.
11	勝又健太	安全管理に十分な注意を払って，学生主体のリーグ戦を行う①	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する.	【予習：1時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
12	勝又健太	安全管理に十分な注意を払って，学生主体のリーグ戦を行う②	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
13	勝又健太	安全管理に十分な注意を払って，学生主体のリーグ戦を行う③	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
14	勝又健太	安全管理に十分な注意を払って，学生主体のリーグ戦を行う④	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（ハンド）[女子①]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（ハンド）[女子①]	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	小俣　貴洋	ナンバリング	COA1135
担当教員	小俣　貴洋、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	ハンドボールのゲームにおいて、基本的な技術の習得とそれらを活かすための戦術的思考力の向上を目指し、ゲームを中心とした授業を展開する。具体的には、毎授業の前半に技術トレーニング（パス・キャッチ・シュートなど）、戦術トレーニング（相手に対応する・味方と協調するプレー）を行い、それらを活かして，後半のゲームを行う。また、ルールを理解し、審判の基礎を学ぶと共に、オフィシャルを含め、他者と協力してゲームの運営を行うことを目指す。また、これらを通じた指導能力の形成を図る。
到達目標	１，ゲームにおいて基本的な技術である、シュート、フェイント、パスができる。 ２，基本的なルールを説明できる。 ３，セットオフェンスやディフェンスのチーム戦術を理解し、仲間と協調してゲームに適用することができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「コミュニケーション力」、「倫理観」及び「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 ピアス等のアクセサリーを外すこと。

成績評価の方法	
評価方法	受講態度(30%)、実技試験(30%)、定期試験（30%）リーグ戦でのゲームパフォーマンス(10%)を総合して評価する。
評価基準	１，ジャグリングやジャンプスローなど十分にボールを操作できる。（実技試験） ２，コートの図示およびラインの名称，基本的なルールの説明ができる。（定期試験） ３，リーグ戦におけるゲームパフォーマンスおよび，授業中の発言によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

実技試験，定期試験に関しては，必要に応じて個別に解説，指導を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

この科目では，必ず用意しなければならないテキストはありません。必要な資料は，授業中に適宜，配布します。また，ハンドボールの理論・知識の習得に際して，下記ウエブページを参考にすることを勧めます。
http://handball.kikirara.jp

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 t-komata＊juntendo.ac.jp 上記のアドレスは，セキュリティ上の理由で＠を＊に変更しています。 メールを送る際は，＊を＠に修正してください。 【オフィスアワー】 授業開始前，および終了後に対応します。また随時，メールでの質問も受け付けます。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間３０時間と授業外学修時間１５時間の計４５時間の学習を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業科目は、中・高保健体育1種免許の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目として位置づけられています。 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法および授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	小俣貴洋	（授業内容） オリエンテーション（授業のルールやハンドボールの競技特性に関する説明）	座学を行う．授業のルールの確認，ハンドボールのルールの確認を行う．	【予習：0.5時間】 シラバスを参考に授業のルール，学習目標を確認する． 【復習：0.5時間】 動画を見て，ハンドボールのルールおよびプレーを確認する．

2	小俣貴洋	(授業内容) ルール，競技特性について	大まかなルール，競技特性について理解するため，初歩的なミニゲームを行う．ミニゲームでの得点を増やすため，グループワークによってルール追加を行う．	【予習：1時間】 ゲームの動画を見て，競技の特性について確認する． 【復習：0.5時間】 ルールについて，配布したプリントをもとに整理する．
3	小俣貴洋	（授業内容） ボールハンドリングを始めとしてパス・キャッチ，シュート，ゴールキーピングなどの基本動作について	ボールハンドリング，パス・キャッチ，シュート，ゴールキーピングなど基本動作を練習する．それらを発揮するために初歩的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，基本動作の種類，方法について確認する． 【復習：0.5時間】 基本動作について整理する．
4	小俣貴洋	（授業内容） 走りながらのパス・キャッチ，助走をつけたシュートなど基本動作の応用について	走りながらのパス・キャッチ，助走をつけたシュートなど基本動作の応用練習を行う．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，シュートの種類を確認しておく． 【復習：0.5時間】 ステップ・ランニング・スタンディング・ジャンプシュートの違いを整理する．
5	小俣貴洋	(授業内容) 攻撃におけるフェイント動作およびディフェンス	攻撃におけるフェイント動作，ディフェンスの動作を練習する．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，ディフェンスの種類を確認する． 【復習：0.5時間】 人中心のディフェンスとボール中心のディフェンスの違いを整理する．
6	小俣貴洋	（授業内容） 速攻	速攻の種類について説明し，速攻（素早く相手ゴールまでボールを運び，シュートを行う）練習を行う．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，速攻の種類について確認する． 【復習：0.5時間】 １次速攻，2次速攻，3次速攻の違いを整理する．
7	小俣貴洋	（授業内容） ポジションの解説①サイドポジションの特徴	サイドポジションの特徴について解説を行い，必要とされるサイドシュートを練習する．それを発揮するためにオールコートで6人対6人のゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，サイドプレイヤーの特徴を確認する． 【復習：0.5時間】 サイドプレイヤーの特徴，必要な技術について整理する．
8	小俣貴洋	（授業内容） ポジションの解説②ポストポジションの特徴	ポストポジションの特徴について解説を行い，必要とされる基本的技術（ターンおよびフォールシュート）を練習する．それらを発揮するために正式なゲーム（オールコート，7人対7人）を行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，ポストプレイヤーの特徴を確認する． 【復習：0.5時間】 ポストプレイヤーの特徴，必要な技術について整理する．

9	小俣貴洋	（授業内容） ルールと審判技術，リーグ戦.	審判の技術，各反則のジェスチャーについて解説を行う．グループに分け，リーグ戦を行う．その際，選手交代や出場時間，ポジションなどはグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判に必要な技術，動作の意味を理解し，罰則時のジェスチャーを正しく覚える. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
10	小俣貴洋	（授業内容） グループ戦術（基礎）	グループ戦術の基礎（３～４人で協働して，ボールを保持したり，ノーマークを作ったりする）を練習する．それらを発揮するため，リーグ戦を行う．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 映像を見て，３～４人のグループ戦術の確認を確認する. 【復習：0.5時間】 ３～４人のグループにおける戦術行為を行う際のポイントに関して整理する.
11	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦①	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：1時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
12	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦②	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
13	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦③	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
14	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦④	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（ハンド）[女子②]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ゴール型)（ハンド）[女子②]	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	小俣　貴洋	ナンバリング	COA1135
担当教員	小俣　貴洋、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	ハンドボールのゲームにおいて、基本的な技術の習得とそれらを活かすための戦術的思考力の向上を目指し、ゲームを中心とした授業を展開する。具体的には、毎授業の前半に技術トレーニング（パス・キャッチ・シュートなど）、戦術トレーニング（相手に対応する・味方と協調するプレー）を行い、それらを活かして，後半のゲームを行う。また、ルールを理解し、審判の基礎を学ぶと共に、オフィシャルを含め、他者と協力してゲームの運営を行うことを目指す。また、これらを通じた指導能力の形成を図る。
到達目標	１，ゲームにおいて基本的な技術である、シュート、フェイント、パスができる。 ２，基本的なルールを説明できる。 ３，セットオフェンスやディフェンスのチーム戦術を理解し、仲間と協調してゲームに適用することができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「コミュニケーション力」、「倫理観」及び「スポーツ科学分野の専門的な知識と技能」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 ピアス等のアクセサリーを外すこと。

成績評価の方法

評価方法	受講態度(30%)、実技試験(30%)、定期試験（30%）リーグ戦でのゲームパフォーマンス(10%)を総合して評価する。
評価基準	１，ジャグリングやジャンプスローなど十分にボールを操作できる。（実技試験） ２，コートの図示およびラインの名称，基本的なルールの説明ができる。（定期試験） ３，リーグ戦におけるゲームパフォーマンスおよび，授業中の発言によって受講態度を評価する。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

実技試験，定期試験に関しては，必要に応じて個別に解説，指導を行う。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

この科目では，必ず用意しなければならないテキストはありません。必要な資料は，授業中に適宜，配布します。また，ハンドボールの理論・知識の習得に際して，下記ウエブページを参考にすることを勧めます。
http://handball.kikirara.jp

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 t-komata＊juntendo.ac.jp 上記のアドレスは，セキュリティ上の理由で＠を＊に変更しています。 メールを送る際は，＊を＠に修正してください。 【オフィスアワー】 授業開始前，および終了後に対応します。また随時，メールでの質問も受け付けます。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間３０時間と授業外学修時間１５時間の計４５時間の学習を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 この授業科目は、中・高保健体育1種免許の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目として位置づけられています。 また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法および授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	小俣貴洋	（授業内容） オリエンテーション（授業のルールやハンドボールの競技特性に関する説明）	座学を行う．授業のルールの確認，ハンドボールのルールの確認を行う．	【予習：0.5時間】 シラバスを参考に授業のルール，学習目標を確認する． 【復習：0.5時間】 動画を見て，ハンドボールのルールおよびプレーを確認する．

2	小俣貴洋	(授業内容) ルール，競技特性について	大まかなルール，競技特性について理解するため，初歩的なミニゲームを行う．ミニゲームでの得点を増やすため，グループワークによってルール追加を行う．	【予習：1時間】 ゲームの動画を見て，競技の特性について確認する． 【復習：0.5時間】 ルールについて，配布したプリントをもとに整理する．
3	小俣貴洋	（授業内容） ボールハンドリングを始めとしてパス・キャッチ，シュート，ゴールキーピングなどの基本動作について	ボールハンドリング，パス・キャッチ，シュート，ゴールキーピングなど基本動作を練習する．それらを発揮するために初歩的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，基本動作の種類，方法について確認する． 【復習：0.5時間】 基本動作について整理する．
4	小俣貴洋	（授業内容） 走りながらのパス・キャッチ，助走をつけたシュートなど基本動作の応用について	走りながらのパス・キャッチ，助走をつけたシュートなど基本動作の応用練習を行う．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，シュートの種類を確認しておく． 【復習：0.5時間】 ステップ・ランニング・スタンディング・ジャンプシュートの違いを整理する．
5	小俣貴洋	(授業内容) 攻撃におけるフェイント動作およびディフェンス	攻撃におけるフェイント動作，ディフェンスの動作を練習する．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，ディフェンスの種類を確認する． 【復習：0.5時間】 人中心のディフェンスとボール中心のディフェンスの違いを整理する．
6	小俣貴洋	（授業内容） 速攻	速攻の種類について説明し，速攻（素早く相手ゴールまでボールを運び，シュートを行う）練習を行う．それらを発揮するために発展的なミニゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，速攻の種類について確認する． 【復習：0.5時間】 １次速攻，2次速攻，3次速攻の違いを整理する．
7	小俣貴洋	（授業内容） ポジションの解説①サイドポジションの特徴	サイドポジションの特徴について解説を行い，必要とされるサイドシュートを練習する．それを発揮するためにオールコートで6人対6人のゲームを行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，サイドプレイヤーの特徴を確認する． 【復習：0.5時間】 サイドプレイヤーの特徴，必要な技術について整理する．
8	小俣貴洋	（授業内容） ポジションの解説②ポストポジションの特徴	ポストポジションの特徴について解説を行い，必要とされる基本的技術（ターンおよびフォールシュート）を練習する．それらを発揮するために正式なゲーム（オールコート，7人対7人）を行う．	【予習：0.5時間】 動画を見て，ポストプレイヤーの特徴を確認する． 【復習：0.5時間】 ポストプレイヤーの特徴，必要な技術について整理する．

9	小俣貴洋	（授業内容） ルールと審判技術，リーグ戦.	審判の技術，各反則のジェスチャーについて解説を行う．グループに分け，リーグ戦を行う．その際，選手交代や出場時間，ポジションなどはグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判に必要な技術，動作の意味を理解し，罰則時のジェスチャーを正しく覚える. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
10	小俣貴洋	（授業内容） グループ戦術（基礎）	グループ戦術の基礎（３～４人で協働して，ボールを保持したり，ノーマークを作ったりする）を練習する．それらを発揮するため，リーグ戦を行う．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 映像を見て，３～４人のグループ戦術の確認を確認する. 【復習：0.5時間】 ３～４人のグループにおける戦術行為を行う際のポイントに関して整理する.
11	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦①	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：1時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
12	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦②	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
13	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦③	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
14	小俣貴洋	（授業内容） 学生主体のリーグ戦④	学生が審判，オフシャルを行い，主体的にリーグ戦を運営する．その際，選手交代，出場時間，作戦，ポジションなどは各チームのグループワークにより決める.	【予習：0.5時間】 審判のジェスチャー確認，大会運営の方法を理解する. 【復習：0.5時間】 スコアシートの提出を行う.
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（バレーボール）[共修④]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（バレーボール）[共修④]	対象学年	2年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	中田　学	ナンバリング	COA2136
担当教員	中田　学、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 バレーボールの基礎について学び、個人技術の向上、基本的な戦術、ビーチバレー、9人制、6人制のルール等を理解する。また、バレーボールは中学・高校でも授業として行われることも多く、教員採用試験においても様々な都道府県で実技科目として実施されている。本授業では、シラバスに記載してある内容（技術・戦術）について学んでいき、基礎が定着してきたらミニゲームなどの形式でリーグ戦を行っていく。スキルだけの向上ではなく、教員採用試験を視野に入れて授業を行っていく。
到達目標	【授業の到達目標】 1　バレーボールの特性を生かした基礎的トレーニング方法と学ぶことができる 2　各技能の指導法・審判法・ゲーム運営等を学習し、現場教育に即応できる能力を養うことができる 3　教員採用試験で行う技術レベルに到達することができる
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 技術的な向上はもちろん、バレーボールを通じて、コミュニケーションスキル、対人能力を身に付ける。 この科目は、スポーツ科学科において、 「スポーツ科学分野の専門的な実践力」を身に付けるという目的、および学位授与方針の達成に寄与する
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 実技科目のため、ケガなどで長期的にプレーをすることが出来ない場合は予め、相談するようにお願いします。 【履修上の注意】 技術の向上はもちろん、教員採用試験を視野に入れて授業を行っていきます。体調管理と向上心を持って授業に望んで下さい。 体育館で滑らないようなシューズ、できればバレーボールシューズの準備を勧めます。 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。また、遅刻及び早退についても減点を行う 【テキスト・参考書等】 蔦宗　浩二著、みるみる上達！バレーボール基礎からマスター　学研プラス出版、2015年 教科書として使用

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 授業態度・取り組み３０%、実技レベル５０%、バレーボールノート１０%、リーグ戦戦績１０%の割合で評価します。
評価基準	【成績評価の基準】 1　授業実施回数の2/3以上の出席をもって受験資格とする。 2　実技試験を行い評価する 3　バレーボールノートを提出し評価する 4　リーグ戦の対戦戦績を評価する

試験・課題に対するフィードバック方法

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
　課題レポートは翌週の授業で返却して、 定期試験については、評価や助言を各受講者へ口頭にてフィー ドバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
みるみる上達！バレーボール基礎からマスター	蔦宗浩二	学研		授業中に指示します

参考文献

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：中田　学 E-mail：m-nakata＊juntendo.ac.jp （＊は@マークです※セキュリティ上の理由） 【オフィスアワー】 日時：火曜～金曜　昼休み　放課後 場所：１号館5階1530室（中田） 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、できるだけ2日前までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	２０１３年～　順天堂大学　「バレーボール」授業担当 小学校からバレーボールを継続しており、2013年からは指導者としてバレーボールに携わっている。また小学生、中学生高校生を対象としたバレーボール教室なども実施しており、学校教育現場に求められる知識、技術、指導法を分かり易く解説する。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［実務経験のある教員による授業］ 高等学校における保健体育教員及びバレーボール部顧問としての経験を生かし、バレーボールに関する実践的な知識・技術を解説する。 【その他】 この授業科目は、中・高保健体育1種免許の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目として位置づけられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中田	(授業内容) ガイダンス 実技の選択決定 1年間の授業方針について	(授業方法) 希望を調査し、他種目との調整	（予習1h）シラバスの内容をよく読んでおく。 （復習1h）授業の方針や概要について理解し、学習ノートを準備する。
2	中田	(授業内容) ネットの張り方と円陣パス ・バレーボールネットの正しい張り方 ・バレーボールの準備運動の注意点 ・バレーボールのボールとレクリエーションボールの違い ・グループ分け ・円陣パス サーブ ・アンダーサーブ、フローターサーブ、サイドハンド、ジャンピングドライブ等	（授業方法） ・ネットの張り方を理解することができる ・バレーボールの導入（アイスブレーキング）を知る	（予習1h）ネットの張り方と円陣パスについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
3	中田	(授業内容) 映像による基本技術と指導法の鑑賞 ・アンダーパスとオーバーパス ・マンツーマン	(授業方法) アンダーパスとオーバーパスのポイント、指導法を理解する マンツーマンができるようになる	（予習1h）アンダーパスとオーバーパスについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
4	中田	(授業内容) スパイク ・スイング練習 ・踏み込み　助走 ・直上スパイク	(授業方法) スパイクのスイング、ステップを分解して練習し、繋げてできるようになる。	（予習1h）スパイクについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
5	中田	(授業内容) ・サーブレシーブと三段攻撃	(授業方法) サーブレシーブのポイント、指導法から三段攻撃とは何かを知ることができる	（予習1h）サーブレシーブと三段攻撃について事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
6	中田	(授業内容) スパイク ・ブロック ・スパイクの打ち込み ・スパイクゲーム ・ブロック面 ・手の出し方	(授業方法) スパイクが打てるようになる。 ブロックの形が習得できる	（予習1h）スパイク・ブロックについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
7	中田	(授業内容) ゲーム（ビーチバレー） ・試合のまわし方 ・ビーチバレーのルール ・3対3ゲーム（練習試合）	(授業方法) ミニゲームを行う。学んだ基礎技術をミニゲームで発揮することができる	（予習1h）ビーチバレーのルールについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
8	中田	(授業内容) ゲーム（ビーチバレー） ・3対3ゲーム（公式戦）	(授業方法) 学んだ基礎技術をミニゲームで発揮することができる公式戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）ゲームの進め方について事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
9	中田	(授業内容) 9人制バレー ・9人制バレーのルール ・6人制と9人制の違い ・９人制練習試合	(授業方法) 6人制と9人制の違いを知り、9人制バレーのルールを知ることができる 9人制の乱打練習を行う	（予習1h）9人制バレーのルールについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。

10	中田	(授業内容) ゲーム（9人制バレー） ・公式戦	(授業方法) 9人制のルールを覚えゲームができるようになる リーグ戦で勝敗を付け順位を決める	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
11	中田	(授業内容) 6人制バレー ・フォーメーション （W型 ・三角形型フォーメーション） ・ローテーション ・アウト ・オブ ・ポジション	(授業方法) 6人制のルール （ローテーション・アウトオブポジション）を説明し、覚えることができる	（予習1h）ローテーション、アウト ・オブ ・ポジションについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
12	中田	(授業内容) 6人制バレー ・リベロプレーヤーの説明 ・練習試合	(授業方法) ローテーション・アウトオブポジションの復習と、リベロプレーヤーについてしることができる ゲームの流れを学ぶ	（予習1h）リベロプレーヤーについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
13	中田	(授業方法) ゲーム（6人制バレー） ・公式戦	（授業内容） 6人制ゲームのルールを覚え、ゲームを行うことができる リーグ戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
14	中田	(授業方法) ゲーム（6人制バレー） ・公式戦	（授業内容） 6人制ゲームのルールを覚え、ゲームを行うことができる リーグ戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
15	中田	定期試験実施 実技テスト 筆記試験ではなく実技テストのみとする スパイク マンツーマン	(授業内容) 　スパイクを３本打ち、１本１０点で 　計３０点で計算 　マンツーマンは片方から打ち、１０　回連続でつなげる。打つ方、レシーブする方両方ができて合格	（予習1h）これまでの授業で学習した技術について確認しておく。 （復習1h）学習した内容について、学習ノートに授業全体のまとめを作成し理解を深める。

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（バレーボール）[共修⑤]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（バレーボール）[共修⑤]	対象学年	2年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	中田　学	ナンバリング	COA2136
担当教員	中田　学、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 バレーボールの基礎について学び、個人技術の向上、基本的な戦術、ビーチバレー、9人制、6人制のルール等を理解する。また、バレーボールは中学・高校でも授業として行われることも多く、教員採用試験においても様々な都道府県で実技科目として実施されている。本授業では、シラバスに記載してある内容（技術・戦術）について学んでいき、基礎が定着してきたらミニゲームなどの形式でリーグ戦を行っていく。スキルだけの向上ではなく、教員採用試験を視野に入れて授業を行っていく。
到達目標	【授業の到達目標】 1　バレーボールの特性を生かした基礎的トレーニング方法と学ぶことができる 2　各技能の指導法・審判法・ゲーム運営等を学習し、現場教育に即応できる能力を養うことができる 3　教員採用試験で行う技術レベルに到達することができる
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 技術的な向上はもちろん、バレーボールを通じて、コミュニケーションスキル、対人能力を身に付ける。 この科目は、スポーツ科学科において、 「スポーツ科学分野の専門的な実践力」を身に付けるという目的、および学位授与方針の達成に寄与する
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 実技科目のため、ケガなどで長期的にプレーをすることが出来ない場合は予め、相談するようにお願いします。 【履修上の注意】 技術の向上はもちろん、教員採用試験を視野に入れて授業を行っていきます。体調管理と向上心を持って授業に望んで下さい。 体育館で滑らないようなシューズ、できればバレーボールシューズの準備を勧めます。 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。また、遅刻及び早退についても減点を行う 【テキスト・参考書等】 蔦宗　浩二著、みるみる上達！バレーボール基礎からマスター　学研プラス出版、2015年 教科書として使用

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 授業態度・取り組み３０%、実技レベル５０%、バレーボールノート１０%、リーグ戦戦績１０%の割合で評価します。
評価基準	【成績評価の基準】 1　授業実施回数の2/3以上の出席をもって受験資格とする。 2　実技試験を行い評価する 3　バレーボールノートを提出し評価する 4　リーグ戦の対戦戦績を評価する

試験・課題に対するフィードバック方法

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
　課題レポートは翌週の授業で返却して、 定期試験については、評価や助言を各受講者へ口頭にてフィー ドバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
みるみる上達！バレーボール基礎からマスター	蔦宗浩二	学研		授業中に指示します

参考文献

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：中田　学 E-mail：m-nakata＊juntendo.ac.jp （＊は@マークです※セキュリティ上の理由） 【オフィスアワー】 日時：火曜～金曜　昼休み　放課後 場所：１号館5階1530室（中田） 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、できるだけ2日前までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	２０１３年～　順天堂大学　「バレーボール」授業担当 小学校からバレーボールを継続しており、2013年からは指導者としてバレーボールに携わっている。また小学生、中学生高校生を対象としたバレーボール教室なども実施しており、学校教育現場に求められる知識、技術、指導法を分かり易く解説する。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［実務経験のある教員による授業］ 高等学校における保健体育教員及びバレーボール部顧問としての経験を生かし、バレーボールに関する実践的な知識・技術を解説する。 【その他】 この授業科目は、中・高保健体育1種免許の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目として位置づけられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中田	(授業内容) ガイダンス 実技の選択決定 1年間の授業方針について	(授業方法) 希望を調査し、他種目との調整	（予習1h）シラバスの内容をよく読んでおく。 （復習1h）授業の方針や概要について理解し、学習ノートを準備する。
2	中田	(授業内容) ネットの張り方と円陣パス ・バレーボールネットの正しい張り方 ・バレーボールの準備運動の注意点 ・バレーボールのボールとレクリエーションボールの違い ・グループ分け ・円陣パス サーブ ・アンダーサーブ、フローターサーブ、サイドハンド、ジャンピングドライブ等	（授業方法） ・ネットの張り方を理解することができる ・バレーボールの導入（アイスブレーキング）を知る	（予習1h）ネットの張り方と円陣パスについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
3	中田	(授業内容) 映像による基本技術と指導法の鑑賞 ・アンダーパスとオーバーパス ・マンツーマン	(授業方法) アンダーパスとオーバーパスのポイント、指導法を理解する マンツーマンができるようになる	（予習1h）アンダーパスとオーバーパスについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
4	中田	(授業内容) スパイク ・スイング練習 ・踏み込み　助走 ・直上スパイク	(授業方法) スパイクのスイング、ステップを分解して練習し、繋げてできるようになる。	（予習1h）スパイクについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
5	中田	(授業内容) ・サーブレシーブと三段攻撃	(授業方法) サーブレシーブのポイント、指導法から三段攻撃とは何かを知ることができる	（予習1h）サーブレシーブと三段攻撃について事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
6	中田	(授業内容) スパイク ・ブロック ・スパイクの打ち込み ・スパイクゲーム ・ブロック面 ・手の出し方	(授業方法) スパイクが打てるようになる。 ブロックの形が習得できる	（予習1h）スパイク・ブロックについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
7	中田	(授業内容) ゲーム（ビーチバレー） ・試合のまわし方 ・ビーチバレーのルール ・3対3ゲーム（練習試合）	(授業方法) ミニゲームを行う。学んだ基礎技術をミニゲームで発揮することができる	（予習1h）ビーチバレーのルールについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
8	中田	(授業内容) ゲーム（ビーチバレー） ・3対3ゲーム（公式戦）	(授業方法) 学んだ基礎技術をミニゲームで発揮することができる公式戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）ゲームの進め方について事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
9	中田	(授業内容) 9人制バレー ・9人制バレーのルール ・6人制と9人制の違い ・９人制練習試合	(授業方法) 6人制と9人制の違いを知り、9人制バレーのルールを知ることができる 9人制の乱打練習を行う	（予習1h）9人制バレーのルールについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。

10	中田	(授業内容) ゲーム（9人制バレー） ・公式戦	(授業方法) 9人制のルールを覚えゲームができるようになる リーグ戦で勝敗を付け順位を決める	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
11	中田	(授業内容) 6人制バレー ・フォーメーション （W型 ・三角形型フォーメーション） ・ローテーション ・アウト ・オブ ・ポジション	(授業方法) 6人制のルール （ローテーション・アウトオブポジション）を説明し、覚えることができる	（予習1h）ローテーション、アウト ・オブ ・ポジションについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
12	中田	(授業内容) 6人制バレー ・リベロプレーヤーの説明 ・練習試合	(授業方法) ローテーション・アウトオブポジションの復習と、リベロプレーヤーについてしることができる ゲームの流れを学ぶ	（予習1h）リベロプレーヤーについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
13	中田	(授業方法) ゲーム（6人制バレー） ・公式戦	（授業内容） 6人制ゲームのルールを覚え、ゲームを行うことができる リーグ戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
14	中田	(授業方法) ゲーム（6人制バレー） ・公式戦	（授業内容） 6人制ゲームのルールを覚え、ゲームを行うことができる リーグ戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
15	中田	定期試験実施 実技テスト 筆記試験ではなく実技テストのみとする スパイク マンツーマン	(授業内容) 　スパイクを３本打ち、１本１０点で 　計３０点で計算 　マンツーマンは片方から打ち、１０　回連続でつなげる。打つ方、レシーブする方両方ができて合格	（予習1h）これまでの授業で学習した技術について確認しておく。 （復習1h）学習した内容について、学習ノートに授業全体のまとめを作成し理解を深める。

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（バレーボール）[共修⑥]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（バレーボール）[共修⑥]	対象学年	2年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	中田　学	ナンバリング	COA2136
担当教員	中田　学、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 バレーボールの基礎について学び、個人技術の向上、基本的な戦術、ビーチバレー、9人制、6人制のルール等を理解する。また、バレーボールは中学・高校でも授業として行われることも多く、教員採用試験においても様々な都道府県で実技科目として実施されている。本授業では、シラバスに記載してある内容（技術・戦術）について学んでいき、基礎が定着してきたらミニゲームなどの形式でリーグ戦を行っていく。スキルだけの向上ではなく、教員採用試験を視野に入れて授業を行っていく。
到達目標	【授業の到達目標】 1　バレーボールの特性を生かした基礎的トレーニング方法と学ぶことができる 2　各技能の指導法・審判法・ゲーム運営等を学習し、現場教育に即応できる能力を養うことができる 3　教員採用試験で行う技術レベルに到達することができる
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 技術的な向上はもちろん、バレーボールを通じて、コミュニケーションスキル、対人能力を身に付ける。 この科目は、スポーツ科学科において、 「スポーツ科学分野の専門的な実践力」を身に付けるという目的、および学位授与方針の達成に寄与する
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 実技科目のため、ケガなどで長期的にプレーをすることが出来ない場合は予め、相談するようにお願いします。 【履修上の注意】 技術の向上はもちろん、教員採用試験を視野に入れて授業を行っていきます。体調管理と向上心を持って授業に望んで下さい。 体育館で滑らないようなシューズ、できればバレーボールシューズの準備を勧めます。 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。また、遅刻及び早退についても減点を行う 【テキスト・参考書等】 蔦宗　浩二著、みるみる上達！バレーボール基礎からマスター　学研プラス出版、2015年 教科書として使用

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 授業態度・取り組み３０%、実技レベル５０%、バレーボールノート１０%、リーグ戦戦績１０%の割合で評価します。
評価基準	【成績評価の基準】 1　授業実施回数の2/3以上の出席をもって受験資格とする。 2　実技試験を行い評価する 3　バレーボールノートを提出し評価する 4　リーグ戦の対戦戦績を評価する

試験・課題に対するフィードバック方法

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
　課題レポートは翌週の授業で返却して、 定期試験については、評価や助言を各受講者へ口頭にてフィー ドバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
みるみる上達！バレーボール基礎からマスター	蔦宗浩二	学研		授業中に指示します

参考文献

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：中田　学 E-mail：m-nakata＊juntendo.ac.jp （＊は@マークです※セキュリティ上の理由） 【オフィスアワー】 日時：火曜～金曜　昼休み　放課後 場所：１号館5階1530室（中田） 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、できるだけ2日前までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。
担当教員の実務経験	２０１３年～　順天堂大学　「バレーボール」授業担当 小学校からバレーボールを継続しており、2013年からは指導者としてバレーボールに携わっている。また小学生、中学生高校生を対象としたバレーボール教室なども実施しており、学校教育現場に求められる知識、技術、指導法を分かり易く解説する。

備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［実務経験のある教員による授業］ 高等学校における保健体育教員及びバレーボール部顧問としての経験を生かし、バレーボールに関する実践的な知識・技術を解説する。 【その他】 この授業科目は、中・高保健体育1種免許の取得に必要な科目のうち、「教科に関する科目」における選択必修科目として位置づけられています。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中田	(授業内容) ガイダンス 実技の選択決定 1年間の授業方針について	(授業方法) 希望を調査し、他種目との調整	（予習1h）シラバスの内容をよく読んでおく。 （復習1h）授業の方針や概要について理解し、学習ノートを準備する。
2	中田	(授業内容) ネットの張り方と円陣パス ・バレーボールネットの正しい張り方 ・バレーボールの準備運動の注意点 ・バレーボールのボールとレクリエーションボールの違い ・グループ分け ・円陣パス サーブ ・アンダーサーブ、フローターサーブ、サイドハンド、ジャンピングドライブ等	（授業方法） ・ネットの張り方を理解することができる ・バレーボールの導入（アイスブレーキング）を知る	（予習1h）ネットの張り方と円陣パスについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
3	中田	(授業内容) 映像による基本技術と指導法の鑑賞 ・アンダーパスとオーバーパス ・マンツーマン	(授業方法) アンダーパスとオーバーパスのポイント、指導法を理解する マンツーマンができるようになる	（予習1h）アンダーパスとオーバーパスについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
4	中田	(授業内容) スパイク ・スイング練習 ・踏み込み　助走 ・直上スパイク	(授業方法) スパイクのスイング、ステップを分解して練習し、繋げてできるようになる。	（予習1h）スパイクについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
5	中田	(授業内容) ・サーブレシーブと三段攻撃	(授業方法) サーブレシーブのポイント、指導法から三段攻撃とは何かを知ることができる	（予習1h）サーブレシーブと三段攻撃について事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
6	中田	(授業内容) スパイク ・ブロック ・スパイクの打ち込み ・スパイクゲーム ・ブロック面 ・手の出し方	(授業方法) スパイクが打てるようになる。 ブロックの形が習得できる	（予習1h）スパイク・ブロックについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
7	中田	(授業内容) ゲーム（ビーチバレー） ・試合のまわし方 ・ビーチバレーのルール ・3対3ゲーム（練習試合）	(授業方法) ミニゲームを行う。学んだ基礎技術をミニゲームで発揮することができる	（予習1h）ビーチバレーのルールについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
8	中田	(授業内容) ゲーム（ビーチバレー） ・3対3ゲーム（公式戦）	(授業方法) 学んだ基礎技術をミニゲームで発揮することができる公式戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）ゲームの進め方について事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
9	中田	(授業内容) 9人制バレー ・9人制バレーのルール ・6人制と9人制の違い ・９人制練習試合	(授業方法) 6人制と9人制の違いを知り、9人制バレーのルールを知ることができる 9人制の乱打練習を行う	（予習1h）9人制バレーのルールについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。

10	中田	(授業内容) ゲーム（9人制バレー） ・公式戦	(授業方法) 9人制のルールを覚えゲームができるようになる リーグ戦で勝敗を付け順位を決める	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
11	中田	(授業内容) 6人制バレー ・フォーメーション （W型 ・三角形型フォーメーション） ・ローテーション ・アウト ・オブ ・ポジション	(授業方法) 6人制のルール （ローテーション・アウトオブポジション）を説明し、覚えることができる	（予習1h）ローテーション、アウト ・オブ ・ポジションについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
12	中田	(授業内容) 6人制バレー ・リベロプレーヤーの説明 ・練習試合	(授業方法) ローテーション・アウトオブポジションの復習と、リベロプレーヤーについてしることができる ゲームの流れを学ぶ	（予習1h）リベロプレーヤーについて事前に調べておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
13	中田	(授業方法) ゲーム（6人制バレー） ・公式戦	（授業内容） 6人制ゲームのルールを覚え、ゲームを行うことができる リーグ戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
14	中田	(授業方法) ゲーム（6人制バレー） ・公式戦	（授業内容） 6人制ゲームのルールを覚え、ゲームを行うことができる リーグ戦を行い、勝敗をつける	（予習1h）公式戦の結果をもとに戦術について確認しておく。 （復習1h）授業で学習した内容について、学習ノートにまとめ理解を深める。
15	中田	定期試験実施 実技テスト 筆記試験ではなく実技テストのみとする スパイク マンツーマン	(授業内容) 　スパイクを３本打ち、１本１０点で 　計３０点で計算 　マンツーマンは片方から打ち、１０　回連続でつなげる。打つ方、レシーブする方両方ができて合格	（予習1h）これまでの授業で学習した技術について確認しておく。 （復習1h）学習した内容について、学習ノートに授業全体のまとめを作成し理解を深める。

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（テニス）[共修④]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（テニス）[共修④]	対象学年	2年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	高橋　徹	ナンバリング	COA2136
担当教員	高橋　徹、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 テニスの技能を習得し、その指導法と基礎理論について理解を深める。 テニスの歴史・運動特性等の基礎理論を理解し、グランドストロークやサービスなどの基本動作やラリーなどの対人応用技能とその指導方法を学ぶ。ルールを理解するとともに対人応用技能を活用した戦略・戦術についても学習し、公式ルールに則った試合を出来るようにする。技術の習得には映像などを活用した技術確認を行い、テニス技能の段階的指導法も身につくようにする。
到達目標	【授業の到達目標】 1.テニスの歴史やコートの図示およびラインの名称，基本的なルールの説明ができる。 2.グランドストロークやサービスなどの基本動作やラリーなどの対人的技術が習得できる。 3ルール、戦略・戦術を理解し基本動作を対人応用技能に発展させ、試合が行えるようになる。 4.教育現場における安全を考慮したテニスの段階的指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、 スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」を身に付ける。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 授業内で使用するラケット、ボール等は各自の用具を特別に用意する必要はないが、テニスに適した服装・シューズを必ず着用すること。
成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 定期試験（30%）、実技試験（20%）、ゲーム評価（20%）、平常取り組み点（30%）を総合して評価する。
評価基準	【成績評価の基準】 1.テニスの歴史やコートの図示およびラインの名称，基本的なルールを理解している。（定期試験） 2.テニスの基本動作、対人ラリーについてその技術を修得している。（実技試験） 3.公式ルールに則り、対人応用技能を用い試合が行えるようになる。（ゲーム評価） 4.簡易な段階的指導方法を授業内で示すことが出来る。（平常評価）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中に課す実技課題およびレポートについては、授業内で解説する。
定期試験については、Juntendo Passportを使って解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【テキスト・参考書等】
適宜、Juntendo Passportを通して資料を配布します。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当： 高橋 徹 E-mail：to-takahashi@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 随時、Eメールで質問を受ける。
担当教員の実務経験	競技者として全日本選手権や国体に出場経験を持つ現役テニスコーチが、その経験を活かしてテニスの指導現場において求められる知識や技術を分かりやすく指導する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 ①この授業科目は、中・高保健体育一種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における選択必修科目として位置づけされています。 ②この授業科目は、中・高保健体育一種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目としての球技（ネット型）の選択科目として位置づけされています。 ③新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、授業計画及び成績評価の基準、方法を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	高橋	【授業内容】 ガイダンス、テニスの特性：授業目的及び概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方等について説明をする。	講義	【予習：0.5時間】 テニスの導入方法や用具について具体的に調べておくこと 【復習：0.5時間】 紹介された書籍やホームページ・映像等を閲覧する。
2	高橋	【授業内容】 テニスの導入１：「テニピン」を理解し段階的指導方法を習得する。	「テニピン」専用用具を使用してラリー、ゲームをする。	【予習：0.5時間】 テニスの導入の「テニピン」の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 テニスの導入の「テニピン」の段階的指導方法のポイントを整理する。
3	高橋	【授業内容】 テニスの導入2：「PLAY＆STAYプログラム」を理解し段階的指導方法を習得する。	テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の専用用具を使用してラリー、ゲームをする。	【予習：0.5時間】 テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の段階的指導方法のポイントを整理する。
4	高橋	【授業内容】 グランドストローク（フォア、バック）の基本動作及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びグランドストローク（フォア、バック）の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 グランドストローク（フォア、バック）の基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
5	高橋	【授業内容】 サービス・リターンの基本動作、段階的指導方法及びテニスのルールを理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びサービス、リターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 サービス・リターンの基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
6	高橋	【授業内容】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作、段階的指導方法及びテニスの試合のルールを理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びボレー（フォア、バック）、スマッシュの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
7	高橋	【授業内容】 グランドストロークの基本動作の対人技能への応用：グランドストロークの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのグランドストローク（フォア、バック）の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 グランドストローク（フォア、バック）のコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
8	高橋	【授業内容】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作の対人技能への応用：ボレー（フォア、バック）、スマッシュの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのボレー（フォア、バック）、スマッシュのコントロールの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュのコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
9	高橋	【授業内容】 サービス・リターンの基本動作の対人技能への応用：サービス・リターンの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのサービス・リターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 サービス・リターンのコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
10	高橋	【授業内容】 公式試合のルールとマナー、テニスコートサイズを理解する。	オンコートにて講義、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 インターネットや書籍等により、公式試合のルールやマナー、コートサイズについて調べておく。 【復習：0.5時間】 ポイントの数え方や、試合の進め方を整理する。
11	高橋	【授業内容】 シングルスにおける戦術：シングルスにおいての基本的戦術及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 シングルスの試合におけるプロテニスプレーヤーのポイントパターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 シングルスのポイントパターンを整理する。

12	高橋	【授業内容】 ダブルスにおける戦術：ダブルスにおいての基本的戦術を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 ダブルスの試合におけるプロテニスプレーヤーのポイントパターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ダブルスのポイントパターンを整理する。
13	高橋	【授業内容】 シングルスの試合：公式ルールに則りシングルスの試合をする。	ウォーミングアップ、試合	【予習：1.0時間】 プロテニスプレーヤーのシングルスの試合の映像を見ておく。 【復習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの戦術をもとに、映像等を用い授業内での自己の試合の分析をする。
14	高橋	【授業内容】 ダブルスの試合。公式ルールに則りダブルスの試合をする。	ウォーミングアップ、試合	【予習：1.0時間】 プロテニスプレーヤーのダブルスの試合の映像を見ておく。 【復習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの戦術をもとに、映像等を用い授業内での自己の試合の分析をする。
	高橋	定期試験		
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（テニス）[共修⑤]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（テニス）[共修⑤]	対象学年	2年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	高橋　徹	ナンバリング	COA2136
担当教員	高橋　徹、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 テニスの技能を習得し、その指導法と基礎理論について理解を深める。 テニスの歴史・運動特性等の基礎理論を理解し、グランドストロークやサービスなどの基本動作やラリーなどの対人応用技能とその指導方法を学ぶ。ルールを理解するとともに対人応用技能を活用した戦略・戦術についても学習し、公式ルールに則った試合を出来るようにする。技術の習得には映像などを活用した技術確認を行い、テニス技能の段階的指導法も身につくようにする。
到達目標	【授業の到達目標】 1.テニスの歴史やコートの図示およびラインの名称，基本的なルールの説明ができる。 2.グランドストロークやサービスなどの基本動作やラリーなどの対人的技術が習得できる。 3ルール、戦略・戦術を理解し基本動作を対人応用技能に発展させ、試合が行えるようになる。 4.教育現場における安全を考慮したテニスの段階的指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、 スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」を身に付ける。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 授業内で使用するラケット、ボール等は各自の用具を特別に用意する必要はないが、テニスに適した服装・シューズを必ず着用すること。

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 定期試験（30%）、実技試験（20%）、ゲーム評価（20%）、平常取り組み点（30%）を総合して評価する。
評価基準	【成績評価の基準】 1.テニスの歴史やコートの図示およびラインの名称，基本的なルールを理解している。（定期試験） 2.テニスの基本動作、対人ラリーについてその技術を修得している。（実技試験） 3.公式ルールに則り、対人応用技能を用い試合が行えるようになる。（ゲーム評価） 4.簡易な段階的指導方法を授業内で示すことが出来る。（平常評価）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中に課す実技課題およびレポートについては、授業内で解説する。
定期試験については、Juntendo Passportを使って解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【テキスト・参考書等】
適宜、Juntendo Passportを通して資料を配布します。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当： 高橋 徹 E-mail：to-takahashi@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 随時、Eメールで質問を受ける。
担当教員の実務経験	競技者として全日本選手権や国体に出場経験を持つ現役テニスコーチが、その経験を活かしてテニスの指導現場において求められる知識や技術を分かりやすく指導する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 ①この授業科目は、中・高保健体育一種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における選択必修科目として位置づけされています。 ②この授業科目は、中・高保健体育一種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目としての球技（ネット型）の選択科目として位置づけされています。 ③新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、授業計画及び成績評価の基準、方法を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	高橋	【授業内容】 ガイダンス、テニスの特性：授業目的及び概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方等について説明をする。	講義	【予習：0.5時間】 テニスの導入方法や用具について具体的に調べておくこと 【復習：0.5時間】 紹介された書籍やホームページ・映像等を閲覧する。
2	高橋	【授業内容】 テニスの導入１：「テニピン」を理解し段階的指導方法を習得する。	「テニピン」専用用具を使用してラリー、ゲームをする。	【予習：0.5時間】 テニスの導入の「テニピン」の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 テニスの導入の「テニピン」の段階的指導方法のポイントを整理する。
3	高橋	【授業内容】 テニスの導入2：「PLAY＆STAYプログラム」を理解し段階的指導方法を習得する。	テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の専用用具を使用してラリー、ゲームをする。	【予習：0.5時間】 テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の段階的指導方法のポイントを整理する。
4	高橋	【授業内容】 グランドストローク（フォア、バック）の基本動作及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びグランドストローク（フォア、バック）の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 グランドストローク（フォア、バック）の基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
5	高橋	【授業内容】 サービス・リターンの基本動作、段階的指導方法及びテニスのルールを理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びサービス、リターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 サービス・リターンの基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
6	高橋	【授業内容】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作、段階的指導方法及びテニスの試合のルールを理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びボレー（フォア、バック）、スマッシュの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
7	高橋	【授業内容】 グランドストロークの基本動作の対人技能への応用：グランドストロークの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのグランドストローク（フォア、バック）の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 グランドストローク（フォア、バック）のコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
8	高橋	【授業内容】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作の対人技能への応用：ボレー（フォア、バック）、スマッシュの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのボレー（フォア、バック）、スマッシュのコントロールの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュのコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
9	高橋	【授業内容】 サービス・リターンの基本動作の対人技能への応用：サービス・リターンの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのサービス・リターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 サービス・リターンのコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
10	高橋	【授業内容】 公式試合のルールとマナー、テニスコートサイズを理解する。	オンコートにて講義、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 インターネットや書籍等により、公式試合のルールやマナー、コートサイズについて調べておく。 【復習：0.5時間】 ポイントの数え方や、試合の進め方を整理する。
11	高橋	【授業内容】 シングルスにおける戦術：シングルスにおいての基本的戦術及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 シングルスの試合におけるプロテニスプレーヤーのポイントパターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 シングルスのポイントパターンを整理する。

12	高橋	【授業内容】 ダブルスにおける戦術：ダブルスにおいての基本的戦術を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 ダブルスの試合におけるプロテニスプレーヤーのポイントパターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ダブルスのポイントパターンを整理する。
13	高橋	【授業内容】 シングルスの試合：公式ルールに則りシングルスの試合をする。	ウォーミングアップ、試合	【予習：1.0時間】 プロテニスプレーヤーのシングルスの試合の映像を見ておく。 【復習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの戦術をもとに、映像等を用い授業内での自己の試合の分析をする。
14	高橋	【授業内容】 ダブルスの試合。公式ルールに則りダブルスの試合をする。	ウォーミングアップ、試合	【予習：1.0時間】 プロテニスプレーヤーのダブルスの試合の映像を見ておく。 【復習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの戦術をもとに、映像等を用い授業内での自己の試合の分析をする。
	高橋	定期試験		
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（テニス）[共修⑥]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（テニス）[共修⑥]	対象学年	2年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	高橋　徹	ナンバリング	COA2136
担当教員	高橋　徹、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	【授業全体の内容】 テニスの技能を習得し、その指導法と基礎理論について理解を深める。 テニスの歴史・運動特性等の基礎理論を理解し、グランドストロークやサービスなどの基本動作やラリーなどの対人応用技能とその指導方法を学ぶ。ルールを理解するとともに対人応用技能を活用した戦略・戦術についても学習し、公式ルールに則った試合を出来るようにする。技術の習得には映像などを活用した技術確認を行い、テニス技能の段階的指導法も身につくようにする。
到達目標	【授業の到達目標】 1.テニスの歴史やコートの図示およびラインの名称，基本的なルールの説明ができる。 2.グランドストロークやサービスなどの基本動作やラリーなどの対人的技術が習得できる。 3ルール、戦略・戦術を理解し基本動作を対人応用技能に発展させ、試合が行えるようになる。 4.教育現場における安全を考慮したテニスの段階的指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、 スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」を身に付ける。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 特になし 【履修上の注意（科目独自のルール）】 授業内で使用するラケット、ボール等は各自の用具を特別に用意する必要はないが、テニスに適した服装・シューズを必ず着用すること。

成績評価の方法	
評価方法	【成績評価の方法】 定期試験（30%）、実技試験（20%）、ゲーム評価（20%）、平常取り組み点（30%）を総合して評価する。
評価基準	【成績評価の基準】 1.テニスの歴史やコートの図示およびラインの名称，基本的なルールを理解している。（定期試験） 2.テニスの基本動作、対人ラリーについてその技術を修得している。（実技試験） 3.公式ルールに則り、対人応用技能を用い試合が行えるようになる。（ゲーム評価） 4.簡易な段階的指導方法を授業内で示すことが出来る。（平常評価）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中に課す実技課題およびレポートについては、授業内で解説する。
定期試験については、Juntendo Passportを使って解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

【テキスト・参考書等】
適宜、Juntendo Passportを通して資料を配布します。

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当： 高橋 徹 E-mail：to-takahashi@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 随時、Eメールで質問を受ける。
担当教員の実務経験	競技者として全日本選手権や国体に出場経験を持つ現役テニスコーチが、その経験を活かしてテニスの指導現場において求められる知識や技術を分かりやすく指導する。
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 【その他】 ①この授業科目は、中・高保健体育一種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における選択必修科目として位置づけされています。 ②この授業科目は、中・高保健体育一種免許状の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目としての球技（ネット型）の選択科目として位置づけされています。 ③新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、授業計画及び成績評価の基準、方法を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	高橋	【授業内容】 ガイダンス、テニスの特性：授業目的及び概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方等について説明をする。	講義	【予習：0.5時間】 テニスの導入方法や用具について具体的に調べておくこと 【復習：0.5時間】 紹介された書籍やホームページ・映像等を閲覧する。
2	高橋	【授業内容】 テニスの導入１：「テニピン」を理解し段階的指導方法を習得する。	「テニピン」専用用具を使用してラリー、ゲームをする。	【予習：0.5時間】 テニスの導入の「テニピン」の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 テニスの導入の「テニピン」の段階的指導方法のポイントを整理する。
3	高橋	【授業内容】 テニスの導入2：「PLAY＆STAYプログラム」を理解し段階的指導方法を習得する。	テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の専用用具を使用してラリー、ゲームをする。	【予習：0.5時間】 テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 テニスの導入の「PLAY＆STAYプログラム」の段階的指導方法のポイントを整理する。
4	高橋	【授業内容】 グランドストローク（フォア、バック）の基本動作及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びグランドストローク（フォア、バック）の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 グランドストローク（フォア、バック）の基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
5	高橋	【授業内容】 サービス・リターンの基本動作、段階的指導方法及びテニスのルールを理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びサービス、リターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 サービス・リターンの基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
6	高橋	【授業内容】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作、段階的指導方法及びテニスの試合のルールを理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの試合及びボレー（フォア、バック）、スマッシュの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作及び段階的指導方法のポイントを整理する。
7	高橋	【授業内容】 グランドストロークの基本動作の対人技能への応用：グランドストロークの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのグランドストローク（フォア、バック）の映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 グランドストローク（フォア、バック）のコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
8	高橋	【授業内容】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュの基本動作の対人技能への応用：ボレー（フォア、バック）、スマッシュの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのボレー（フォア、バック）、スマッシュのコントロールの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ボレー（フォア、バック）、スマッシュのコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
9	高橋	【授業内容】 サービス・リターンの基本動作の対人技能への応用：サービス・リターンの速度、回転量などのボールコントロール方法及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 試合におけるプロテニスプレーヤーのサービス・リターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 サービス・リターンのコントロール方法及び段階的指導方法のポイントを整理する。
10	高橋	【授業内容】 公式試合のルールとマナー、テニスコートサイズを理解する。	オンコートにて講義、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 インターネットや書籍等により、公式試合のルールやマナー、コートサイズについて調べておく。 【復習：0.5時間】 ポイントの数え方や、試合の進め方を整理する。
11	高橋	【授業内容】 シングルスにおける戦術：シングルスにおいての基本的戦術及び段階的指導方法を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 シングルスの試合におけるプロテニスプレーヤーのポイントパターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 シングルスのポイントパターンを整理する。

12	高橋	【授業内容】 ダブルスにおける戦術：ダブルスにおいての基本的戦術を理解し習得する。	段階的練習、ラリー、簡易試合	【予習：0.5時間】 ダブルスの試合におけるプロテニスプレーヤーのポイントパターンの映像を見て確認しておく。 【復習：0.5時間】 ダブルスのポイントパターンを整理する。
13	高橋	【授業内容】 シングルスの試合：公式ルールに則りシングルスの試合をする。	ウォーミングアップ、試合	【予習：1.0時間】 プロテニスプレーヤーのシングルスの試合の映像を見ておく。 【復習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの戦術をもとに、映像等を用い授業内での自己の試合の分析をする。
14	高橋	【授業内容】 ダブルスの試合。公式ルールに則りダブルスの試合をする。	ウォーミングアップ、試合	【予習：1.0時間】 プロテニスプレーヤーのダブルスの試合の映像を見ておく。 【復習：0.5時間】 プロテニスプレーヤーの戦術をもとに、映像等を用い授業内での自己の試合の分析をする。
	高橋	定期試験		
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（卓球）[共修④]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（卓球）[共修④]	対象学年	2年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	吉田　和人	ナンバリング	COA2136
担当教員	吉田　和人、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は、実技の授業形態で行われる。「バレーボール」、「テニス」、「卓球」など、コート上でネットを挟んで相対するネット型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して、身体や用具を操作してボールを狙った場所に返球する基本理論や技術を学修する。そして、巧みなボールや用具の操作と、適切な位置取りなどの移動によって、相手と攻防を展開しゲームを楽しむとともに、戦術、ルール、審判法等について理解し、指導できる力を養う。 中学校・高等学校における卓球の授業実践力の形成を図ることをねらいとする。また、卓球の知識と技術を習得し、それらをゲームの場面で発揮できる能力を身につける必要がある。学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、実践するとともに、作戦を立ててゲームが展開できるようにする。この授業科目では、卓球の特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、技術の向上と戦術の理解を深める。
到達目標	１.サービスなどの基本動作やラリーなどの対人的技術が習得できる。 ２.ルール、戦略・戦術を理解し対人応用技能に発展させ、試合が行えるようになる。 ３.教育現場における安全を考慮した卓球の指導方法について理解できる。 ４.卓球の段階的指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「課題解決能力」、「倫理観」、「コミュニケーション能力とリーダーシップ」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修上の注意事項】 この授業では、練習やゲームにおいて、他者との協力が必要な場面がたくさんある。受講生全員が卓球を楽しみながら、効果的な学修のためにはどうすると良いかを意識しながら、授業に参加すること。 【履修要件】 特になし
成績評価の方法	
評価方法	平常点（10%）、課題レポート（10%）、定期試験（30%）、実技試験（50%）を総合して評価する。
評価基準	1.卓球の歴史や運動特性、基本動作や技術、戦術を理解している。（平常点・定期試験・実技試験） 2.卓球の基本動作、対人ラリーについてその技術を修得している。（平常点・定期試験・実技試験） 3.卓球のルールや技術、安全管理に関しての指導方法を理解している。（平常点・定期試験・実技試験） 4.授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点、課題レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中にポイントを解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
「書き込みながら自分で学ぶ　生涯スポーツのための卓球テキスト」（吉田和人著）

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当： 吉田 和人 連絡先については授業内で知らせます。 【オフィスアワー】 随時Eメール等で質問等を受け付けますが、その他詳しいことは、授業中に連絡します。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	吉田	ガイダンス	授業目的及び概要、シラバス、評価方法、学習指導要領の内容等について説明する。	（復習：1時間） 授業で紹介された書籍、映像などから、卓球とはどのようなスポーツであるかについて考察する。
2	吉田	ラケットの握り方、ラケットによるボール操作、ラリーを続けよう（フォアハンドロング）	ラケットによるボール操作、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 卓球の基本ストローク（ロング、ドライブ、ブロック）について、インターネットなどで調べる。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
3	吉田	ラリーを続けよう（フォアハンドロング、フォアハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
4	吉田	スポーツとは何か？「スポーツを楽しもう!」、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
5	吉田	ラリーを続けよう（フォアハンドロング、フォアハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
6	吉田	ラリーを続けよう（バックハンドロング、バックハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
7	吉田	コースを狙おう（フォアハンドブロック、フットワーク）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
8	吉田	コースを狙おう（バックハンドブロック、フォアハンドとバックハンドの切り替え）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
9	吉田	強打で決めよう（スマッシュ）、シングルスゲームを楽しもう（第一次リーグ戦）	球出し練習、ラリー、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
10	吉田	強打で決めよう（スマッシュ、ロビング）、シングルスゲームを楽しもう（第一次リーグ戦）	球出し練習、ラリー、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
11	吉田	回転を操作しよう（いろいろな回転のサービス）、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	いろいろな回転のサービスからのラリー、球出し練習、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。

12	吉田	回転を操作しよう（いろいろな回転のサービスに対するレシーブ）、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	いろいろな回転のサービスに対するレシーブからのラリー、球出し練習、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
13	吉田	運動技術習得のコツ「技術習得のメカニズムを知れば、運動音痴が克服される!?」、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	プリントによる講義、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
14	吉田	まとめの試合（団体戦）	プリントによる講義、試合	（予習：1時間） これまでの授業を振り返り、まとめの試合でベストのパフォーマンスを発揮するための作戦を考察する。 （復習：1時間） 授業全体を振り返り、自分の成果と課題を明らかにする。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（卓球）[共修⑤]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（卓球）[共修⑤]	対象学年	2年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	吉田　和人	ナンバリング	COA2136
担当教員	吉田　和人、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は、実技の授業形態で行われる。「バレーボール」、「テニス」、「卓球」など、コート上でネットを挟んで相対するネット型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して、身体や用具を操作してボールを狙った場所に返球する基本理論や技術を学修する。そして、巧みなボールや用具の操作と、適切な位置取りなどの移動によって、相手と攻防を展開しゲームを楽しむとともに、戦術、ルール、審判法等について理解し、指導できる力を養う。 中学校・高等学校における卓球の授業実践力の形成を図ることをねらいとする。また、卓球の知識と技術を習得し、それらをゲームの場面で発揮できる能力を身につける必要がある。学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、実践するとともに、作戦を立ててゲームが展開できるようにする。この授業科目では、卓球の特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、技術の向上と戦術の理解を深める。
到達目標	１.サービスなどの基本動作やラリーなどの対人的技術が習得できる。 ２.ルール、戦略・戦術を理解し対人応用技能に発展させ、試合が行えるようになる。 ３.教育現場における安全を考慮した卓球の指導方法について理解できる。 ４.卓球の段階的指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「課題解決能力」、「倫理観」、「コミュニケーション能力とリーダーシップ」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修上の注意事項】 この授業では、練習やゲームにおいて、他者との協力が必要な場面がたくさんある。受講生全員が卓球を楽しみながら、効果的な学修のためにはどうすると良いかを意識しながら、授業に参加すること。 【履修要件】 特になし

成績評価の方法	
評価方法	平常点（10%）、課題レポート（10%）、定期試験（30%）、実技試験（50%）を総合して評価する。
評価基準	1.卓球の歴史や運動特性、基本動作や技術、戦術を理解している。（平常点・定期試験・実技試験） 2.卓球の基本動作、対人ラリーについてその技術を修得している。（平常点・定期試験・実技試験） 3.卓球のルールや技術、安全管理に関しての指導方法を理解している。（平常点・定期試験・実技試験） 4.授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点、課題レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中にポイントを解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
「書き込みながら自分で学ぶ　生涯スポーツのための卓球テキスト」（吉田和人著）

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当： 吉田 和人 連絡先については授業内で知らせます。 【オフィスアワー】 随時Eメール等で質問等を受け付けますが、その他詳しいことは、授業中に連絡します。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	吉田	ガイダンス	授業目的及び概要、シラバス、評価方法、学習指導要領の内容等について説明する。	（復習：1時間） 授業で紹介された書籍、映像などから、卓球とはどのようなスポーツであるかについて考察する。
2	吉田	ラケットの握り方、ラケットによるボール操作、ラリーを続けよう（フォアハンドロング）	ラケットによるボール操作、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 卓球の基本ストローク（ロング、ドライブ、ブロック）について、インターネットなどで調べる。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
3	吉田	ラリーを続けよう（フォアハンドロング、フォアハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
4	吉田	スポーツとは何か？「スポーツを楽しもう!」、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
5	吉田	ラリーを続けよう（フォアハンドロング、フォアハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
6	吉田	ラリーを続けよう（バックハンドロング、バックハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
7	吉田	コースを狙おう（フォアハンドブロック、フットワーク）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
8	吉田	コースを狙おう（バックハンドブロック、フォアハンドとバックハンドの切り替え）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
9	吉田	強打で決めよう（スマッシュ）、シングルスゲームを楽しもう（第一次リーグ戦）	球出し練習、ラリー、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
10	吉田	強打で決めよう（スマッシュ、ロビング）、シングルスゲームを楽しもう（第一次リーグ戦）	球出し練習、ラリー、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
11	吉田	回転を操作しよう（いろいろな回転のサービス）、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	いろいろな回転のサービスからのラリー、球出し練習、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。

12	吉田	回転を操作しよう（いろいろな回転のサービスに対するレシーブ）、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	いろいろな回転のサービスに対するレシーブからのラリー、球出し練習、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
13	吉田	運動技術習得のコツ「技術習得のメカニズムを知れば、運動音痴が克服される!?」、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	プリントによる講義、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
14	吉田	まとめの試合（団体戦）	プリントによる講義、試合	（予習：1時間） これまでの授業を振り返り、まとめの試合でベストのパフォーマンスを発揮するための作戦を考察する。 （復習：1時間） 授業全体を振り返り、自分の成果と課題を明らかにする。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ネット型)（卓球）[共修⑥]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ネット型)（卓球）[共修⑥]	対象学年	2年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	吉田　和人	ナンバリング	COA2136
担当教員	吉田　和人、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は、実技の授業形態で行われる。「バレーボール」、「テニス」、「卓球」など、コート上でネットを挟んで相対するネット型の球技種目の中から１種目を選択し、その種目の実践を通して、身体や用具を操作してボールを狙った場所に返球する基本理論や技術を学修する。そして、巧みなボールや用具の操作と、適切な位置取りなどの移動によって、相手と攻防を展開しゲームを楽しむとともに、戦術、ルール、審判法等について理解し、指導できる力を養う。 中学校・高等学校における卓球の授業実践力の形成を図ることをねらいとする。また、卓球の知識と技術を習得し、それらをゲームの場面で発揮できる能力を身につける必要がある。学習指導要領に示された目標や学習内容等について解説し、実践するとともに、作戦を立ててゲームが展開できるようにする。この授業科目では、卓球の特性を理解して競技の楽しさに触れるとともに、技術の向上と戦術の理解を深める。
到達目標	１.サービスなどの基本動作やラリーなどの対人的技術が習得できる。 ２.ルール、戦略・戦術を理解し対人応用技能に発展させ、試合が行えるようになる。 ３.教育現場における安全を考慮した卓球の指導方法について理解できる。 ４.卓球の段階的指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は「課題解決能力」、「倫理観」、「コミュニケーション能力とリーダーシップ」という学位授与方針の達成に寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修上の注意事項】 この授業では、練習やゲームにおいて、他者との協力が必要な場面がたくさんある。受講生全員が卓球を楽しみながら、効果的な学修のためにはどうすると良いかを意識しながら、授業に参加すること。 【履修要件】 特になし

成績評価の方法	
評価方法	平常点（10%）、課題レポート（10%）、定期試験（30%）、実技試験（50%）を総合して評価する。
評価基準	1.卓球の歴史や運動特性、基本動作や技術、戦術を理解している。（平常点・定期試験・実技試験） 2.卓球の基本動作、対人ラリーについてその技術を修得している。（平常点・定期試験・実技試験） 3.卓球のルールや技術、安全管理に関しての指導方法を理解している。（平常点・定期試験・実技試験） 4.授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点、課題レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法

授業中にポイントを解説する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
「書き込みながら自分で学ぶ　生涯スポーツのための卓球テキスト」（吉田和人著）

その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当： 吉田 和人 連絡先については授業内で知らせます。 【オフィスアワー】 随時Eメール等で質問等を受け付けますが、その他詳しいことは、授業中に連絡します。
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による１単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	吉田	ガイダンス	授業目的及び概要、シラバス、評価方法、学習指導要領の内容等について説明する。	（復習：1時間） 授業で紹介された書籍、映像などから、卓球とはどのようなスポーツであるかについて考察する。
2	吉田	ラケットの握り方、ラケットによるボール操作、ラリーを続けよう（フォアハンドロング）	ラケットによるボール操作、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 卓球の基本ストローク（ロング、ドライブ、ブロック）について、インターネットなどで調べる。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
3	吉田	ラリーを続けよう（フォアハンドロング、フォアハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
4	吉田	スポーツとは何か？「スポーツを楽しもう!」、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
5	吉田	ラリーを続けよう（フォアハンドロング、フォアハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
6	吉田	ラリーを続けよう（バックハンドロング、バックハンドドライブ）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
7	吉田	コースを狙おう（フォアハンドブロック、フットワーク）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
8	吉田	コースを狙おう（バックハンドブロック、フォアハンドとバックハンドの切り替え）、いろいろなゲームを楽しもう	球出し練習、ラリー、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
9	吉田	強打で決めよう（スマッシュ）、シングルスゲームを楽しもう（第一次リーグ戦）	球出し練習、ラリー、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
10	吉田	強打で決めよう（スマッシュ、ロビング）、シングルスゲームを楽しもう（第一次リーグ戦）	球出し練習、ラリー、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
11	吉田	回転を操作しよう（いろいろな回転のサービス）、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	いろいろな回転のサービスからのラリー、球出し練習、簡易試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。

12	吉田	回転を操作しよう（いろいろな回転のサービスに対するレシーブ）、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	いろいろな回転のサービスに対するレシーブからのラリー、球出し練習、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
13	吉田	運動技術習得のコツ「技術習得のメカニズムを知れば、運動音痴が克服される!?」、シングルスゲームを楽しもう（第二次リーグ戦）	プリントによる講義、試合	（予習：0.5時間） 自分の課題を解消するための具体的な方法を考える。 （復習：0.5時間） 授業を振り返り、自分の課題を明らかにする。
14	吉田	まとめの試合（団体戦）	プリントによる講義、試合	（予習：1時間） これまでの授業を振り返り、まとめの試合でベストのパフォーマンスを発揮するための作戦を考察する。 （復習：1時間） 授業全体を振り返り、自分の成果と課題を明らかにする。
		定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ベースボール型)（ソフトボール）[男子②]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ベースボール型)（ソフトボール）[男子②]	対象学年	2年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	吉村　雅文	ナンバリング	COA2137
担当教員	吉村　雅文、菅波　盛雄、大田　穂、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	ソフトボールは，学習指導要領（中学校・高等学校）において，球技のベースボール型に分類される運動種目です．本授業では，送球，捕球，打撃，走塁，投球などの基本的な技術を習得し，それらの実践を通して，ソフトボールの競技特性や技術構造を理解します．また，それらの技術の段階的な向上を目指す中で，ソフトボールの実践指導方法を身につけます．さらに，ルールや戦術，安全面への配慮など，指導の実践の際に必要な知識や留意点なども学習することで，正しく安全に楽しく指導できる力を身につけます．
到達目標	・ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる． ・ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる． ・ソフトボールの実践指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は，スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「社会や環境の変化に対応し，自ら課題を見つけ，スポーツ科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力【課題解決能力】」を身に付ける．
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 指定されたクラスを受講してください． 受講人数が50名を超える場合には，安全面の観点より履修制限を行う場合があります． 【履修上の注意（科目独自のルール）】 実技授業の際は，ソフトボールを実施する上で適切な服装およびシューズの着用を義務付けます．また，腕時計や指輪，ピアス等の装飾品は身につけず，自分自身および他の受講者への安全の配慮を最優先してください．さらに，共有する用具を丁寧に扱い，授業内で求められる所作や態度を守ってください．

成績評価の方法	
評価方法	スキルテスト（40%），ミニテスト（20%），レポート（20%），平常点（20%）を総合して評価する．
評価基準	1．ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる．（スキルテスト） 2．ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる．（ミニテスト） 3．ソフトボールの実践指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．（レポート） 4．授業中の発言や取り組み姿勢によって受講態度を評価する．（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

ミニテストや課題提出後，試合実施後に，授業内で解説およびポイント等をフィードバックします．

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説　保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
ソフトボール指導教本（日本ソフトボール協会）
必要なテキスト・参考文献・資料に関しては，授業中に適宜配布します．

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：吉村雅文　E-mail：msyoshi[at]juntendo.ac.jp 大田　穂　E-mail：m.ota.tr[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 吉村 日時：月曜日および金曜日　12:00～12:50　場所：1号館5階、1528室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約があった学生を優先します。 できる限り、前日までにE-mailで予約するように心がけてください。 大田 日時：火曜日12:00~12:50　場所：1号館5階1515室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが，予約があった学生を優先します． 他者との重複を避けるため，前日までにE-mailで予約するようにしてください．
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業は，実技の授業形態による1単位の科目であり授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学習を必要とする内容を持って構成します．1回の授業時間は100分とします． 【その他】 新型コロナウイルス感染症の発生状況により，授業計画等の変更をお願いする可能性があります． 天候状況により，授業計画等の変更（主に授業回の順番変更）をお願いする可能性があります． 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科および教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は，以下の資格取得の要件（選択必修）となっています． JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	吉村、菅波、大田	ガイダンス [授業内容] 授業の目的および概要について解説し，評価方法と授業の進め方，準備物等について説明する．	講義	【復習：1時間】 授業資料および指定された動画を閲覧し，ソフトボール競技についての理解を深める．
2	吉村、菅波、大田	投球の基本的技術　オーバーハンドスローを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，オーバーハンドスローの一連の動作，ボールの握り方からリリースまでの投球時のポイントについて解説し実践する．また，投球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 オーバーハンドスローの映像を見て，投球のイメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 オーバーハンドスローの技術習得についてまとめる．
3	吉村、菅波、大田	キャッチボールの基本的技術　グラブ操作を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，グラブ操作や捕球時のポイントについて解説し実践する．また，キャッチボールを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 グラブ操作の映像を見て，捕球のイメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 グラブ操作の技術習得についてまとめる．
4	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術①　フライ捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，フライ捕球の一連の動作，フライ捕球時のポイントについて解説し実践する．また，フライ捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 フライ捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 フライ捕球の技術習得についてまとめる．
5	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術②　ゴロ捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ゴロ捕球の一連の動作，ゴロ捕球時のポイントについて解説し実践する．また，ゴロ捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ゴロ捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ゴロ捕球の技術習得についてまとめる．
6	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術③　ショートバウンド捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ショートバウンド捕球の一連の動作，ショートバウンド捕球時のポイントについて解説し実践する．また，ショートバウンド捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ショートバウンド捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ショートバウンド捕球の技術習得についてまとめる．
7	吉村、菅波、大田	打撃の基本的技術①　スイングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，スイングの一連の動作，スイング時のポイントについて解説し実践する．また，スイングを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 スイングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 スイングの技術習得についてまとめる．
8	吉村、菅波、大田	打撃の基本的技術②　トスバッティングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，トスバッティングの一連の動作，トスバッティング時のポイントについて解説し実践する．また，バッティングを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 バッティングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 バッティングの技術習得についてまとめる．
9	吉村、菅波、大田	ウインドミル投法の基本的技術①　ブラッシングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ウインドミル投法のリリース動作であるブラッシングのポイントについて解説し実践する．また，ウインドミル投法を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ウインドミル投法のブラッシングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ウインドミル投法のブラッシングの技術習得についてまとめる．
10	吉村、菅波、大田	ウインドミル投法の基本的技術②　ウインドミル投法を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ウインドミル投法の一連の動作，ウインドミル投球時のポイントについて解説し実践する．また，ウインドミル投法を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ウインドミル投法の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ウインドミル投法の技術習得についてまとめる．
11	吉村、菅波、大田	ソフトボールの基本的ルールおよび安全面への配慮　ソフトボールのルールを理解する． [授業内容] ソフトボールの基本的なルールを解説するとともに，学校体育でソフトボールの授業を展開する際に配慮すべき安全面やルールの工夫なども解説する．	講義	【予習：0.5時間】 ソフトボール特有のルールについて調べる． 【復習：0.5時間】 ソフトボールのルールについてまとめ，学校体育でのベースボール型授業の実践例についてもまとめる．

12	吉村、菅波、 大田	走塁の基本的技術と連係守備　走塁と連係守備を習得する. [授業内容] デモンストレーションを通して，走塁の一連の動作，走塁時のポイントについて解説し実践する．また，走塁を指導する際に留意すべき点についても解説する. 連係守備の基本的な考え方を解説し，各ポジションの動き方についても解説しながら実践する.	実技	【予習：0.5時間】 走塁と連係守備の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる. 【復習：0.5時間】 走塁と連係守備の技術習得についてまとめる.
13	吉村、菅波、 大田	ソフトボールの競技特性の理解　ソフトボールの競技特性について理解する. [授業内容] ソフトボールの競技特性について野球と比較しながら解説する．また，ソフトボールの競技特性を踏まえた戦術についても解説する.	講義	【予習：0.5時間】 ソフトボールの試合映像を見て，競技特性についてのイメージを掴む. 【復習：0.5時間】 ソフトボールの競技特性および戦術に関してまとめる.
14	吉村、菅波、 大田	試合 [授業内容] 試合を行う際の安全面への配慮や準備など試合の運営方法も含めて解説し，実践する.	実技	【予習：１時間】 ソフトボールのゲーム映像を見て，試合イメージを掴む. 【復習：１時間】 ソフトボールの安全かつ楽しい試合運営に関してまとめる.
		定期試験を実施しない.		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ベースボール型)（ソフトボール）[男子③]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ベースボール型)（ソフトボール）[男子③]	対象学年	2年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	吉村　雅文	ナンバリング	COA2137
担当教員	吉村　雅文、菅波　盛雄、大田　穂、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	ソフトボールは，学習指導要領（中学校・高等学校）において，球技のベースボール型に分類される運動種目です．本授業では，送球，捕球，打撃，走塁，投球などの基本的な技術を習得し，それらの実践を通して，ソフトボールの競技特性や技術構造を理解します．また，それらの技術の段階的な向上を目指す中で，ソフトボールの実践指導方法を身につけます．さらに，ルールや戦術，安全面への配慮など，指導の実践の際に必要な知識や留意点なども学習することで，正しく安全に楽しく指導できる力を身につけます．
到達目標	・ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる． ・ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる． ・ソフトボールの実践指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は，スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「社会や環境の変化に対応し，自ら課題を見つけ，スポーツ科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力【課題解決能力】」を身に付ける．
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 指定されたクラスを受講してください． 受講人数が50名を超える場合には，安全面の観点より履修制限を行う場合があります． 【履修上の注意（科目独自のルール）】 実技授業の際は，ソフトボールを実施する上で適切な服装およびシューズの着用を義務付けます．また，腕時計や指輪，ピアス等の装飾品は身につけず，自分自身および他の受講者への安全の配慮を最優先してください．さらに，共有する用具を丁寧に扱い，授業内で求められる所作や態度を守ってください．

成績評価の方法	
評価方法	スキルテスト（40%），ミニテスト（20%），レポート（20%），平常点（20%）を総合して評価する．
評価基準	1．ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる．（スキルテスト） 2．ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる．（ミニテスト） 3．ソフトボールの実践指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．（レポート） 4．授業中の発言や取り組み姿勢によって受講態度を評価する．（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

ミニテストや課題提出後，試合実施後に，授業内で解説およびポイント等をフィードバックします．

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説　保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
ソフトボール指導教本（日本ソフトボール協会）
必要なテキスト・参考文献・資料に関しては，授業中に適宜配布します．

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：吉村雅文　E-mail：msyoshi[at]juntendo.ac.jp 大田　穂　E-mail：m.ota.tr[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 吉村 日時：月曜日および金曜日　12:00～12:50　場所：1号館5階、1528室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約があった学生を優先します。 できる限り、前日までにE-mailで予約するように心がけてください。 大田 日時：火曜日12:00~12:50　場所：1号館5階1515室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが，予約があった学生を優先します． 他者との重複を避けるため，前日までにE-mailで予約するようにしてください．
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業は，実技の授業形態による1単位の科目であり授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学習を必要とする内容を持って構成します．1回の授業時間は100分とします． 【その他】 新型コロナウイルス感染症の発生状況により，授業計画等の変更をお願いする可能性があります． 天候状況により，授業計画等の変更（主に授業回の順番変更）をお願いする可能性があります． 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科および教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は，以下の資格取得の要件（選択必修）となっています． JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	吉村、菅波、大田	ガイダンス [授業内容] 授業の目的および概要について解説し，評価方法と授業の進め方，準備物等について説明する．	講義	【復習：1時間】 授業資料および指定された動画を閲覧し，ソフトボール競技についての理解を深める．
2	吉村、菅波、大田	投球の基本的技術　オーバーハンドスローを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，オーバーハンドスローの一連の動作，ボールの握り方からリリースまでの投球時のポイントについて解説し実践する．また，投球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 オーバーハンドスローの映像を見て，投球のイメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 オーバーハンドスローの技術習得についてまとめる．
3	吉村、菅波、大田	キャッチボールの基本的技術　グラブ操作を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，グラブ操作や捕球時のポイントについて解説し実践する．また，キャッチボールを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 グラブ操作の映像を見て，捕球のイメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 グラブ操作の技術習得についてまとめる．
4	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術①　フライ捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，フライ捕球の一連の動作，フライ捕球時のポイントについて解説し実践する．また，フライ捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 フライ捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 フライ捕球の技術習得についてまとめる．
5	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術②　ゴロ捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ゴロ捕球の一連の動作，ゴロ捕球時のポイントについて解説し実践する．また，ゴロ捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ゴロ捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ゴロ捕球の技術習得についてまとめる．
6	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術③　ショートバウンド捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ショートバウンド捕球の一連の動作，ショートバウンド捕球時のポイントについて解説し実践する．また，ショートバウンド捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ショートバウンド捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ショートバウンド捕球の技術習得についてまとめる．
7	吉村、菅波、大田	打撃の基本的技術①　スイングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，スイングの一連の動作，スイング時のポイントについて解説し実践する．また，スイングを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 スイングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 スイングの技術習得についてまとめる．
8	吉村、菅波、大田	打撃の基本的技術②　トスバッティングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，トスバッティングの一連の動作，トスバッティング時のポイントについて解説し実践する．また，バッティングを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 バッティングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 バッティングの技術習得についてまとめる．
9	吉村、菅波、大田	ウインドミル投法の基本的技術①　ブラッシングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ウインドミル投法のリリース動作であるブラッシングのポイントについて解説し実践する．また，ウインドミル投法を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ウインドミル投法のブラッシングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ウインドミル投法のブラッシングの技術習得についてまとめる．
10	吉村、菅波、大田	ウインドミル投法の基本的技術②　ウインドミル投法を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ウインドミル投法の一連の動作，ウインドミル投球時のポイントについて解説し実践する．また，ウインドミル投法を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ウインドミル投法の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ウインドミル投法の技術習得についてまとめる．
11	吉村、菅波、大田	ソフトボールの基本的ルールおよび安全面への配慮　ソフトボールのルールを理解する． [授業内容] ソフトボールの基本的なルールを解説するとともに，学校体育でソフトボールの授業を展開する際に配慮すべき安全面やルールの工夫なども解説する．	講義	【予習：0.5時間】 ソフトボール特有のルールについて調べる． 【復習：0.5時間】 ソフトボールのルールについてまとめ，学校体育でのベースボール型授業の実践例についてもまとめる．

12	吉村、菅波、大田	走塁の基本的技術と連係守備　走塁と連係守備を習得する. [授業内容] デモンストレーションを通して，走塁の一連の動作，走塁時のポイントについて解説し実践する．また，走塁を指導する際に留意すべき点についても解説する. 連係守備の基本的な考え方を解説し，各ポジションの動き方についても解説しながら実践する.	実技	【予習：0.5時間】 走塁と連係守備の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる. 【復習：0.5時間】 走塁と連係守備の技術習得についてまとめる.
13	吉村、菅波、大田	ソフトボールの競技特性の理解　ソフトボールの競技特性について理解する. [授業内容] ソフトボールの競技特性について野球と比較しながら解説する．また，ソフトボールの競技特性を踏まえた戦術についても解説する.	講義	【予習：0.5時間】 ソフトボールの試合映像を見て，競技特性についてのイメージを掴む. 【復習：0.5時間】 ソフトボールの競技特性および戦術に関してまとめる.
14	吉村、菅波、大田	試合 [授業内容] 試合を行う際の安全面への配慮や準備など試合の運営方法も含めて解説し，実践する.	実技	【予習：１時間】 ソフトボールのゲーム映像を見て，試合イメージを掴む. 【復習：１時間】 ソフトボールの安全かつ楽しい試合運営に関してまとめる.
		定期試験を実施しない.		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ベースボール型)（ソフトボール）[男子④]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ベースボール型)（ソフトボール）[男子④]	対象学年	2年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	吉村　雅文	ナンバリング	COA2137
担当教員	吉村　雅文、菅波　盛雄、大田　穂、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	ソフトボールは，学習指導要領（中学校・高等学校）において，球技のベースボール型に分類される運動種目です．本授業では，送球，捕球，打撃，走塁，投球などの基本的な技術を習得し，それらの実践を通して，ソフトボールの競技特性や技術構造を理解します．また，それらの技術の段階的な向上を目指す中で，ソフトボールの実践指導方法を身につけます．さらに，ルールや戦術，安全面への配慮など，指導の実践の際に必要な知識や留意点なども学習することで，正しく安全に楽しく指導できる力を身につけます．
到達目標	・ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる． ・ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる． ・ソフトボールの実践指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は，スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「社会や環境の変化に対応し，自ら課題を見つけ，スポーツ科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力【課題解決能力】」を身に付ける．
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 指定されたクラスを受講してください． 受講人数が50名を超える場合には，安全面の観点より履修制限を行う場合があります． 【履修上の注意（科目独自のルール）】 実技授業の際は，ソフトボールを実施する上で適切な服装およびシューズの着用を義務付けます．また，腕時計や指輪，ピアス等の装飾品は身につけず，自分自身および他の受講者への安全の配慮を最優先してください．さらに，共有する用具を丁寧に扱い，授業内で求められる所作や態度を守ってください．

成績評価の方法	
評価方法	スキルテスト（40%），ミニテスト（20%），レポート（20%），平常点（20%）を総合して評価する．
評価基準	1．ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる．（スキルテスト） 2．ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる．（ミニテスト） 3．ソフトボールの実践指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．（レポート） 4．授業中の発言や取り組み姿勢によって受講態度を評価する．（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

ミニテストや課題提出後，試合実施後に，授業内で解説およびポイント等をフィードバックします．

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説　保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
ソフトボール指導教本（日本ソフトボール協会）
必要なテキスト・参考文献・資料に関しては，授業中に適宜配布します．

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：吉村雅文　E-mail：msyoshi[at]juntendo.ac.jp 大田　穂　E-mail：m.ota.tr[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 吉村 日時：月曜日および金曜日　12:00～12:50　場所：1号館5階、1528室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約があった学生を優先します。 できる限り、前日までにE-mailで予約するように心がけてください。 大田 日時：火曜日12:00~12:50　場所：1号館5階1515室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが，予約があった学生を優先します． 他者との重複を避けるため，前日までにE-mailで予約するようにしてください．
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業は，実技の授業形態による1単位の科目であり授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学習を必要とする内容を持って構成します．1回の授業時間は100分とします． 【その他】 新型コロナウイルス感染症の発生状況により，授業計画等の変更をお願いする可能性があります． 天候状況により，授業計画等の変更（主に授業回の順番変更）をお願いする可能性があります． 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科および教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は，以下の資格取得の要件（選択必修）となっています． JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	吉村、菅波、大田	ガイダンス [授業内容] 授業の目的および概要について解説し，評価方法と授業の進め方，準備物等について説明する．	講義	【復習：1時間】 授業資料および指定された動画を閲覧し，ソフトボール競技についての理解を深める．
2	吉村、菅波、大田	投球の基本的技術　オーバーハンドスローを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，オーバーハンドスローの一連の動作，ボールの握り方からリリースまでの投球時のポイントについて解説し実践する．また，投球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 オーバーハンドスローの映像を見て，投球のイメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 オーバーハンドスローの技術習得についてまとめる．
3	吉村、菅波、大田	キャッチボールの基本的技術　グラブ操作を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，グラブ操作や捕球時のポイントについて解説し実践する．また，キャッチボールを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 グラブ操作の映像を見て，捕球のイメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 グラブ操作の技術習得についてまとめる．
4	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術①　フライ捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，フライ捕球の一連の動作，フライ捕球時のポイントについて解説し実践する．また，フライ捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 フライ捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 フライ捕球の技術習得についてまとめる．
5	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術②　ゴロ捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ゴロ捕球の一連の動作，ゴロ捕球時のポイントについて解説し実践する．また，ゴロ捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ゴロ捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ゴロ捕球の技術習得についてまとめる．
6	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術③　ショートバウンド捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ショートバウンド捕球の一連の動作，ショートバウンド捕球時のポイントについて解説し実践する．また，ショートバウンド捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ショートバウンド捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ショートバウンド捕球の技術習得についてまとめる．
7	吉村、菅波、大田	打撃の基本的技術①　スイングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，スイングの一連の動作，スイング時のポイントについて解説し実践する．また，スイングを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 スイングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 スイングの技術習得についてまとめる．
8	吉村、菅波、大田	打撃の基本的技術②　トスバッティングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，トスバッティングの一連の動作，トスバッティング時のポイントについて解説し実践する．また，バッティングを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 バッティングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 バッティングの技術習得についてまとめる．
9	吉村、菅波、大田	ウインドミル投法の基本的技術①　ブラッシングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ウインドミル投法のリリース動作であるブラッシングのポイントについて解説し実践する．また，ウインドミル投法を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ウインドミル投法のブラッシングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ウインドミル投法のブラッシングの技術習得についてまとめる．
10	吉村、菅波、大田	ウインドミル投法の基本的技術②　ウインドミル投法を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ウインドミル投法の一連の動作，ウインドミル投球時のポイントについて解説し実践する．また，ウインドミル投法を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ウインドミル投法の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ウインドミル投法の技術習得についてまとめる．
11	吉村、菅波、大田	ソフトボールの基本的ルールおよび安全面への配慮　ソフトボールのルールを理解する． [授業内容] ソフトボールの基本的なルールを解説するとともに，学校体育でソフトボールの授業を展開する際に配慮すべき安全面やルールの工夫なども解説する．	講義	【予習：0.5時間】 ソフトボール特有のルールについて調べる． 【復習：0.5時間】 ソフトボールのルールについてまとめ，学校体育でのベースボール型授業の実践例についてもまとめる．

12	吉村、菅波、 大田	走塁の基本的技術と連係守備　走塁と連係守備を習得する. [授業内容] デモンストレーションを通して，走塁の一連の動作，走塁時のポイントについて解説し実践する．また，走塁を指導する際に留意すべき点についても解説する. 連係守備の基本的な考え方を解説し，各ポジションの動き方についても解説しながら実践する.	実技	【予習：0.5時間】 走塁と連係守備の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる. 【復習：0.5時間】 走塁と連係守備の技術習得についてまとめる.
13	吉村、菅波、 大田	ソフトボールの競技特性の理解　ソフトボールの競技特性について理解する. [授業内容] ソフトボールの競技特性について野球と比較しながら解説する．また，ソフトボールの競技特性を踏まえた戦術についても解説する.	講義	【予習：0.5時間】 ソフトボールの試合映像を見て，競技特性についてのイメージを掴む. 【復習：0.5時間】 ソフトボールの競技特性および戦術に関してまとめる.
14	吉村、菅波、 大田	試合 [授業内容] 試合を行う際の安全面への配慮や準備など試合の運営方法も含めて解説し，実践する.	実技	【予習：１時間】 ソフトボールのゲーム映像を見て，試合イメージを掴む. 【復習：１時間】 ソフトボールの安全かつ楽しい試合運営に関してまとめる.
		定期試験を実施しない.		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ベースボール型)（ソフトボール）[男子⑤]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ベースボール型)（ソフトボール）[男子⑤]	対象学年	2年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	吉村　雅文	ナンバリング	COA2137
担当教員	吉村　雅文、菅波　盛雄、大田　穂、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	ソフトボールは，学習指導要領（中学校・高等学校）において，球技のベースボール型に分類される運動種目です．本授業では，送球，捕球，打撃，走塁，投球などの基本的な技術を習得し，それらの実践を通して，ソフトボールの競技特性や技術構造を理解します．また，それらの技術の段階的な向上を目指す中で，ソフトボールの実践指導方法を身につけます．さらに，ルールや戦術，安全面への配慮など，指導の実践の際に必要な知識や留意点なども学習することで，正しく安全に楽しく指導できる力を身につけます．
到達目標	・ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる． ・ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる． ・ソフトボールの実践指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は，スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「社会や環境の変化に対応し，自ら課題を見つけ，スポーツ科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力【課題解決能力】」を身に付ける．
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 指定されたクラスを受講してください． 受講人数が50名を超える場合には，安全面の観点より履修制限を行う場合があります． 【履修上の注意（科目独自のルール）】 実技授業の際は，ソフトボールを実施する上で適切な服装およびシューズの着用を義務付けます．また，腕時計や指輪，ピアス等の装飾品は身につけず，自分自身および他の受講者への安全の配慮を最優先してください．さらに，共有する用具を丁寧に扱い，授業内で求められる所作や態度を守ってください．

成績評価の方法

評価方法	スキルテスト（40%），ミニテスト（20%），レポート（20%），平常点（20%）を総合して評価する．
評価基準	1．ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる．（スキルテスト） 2．ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる．（ミニテスト） 3．ソフトボールの実践指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．（レポート） 4．授業中の発言や取り組み姿勢によって受講態度を評価する．（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

ミニテストや課題提出後，試合実施後に，授業内で解説およびポイント等をフィードバックします．

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説　保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
ソフトボール指導教本（日本ソフトボール協会）
必要なテキスト・参考文献・資料に関しては，授業中に適宜配布します．

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：吉村雅文　E-mail：msyoshi[at]juntendo.ac.jp 大田　穂　E-mail：m.ota.tr[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 吉村 日時：月曜日および金曜日　12:00～12:50　場所：1号館5階、1528室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約があった学生を優先します。 できる限り、前日までにE-mailで予約するように心がけてください。 大田 日時：火曜日12:00~12:50　場所：1号館5階1515室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが，予約があった学生を優先します． 他者との重複を避けるため，前日までにE-mailで予約するようにしてください．
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業は，実技の授業形態による1単位の科目であり授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学習を必要とする内容を持って構成します．1回の授業時間は100分とします． 【その他】 新型コロナウイルス感染症の発生状況により，授業計画等の変更をお願いする可能性があります． 天候状況により，授業計画等の変更（主に授業回の順番変更）をお願いする可能性があります． 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科および教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は，以下の資格取得の要件（選択必修）となっています． JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	吉村、菅波、大田	ガイダンス [授業内容] 授業の目的および概要について解説し，評価方法と授業の進め方，準備物等について説明する．	講義	【復習：1時間】 授業資料および指定された動画を閲覧し，ソフトボール競技についての理解を深める．
2	吉村、菅波、大田	投球の基本的技術　オーバーハンドスローを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，オーバーハンドスローの一連の動作，ボールの握り方からリリースまでの投球時のポイントについて解説し実践する．また，投球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 オーバーハンドスローの映像を見て，投球のイメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 オーバーハンドスローの技術習得についてまとめる．
3	吉村、菅波、大田	キャッチボールの基本的技術　グラブ操作を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，グラブ操作や捕球時のポイントについて解説し実践する．また，キャッチボールを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 グラブ操作の映像を見て，捕球のイメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 グラブ操作の技術習得についてまとめる．
4	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術①　フライ捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，フライ捕球の一連の動作，フライ捕球時のポイントについて解説し実践する．また，フライ捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 フライ捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 フライ捕球の技術習得についてまとめる．
5	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術②　ゴロ捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ゴロ捕球の一連の動作，ゴロ捕球時のポイントについて解説し実践する．また，ゴロ捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ゴロ捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ゴロ捕球の技術習得についてまとめる．
6	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術③　ショートバウンド捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ショートバウンド捕球の一連の動作，ショートバウンド捕球時のポイントについて解説し実践する．また，ショートバウンド捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ショートバウンド捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ショートバウンド捕球の技術習得についてまとめる．
7	吉村、菅波、大田	打撃の基本的技術①　スイングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，スイングの一連の動作，スイング時のポイントについて解説し実践する．また，スイングを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 スイングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 スイングの技術習得についてまとめる．
8	吉村、菅波、大田	打撃の基本的技術②　トスバッティングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，トスバッティングの一連の動作，トスバッティング時のポイントについて解説し実践する．また，バッティングを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 バッティングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 バッティングの技術習得についてまとめる．
9	吉村、菅波、大田	ウインドミル投法の基本的技術①　ブラッシングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ウインドミル投法のリリース動作であるブラッシングのポイントについて解説し実践する．また，ウインドミル投法を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ウインドミル投法のブラッシングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ウインドミル投法のブラッシングの技術習得についてまとめる．
10	吉村、菅波、大田	ウインドミル投法の基本的技術②　ウインドミル投法を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ウインドミル投法の一連の動作，ウインドミル投球時のポイントについて解説し実践する．また，ウインドミル投法を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ウインドミル投法の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ウインドミル投法の技術習得についてまとめる．
11	吉村、菅波、大田	ソフトボールの基本的ルールおよび安全面への配慮　ソフトボールのルールを理解する． [授業内容] ソフトボールの基本的なルールを解説するとともに，学校体育でソフトボールの授業を展開する際に配慮すべき安全面やルールの工夫なども解説する．	講義	【予習：0.5時間】 ソフトボール特有のルールについて調べる． 【復習：0.5時間】 ソフトボールのルールについてまとめ，学校体育でのベースボール型授業の実践例についてもまとめる．

12	吉村、菅波、 大田	走塁の基本的技術と連係守備　走塁と連係守備を習得する. [授業内容] デモンストレーションを通して，走塁の一連の動作，走塁時のポイントについて解説し実践する．また，走塁を指導する際に留意すべき点についても解説する. 連係守備の基本的な考え方を解説し，各ポジションの動き方についても解説しながら実践する.	実技	【予習：0.5時間】 走塁と連係守備の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる. 【復習：0.5時間】 走塁と連係守備の技術習得についてまとめる.
13	吉村、菅波、 大田	ソフトボールの競技特性の理解　ソフトボールの競技特性について理解する. [授業内容] ソフトボールの競技特性について野球と比較しながら解説する．また，ソフトボールの競技特性を踏まえた戦術についても解説する.	講義	【予習：0.5時間】 ソフトボールの試合映像を見て，競技特性についてのイメージを掴む. 【復習：0.5時間】 ソフトボールの競技特性および戦術に関してまとめる.
14	吉村、菅波、 大田	試合 [授業内容] 試合を行う際の安全面への配慮や準備など試合の運営方法も含めて解説し，実践する.	実技	【予習：１時間】 ソフトボールのゲーム映像を見て，試合イメージを掴む. 【復習：１時間】 ソフトボールの安全かつ楽しい試合運営に関してまとめる.
		定期試験を実施しない.		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】球技(ベースボール型)（ソフトボール）[女子③]	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】球技(ベースボール型)（ソフトボール）[女子③]	対象学年	2年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	吉村　雅文	ナンバリング	COA2137
担当教員	吉村　雅文、菅波　盛雄、大田　穂、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	ソフトボールは，学習指導要領（中学校・高等学校）において，球技のベースボール型に分類される運動種目です．本授業では，送球，捕球，打撃，走塁，投球などの基本的な技術を習得し，それらの実践を通して，ソフトボールの競技特性や技術構造を理解します．また，それらの技術の段階的な向上を目指す中で，ソフトボールの実践指導方法を身につけます．さらに，ルールや戦術，安全面への配慮など，指導の実践の際に必要な知識や留意点なども学習することで，正しく安全に楽しく指導できる力を身につけます．
到達目標	・ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる． ・ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる． ・ソフトボールの実践指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は，スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「社会や環境の変化に対応し，自ら課題を見つけ，スポーツ科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力【課題解決能力】」を身に付ける．
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 指定されたクラスを受講してください． 受講人数が50名を超える場合には，安全面の観点より履修制限を行う場合があります． 【履修上の注意（科目独自のルール）】 実技授業の際は，ソフトボールを実施する上で適切な服装およびシューズの着用を義務付けます．また，腕時計や指輪，ピアス等の装飾品は身につけず，自分自身および他の受講者への安全の配慮を最優先してください．さらに，共有する用具を丁寧に扱い，授業内で求められる所作や態度を守ってください．

成績評価の方法	
評価方法	スキルテスト（40%），ミニテスト（20%），レポート（20%），平常点（20%）を総合して評価する．
評価基準	1．ソフトボールにおける基本的技術をゲーム中に発揮することができる．（スキルテスト） 2．ソフトボール競技の競技特性やルール，戦術について理解し，説明することができる．（ミニテスト） 3．ソフトボールの実践指導に必要な知識，安全面への配慮や留意点などを理解し，説明することができる．（レポート） 4．授業中の発言や取り組み姿勢によって受講態度を評価する．（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

ミニテストや課題提出後，試合実施後に，授業内で解説およびポイント等をフィードバックします．

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説　保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）
ソフトボール指導教本（日本ソフトボール協会）
必要なテキスト・参考文献・資料に関しては，授業中に適宜配布します．

その他

連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：吉村雅文　E-mail：msyoshi[at]juntendo.ac.jp 大田　穂　E-mail：m.ota.tr[at]juntendo.ac.jp ※[at]を@に変更してください。 【オフィスアワー】 吉村 日時：月曜日および金曜日　12:00～12:50　場所：1号館5階、1528室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約があった学生を優先します。 できる限り、前日までにE-mailで予約するように心がけてください。 大田 日時：火曜日12:00~12:50　場所：1号館5階1515室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが，予約があった学生を優先します． 他者との重複を避けるため，前日までにE-mailで予約するようにしてください．
担当教員の実務経験	

備考	【学修時間】 この授業は，実技の授業形態による1単位の科目であり授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学習を必要とする内容を持って構成します．1回の授業時間は100分とします． 【その他】 新型コロナウイルス感染症の発生状況により，授業計画等の変更をお願いする可能性があります． 天候状況により，授業計画等の変更（主に授業回の順番変更）をお願いする可能性があります． 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科および教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は，以下の資格取得の要件（選択必修）となっています． JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	吉村、菅波、大田	ガイダンス [授業内容] 授業の目的および概要について解説し，評価方法と授業の進め方，準備物等について説明する．	講義	【復習：1時間】 授業資料および指定された動画を閲覧し，ソフトボール競技についての理解を深める．
2	吉村、菅波、大田	投球の基本的技術　オーバーハンドスローを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，オーバーハンドスローの一連の動作，ボールの握り方からリリースまでの投球時のポイントについて解説し実践する．また，投球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 オーバーハンドスローの映像を見て，投球のイメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 オーバーハンドスローの技術習得についてまとめる．
3	吉村、菅波、大田	キャッチボールの基本的技術　グラブ操作を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，グラブ操作や捕球時のポイントについて解説し実践する．また，キャッチボールを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 グラブ操作の映像を見て，捕球のイメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 グラブ操作の技術習得についてまとめる．
4	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術①　フライ捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，フライ捕球の一連の動作，フライ捕球時のポイントについて解説し実践する．また，フライ捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 フライ捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 フライ捕球の技術習得についてまとめる．
5	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術②　ゴロ捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ゴロ捕球の一連の動作，ゴロ捕球時のポイントについて解説し実践する．また，ゴロ捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ゴロ捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ゴロ捕球の技術習得についてまとめる．
6	吉村、菅波、大田	捕球の基本的技術③　ショートバウンド捕球を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ショートバウンド捕球の一連の動作，ショートバウンド捕球時のポイントについて解説し実践する．また，ショートバウンド捕球を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ショートバウンド捕球の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ショートバウンド捕球の技術習得についてまとめる．
7	吉村、菅波、大田	打撃の基本的技術①　スイングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，スイングの一連の動作，スイング時のポイントについて解説し実践する．また，スイングを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 スイングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 スイングの技術習得についてまとめる．
8	吉村、菅波、大田	打撃の基本的技術②　トスバッティングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，トスバッティングの一連の動作，トスバッティング時のポイントについて解説し実践する．また，バッティングを指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 バッティングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 バッティングの技術習得についてまとめる．
9	吉村、菅波、大田	ウインドミル投法の基本的技術①　ブラッシングを習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ウインドミル投法のリリース動作であるブラッシングのポイントについて解説し実践する．また，ウインドミル投法を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ウインドミル投法のブラッシングの映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ウインドミル投法のブラッシングの技術習得についてまとめる．
10	吉村、菅波、大田	ウインドミル投法の基本的技術②　ウインドミル投法を習得する． [授業内容] デモンストレーションを通して，ウインドミル投法の一連の動作，ウインドミル投球時のポイントについて解説し実践する．また，ウインドミル投法を指導する際に留意すべき点についても解説する．	実技	【予習：0.5時間】 ウインドミル投法の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる． 【復習：0.5時間】 ウインドミル投法の技術習得についてまとめる．
11	吉村、菅波、大田	ソフトボールの基本的ルールおよび安全面への配慮　ソフトボールのルールを理解する． [授業内容] ソフトボールの基本的なルールを解説するとともに，学校体育でソフトボールの授業を展開する際に配慮すべき安全面やルールの工夫なども解説する．	講義	【予習：0.5時間】 ソフトボール特有のルールについて調べる． 【復習：0.5時間】 ソフトボールのルールについてまとめ，学校体育でのベースボール型授業の実践例についてもまとめる．

12	吉村、菅波、 大田	走塁の基本的技術と連係守備　走塁と連係守備を習得する. [授業内容] デモンストレーションを通して，走塁の一連の動作，走塁時のポイントについて解説し実践する．また，走塁を指導する際に留意すべき点についても解説する. 連係守備の基本的な考え方を解説し，各ポジションの動き方についても解説しながら実践する.	実技	【予習：0.5時間】 走塁と連係守備の映像を見て，イメージを掴み，技術習得に役立てる. 【復習：0.5時間】 走塁と連係守備の技術習得についてまとめる.
13	吉村、菅波、 大田	ソフトボールの競技特性の理解　ソフトボールの競技特性について理解する. [授業内容] ソフトボールの競技特性について野球と比較しながら解説する．また，ソフトボールの競技特性を踏まえた戦術についても解説する.	講義	【予習：0.5時間】 ソフトボールの試合映像を見て，競技特性についてのイメージを掴む. 【復習：0.5時間】 ソフトボールの競技特性および戦術に関してまとめる.
14	吉村、菅波、 大田	試合 [授業内容] 試合を行う際の安全面への配慮や準備など試合の運営方法も含めて解説し，実践する.	実技	【予習：１時間】 ソフトボールのゲーム映像を見て，試合イメージを掴む. 【復習：１時間】 ソフトボールの安全かつ楽しい試合運営に関してまとめる.
		定期試験を実施しない.		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】ダンス ［男子①］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】ダンス ［男子①］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	中村　恭子	ナンバリング	DAE1138
担当教員	中村　恭子、伊藤　まこと、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 中学・高校のダンス領域の内容である創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンスの実技と指導法を学習する。即興創作やグループ創作を通じて発想力、表現力、協調性、課題解決能力を高め、ダンスの美的表現原理と創作技法の基礎知識と技能を身に付ける。中学・高校の保健体育教員としての視点で授業を捉え、ダンス学習指導法についての理解を深める。 また、健康・体力づくりの運動であるエアロビックダンスの理論と実技を学び、指導の基本技術を身に付ける。
到達目標	［授業の到達目標］ １．多様なダンスを学習してリズム感や身体操作能力、表現力を高め、自分の発想で表したい動きを見つけ、全身を大きく使いメリハリを付けて踊ることができる。 ２．動きとイメージやリズムの関係、動きのアレンジや動きを強調する表現方法、群の構成や空間の使い方、作品の展開や構成法について理解し、それらを応用してオリジナルの作品を創作・発表できる。 ３．グループ創作活動や発表・鑑賞を通して課題解決能力、対人調整力、自他の個性を認め合う態度を身に付けることができる。 ４．ダンス領域の各種ダンスの学習内容と学習指導法について理解し、良い動きを見分ける力と指導力を身に付けることができる。 ５．エアロビックダンスの基本理論を理解し、対面指導の示範やキューイングを取り入れた実技指導ができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO/JAF（日本エアロビック連盟）公認エアロビックコーチ1養成講習会免除適応コースの必修科目、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	［授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）］ この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付ける。また、スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力の基礎を身に付けることを目的とする。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 　中高保健体育科教員免許取得のための必修科目である本科目は指導力養成を目標の一つとしているため，指導者としての心構えをもって受講すること。生徒の立場で実技を体験しながらも指導者目線で授業を分析して欲しい。復習として授業内容を記録する学習ノートの記載においては指導者の立場で記述し、学習内容と方法、指導の要点をまとめて復習すること。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 遅刻・早退は30分以内とし、3回で1回分の欠席に換算する。試合等の欠席は事情を考慮はするが、欠席は欠席としてカウントするので注意すること。なお、ケガや故障等で全力全身での実技ができない場合でも、「今できる範囲で」授業に参加できるのがダンスの特徴でもあるので、できる範囲で参加すること。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 　実技力（表現力・創作力）60%、鑑賞評価力10%、知識・理解（学習ノート）20%、取り組む姿勢10%
評価基準	［成績評価の基準］ １．精一杯大きく、メリハリをつけて、なりきって踊っているか。独創的な動きや表現が工夫できるか。 ２．自他の動きや表現の良し悪しを判断し、観賞・評価できるか。 ３．ダンスの用語や美的表現原理を理解し、授業の進め方や効果的な指導方法について記述できるか。 ４．積極的に取り組み、仲間と協力して主体的に活動しているか。 ５．エアロビックダンスの基本理論を理解し，実技指導（対面指導の示範、キューイング）ができるか。

試験・課題に対するフィードバック方法

［課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法］
　平常時の実技の出来栄えについては、即時、口頭でフィードバックする。
　3回の実技試験では評価の観点（精一杯大きく動いているか・メリハリをつけて踊っているか・独創的な動きの工夫があるか・群や空間の工夫ができているか・なりきって踊っているか）の各項目について相互評価の結果を集計して示す。
　知識・理解については学習ノートを毎回提出させ、記述内容について具体的にコメントを記入して返却する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版　明日からトライ！ダンスの授業	全国ダンス・表現運動授業研究会編	大修館書店	9784469269185	

参考文献

『中学校学習指導要領解説　保健体育編』　文部科学省、東山書房、2018
『高等学校学習指導要領解説　保健体育　体育編』　文部科学省、東山書房、2019
『みんなでトライ！表現運動の授業』全国ダンス・表現運動授業研究会編、大修館書店、2015
その他、必要に応じて資料を適宜配布するので、テキストと合わせて授業の予習・復習に活用すること。

その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：中村恭子 E-mail：k-nakamu［at］juntendo.ac.jp ※［at］を＠に変更してください。 ［オフィスアワー］ 日時：前期：火曜日10:30-14:00, 木曜日10:30-14:00,　後期：月曜日10:30-15:00, 金曜日15:00-17:00 場所：１号館５階　1501号室 ただし、上記の時間帯においても会議等で不在の場合もあるので、前日までにE-mail等で確認・予約すること。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ 「中高保健体育科教員免許」取得のための必修科目である。また、（公財）健康・体力づくり事業財団「健康運動指導士」のエアロビックダンス講習免除科目として、本科目またはスポーツコーチング演習（ダンス）のいずれかの履修が必要である。 １クラスの受講人数が60人を超える場合は、「中高保健体育科教員免許」または「健康運動指導士」資格取得のための履修者を優先し、残りを抽選とする場合もある。 なお、新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中村恭子	［授業内容］ ガイダンス：授業内容と学び方、ダンスの特性と種類、先輩作品ビデオ鑑賞、ダンス・ウォームアップの特徴と効果 外国のフォークダンス①オクラホマ・ミキサー	［授業方法］ ダンスの特性や種類について、グループで討議し、意見交換する。 心と体をほぐし技能を高めるダンス・ウォームアップを体験し、その目的と効果について分析する。 オクラホマ・ミキサーの踊り方を理解し，仲間と教えあって習得し交流する。	（復習：1時間） ダンス学習ノートを作り、ダンスの特性や種類を整理する。 オクラホマ・ミキサーの由来と踊りの特徴を調べる。
2	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス①サンバ 「サンバのリズムでお祭りパレード」 現代的なリズムのダンス②ヒップホップ「足じゃんけんからヒップホップへ」 外国のフォークダンス② ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブー	［授業方法］ リズムに乗って即興的に踊り、多様な動きを工夫する。仲間の動きを即時に真似して踊り続ける。 足じゃんけんの動きをもとに簡単な動きの組み合わせを工夫する。仲間と教えあい続けて踊る。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ヒップホップ文化について調べる。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
3	中村恭子	（［授業内容］ 現代的なリズムのダンス③ロック「ロックのリズムで動く-止まる」 現代的なリズムのダンス④床の動き「床を使ってブレイクダンスみたいに」 外国のフォークダンス③ドードレブスカ・ポルカ	［授業方法］ 見つけた動きのリズムを変化させ、メリハリをつけて踊る。床を使った動きや回転技を工夫し短いフレーズを作る。バトル形式で他チームと踊り合う。 ドードレブスカ・ポルカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ヒップホップダンスにおけるダンスバトルの由来と特徴を調べる。 ドードレブスカ・ポルカの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。

4	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス⑤グループ作品創作	［授業方法］ 課題曲の中から好きな曲を選び、選択曲グループ内で分担して動きを創作する。動きを教え合い、グループで1曲通して踊れるように仕上げる。	（復習：1時間） グループで作った動きを練習し覚える。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
5	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス⑥作品発表会	［授業方法］ 修正と踊り込みで完成度を高め、発表する。 他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。	（予習：0.5時間） 作品のイメージに合った衣装を工夫し準備する。 ［復習：0.5時間］ 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
6	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス①物［小道具］を使って「しんぶんし」 日本の民踊①よさこい鳴子踊り	［授業方法］ 即興で新聞紙の動きを模倣し、多様な体の使い方を工夫してひと流れの動きを作り踊る。 他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 よさこい鳴子踊りの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） よさこい鳴子踊りの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「物［小道具］を使って」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
7	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス②対極の動きの連続「走る-止まる」 日本の民踊②郡上踊り「げんげんばらばら」	［授業方法］ メリハリのある「走る-止まる」のひと流れを即興で多様に変化させて踊り、仲間とイメージと動きを共有、ひとまとまりの表現を作り踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 郡上踊り「げんげんばらばら」の踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） 郡上踊りの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「対極の動きの連続」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
8	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス③身近な生活と日常動作「スポーツ名場面集～感動の瞬間をもう一度」 外国のフォークダンス④ハーモニカ	［授業方法］ 各種スポーツの特徴をとらえて動きをデッサンし、仲間と動きを共有、ひとまとまりの表現を作る。特徴を強調するデフォルメ［変形］の方法を学び、表現を工夫して発表する。 他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 ハーモニカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ハーモニカの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「群［集団］の動き」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。

9	中村恭子	（［授業内容］ 創作ダンス④多様な感じ・群［集団］の動き「旅立ちの刻」 外国のフォークダンス⑤オスロー・ワルツ	［授業方法］ 嬉しい、悲しい、流れるような、ごつごつした、などの感じのある動きと、大回り-小回り、高中低の群像、密集-分散などの群の動きを取り入れながら「旅立ちの刻」をテーマに踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 オスロ-・ワルツの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） オスロー・ワルツの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「身近な生活と日常動作」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
10	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑤はこびとストーリー「事件発生」 グループ作品創作のグループ分け、デッサン 外国のフォークダンス⑥バージニア・リール	［授業方法］ 作品として表現したい「事件」を選んでグループを作り、表したいイメージを深め、はこびを考える。各場面での使用曲を決める。グループで場面を分担して中核となる動きをデッサンする。 バージニア・リールの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） バージニア・リールの由来と踊りの特徴を調べる。身近な「事件」のうちダンスで表現できそうな題材を考える。 （復習：1時間） 分担部分の動きを完成させる。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
11	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑥「事件発生」グループ作品創作	［授業方法］ 各場面に相応しい曲を選ぶ。分担した場面の動きを教えあい、群の構成を工夫して作品全体を仕上げる。	（予習：0.5時間） 分担部分に相応しい使用曲［候補曲］を探す。 （復習：1時間） グループで作った動きや群構成を覚え、スムーズに動けるように練習する。本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
12	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑦「事件発生」グループ作品発表会 ビデオ鑑賞会と相互評価	［授業方法］ 作品を踊り込み、発表する。他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。	【（予習：0.5時間） 作品の使用曲を編集する。相応しい衣装を準備する。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
13	中村恭子	［授業内容］ エアロビックダンスの特性と基本理論 実技指導技術①基本ステップと名称の理解、正確で明確な動作の習得	［授業方法］ エアロビックダンスの特性、運動強度の設定について学び，目標心拍数の算出方法の演習を行う。指導者の動きを模倣して基本的なプログラムの動きを練習し、ステップ名称と動きの要点を理解する。	（予習：0.5時間） エアロビクスについて関連書籍を読む。 エアロビックダンスの基本ステップについて配布資料を読み理解する。 （復習：0.5時間） エアロビックダンスの運動強度設定と目標心拍数の算出方法についてまとめる。 基本的なプログラムを練習してスムーズに実演できるようにする。
14	中村恭子	［授業内容］ エアロビックダンスの指導の要点 実技指導技術②対面指導の示範、キューイング、実技指導実習と相互評価	［授業方法］ 基本的なプログラムのルーティンについて交代で模擬指導実習を行い、評価し合う。	（予習：0.5時間） 指導者の役割について配布資料を読み理解する。基本ステップの名称を覚える。 （復習：0.5時間） 基本的なプログラムの実技指導がスムーズに実演できるように練習する。 模擬指導実習の反省レポート。
	中村恭子	定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】ダンス ［男子③］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】ダンス ［男子③］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	中村　恭子	ナンバリング	DAE1138
担当教員	中村　恭子、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 中学・高校のダンス領域の内容である創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンスの実技と指導法を学習する。即興創作やグループ創作を通じて発想力、表現力、協調性、課題解決能力を高め、ダンスの美的表現原理と創作技法の基礎知識と技能を身に付ける。中学・高校の保健体育教員としての視点で授業を捉え、ダンス学習指導法についての理解を深める。 また、健康・体力づくりの運動であるエアロビックダンスの理論と実技を学び、指導の基本技術を身に付ける。
到達目標	［授業の到達目標］ １．多様なダンスを学習してリズム感や身体操作能力、表現力を高め、自分の発想で表したい動きを見つけ、全身を大きく使いメリハリを付けて踊ることができる。 ２．動きとイメージやリズムの関係、動きのアレンジや動きを強調する表現方法、群の構成や空間の使い方、作品の展開や構成法について理解し、それらを応用してオリジナルの作品を創作・発表できる。 ３．グループ創作活動や発表・鑑賞を通して課題解決能力、対人調整力、自他の個性を認め合う態度を身に付けることができる。 ４．ダンス領域の各種ダンスの学習内容と学習指導法について理解し、良い動きを見分ける力と指導力を身に付けることができる。 ５．エアロビックダンスの基本理論を理解し、対面指導の示範やキューイングを取り入れた実技指導ができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO/JAF（日本エアロビック連盟）公認エアロビックコーチ1養成講習会免除適応コースの必修科目、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	［授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）］ この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付ける。また、スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力の基礎を身に付けることを目的とする。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 　中高保健体育科教員免許取得のための必修科目である本科目は指導力養成を目標の一つとしているため，指導者としての心構えをもって受講すること。生徒の立場で実技を体験しながらも指導者目線で授業を分析して欲しい。復習として授業内容を記録する学習ノートの記載においては指導者の立場で記述し、学習内容と方法、指導の要点をまとめて復習すること。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 遅刻・早退は30分以内とし、3回で1回分の欠席に換算する。試合等の欠席は事情を考慮はするが、欠席は欠席としてカウントするので注意すること。なお、ケガや故障等で全力全身での実技ができない場合でも、「今できる範囲で」授業に参加できるのがダンスの特徴でもあるので、できる範囲で参加すること。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 　実技力（表現力・創作力）60%、鑑賞評価力10%、知識・理解（学習ノート）20%、取り組む姿勢10%
評価基準	［成績評価の基準］ １．精一杯大きく、メリハリをつけて、なりきって踊っているか。独創的な動きや表現が工夫できるか。 ２．自他の動きや表現の良し悪しを判断し、観賞・評価できるか。 ３．ダンスの用語や美的表現原理を理解し、授業の進め方や効果的な指導方法について記述できるか。 ４．積極的に取り組み、仲間と協力して主体的に活動しているか。 ５．エアロビックダンスの基本理論を理解し，実技指導（対面指導の示範、キューイング）ができるか。

試験・課題に対するフィードバック方法

［課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法］
　平常時の実技の出来栄えについては、即時、口頭でフィードバックする。
　3回の実技試験では評価の観点（精一杯大きく動いているか・メリハリをつけて踊っているか・独創的な動きの工夫があるか・群や空間の工夫ができているか・なりきって踊っているか）の各項目について相互評価の結果を集計して示す。
　知識・理解については学習ノートを毎回提出させ、記述内容について具体的にコメントを記入して返却する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版　明日からトライ！ダンスの授業	全国ダンス・表現運動授業研究会編	大修館書店	9784469269185	

参考文献

『中学校学習指導要領解説　保健体育編』　文部科学省、東山書房、2018
『高等学校学習指導要領解説　保健体育　体育編』　文部科学省、東山書房、2019
『みんなでトライ！表現運動の授業』全国ダンス・表現運動授業研究会編、大修館書店、2015
その他、必要に応じて資料を適宜配布するので、テキストと合わせて授業の予習・復習に活用すること。

その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：中村恭子 E-mail：k-nakamu［at］juntendo.ac.jp ※［at］を＠に変更してください。 ［オフィスアワー］ 日時：前期：火曜日10:30-14:00, 木曜日10:30-14:00,　後期：月曜日10:30-15:00, 金曜日15:00-17:00 場所：１号館５階　1501号室 ただし、上記の時間帯においても会議等で不在の場合もあるので、前日までにE-mail等で確認・予約すること。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ 「中高保健体育科教員免許」取得のための必修科目である。また、（公財）健康・体力づくり事業財団「健康運動指導士」のエアロビックダンス講習免除科目として、本科目またはスポーツコーチング演習（ダンス）のいずれかの履修が必要である。 １クラスの受講人数が60人を超える場合は、「中高保健体育科教員免許」または「健康運動指導士」資格取得のための履修者を優先し、残りを抽選とする場合もある。 なお、新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中村恭子	［授業内容］ ガイダンス：授業内容と学び方、ダンスの特性と種類、先輩作品ビデオ鑑賞、ダンス・ウォームアップの特徴と効果 外国のフォークダンス①オクラホマ・ミキサー	［授業方法］ ダンスの特性や種類について、グループで討議し、意見交換する。 心と体をほぐし技能を高めるダンス・ウォームアップを体験し、その目的と効果について分析する。 オクラホマ・ミキサーの踊り方を理解し，仲間と教えあって習得し交流する。	（復習：1時間） ダンス学習ノートを作り、ダンスの特性や種類を整理する。 オクラホマ・ミキサーの由来と踊りの特徴を調べる。
2	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス①サンバ 「サンバのリズムでお祭りパレード」 現代的なリズムのダンス②ヒップホップ「足じゃんけんからヒップホップへ」 外国のフォークダンス② ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブー	［授業方法］ リズムに乗って即興的に踊り、多様な動きを工夫する。仲間の動きを即時に真似して踊り続ける。 足じゃんけんの動きをもとに簡単な動きの組み合わせを工夫する。仲間と教えあい続けて踊る。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ヒップホップ文化について調べる。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
3	中村恭子	（［授業内容］ 現代的なリズムのダンス③ロック「ロックのリズムで動く-止まる」 現代的なリズムのダンス④床の動き「床を使ってブレイクダンスみたいに」 外国のフォークダンス③ドードレブスカ・ポルカ	［授業方法］ 見つけた動きのリズムを変化させ、メリハリをつけて踊る。床を使った動きや回転技を工夫し短いフレーズを作る。バトル形式で他チームと踊り合う。 ドードレブスカ・ポルカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ヒップホップダンスにおけるダンスバトルの由来と特徴を調べる。 ドードレブスカ・ポルカの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。

4	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス⑤グループ作品創作	［授業方法］ 課題曲の中から好きな曲を選び、選択曲グループ内で分担して動きを創作する。動きを教え合い、グループで1曲通して踊れるように仕上げる。	（復習：1時間） グループで作った動きを練習し覚える。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
5	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス⑥作品発表会	［授業方法］ 修正と踊り込みで完成度を高め、発表する。 他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。	（予習：0.5時間） 作品のイメージに合った衣装を工夫し準備する。 ［復習：0.5時間］ 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
6	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス①物［小道具］を使って「しんぶんし」 日本の民踊①よさこい鳴子踊り	［授業方法］ 即興で新聞紙の動きを模倣し、多様な体の使い方を工夫してひと流れの動きを作り踊る。 他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 よさこい鳴子踊りの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） よさこい鳴子踊りの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「物［小道具］を使って」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
7	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス②対極の動きの連続「走る-止まる」 日本の民踊②郡上踊り「げんげんばらばら」	［授業方法］ メリハリのある「走る-止まる」のひと流れを即興で多様に変化させて踊り、仲間とイメージと動きを共有、ひとまとまりの表現を作り踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 郡上踊り「げんげんばらばら」の踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） 郡上踊りの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「対極の動きの連続」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
8	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス③身近な生活と日常動作「スポーツ名場面集～感動の瞬間をもう一度」 外国のフォークダンス④ハーモニカ	［授業方法］ 各種スポーツの特徴をとらえて動きをデッサンし、仲間と動きを共有、ひとまとまりの表現を作る。特徴を強調するデフォルメ［変形］の方法を学び、表現を工夫して発表する。 他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 ハーモニカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ハーモニカの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「群［集団］の動き」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。

9	中村恭子	（［授業内容］ 創作ダンス④多様な感じ・群［集団］の動き「旅立ちの刻」 外国のフォークダンス⑤オスロー・ワルツ	［授業方法］ 嬉しい、悲しい、流れるような、ごつごつした、などの感じのある動きと、大回り-小回り、高中低の群像、密集-分散などの群の動きを取り入れながら「旅立ちの刻」をテーマに踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 オスロ-・ワルツの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） オスロー・ワルツの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「身近な生活と日常動作」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
10	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑤はこびとストーリー「事件発生」 グループ作品創作のグループ分け、デッサン 外国のフォークダンス⑥バージニア・リール	［授業方法］ 作品として表現したい「事件」を選んでグループを作り、表したいイメージを深め、はこびを考える。各場面での使用曲を決める。グループで場面を分担して中核となる動きをデッサンする。 バージニア・リールの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） バージニア・リールの由来と踊りの特徴を調べる。身近な「事件」のうちダンスで表現できそうな題材を考える。 （復習：1時間） 分担部分の動きを完成させる。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
11	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑥「事件発生」グループ作品創作	［授業方法］ 各場面に相応しい曲を選ぶ。分担した場面の動きを教えあい、群の構成を工夫して作品全体を仕上げる。	（予習：0.5時間） 分担部分に相応しい使用曲［候補曲］を探す。 （復習：1時間） グループで作った動きや群構成を覚え、スムーズに動けるように練習する。本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
12	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑦「事件発生」グループ作品発表会 ビデオ鑑賞会と相互評価	［授業方法］ 作品を踊り込み、発表する。他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。	【（予習：0.5時間） 作品の使用曲を編集する。相応しい衣装を準備する。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
13	中村恭子	［授業内容］ エアロビックダンスの特性と基本理論 実技指導技術①基本ステップと名称の理解、正確で明確な動作の習得	［授業方法］ エアロビックダンスの特性、運動強度の設定について学び，目標心拍数の算出方法の演習を行う。指導者の動きを模倣して基本的なプログラムの動きを練習し、ステップ名称と動きの要点を理解する。	（予習：0.5時間） エアロビクスについて関連書籍を読む。 エアロビックダンスの基本ステップについて配布資料を読み理解する。 （復習：0.5時間） エアロビックダンスの運動強度設定と目標心拍数の算出方法についてまとめる。 基本的なプログラムを練習してスムーズに実演できるようにする。
14	中村恭子	［授業内容］ エアロビックダンスの指導の要点 実技指導技術②対面指導の示範、キューイング、実技指導実習と相互評価	［授業方法］ 基本的なプログラムのルーティンについて交代で模擬指導実習を行い、評価し合う。	（予習：0.5時間） 指導者の役割について配布資料を読み理解する。基本ステップの名称を覚える。 （復習：0.5時間） 基本的なプログラムの実技指導がスムーズに実演できるように練習する。 模擬指導実習の反省レポート。
	中村恭子	定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】ダンス ［女子①］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】ダンス ［女子①］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	中村　恭子	ナンバリング	DAE1138
担当教員	中村　恭子、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 中学・高校のダンス領域の内容である創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンスの実技と指導法を学習する。即興創作やグループ創作を通じて発想力、表現力、協調性、課題解決能力を高め、ダンスの美的表現原理と創作技法の基礎知識と技能を身に付ける。中学・高校の保健体育教員としての視点で授業を捉え、ダンス学習指導法についての理解を深める。 また、健康・体力づくりの運動であるエアロビックダンスの理論と実技を学び、指導の基本技術を身に付ける。
到達目標	［授業の到達目標］ １．多様なダンスを学習してリズム感や身体操作能力、表現力を高め、自分の発想で表したい動きを見つけ、全身を大きく使いメリハリを付けて踊ることができる。 ２．動きとイメージやリズムの関係、動きのアレンジや動きを強調する表現方法、群の構成や空間の使い方、作品の展開や構成法について理解し、それらを応用してオリジナルの作品を創作・発表できる。 ３．グループ創作活動や発表・鑑賞を通して課題解決能力、対人調整力、自他の個性を認め合う態度を身に付けることができる。 ４．ダンス領域の各種ダンスの学習内容と学習指導法について理解し、良い動きを見分ける力と指導力を身に付けることができる。 ５．エアロビックダンスの基本理論を理解し、対面指導の示範やキューイングを取り入れた実技指導ができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO/JAF（日本エアロビック連盟）公認エアロビックコーチ1養成講習会免除適応コースの必修科目、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	［授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）］ この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付ける。また、スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力の基礎を身に付けることを目的とする。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 　中高保健体育科教員免許取得のための必修科目である本科目は指導力養成を目標の一つとしているため，指導者としての心構えをもって受講すること。生徒の立場で実技を体験しながらも指導者目線で授業を分析して欲しい。復習として授業内容を記録する学習ノートの記載においては指導者の立場で記述し、学習内容と方法、指導の要点をまとめて復習すること。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 遅刻・早退は30分以内とし、3回で1回分の欠席に換算する。試合等の欠席は事情を考慮はするが、欠席は欠席としてカウントするので注意すること。なお、ケガや故障等で全力全身での実技ができない場合でも、「今できる範囲で」授業に参加できるのがダンスの特徴でもあるので、できる範囲で参加すること。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 　実技力（表現力・創作力）60%、鑑賞評価力10%、知識・理解（学習ノート）20%、取り組む姿勢10%
評価基準	［成績評価の基準］ １．精一杯大きく、メリハリをつけて、なりきって踊っているか。独創的な動きや表現が工夫できるか。 ２．自他の動きや表現の良し悪しを判断し、観賞・評価できるか。 ３．ダンスの用語や美的表現原理を理解し、授業の進め方や効果的な指導方法について記述できるか。 ４．積極的に取り組み、仲間と協力して主体的に活動しているか。 ５．エアロビックダンスの基本理論を理解し，実技指導（対面指導の示範、キューイング）ができるか。

試験・課題に対するフィードバック方法

［課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法］
　平常時の実技の出来栄えについては、即時、口頭でフィードバックする。
　3回の実技試験では評価の観点（精一杯大きく動いているか・メリハリをつけて踊っているか・独創的な動きの工夫があるか・群や空間の工夫ができているか・なりきって踊っているか）の各項目について相互評価の結果を集計して示す。
　知識・理解については学習ノートを毎回提出させ、記述内容について具体的にコメントを記入して返却する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版　明日からトライ！ダンスの授業	全国ダンス・表現運動授業研究会編	大修館書店	9784469269185	

参考文献

『中学校学習指導要領解説　保健体育編』　文部科学省、東山書房、2018
『高等学校学習指導要領解説　保健体育　体育編』　文部科学省、東山書房、2019
『みんなでトライ！表現運動の授業』全国ダンス・表現運動授業研究会編、大修館書店、2015
その他、必要に応じて資料を適宜配布するので、テキストと合わせて授業の予習・復習に活用すること。

その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：中村恭子 E-mail：k-nakamu［at］juntendo.ac.jp ※［at］を＠に変更してください。 ［オフィスアワー］ 日時：前期：火曜日10:30-14:00, 木曜日10:30-14:00,　後期：月曜日10:30-15:00, 金曜日15:00-17:00 場所：１号館５階　1501号室 ただし、上記の時間帯においても会議等で不在の場合もあるので、前日までにE-mail等で確認・予約すること。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ 「中高保健体育科教員免許」取得のための必修科目である。また、（公財）健康・体力づくり事業財団「健康運動指導士」のエアロビックダンス講習免除科目として、本科目またはスポーツコーチング演習（ダンス）のいずれかの履修が必要である。 １クラスの受講人数が60人を超える場合は、「中高保健体育科教員免許」または「健康運動指導士」資格取得のための履修者を優先し、残りを抽選とする場合もある。 なお、新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中村恭子	［授業内容］ ガイダンス：授業内容と学び方、ダンスの特性と種類、先輩作品ビデオ鑑賞、ダンス・ウォームアップの特徴と効果 外国のフォークダンス①オクラホマ・ミキサー	［授業方法］ ダンスの特性や種類について、グループで討議し、意見交換する。 心と体をほぐし技能を高めるダンス・ウォームアップを体験し、その目的と効果について分析する。 オクラホマ・ミキサーの踊り方を理解し，仲間と教えあって習得し交流する。	（復習：1時間） ダンス学習ノートを作り、ダンスの特性や種類を整理する。 オクラホマ・ミキサーの由来と踊りの特徴を調べる。
2	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス①サンバ 「サンバのリズムでお祭りパレード」 現代的なリズムのダンス②ヒップホップ「足じゃんけんからヒップホップへ」 外国のフォークダンス② ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブー	［授業方法］ リズムに乗って即興的に踊り、多様な動きを工夫する。仲間の動きを即時に真似して踊り続ける。 足じゃんけんの動きをもとに簡単な動きの組み合わせを工夫する。仲間と教えあい続けて踊る。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ヒップホップ文化について調べる。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
3	中村恭子	（［授業内容］ 現代的なリズムのダンス③ロック「ロックのリズムで動く-止まる」 現代的なリズムのダンス④床の動き「床を使ってブレイクダンスみたいに」 外国のフォークダンス③ドードレブスカ・ポルカ	［授業方法］ 見つけた動きのリズムを変化させ、メリハリをつけて踊る。床を使った動きや回転技を工夫し短いフレーズを作る。バトル形式で他チームと踊り合う。 ドードレブスカ・ポルカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ヒップホップダンスにおけるダンスバトルの由来と特徴を調べる。 ドードレブスカ・ポルカの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。

4	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス⑤グループ作品創作	［授業方法］ 課題曲の中から好きな曲を選び、選択曲グループ内で分担して動きを創作する。動きを教え合い、グループで1曲通して踊れるように仕上げる。	（復習：1時間） グループで作った動きを練習し覚える。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
5	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス⑥作品発表会	［授業方法］ 修正と踊り込みで完成度を高め、発表する。 他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。	（予習：0.5時間） 作品のイメージに合った衣装を工夫し準備する。 ［復習：0.5時間］ 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
6	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス①物［小道具］を使って「しんぶんし」 日本の民踊①よさこい鳴子踊り	［授業方法］ 即興で新聞紙の動きを模倣し、多様な体の使い方を工夫してひと流れの動きを作り踊る。 他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 よさこい鳴子踊りの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） よさこい鳴子踊りの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「物［小道具］を使って」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
7	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス②対極の動きの連続「走る-止まる」 日本の民踊②郡上踊り「げんげんばらばら」	［授業方法］ メリハリのある「走る-止まる」のひと流れを即興で多様に変化させて踊り、仲間とイメージと動きを共有、ひとまとまりの表現を作り踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 郡上踊り「げんげんばらばら」の踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） 郡上踊りの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「対極の動きの連続」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
8	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス③身近な生活と日常動作「スポーツ名場面集～感動の瞬間をもう一度」 外国のフォークダンス④ハーモニカ	［授業方法］ 各種スポーツの特徴をとらえて動きをデッサンし、仲間と動きを共有、ひとまとまりの表現を作る。特徴を強調するデフォルメ［変形］の方法を学び、表現を工夫して発表する。 他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 ハーモニカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ハーモニカの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「群［集団］の動き」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。

9	中村恭子	（［授業内容］ 創作ダンス④多様な感じ・群［集団］の動き「旅立ちの刻」 外国のフォークダンス⑤オスロー・ワルツ	［授業方法］ 嬉しい、悲しい、流れるような、ごつごつした、などの感じのある動きと、大回り-小回り、高中低の群像、密集-分散などの群の動きを取り入れながら「旅立ちの刻」をテーマに踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 オスロ-・ワルツの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） オスロー・ワルツの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「身近な生活と日常動作」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
10	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑤はこびとストーリー「事件発生」 グループ作品創作のグループ分け、デッサン 外国のフォークダンス⑥バージニア・リール	［授業方法］ 作品として表現したい「事件」を選んでグループを作り、表したいイメージを深め、はこびを考える。各場面での使用曲を決める。グループで場面を分担して中核となる動きをデッサンする。 バージニア・リールの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） バージニア・リールの由来と踊りの特徴を調べる。身近な「事件」のうちダンスで表現できそうな題材を考える。 （復習：1時間） 分担部分の動きを完成させる。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
11	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑥「事件発生」グループ作品創作	［授業方法］ 各場面に相応しい曲を選ぶ。分担した場面の動きを教えあい、群の構成を工夫して作品全体を仕上げる。	（予習：0.5時間） 分担部分に相応しい使用曲［候補曲］を探す。 （復習：1時間） グループで作った動きや群構成を覚え、スムーズに動けるように練習する。本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
12	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑦「事件発生」グループ作品発表会 ビデオ鑑賞会と相互評価	［授業方法］ 作品を踊り込み、発表する。他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。	【（予習：0.5時間） 作品の使用曲を編集する。相応しい衣装を準備する。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
13	中村恭子	［授業内容］ エアロビックダンスの特性と基本理論 実技指導技術①基本ステップと名称の理解、正確で明確な動作の習得	［授業方法］ エアロビックダンスの特性、運動強度の設定について学び，目標心拍数の算出方法の演習を行う。指導者の動きを模倣して基本的なプログラムの動きを練習し、ステップ名称と動きの要点を理解する。	（予習：0.5時間） エアロビクスについて関連書籍を読む。 エアロビックダンスの基本ステップについて配布資料を読み理解する。 （復習：0.5時間） エアロビックダンスの運動強度設定と目標心拍数の算出方法についてまとめる。 基本的なプログラムを練習してスムーズに実演できるようにする。
14	中村恭子	［授業内容］ エアロビックダンスの指導の要点 実技指導技術②対面指導の示範、キューイング、実技指導実習と相互評価	［授業方法］ 基本的なプログラムのルーティンについて交代で模擬指導実習を行い、評価し合う。	（予習：0.5時間） 指導者の役割について配布資料を読み理解する。基本ステップの名称を覚える。 （復習：0.5時間） 基本的なプログラムの実技指導がスムーズに実演できるように練習する。 模擬指導実習の反省レポート。
	中村恭子	定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】ダンス ［女子③］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】ダンス ［女子③］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	中村　恭子	ナンバリング	DAE1138
担当教員	中村　恭子、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	［授業全体の内容］ 中学・高校のダンス領域の内容である創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンスの実技と指導法を学習する。即興創作やグループ創作を通じて発想力、表現力、協調性、課題解決能力を高め、ダンスの美的表現原理と創作技法の基礎知識と技能を身に付ける。中学・高校の保健体育教員としての視点で授業を捉え、ダンス学習指導法についての理解を深める。 また、健康・体力づくりの運動であるエアロビックダンスの理論と実技を学び、指導の基本技術を身に付ける。
到達目標	［授業の到達目標］ １．多様なダンスを学習してリズム感や身体操作能力、表現力を高め、自分の発想で表したい動きを見つけ、全身を大きく使いメリハリを付けて踊ることができる。 ２．動きとイメージやリズムの関係、動きのアレンジや動きを強調する表現方法、群の構成や空間の使い方、作品の展開や構成法について理解し、それらを応用してオリジナルの作品を創作・発表できる。 ３．グループ創作活動や発表・鑑賞を通して課題解決能力、対人調整力、自他の個性を認め合う態度を身に付けることができる。 ４．ダンス領域の各種ダンスの学習内容と学習指導法について理解し、良い動きを見分ける力と指導力を身に付けることができる。 ５．エアロビックダンスの基本理論を理解し、対面指導の示範やキューイングを取り入れた実技指導ができる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JSPO/JAF（日本エアロビック連盟）公認エアロビックコーチ1養成講習会免除適応コースの必修科目、健康運動指導士認定試験受験資格取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	［授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）］ この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付ける。また、スポーツ科学の知識に基づき、現場で指導できる能力ないしは研究できる能力の基礎を身に付けることを目的とする。
履修上の注意、履修要件	［履修要件］ 　中高保健体育科教員免許取得のための必修科目である本科目は指導力養成を目標の一つとしているため，指導者としての心構えをもって受講すること。生徒の立場で実技を体験しながらも指導者目線で授業を分析して欲しい。復習として授業内容を記録する学習ノートの記載においては指導者の立場で記述し、学習内容と方法、指導の要点をまとめて復習すること。 ［履修上の注意（科目独自のルール）］ 遅刻・早退は30分以内とし、3回で1回分の欠席に換算する。試合等の欠席は事情を考慮はするが、欠席は欠席としてカウントするので注意すること。なお、ケガや故障等で全力全身での実技ができない場合でも、「今できる範囲で」授業に参加できるのがダンスの特徴でもあるので、できる範囲で参加すること。

成績評価の方法	
評価方法	［成績評価の方法］ 　実技力（表現力・創作力）60%、鑑賞評価力10%、知識・理解（学習ノート）20%、取り組む姿勢10%
評価基準	［成績評価の基準］ １．精一杯大きく、メリハリをつけて、なりきって踊っているか。独創的な動きや表現が工夫できるか。 ２．自他の動きや表現の良し悪しを判断し、観賞・評価できるか。 ３．ダンスの用語や美的表現原理を理解し、授業の進め方や効果的な指導方法について記述できるか。 ４．積極的に取り組み、仲間と協力して主体的に活動しているか。 ５．エアロビックダンスの基本理論を理解し，実技指導（対面指導の示範、キューイング）ができるか。

試験・課題に対するフィードバック方法

［課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法］
　平常時の実技の出来栄えについては、即時、口頭でフィードバックする。
　3回の実技試験では評価の観点（精一杯大きく動いているか・メリハリをつけて踊っているか・独創的な動きの工夫があるか・群や空間の工夫ができているか・なりきって踊っているか）の各項目について相互評価の結果を集計して示す。
　知識・理解については学習ノートを毎回提出させ、記述内容について具体的にコメントを記入して返却する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版　明日からトライ！ダンスの授業	全国ダンス・表現運動授業研究会編	大修館書店	9784469269185	

参考文献

『中学校学習指導要領解説　保健体育編』　文部科学省、東山書房、2018
『高等学校学習指導要領解説　保健体育　体育編』　文部科学省、東山書房、2019
『みんなでトライ！表現運動の授業』全国ダンス・表現運動授業研究会編、大修館書店、2015
その他、必要に応じて資料を適宜配布するので、テキストと合わせて授業の予習・復習に活用すること。

その他

連絡先・オフィスアワー	［連絡先］ 担当：中村恭子 E-mail：k-nakamu［at］juntendo.ac.jp ※［at］を＠に変更してください。 ［オフィスアワー］ 日時：前期：火曜日10:30-14:00, 木曜日10:30-14:00,　後期：月曜日10:30-15:00, 金曜日15:00-17:00 場所：１号館５階　1501号室 ただし、上記の時間帯においても会議等で不在の場合もあるので、前日までにE-mail等で確認・予約すること。
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、講義の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。 ［その他］ 「中高保健体育科教員免許」取得のための必修科目である。また、（公財）健康・体力づくり事業財団「健康運動指導士」のエアロビックダンス講習免除科目として、本科目またはスポーツコーチング演習（ダンス）のいずれかの履修が必要である。 １クラスの受講人数が60人を超える場合は、「中高保健体育科教員免許」または「健康運動指導士」資格取得のための履修者を優先し、残りを抽選とする場合もある。 なお、新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画等の変更をお願いする可能性がある。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中村恭子	［授業内容］ ガイダンス：授業内容と学び方、ダンスの特性と種類、先輩作品ビデオ鑑賞、ダンス・ウォームアップの特徴と効果 外国のフォークダンス①オクラホマ・ミキサー	［授業方法］ ダンスの特性や種類について、グループで討議し、意見交換する。 心と体をほぐし技能を高めるダンス・ウォームアップを体験し、その目的と効果について分析する。 オクラホマ・ミキサーの踊り方を理解し，仲間と教えあって習得し交流する。	（復習：1時間） ダンス学習ノートを作り、ダンスの特性や種類を整理する。 オクラホマ・ミキサーの由来と踊りの特徴を調べる。
2	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス①サンバ 「サンバのリズムでお祭りパレード」 現代的なリズムのダンス②ヒップホップ「足じゃんけんからヒップホップへ」 外国のフォークダンス② ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブー	［授業方法］ リズムに乗って即興的に踊り、多様な動きを工夫する。仲間の動きを即時に真似して踊り続ける。 足じゃんけんの動きをもとに簡単な動きの組み合わせを工夫する。仲間と教えあい続けて踊る。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ヒップホップ文化について調べる。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
3	中村恭子	（［授業内容］ 現代的なリズムのダンス③ロック「ロックのリズムで動く-止まる」 現代的なリズムのダンス④床の動き「床を使ってブレイクダンスみたいに」 外国のフォークダンス③ドードレブスカ・ポルカ	［授業方法］ 見つけた動きのリズムを変化させ、メリハリをつけて踊る。床を使った動きや回転技を工夫し短いフレーズを作る。バトル形式で他チームと踊り合う。 ドードレブスカ・ポルカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ヒップホップダンスにおけるダンスバトルの由来と特徴を調べる。 ドードレブスカ・ポルカの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。

4	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス⑤グループ作品創作	［授業方法］ 課題曲の中から好きな曲を選び、選択曲グループ内で分担して動きを創作する。動きを教え合い、グループで1曲通して踊れるように仕上げる。	（復習：1時間） グループで作った動きを練習し覚える。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
5	中村恭子	［授業内容］ 現代的なリズムのダンス⑥作品発表会	［授業方法］ 修正と踊り込みで完成度を高め、発表する。 他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。	（予習：0.5時間） 作品のイメージに合った衣装を工夫し準備する。 ［復習：0.5時間］ 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
6	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス①物［小道具］を使って「しんぶんし」 日本の民踊①よさこい鳴子踊り	［授業方法］ 即興で新聞紙の動きを模倣し、多様な体の使い方を工夫してひと流れの動きを作り踊る。 他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 よさこい鳴子踊りの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） よさこい鳴子踊りの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「物［小道具］を使って」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
7	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス②対極の動きの連続「走る-止まる」 日本の民踊②郡上踊り「げんげんばらばら」	［授業方法］ メリハリのある「走る-止まる」のひと流れを即興で多様に変化させて踊り、仲間とイメージと動きを共有、ひとまとまりの表現を作り踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 郡上踊り「げんげんばらばら」の踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） 郡上踊りの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「対極の動きの連続」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
8	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス③身近な生活と日常動作「スポーツ名場面集～感動の瞬間をもう一度」 外国のフォークダンス④ハーモニカ	［授業方法］ 各種スポーツの特徴をとらえて動きをデッサンし、仲間と動きを共有、ひとまとまりの表現を作る。特徴を強調するデフォルメ［変形］の方法を学び、表現を工夫して発表する。 他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 ハーモニカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） ハーモニカの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「群［集団］の動き」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。

9	中村恭子	（［授業内容］ 創作ダンス④多様な感じ・群［集団］の動き「旅立ちの刻」 外国のフォークダンス⑤オスロー・ワルツ	［授業方法］ 嬉しい、悲しい、流れるような、ごつごつした、などの感じのある動きと、大回り-小回り、高中低の群像、密集-分散などの群の動きを取り入れながら「旅立ちの刻」をテーマに踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 オスロ-・ワルツの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） オスロー・ワルツの由来と踊りの特徴を調べる。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「身近な生活と日常動作」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。
10	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑤はこびとストーリー「事件発生」 グループ作品創作のグループ分け、デッサン 外国のフォークダンス⑥バージニア・リール	［授業方法］ 作品として表現したい「事件」を選んでグループを作り、表したいイメージを深め、はこびを考える。各場面での使用曲を決める。グループで場面を分担して中核となる動きをデッサンする。 バージニア・リールの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。	（予習：0.5時間） バージニア・リールの由来と踊りの特徴を調べる。身近な「事件」のうちダンスで表現できそうな題材を考える。 （復習：1時間） 分担部分の動きを完成させる。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
11	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑥「事件発生」グループ作品創作	［授業方法］ 各場面に相応しい曲を選ぶ。分担した場面の動きを教えあい、群の構成を工夫して作品全体を仕上げる。	（予習：0.5時間） 分担部分に相応しい使用曲［候補曲］を探す。 （復習：1時間） グループで作った動きや群構成を覚え、スムーズに動けるように練習する。本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
12	中村恭子	［授業内容］ 創作ダンス⑦「事件発生」グループ作品発表会 ビデオ鑑賞会と相互評価	［授業方法］ 作品を踊り込み、発表する。他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。	【（予習：0.5時間） 作品の使用曲を編集する。相応しい衣装を準備する。 （復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。
13	中村恭子	［授業内容］ エアロビックダンスの特性と基本理論 実技指導技術①基本ステップと名称の理解、正確で明確な動作の習得	［授業方法］ エアロビックダンスの特性、運動強度の設定について学び，目標心拍数の算出方法の演習を行う。指導者の動きを模倣して基本的なプログラムの動きを練習し、ステップ名称と動きの要点を理解する。	（予習：0.5時間） エアロビクスについて関連書籍を読む。 エアロビックダンスの基本ステップについて配布資料を読み理解する。 （復習：0.5時間） エアロビックダンスの運動強度設定と目標心拍数の算出方法についてまとめる。 基本的なプログラムを練習してスムーズに実演できるようにする。
14	中村恭子	［授業内容］ エアロビックダンスの指導の要点 実技指導技術②対面指導の示範、キューイング、実技指導実習と相互評価	［授業方法］ 基本的なプログラムのルーティンについて交代で模擬指導実習を行い、評価し合う。	（予習：0.5時間） 指導者の役割について配布資料を読み理解する。基本ステップの名称を覚える。 （復習：0.5時間） 基本的なプログラムの実技指導がスムーズに実演できるように練習する。 模擬指導実習の反省レポート。
	中村恭子	定期試験		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道（柔道）［男子①］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道（柔道）［男子①］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	廣瀬　伸良	ナンバリング	COA1139
担当教員	廣瀬　伸良、竹澤　稔裕、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。
到達目標	１．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付けるための科目の１つとして開講される。また、実技を通して高い倫理観とコミュニケーション能力を涵養し、スポーツ科学分野での専門的な実践力を身につけるという学位授与方針の達成にも寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 対人格闘技という運動特性を充分に理解し、卒業後に各種スポーツ指導者や保健体育科教員を目指していることが望ましい。
成績評価の方法	
評価方法	平常点（10%）、課題レポート（10%）、定期試験（30%）、実技試験（50%）を総合して評価する。
評価基準	１.講道館柔道における歴史や運動特性、技術および安全管理に関して指導法を理解している。（レポート、定期試験） ２.講道館柔道における投げ技、固め技についてその技能を幅広く修得している。（実技試験） ３.授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
授業などで返却、もしくはグループ別発表時にコメントするなど評価のポイントを提示して解説する。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領	文部科学省			
中学校学習指導要領解説 保健体育編	文部科学省			
高等学校学習指導要領	文部科学省			
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編	文部科学省			

参考文献	
授業中に適宜資料を配布する。	
その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：廣瀬 伸良 E-mail：nhirose@juntendo.ac.jp 担当：竹澤 稔裕 E-mail：t.takezawa.ul@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：授業開講日の昼休み 場所：1号館5F　1506室
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は実技形式による１単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっている。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルスの発生状況に応じて，成績評価の基準および方法，授業計画を変更する場合がある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	廣瀬 竹澤	【授業内容】 ガイダンス 柔道衣の採寸・注文	授業の進め方や心構え等の説明を行う。柔道衣を持っていない学生は採寸と注文をする。	（予習：0.5時間） 授業の目的、内容を把握し、柔道を受講するための心構えを持つ。
2	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の歴史・哲学について理解する。 柔道の基本動作（礼法、後ろ受け身、横受け身）	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：1時間） 柔道の理念や基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
3	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道衣の着方、柔道の基本動作（前受け身、前回り受け身、組み方）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道衣の着方やたたみ方、基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
4	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の基本動作（崩し、体捌き）足技（膝車）、抑え技（袈裟固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の膝車、袈裟固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
5	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（大腰）抑え技（横四方固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の大腰、横四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
6	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（体落とし）抑え技（上四方固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の体落とし、上四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
7	廣瀬 竹澤	【授業内容】 足技（大外刈り、大内刈り）抑え技（肩固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の大外刈り、肩固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
8	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（釣込腰）抑え技からの返し方を理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の釣込腰、抑え技までの返し方について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
9	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（背負い投げ、一本背負い投げ）絞め技（裸締め、送り襟締め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の背負い投げ、一本背負い投げ、裸締め、送り襟締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
10	廣瀬 竹澤	【授業内容】 立技の約束練習、自由練習、絞め技（片羽締め、逆十字締め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の片羽締め、逆十字締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
11	廣瀬 竹澤	【授業内容】 固め技の約束練習、自由練習について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の約束練習、自由練習について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
12	廣瀬 竹澤	【授業内容】 投げ技の応用練習方法（連絡技、移動打ち込み）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の連絡技、移動打ち込みについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。

13	廣瀬 竹澤	【授業内容】 講道館柔道試合審判規定ならびに国際柔道連盟試合審判規定について理解し、大会の運営方法を学ぶ。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の審判規定、審判法について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
14	廣瀬 竹澤	【授業内容】 実技試験	これまでの学習内容について実技試験を行う。	（予習：1時間） これまでの学修内容について技能を身に付ける。 （復習：1時間） 授業で行なった学修内容の総まとめをする。
			定期試験	

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道（柔道）［男子②］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道（柔道）［男子②］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	廣瀬　伸良	ナンバリング	COA1139
担当教員	廣瀬　伸良、竹澤　稔裕、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。
到達目標	１．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付けるための科目の１つとして開講される。また、実技を通して高い倫理観とコミュニケーション能力を涵養し、スポーツ科学分野での専門的な実践力を身につけるという学位授与方針の達成にも寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 対人格闘技という運動特性を充分に理解し、卒業後に各種スポーツ指導者や保健体育科教員を目指していることが望ましい。
成績評価の方法	
評価方法	平常点（10%）、課題レポート（10%）、定期試験（30%）、実技試験（50%）を総合して評価する。
評価基準	１.講道館柔道における歴史や運動特性、技術および安全管理に関して指導法を理解している。（レポート、定期試験） ２.講道館柔道における投げ技、固め技についてその技能を幅広く修得している。（実技試験） ３.授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
授業などで返却、もしくはグループ別発表時にコメントするなど評価のポイントを提示して解説する。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領	文部科学省			
中学校学習指導要領解説 保健体育編	文部科学省			
高等学校学習指導要領	文部科学省			
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編	文部科学省			

参考文献	
授業中に適宜資料を配布する。	
その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：廣瀬 伸良 E-mail：nhirose@juntendo.ac.jp 担当：竹澤 稔裕 E-mail：t.takezawa.ul@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：授業開講日の昼休み 場所：1号館5F　1506室
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は実技形式による１単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっている。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルスの発生状況に応じて，成績評価の基準および方法，授業計画を変更する場合がある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	廣瀬 竹澤	【授業内容】 ガイダンス 柔道衣の採寸・注文	授業の進め方や心構え等の説明を行う。柔道衣を持っていない学生は採寸と注文をする。	（予習：0.5時間） 授業の目的、内容を把握し、柔道を受講するための心構えを持つ。
2	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の歴史・哲学について理解する。 柔道の基本動作（礼法、後ろ受け身、横受け身）	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：1時間） 柔道の理念や基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
3	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道衣の着方、柔道の基本動作（前受け身、前回り受け身、組み方）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道衣の着方やたたみ方、基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
4	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の基本動作（崩し、体捌き）足技（膝車）、抑え技（袈裟固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の膝車、袈裟固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
5	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（大腰）抑え技（横四方固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の大腰、横四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
6	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（体落とし）抑え技（上四方固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の体落とし、上四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
7	廣瀬 竹澤	【授業内容】 足技（大外刈り、大内刈り）抑え技（肩固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の大外刈り、肩固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
8	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（釣込腰）抑え技からの返し方を理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の釣込腰、抑え技までの返し方について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
9	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（背負い投げ、一本背負い投げ）絞め技（裸締め、送り襟締め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の背負い投げ、一本背負い投げ、裸締め、送り襟締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
10	廣瀬 竹澤	【授業内容】 立技の約束練習、自由練習、絞め技（片羽締め、逆十字締め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の片羽締め、逆十字締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
11	廣瀬 竹澤	【授業内容】 固め技の約束練習、自由練習について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の約束練習、自由練習について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
12	廣瀬 竹澤	【授業内容】 投げ技の応用練習方法（連絡技、移動打ち込み）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の連絡技、移動打ち込みについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。

13	廣瀬 竹澤	【授業内容】 講道館柔道試合審判規定ならびに国際柔道連盟試合審判規定について理解し、大会の運営方法を学ぶ。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の審判規定、審判法について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
14	廣瀬 竹澤	【授業内容】 実技試験	これまでの学習内容について実技試験を行う。	（予習：1時間） これまでの学修内容について技能を身に付ける。 （復習：1時間） 授業で行なった学修内容の総まとめをする。
			定期試験	

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道（柔道）［男子④］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道（柔道）［男子④］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	廣瀬　伸良	ナンバリング	COA1139
担当教員	廣瀬　伸良、竹澤　稔裕、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。
到達目標	１．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付けるための科目の１つとして開講される。また、実技を通して高い倫理観とコミュニケーション能力を涵養し、スポーツ科学分野での専門的な実践力を身につけるという学位授与方針の達成にも寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 対人格闘技という運動特性を充分に理解し、卒業後に各種スポーツ指導者や保健体育科教員を目指していることが望ましい。
成績評価の方法	
評価方法	平常点（10%）、課題レポート（10%）、定期試験（30%）、実技試験（50%）を総合して評価する。
評価基準	１.講道館柔道における歴史や運動特性、技術および安全管理に関して指導法を理解している。（レポート、定期試験） ２.講道館柔道における投げ技、固め技についてその技能を幅広く修得している。（実技試験） ３.授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
授業などで返却、もしくはグループ別発表時にコメントするなど評価のポイントを提示して解説する。	
テキスト	

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領	文部科学省			
中学校学習指導要領解説 保健体育編	文部科学省			
高等学校学習指導要領	文部科学省			
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編	文部科学省			

参考文献	
授業中に適宜資料を配布する。	
その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：廣瀬 伸良 E-mail：nhirose@juntendo.ac.jp 担当：竹澤 稔裕 E-mail：t.takezawa.ul@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：授業開講日の昼休み 場所：1号館5F　1506室
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は実技形式による１単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっている。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルスの発生状況に応じて，成績評価の基準および方法，授業計画を変更する場合がある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	廣瀬 竹澤	【授業内容】 ガイダンス 柔道衣の採寸・注文	授業の進め方や心構え等の説明を行う。柔道衣を持っていない学生は採寸と注文をする。	（予習：0.5時間） 授業の目的、内容を把握し、柔道を受講するための心構えを持つ。
2	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の歴史・哲学について理解する。 柔道の基本動作（礼法、後ろ受け身、横受け身）	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：1時間） 柔道の理念や基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
3	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道衣の着方、柔道の基本動作（前受け身、前回り受け身、組み方）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道衣の着方やたたみ方、基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
4	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の基本動作（崩し、体捌き）足技（膝車）、抑え技（袈裟固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の膝車、袈裟固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
5	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（大腰）抑え技（横四方固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の大腰、横四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
6	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（体落とし）抑え技（上四方固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の体落とし、上四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
7	廣瀬 竹澤	【授業内容】 足技（大外刈り、大内刈り）抑え技（肩固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の大外刈り、肩固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
8	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（釣込腰）抑え技からの返し方を理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の釣込腰、抑え技までの返し方について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
9	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（背負い投げ、一本背負い投げ）絞め技（裸締め、送り襟締め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の背負い投げ、一本背負い投げ、裸締め、送り襟締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
10	廣瀬 竹澤	【授業内容】 立技の約束練習、自由練習、絞め技（片羽締め、逆十字締め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の片羽締め、逆十字締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
11	廣瀬 竹澤	【授業内容】 固め技の約束練習、自由練習について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の約束練習、自由練習について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
12	廣瀬 竹澤	【授業内容】 投げ技の応用練習方法（連絡技、移動打ち込み）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の連絡技、移動打ち込みについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。

13	廣瀬 竹澤	【授業内容】 講道館柔道試合審判規定ならびに国際柔道連盟試合審判規定について理解し、大会の運営方法を学ぶ。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の審判規定、審判法について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
14	廣瀬 竹澤	【授業内容】 実技試験	これまでの学習内容について実技試験を行う。	（予習：1時間） これまでの学修内容について技能を身に付ける。 （復習：1時間） 授業で行なった学修内容の総まとめをする。
			定期試験	

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道（柔道）［女子②］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道（柔道）［女子②］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	廣瀬　伸良	ナンバリング	COA1139
担当教員	廣瀬　伸良、竹澤　稔裕、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。
到達目標	１．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」を身に付けるための科目の１つとして開講される。また、実技を通して高い倫理観とコミュニケーション能力を涵養し、スポーツ科学分野での専門的な実践力を身につけるという学位授与方針の達成にも寄与する。
履修上の注意、履修要件	【履修要件】 対人格闘技という運動特性を充分に理解し、卒業後に各種スポーツ指導者や保健体育科教員を目指していることが望ましい。
成績評価の方法	
評価方法	平常点（10%）、課題レポート（10%）、定期試験（30%）、実技試験（50%）を総合して評価する。
評価基準	１.講道館柔道における歴史や運動特性、技術および安全管理に関して指導法を理解している。（レポート、定期試験） ２.講道館柔道における投げ技、固め技についてその技能を幅広く修得している。（実技試験） ３.授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。（平常点）
試験・課題に対するフィードバック方法	
授業などで返却、もしくはグループ別発表時にコメントするなど評価のポイントを提示して解説する。	

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領	文部科学省			
中学校学習指導要領解説 保健体育編	文部科学省			
高等学校学習指導要領	文部科学省			
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編	文部科学省			

参考文献	
授業中に適宜資料を配布する。	
その他	
連絡先・オフィスアワー	【連絡先】 担当：廣瀬 伸良 E-mail：nhirose@juntendo.ac.jp 担当：竹澤 稔裕 E-mail：t.takezawa.ul@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：授業開講日の昼休み 場所：1号館5F　1506室
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は実技形式による１単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっている。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルスの発生状況に応じて，成績評価の基準および方法，授業計画を変更する場合がある。

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	廣瀬 竹澤	【授業内容】 ガイダンス 柔道衣の採寸・注文	授業の進め方や心構え等の説明を行う。柔道衣を持っていない学生は採寸と注文をする。	（予習：0.5時間） 授業の目的、内容を把握し、柔道を受講するための心構えを持つ。
2	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の歴史・哲学について理解する。 柔道の基本動作（礼法、後ろ受け身、横受け身）	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：1時間） 柔道の理念や基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
3	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道衣の着方、柔道の基本動作（前受け身、前回り受け身、組み方）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道衣の着方やたたみ方、基本動作について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
4	廣瀬 竹澤	【授業内容】 柔道の基本動作（崩し、体捌き）足技（膝車）、抑え技（袈裟固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の膝車、袈裟固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
5	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（大腰）抑え技（横四方固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の大腰、横四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
6	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（体落とし）抑え技（上四方固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の体落とし、上四方固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学習内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
7	廣瀬 竹澤	【授業内容】 足技（大外刈り、大内刈り）抑え技（肩固め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の大外刈り、肩固めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
8	廣瀬 竹澤	【授業内容】 腰技（釣込腰）抑え技からの返し方を理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の釣込腰、抑え技までの返し方について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
9	廣瀬 竹澤	【授業内容】 手技（背負い投げ、一本背負い投げ）絞め技（裸締め、送り襟締め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の背負い投げ、一本背負い投げ、裸締め、送り襟締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
10	廣瀬 竹澤	【授業内容】 立技の約束練習、自由練習、絞め技（片羽締め、逆十字締め）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の片羽締め、逆十字締めについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
11	廣瀬 竹澤	【授業内容】 固め技の約束練習、自由練習について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の約束練習、自由練習について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
12	廣瀬 竹澤	【授業内容】 投げ技の応用練習方法（連絡技、移動打ち込み）について理解する。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の連絡技、移動打ち込みについて技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。

13	廣瀬 竹澤	【授業内容】 講道館柔道試合審判規定ならびに国際柔道連盟試合審判規定について理解し、大会の運営方法を学ぶ。	知識を学んだ上で、グループ学習にて実践技術と応用動作を身につける。	（予習：0.5時間） 柔道の審判規定、審判法について技術書や映像を活用して学修する。 （復習：0.5時間） 本授業の学修内容と達成度の個人テキスト（レポート）を作成する。
14	廣瀬 竹澤	【授業内容】 実技試験	これまでの学習内容について実技試験を行う。	（予習：1時間） これまでの学修内容について技能を身に付ける。 （復習：1時間） 授業で行なった学修内容の総まとめをする。
			定期試験	

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道（剣道）［男子①］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道（剣道）［男子①］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	中村　充	ナンバリング	COA1139
担当教員	中村　充、佐藤　皓也、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。 武道の代表的な剣道について、基本的な技能を習得し、指導法と基礎理論についての理解を深める。剣道の歴史的背景から成り立つ、武士道的な考え方を理解する。基本動作の習得から対人的技能へと発展させる。剣道具を着装することより、空間打突から実践に移行し、地稽古や試合稽古へ発展させる。技術の習得にはグループ学習や映像を活用した技術確認を行い、対人調整力とコミュニケーション能力を向上させるなかでその指導方法も身につくようにする。
到達目標	１．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	剣道を通して、対人競技の楽しさとともに文化的側面を学ぶ。その過程で、互いに競いながらも協力し合うことで対人調整力やコミュニケーション力を向上させ、学校現場で指導できるよう応用的能力を養う。
履修上の注意、履修要件	【履修上の注意（科目独自のルール）】 共有する道具の扱いを丁寧にし、授業内で求められる所作や態度を守ること。 【履修要件】 運動に適した服装を各自が準備する。なお、安全上の問題から受講希望者数が50名を超えた場合は、抽選を行う。
成績評価の方法	
評価方法	授業に取り組む姿勢・参画度 40%、 課題達成度 40%、 知識の獲得度 20%
評価基準	１．相手を尊重した所作法や取り組みができる。（平常点） ２．基本動作や対人的技能が身についた。（授業内試験） ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合ができる。（平常点） ４．日本固有の武道の歴史や、学校指導現場で生かせる練習法について理解する。（平常点、レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法

課題試験については実施後、レポートについては返却時、授業内でポイント等をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

1. 剣道指導要領（全日本剣道連盟）
2. 剣道授業の展開（全日本剣道連盟）
3. 中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）
4. 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（文部科学省）

その他

連絡先・オフィスアワー	1号館5階　1505号室：水曜日14:30～16:00、木曜日10:00～12:00、 E-mail（中村　充）：mtnakamu@juntendo.ac.jp （佐藤皓也）：k.sato.it@juntendo.ac.jp
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、中・高保健体育一種免許の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目として位置づけられています。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	中村　充 佐藤皓也	授業の進め方について理解する。 授業に必要な用具を理解する。 剣道の基本動作および所作法について学習する。	ガイダンス、所作法をはじめとした基本動作を解説する。	（予習：0.5時間） 授業の目的、内容についてシラバスを読む。 （復習：0.5時間） 所作法、基本動作について整理する。
2	中村　充 佐藤皓也	剣道の成り立ち、礼法・所作法を理解する。 木刀を用いた遊びを通して、剣道を楽しむとともに、木刀の構え方、足さばきについて学習する。	剣道小史を解説する。 礼法・所作法、木刀の構え方、足さばきを解説し、実践する。	（予習：1時間） 剣道の理念、剣道修練の心構えについて調べる。 （復習：0.5時間） 剣道の成り立ちを整理する。剣道の所作法を整理する。
3	中村　充 佐藤皓也	仕掛け技の分類を理解する。 二人組でお互いに打突部位を確認し、仕掛け手と受け手（元立ち）を交替しながら木刀により空間打突を行なう。 木刀による基本技稽古法につなげていく。	仕掛け技を解説する。 面・小手・胴・突きの空間打突、木刀による基本技稽古法を解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 仕掛け技の分類を調べる。 （復習：0.5時間） 元立ちの役割について整理する。
4	中村　充 佐藤皓也	グループまたは二人組にて、木刀による基本技稽古法４本目までを習得する。	基本技稽古法４本目までを解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 木刀による基本技指導法の成り立ちについて調べる。 （復習：0.5時間） 木刀による基本技指導法４本目までの留意点を整理する。
5	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組により応じ技を学習し、木刀による基本技指導法における応じ技を実践する。	応じ技について解説し、木刀による基本技指導法における応じ技を実践する。	（予習：0.5　時間） 応じ技について調べる。 （復習：0.5時間） 木刀による基本技指導法の９本目までを整理する。
6	中村　充 佐藤皓也	竹刀を使用する際の注意点を理解する。 二人組にて、竹刀による空間打突と、打ち方と打たせ方を確認しながら実施する。	竹刀を使用する際の注意点を解説する。 竹刀による空間打突と、竹刀を用いた打ち方と打たせ方を解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 竹刀による打たせ方を調べる。 （復習：0.5時間） 竹刀を扱う際の、安全上の注意点を整理する。
7	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組により踏み込み足を学習し、踏み込み足を用いた打突を実践する。 切り返しの実施方法を理解し、実践する。	踏み込み足の必要性を解説し、踏み込み足を用いた打突を実践する。 切り返しについて解説する。	（予習：0.5　時間） 踏み込み足、切り返しについて調べる。 （復習：0.5時間） 踏み込み足、切り返しを行う際の注意点を整理する。
8	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組にて、退き技における踏み込み足を学習する。 グループにて、切り返しや連続技を実戦的に行なう。	退き技の際の踏み込み足を解説する。 切り返し、連続技を実戦的に行なう。	（予習：0.5時間） 退き技の際の踏み込み足について調べる。 （復習：0.5時間） 切り返しの効用を整理する。
9	中村　充 佐藤皓也	剣道具を正しく着装する。 防具に対して打ったり打たせたりする。	剣道具の着装の仕方を解説する。 防具に対する打ち方を解説する。	（予習：0.5時間） 剣道具（胴・垂れ）の着装方法について調べる。 （復習：0.5時間） 防具を打突する際の留意点について整理する。
10	中村　充 佐藤皓也	剣道具を着装する。 ２人組にて、実戦的なメンとコテを打ったり打たせたりする。	面の着装の仕方について解説する。 実戦的なメンとコテの打ち方打たせ方を解説する。	（予習：0.5時間） 面の着装の仕方を調べる。 （復習：0.5時間） 実戦的な打ち方や打たせ方を整理する。
11	中村　充 佐藤皓也	２人組にて、剣道具をつけての、実戦的な応じ技を実施する。 ２人組にて、地稽古を実施する。	剣道具をつけての、実戦的な応じ技について解説する。 地稽古のやり方について解説する。	（予習：0.5時間） 剣道具を着装しての応じ技について調べる。 （復習：0.5時間） 仕掛け技と応じ技の分類について整理する。
12	中村　充 佐藤皓也	仕掛け技と応じ技について、系統的なまとめを実践する。 試合を意識した地稽古を実践する。	仕掛け技と応じ技の、系統的なまとめを解説する。 試合を意識した地稽古について解説する。	（予習：0.5時間） 剣道試合のルールについて調べる。 （復習：0.5時間） 剣道の試合で味わえる楽しさを考える。

13	中村　充 佐藤皓也	実技の到達度について、課題試験を行なう。	実技の到達度試験を行う。	（予習：0.5時間） 実技試験課題について準備する。 （復習：0.5時間） 試験を踏まえて課題の達成度を自己分析する。
14	中村　充 佐藤皓也	剣道の昇段審査の仕組みを理解し、ビデオ等で剣道の修行的側面を理解する。	本授業の実技では体感できなかった、剣道がもつ修業的側面を解説する。	（予習：0.5時間） 剣道の武道的要素を考える。 （復習：1時間） 課題に対するレポートを作成する。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道（剣道）［男子②］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道（剣道）［男子②］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	中村　充	ナンバリング	COA1139
担当教員	中村　充、佐藤　皓也、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。 武道の代表的な剣道について、基本的な技能を習得し、指導法と基礎理論についての理解を深める。剣道の歴史的背景から成り立つ、武士道的な考え方を理解する。基本動作の習得から対人的技能へと発展させる。剣道具を着装することより、空間打突から実践に移行し、地稽古や試合稽古へ発展させる。技術の習得にはグループ学習や映像を活用した技術確認を行い、対人調整力とコミュニケーション能力を向上させるなかでその指導方法も身につくようにする。
到達目標	１．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	剣道を通して、対人競技の楽しさとともに文化的側面を学ぶ。その過程で、互いに競いながらも協力し合うことで対人調整力やコミュニケーション力を向上させ、学校現場で指導できるよう応用的能力を養う。
履修上の注意、履修要件	【履修上の注意（科目独自のルール）】 共有する道具の扱いを丁寧にし、授業内で求められる所作や態度を守ること。 【履修要件】 運動に適した服装を各自が準備する。なお、安全上の問題から受講希望者数が50名を超えた場合は、抽選を行う。
成績評価の方法	
評価方法	授業に取り組む姿勢・参画度 40%、 課題達成度 40%、 知識の獲得度 20%
評価基準	１．相手を尊重した所作法や取り組みができる。（平常点） ２．基本動作や対人的技能が身についた。（授業内試験） ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合ができる。（平常点） ４．日本固有の武道の歴史や、学校指導現場で生かせる練習法について理解する。（平常点、レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法

課題試験については実施後、レポートについては返却時、授業内でポイント等をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

1. 剣道指導要領（全日本剣道連盟）
2. 剣道授業の展開（全日本剣道連盟）
3. 中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）
4. 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（文部科学省）

その他

連絡先・オフィスアワー	1号館5階　1505号室：水曜日14:30～16:00、木曜日10:00～12:00、 E-mail（中村　充）：mtnakamu@juntendo.ac.jp （佐藤皓也）：k.sato.it@juntendo.ac.jp
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、中・高保健体育一種免許の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目として位置づけられています。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	中村　充 佐藤皓也	授業の進め方について理解する。 授業に必要な用具を理解する。 剣道の基本動作および所作法について学習する。	ガイダンス、所作法をはじめとした基本動作を解説する。	（予習：0.5時間） 授業の目的、内容についてシラバスを読む。 （復習：0.5時間） 所作法、基本動作について整理する。
2	中村　充 佐藤皓也	剣道の成り立ち、礼法・所作法を理解する。 木刀を用いた遊びを通して、剣道を楽しむとともに、木刀の構え方、足さばきについて学習する。	剣道小史を解説する。 礼法・所作法、木刀の構え方、足さばきを解説し、実践する。	（予習：1時間） 剣道の理念、剣道修練の心構えについて調べる。 （復習：0.5時間） 剣道の成り立ちを整理する。剣道の所作法を整理する。
3	中村　充 佐藤皓也	仕掛け技の分類を理解する。 二人組でお互いに打突部位を確認し、仕掛け手と受け手（元立ち）を交替しながら木刀により空間打突を行なう。 木刀による基本技稽古法につなげていく。	仕掛け技を解説する。 面・小手・胴・突きの空間打突、木刀による基本技稽古法を解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 仕掛け技の分類を調べる。 （復習：0.5時間） 元立ちの役割について整理する。
4	中村　充 佐藤皓也	グループまたは二人組にて、木刀による基本技稽古法４本目までを習得する。	基本技稽古法４本目までを解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 木刀による基本技指導法の成り立ちについて調べる。 （復習：0.5時間） 木刀による基本技指導法４本目までの留意点を整理する。
5	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組により応じ技を学習し、木刀による基本技指導法における応じ技を実践する。	応じ技について解説し、木刀による基本技指導法における応じ技を実践する。	（予習：0.5　時間） 応じ技について調べる。 （復習：0.5時間） 木刀による基本技指導法の９本目までを整理する。
6	中村　充 佐藤皓也	竹刀を使用する際の注意点を理解する。 二人組にて、竹刀による空間打突と、打ち方と打たせ方を確認しながら実施する。	竹刀を使用する際の注意点を解説する。 竹刀による空間打突と、竹刀を用いた打ち方と打たせ方を解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 竹刀による打たせ方を調べる。 （復習：0.5時間） 竹刀を扱う際の、安全上の注意点を整理する。
7	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組により踏み込み足を学習し、踏み込み足を用いた打突を実践する。 切り返しの実施方法を理解し、実践する。	踏み込み足の必要性を解説し、踏み込み足を用いた打突を実践する。 切り返しについて解説する。	（予習：0.5　時間） 踏み込み足、切り返しについて調べる。 （復習：0.5時間） 踏み込み足、切り返しを行う際の注意点を整理する。
8	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組にて、退き技における踏み込み足を学習する。 グループにて、切り返しや連続技を実戦的に行なう。	退き技の際の踏み込み足を解説する。 切り返し、連続技を実戦的に行なう。	（予習：0.5時間） 退き技の際の踏み込み足について調べる。 （復習：0.5時間） 切り返しの効用を整理する。
9	中村　充 佐藤皓也	剣道具を正しく着装する。 防具に対して打ったり打たせたりする。	剣道具の着装の仕方を解説する。 防具に対する打ち方を解説する。	（予習：0.5時間） 剣道具（胴・垂れ）の着装方法について調べる。 （復習：0.5時間） 防具を打突する際の留意点について整理する。
10	中村　充 佐藤皓也	剣道具を着装する。 ２人組にて、実戦的なメンとコテを打ったり打たせたりする。	面の着装の仕方について解説する。 実戦的なメンとコテの打ち方打たせ方を解説する。	（予習：0.5時間） 面の着装の仕方を調べる。 （復習：0.5時間） 実戦的な打ち方や打たせ方を整理する。
11	中村　充 佐藤皓也	２人組にて、剣道具をつけての、実戦的な応じ技を実施する。 ２人組にて、地稽古を実施する。	剣道具をつけての、実戦的な応じ技について解説する。 地稽古のやり方について解説する。	（予習：0.5時間） 剣道具を着装しての応じ技について調べる。 （復習：0.5時間） 仕掛け技と応じ技の分類について整理する。
12	中村　充 佐藤皓也	仕掛け技と応じ技について、系統的なまとめを実践する。 試合を意識した地稽古を実践する。	仕掛け技と応じ技の、系統的なまとめを解説する。 試合を意識した地稽古について解説する。	（予習：0.5時間） 剣道試合のルールについて調べる。 （復習：0.5時間） 剣道の試合で味わえる楽しさを考える。

13	中村　充 佐藤皓也	実技の到達度について、課題試験を行なう。	実技の到達度試験を行う。	（予習：0.5時間） 実技試験課題について準備する。 （復習：0.5時間） 試験を踏まえて課題の達成度を自己分析する。
14	中村　充 佐藤皓也	剣道の昇段審査の仕組みを理解し、ビデオ等で剣道の修行的側面を理解する。	本授業の実技では体感できなかった、剣道がもつ修業的側面を解説する。	（予習：0.5時間） 剣道の武道的要素を考える。 （復習：1時間） 課題に対するレポートを作成する。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道（剣道）［男子④］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道（剣道）［男子④］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	中村　充	ナンバリング	COA1139
担当教員	中村　充、佐藤　皓也、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。 武道の代表的な剣道について、基本的な技能を習得し、指導法と基礎理論についての理解を深める。剣道の歴史的背景から成り立つ、武士道的な考え方を理解する。基本動作の習得から対人的技能へと発展させる。剣道具を着装することより、空間打突から実践に移行し、地稽古や試合稽古へ発展させる。技術の習得にはグループ学習や映像を活用した技術確認を行い、対人調整力とコミュニケーション能力を向上させるなかでその指導方法も身につくようにする。
到達目標	１．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	剣道を通して、対人競技の楽しさとともに文化的側面を学ぶ。その過程で、互いに競いながらも協力し合うことで対人調整力やコミュニケーション力を向上させ、学校現場で指導できるよう応用的能力を養う。
履修上の注意、履修要件	【履修上の注意（科目独自のルール）】 共有する道具の扱いを丁寧にし、授業内で求められる所作や態度を守ること。 【履修要件】 運動に適した服装を各自が準備する。なお、安全上の問題から受講希望者数が50名を超えた場合は、抽選を行う。
成績評価の方法	
評価方法	授業に取り組む姿勢・参画度 40%、 課題達成度 40%、 知識の獲得度 20%
評価基準	１．相手を尊重した所作法や取り組みができる。（平常点） ２．基本動作や対人的技能が身についた。（授業内試験） ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合ができる。（平常点） ４．日本固有の武道の歴史や、学校指導現場で生かせる練習法について理解する。（平常点、レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法

課題試験については実施後、レポートについては返却時、授業内でポイント等をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

1. 剣道指導要領（全日本剣道連盟）
2. 剣道授業の展開（全日本剣道連盟）
3. 中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）
4. 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（文部科学省）

その他

連絡先・オフィスアワー	1号館5階　1505号室：水曜日14:30～16:00、木曜日10:00～12:00、 E-mail（中村　充）：mtnakamu@juntendo.ac.jp （佐藤皓也）：k.sato.it@juntendo.ac.jp
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、中・高保健体育一種免許の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目として位置づけられています。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	中村　充 佐藤皓也	授業の進め方について理解する。 授業に必要な用具を理解する。 剣道の基本動作および所作法について学習する。	ガイダンス、所作法をはじめとした基本動作を解説する。	（予習：0.5時間） 授業の目的、内容についてシラバスを読む。 （復習：0.5時間） 所作法、基本動作について整理する。
2	中村　充 佐藤皓也	剣道の成り立ち、礼法・所作法を理解する。 木刀を用いた遊びを通して、剣道を楽しむとともに、木刀の構え方、足さばきについて学習する。	剣道小史を解説する。 礼法・所作法、木刀の構え方、足さばきを解説し、実践する。	（予習：1時間） 剣道の理念、剣道修練の心構えについて調べる。 （復習：0.5時間） 剣道の成り立ちを整理する。剣道の所作法を整理する。
3	中村　充 佐藤皓也	仕掛け技の分類を理解する。 二人組でお互いに打突部位を確認し、仕掛け手と受け手（元立ち）を交替しながら木刀により空間打突を行なう。 木刀による基本技稽古法につなげていく。	仕掛け技を解説する。 面・小手・胴・突きの空間打突、木刀による基本技稽古法を解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 仕掛け技の分類を調べる。 （復習：0.5時間） 元立ちの役割について整理する。
4	中村　充 佐藤皓也	グループまたは二人組にて、木刀による基本技稽古法４本目までを習得する。	基本技稽古法４本目までを解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 木刀による基本技指導法の成り立ちについて調べる。 （復習：0.5時間） 木刀による基本技指導法４本目までの留意点を整理する。
5	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組により応じ技を学習し、木刀による基本技指導法における応じ技を実践する。	応じ技について解説し、木刀による基本技指導法における応じ技を実践する。	（予習：0.5　時間） 応じ技について調べる。 （復習：0.5時間） 木刀による基本技指導法の９本目までを整理する。
6	中村　充 佐藤皓也	竹刀を使用する際の注意点を理解する。 二人組にて、竹刀による空間打突と、打ち方と打たせ方を確認しながら実施する。	竹刀を使用する際の注意点を解説する。 竹刀による空間打突と、竹刀を用いた打ち方と打たせ方を解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 竹刀による打たせ方を調べる。 （復習：0.5時間） 竹刀を扱う際の、安全上の注意点を整理する。
7	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組により踏み込み足を学習し、踏み込み足を用いた打突を実践する。 切り返しの実施方法を理解し、実践する。	踏み込み足の必要性を解説し、踏み込み足を用いた打突を実践する。 切り返しについて解説する。	（予習：0.5　時間） 踏み込み足、切り返しについて調べる。 （復習：0.5時間） 踏み込み足、切り返しを行う際の注意点を整理する。
8	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組にて、退き技における踏み込み足を学習する。 グループにて、切り返しや連続技を実戦的に行なう。	退き技の際の踏み込み足を解説する。 切り返し、連続技を実戦的に行なう。	（予習：0.5時間） 退き技の際の踏み込み足について調べる。 （復習：0.5時間） 切り返しの効用を整理する。
9	中村　充 佐藤皓也	剣道具を正しく着装する。 防具に対して打ったり打たせたりする。	剣道具の着装の仕方を解説する。 防具に対する打ち方を解説する。	（予習：0.5時間） 剣道具（胴・垂れ）の着装方法について調べる。 （復習：0.5時間） 防具を打突する際の留意点について整理する。
10	中村　充 佐藤皓也	剣道具を着装する。 ２人組にて、実戦的なメンとコテを打ったり打たせたりする。	面の着装の仕方について解説する。 実戦的なメンとコテの打ち方打たせ方を解説する。	（予習：0.5時間） 面の着装の仕方を調べる。 （復習：0.5時間） 実戦的な打ち方や打たせ方を整理する。
11	中村　充 佐藤皓也	２人組にて、剣道具をつけての、実戦的な応じ技を実施する。 ２人組にて、地稽古を実施する。	剣道具をつけての、実戦的な応じ技について解説する。 地稽古のやり方について解説する。	（予習：0.5時間） 剣道具を着装しての応じ技について調べる。 （復習：0.5時間） 仕掛け技と応じ技の分類について整理する。
12	中村　充 佐藤皓也	仕掛け技と応じ技について、系統的なまとめを実践する。 試合を意識した地稽古を実践する。	仕掛け技と応じ技の、系統的なまとめを解説する。 試合を意識した地稽古について解説する。	（予習：0.5時間） 剣道試合のルールについて調べる。 （復習：0.5時間） 剣道の試合で味わえる楽しさを考える。

13	中村　充 佐藤皓也	実技の到達度について、課題試験を行なう。	実技の到達度試験を行う。	（予習：0.5時間） 実技試験課題について準備する。 （復習：0.5時間） 試験を踏まえて課題の達成度を自己分析する。
14	中村　充 佐藤皓也	剣道の昇段審査の仕組みを理解し、ビデオ等で剣道の修行的側面を理解する。	本授業の実技では体感できなかった、剣道がもつ修業的側面を解説する。	（予習：0.5時間） 剣道の武道的要素を考える。 （復習：1時間） 課題に対するレポートを作成する。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】武道（剣道）［女子②］	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】武道（剣道）［女子②］	対象学年	1年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	中村　充	ナンバリング	COA1139
担当教員	中村　充、佐藤　皓也、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要

全体内容	本科目は，実技の授業形態で行われる。「柔道」，「剣道」のいずれかを選択し，我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら，礼法に代表される所作法，基本動作や相手の動きに応じた基本動作，対人的技能を学ぶ。また，それらの技能を駆使して，簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で，それぞれの指導方法も身に付くようにする。 武道の代表的な剣道について、基本的な技能を習得し、指導法と基礎理論についての理解を深める。剣道の歴史的背景から成り立つ、武士道的な考え方を理解する。基本動作の習得から対人的技能へと発展させる。剣道具を着装することより、空間打突から実践に移行し、地稽古や試合稽古へ発展させる。技術の習得にはグループ学習や映像を活用した技術確認を行い、対人調整力とコミュニケーション能力を向上させるなかでその指導方法も身につくようにする。
到達目標	１．日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 ２．正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽しめるようになる。 ４．教育現場で生かせる安全な指導方法について理解できる。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択必修科目である。また、中・高保健体育1種免許取得にあたっての必修科目、JPSUスポーツトレーナー資格取得にあたっての選択必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	剣道を通して、対人競技の楽しさとともに文化的側面を学ぶ。その過程で、互いに競いながらも協力し合うことで対人調整力やコミュニケーション力を向上させ、学校現場で指導できるよう応用的能力を養う。
履修上の注意、履修要件	【履修上の注意（科目独自のルール）】 共有する道具の扱いを丁寧にし、授業内で求められる所作や態度を守ること。 【履修要件】 運動に適した服装を各自が準備する。なお、安全上の問題から受講希望者数が50名を超えた場合は、抽選を行う。

成績評価の方法

評価方法	授業に取り組む姿勢・参画度 40%、 課題達成度 40%、 知識の獲得度 20%
評価基準	１．相手を尊重した所作法や取り組みができる。（平常点） ２．基本動作や対人的技能が身についた。（授業内試験） ３．対人応用技能に発展させ、簡易試合ができる。（平常点） ４．日本固有の武道の歴史や、学校指導現場で生かせる練習法について理解する。（平常点、レポート）

試験・課題に対するフィードバック方法

課題試験については実施後、レポートについては返却時、授業内でポイント等をフィードバックする。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

1. 剣道指導要領（全日本剣道連盟）
2. 剣道授業の展開（全日本剣道連盟）
3. 中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）
4. 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（文部科学省）

その他

連絡先・オフィスアワー	1号館5階　1505号室：水曜日14:30～16:00、木曜日10:00～12:00、 E-mail（中村　充）：mtnakamu@juntendo.ac.jp （佐藤皓也）：k.sato.it@juntendo.ac.jp
担当教員の実務経験	
備考	【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。 【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項　体育実技 この授業科目は、中・高保健体育一種免許の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目として位置づけられています。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー 新型コロナウィルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

1	中村　充 佐藤皓也	授業の進め方について理解する。 授業に必要な用具を理解する。 剣道の基本動作および所作法について学習する。	ガイダンス、所作法をはじめとした基本動作を解説する。	（予習：0.5時間） 授業の目的、内容についてシラバスを読む。 （復習：0.5時間） 所作法、基本動作について整理する。
2	中村　充 佐藤皓也	剣道の成り立ち、礼法・所作法を理解する。 木刀を用いた遊びを通して、剣道を楽しむとともに、木刀の構え方、足さばきについて学習する。	剣道小史を解説する。 礼法・所作法、木刀の構え方、足さばきを解説し、実践する。	（予習：1時間） 剣道の理念、剣道修練の心構えについて調べる。 （復習：0.5時間） 剣道の成り立ちを整理する。剣道の所作法を整理する。
3	中村　充 佐藤皓也	仕掛け技の分類を理解する。 二人組でお互いに打突部位を確認し、仕掛け手と受け手（元立ち）を交替しながら木刀により空間打突を行なう。 木刀による基本技稽古法につなげていく。	仕掛け技を解説する。 面・小手・胴・突きの空間打突、木刀による基本技稽古法を解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 仕掛け技の分類を調べる。 （復習：0.5時間） 元立ちの役割について整理する。
4	中村　充 佐藤皓也	グループまたは二人組にて、木刀による基本技稽古法４本目までを習得する。	基本技稽古法４本目までを解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 木刀による基本技指導法の成り立ちについて調べる。 （復習：0.5時間） 木刀による基本技指導法４本目までの留意点を整理する。
5	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組により応じ技を学習し、木刀による基本技指導法における応じ技を実践する。	応じ技について解説し、木刀による基本技指導法における応じ技を実践する。	（予習：0.5　時間） 応じ技について調べる。 （復習：0.5時間） 木刀による基本技指導法の９本目までを整理する。
6	中村　充 佐藤皓也	竹刀を使用する際の注意点を理解する。 二人組にて、竹刀による空間打突と、打ち方と打たせ方を確認しながら実施する。	竹刀を使用する際の注意点を解説する。 竹刀による空間打突と、竹刀を用いた打ち方と打たせ方を解説し、実践する。	（予習：0.5時間） 竹刀による打たせ方を調べる。 （復習：0.5時間） 竹刀を扱う際の、安全上の注意点を整理する。
7	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組により踏み込み足を学習し、踏み込み足を用いた打突を実践する。 切り返しの実施方法を理解し、実践する。	踏み込み足の必要性を解説し、踏み込み足を用いた打突を実践する。 切り返しについて解説する。	（予習：0.5　時間） 踏み込み足、切り返しについて調べる。 （復習：0.5時間） 踏み込み足、切り返しを行う際の注意点を整理する。
8	中村　充 佐藤皓也	グループまたは２人組にて、退き技における踏み込み足を学習する。 グループにて、切り返しや連続技を実戦的に行なう。	退き技の際の踏み込み足を解説する。 切り返し、連続技を実戦的に行なう。	（予習：0.5時間） 退き技の際の踏み込み足について調べる。 （復習：0.5時間） 切り返しの効用を整理する。
9	中村　充 佐藤皓也	剣道具を正しく着装する。 防具に対して打ったり打たせたりする。	剣道具の着装の仕方を解説する。 防具に対する打ち方を解説する。	（予習：0.5時間） 剣道具（胴・垂れ）の着装方法について調べる。 （復習：0.5時間） 防具を打突する際の留意点について整理する。
10	中村　充 佐藤皓也	剣道具を着装する。 ２人組にて、実戦的なメンとコテを打ったり打たせたりする。	面の着装の仕方について解説する。 実戦的なメンとコテの打ち方打たせ方を解説する。	（予習：0.5時間） 面の着装の仕方を調べる。 （復習：0.5時間） 実戦的な打ち方や打たせ方を整理する。
11	中村　充 佐藤皓也	２人組にて、剣道具をつけての、実戦的な応じ技を実施する。 ２人組にて、地稽古を実施する。	剣道具をつけての、実戦的な応じ技について解説する。 地稽古のやり方について解説する。	（予習：0.5時間） 剣道具を着装しての応じ技について調べる。 （復習：0.5時間） 仕掛け技と応じ技の分類について整理する。
12	中村　充 佐藤皓也	仕掛け技と応じ技について、系統的なまとめを実践する。 試合を意識した地稽古を実践する。	仕掛け技と応じ技の、系統的なまとめを解説する。 試合を意識した地稽古について解説する。	（予習：0.5時間） 剣道試合のルールについて調べる。 （復習：0.5時間） 剣道の試合で味わえる楽しさを考える。

13	中村　充 佐藤皓也	実技の到達度について、課題試験を行なう。	実技の到達度試験を行う。	（予習：0.5時間） 実技試験課題について準備する。 （復習：0.5時間） 試験を踏まえて課題の達成度を自己分析する。
14	中村　充 佐藤皓也	剣道の昇段審査の仕組みを理解し、ビデオ等で剣道の修行的側面を理解する。	本授業の実技では体感できなかった、剣道がもつ修業的側面を解説する。	（予習：0.5時間） 剣道の武道的要素を考える。 （復習：1時間） 課題に対するレポートを作成する。
		定期試験を実施しない。		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】アウトドアスポーツA（レクリエーションスポーツ）	授業形態	
英語科目名	【新カリ】アウトドアスポーツA（レクリエーションスポーツ）	対象学年	2年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	中嶽　誠	ナンバリング	0DE2140
担当教員	中嶽　誠、中丸　信吾、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	
到達目標	
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択科目（卒業所要単位外）である。また、JSPO公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース（ジュニアスポーツ指導員）の必修科目である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	
履修上の注意、履修要件	

成績評価の方法	
評価方法	
評価基準	

試験・課題に対するフィードバック方法

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

その他

連絡先・オフィスアワー	
担当教員の実務経験	
備考	

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	【新カリ】アウトドアスポーツB（スキー）	授業形態	実技
英語科目名	【新カリ】アウトドアスポーツB（スキー）	対象学年	2年
開講学期	2022年度後期	単位数	1単位
代表教員	中村　充	ナンバリング	
担当教員	中村　充、原田　睦巳、スポーツ健康科学部教員共通		

授業概要	
全体内容	ウィンタースポーツの代表であるスキーを通して、自然の中で運動する醍醐味を味わうとともに安全に配慮する学習を行う。学内において２回の事前指導を行い、学外にて４泊５日の実習を行う。学外実習では、技能別に班編制を行い、班ごとに技術レッスンを実施する。また全体で、スキー技術およびスキー医事に関する講義を通し、理論的にスキーに対する知識を深める。
到達目標	1. 各個人のレベルに応じたスキー技術の向上を図る。 2. スキーの楽しさ、面白さを体験すると共に、生涯スポーツとしての幅広さと奥行きを理解する。 3. 自然の中で安全に配慮するという認識を深める。 4. 仲間との共同生活を通して、自律、協同等、人としての相互理解の方法と社会性を身につける。
授業の位置づけ	この科目は、専門基礎科目群・運動実技科目の選択科目（卒業所要単位外）である。
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	自然に親しみながら運動を行う中で仲間と助け合い協力し合うコミュニケーション力を養う。また、安全に留意するための幅広い知識を身につけ、スポーツ指導者の育成を目指す。
履修上の注意、履修要件	ガイダンスでの内容を中心に、実習参加条件については各自責任を持った準備および手続きを行うこと。

成績評価の方法	
評価方法	課題の習得度40%、 知識の獲得度20%、授業態度・取り組み姿勢40%
評価基準	1. 安全かつ快適にスキー滑走による移動ができる。（平常点、実技試験） 2. スキーの楽しさ、面白さ、および生涯スポーツとしての幅広さと奥行きを説明できる。（レポート） 3. 自然の中で安全に配慮する知識を身につける。（レポート） 4. 仲間との共同生活を通して、自律、協同等、人としての相互理解の方法と社会性がある。（平常点）

試験・課題に対するフィードバック方法

実習班ごとに課題提示・試験を行い、その都度フィードバックを行う。実習手帖等については実習中に返却し、ポイントを提示する。

テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考文献

1. 実習手帖
2. 日本スキー教程 全日本スキー連盟（スキージャーナル社）

その他	
連絡先・オフィスアワー	［連絡先：オフィスアワー］ 中村　充（1号館5階 1505号室）：木曜10:00～12:00
担当教員の実務経験	
備考	［学修時間］ この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容を持って構成する。 ［その他］ 特になし。 新型コロナウィルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法 ＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中村充、原田睦巳	事前指導１ 実習の目的・概要を理解する	実習の概要、授業内容、参加方法などの説明する。	（予習：1時間） 本実習の目的を理解する （復習：3時間） 実習に向けた条件の確認をする
2	中村充、原田睦巳	事前指導２ 実習参加の心構え、準備内容、野外活動上の留意点を理解する	実習に向けて準備すべき内容、技能レベルのポイント、実習に向けたスケジュールなどを説明する	（予習：1時間） スキーに必要な用具を調べる （復習：5時間） 各自の用具を点検する

3-14	中村充、原田睦巳、その他	学外実習（集中）で、以下の内容を行う ・班分け実技テスト ・班別実習 ・講義（スキー医事・技術） ・技能検定	技能別に班を編制するために実技テストを行い、技能班別に実習を行う。 講義に関しては、班別講義・全体講義を行い、そのなかでディスカッションおよび質疑応答を行う。 実習手帖を利用して、学習内容についてまとめる。	（予習：5時間） スキーの技術体系、技能についてを調べる。 実習中は、班ごとに出された課題に対して取り組む。 （復習：5時間） 実習手帖を活用して、実習内容についてまとめる。 実習の成果をまとめる。
		定期試験を実施しない		

＊ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）